Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置

1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

1-(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承

1-(1)-②　有形文化財の収集等

1-(1)-②-1　収蔵品一覧表　　（単位：件） 平成30年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	128,208	134	997	117,460	89	643	7,977	29	202	1,893	13	113	878	3	39
絵画	13,686	35	215	11,175	21	103	2,084	9	59	301	4	43	126	1	10
書跡	3,470	37	176	1,875	14	60	1,369	17	80	147	5	29	79	1	7
彫刻	1,431	1	49	1,109	0	24	148	0	3	150	1	16	24	0	6
建築	78	0	2	21	0	0	49	0	1	5	0	0	3	0	1
金工	17,378	3	59	16,421	1	17	571	2	29	163	0	11	223	0	2
刀剣	3,488	20	57	3,463	19	57				16	0	0	9	1	0
陶磁	4,427	0	21	2,957	0	13	1,326	0	3	81	0	0	63	0	5
漆工	4,726	6	31	3,951	4	19	510	0	3	102	2	5	163	0	4
染織	4,812	2	28	3,746	0	19	935	1	8	93	1	1	38	0	0
考古	30,107	5	76	28,613	5	55	690	0	11	734	0	8	70	0	2
民族資料	1,375	0	0	1,264	0	0	0	0	0	101	0	0	10	0	0
歴史資料	6,609	0	11	6,247	0	4	295	0	5	0	0	0	67	0	2
和書	17,560	0	2	17,560	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
東洋 絵画	690	4	31	690	4	31									
東洋 書跡	1,696	10	13	1,696	10	13									
東洋 彫刻	808	0	20	808	0	20									
東洋 金工	1,034	0	0	1,034	0	0									
東洋 陶磁	3,055	0	11	3,055	0	11									
東洋 漆工	529	0	4	529	0	4									
東洋 染織	608	0	1	608	0	1									
東洋 考古	5,944	0	2	5,944	0	2									
東洋 民族	3,554	0	0	3,554	0	0									
法隆寺献納宝物	322	11	184	322	11	184									
黒田記念館収蔵品	816	0	2	816	0	2									
準歴史資料(含和書)	2	0	2	2	0	2									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり
　京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の作品も「日本」に含む
＊列品に編入されていない資料については、「準歴史資料(含和書)」の項目にしるし、列品化整理中の資料と分けて表示している。
＊東京国立博物館、京都国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。
＊東京国立博物館における収蔵品数計上漏れ2件については、1-(1)-②-3 新収品一覧表にはカウントしていない。

1-(1)-②-1（参考）

【奈良文化財研究所】

○保管及び所蔵文化財・資料概要（主なもの）

平成29年3月31日現在

保管及び所蔵文化財・資料名	数
[文化遺産部]	
国宝・重要文化財建造物保存図	約30,100枚
国宝・重要文化財建造物摺拓本	約26,000枚
国宝・重要文化財建造物写真乾板	約32,200枚
北浦定政関係資料（重要文化財）	約1,100点
棚田嘉十郎関係資料	26点
関野貞関係資料	54点
菅原大三郎関係資料	7箱
森薀資料	約4,500点
村岡正資料	約3,000点
小林剛関係資料	約38箱
牛川喜幸関係資料	2,927点
塚原家寄贈資料(歴史資料)	3箱
[都城発掘調査部（平城地区）]	
平城宮跡出土木簡（国宝）	3184点
興福寺旧境内土壙（一乗院宸殿跡下層）出土品（重要文化財）	一括
平城宮・京出土土器・土製品	30961箱
平城宮・京出土木製品・金属製品・石製品	35331箱
平城宮・京出土瓦類	1003796箱
平城宮・京出土木簡	252747点
塚原家寄贈資料(考古資料)	7箱
[都城発掘調査部(飛鳥･藤原地区)]	
軒丸瓦・軒平瓦	約36,347点
丸瓦・平瓦　　土嚢袋	約167,847袋
丸瓦・平瓦　　整理箱	約39,434箱
土器　　整理箱	約16,671箱
土製品	約15,056点
木器・木製品	約34,128点
木簡	約35,163点
建築部材	約2,988点
金属製品	約19,907点
石器・石製品	約14,430点
漏刻復原模型	1点
幢幡復原模型（台付き）	一式
飛鳥大仏頭部複製（模刻）	1点
藤ノ木古墳鞍復原模型	1点
富本銭枝銭復原模型	一式
碁盤復原模型	1点
鉄釜鋳造土坑復原模型	1点
[飛鳥資料館]	
高松塚古墳出土品(海獣葡萄鏡 銀製太刀金具 棺金具 ガラス小玉漆塗り木棺)(重要文化財)	一式
須弥山石	1点
石人像	1点
飛鳥寺塔跡出土舎利荘厳具	一式
飛鳥寺出土瓦類	一式
山田寺跡出土品（重要文化財）	一括
和田廃寺鴟尾（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区所属）	1点
川原寺出土水波紋土磚	2点
岡出土車石	8点
飛鳥各地出土瓦類	一式
川原寺裏山出土三尊磚仏	2点
飛鳥川原宮出土唐居敷	1点
高松塚古墳壁画模写（前田青邨、平山郁夫等）	3面
高松塚古墳人物復元衣装	一式
石上神宮七枝刀レプリカ	1点
水落遺跡遺構1/20模型	1点
猿石模刻	一式
亀石模刻	1点
須弥山石復元模刻	1点
石人像復元模刻	1点
出水酒船石模刻	2点
阿武山古墳出土　玉枕　冠帽　復元模型	3点
川原寺伽藍1/50模型	1点
山田寺金堂復原	1点
飛鳥京復原模型	1点
山田寺発掘遺構1/100模型	1点
石舞台古墳1/20模型	1点
飛鳥寺発掘遺構1/100模型	1点
石のカラト古墳1/20模型	1点
野中寺銅造弥勒菩薩半伽像レプリカ	1点
銅造摩耶夫人及天人像レプリカ	4点
威奈大村骨蔵器レプリカ	1点
長谷寺法華説相図レプリカ	1点
諸陵周垣成就記並諸陵図譜	1点
鼓銅図録	1点
高松塚古墳木棺模造	1点
八釣マキト５号古墳石室	1点
十二支拓本（表装済み・収納箱あり）	一式
キトラ古墳模型	1点
山東省済南市解放橋北唐墓石棺　青龍・白虎・小口面拓本	各1点
近藤千尋関連資料	1式

保管及び所蔵文化財・資料名	数
武人復原	1点
山田寺灯籠復原	1点
具注歴木簡レプリカ	1点
天皇木簡レプリカ	1点
壬申の乱ジオラマ	一式
牽牛子塚古墳ミニジオラマ	1点
キトラ古墳出土品金銅製鏡座金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品銀鏡付六花形飾金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀製鞘尻金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀装把レプリカ	1点
キトラ古墳出土品鉄地銀張金象嵌帯執金具レプリカ	3点
キトラ古墳出土品琥珀玉レプリカ	4点
キトラ古墳出土品金銅製鏡座金具復元品	10点
キトラ古墳出土品銅釘復元品	一括
キトラ古墳出土品銀鏡付六花形飾金具復元品	10点
キトラ古墳出土品円環棺金具復元品	10点
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点
鍛冶工房風景想定復元図	1点
銅造観音菩薩立像（夢違観音）複製品	1体
隅田八幡宮人物画像鏡複製品	1点
山田寺仏頭複製品	1点
金銅小野毛人墓誌複製品	1点
筑前国嶋郡川辺里大宝２年戸籍残簡複製品	2点
人頭石（光永寺）複製品	1点
鰐淵寺銅造観音菩薩立像複製品	1点
重要文化財圀勝寺銅壺鋳造模型（下道圀依母婦人骨蔵器）	1点
四十八体仏如来坐像複製	1点
丙寅年銘菩薩半跏像複製品	1具
於美阿志神社石塔婆のうち供養具	一括
牽牛子塚古墳出土品	一括
マルコ山古墳出土品	一式
高松塚古墳壁画漆喰印刷複製	一式
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点一式
飛鳥池遺跡出土木簡複製品	13点
暗文土師器復原制作品（脇田宗孝氏制作）	5点
一町長法寺押出仏複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土　蛇行状鉄器複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土　馬鈴複製品	1点
扶桑略記　巻二十一～二十八	7冊
高松塚古墳石室　原寸模型	1台
高松塚古墳石室　1/20模型	1台
[埋蔵文化センター]	
埼玉県真福寺貝塚資料	一式
岡山県福田貝塚資料	一式
埼玉県上福岡貝塚資料	一式
神奈川県田戸遺跡資料	一式
神奈川県子母口貝塚	一式
神奈川県大口坂貝塚資料	一式
能登縄文資料（15遺跡）	一式
千葉県曽谷貝塚資料	一式
長野県石小屋遺跡資料	一式
山形県蛭沢洞窟資料	一式
東京都小豆沢貝塚資料	一式
茨城県広畑貝塚資料	一式
中国・朝鮮瓦磚資料	一式
岡山地方陶棺資料	一式
下総国分寺・尼寺資料	一式
関東地方加曽利B式資料	一式
岩手県足沢遺跡資料	一式
茨城県浮島貝塚資料	一式
千葉県幸田貝塚資料	一式
滋賀県安土遺跡資料	一式
岡山県黒土遺跡資料	一式
神奈川県保土ヶ谷貝塚資料	一式
千葉県姥山貝塚資料	一式
宮城県川下り・響き資料	一式
大木囲貝塚	一式
東貝塚	一式
室浜貝塚	一式
福浦島貝塚	一式
里浜貝塚	一式
東北縄文晩期末資料	一式
東北各地発見縄文資料	一式
北海道資料	一式
発見地不詳縄文資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
現生動物標本	一式
年輪年代学用木材標本	一式

収蔵品・寄託品件数合計(過去5ヵ年)

(単位:件) 平成30年3月31日現在

		平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
収蔵品・寄託品合計	国立博物館 計	136,215	323	2,143	137,610	325	2,162	138,897	333	2,380	139,582	327	2,172	140,448	330	2,193
	東京国立博物館	118,172	140	878	119,332	143	890	120,004	142	892	120,267	143	894	120,569	144	903
	京都国立博物館	12,613	114	801	13,110	113	803	13,644	119	1,003	13,983	114	818	14,212	115	822
	奈良国立博物館	3,856	66	432	3,861	66	435	3,839	67	439	3,844	65	411	3,855	66	417
	九州国立博物館	1,574	3	32	1,307	3	34	1,410	5	46	1,488	5	49	1,812	5	51
収蔵品	国立博物館 計	124,729	130	952	125,766	130	954	126,872	131	963	127,455	132	983	128,208	134	997
	東京国立博物館	115,653	87	633	116,268	87	634	116,932	87	634	117,192	88	636	117,460	89	643
	京都国立博物館	6,721	27	179	7,109	27	180	7,532	28	183	7,794	28	198	7,977	29	202
	奈良国立博物館	1,862	13	111	1,877	13	111	1,883	13	112	1,886	13	112	1,893	13	113
	九州国立博物館	493	3	29	512	3	29	525	3	34	583	3	37	878	3	39
寄託品	国立博物館 計	11,486	193	1,191	11,844	195	1,208	12,025	202	1,417	12,127	195	1,189	12,240	196	1,196
	東京国立博物館	2,519	53	245	3,064	56	256	3,072	55	258	3,075	55	258	3,109	55	260
	京都国立博物館	5,892	87	622	6,001	86	623	6,112	91	820	6,189	86	620	6,235	86	620
	奈良国立博物館	1,994	53	321	1,984	53	324	1,956	54	327	1,958	52	299	1,962	53	304
	九州国立博物館	1,081	0	3	795	0	5	885	2	12	905	2	12	934	2	12

1-(1)-②-3 平成29年度新収品一覧表

（単位：件）　　平成30年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	754			268			184			7			295		
計	64	518	172	12	84	172	12	172	0	6	1	0	34	261	0
絵画	18	17	5	2	4	5	3	6	0	3	0	0	10	7	0
書跡	8	47	2	2	25	2	0	0	0	0	0	0	6	22	0
彫刻	5	2	0	2	0	0	0	0	0	3	1	0	0	1	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	3	253	8	0	0	8	0	51	0	0	0	0	3	202	0
刀剣	0	0	10	0	0	10			0	0	0	0	0	0	0
陶磁	10	123	5	0	1	5	9	101	0	0	0	0	1	21	0
漆工	2	12	93	2	0	93	0	8	0	0	0	0	0	4	0
染織	1	7	47	1	1	47	0	6	0	0	0	0	0	0	0
考古	11	18	2	1	15	2	0	0	0	0	0	0	10	3	0
民族資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	4	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	0	1	0	0	1	0									
東洋 書跡	0	2	0	0	2	0									
東洋 彫刻	0	0	0	0	0	0									
東洋 金工	0	0	0	0	0	0									
東洋 陶磁	2	2	0	2	2	0									
東洋 漆工	0	0	0	0	0	0									
東洋 染織	0	0	0	0	0	0									
東洋 考古	0	11	0	0	11	0									
東洋 民族	0	21	0	0	21	0									
法隆寺献納宝物	0	0	0	0	0	0									
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

付表・文化財収集件数の推移

5年間の新収品一覧表

（単位：件）

	平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	1,351			1,037			1,106			525			754		
小計	23	513	815	47	484	506	43	563	500	63	318	144	64	518	172
絵画	6	11	28	13	52	0	14	10	0	13	36	0	18	17	5
書跡	2	12	1	3	28	0	5	29	0	7	42	0	8	47	2
彫刻	2	1	0	3	1	0	0	2	0	1	3	0	5	2	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	2	417	155	5	71	0	5	48	0	1	32	0	3	253	8
刀剣	0	2	38	0	0	0	0	11	0	0	2	0	0	0	10
陶磁	1	1	15	0	86	0	5	211	0	6	143	0	10	123	5
漆工	1	29	33	8	162	0	3	135	0	2	7	0	2	12	93
染織	3	5	65	4	7	0	2	4	0	4	8	0	1	7	47
考古	1	1	109	5	12	0	0	11	0	4	6	4	11	18	2
民族資料	0	0	7	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	3	1	334	2	0	506	0	16	500	17	8	134	4	2	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0
東洋 書跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0
東洋 彫刻	0	1	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0
東洋 金工	0	29	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 陶磁	0	0	4	0	0	0	0	5	0	1	0	0	2	2	0
東洋 漆工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 染織	2	1	0	4	0	0	8	2	0	6	0	0	0	0	0
東洋 考古	0	0	10	0	62	0	0	48	0	0	0	5	0	11	0
東洋 民族	0	0	15	0	1	0	0	22	0	0	27	0	0	21	0
法隆寺献納宝物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
黒田記念館収蔵品	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1-(1)-②-4 平成29年度新収品一覧

【東京国立博物館】(268件)

（１）購入（12件）

＜絵画＞（2件）

1 名称	正月飾り物図（しょうがつかざりものず）	品　質	紙本墨画淡彩
作者等	酒井抱一（1761～1828）俳賛、鈴木其一（1796～1858）、鈴木蠣潭（1782～1817）、大西椿年（1792～1851）、山崎鯉隠（1785～1854）、長橋文桂（?～1830）各筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代・文化13年（1816）	寸法等	本紙 縦95.9cm 横27.7cm
作品概要	掛幅装。陶軸。正月に飾る縁起物である羽子板、米俵、雑器（正月の神棚に供物を盛る木製の皿）、若松と、干支を示す鼠人形を、鈴木蠣潭（1782～1817）、鈴木其一（1796～1858）、長橋文桂（？～1830）、大西椿年（1792～1851）、山崎鯉隠（1785～1854）ら5人が寄合描きしたもの。上部には酒井抱一（1761～1829）が自らの俳諧を着賛している。		

2 名称	日課観音図（にっかかんのんず）	品　質	酒井抱一（1761～1828）筆
作者等	江戸時代・文政7年　(1824)	員　数	絹本墨画
時　代	1幅	寸法等	本紙 縦75.5cm 横26.8cm
作品概要	掛幅装。牙軸。文政7年（1824）5月朔日（1日）から6月にかけて33日かけて毎日1幅ずつ、合計三十三観音を描いたもののの一つで、画面右下の墨書「十五日」より5月15日制作のものとわかる。鎌倉寿福寺に伝来した伝源実朝筆「日課観音図」（現在福岡市美術館ほか分蔵）に倣い執筆したもの。表装は描表装で、抱一の弟子である池田孤邨による。		

＜書跡＞（2件）

3 名称	書状（しょじょう）	品　質	紙本墨書
作者等	藤原定長（1149～95）筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・文治2年（1186）	寸法等	本紙 縦28.8cm 横71.4cm
作品概要	掛幅装。二紙を継いだ横長の料紙に藤原定長の書状を書く。文治元年に定家が喧嘩を起こして、後白河院から宮中の出入りを止められたことについて、父俊成が後白河院の近臣であった定長に手紙を送って執り成しを請うたことに対する書状である。天皇の下した和歌を引用し、許しがあったことを伝えている。定家の日記『明月記』の紙背であったが、後に相剥ぎされて伝わってきた。なお、俊成の書状は香雪美術館が所蔵しており、平成28年に重要文化財に指定されている。		

4 名称	仮名消息(延喜式紙背)（かなしょうそく(えんぎしきしはい)）		
時　代	平安時代・11世紀	員　数	1幅
品　質	紙本墨書	寸法等	本紙　縦29.0cm　横45.2cm
作品概要	掛幅装。牙切軸。当館所蔵国宝「延喜式」の巻第20の紙背にあたる仮名消息である。背面に薄く透けて見えるのが「延喜式」の本文。当館に蔵される以前に相剥ぎされ伝来した。「延喜式」巻第20には、長元3年(1030)の年号を持つ紙背文書があり、この仮名消息も長元年間をあまり隔たら作品概要ない時代に書写されたものと考えられる。のびやかで流麗な連綿が数文字にわたって続く。実用の美ともいえる闊達な仮名である。		

＜彫刻＞（2件）

5 名称	能面　三番叟（黒色尉）（のうめん　さんばそう（こくしきじょう））		
指　定	重要文化財	品　質	木造、彩色
作者等	伝日光作	員　数	1面
時　代	南北朝時代・14世紀	寸法等	縦16.5cm
作品概要	翁舞で翁（白色尉）の次に登場し、五穀豊穣を祝って舞う時に着ける。頭部頂上に冠形を表し、顔一面に皺を刻む。目をへの字にして歯の抜けた口を開けて笑う。品の良い翁（白色尉）に対して、三番叟は粗野あるいは滑稽な表情が多いが、この面は比較的上品である。		

6 名称	能面　伝山姥（のうめん　でんやまんば）		
指　定	重要文化財	品　質	木造、彩色
作者等	伝赤鶴作	員　数	1面
時　代	南北朝時代・14世紀	寸法等	縦20.7cm
作品概要	頭髪を中央で左右に振り分け、毛筋が乱れる。高眉を刷く。眉間に皺を寄せ、瞳は金色（銅板鍍金製）、白目は赤く塗る。口を大きく開いて上歯と歯茎を露出する。広葉樹の木心をこめた材を用い、彫りの深い顔の造作が特色である。山姥として伝わっているが、容貌は定型の山姥と大きく異なる。また、顎には植毛した孔を埋めた痕跡がある。髭のある悪尉面を改作した可能性がある。		

＜漆工＞（2件）

7 名称	須磨浦蒔絵沈箱（すまのうらまきえじんばこ）		
時　代	室町時代・15～16世紀	員　数	1合
品　質	木製漆塗	寸法等	縦11.8cm　横9.6cm　高6.7cm
作品概要	沈箱は香木や香木片を収める箱。この沈箱は木瓜形で、蓋に甲盛と塵居を設けた被蓋造の箱。身の内には懸子を1枚収め、身の長側面に金銅製千鳥形座の紐金具を打つ。蓋表には、研出蒔絵と薄肉高蒔絵に付描や描割、銀平文を交えて、千鳥が飛び交い、塩屋が並び、小舟の停まる浜辺を描いている。蓋鬘と身の側面には、研出蒔絵により千鳥の群れ飛ぶ様子を描き、懸子の見込にも洲浜に松、千鳥の図柄を描く。蓋表の図柄は、海で魚や貝をとり、藻塩を焼くことを業とする海人を暗示しており、また千鳥が飛び交う様子も描かれることから、海人や千鳥を景物として詠まれることが多い歌枕「須磨」を表わしたものと解される。		

8 名称	色紙短冊蒔絵歌書箱（しきしたんざくまきえかしょばこ）		
時　代	江戸時代・17世紀	員　数	1合
品　質	木製漆塗	寸法等	縦27.7cm　横20.8cm　高8.0cm
作品概要	わずかに甲盛をもうけ、底板に指孔を穿った、長方形の深い被蓋造の箱。現在は別に収納するが、元来は身の内に「左大将家歌合」(「六百番歌合」)4冊を収める。総体を梨子地として、蓋表から蓋鬘、身の側面にかけて、金・銀・青金の薄肉高蒔絵を主体に付描や描割を駆使し、金・銀の切金を交え、色紙や短冊、葵紋を表わす。蓋表中央には銀平文で「左大将家哥合」の題字を記しており、色紙や短冊には柳橋蛇籠、梅に鶯、岩に松、菊水、流水楓、秋草、貝藻など四季の草花や景物が精細に描かれている。		

＜染織＞（1件）

9 名称	小袖　白綸子地梅樹竹垣模様（こそで　しろりんずじばいじゅたけかきもよう）		
時　代	江戸時代・18世紀初	員　数	1領
品　質	綸子（絹）に刺繍、型染、描絵	寸法等	身丈157.0cm 裄62.5cm
作品概要	卍繋ぎ蘭菊文を地紋に織りだした白い綸子地に、刺繍・型染などによって模様を全身に表わした小袖である。裏地には紅絹を用い、表地と裏地の間に薄く真綿が入る。刺繍は、紅と萌黄の釜糸（精練した無撚りの絹糸）で主として平繍・纏り繍で梅樹、竹などを表わす。さらに撚金糸による駒繍で梅花の輪郭、蕾などを刺繍する。模様の一部は茶と紺の型染による摺匹田で染められ、また、梅花の内部を藍鼠色に染めている部分も見られる。垣は「かちん」と称される濃い墨色でくっきりと手描きされる。刺繍・摺匹田・かちんなどの技法で吉祥模様や王朝風の意匠を施した総模様の小袖は、いわゆる「元禄小袖」と呼ばれ、元禄期（1688～1704）に流行したデザイン様式である。小袖模様雛形本『当流七宝常盤ひいなかた』（元禄13年刊)、『花鳥雛形』（元禄16年刊）にも類似する模様の様式を持つ小袖模様が見られる。		

＜考古＞（1件）			
10 名称	変形五獣鏡（へんけいごじゅうきょう）	品　質	青銅製
作 者 等	出土地不詳	員　数	1面
時　代	古墳時代・4～5世紀	寸 法 等	面径 13.1cm ； 重量 336cm
作品概要	古墳時代の倭鏡（日本列島製）。内区は五匹の獣像が向かい合い、その外側に擬銘帯がめぐる。外区は、内側から鋸歯文帯、複線波文帯、鋸歯文帯が配置される。獣像の頭は神像に由来するもので、神像と獣像表現に混乱がみられる。文字と図像が理解できなかった倭系工人が製作した倭鏡の特徴をよく示す。Z字形に胴をくねらせ、半球形の頭をもつ獣像の形や外区文様帯の構成から、４～５世紀の鏡と判断できる。		
＜東洋陶磁＞（2件）			
11 名称	三彩刻花文鉢（さんさいこくかもんはち）	品　質	陶製
作 者 等	イラン出土	員　数	1口
時　代	イスラーム・9～10世紀	寸 法 等	高 9.5cm　口径 30cm. 0cm　高台径 12.0cm
作品概要	軟質茶色の陶胎。白土で化粧を施し、器外壁には透明の鉛釉を掛け、見込みには刻文を施した上から黄、緑、褐色の三彩釉で彩る。刻文は、見込み口縁下に2本の圏線を巡らし、波形の線で大きく格子状に器面を区切り、線上を黄釉で色付けしている。さらに、渦文を刻んで上から緑釉を塗る区画と褐釉で斑文を施した区画と交互に表わす。底は低めに高台を削り出し、高台脇から露胎とする。		
12　名称	青花人物文長方合子（せいかじんぶつもんちょうほうごうす）	品　質	磁製
作 者 等	中国・景徳鎮官窯「大明隆慶年造」銘	員　数	1合
時　代	明時代・隆慶年間(1567～72)	寸 法 等	縦 15.0cm 横 24.0cm 高 8.7cm
作品概要	夾雑物を多く含んだ硬質の白磁胎。胎は厚く、重い。畳付きを残して総釉、ところどころ釉の剥落、いわゆる「虫喰い」を生じている。四方を入隅形とした長方合子で、蓋裏と身の底に木製漆塗りの蓋物を模して2本ずつ桟を表わしている。コバルトによる下絵付けは硬い筆致で、蓋表に女性の図と、蓋・身の側面の長辺には火炎宝珠をはさんで向き合う2頭、短辺にはそれぞれ1頭の五爪の龍を配する。コバルトは黒色がかった発色である。底の中央には二重円に楷書で「大明隆慶年造」青花銘を表わす。		
(2)寄贈（84件）			
＜絵画＞（4件）			
1　名称	渡唐天神図（ととうてんじんず）	品　質	紙本着色
作 者 等	文安3年(1446)景南英文（1365～1454）賛	員　数	1幅
時　代	室町時代・15世紀	寸 法 等	本紙 縦 78.5cm 横 28.0cm
作品概要	掛幅装、牙軸。天神が中国の禅の名僧、無準師範に参じて法衣を授けられたという渡唐天神の説話にもとづく画像。道服を着て、頭に冠を載せて頭巾を被り、足に襪をはき、袈裟袋を肩から提げ、正面を向いて拱手し、花弁を付けた紅梅の枝を右脇に抱えて立つ渡唐天神が描かれる。図上に景南英文が文安3年(1446)6月23日に賛を書いている。		
2　名称	渡唐天神図（ととうてんじんず）	品　質	紙本着色
作 者 等	祥琳筆　大永3年(1523)驢雪鷹灞（?～1558）賛	員　数	1幅
時　代	室町時代・16世紀	寸 法 等	本紙 縦 79.3cm 横 27.3cm
作品概要	掛幅装、塗軸。天神が中国の禅の名僧、無準師範に参じて法衣を授けられたという渡唐天神の説話にもとづく画像。道服を着て、頭に冠を載せて頭巾を被り、足に履をはき、袈裟袋を肩から提げ、正面を向いて拱手し、花弁を付けた白梅の枝を右脇に抱えて立つ渡唐天神が描かれる。図上に驢雪鷹灞が「大永癸未初夏廿又五」すなわち大永3年(1523)4月25日に賛を書いている。		
3 名称	渡唐天神図（ととうてんじんず）	品　質	紙本着色
作 者 等	万里集九（1428～1501～?）賛	員　数	1幅
時　代	室町時代・16世紀	寸 法 等	本紙 縦 82.4cm 横 29.3cm
作品概要	掛幅装、牙軸。天神が中国の禅の名僧、無準師範に参じて法衣を授けられたという渡唐天神の説話にもとづく画像。道服を着て、頭に冠を載せて頭巾を被り、足に襪をはき、袈裟袋を肩から提げ、正面を向いて拱手し、花弁を付けた白梅の枝を右脇に抱えて立つ渡唐天神が描かれる。図上に万里集九が賛を書いている。		
4　名称	渡唐天神図（ととうてんじんず）	品　質	紙本墨画・墨書
作 者 等	近衛信尹（1565～1614）筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代・慶長15年(1610)	寸 法 等	本紙 縦 96.4cm 横 31.7cm
作品概要	掛幅装、木（漆塗）軸。仙冠の部分を「天」で、体部を「神」の草書体で表した文字絵の天神像。上部には和歌が記される。江戸時代末の画人伝『古画備考』によると、信尹は墨画の渡唐天神像を百幅描いたとされ、現在、数十幅が現存している。年紀のあるものは慶長14・15年（1609・10）に集中しており、本図は慶長15年(1610)の制作とわかる作例である。		
＜書跡＞（25件）			
5　名称	荒木切「山風に」（あらききれ「やまかぜに」）	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原行成（972～1027）筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙 縦 20.5cm 横 6.4cm
作品概要	掛幅装。牙撥軸。『古今和歌集』より、巻第八・離別歌、僧正遍照の和歌を書写する。江戸時代の能書で上代様を学んでいた荒木素白が所蔵していたことに因んで「荒木切」と呼ばれる。「荒木切」は元は冊子本であったと考えられており、ほかのつれは、舶載（中国製）の唐紙や素紙なども使っている。本作の料紙は、上下に藍の繊維を漉き込んだ雲紙である。		
6　名称	和泉式部集切「なぐさめん」（いずみしきぶしゅうきれ「なぐさめん」）	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原行成（972～1027）筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙 縦 20.3cm 横 13.0cm
作品概要	掛幅装。牙切軸。和泉式部（生没年未詳）の家集『和泉式部集』の写本。最古の写本で、ほかのつれは『和泉式部集』の「正集」と「続集」の混同も見られるが、本作は「続集」の和歌を抄出している。もとは冊子本で、牡丹（あるいは龍丸）文様が空摺りされた、ほかの古筆切には類例のない技法の装飾料紙を使っている。		
7　名称	胡粉地切「よのなかに」他2首 （ごふんじきれ「よのなかに」ほか2しゅ）	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝寂蓮（1139?～1202）筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙 縦 20.2cm 横 17.0cm
作品概要	掛幅装。牙切軸。白の具引地に金銀の砂子を撒いた料紙に、『後撰和歌集』を書写した断簡で、もとは粘葉装の冊子本であった。現在巻第三・六・七・八・九・十二・十三の断簡二十数葉が伝えられているにすぎない。筆者は寂蓮（1139?～1202）と伝えられているが確証はない。		
8　名称	惟成弁集切「人ならば」（これしげのべんのしゅうきれ「ひとならば」）	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝坊門局筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙 縦 24.2cm 横 16.0cm
作品概要	掛幅装。牙印可軸。藤原惟成（ふじわらのこれしげ、953～989）の家集『惟成弁集』を書写した唯一の古筆切。もとは冊子本で、現存する断簡は全部で10葉ほどしか残されていない。柔らかで伸びやかな筆運びで、伝称筆者は藤原俊成の女で定家の姉にあたる坊門局とされている。		

9　名称	書状「二村因州宛」（しょじょう「ふたむらいんしゅうあて」）	品　質	紙本墨書
作 者 等	本阿弥光悦（1558～1637）筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙 縦28.5cm 横45.8cm
作品概要	掛幅装。切軸。本阿弥光悦が「二村因州」に宛てた手紙である。その書風からは、光悦壮年の元和期かと推定される。光悦書翰研究者増田孝によると、現在確認されている光悦書翰は340通前後。本書簡は小松茂美により紹介された周知の資料である。宛所「二村因州」また文中確認される「権助」は、増田によって6通の書簡が紹介されているが、いずれも光悦と極めて近しい交友関係であったこと以上には判明しない。ただ、上記6通を含め、きわめてくだけた内容となっていることから、光悦同様の京都町衆か茶師かとも推定される。		

10 名称	五言詩「城中乞食了」「手把兎角杖」（ごごんし「じょうちゅうしょくをこいおわり」「てにとかくのつえをとり」）	品　質	紙本墨書
作 者 等	良寛（1758～1831）筆	員　数	2幅
時　代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	本紙 縦98cm 横28.0cm
作品概要	掛幅装。撥軸。良寛の書は、諸国行脚の旅から越後に帰国した後を3期(五号庵期・乙子祠畔期・島崎庵室期)に分け評される。円熟の書境に達し、またもっとも遺墨が多いのは乙子祠畔期である。ほぼ独習により、飄々とした線と字形をものとした独特の書風を築き、日本書法史上特異な地位にある。「城中乞食了」「手把兎角杖」の双幅も、好んで認められた漢詩(寒山詩)の一節。本作はその書風はもちろん、研究史的にも乙子祠畔期、良寛60歳代円熟期の作と考えられている。		

11　名称	重要美術品　大弐三位集断簡（端白切）「あきかぜは」（だいにのさんみしゅうだんかん　はたじろぎれ「あきかぜは」）	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原行成（972～1027）筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙 縦19.8cm 横16.7cm
作品概要	掛幅装。牙軸。大弐三位（藤原賢子、紫式部の女）の家集『大弐三位集』(『藤三位集』とも）の断簡。もとは冊子本で、淡藍地の唐紙（舶載）の剥落が激しく、四辺がはげて白くなっている場合が多いため、「端白切」と呼ばれる。筆者は、女手と考えられ、大弐三位自身の草稿本とも推定される。しかし、藤原行成とされた時期もあったようで（『新撰古筆名葉集』1858年で行成筆を否定)、本幅の箱書には「行成歌之物」とある。 本幅の料紙はほかの端白切よりも保存状態がよく、淡藍地に二重蔓唐草双鳳凰丸文が雲母摺りされた様子がよく見える。冒頭に見える「新古今」の三文字は別筆で、藤原定家（1162～1241）による集付である。二首の和歌の左には、三首目の和歌の上の句が削って消された跡が見える。		

12 名称	色紙華厳経断簡（泉福寺経）（しきしけごんきょうだんかん(せんぷくじきょう)）		
時　代	平安時代・12世紀	員　数	1面
品　質	彩箋墨書	寸 法 等	本紙 縦24.0cm 横50.0cm
作品概要	額装。藍の漉き紙に金の揉み箔を散らした料紙に、60巻本「大方広仏華厳経」巻第二十六を書写した断簡である。もと河内国泉福寺に伝来したことから、泉福寺経の名で呼ばれる。天地の焦げ跡から、その伝来途次に火災に遭ったことが知られる。		

13 名称	百人一首帖（ひゃくにんいっしゅじょう）	品　質	彩箋墨書
作 者 等	烏丸光広（1579～1638）筆	員　数	1帖
時　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	縦25.1cm 横18.9cm
作品概要	綴葉装。烏丸光広が「百人一首」を書写したもの。白、浅葱、薄茶、黄の色紙を色変わりで27枚使った合計54頁に、1頁に二首ずつ揮毫されている。色紙には、金銀泥で、梅、桜、菊、朝顔などの植物や、鳥、鹿、釣り人、寒山拾得などの下絵が描かれている。光悦流の書風の特徴が顕著に見られ、光広の署名はないものの、小松茂美氏の『烏丸光廣』（小学館、昭和57年）によって、光広四十代の作品であることが定説となっている。		

14 名称	書懐（しょかい）	品　質	紙本墨書
作 者 等	西依成斎（1702～97）筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代・天明元年(1781)、寛政9年(1797)	寸 法 等	第1cm通 縦25.6cm 横27.0cm ； 第2cm通 縦25.6cm 横13.7cm
作品概要	掛幅装。木軸。第一通は「書懐」と題する五言律詩で80歳の作。第二通は「考終命」と大書した最晩年96歳の作である。		

15 名称	和歌短冊「深き夜の」（わかたんざく「ふかきよの」）	品　質	紙本墨書
作 者 等	橋本左内（1834～59）筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	本紙 縦35.6cm 横6.0cm
作品概要	掛幅装。牙軸。短冊に『新古今和歌集』釈教所収の寂蓮法師の和歌を墨書する。		

16 名称	梅竹自画賛（ばいちくじがさん）	品　質	紙本墨画
作 者 等	頼復（1823～89）筆	員　数	1幅
時　代	明治16年(1883)	寸 法 等	本紙 縦111.5cm 横31.4cm
作品概要	掛幅装。木軸。梅と竹を墨画し「梅竹争妍　癸未八月 頼復作」と賛を加える。		

17 名称	有栖川宮熾仁親王・毛利元徳書状（ありすがわのみやたるひとしんのう・もうりもとのりしょじょう）	品　質	紙本墨書
作 者 等	有栖川宮熾仁親王（1835～95）筆、毛利元徳（1839～96）筆	員　数	1巻
時　代	明治時代・19世紀	寸 法 等	第1通（熾仁親王） 縦16.8cm 横81.6cm 、第2通（毛利元徳） 縦17.1cm 横108.0cm
作品概要	巻子装。木軸。熾仁親王書状（毛利元徳宛）と毛利元徳書状（綾小路正二位[有良か]宛）を合装する。		

18 名称	七言二句（しちごんにく）	品　質	絹本墨書
作 者 等	有栖川宮熾仁親王（1835～95）筆	員　数	1幅
時　代	明治24年(1891)	寸 法 等	本紙 縦146.0cm 横60.8cm
作品概要	掛幅装。木軸。宋の王禹偁『南郊大礼詩』からの二句を墨書する。		

19 名称	益田香遠刻印（ますだこうえんこくいん）		
作 者 等	益田香遠（1836～1921）刻	品　質	石製、木製、銅製、水晶製
時　代	明治時代～大正時代・19～20世紀	員　数	37顆
作品概要	益田香遠の印譜『龍鱗留影』(大正5年(1916))に収録されるものを主とする益田香遠刻の37顆の印である。印文の内容は成語印を主とする。付属の箱蓋には、三井南家を継ぎ帝室博物館鑑査委員などを務めた三井高弘(八郎次郎)による「龍鱗留影」の銘が刻される。		

20 名称	「象帝之先」朱白文印（「ていのせんににたり」しゅはくぶんいん）	品　質	乾漆製、紙本鈐印
作 者 等	小林斗盦（1916～2007）刻	員　数	1 顆 1 枚
時　代	昭和 54 年(1979)	寸 法 等	印章:縦 2.2cm 横 2.1cm 高 5.5cm　印影:縦 27.3cm 横 18.4cm
作品概要	印章は獣鈕の方印。印影は未表装(額装から剥された状態)。印文は『老子』を典拠とする。作風は後漢から三国・魏の時代の官印の印篆を素地として、後漢時代の私印にみられる朱白相間印の様式をとり入れたものである。		

21 名称	「龍蛇虎豹曲成文章」白文印 （「りょうだこひょうつぶさにぶんしょうをなす」はくぶんいん）	品　質	石製、紙本鈐印
作 者 等	小林斗盦（1916～2007）刻	員　数	1 顆 1 枚
時　代	昭和 58 年(1983)	寸 法 等	印章:縦 3.9cm 横 3.8cm 高 8.7cm　印影:縦 36.5cm 横 25.7cm
作品概要	印章は素鈕の方印。印影は未表装(額装から剥された状態)で、濃紺色の枠線及び「懐玉印室」(篆書、枠外左)が刷られた印箋に鈐印される。印文は『淮南子』俶真訓を典拠とする。作風は鑿によって刻された鑿印の風をとり入れたものである。		

22 名称	「韋弦之佩」白文印（「いげんのはい」はくぶんいん）	品　質	石製、紙本鈐印
作 者 等	小林斗盦（1916～2007）刻	員　数	1 顆 1 枚
時　代	昭和 59 年(1984)	寸 法 等	印章:縦 4.1cm 横 4.1cm 高 3.5cm　印影:縦 32.7cm 横 23.6cm
作品概要	印章は素鈕の方印。印影は未表装(裏打ちあり)。印文は『韓非子』観行を典拠とする。作風は戦国時代の斉・魯系統の璽印の風にならったものである。		

23 名称	「寸鉄駆蛟龍」朱文楕円印 （「すんてつこうりゅうをかる」しゅぶんだえんいん）	品　質	石製,紙本鈐印
作 者 等	小林斗盦（1916～2007）刻	員　数	1 顆 1 枚
時　代	昭和 61 年(1986)	寸 法 等	印章：縦 3.3cm 横 2.0cm 高 4.8cm,印影：縦 36.8cm 横 27.0cm
作品概要	印章は獣鈕の楕円印。印影は未表装(額装から剥された状態)で、濃紺色の枠線及び「懐玉印室」(篆書、枠外左)が刷られた印箋に鈐印される。印文は呉昌碩の七言古詩「刻印」を典拠とする。作風は小篆。		

24 名称	「復帰于嬰児」白文矩形印 （「えいじにふっきす」はくぶんくけいいん）	品　質	石製、紙本鈐印
作 者 等	小林斗盦（1916～2007）刻	員　数	1 顆 1 枚
時　代	平成 3 年(1991)	寸 法 等	印章:縦 4.2cm 横 5.2cm 高 4.2cm　印影:縦 31.5cm 横 22.6cm
作品概要	印章は素鈕の矩形印。未表装(額装から剥された状態)で、濃紺色の枠線及び「懐玉印室」(篆書、枠外左)が刷られた印箋に鈐印される。印文は『老子』を典拠とする。作風は古璽の矩形の形式に、金文の字姿を調和させたものである。		

25 名称	「絶学無憂」「去彼取此」両面印（「がくをたてばうれいなし」「かれをさりてこれをとる」りょうめんいん）	品　質	石製、紙本鈐印
作 者 等	小林斗盦（1916～2007）刻	員　数	1 顆 2 枚
時　代	平成 9 年(1997)	寸 法 等	印章：縦 2.1cm 横 1.6cm 高 5.4cm　印影 1：縦 16.6cm 横 12.0cm　印影 2：縦 34.9cm 横 25.6cm
作品概要	印章は素鈕の方印で、両面刻。印影はともに未表装(裏打ちあり)で、印章の両面を上下に鈐印する。印影 1 は濃紺色の枠線及び「懐玉印室」(篆書、枠外左)が刷られた印箋、印影 2 は素紙である。両面ともに印文は『老子』を典拠とし、作風は清時代の呉熙載・趙之謙の風を基調とする。		

26 名称	「去彼取此」朱文長方印 （「かれをさりてこれをとる」しゅぶんちょうほういん）	品　質	石製、紙本鈐印
作 者 等	小林斗盦（1916～2007）刻	員　数	1 顆 1 枚
時　代	平成 9 年(1997)	寸 法 等	印章:縦 9.7cm 横 2.5cm 高 2.7cm　印影:縦 34.8cm 横 25.4cm
作品概要	印章は素鈕の長方印。印影は未表装(額装から剥された状態)で、濃紺色の枠線及び「懐玉印室」(篆書、枠外左)が刷られた印箋に鈐印される。印文は『老子』を典拠とする。作風は清時代の趙之謙の風を基調とする。		

27 名称	「聖人不従事于務」朱文印 （「せいじんはつとめにじゅうじせず」しゅぶんいん）	品　質	石製、紙本鈐印
作 者 等	小林斗盦（1916～2007）刻	員　数	1 顆 1 枚
時　代	平成 12 年(2000)	寸 法 等	印章:縦 6.0cm 横 6.0cm 高 4.7cm　印影:縦 33.0cm 横 23.6cm
作品概要	印章は素鈕の方印。印影は未表装(裏打ちあり)。印文は『荘子』斉物論を典拠とする。作風は京都・藤井有鄰館が所蔵する戦国時代・燕系統の古璽にならったものである。		

28 名称	「絶塵」朱文印（「ぜつじん」しゅぶんいん）	品　質	石製、紙本鈐印
作 者 等	小林斗盦（1916～2007）刻	員　数	1 顆 1 枚
時　代	平成 14 年(2002)	寸 法 等	印章:縦 9.0cm 横 9.0cm 高 13.9cm　印影:縦 35.0cm 横 25.6cm
作品概要	印章は素鈕の方印。片面(頂部)には同文の試刻が残される。印影は未表装(額装から剥された状態)で、別紙に鈐印したものが濃紺色の枠線及び「懐玉印室」(篆書、枠外左)が刷られた印箋に貼り込まれる。印文は『荘子』田子方を典故とする。作風は、殷時代の甲骨文と戦国時代の金文、異なる時代の文字を意図的に使用し調和をはかったものである。		

29 名称	「寵辱若驚貴大患若身」朱文印（「ちょうじょくおどろくがごとくしたいかんをたっとぶことみのごとくす」しゅぶんいん）	品　質	石製、紙本鈐印
作 者 等	小林斗盦（1916～2007）刻	員　数	1 顆 2 枚
時　代	平成 15 年(2003)	寸 法 等	印章：縦 2.7cm 横 2.6cm 高 4.2cm　印影 1：縦 16.7cm 横 12.0cm　印影 2：縦 32.9cm 横 23.6cm
作品概要	印章は獣鈕の方印。印影はともに未表装(裏打ちあり)。印影 1 は濃紺色の枠線及び「懐玉印室」(篆書、枠外左)が刷られた印箋に鈐印され、印影 2 は素紙に鈐印される。印文は『老子』を典拠とする。作風は清時代の趙之謙の多字印にならったものである。		

＜陶磁＞（1 件）

30 名称	青磁刻花牡丹文花入（せいじこっかぼたんもんはないれ）	品　質	陶製
作 者 等	青木木米（1767～1833）作	員　数	1 口
時　代	江戸時代・19 世紀	寸 法 等	高 34.8cm 口径 15.6cm
作品概要	硬質の胎土。らっぱ状に開いた口と長い頸、ゆったりと膨らんだ胴からなる、いわゆる尊形の花生。中国の尊形青磁花生をもとに写したと考えられる。口縁から頸にかけて 4 本の鎬をめぐらす。頸部、胴部には二重線の窓をそれぞれ前後２つ配し、その内側に牡丹の文様を刻む。窓の外側には、雲文を内側にもつ菱形の格子文を刻む。胴から下は、鎬蓮弁を巡らす。畳付をのぞく全体に、緑がかった青磁釉が厚く掛かる。底部、高台内に二重圏線の楕円形印で隷書体の「青来」印が捺されている。		

＜染織＞（1 件）			
31 名称	振袖　紺平絹地御簾檜扇模様 （ふりそで　こんへいけんじみすひおうぎもよう）	員　数	1 領
時　代	江戸～明治時代・19 世紀	寸 法 等	丈 157.5cm 裄 60.5cm
品　質	平絹に友禅染		
作品概要	平絹に友禅染で御簾、檜扇といった王朝風の模様を染めた紺地の振袖である。王朝風の模様は、江戸時代前期以降、吉祥模様として好まれた日本独特の模様である。一つ一つのモティーフが繊細な細い糊置きによる友禅染で染められているが、リボン状に肩から裾へと流れる熨斗様の模様の中には、蜀江文、唐草文、鳳凰文、菊花文、窠文などを丁寧に色挿しがなされている。裏地には紅絹が用いられ、裾には幅 6 cmほどの綿を詰めた太い袵が付く。模様の主題から晴れ着であったことは明らかであるが、長さ 1 メートル余りある大振袖であること、袵が厚い打掛の体裁であることから、江戸時代末期から明治時代初期の町方女性が用いた婚礼衣装だった可能性がある。		
＜考古＞（15 件）			
32 名称	石器（せっき）	品　質	石製
作 者 等	北海道遠軽町留岡 下社名渕遺跡出土	員　数	5 個
時　代	旧石器時代(後期)・前 18000 年	寸 法 等	尖頭器 4 個(6.4cm-18.8cm)、両面調整石器 1 個(19.9cm)
作品概要	下社名渕遺跡出土石器 5 個は、狩猟具である尖頭器が 4 個、石器の製作工程を示す両面調整石器が 1 個である。北海道における後期旧石器時代後半の細石刃石器群に伴う尖頭器である。		
33 名称	石器（せっき）	品　質	石製
作 者 等	北海道遠軽町白滝 白滝第 4 地点・第 30 地点遺跡出土	員　数	95 個
時　代	旧石器時代(後期)・前 18000 年		
寸 法 等	石刃鏃 1 個(4.4cm)、削器 1 個(10.9cm)、細石刃核 2 個(5.7cm-10.8cm)、細石刃核原形 2 個(6.1cm-11.8cm)、削片 2 個(7.8cm-10.9cm)、両面調整石器 5 個(6.7cm-11.9cm)、石核 1 個(8.4cm)、剥片 80 個(3.6cm-14.2cm)、原石 1 個(6.4cm)		
作品概要	白滝第 4 地点・第 30 地点遺跡出土石器は、狩猟具の石刃鏃が 1 個、加工具の削器が 1 個、石器の製作工程を示す細石刃核が 2 個、細石刃核原形が 2 個、削片が 2 個、両面調整石器が 5 個、石核が 1 個、剥片 80 個、原石が 1 個の計 95 個からなる。削片は北海道の旧石器時代後半期を特徴づける湧別技法を示す典型例である。いずれも北海道における後期旧石器時代後半の細石刃石器群に伴う石器である。		
34 名称	石器（せっき）	品　質	石製
作 者 等	北海道遠軽町白滝出土	員　数	29 個
時　代	旧石器時代(後期)・前 18000 年		
寸 法 等	尖頭器 4 個(6.6cm-9.9cm)、有茎尖頭器 1 個(6.6cm)、削器 2 個(8.3cm-10.2cm)、掻器 2 個(5.4cm-6.9cm)、細石刃核原形 1 個(9.4cm)、両面調整石器 1 個(10.9cm)、石核 2 個(14.5cm-22.5cm)、剥片 16 個(2.5cm-19.1cm)		
作品概要	白滝出土石器は、狩猟具の尖頭器が 4 個、有茎尖頭器が 1 個、加工具の削器が 2 個、掻器 2 個、石器の製作工程を示す細石刃核原形が 1 個、両面調整石器が 1 個、石核が 2 個、剥片が 16 個の計 29 個からなる。北海道における後期旧石器時代後半の細石刃石器群に伴う石器である。		
35 名称	石器（せっき）	品　質	石製
作 者 等	北海道遠軽町 タチカリシベ出土	員　数	5 個
時　代	旧石器時代(後期)・前 18000 年	寸 法 等	尖頭器 2 個(4.2cm-7.3cm)、細石刃核 3 個(4.9cm-6.3cm)
作品概要	タチカリシベ出土石器は、狩猟具の尖頭器 2 個、石器の製作工程を示す細石刃核 3 個の計 5 個からなる。細石刃核は北海道の旧石器時代後半期を特徴づける白滝型細石刃核および紅葉山型細石刃核の典型例である。いずれも北海道における後期旧石器時代後半の細石刃石器群に伴う石器である。		
36 名称	石器（せっき）	品　質	石製
作 者 等	北海道遠軽町出土	員　数	11 個
時　代	旧石器時代(後期)・前 18000 年	寸 法 等	尖頭器 4 個(5.3cm-7.6cm)、削器 1 個(6.7cm)、掻器 3 個(7.3cm-7.4cm)、細石刃核 1 個(6.4cm)、剥片 2 個(2.2cm-3.2cm)
作品概要	遠軽町出土石器は、狩猟具の尖頭器が 4 個、加工具の削器が 1 個、掻器が 3 個、石器の製作工程を示す細石刃核が 1 個、剥片が 2 個の計 11 個からなる。細石刃核は北海道の後期旧石器時代後半期を特徴づける峠下型細石刃核の典型例である。いずれも北海道における後期旧石器時代後半の細石刃石器群に伴う石器である。		
37 名称	石器（せっき）	品　質	石製
作 者 等	北海道置戸町 置戸安住遺跡出土	員　数	45 個
時　代	旧石器時代(後期)・前 18000 年	寸 法 等	細石刃 11 個(1.2cm-3.1cm)、細石刃核 2 個(3.4cm-10.5cm)、両面調整石器 1 個(12.9cm)、石核 1 個(12.3cm)、剥片 30 個(3.6cm-12.9cm)
作品概要	置戸安住遺跡出土石器は、組み合わせ式の道具である細石刃が 11 個、石器の製作工程を示す細石刃核が 2 個、両面調整石器が 1 個、石核が 1 個、剥片が 30 個の計 45 個からなる。細石刃核は北海道の後期旧石器時代後半期を特徴づける広郷型細石刃核の典型例である。いずれも北海道における後期旧石器時代後半の細石刃石器群に伴う石器である。		
38　名称	石器（せっき）	品　質	石製
作 者 等	北海道置戸町出土	員　数	34 個
時　代	旧石器時代(後期)・前 18000 年	寸 法 等	尖頭器 2 個(5.9cm-8.5cm)、有茎尖頭器 1 個(8.2cm)、削器 1 個(6.3cm)、彫器 1 個(4.6cm)、掻器 2 個(6.7cm-7.9cm)、剥片 27 個(2.4cm-14.3cm)
作品概要	置戸町出土石器は、狩猟具の尖頭器が 2 個、有茎尖頭器が 1 個、加工具の削器が 1 個、彫器が 1 個、掻器が 2 個、石器の製作工程を示す剥片が 27 個の計 34 個からなる。彫器は北海道の後期旧石器時代後半期を特徴づける荒屋型彫器の典型例である。いずれも北海道における後期旧石器時代後半の細石刃石器群に伴う石器である。		
39　名称	石器（せっき）	品　質	石製
作 者 等	北海道蘭越町 立川遺跡 A 地点出土	員　数	5 個
時　代	旧石器時代(後期)・前 18000 年	寸 法 等	長 1.4cm-2.2cm
作品概要	立川遺跡 A 地点出土石器 5 個は、すべて組み合わせ式の道具である細石刃からなる。北海道における後期旧石器時代後半の細石刃石器群に伴う石器である。		
40　名称	石器（せっき）	品　質	石製
作 者 等	北海道蘭越町 立川遺跡 B 地点出土	員　数	2 個
時　代	旧石器時代(後期)・前 18000 年	寸 法 等	長 1.5cm-1.6cm
作品概要	立川遺跡 B 地点出土石器 2 個は、すべて組み合わせ式の道具である細石刃からなる。北海道における後期旧石器時代後半の細石刃石器群に伴う石器である。		

41　名称	石器（せっき）	品　質	石製
作 者 等	北海道蘭越町　立川遺跡出土	員　数	2 個
時　代	旧石器時代(後期)・前 18000 年	寸 法 等	彫器 1 個(3.9cm)、掻器 1 個(4.6cm)
作品概要	立川遺跡出土石器は、加工具の彫器が 1 個、掻器が 1 個の計 2 個からなる。彫器は北海道の後期旧石器時代後半期を特徴づける荒屋型彫器の典型例である。いずれも北海道における後期旧石器時代後半の細石刃石器群に伴う石器である。		

42　名称	石器（せっき）	品　質	石製
作 者 等	北海道京極町松川　トド川出土	員　数	1 個
時　代	縄文時代（早期）・前 7000 年－前 400 年	寸 法 等	長 3.8cm
作品概要	トド川出土石器は、狩猟具の尖頭器 1 個からなる。北海道における後期旧石器時代後半の細石刃石器群に伴う石器である。		

43　名称	石器（せっき）	品　質	石製
作 者 等	北海道長万部町旭浜　追込 B 出土	員　数	2 個
時　代	縄文時代(早～晩期)・前 7000～前 400 年	寸 法 等	スクレイパー1 個(4.1cm)、石錐 1 個(2.9cm)
作品概要	追込 B 出土石器は、加工具のスクレイパーが 1 個、石錐が 1 個の計 2 個からなる。		

44　名称	石器（せっき）	品　質	石製
作 者 等	北海道出土	員　数	623 個
時　代	旧石器時代(後期)・前 18000 年／縄文時代(早～晩期)・前 7000～前 400 年	寸 法 等	尖頭器 19 個(2.4cm-7.0cm)　ほか　形状・主題参照
作品概要	北海道出土石器は、狩猟具の尖頭器が 19 個(2.4-7.0 cm)、加工具の彫器が 2 個(3.9-4.2 cm)、掻器が 6 個(4.3-6.5 cm)、スクレイパーが 16 個(2.7-6.4 cm)、石匙が 3 個(2.8-6.2 cm)、石箆が 2 個(2.3-5.4 cm)、土堀具である打製石斧が 1 個(5.1 cm)、組み合わせ式の道具である細石刃が 3 個(3.3-3.5 cm)、石器の製作工程を示す細石刃核が 2 個(5.8-8.3 cm)、細石刃核原形が 6 個(5.1-8.6 cm)、削片が 6 個(2.7-7.5 cm)、両面調整石器が 19 個(3.6-9.8 cm)、石核が 11 個(2.9-10.8 cm)、剥片が 511 個(1.4-14.0 cm)、砕片が 10 個(1.6-3.4 cm)、原石 6 個(4.7-8.9 cm)の計 623 個からなる。細石刃核は北海道の後期旧石器時代後半期を特徴づける札滑型細石刃核及び広郷型細石刃核である。細石刃核原形は湧別技法およびホロカ技法によって製作されたものである。いずれも北海道における後期旧石器時代後半の細石刃石器群に伴う石器である。		

45　名称	土器・石器（どき・せっき）	品　質	土製・石製
作 者 等	出土地不詳	員　数	56 個
時　代	縄文時代(前期)～弥生時代(後期)・前 3000～3 世紀／安土桃山時代・16 世紀	寸 法 等	土器残片 45 個(2.4cm-14.4cm)、剥片 11 個(2.3cm-4.0cm)
作品概要	東北地方の縄文時代中期、関東地方の縄文時代前期から晩期および弥生時代後期、安土桃山時代の土器残片が 45 個と剥片が 11 個の計 56 個からなる。		

46　名称	唐草文軒平瓦（からくさもんのきひらかわら）	員　数	1 個
時　代	飛鳥時代・7～8 世紀	寸 法 等	縦 18.0cm 横 26.3cm 高 9.0cm
品　質	瓦製		
作品概要	軒平瓦は建物の軒先に葺かれ、雨水や火災から建物を守り、軒先を荘厳するための瓦。軒先は軒丸瓦と軒平瓦が組み合わされて葺かれるが、そのうち本例は軒平瓦である。笵型から型抜きによって施された均整唐草文とよばれる瓦当文様から、本例は 7 世紀後半段階の所産に比定される。		

＜歴史資料＞（1 件）

47　名称	小林斗盦印譜（こばやしとあんいんぷ）	品　質	紙本鈐印
作 者 等	小林斗盦（1916～2007）刻	員　数	5 冊
時　代	平成 28 年(2016)	寸 法 等	29.8cm×19.0cm(斗盦先生遺印),19.8cm×13.5cm(斗盦先生自用印集)
作品概要	袋綴。①『斗盦先生遺印』及び②『斗盦先生自用印集』からなる。編輯は北斗文会(小林斗盦が設立した篆刻団体)。①は上下 2 冊で、小林家所蔵の斗盦刻印のうち成語印を鈐拓した印譜。収録内容は上冊 45 顆、下冊 45 顆、各巻頭に目次(印文・制作年)を付す。②は『斗盦先生自用印』上下 2 冊と『斗盦先生遺印』補遺 1 冊よりなる。『斗盦先生自用印』は小林家所蔵の斗盦刻印のうち姓名雅号印、斎堂館閑印、干支印等、自ら使用した印を鈐拓した印譜。収録内容は上冊 58 顆、下冊 58 顆、各巻頭に目次(同上)を付す。『斗盦先生遺印』補遺は『斗盦先生遺印』の補遺版で、小型の成語印 35 顆を収録し、巻頭に目次(同上)を付す。		

＜東洋絵画＞（1 件）

48　名称	重要美術品　五馬図巻（ごばずかん）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	李公麟（1049～1106）筆	員　数	1 巻
時　代	北宋時代・11 世紀	寸 法 等	本紙 縦 27.8cm 長さ 256.5cm
作品概要	巻子装。北宋・元祐元年（1086）から 3 年（1088）にかけて西域諸国から献じられた、「鳳頭驄」・「錦膊驄」・「好頭赤」・「照夜白」の 4 頭、及び無名の 1 頭の計 5 頭の名馬と、その手綱をとる胡人を描く。黄庭堅（1045～1105）が、最初の 4 頭それぞれの題と、末尾の跋を書く。巻末には曾紆（1073～1135）の跋が合装される。また、乾隆帝（1711～99）が引首、および画中 2 所に題を記す。		

＜東洋書跡＞（2 件）

49 名称	行草書五言古詩軸（ぎょうそうしょごごんこしじく）		
指　定	重要文化財	品　質	紙本墨書
作 者 等	即休契了（1269～1351）筆	員　数	1 幅
時　代	元時代・14 世紀	寸 法 等	縦 28.0cm　横 83.2cm
作品概要	掛幅装。牙軸。行草書で五言古詩を揮毫した作。年紀はないが、書風・署名・印記等が示寂の前年に愚中周及に与えた餞別偈(重要文化財・五島美術館蔵)と符合することから、最晩年の作と考えられている。		

50　名称	隷書張衡霊憲四屏（れいしょちょうこうれいけんしへい）	品　質	紙本墨書
作 者 等	趙之謙（1829～84）筆	員　数	4 幅
時　代	清時代・同治 7 年(1868)	寸 法 等	縦 120.0cm　横 43.6cm
作品概要	掛幅装。占星術に関する著述を整理した瞿曇悉達『開元占経』に引かれる張衡「霊憲」を隷書で揮毫した作。		

＜東洋陶磁＞（2 件）

51　名称	重要美術品　五彩金襴手水注（ごさいきんらんですいちゅう）	品　質	磁製
作 者 等	中国・景徳鎮窯	員　数	1 合
時　代	明時代・16 世紀	寸 法 等	高 30.0cm　口径 5.7cm　底径 9.2cm
作品概要	硬質白磁胎。洋梨形の扁平な胴が特徴的ないわゆる仙盞瓶と呼ばれる形の水注。蓋のつまみは獅子らしき形をしている。胴の両面と左右の肩に窓を設け、赤で塗った上から金彩で花鳥図を配する。地は赤の上絵具で毘沙門亀甲、高台まわりはラマ式蓮弁文、頸部には鉢に植えられた花が描かれる。底には「富貴佳器」の青花銘が施される。		

52　名称	五彩金襴手瓢形大瓶（ごさいきんらんでひさごがたたいへい）		
作 者 等	中国・景徳鎮窯	品　質	磁製

指　定	重要文化財	員　数	1口
時　代	明時代・16世紀	寸法等	高63.0cm　口径5.8cm　底径20.5cm
作品概要	硬質白磁胎。瓢形で下半分を四方とした大型の瓶。瓢の膨らみの上部、下部ともに四方に窓を設け、赤地に金彩で花卉、人物図らしき文様を表わすが、大半が剥落しており判別できない。窓の周囲は赤の上絵具の七宝繋ぎ、毘沙門亀甲で細やかに埋める。赤で塗り込めた頸部にも金彩で唐草文が表わされる。肩の四方に丸文を配し、福寿康寧と金でそれぞれ一字ずつ配する。底は平底で中央円形に青花銘「富貴佳器」を記し、施釉する。		
＜東洋考古＞（11件）			
53　名称	刻文台付鉢（こくもんだいつきはち）	品　質	土器
作者等	伝タイ東北部出土	員　数	1口
時　代	バンチェン文化前期・前2千年紀末～前1千年紀前半	寸法等	高19.7cm 口径24.0cm～24.4cm 最大径27.7cm 脚径13.0cm
作品概要	やや深くラッパ型に開く体部に、低い脚部がつく。胴部中位から口縁部に至る外面に刻線による文様を描く。また、脚部にも刻線による文様を描く。		
54　名称	黒色杯（こくしょくつき）	品　質	土器
作者等	伝タイ東北部出土	員　数	1口
時　代	バンチェン文化前期・前2千年紀末～前1千年紀前半	寸法等	高11.1cm 口径12.2cm 脚径9.2cm
作品概要	丸底の底部からやや開き気味の体部が立ち上がる。下位と上位に突帯を設けるが、上位のものは剥離している。低い高台があり、2方向に円孔を設けている。全体が黒色に焼き上げられている。		
55　名称	刻線彩文脚付壺（こくせんさいもんきゃくつきつぼ）	品　質	土器
作者等	伝タイ東北部出土	員　数	1口
時　代	バンチェン文化中期・前1千年紀	寸法等	高21.8cm 口径12.8cm 胴径16.7cm 脚径14.5cm
作品概要	算盤形に近い扁平な胴部から短い口縁部がたちあがる壺に、ラッパ形に開く高い脚部がついている。肩と脚端近くの外面に刻線で文様を描き、刻線と刻線の間を彩色する。		
56　名称	刻線彩文脚付壺（こくせんさいもんきゃくつきつぼ）	品　質	土器
作者等	伝タイ東北部出土	員　数	1口
時　代	バンチェン文化中期・前1千年紀	寸法等	現存高19.8cm 口径12.5cm 胴径16.6cm
作品概要	算盤形に近い扁平な胴部から短い口縁部がたちあがる壺に、ラッパ形に開く高い脚部がついている。肩の外面に刻線で渦巻文などの文様を描き、刻線と刻線の間を彩色する。		
57　名称	刻線彩文高杯（こくせんさいもんたかつき）	品　質	土器
作者等	伝タイ東北部出土	員　数	1口
時　代	バンチェン文化中期・前1千年紀	寸法等	現存長19.7cm 口径20.5cm～21.6cm 脚径11.5cm
作品概要	体部を後補した高杯。脚部では刻線で波頭文と2条の横帯を区画し、刻線の間を彩色で塗りつぶしている。		
58　名称	叩目文台付直口壺（たたきめもんだいつきちょっこうつぼ）	品　質	土器
作者等	伝タイ東北部出土	員　数	1口
時　代	バンチェン文化中期・前1千年紀	寸法等	現存高15.0cm 口径9.0cm 胴径13.3cm 脚径8.5cm
作品概要	叩き出しによる球形の胴部から、直立する口縁部が立ち上がる。口縁の内外面と肩の外面に赤彩を施す。胴部には焼成時の黒斑が観察される。		
59　名称	叩目文甕（たたきめもんかめ）	品　質	土器
作者等	伝タイ東北部出土	員　数	1口
時　代	バンチェン文化後期・前1千年紀後半	寸法等	高12.0cm 口径11.8cm 胴径14.3cm
作品概要	形の胴部から、外傾する短い口頸部が伸びる。胴部外面に叩き目を残し、また外面に焼成時の黒斑が観察される。鉄さびが付着した部分がある。		
60　名称	叩目文鉢（たたきめもんはち）	品　質	土器
作者等	伝タイ東北部出土	員　数	1口
時　代	2～3世紀	寸法等	高9.3cm 口径15.9cm 胴径16.2cm
作品概要	半球形の鉢で、外面の全体に叩き目を残す。内面はなでてしあげている。外面に焼成時の黒斑がみられる。		
61　名称	水差（みずさし）		
時　代	後期青銅器時代・前15世紀頃	員　数	1個
品　質	彩文土器	寸法等	高24.4cm 幅17.5cm
作品概要	白地に黒色の梯子文様などを描くホワイト・スリップ土器と呼ばれるグループに属する水差形土器。白色の化粧土を器面に施し、丁寧に磨いて整えている。口縁部から肩部にかけて把手がとりつく。ホワイト・スリップ土器は後期青銅器時代のキプロス島を代表する工芸品であり、交易で東地中海の各地や西アジアにもたらされ珍重された。		
62　名称	椅子に坐した女神（いすにざしためがみ）		
時　代	後期ヘラディック時代・前14～前13世紀	員　数	1個
品　質	テラコッタ、彩文	寸法等	像高6.9cm 幅8.5cm 奥行9.3cm
作品概要	椅子に腰掛けた人物の土偶。椅子の台座から、女神の上半身が作りだされ、両手と頭部が表現されているが、下半身は椅子と一体化する。これに、人物の後の背もたれと、3本の脚が貼り付く。赤色の湾曲線による彩文が、土偶の全体に施されている。 ミュケナイ文明に特徴的な土偶の1つであり、一般的に椅子に座した女神であると考えられている。		
63　名称	古代コイン（こだいこいん）		
時　代	前5～後2世紀前半	員　数	239枚
作品概要	コインには為政者の肖像、発行年、発行都市を象徴する図像などが打刻されており、その情報は今なお、歴史研究や博物館での展示に大きく寄与している。本コレクションは、ギリシャ諸都、アケメネス朝ペルシャ、セレウコス朝やプトレマイオス朝などのヘレニズム諸王朝、パルティア王国、バクトリア王国、インド・クリーク王国、クシャーン朝、ササン朝ペルシャなどのコインを含む。		
＜東洋民族＞（21件）			
64　名称	祖霊像（それいぞう）		
時　代	20世紀	員　数	1枚
品　質	木製	寸法等	縦173.2cm 横46.4cm 厚さ3.7cm
作品概要	台湾の原住民パイワン族の祖霊像で、家屋の扉に用いられたものとみられる。木材の一枚板の片面に、祖霊像が浮彫されている。祖霊は正面を向いて立ち、右手を挙げて、刀を持つ。腰にも刀を差し、左手を添える。頭に鹿角を生やし、ネクタイを締め、スカート状の腰巻をまとい、長靴をはく。右手首近くに、釧を表現したとみられる線刻がある。木材の上部には金具を設ける。前面左端中央近くと、前面左下隅に方形の彫り込みがあり、表面に白土を塗った痕跡がある。枘穴などからみて、かつて建築の一部として使われていたと思われる。		

65　名称	祖霊像（それいぞう）		
時　代	20 世紀	員　数	1 枚
品　質	木製	寸 法 等	縦 169.8cm 横 50.0cm 厚さ 5.4cm
作品概要	台湾の原住民パイワン族の祖霊像で、家屋の扉に用いられたものとみられる。木材の一枚板の片面に、祖霊像が浮彫されている。祖霊は正面を向いて立ち、右手を挙げて、刀を持つ。腰にも刀を差し、左手を添える。頭に羽飾りをつけ、ネクタイを締める。スカート状の腰巻をまとい、裸足。木材の上部には金具を設ける。前面右端 2 か所に方形の彫り込み、前面右下隅に円形の穴があり、表面に白土を塗った痕跡がある。枘穴などからみて、かつて建築の一部として使われていたと思われる。		
66　名称	祖霊像（それいぞう）		
時　代	20 世紀	員　数	1 枚
品　質	木製	寸 法 等	縦 84.9cm 横 49.3cm 厚さ 4.0cm
作品概要	台湾の原住民パイワン族の祖霊像で、家屋の扉に用いられたものとみられる。木材の一枚板の片面に、祖霊像が浮彫されている。祖霊は正面を向いて立ち、右手を肩の高さにあげ、左手を腰に当てる。スカート状の腰巻をまとい、裸足。腰には刀を差し、刀の柄頭は中途で直角に折れている。祖霊の左右に 1 匹ずつの百歩蛇が表現されている。一方の百歩蛇は人物の右手に尾を乗せ、下向きに延びている。もう一方の百歩蛇は、人物の右側で下を向いている。表面に白土を塗った痕跡がある。かつて建築の一部として使われていたと思われる。		
67　名称	祖霊像（それいぞう）		
時　代	20 世紀	員　数	1 枚
品　質	木製	寸 法 等	縦 77.5cm 横 44.5cm 厚さ 4.9cm
作品概要	台湾の原住民パイワン族の祖霊像で、家屋の扉に用いられたものとみられる。木材の一枚板の片面に、祖霊像が浮彫されている。祖霊は正面を向いて立ち、両手を胸の前に置き、手は肩の高さまで上げる。スカート状の腰巻をまとい、裸足。手首付近に釧を表現したとみられる刻線がめぐる。腰には刀を差し、刀の柄頭は中途で直角に折れている。祖霊の左右に 1 匹ずつの百歩蛇が表現されており、両方とも上を向いている。木材の前面下辺中央に方形の彫り込みがある。右辺は方枘状に段をなしている。表面に白土を塗った痕跡がある。枘穴などからみて、かつて建築の一部として使われていたと思われる。		
68　名称	祖霊像（それいぞう）		
時　代	20 世紀	員　数	1 枚
品　質	木製	寸 法 等	縦 48.6cm 横 31.0cm 厚さ 2.3cm
作品概要	木材の 1 枚板の片面に女性の祖霊像を彫り出している。祖霊は正面を向いて立ち、両手を太ももの位置に下げる。裸足。眉には斜線が表されている。祖霊の頭上の百歩蛇は体をくねらせ、2 つの頭部が外側を向いている。顔の高さで、横並びに 3 つの釘孔がある。		
69　名称	祖霊像（それいぞう）		
時　代	20 世紀	員　数	1 枚
品　質	木製	寸 法 等	縦 48.3cm 横 21.5cm 厚さ 2.3cm
作品概要	木材の 1 枚板の片面に男性の祖霊像を彫り出している。祖霊は正面を向いて立ち、両手を肩の高さに挙げる。裸足。祖霊の頭上の百歩蛇は 1 つの胴体に 2 つの頭部をもち、頭部はいずれも上を向いている。人物像の胸と両手の高さで、横並びに 3 つの釘孔がある。		
70　名称	祖霊像（それいぞう）		
時　代	20 世紀	員　数	1 枚
品　質	木製	寸 法 等	縦 23.0cm 横 173.4cm 厚さ 1.2cm
作品概要	パイワン族の祖霊像で、家屋の軒下に横架したものである。人面 4、向かい合う鹿 2 を曲線的な表現で彫り出している。人面のうち 2 つは、頭上に百歩蛇が表現されている。木目が浮き出したのちに白土を塗った痕跡がある。		
71　名称	円形装飾板（えんけいそうしょくばん）		
時　代	20 世紀	員　数	1 枚
品　質	木製	寸 法 等	径 68.0cm 高 8.0cm
作品概要	木材から円形に彫り出された木製品である。口縁部は百歩蛇がめぐる。内底に人面と百歩蛇と鹿を表現している。内底の中央に方形の孔が設けられている。		
72　名称	把手付盆（とってつきぼん）		
時　代	20 世紀	員　数	1 枚
品　質	木製	寸 法 等	長さ 45.0cm 幅 29.0cm 高 6.3cm
作品概要	木材から塵取りのような形に彫り出された容器である。内底に人物像や鋸歯文を表している。人物の全身像のわきに人物頭部の表現がいくつか見られ、パイワン族の風習である首狩りを表している。鋸歯文は百歩蛇を意味する。タオ族のまな板をパイワン族の技法で再現したものとみなされる。		
73　名称	木製フォーク（もくせいふぉーく）		
時　代	20 世紀	員　数	1 本
品　質	木製	寸 法 等	長さ 58.2cm 幅 13.2cm 厚さ 2.5cm
作品概要	木材から彫り出した 6 本歯のフォークである。柄に祖霊像を彫り出す。祖霊は正面を向いて立ち、両手を腹の前に置く。両腕、両太腿、両足首近くに、装身具を表すかとみられる 3 本一組の刻線をめぐらせている。祖霊の頭上の百歩蛇は 1 つの胴体に 2 つの頭部をもち、頭部はいずれも上を向いている。大きさや器形が異例であり、実用品ではない。		
74　名称	木製スプーン（もくせいすぷーん）		
時　代	20 世紀	員　数	1 本
品　質	木製	寸 法 等	長さ 58.0cm 幅 13.7cm 厚さ 2.7cm
作品概要	木材から彫り出したスプーンである。柄に祖霊像を彫り出す。祖霊は正面を向いて立ち、両手を腹の前に置く。両腕、両太腿、両足首近くに、装身具を表すかとみられる 3 本一組の刻線をめぐらせている。祖霊の頭上の百歩蛇は 1 つの胴体に 2 つの頭部をもち、頭部はいずれも上を向いている。大きさが異例であり、実用品ではない。		
75　名称	木製スプーン（もくせいすぷーん）		
時　代	20 世紀	員　数	1 本
品　質	木製	寸 法 等	長さ 24.1cm 幅 7.7cm
作品概要	台湾の原住民パイワン族の木製スプーンである。木材から彫り出しており、柄の上部には祖霊像を浮彫する。祖霊は正面を向いて立ち、腹の前で両手の指先を突き合わせる。裸足。		

76　名称	ワヤン・クリ　アルジュノ（わやん・くり　あるじゅの）		
時　代	20世紀	員　数	1体
品　質	水牛の革・角・骨、金泥、彩色	寸法等	全長69.0cm 像高48.0cm
作品概要	水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを、関節部分の孔に両肩では水牛の骨を削り出して作った軸材、両肘では水牛の革を切り抜いて作った軸材を、それぞれ貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。鏨による細かい透かしを組み合わせて頭髪の縮れや着衣の文様を表現している。『マハーバーラタ』に登場する主人公アルジュノを表現している。うつむき加減で、顔は黒、体は金色。目は切れ長。クリンと呼ばれる大きく巻き上げるような髷を結う。下半身にサロンのみをまとい、装身具の類はない。裸足。		

77　名称	ワヤン・クリ　クレスノ（わやん・くり　くれすの）		
時　代	21世紀	員　数	1体
品　質	水牛の革・角・骨、金泥、彩色	寸法等	全長70.0cm 像高51.3cm
作品概要	水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。鏨による細かい透かしを組み合わせて着衣や装身具の文様を表現している。『マハーバーラタ』に登場するクレスノの、戦いのときの姿を表現している。顔・体とも黒。目は切れ長。サロンをまとい、宝冠、胸飾、臂釧、腕釧、足輪を身に着ける。光背を負い、後頭部にはガルダが表される。裸足。		

78　名称	ワヤン・クリ　バヌワティ（わやん・くり　ばぬわてぃ）		
時　代	20～21世紀	員　数	1体
品　質	水牛の革・角・骨、金泥、彩色	寸法等	全長54.7cm 像高35.0cm
作品概要	水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。鏨による細かい透かしを組み合わせて、肩に垂らした頭髪の縮れや着衣の裾部分の文様を表現している。そのほかの部分では比較的粗い鏨を用いて透かしによる点線や破線で輪郭を表現する。『マハーバーラタ』に登場するバヌワティを表現している。顔を挙げて前を見据える。顔・体とも金色。目は切れ長。頭髪は後頭部でまとめるが、肩まで縮れ毛が伸びる。ピンクのドドットとスレンダン（肩掛）を身にまとい、黒い帯を締める。頭にはティアラと花のかんざしをつけ、後頭部にはガルダが表される。また、胸飾、臂釧、腕釧を身に着ける。裸足。		

79　名称	ワヤン・クリ　バヌワティ（わやん・くり　ばぬわてぃ）		
時　代	21世紀	員　数	1体
品　質	水牛の革・角、銅、プラスティック、金泥、彩色	寸法等	全長58.4cm 像高39.9cm
作品概要	水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを、関節部分の孔に銅で作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。両手と操作棒はプラスティックの軸材でつなぐ。本体部分に彩色。鏨による細かい透かしを組み合わせて後頭部のガルダやティアラなどの文様を表現している。そのほかの部分では比較的粗い鏨を用いて透かしによる点線や破線で輪郭を表現する。『マハーバーラタ』に登場するバヌワティを表現している。顔を挙げて前を見据える。顔・体とも金色。目は切れ長。頭髪はうなじのところで丸くまとめている。赤紫のドドットを身にまとい、頭にはティアラと花のかんざしをつけ、後頭部にはガルダが表される。また、頸飾、臂釧、腕釧を身に着ける。裸足。		

80　名称	ワヤン・クリ（わやん・くり）		
時　代	20世紀	員　数	1体
品　質	水牛の革・角・骨、金泥、彩色	寸法等	全長49.5cm 像高31.4cm
作品概要	水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを、関節部分の孔に水牛の革から切り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。両手の操作棒の上端の平らになった部分が大きく丸くなっているのが特徴である。鏨による細かい透かしを組み合わせて後方に伸ばした頭髪の縮れや、着衣の一部の文様を表現している。そのほかの部分では比較的粗い鏨を用いて透かしによる点線や破線で輪郭を表現する。うつむいた姿の女性を表す。顔は金、体は黄。目は切れ長。頭髪は後方に腰まで伸びている。ドドットと、スレンダン（肩掛）をまとうが、ドドットの裾が体の前方にあり、ジョグジャ・スタイルのワヤン・クリの特徴を表している。靴を履く。頭にはティアラをつけ、後頭部にはガルダが表される。また、頸飾、臂釧、腕釧、足輪を身に着ける。№81のワヤン・クリ　スムボドロと顔や臂釧が完全に一致する。着衣の細部表現もよく似ており、同一人または同一工房の製作とみなされる。		

81　名称	ワヤン・クリ　スムボドロ（わやん・くり　すむぼどろ）		
時　代	20世紀	員　数	1体
品　質	水牛の革・角・骨、金泥、彩色	寸法等	全長47.1cm 像高26.6cm
作品概要	水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。鏨による細かい透かしを組み合わせて後方に伸ばした頭髪の縮れを表現している。着衣では比較的粗い鏨を用いて透かしによる点線や破線で輪郭を表現する。『マハーバーラタ』に登場する主人公アルジュノの妻スムボドロを表現している。うつむいた姿勢で、つつましい性格を表現している。顔は金、体は黄。目は切れ長。頭髪は後頭部で丸くまとめるが、さらに後方にも腰まで伸びている。ドドットをまとうが、裾が体の前方にあり、ジョグジャ・スタイルのワヤン・クリの特徴を表している。また、臂釧、腕釧、足輪を身に着ける。裸足。№80のワヤン・クリと顔や臂釧が完全に一致する。着衣の細部表現もよく似ており、同一人または同一工房の製作とみなされる。		

82　名称	ワヤン・クリ　デウォブロト（わやん・くり　でうぉぶろと）		
時　代	20世紀	員　数	1体
品　質	水牛の革・角・骨、金泥、彩色	寸法等	全長67.5cm 像高48.0cm
作品概要	水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。鏨による細かい透かしを組み合わせて頭髪の縮れや着衣の文様を表現している。『マハーバーラタ』に登場するデウォブロトを表現している。ビスモの若いころの姿である。顔・体とも金色。目は切れ長。クリンと呼ばれる大きく巻き上げるような髷を結い、冠、サロン、臂釧、腕釧、胸飾を身に着ける。裸足。		

83　名称	ワヤン・クリ　スムボドロ（わやん・くり　すむぼどろ）		
時　代	20世紀	員　数	1体
品　質	水牛の革・角・骨、金泥、彩色	寸法等	全長54.6cm 像高33.8cm
作品概要	水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。鏨による細かい透かしを組み合わせて肩まで伸ばした頭髪の縮れを表現し、着衣部分では比較的粗い鏨を用いて透かしによる点線や波線で文様の輪郭を表現している。『マハーバーラタ』に登場する主人公アルジュノの妻スムボドロを表現している。うつむいた姿勢で、つつましい性格を表現している。顔は黒、体は金色。目は切れ長。髪は後頭部で巻き上げるように髷を結うほか、縮れ毛が肩まで伸びている。赤いドドットをまとい、装身具は身に着けない。裸足。		

84　名称	チャップ（ちゃっぷ）		
時　代	20世紀	員　数	1個
品　質	鉄、銅	寸法等	縦21.1cm 横16.5cm
作品概要	短冊状に切断した鉄板を組み合わせて外形と格子状の構造を作り、一方の面には短冊状の銅板を折り曲げたものを接着して文様面とする。他方の面には鉄板による把手を設ける。文様面は植物文様を表す。インドネシアやマレーシアの蠟纈染であるバティックの製作において、熱したチャッ		

	プの文様面に蠟を塗り、布地に押し当てて文様を写す。この布を染料で染めると蠟の部分は染色されないまま残るので、この工程を繰り返すことにより目的とする文様を作り出すことができる。		
(3)編入（172 件） ＜絵画＞(5 件)、 ＜書跡＞(2 件)、 ＜金工＞(8 件)、 ＜刀剣＞(10 件)、 ＜陶磁＞(5 件)、 ＜漆工＞(93 件)、＜染職＞ (47 件)			
1 名称	宮内省削除品（くないしょうさくじょひん）	員 数	170 件
作品概要	宮内省削除品は昭和 22 年 2 月 6 日に宮内省へ引継となり、列品から削除された作品である。その内訳は、絵画 5 件、書跡 2 件、金工 8 件、刀剣 10 件、陶磁 5 件、漆工 93 件、染織 47 件である。近年の列品情報調査の結果や、東京帝室博物館が昭和 22 年に宮内省削除品を陳列用として預かり、その後、宮内庁から昭和 25 年に寄贈されたことを記す資料が確認されたことにより、当館が寄贈を受けたと判断し編入した。		
＜考古＞(2 件)			
2 名称	鉄鏡残片（てっきょうざんぺん）		
作 者 等	京都市伏見区深草町 稲荷山経塚出土	品 質	鉄製
時 代	平安時代・12 世紀	員 数	一括
作品概要	鉄製鏡の残片。「宗一二五一」の付け札がある。		
3 名称	短刀残欠（たんとうとうざんけつ）	品 質	鉄製
作 者 等	京都市東山区清水一丁目 清水寺経塚出土	員 数	一括
時 代	平安時代・12 世紀	寸 法 等	現存最大長 30.0cm 現存最大幅 3.0cm
作品概要	鉄製短刀残欠。「宗一三四五 短刀十八本」の付け札がある。		

【京都国立博物館】（計 184 件）

(1) 購入(12 件) ＜絵画＞(3 件)			
1 名称	重要文化財 洞庭赤壁図巻（どうていせきへきずかん）	品 質	絹本着色
作 者 等	池大雅筆	員 数	1 巻
時 代	江戸時代 明和 8 年（1771）	寸 法 等	縦 55.1cm ×横 297.5 cm
作品概要	古来中国の名勝として知られた洞庭湖と赤壁を一望のもとに収め、金碧青緑山水の画法によって描いている。款記から池大雅（1723～76）が 49 歳の時に制作したことが明らかな、晩年の代表的作品である。韓天寿の題箋、宮崎筠圃の題字、細合半斎および頼春水の跋文を伴う。跋文から、西村孟清が発注者だったこと、大雅が明代の『新鐫海内奇観』を種本としたことがわかる。さらに、桑山玉洲『絵事鄙言』は、本作の「湖面ノ水紋」の表現に琵琶湖へ通い観察を重ねた成果が生かされていると述べる。大雅は舶載された画譜類を頻繁に制作の参考としたが、それに加え実景の観察をも重視していることは、その制作態度の根幹にかかわる事柄として重要である。		
2 名称	花鳥図（かちょうず）	品 質	紙本淡彩
作 者 等	如寄筆	員 数	1 幅
時 代	室町時代 15～16 世紀	寸 法 等	縦 29.1 cm、横 25.6 cm
作品概要	如寄は別号を樗屋、通称を次郎という詩文にも長じた文化人で、明応４年（1495）に遣明使節団に加わり、中国に渡ったことが知られる。遺作は十指に満たないが、その中には明の版本に基づいたと思しい西湖図や中国の院体画に学んだ花鳥図などがあり、己の入明経験を意識した作画を行っていたことがわかる。本図もそのひとつで、やはり院体系の折枝画を参考に描かれたものであろう。小品ながら、小禽の生き生きした動勢や細緻な羽毛表現は見応えがある。画面の寸法から推して、当初は画帖に貼付されていたものと思われる。		
3 名称	花鳥図（かちょうず）	品 質	紙本着色
作 者 等	小島亮仙筆	員 数	1 幅
時 代	室町時代 16 世紀	寸 法 等	縦 50.6 cm 横 29.3 cm
作品概要	小島亮仙は越前の守護・朝倉家に仕えた曾我派の絵師。『本朝画史』に天文 8 年（1539）の年記をもつ亮仙画が記録されることから、ちょうどその頃に活躍した曾我紹仙の門人筋であった可能性が高い。遺作としては、これまで山水図と人物図の計 3 点の掛幅画が知られてきたに過ぎず、しかも花鳥図の作例は皆無という有様であった。その点、本図はそんな亮仙画の「欠」を埋める貴重な作品といえよう。可憐な花を咲かせる梨の花弁や小禽はなかなか丁寧に描写されており、葉や花には透明感のある美しい彩色も施されている。		
＜陶磁＞(9 件)			
4 名称	鼠志野草文鉢（ねずみしのそうもんばち）	品 質	施釉陶器
作 者 等		員 数	1 口
時 代	桃山時代（17 世紀）	寸 法 等	高 6.8cm 口径 28.7cm ×28.5cm
作品概要	見込みいっぱいに草文が描かれた鼠志野の鉢である。全体に釉が掛かり、底には三つの脚が付けられている。口縁部は鍔状になっており、その部分に文様帯を設け、草文や格子状の文様を描いている。焼き上がりがよく、釉調もよく、そして、全体に精緻な筆遣いで描かれた文様も見事である。見込みに目跡が 6 カ所、底部の脚の付近にも当て具痕が残る。鼠志野の鉢は一作ごとに作行きが大きく異なるのも、ひとつの特徴といえ、額皿を含め、本作のように絵画性を意識して作られたもの数多く残る。		
5 名称	色絵獅子山水文八角水指 （いろえししさんすいもんはっかくみずさし）	品 質	色絵磁器
作 者 等	奥田頴川作	員 数	1 口
時 代	江戸時代（18～19 世紀）	寸 法 等	高 14.2cm 口径 15.1cm ×16.2cm 底径 13.0cm ×13.8cm
作品概要	中国・明時代末の呉須赤絵と見紛うほどによく模した色絵水指である。江戸時代の後半に活躍した名工、奥田頴川（1753～1811）の作である。八角の形状をしており、口部には虫喰いを作り出している。胴部は四面ずつ赤絵で枠囲いをし、二場面を構成している。一面は龍と山水文をえがき、もう一方は丸龍文と二重方形字文三カ所ずつ描いている。高台内には、頴川の赤絵具で花押が書かれている。		
6 名称	灰釉瓶子 美濃須衛窯（かいゆうへいし みのすえよう）	品 質	灰釉陶器
作 者 等		員 数	1 口
時 代	鎌倉時代（13 世紀）	寸 法 等	高 32.6cm 口径 4.5cm 底径 14.0cm ×13.7cm
作品概要	頸部から肩にかけて黄緑色の釉薬が掛けられた梅瓶形の瓶子である。赤褐色の焼肌が印象的で、丁寧な轆轤成形がなされている。大きく張り出した肩部には二重沈線を重ねるように廻らしている。釉もよく溶けており、釉筋ができ、よい景色を作り出している。箱には、「伊賀 瓶子」と貼紙があり、古くは伊賀焼と認識されていたようであるが、釉調や褐色の焼肌の様子などから、美濃須衛窯で焼かれたものと思われる。		
7 名称	有来新兵衛屋敷跡出土茶陶 （うらいしんべえやしきあとしゅつどちゃとう）	品 質	陶器
時 代	桃山時代（17 世紀）	員 数	3 点
寸 法 等	志野隅切四方鉢 高 7.2cm 口径 14.8cm ×14.9cm 信楽水指（竹字有）高 16.9cm 口径 15.2cm ×15.0cm 底径 18.6cm 信楽水指（印有） 高 17.6cm 口径 18.5cm ×19.4cm 底径 18.0cm		
作品概要	京都の町人で糸割符商を営んでいたとされる有来新兵衛の屋敷跡から出土したとされる茶陶 3 点である。新兵衛の屋敷は、京都市中京区三条通柳馬場にあったが、江戸時代寛文年間（1661～73）に隣家の杉浦家が買い取っている。その後、享保年間（1716～36）に屋敷普請を行った際に、地下より数多くのやきものが出土したとされる。志野隅切四方鉢 1 点、信楽水指 2 点の計 3 点もこのときに出土したものといわれている。出土したも		

	のの多くは、一群として伝来してきたが、近年散逸してしまったが、この 3 点の作品から製作技法や印や刻銘などから、作者を類推できてきているなど、多くの知見がでてきている。		
8　名称	灰釉壺　渥美窯（かいゆうつぼ　あつみよう）	品　質	焼締陶器
作 者 等		員　数	1 口
時　代	平安時代	寸 法 等	高 40.0cm　胴径 36.8cm　底径 14.0cm
作品概要	頸部から肩にかけてたっぷりと灰釉が施された焼締めの壺である。本作は口縁部が欠損しているものの、白色の地色に、やや青みの掛かった自然釉が見事にかかり、釉景色を作り出している。胴の下半には縦方向に調整痕があり、その上に継ぎ痕と叩き目があり、紐輪積み成形され、つながれたことがよくみてとれる。釉調や成形技法などから、渥美窯の製品と思われる。		
9　名称	須恵器長頸壺　猿投窯（すえきちょうけいこ　さなげよう）	品　質	須恵器
作 者 等		員　数	1 口
時　代	平安時代（9 世紀）	寸 法 等	高 31.5cm　胴径 21.5cm　高台径 13.7cm ×14.0cm
作品概要	須恵器の長頸壺である。口部がやや外反してはいるが、まっすぐにすらりと伸びた頸部の中ほどには二本の圏線がめぐっている。底部には高台が付き、たっぷりとした胴の肩は強く張り出している。口縁から肩部にかけて明緑色の自然釉が厚く掛かっており、よく溶けて見事な発色をみせている。胎土や釉調、形態などから、猿投窯の製品と思われる。		
10　名称	黄釉楽舞人俑（おうゆうがくぶじんよう）	品　質	施釉陶器
作 者 等		員　数	6 躯
時　代	唐時代（8 世紀）	寸 法 等	高 19.0～21.3cm
作品概要	琵琶、笛、銅鉦の楽器を奏でる人物とそれにあわせと舞い踊る人物とを表した 6 躯の陶俑である。全体に赤みを帯びた様子がみえることから、赤色の加彩がなされており、その上に黄釉が掛けられている。着用する衣服などからも全て女性を表している。顔や髪の表情、衣服や釉調、胎土などから、一群として作られたものと思われる。琵琶を持つ人物については、他の人物に比べて背が高い。多くの陶俑と同じく、土の付着がみられることからも、明器として墓に収められていたものであろう。		
11　名称	青磁貼花龍文盤　龍泉窯 （せいじちょうかりゅうもんばん　りゅうせんよう）	品　質	青磁
作 者 等		員　数	1 枚
時　代	中国・元時代（13～14 世紀）	寸 法 等	高 8.5cm　口径 34.5×34.2cm　底径 12.9cm
作品概要	見込みに貼り付け技法（貼花）により、龍文の装飾を施し、その周囲に雲文を廻らせた青磁盤である。口縁部は、鍔状に開いた形状となっている。底部は碁笥底で、高台内に窯道具を当てた部分が蛇の目状に現れて露胎となっており、赤みを帯びた色をみせる。胴部の外側には、鎬蓮弁文が施されている。青緑色の釉薬が厚く掛けられており、発色もよい。こうした青磁の製品は、鎌倉時代以降、中国との貿易によって大量に日本に持ち込まれ、珍重されてきた。		
12　名称	須恵器甕 猿投窯（すえきかめ　さなげよう）	品　質	須恵器
作 者 等		員　数	1 口
時　代	奈良～平安時代（8～9 世紀）	寸 法 等	高 42.3cm　口径 26.7cm　胴径 39.0cm　底径 18.3cm
作品概要	火色が胴部によく表われた猿投の甕である。頸部から下、胴部から裾部にかけて叩き痕がナデ消されずに残され、一方は窯中でよく火がまわり、赤く焼締めた様子で、もう一方は肩から胴の中程にかけて自然釉が掛かっている。口縁部に二箇所の欠けがあるものの、口縁は外反し、玉縁上に仕上げられている。猿投窯は尾張国南部（現在の愛知県瀬戸市・豊田市周辺）の猿投山西南麓を中心に広がる古窯群で、古墳時代に須恵器生産が始まり、その後、灰釉陶器や緑釉陶器、そして山茶碗と、古墳時代から鎌倉時代にかけ、時代に合った製品を脈々と生産してきた窯である。		
（2）寄贈（172 件） **＜絵画＞（6 件）**			
1　名称	芙蓉小禽図　元信印（ふようしょうきんず）	品　質	紙本墨画
		員　数	1 幅
時　代	室町時代　16 世紀	寸 法 等	縦 91.6 ㎝　横 41.2 ㎝
作品概要	かつて岡山の池田侯爵家に伝来したもので（大正８年の同家売立目録所載）、画面左下方には狩野派を繁栄に導いた二代目・元信（1477～1559）の壺形印１顆が施されている。筆法は真・行・草の画体のうちの行体手法に依拠しており、簡潔ながらも的確な筆遣いと丁寧な墨のグラデュエーションによって、小禽の動きや芙蓉の瑞々しさ、生命感が見事に描出されている。元信真筆か弟子の作かの判断は難しいものの、きわめて上質な元信様花鳥図の一例として注目されよう。		
2　名称	雑画巻（ざつがかん）	品　質	紙本墨画
作 者 等	大西酔月筆	員　数	1 巻
時　代	江戸時代　18 世紀	寸 法 等	29.1cm ×834.2 ㎝
作品概要	大西酔月（？～1772）は、呉春の最初の師として知られる画家。明和 5 年（1768）版『平安人物志』において画家の筆頭に挙げられ、当時は京で人気を誇ったことがうかがわれるものの、作品・資料ともに乏しく不明な点が多い。本作には山水・花鳥などの図が断続的に描かれており、弟子等に与えるためにつくられた絵手本と見られる。その画風は室町時代の古様な漢画を学んだ形跡が顕著で、多岐にわたる主題を描く優れた筆墨も含め、作例の少ない酔月の新出作として貴重である。		
3　名称	巌頭渡子図　（がんとうとうしず）	品　質	紙本墨画
作 者 等	松花堂昭乗筆 江月宗玩賛	員　数	1 幅
時　代	江戸時代　17 世紀	寸 法 等	28.0cm ×53.5 ㎝
作品概要	唐時代の僧・巌頭が、法難を避け渡し守に身をやつした姿を描いている。小品だが松花堂昭乗（1582～1639）の典型的な道釈人物図であり、諧謔味のある面貌描写に優れる。落款として捺された「惺々翁」白文瓢印は、船上に置かれた酒瓢箪を意図したものか。江月宗玩の賛は、孤篷庵本『欠伸稿』に「巌頭」の題で画賛として収録される。		
4　名称	西王母献桃図（せいおうぼけんとうず）	品　質	絹本着色
作 者 等	狩野栄信筆	員　数	1 巻
時　代	江戸時代（19 世紀）	寸 法 等	105.3cm ×176.0 ㎝
作品概要	西王母が漢の武帝に仙桃を献じたという伝説を描いている。モチーフの精緻な描写、ことに人物の面貌表現に優れる。掛幅としては稀に見る巨大な画面は特別な制作契機を想定させ、いずれかの大名家からの発注であったことは疑いない。狩野栄信（1775～1828）は木挽町狩野家の第 8 代。文化 13 年（1816）に法印に叙任されて以降、栄信晩年の代表作に加えられるべき大作である。		
5　名称	群仙図屏風（ぐんせんずびょうぶ）	品　質	紙本金地着色
作 者 等	長谷川等雋筆	員　数	6 曲 1 双
時　代	江戸時代（17 世紀）	寸 法 等	各 163.0cm ×361.4 ㎝
作品概要	長谷川等雋（生没年不詳）は等伯の流れを汲む長谷川派の画家で、寛永年間頃を中心に活躍したとされるが、遺作も多くは知られておらず詳しい		

	ことはわかっていない。右隻には、呂洞賓や鍾離権、左隻には蝦蟇・鉄拐仙人等が描かれており、八人の仙人を描く八仙図のようだが、図像に一部混乱が見られ、全ての仙人を特定することは難しい。		
6　名称	四季花鳥図屏風（しきかちょうずびょうぶ）	品　質	紙本金地着色
作 者 等	長谷川等伯筆	員　数	6曲1双
時　代	江戸時代（18世紀）	寸 法 等	各82.6cm ×355.4cm
作品概要	狩野永敬（1662～1702）は、京狩野第四代。高田敬輔の師であり、そのアクの強い表現は曾我蕭白へと繋がる。本作は太く力強い輪郭線等に永敬の様式が顕著にあらわれており、18世紀京都画壇の先駆けとなる表現が見られる点で重要である。		
＜金工＞（51件）			
7-57 名称	七宝面盆（しっぽうめんぼん）など	品　質	銀、銅、鉄など
作 者 等		員　数	51件
作品概要	寄贈を受けた金工作品は主として茶道に使用された道具類である。茶釜では奥平了保（（おくだいらりょうほ）や大西浄雪（おおにしじょうせつ）など江戸後期の著名な釜師の作がある。茶道の宗家である千家の茶器調度製作を担った千家十職（せんけじっそく）の金工家、中川浄益（なかがわじょうえき）家の作品も多く、主に江戸後期から明治期にまたがる4～10代の手がけた水指（みずさし）、蓋置（ふたおき）、酒器などがある。珍しいところでは平安時代後期の経塚に埋納された経筒の出土品を花入（はないれ）として転用したものがある。また本邦で菓子器として使われたとみられる七宝面盆は中国・明時代の作であるが、同種の新出作例として注目される。		
＜陶磁＞（101件）			
58　名称	鉄釉狛犬（てつゆうこまいぬ）	品　質	施釉陶器
指　定	重要美術品	員　数	1対
時　代	室町時代（15世紀）	寸 法 等	高17.1cm（阿形）、18.7cm（吽形）
作品概要	瀬戸窯で焼かれた陶製の狛犬一対である。全体に黒色に見えるものの、ろうそく等に近くにあったのか、煤の付着によるもので、本来は灰釉の鮮やかな緑色をしている。細かな欠損はみられるものの、大切に守り伝えられてきたことがわかる。愛知県春日井市の社家に伝わってきたものである。鎌倉時代から室町時代にかけて、神社の守護として、東海地方を中心に数多くの陶製狛犬が作られ、各地に奉納されているが、本作もそうしたもののーつと思われる。		
59　名称	鉄釉肩付茶入（てつゆうかたつきちゃいれ）	品　質	施釉陶器
作 者 等		員　数	1口
時　代	17世紀	寸 法 等	高8.3cm　口径2.9cm ×3.0cm　底径3.5cm ×3.6cm
作品概要	瀬戸窯で焼かれた肩衝茶入である。形が張り、胴部中ほどに段差があり、筥目を強調させるなど、その形状から織部茶入を模したものであるが、小振りな形状をしており、元和・寛永以降に作られたものと思われる。金襴の仕覆が添っている。		
60　名称	灰釉広口壺（かいゆうひろくちつぼ）	品　質	施釉陶器
作 者 等	加藤春岱・東三郎合作	員　数	1口
時　代	19世紀（江戸時代～明治時代）	寸 法 等	高15.2cm　口径10.6cm ×10.4cm　底径7.7×7.4cm
作品概要	灰釉の青色が鮮やかな瀬戸焼の広口壺である。塗蓋が添っており、水指として用いられたものである。幕末の名工の加藤春岱（1802～1877）と東三郎（詳細不明）との合作とされる。箱に記された由緒によれば、奥州柳川焼（福島県伊達市内か）を模したものである。		
61　名称	亀香炉（かめこうろ）	品　質	施釉陶器
作 者 等	氷見巌作	員　数	1口
時　代	文政3年（1820）	寸 法 等	高16.6cm　幅51.1cm ×31.0cm
作品概要	甲羅から数珠藻がみえる亀形の香炉である。頸部と甲の一部が別作りとなっている。あたかも鼈甲であるかのように、飴釉を施している。とても精緻な作りをしている。腹部の彫銘によれば、石陽三階山下（島根県浜田市三階町か）の氷見巌（詳細不明）が文政3年、59歳の時に彫りだしたものとわかる。		
62～158 名称	青磁貼魚文装飾器台鉢（せいじちょうぎょもんそうしょくきだいばち）など	時　代	土器、陶器、磁器
作 者 等	明時代、清時代、江戸時代～昭和時代（17～20世紀）	員　数	97件
作品概要	大阪府貝塚市商家に伝わった文化財から、「青磁貼魚文装飾器台鉢」、「青花松鹿文皿」など、明時代から清時代にかけての中国磁器の碗、皿、鉢といった食膳具をはじめ、「金彩色絵染付獅子火焔宝珠文植木鉢」、「黄交趾写花文蓋付小碗　永楽得全作」、「金彩緑釉桐文火鉢　吉向十三軒作」などの肥前磁器や京焼等の関西の諸窯、作家の作品など、幕末から昭和にかけての商家の生活様式を把握できる陶磁器97件。		
＜漆工＞（8件）			
159 名称	松鶴蒔絵十種香箱（しょうかくまきえじゅっしゅこうばこ）	品　質	木製　漆塗　蒔絵　銀　鼈甲　象牙　ほか
作 者 等		員　数	1合
時　代	江戸時代	寸 法 等	縦24.6cm　横21.0cm　高15.7cm
作品概要	黒漆地に精緻な蒔絵で水辺の松、芦、岩、鶴などと雲間の月を表した二段重箱形の十種香箱。内面は身の内側にいたるまで梨地に金銀薄肉高蒔絵、銀金具に金付描で梅花を散らす。上段には銀地の記録板、琴と筆箪や琵琶を蒔絵した長方形の箱2合と、火道具・香割道具を包んだ畳紙2包みを収め、琴の箱には銀葉盤と香札箱を、琵琶の箱には折据と香割台を収める。下段には木地蒔絵の札筒、重香合、銀葉箱、炭団箱（試香盤付）、聞香炉、香包、香筋建など、組香に必要な道具が揃う。		
160～166 名称	竹根手付花籠（たけねてつけはなかご）など		
時　代	江戸時代～大正時代	員　数	7件
品　質	竹製　木製　漆塗　蒔絵　銀　胴　錫　鉄製漆焼付け　石　砂　羽　ほか		
作品概要	大阪府貝塚市の元廻船問屋、廣海家から継続的に寄贈を受けているコレクションの一部。大阪の籠師、初代早川尚古斎（1815-97）に竹の根を送って作らせた特注品の花籠をはじめ、十代中村宗哲（1862-1926）が作った精緻な利休形朱塗引盃及び台、駒沢利斎作とされ十代楽吉左衛門旦入作の行灯皿が附属する精巧な竹製行灯、江戸時代の中村宗哲作とされる黒漆塗の短檠、江戸時代の盆石道具、西村五雲(1877-1938)が絵を描いた桐地松竹梅彩絵手筥や明治時代の婚礼調度の一部など、幕末近代の商家の暮らしを伝える優品7件。		
＜染織＞（6件）			
167～172 名称	浅葱地万暦緞子帛紗（あさぎじばんれきどんすふくさ）など		
作 者 等		品　質	絹、苧麻
時　代	江戸～昭和時代	員　数	6件
作品概要	大阪府貝塚の豪商である廣海家から寄贈された、江戸から昭和時代にかけて、実際に使用された染織品群である。茶道具のほか、婚礼衣裳や祝着など、人生における通過儀礼に着用する衣服や、日常に用いる社交着などから成る。多くは近代の作品であり、染織品をめぐる技術革新が進んだ時代の衣生活の実像を示す。着用者のみならず、作品をとりまく背景が判明するこれあの作品は、履歴を失って流通する多くの作品を理解するうえで、重要な意味を有している。		

【奈良国立博物館】（計 7 件）

（1）購入（6 件）

＜絵画＞（3 件）

1　名称	絹本著色阿弥陀聖衆来迎図（けんぽんちゃくしょくあみだしょうじゅらいごうず）		
時　代	鎌倉時代　13～14 世紀	員　数	1 幅
品　質	絹本著色　掛幅装	寸 法 等	縦 123.1 ㎝　横 84.0 ㎝
作品概要	阿弥陀三尊と二十五菩薩による来迎を描く阿弥陀聖衆来迎図の優品。聖衆と共に宝楼閣（七宝宮殿）や無数の化仏が表されることから、『観無量寿経』を典拠とした「上品上生」による来迎を表したものと分かる。上品上生の阿弥陀来迎図は、法然周辺で描かれ熊谷直実の臨終本尊とされた京都・清涼寺の「迎接曼荼羅」（重要文化財・13 世紀初頭）を嚆矢とし、本品もその例に連なる。精細な諸尊の描写、バリエーションの多い截金文様、透き通った天衣や光背の表現などの表現様式から、本品は鎌倉時代後期の貴重な作例とみなされる。奈良県宇陀市大宇陀の大蔵寺（平安前期創建）に長く伝来した品で、出所の明らかな優品としても価値が高い。奈良県指定文化財。		

2　名称	絹本著色両界曼荼羅（けんぽんちゃくしょくりょうかいまんだら）		
時　代	鎌倉時代　14 世紀	員　数	2 幅
品　質	絹本著色　掛幅装　一副一鋪	寸 法 等	胎蔵界：縦 148.9 ㎝　横 128.8 ㎝、金剛界：縦 149.2 ㎝　横 129.9 ㎝
作品概要	鎌倉時代に遡る極めて稀少な絹本著色の本格的な両界曼荼羅である。空海在世中に制作された高雄曼荼羅（神護寺本）の図像を踏襲する意識が強く、各尊の姿勢や衣文線など細部表現まで共通し、尊像数もほぼ一致している。弘法大師ゆかりの密教寺院、大蔵寺（奈良県宇陀市）に安置される根本画象を意識して制作されたものと考えられる。使用された絹は横幅 130 ㎝近い大幅で、経糸が細く緯糸が太い織りの特徴は鎌倉時代末期頃の作例に多く、本品の箱書墨書に「應永三年」（1396）とあること等から本品の制作年代を 14 世紀に置くことができる。		

3　名称	絹本著色聖徳太子絵伝（けんぽんちゃくしょくしょうとくたいしえでん）		
時　代	南北朝時代　14 世紀	員　数	2 幅
品　質	絹本著色　掛幅装　二副一鋪	寸 法 等	第 1 幅：縦 157.8 ㎝　横 86.5 ㎝、第 2 幅：縦 157.2 ㎝　横 86.7 ㎝
作品概要	聖徳太子の生涯の事績を絵画化し、2 幅の掛幅にまとめたもの。聖徳太子絵伝は太子の七百年遠忌にあたる元亨元年（1321）前後に多く制作されたとみられるが、本品はその時代に遡る貴重な古本である。メトロポリタン美術館所蔵品に構図や配置が共通しており、おそらく同一系統の工房（南都絵所松南院座が想定される）で制作されたと考えられる。大蔵寺（奈良県宇陀市）に伝来してきた作品で、中世南都の聖徳太子信仰の姿を現在に伝える作例として貴重である。		

＜彫刻＞（3 件）

4　名称	木造地蔵菩薩立像（もくぞうじぞうぼさつりゅううぞう）		
時　代	鎌倉時代　13 世紀	員　数	1 躯
品　質	檜材　割矧ぎ造り　彩色・截金	寸 法 等	像高 81.1 ㎝
作品概要	鎌倉時代の地蔵菩薩像で、慶派ないし善派の力量ある仏師の作品である。制作当初の表面仕上げを多く残しており、特に質感のある衣文表現や、截金と彩色を交えた着衣文様などから 13 世紀前半に遡ると推定される。腰を左方に強く捻る姿の地蔵菩薩像は大変特徴的で、僅か 1 件の類例が知られているのみであり、研究史上も見逃せない作例である。		

5　名称	木造毘沙門天立像（もくぞうびしゃもんてんりゅうぞう）		
時　代	鎌倉時代　13 世紀	員　数	1 躯
品　質	檜材　寄木造り　彩色・截金	寸 法 等	像高 54.8 ㎝
作品概要	新発見の毘沙門天像の優品。忿怒相をとらない運慶様の毘沙門天像の一作例とみられ、鎌倉時代の慶派周辺の仏師による制作と考えられる。端正で写実的な面貌、均整のとれた姿態、諧謔味のある二体の邪鬼など、高い技量がうかがえる。表面彩色や截金文様、そして邪鬼・岩座まで当初のものであり、保存状態も良い。毘沙門天像のきわめて貴重な作例である。		

6　名称	木造役行者倚像（もくぞうえんのぎょうじゃいぞう）		
時　代	鎌倉時代　弘安 9 年（1286）	員　数	1 躯
品　質	檜材　割矧ぎ造り　古色	寸 法 等	像高 76.9 ㎝　坐高 51.2 ㎝
作品概要	胎内銘により制作年作者が判明する現存最古の役行者像。作者である大仏師慶俊は、南都で活動した善派の流れにある仏師で、まとまりの良い上品な作風がその技量の高さがうかがえる。かつて存在した木札墨書によって、享保 6 年（1721）には大峯山上にあったことが分かり造像当初から金峯山寺に伝来したとも推測される。昭和 33 年（1958）より永く当館に寄託されており、山岳信仰の展示には必ず活用されてきた名品である。		

（2）寄贈（1 件）

＜彫刻＞（1 件）

1　名称	銅造如来坐像（どうぞうにょらいざぞう）		
時　代	中国・五胡十六国時代　4～5 世紀	員　数	1 躯
品　質	銅造　鍍金	寸 法 等	像高 8.8 ㎝　像高 6.1 ㎝
作品概要	中国で五胡十六国時代に造られたいわゆる古式金銅仏。肉髻は大きめで顔の輪郭は四角く、目鼻立ちは大ぶりに作られる。肩を張り体躯は量感を備え、袈裟を通肩にかける。この種の古例はたいへん貴重であり、当館の中国金銅仏の中でも最古の作品となる。		

【九州国立博物館】（計 295 件）

（1）購入（34 件）

＜絵画＞（10 件）

1　名称	南蛮屏風（なんばんびょうぶ）		
時　代	江戸時代・17 世紀半ば	員　数	6 曲 1 隻
品　質	紙本金地著色	寸 法 等	縦 154.8cm　横 348.4cm
作品概要	日本の港町に黒船と南蛮人が到着する様を描く。その構図や図像は狩野山楽筆「南蛮屏風」（サントリー美術館所蔵）の右隻を踏襲しながら、さらに簡略化が進んでいる。波や人物の顔貌には補筆があるが、その下に見える波を表わす筆線は勢いがあり、手馴れた画家による作例であること示す。本図は東京国立博物館本や神戸市立博物館 B 本（談山神社旧蔵本）などの右隻とも共通する。そのため、この構図が禁教・鎖国後も根強く受容され、南蛮屏風の図様が、オランダとの交易の様子を表わす受け皿となっていた可能性を示唆する。		

2　名称	許由巣父図屏風（きょゆうそうほずびょうぶ）	品　質	紙本墨画
作 者 等	曾我蕭白筆	員　数	2 曲 1 隻
時　代	江戸時代・18 世紀	寸 法 等	本紙：縦 156.7cm　横 166.0cm　表具：縦 180.5cm　横 190.0cm
作品概要	個性的な画風で注目される江戸中期の絵師、曾我蕭白の新出作品。中国古代の堯帝が許由の噂を聞いて彼に帝位を譲ろうと申し出るが、許由は、「汚らわしいことを聞いた」と潁水の流れで耳を洗い、同じ申し出を受けた巣父は、許由が耳を洗うのを見て「汚れた水を牛に飲ませるわけにはいかぬ」と牛を引き返させたという。野卑な人物の表情、独特の目つき、画面のほとんどをうめつくす圧倒的な描写、明暗の強いコントラストが生み出す幻想的なムードは蕭白特有で、強烈な印象を観るものに与える。一方で、極細の墨描や繊細なグラデーションなど細部描写は、抜群にすぐれている。蕭白 30～33 歳頃の作と推定される。数少ない最初期の力作として貴重。		

3　名称	桃李園夜宴・西園題石図屏風 （とうりえんやえん　せいえんだいせきずびょうぶ）	品　質	紙本墨画淡彩
作者等	呉春筆	員　数	6曲1双
時　代	江戸時代・18世紀	寸法等	本紙：(各)縦166.2cm　横372.0cm　表具：(各)縦172.0cm 横386.0cm
作品概要	四条派の祖、呉春の新出の大作。右隻に唐の李白が催した花見の宴、左隻に宋の文人らが王詵の西園に会した「西園雅集」中、米芾が岩壁に書を認める場面が描かれる。リズミカルな岩や樹木の筆致が躍動感を生み、透明感のある淡い藍・緑・代赭による彩色が華やかさをかもし出している。人物や卓上の器物の細墨線による描写は実に丁寧で繊細。師の与謝蕪村ゆずりの南画風だが、現実味あふれる描写、画面の明るさ、洗練された気品は、呉春の持ち味である。落款の書形や画風から、妻や父を相次いで亡くした傷心を癒すべく池田に移住していた呉春の「池田時代」、30-38歳頃の作と看做せる。最充実期の力作であり、呉春研究上、注目すべき作品である。		

4　名称	地蔵菩薩霊験記絵巻（じぞうぼさつれいげんきえまき）	品　質	紙本著色
時　代	鎌倉時代-南北朝時代・13～14世紀	員　数	1巻
寸法等	縦36.0cm　横347.5cm（第1紙58.2cm、第2紙58.7cm、第3紙39.3cm、第4紙18.1cm、第5紙59.1cm、第6紙3.5cm、第7紙52.2cm、第8紙58.1cm）		
作品概要	地蔵の霊験譚をあつめた宋代の常謹撰『地蔵菩薩霊験記』（端拱2年〈989〉成立）に収載された説話を絵画化した絵巻物。詞書は原文をほぼ忠実に和文化したもので、読み下しに近い部分も見られる。本絵巻と同じテキストを典拠とする絵巻物として、群馬・妙義神社本（重要文化財）、東京国立博物館本など鎌倉時代後半の作例が伝存しており、この説話集の絵画化がしばしば行われていたことが分かる。それらと画風や色遣いが共通することから、本絵巻も鎌倉時代後半～南北朝時代の作と推測される。中世における地蔵信仰の隆盛を明らかに示す貴重な遺例であり、かつ鎌倉時代以降の同主題の作例の展開を考える上でも欠かすことができない作品として、その稀少性は極めて高い。		

5　名称	出山釈迦図（しゅっさんしゃかず）		
時　代	南北朝時代・14世紀	員　数	1幅
品　質	絹本墨画	寸法等	本紙：縦80.4cm　横35.2cm　表装　縦161.1cm　横48.1cm 軸長53.3cm
作品概要	苦行を終えた釈迦が、修行の場所である山を出る姿を表わす。この主題は成道会の本尊として流布したが、鎌倉・南北朝時代にさかのぼる現存作例は少なく、本図は貴重な初期水墨画の一つに数えられる。僧侶の顔貌など、抑制の効いた的確な描写が見所である。		

6　名称	彩釈教三十六歌仙絵断簡　満誓（しゃっきょうさんじゅうろっかせんえだんかん　まんぜい）		
時　代	南北朝時代・14世紀	員　数	1幅
品　質	紙本墨画淡彩	寸法等	本紙：縦28.3cm　横19.3cm　表装：縦132.0cm　横38.0cm 軸長42.6cm
作品概要	平安時代、藤原公任によって歌仙36人とその和歌を載せた『三十六人撰』が撰述されると、彼らを特に三十六歌仙として尊び、その絵画化が行われるようになった。本図は三十六歌仙のバリエーションの一つで、僧侶36人を主題とする「釈教三十六歌仙絵」の断簡。東京国立博物館の残欠本（重要文化財）によって、南北朝時代・貞和3年（1347）、真言僧・栄海（1278～1347）が撰したことが分かる。像主の満誓は、奈良時代、大宰府観世音寺の創建にも尽力した人物。本図を含む「釈教三十六歌仙絵」は、三十六歌仙絵の人気ぶりと受容層の広がりを示す好例である。		

7　名称	宗義調像（そうよししげぞう）	品　質	紙本著色
作者等	画：如雲老人筆　賛：三玄宗三筆	員　数	1幅
時　代	安土桃山～江戸時代・16-17世紀	寸法等	本紙：縦75.2cm　横45.6cm　表具：縦160.8cm　横58.9cm 軸張64.2cm
作品概要	中近世の対馬の領主・宗氏（対馬宗家）の18代当主・宗義調（1532-88）の肖像画。侍烏帽子をかぶり、黒の直垂を着して、小紋高麗縁の畳に胡座する。義調は「偽使」を運用して朝鮮王朝との通交権を回復させ、領国経営を安定・強化させた当主で、36歳の若さで隠居した後も、没するまで実権を握った。義調の肖像画は、別史料により画像賛のみ知られていたが、本像の画像賛はそれと同文であり、確実な宗義調像として初めて確認された作品である。		

8　名称	花鳥図押絵貼屏風（かちょうずおしえばりびょうぶ）	品　質	紙本墨画
作者等	伊藤若冲筆	員　数	6曲1双
時　代	江戸時代・18世紀	寸法等	本紙：各図　縦127.7cm　横51.5cm 折畳時：縦171.5cm　横64.0cm　厚11.2cm
作品概要	平成28年に新たに紹介された若冲の屏風。各扇に種々の動植物を水墨で描く若冲の屏風が数セット紹介され、中に宝暦9～11年（1759～61、若冲44～46歳）の年記をもつ屏風があることから、本屏風の制作期も若冲40代半ば頃と推定される。85年におよぶ若冲の生涯の中では、ごく早期の作であり、工房作の多い晩年作とは一線を画する。彩色の「動植綵絵」30幅と同時期の作であり、若冲が着色画と並行し水墨画においても実験的な造形を試みていたことを証する。きびきびとした墨描、独特のシャープな形態、「筋目書き」など斬新な水墨表現など、若冲ならではの造形実験を示す優品で、先行する鶴亭など長崎派や黄檗絵画からの影響も窺える。		

9　名称	鳳凰牡丹図（ほうおうぼたんず）	品　質	絹本著色
作者等	孫億筆	員　数	1幅
時　代	中国　清時代・康熙30年(1691)	寸法等	本紙：縦67.5cm　横100.1cm 表具：縦173.0cm　横105.3cm　軸張111.8cm
作品概要	中国・清時代に福州（福建省）で活躍した花鳥画家・孫億の比較的早期の基準作。色鮮やかな絵具や金泥を用いて花鳥を細緻に表わす。孫億は福州に留学した琉球絵師の師でもあり、本図は両者の関係を具体的に説明する上で大きな意義を持つ。		

10　名称	仙山観花図（せんざんかんかず）	品　質	絹本着色
作者等	円山応挙筆・高芙蓉賛	員　数	1幅
時　代	江戸時代・安永7年(1778)	寸法等	本紙：縦55.6cm　横114.3cm 表具：縦160.0cm　横133.0cm　軸張り140.0cm
作品概要	円山応挙46歳時の大作。賛は、画の６年後、池大雅の親友である高芙蓉が、没する前月に書している。賛では、応挙の水の表現がいかに素晴らしいか、109字を費やして切々と賛美。実際、画中には滝、渓流、蛇行して流れ来る川、近景を横断する幅広の川といった具合に、様々な水の流れが設定され、藍で彩った水面に淡墨で波を丹念に描いて、浅深や緩急など水の変化を見事に表わしている。写生を重視する応挙らしい表現である。近大遠小、近明遠渋の手法を用いた遠近感の表出、安定した絵画空間、雲霞によるゆったりとした空間構成、桃花咲き乱れる中、釣りや歓談する文人たちの精細な描写など、応挙の高度な画技をみせる優れた作品である。		

＜書跡＞（6 件）			
11　名称	道号頌「松山」（どうごうげ「しょうざん」）	品　質	紙本墨書
作 者 等	清拙正澄筆	員　数	1 幅
時　代	南北朝時代・建武元年（1334）	寸 法 等	本紙：縦 30.6cm　横 60.3cm 表具：縦 116.0cm　横 72.8cm　軸長 77.4cm
作品概要	素紙に楷書に近い行書体で、「松山」という道号にちなんだ偈を清拙が揮毫したもの。全 9 行。巻上げた時の本体外側上端に、江戸時代の大徳寺住持・玉舟宗璠の筆になる題箋「澄清拙真蹟／松山頌(白文方印『宗璠』)」が貼られる。その書は、楷書の意が濃厚な行書体で、文字相互で連綿をせず、文字の字間と行間を広めにとり、悠然と紙面に収まる。3 行目「蒼」や 6 行目「寒」の右払い、5 行目「不」の特徴的な字姿などは他の清拙墨蹟と共通しており、本作品も清拙正澄の基準となる墨蹟と考えられる。		
12　名称	法語屏風（ほうごびょうぶ）	品　質	紙本墨書
作 者 等	即非如一筆	員　数	6 曲 1 隻
時　代	江戸時代・17 世紀	寸 法 等	本紙：(各扇) 縦 49.2cm　横 122.7cm 折畳時：縦 155.3cm　横 62.5cm　厚 10.5cm
作品概要	即非如一が師の隠元の図像賛を 1 紙あたり 2 行を基調に揮毫したものを、六曲一隻の屏風の各扇に貼って仕立てたもの。その書は、薄めに磨った墨を筆に含ませ、行草書体で自在に揮毫される。「黄檗の三筆」の隠元・木庵と即非を比べるとき、こと技量面では即非が傑出している。その一例として第 6 扇の「月」字の最終画のように、素速い運筆で線条を紡錘形に為す筆遣いは即非の遺墨に特徴的な筆致であるが、こうした急峻で歯切れのよい筆致を断続的に繰出すところや、本作品でも行末で乱れがない文字配置などに、即非の高い書技を見てとることができる。		
13　名称	偈頌「春」（げじゅ「しゅん」）	品　質	紙本墨書
作 者 等	木庵性瑫筆	員　数	1 幅
時　代	江戸時代・延宝 3 年(1675)	寸 法 等	本紙：縦 97.9cm　横 39.5cm 表具：縦 138.8cm　横 100.9cm　軸長 106.0cm
作品概要	「春」字を大書した所謂「置字」の形式で、8 行にわたって行草書体で偈頌と落款を揮毫したもの。筆にたっぷりと墨をふくませ、起筆に滲む箇所も生じさせながら、勢いよく一気呵成に筆を運んでいる。なお、所蔵者により表具を締直ししたばかりで、保存状態はたいへん良好である。春がめぐると人は寿命を増し、万物が充実して福が門に満つるという内容で、いわば春の賛歌である。その書は、大らかさにあふれ、朗らかで明るい書風を展開する。揮毫の目的や背景は不詳だが、木庵の帰依者か黄檗禅の支援者のために書かれた可能性があろう。隠元や即非の墨蹟と比べて木庵の墨蹟は、天真爛漫な明るい書風が特徴の 1 つに挙げられる。		
14　名称	明月記断簡 建暦三年二月十一日・十二日条（めいげつきだんかんけんりゃくさんねんにがつじゅういちにち・じゅうににちじょう）	品　質	紙本墨書
作 者 等	藤原定家筆	員　数	1 幅
時　代	鎌倉時代・建暦 3 年(1213)	寸 法 等	本紙：縦 28.5cm　横 35.4cm 表具：縦 108.5cm　横 47.2cm　軸張り 52.3cm
作品概要	『明月記』は、鎌倉時代前期の公卿・歌人で、歌学の大成者として後世に大きな影響を与えた藤原定家(1162-1241)の日記。その建暦 3 年（1213）2 月 11 日・12 日条の自筆本断簡である。11 日条は定家の日吉大社参詣についての記録。定家は生涯にわたって日吉社を信奉して盛んに参詣に訪れており、本条にはその具体的な様子が記される。12 日条は、定家の歓喜光院仏事への参仕についての記録。歓喜光院は美福門院(1117-60)御願の御堂であり、八条院(1137-1211)に伝領され、建久 5 年(1194)以降は八条院の御所となった。この院司が定家であった。自筆本である本作品の両日条は、刊本等と一部異同があり、特に 11 日条については、これまで同年 2 月 10 日条として伝わっていたものである。		
15　名称	紺紙金字法華一品経　普門品（こんしきんじほけいっぽんぎょう　ふもんぼん）		
時　代	平安時代・12 世紀	員　数	1 巻
品　質	紺紙金字	寸 法 等	本紙：縦 26.8cm　全長 282.3cm（表紙 22.5cm、第 1 紙 49.0cm、第 2 紙 51.0cm、第 3 紙 50.8cm、第 4 紙 51.1cm、第 5 紙 48.4cm、軸付 9.5cm）
作品概要	紺紙金字、巻子装。 紺で染めた料紙 6 紙に銀界を引き、金泥を用いて和様の楷書体で『法華経普門品』を書写した装飾経。本作品は、高野山に伝来した「紺紙金字法華一品経」（和歌山・金剛峯寺所蔵、28 巻、重要文化財）から早くに分かれた、僚巻で未指定の「普門品」である。文字は整斉のとれた穏和な楷書で、首尾一貫して書風に乱れがなく、筆者が高い技量の持ち主だったと想像される。表紙・見返しを荘厳する仏教絵画、題箋・八双・軸首を繊細かつ華麗に装飾する金具など、平安時代 12 世紀の多彩な美意識を総合芸術的に凝縮した作品とみることができる。		
16　名称	天海版妙法蓮華経　普門品（てんかいばんみょうほうれんげきょう　ふもんぼん）		
時　代	江戸時代・天保 4 年(1647)刊	員　数	1 帖
品　質	折本	寸 法 等	縦 28.8cm　横 9.7cm　高 1.1cm
作品概要	徳川家康、秀忠、家光の 3 代にわたって幕政に関与した、天台僧の天海の発願により、江戸・東叡山寛永寺にて開版された一切経。この一切経を天海版一切経と称す。底本は川越の喜多院所蔵の南宋思渓版で、元版で補っている。寛永 14 年(1637)に第 1 巻を刊行し、慶安元年(1648)に完成した。天海版一切経は、日本における初めての版本による大蔵経として著名である。木活字による印刷で、現在、天海版一切経に使用された木活字が多数現存している(重要文化財「天海版木活字」(寛永寺蔵))。近世初期に盛行した活字印刷には、伏見版、駿河版、宗存版があり、この天海版一切経は古活字版の最後を飾る大事業であった。本作品はその印刷の実態と技術の水準を示す例として歴史的価値が高い。		
＜金工＞（3 件）			
17　名称	輪宝（りんぽう）	品　質	銅・鋳造、鍍金
指　定	重要美術品	員　数	1 口
時　代	鎌倉時代・13 世紀	寸 法 等	径 11.6cm
作品概要	外輪の八方に独鈷杵の先端を突き出した両面式の八鋒輪宝。輪の中心部の車軸にあたる轂は、開弁付きの八葉蓮華形で、八花状を呈する蓮肉には中央に 1 つ、周囲に 8 つの蓮子を打つ。轂から放射状に伸びる鋭利な輻は 8 本からなり、それぞれに花弁と藥を根元にめぐらす。輻の先を受ける輞は、二線の鈕とやや匙面をとった 64 弁からなる列弁帯であらわし、外縁から輻の先が突出する。全体に鋭く薄手に仕上げており、鋳上がりが極めてよく、鍍金の残りも良好である。同種の現存する輪宝のなかでも最も古様かつ屈指の作である。		
18　名称	五鈷杵（ごこしょ）	品　質	銅、鋳造、鍍金
指　定	重要美術品	員　数	1 口
時　代	鎌倉時代・13-14 世紀	寸 法 等	総長 18.6cm　把長 7.7cm　鈷張 6.1cm
作品概要	空海請来組法具に範をとった請来様の五鈷杵。把の中央部は十六面の切子形とし、各面中央にやや大ぶりな円文を打つ。切子形の両端は刻みを縦筋にめぐらして藥をあらわし、鐶を立てた八葉の蓮弁帯は、中央で三条八角の鈕で約す。鈷は独鈷の四方に脇鈷をつけた 5 本からなり、中鈷は下方に抉りを入れた八面錐形をなす。また、脇鈷は中央には鐶をたて、鐶上 3 箇所に月形を設ける。やや白味を帯びた鍍金は厚く細部までまわり、面取りは歪みがなく緊張感がある。請来様法具の展開を知る上で好個の作例である。		

19　名称	五鈷鈴（ごこれい）		
時　　代	鎌倉時代・13 世紀	員　　数	1 口
品　　質	銅・鋳造、鍍金	寸 法 等	総高 17.5cm　口径 7.5cm
作品概要	鈷・把部と鈴身部を別鋳とする五鈷鈴。鈷は、把上より垂直に伸びる中鈷と、逆刺を伴う 4 つの脇鈷からなる五鈷形をなす。把の鬼目は二重睒で 4 ヶ所に鋳出し、鬼目の上下に配した蓮弁帯は、蕊と連珠を伴う間弁付重圏八葉蓮華とし、把上部は素文の 2 紐で約す。別造りの鈴身部は、笠形上に間弁付重圏八葉蓮華をあらわし、弁先にやや大きめの連珠をめぐらす。また、連珠より下の胴部には、2 条の細い隆帯と、その上下に子持三条帯をめぐらす。なお、鈴身の内側には環を設け、舌を吊り下げる。鍍金は剥げが目立つものの、目立つ傷もなく鋳上がりも非常によい。		
＜陶磁＞（1 件）			
20　名称	色絵象図八角皿（いろえぞうずはっかくざら）	品　　質	色絵磁器
作 者 等	伊万里（有田）	員　　数	1 枚
時　　代	江戸時代・17 世紀中葉	寸 法 等	高 4.8cm　口径 26.5cm　底部 4.8cm
作品概要	口縁と見込の底部を八角形に成形し、高めの高台を付けた色絵磁器。見込に円形の窓を設け、その内側に黒地緑彩で象文をあらわし、その周囲には花文と思われる黄・黒で描いた円形の文様で埋め尽くす。それを囲むように、見込の側面から口縁にかけて、各稜に紫色の牡丹花を中心に唐草を青の上絵具であらわした牡丹唐草文を配する。高台内に呉須の一重圏線を施す。17 世紀中葉に作られた伊万里焼の初期の色絵磁器であり、象の文様をあらわした製品の初出の可能性が高い貴重な作品である。山辺田窯または猿川窯の製品の可能性が考えられる。		
＜考古＞（10 件）			
21　名称	車輪石（しゃりんせき）		
時　　代	古墳時代・4 世紀	員　　数	1 点
品　　質	緑色凝灰岩製	寸 法 等	長径 13.3cm　短径 12.6cm　孔径 5.8cm　縁高 0.7cm　孔内壁高 1.1cm
作品概要	車輪石とは、古墳の副葬品の中で、南海に生息するオオツタノハを加工した貝輪を石で模造した腕輪形の石製品で、車輪に見立てて江戸時代に命名された。表面には 24 本の肋条によって匙面を作り出し、裏面は断面をみると中央に向かって緩やかに膨らむ。石材は硬質で淡緑色を呈する緑色凝灰岩であり、石川県片山津産と見られる。富雄丸山古墳とは奈良市南西部に現存する大型円墳で、明治年間に著しい盗掘にあって副葬品が散逸した。本品もその一つの可能性もあるが、出土地の確定にはさらなる類品の発見を待ちたい。		
22　名称	銅製瓔珞付経筒（どうせいようらくつききょうづつ）		
時　　代	平安時代・天永元年(1110)	員　　数	1 合
品　　質	青銅鋳造	寸 法 等	総高 28.4cm　蓋径 12.0cm　高台径 9.6cm
作品概要	青銅鋳造の蓋付の経筒である。蓋は円形笠形で宝珠形の鈕を持ち、ガラス小玉の瓔珞を 4 箇所に垂下する。筒身上半部には 14 行にわたって銘文が刻まれる。本品は大宰府政庁の北東に位置する信仰の山、宝満山麓に造営された経塚出土品である。当地は山岳信仰を考える上で重要な場所であり、銘文から観世音寺僧「観尊（伝燈大法師観尊）」が奉納したことが分かる。また、経片や経軸、平瓦などが伴っており、石室様の埋経施設を造って炭化物が充填されていたものと考えられる。紀年銘から天永元年（1110）の造営と分かる。		
23　名称	三角柱状土製品（さんかくちゅうじょうどせいひん）	品　　質	土製品
作 者 等	伝福島県耶麻郡西会津町　上小島遺跡出土	員　　数	1 点
時　　代	縄文時代・前 3000 年-前 2000 年	寸 法 等	縦 7.0cm　横 6.0cm　高 4.2cm
作品概要	伝福島県西会津町上小島遺跡出土。三角柱状土製品は縄文時代を代表する祭祀具で、本品は上端部を欠失しているが、底面以外は縄文で覆われ、沈線で施文されている。中央には貫通する孔がある。縄文時代中期後半から後期初頭の北陸地方を中心に出土し、関東、東北地方にも分布する。同地域には外形が類似した石製のものも出土する。九州の縄文時代後期から弥生時代初頭には、この石製のものが出土する。縄文時代の西日本と東日本の文化交流を考える上で、たいへん重要な作品である。		
24　名称	三角柱状土製品（さんかくちゅうじょうどせいひん）	品　　質	土製品
作 者 等	伝福島県耶麻郡西会津町　芝草・小屋田遺跡出土	員　　数	1 点
時　　代	縄文時代・前 3000 年-前 2000 年	寸 法 等	縦 4.7cm　横 7.6cm　高 5.8cm
作品概要	伝福島県西会津町芝草・小屋田遺跡出土。三角柱状土製品は縄文時代を代表する祭祀具で、本品は完形で長側面に縄文を施文し、長側面と短側面を沈線で飾る。中央には貫通する孔がある。縄文時代中期後半から後期初頭の北陸地方を中心に出土し、関東、東北地方にも分布する。同地域には外形が類似した石製のものも出土する。九州の縄文時代後期から弥生時代初頭には、この石製のものが出土する。縄文時代の西日本と東日本の文化交流を考える上で、たいへん重要な作品である。		
25　名称	鐸形土製品（たくがたどせいひん）	品　　質	土製品
作 者 等	伝青森県三戸郡南部町大向出土	員　　数	1 点
時　　代	縄文時代・前 2000 年-前 1000 年	寸 法 等	直径 4.2cm　高 5.3cm
作品概要	伝青森県南部町大向出土。釣鐘形の土製品で上端付近に水平方向の穿孔がある。体部は２－３本を１組とした線刻風の細い沈線で直線や曲線を表わしている。鐸形土製品は、東北北部から北海道南部の縄文時代後期前半に盛行する祭祀具である。その起源については、ミニチュア化した壺形土器のように見えるが、中国東北地方からロシア沿海州にかけて分布する金属製鐸の模倣品とみる見解もあり、今後の研究動向が注目される土製品である。		
26　名称	鐸形土製品（たくがたどせいひん）	品　　質	土製品
作 者 等	青森県青森市浪岡舘山出土	員　　数	1 点
時　　代	縄文時代・前 2000 年-前 1000 年	寸 法 等	直径 4.5cm　高 5.3cm
作品概要	青森県青森市浪岡舘山出土。釣鐘形の土製品で上端付近に水平方向の穿孔がある。上端部は面をなすが、半分程度を欠失する。体部の文様は、下端部が水平方向の沈線で区画され、垂直方向に２本の沈線を１箇所、曲線文を５箇所に施している。鐸形土製品は、東北北部から北海道南部の縄文時代後期前半に盛行する祭祀具である。その起源については、ミニチュア化した壺形土器のように見えるが、中国東北地方からロシア沿海州にかけて分布する金属製鐸の模倣品とみる見解もあり、今後の研究動向が注目される土製品である。		
27　名称	土偶（どぐう）	品　　質	土製
作 者 等	伝福島県大沼郡会津美里町　五本松遺跡出土	員　　数	1 点
時　　代	縄文時代・前 2000 年-前 1000 年	寸 法 等	長 7.3cm　幅 3.6cm　厚 2.3cm
作品概要	伝福島県会津美里町五本松遺跡出土。右耳、両乳房、両腕、両脚を欠失するものの、遺存状態は良好な土偶である。頭部は丸顔で扁平、各部を隆帯で表わす。後頭部と腹部に瘤状の突起が認められ、各所に環状の刺突が密に施されている。縄文時代後期には、東日本から土偶や石棒が九州へと伝播し、独自の文化が開花した。当該期の広域的な文化交流を示すものとして、たいへん貴重な作品である。		
28　名称	台付二枚貝形土器（だいつきにまいがいがたどき）	品　　質	土製
作 者 等	伝青森県岩木川流域出土	員　　数	1 点
時　　代	縄文時代・前 1000 年-前 400 年	寸 法 等	高 10.4cm　(器)最大幅 18.4cm　最小幅 15.4cm　(台)最大幅 9.3cm　最小幅 8.5cm
作品概要	伝青森県岩木川流域出土。二枚貝の片面を模した浅鉢形の土器に台が付く形態。完形。器部外面に縄文と沈線による磨消縄文が施されている。縄文時代晩期中葉、亀ヶ岡文化の土器である。亀ヶ岡文化は、東北地方の縄文時代最末期の文化で、精巧な土器や土製品の製作をはじめとする工芸技術が発達した。その製作技術は西日本の弥生土器の成立にも大きな影響を与えている。		

29　名称	三角縁神獣鏡（さんかくぶちしんじゅうきょう）	品　質	銅鋳造
作 者 等	伝三重県一志郡美杉村太郎生（現三重県津市美杉町太郎生）出土	員　数	1面
時　代	古墳時代・4-5世紀	寸 法 等	径 21.9cm
作品概要	銅鋳造。内区主文帯に6乳を置き、3神と3獣を交互に配置するが、一部は鋳上がりが悪く不明瞭である。外側の副文帯には9乳を配するが、間隔にばらつきがある。乳間には蛙や双魚、獣を置き、細線で弧文や円文を充填する。本品は、粗雑化したさまざまな特徴から仿製鏡と目される。また三重県美杉村出土とされるが、当地は山間部で古墳は存在していない。しかし、大和と伊勢を結ぶ交通の要衝であり、峠や集落境で行なわれた神まつりに伴う可能性も考えられる。		

30　名称	三角縁神獣鏡（さんかくぶちしんじゅうきょう）		
時　代	古墳時代・4世紀	員　数	1面
品　質	銅鋳造	寸 法 等	径 21.9cm
作品概要	銅鋳造。内区主文帯に6乳を置き、3神と3獣とを交互に配置して隙間を細線で充填する。副文帯には10乳を置き、その間に蛙や双魚、獣を置く。いずれの文様も表現がやや崩れ、粗雑な作りで、鋳上がりも悪く不鮮明な部分が認められる。三角縁神獣鏡は、中国の神仙思想に基づく文様をモチーフとした古墳時代前期の鏡であり、文様が精緻で銅質も良いものは舶載鏡、文様の形骸化が進み銅質も悪いものは日本列島で作られた仿製鏡とされている。本品の出土地は不明だが、古墳時代前期後半に日本で製造されたと考えられる。		

＜歴史資料＞（4件）

31　名称	小早川隆景書状（こばやかわたかかげしょじょう）		
作 者 等	小早川隆景	品　質	紙本墨書
時　代	室町時代・永禄12年(1569)	員　数	1幅
寸 法 等	本紙(前半部分)：縦13.0cm　横39.0cm　本紙(後半部分)：縦13.0cm　横38.6cm　表装：縦146.5cm　横58.0cm　軸長63.5cm		
作品概要	永禄12年(1569)11月18日付、天野隆重・天野武弘宛、小早川隆景書状。毛利氏と大友氏の立花城攻防、また毛利氏と尼子遺臣との出雲を巡る争いに関わる文書である。隆景は兄の吉川元春とともに、筑前の攻略に当たっていたが、大友宗麟の支援を受けた大内輝弘は山口で挙兵、出雲方面では、尼子勝久が大友氏と連携して挙兵した。挟み込まれる形となった毛利元就の命をうけて、元春と隆景は兵を立花城に残して、筑前から撤退することになったことが本作品の背景にある。アジアとつながる国際貿易港、博多を巡る毛利氏と大友氏の攻防が窺える一次史料であるとともに、『大日本史料』等で存在が知られた史料の原文書でもある作品である。		

32　名称	朝鮮国告身関係文書（ちょうせんこくこくしんかんけいもんじょ）	品　質	紙本墨書
指　定	重要美術品	員　数	7通
時　代	(1)(2)(3)朝鮮時代・万暦22年(1594)、(4)江戸時代・慶長17年（1612）、(5)江戸時代・元和6年（1620）、(6)(7)江戸時代・18世紀		
寸 法 等	(1)縦47.0cm　横41.6cm　(2)縦41.2cm　横47.3cm　(3)縦52.6cm　横82.7cm　(4)縦33.5cm　横51.7cm (5)縦33.2cm　横51.6cm　(6)縦38.0cm　横51.5cm　(7)縦36.2cm　横7.9cm		
作品概要	1594年(万暦22・文禄3)に朝鮮王朝が日本人「萱島木兵衛」を朝鮮国の武官に任命する際に発給した文書群（(1)・(2)・(3)）と、その伝来を示す関係文書群（(4)・(5)・(6)・(7)）。前者は「文禄の役」の最中に交わされた文書で、中国地方の大名毛利家に従って朝鮮に赴いた日本人武将の動向を伝える。(1)は萱島木兵衛を朝鮮国の武官に任じた告身（辞令書）。(2)は慶尚道観察使の洪導（履祥）が宋昌世に発した書簡。宋昌世が萱島木兵衛を内通させ、敵情を報告した功績を称える。(3)は洪導が萱島木兵衛の書簡に対して発した返書。(1)は所在不明であったもので、(2)(3)および『朝鮮王朝実録』など周辺史料から歴史的背景が明らかであり、資料的価値は非常に高い。		

33　名称	長崎諸役所絵図（ながさきしょやくしょえず）	品　質	紙本著色。折帖装
時　代	江戸時代・18-19世紀	員　数	1帖
寸 法 等	縦38.6cm　全長1173.0cm　1丁あたり：縦38.6cm　横15.2cm 本紙第1紙：38.1×27.7cm　第2紙：38.1×27.7cm　第3紙：38.2×27.2cm　第4紙：38.3×26.0cm　第5紙：38.3×26.5cm 第6紙：38.3×26.5cm　第7紙：38.3×27.5cm　第8紙：38.4×27.7cm　第9紙：38.2×27.8cm　第10紙：38.4×26.0cm　第11紙：37.8×26.0cm 第12紙：37.7×27.4cm　第13紙：37.6×13.5cm　第14紙：38.1×27.5cm　第15紙：38.3×25.5cm　第16紙：38.1×24.8cm 第17紙：38.3×27.7cm　第18紙：38.3×27.8cm　第19紙：38.3×27.8cm　第20紙：38.4×24.1cm　第21紙：38.3×26.4cm 第22紙：38.3×27.7cm　第23紙：38.3×27.8cm　第24紙：38.2×27.7cm　第25紙：38.3×27.8cm　第26紙：38.2×25.7cm 第27紙：38.3×25.9cm　第28紙：38.4×25.8cm　第29紙：38.3×27.7cm　第30紙：38.3×27.7cm　第31紙：38.3×27.8cm 第32紙：38.2×22.0cm　第33紙：38.1×25.2cm　第34紙：38.2×27.6cm　第35紙：38.2×27.7cm　第36紙：38.2×22.5cm 第37紙：38.2×26.6cm　第38紙：38.2×27.7cm　第39紙：38.2×26.3cm　第40紙：38.2×27.7cm　第41紙：38.1×27.9cm 第42紙：38.1×27.8cm　第43紙：38.2×27.7cm　第44紙：38.1×27.8cm　第45紙：37.9×8.2cm		
作品概要	長崎奉行所など主要な建造物の指図を描く。建物名、部屋名、居住者の姓、建物あるいは部屋の間口と奥行き、制札場などの情報が詳細に記されていること、また西御役所以下、設置・建設年代や増築・修理の経緯、総坪数、焼失の年代が記されていることが特徴で、この点に鑑みると、長崎奉行所の普請方が作成したものと考えられる。華美な装飾を排し、貼紙を付すことで変更箇所を示していることを考え合わせると、奉行所の役人が実際に使用するために作成したものであると捉えられる。本作品は、異国との貿易・交流の場であった出島や唐人屋敷・唐通詞会所のみならず、長崎の様々な側面にも光を当てることのできる作品である。		

34　名称	米船渡来見聞絵図（べいせんとらいけんぶんえず）		
作 者 等	山脇正準撰、乙部次儀筆	品　質	紙本著色
時　代	江戸時代・安政3年(1856)	員　数	1巻
寸 法 等	縦26.6cm　全長736.6cm 内訳：表紙見返し26.0cm　第1紙27.4cm　第2紙38.4cm　第3紙38.2cm　第4紙38.3cm　第5紙38.3cm　第6紙33.0cm　第7紙35.9cm 第8紙38.3cm　第9紙39.3cm　第10紙39.6cm　第11紙37.9cm　第12紙38.8cm　第13紙38.4cm　第14紙38.2cm　第15紙38.4cm 第16紙32.1cm　第17紙34.9cm　第18紙37.8cm　第19紙35.5cm　第20紙11.9cm		
作品概要	嘉永6年(1853)と翌安政元年(1854)に、ペリー(1758-1858)率いるアメリカ艦隊が来航した際の、警固の陣形図や応接所の図、アメリカ船の設備、積まれていた武器や楽器、工具・道具類、アメリカ軍服などを描いた絵図。巻末の識語によれば、本作品は山脇正準が「横栗」の両浜で見聞したことを、安政3年(1856)の仲春(2月)下旬に乙部次義が模写したとある。「横栗」の両浜とは横浜と久里浜で、嘉永6年時は久里浜に、翌安政元年時は横浜に応接所が設けられている。乙部次義は、山脇の門下生である可能性があるが、詳細は不明である。幕末の日本人が、アメリカ艦隊をどのように観察し、何に興味を示したかを窺い知ることができる作品である。		

（2）寄贈（261件）
＜絵画＞（7件）

1～7名称	重要文化財　日新除魔図　葛飾北斎筆 （にっしんじょまず　かつしかほくさいひつ）など	品　質	紙本墨画など
作 者 等	葛飾北斎など	員　数	7件
時　代	江戸時代・天保13-14（1843-44）など	寸 法 等	本紙　(各)縦13.0-40.2cm　横13.5-40.3cm、台紙　(各)縦30.2cm　横41.8cmなど
作品概要	葛飾北斎の「日新除魔図」219枚は、信州小布施逗留中の北斎が84～86歳のとき、毎朝の日課として描き続けたさまざまな姿の大量の獅子図、獅子舞図。注文制作ではなく、自身の長寿を願うなどの理由により描かれた。北斎の「日新除魔図」は国内外に他に数図知られるが、当寄贈作品は質量ともにまとまった稀有な作品群であり、219枚にもおよぶ。最重要作品群としてつとに知られ、伝来事情も明確。信州松代藩士の宮本慎助が北斎に依頼していた掛幅画がいっこうに出来ず、北斎の娘・お栄の提案によって代替として宮本慎助に贈ったのが、お栄保管のこの219枚であった。躍動する筆の動きはすばらしく、北斎の豊かな創造力があふれ出るさまを紙上にとどめる、きわめて貴重な物証である。その他、同じ京都		

	の収集家からの寄贈絵画 6 件は次のとおり。 1　大日如来像　　1 幅、2　布袋図　栄賀筆　1 幅、3　秋冬山水図屏風　　1 隻、4　南蛮屏風　1 隻、5　洛中洛外図屏風　　1 双 6　大応・大燈・関山像　白隠慧鶴筆　3 幅、7　重要文化財　日新除魔図　葛飾北斎筆　219 枚		
＜書跡＞（22 件）			
8～19 名称	河嶽英霊集断簡　伝高枝王筆（かがくえいれいしゅうだんかん　でんたかえのみこひつ）など		
作 者 等	伝高枝王筆など	品　質	絹本墨書および紙本墨書
時　代	平安時代など	員　数	12 件
作品概要	断簡は平安時代前期の書写になる『河嶽英霊集』の現存 2 例の断簡のうちの 1 つで、唐詩を享受し流行した当時の日本社会の受容の一様相を伝える遺墨として貴重である。古筆切 12 葉はいずれも粒揃いの名品で、平安時代の名物切が大半を占める。特に巻頭の高野切は、「筑紫に」から始まる手鑑中白眉の古筆切である。また、書状は豊臣秀吉をはじめ実弟の秀長、高台院、淀殿など豊臣家の人びとの手によるものであり、安土桃山時代の書風を知る上で好個の資料群である。 1　河嶽英霊集断簡　伝高枝王筆　1 幅、2　古筆手鑑「まつかぜ」　1 帖、3　古今和歌集　伝藤原公任筆　2 帖 4　書状　豊臣秀吉筆　1 幅、5　書状　豊臣秀長筆　1 幅、6　書状　高台院筆　1 幅、7　書状　淀殿筆　1 幅、8　書状　常高院筆　1 幅 9　書状　興安院筆　1 幅、10　書状　天秀尼筆　1 幅、11　書状　近江局筆　1 幅、12　詠草　山崎豊治室筆　1 幅		
20～29 名称	重要美術品　和漢朗詠集断簡　戊辰切「故宮付故宅」(わかんろうえいしゅうだんかん　ぼしんぎれ「こきゅうつけたりこたく」）など	品　質	彩箋墨書、掛幅装（三段表具）など
時　代	奈良時代・8 世紀、平安時代・12 世紀、江戸時代・17 世紀など	員　数	10 件
作品概要	東大寺二月堂に伝来した全 60 巻 34 章からなる『大方広仏華厳経』（旧訳華厳経、仏駄跋陀羅訳）の「盧舎那仏品第二」のうち 28 行分を銀泥で書写した断簡のほか、『麗華集』、『業平集』、『伊勢集』、『古今和歌集』など平安時代に編まれた代表的な歌集の断簡を含む。特に、重要美術品認定の和漢朗詠集断簡　戊辰切「故宮付故宅」は、12 世紀の能書で藤原行成から 5 代目の子孫にあたる藤原定信の筆になり、速筆で右肩上がりの字姿という彼の特徴的な書風が確認できる古筆切で、この時代の書を考える上で重要な作品の 1 つである。また、一行書は、江戸時代 19 世紀の禅僧で、生涯を雲水のままに過ごした良寛による一行で「従少出家今已老」と草書体で揮毫し、落款「沙門良寛書」を添えたもの。 1　二月堂焼経断簡　1 幅、2　麗華集断簡　香紙切「なつのひも」　1 帖、3　業平集断簡　尾形切「むさしのゝ」　2 帖 4　伊勢集断簡　石山切「さくら花」　1 幅、5　古今和歌集断簡　通切「わかせこか」　1 幅 6　二十巻本歌合断簡　二条切「あやめくさ」　1 幅、7　重要美術品　和漢朗詠集断簡　戊辰切「故宮付故宅」　1 幅 8　古今和歌集断簡　昭和切「をみなへし」　1 幅、9　書状　1 幅、10　一行書　1 幅		
＜彫刻＞（1 件）			
30　名称	観音菩薩立像（かんのんぼさつりゅうぞう）	品　質	赤色砂岩製
時　代	中国　北斉時代・武平 7 年(576)	員　数	1 軀
		寸 法 等	総高 148.0cm　幅 35.5cm　奥行 40.8cm　像高 124.0cm
作品概要	本体と台座は別造で、本体足裏の枘を台座に差し込む。本体は高浮彫、台座は丸彫。像は花蕊文様をあしらった円筒形宝冠をかぶり、胸飾、X 字形の瓔珞をつける。両耳の後ろに冠紐と垂髪の輪郭のみ彫出する。上半身は偏袒右肩に薄衣を、下半身には裙をまとい、腰紐を両足間に垂らす。腰紐は膝上付近で結び目を作る。台座は反花座で、正面に逆 U 字型の区画を設け 8 行の銘を刻む。その下に亀の前半身を表わし、正面両側に一対の獅子を配す。中国南北朝後期の様式を表わした作例で、銘文から制作年も判明し、資料的価値が高い。		
＜金工＞（202 件）			
31～232 名称	重要美術品　梅竹の図真形釜（うめたけのずしんなりがま）など	品　質	鉄・鋳造
時　代	室町時代、安土桃山時代、江戸時代など	員　数	202 件
作品概要	芦屋や天明、京都をはじめとするわが国の代表的な釜・風炉の制作地の作品をほぼ網羅しており、技法や器形、意匠の特徴を通観することができる貴重な作品群である。また、鐙は鉄地に銀と真鍮の平象嵌を施した舌長鐙で、紋板には透かしを 7 段設け、正面の渡りには鐙師の象嵌銘を入れる。鳩胸には、細い蕨手地に牡丹と南蛮衣装を身につけた人物 3 名を幅広の銀象嵌で大きくあらわす。一方、踏込の裏面は流水を真鍮で、また舞い散る桜花を真鍮と銀の象嵌により流麗にあらわす。		
＜陶磁＞（21 件）			
233～253 名称	重要文化財　色鍋島松竹梅文瓶子 （いろなべしましょうちくばいもんへいし）など	時　代	安土桃山時代、江戸時代など
作 者 等	鍋島、伊万里（有田）、唐津、備前など	員　数	21 件
作品概要	唐津・伊万里・鍋島の九州陶磁を中心に、瀬戸美濃・備前も含めた近世日本陶磁の優品を網羅したコレクションである。安土桃山時代から江戸時代初頭にかけて日本で需要のあったベトナム陶磁 3 件も含む。特に、16・17 色鍋島松竹梅文瓶子は、鍋島藩窯の最盛期に作られた色鍋島で、世界的にも類品が見られない重要な作品である。おそらく徳川将軍家や有力な大名家の婚礼等の際に、贈答品として佐賀藩が発注したものと推定される。この度の寄贈で 2 点ともに坂本五郎氏が所有されていたことが分かった。本コレクションの陶磁器は、いずれも過去に書籍や展覧会等で紹介された実績があるが、その後長らく公開されなかったために所在不明と思われていたものなど、学術的に貴重な作品が数多く含まれる。 1　猿投灰釉短頸大壺　1 口、2　古瀬戸鉄釉印花蕨文広口壺　1 口、3　古備前大皿　1 枚、4　古備前三耳大壺　1 口 5　古備前三耳壺　1 口、6　志野茶碗　銘　若宮　1 口、7　古唐津錆絵片輪車千鳥文双耳壺　1 口、8　古唐津錆絵芦文大皿　1 枚 9　古唐津錆絵山水文双耳鉢　1 口、10　重要美術品　備前透彫釣灯籠　1 基、11　備前透彫釣灯籠　1 基 12　初期伊万里染付山水人物図大鉢　1 口、13　古九谷色絵花鳥図手付鉢　1 口、14　古九谷色絵孔雀牡丹太湖石図瓶　1 口 15　柿右衛門色絵花鳥三果文大鉢　1 口、16　重要文化財　色鍋島松竹梅文瓶子　1 口、17　色鍋島松竹梅文瓶子　1 口 18　仁清色絵獅子香炉　1 合、19　安南五彩草花蓮弁文茶碗　1 口、20　安南五彩牡丹唐草文稜花盤　1 枚、21　安南五彩牡丹文壺　1 口		
＜漆工＞（4 件）			
254～257 名称	菊蒔絵風鑪（きくまきえふろ）など	品　質	木製漆塗
時　代	鎌倉、室町、安土桃山時代など	員　数	4 件
作品概要	高台寺蒔絵で飾った手焙と朱漆塗器（いわゆる根来）、南蛮文様で飾った鞍である。なかでも朱漆練行衆盤は東大寺二月堂で行われる修二会において練行衆が食事を食堂でとる際に使用する盤で、裏面の朱漆銘から盤の用途や制作された枚数、制作年月や漆工名が明らかである。この練行衆盤は東大寺に伝世する練行衆盤（11 枚、重要文化財）と一連の盤であり、大変貴重な作例である。また、朱漆輪花盤は、禅林の茶会で茶道具を載せて用いられたと考えられるもので、舶載された中国製の器物に範をとった唐様朱器としてこちらも貴重な作例である。 1　菊蒔絵風鑪　1 基、2　朱漆練行衆盤　1 枚、3　朱漆輪花盤　1 基、4　鋸歯文蒔絵鞍　1 背		
＜考古＞（3 件）			
258～260 名称	重要美術品　四区袈裟襷文銅鐸(よんくけさだすきもんどうたく)など	員　数	3 件
作品概要	四区と六区の袈裟襷文銅鐸と須恵器多嘴壺とがある。銅鐸はいずれも青銅鋳造で、截頭円錐形の鐸身の上部に扁平化した鈕、側面には鰭がつく。いずれもほぼ完形で、鐸身には突線を鋳出した斜格子の文様帯によって４または６つの区画を構成するため、袈裟襷文と呼ばれる。完形で鐸身の表裏には各４個の型持孔がある。本品の銅鐸は、石製鋳型で製作されたと考えられ、現在までに７口の同范銅鐸が知られている。朝鮮半島の小銅鐸を起源とする日本の銅鐸は、弥生時代に祭器として西日本に盛行した青銅器である。単独で集落や墓地から離れて出土する場合が多いため、年代決定が困難な場合が少なくない。豊穣のシンボルとして農耕祭祀に用いられたとされており、吊り下げて鳴らす楽器から装飾的なものへと変遷する。須恵器多嘴壺は、長胴を呈する壺の肩に４つの口縁部を持つ管（嘴）を対象形に配置した須恵器の壺。多嘴壺は中国陶磁の越州窯や竜泉窯に系譜が求められるが、日本での展開は、灰釉陶器の一大産地であった愛知県猿投窯跡で主に生産されている。製作時期は、８世紀第４四半期で、猿投窯では須恵器から灰釉陶器へと生産の中心が移り変わる時期に当たっている。 1　重要美術品　四区袈裟襷文銅鐸　1 口、2　六区袈裟襷文銅鐸　1 枚、3　須恵器　多嘴壺盤　1 口		

＜歴史資料＞（1件）			
261 名称	広開土王碑拓本（こうかいどおうひたくほん）		
作 者 等	原碑:中国吉林省集安市	員　数	4面
時　代	原碑:朝鮮　三国時代(高句麗)・414年　採拓:中国　民国時代・1920年頃-1938頃		
寸 法 等	第1面：縦547.4cm　横146.9cm　第2面：縦547.0cm　横131.4cm　第3面：縦546.0cm　横178.4cm　第4面：縦543.4cm　横120.5cm		
作品概要	高句麗の全盛期を現出させた広開土王（在位391-412年）の勲績を後世に示すため建てられた広開土王碑の四面から採った拓本。おもに縦72.0×横46.0センチの紙片を接いで採拓している。漉き目のある裏打ち紙と白綸子花弁文の裂地によって簡易的な表装を施している。軸装はしていない。広開土王碑拓本のなかには、文字をより明瞭にするため、碑面の風化部分に石灰を埋めて採拓した「石灰拓本」が1885年前後より出現する。本資料は石灰を充填して碑面よりもやや高く突出させた状態で採拓した痕跡が一部に見られることから、石灰拓本であることが明らかである。また、余白の大きさや特定の文字の形状から1920年代に採拓されたものと考えられる。		

1-(1)-②-5 有形文化財(美術工芸品)に関する取組状況(文化財購入費)

平成30年3月31日

	平成29年度 合計金額(千円)	総件数	内訳					
			運営費交付金(千円)	件数	寄附金(千円)	件数	目的積立金(千円)	件数
国立文化財機構	1,735,164	64	1,585,164	64	150,000	(1)	0	0
東京国立博物館	252,720	12	252,720	12	0	0	0	0
京都国立博物館	291,808	12	291,808	12	0	0	0	0
奈良国立博物館＊	550,000	6	400,000	6	150,000	(1)	0	0
九州国立博物館	640,636	34	640,636	34	0	0	0	0

＊奈良国立博物館購入1件分は、運営費交付金と寄附金の両方を財源として購入した文化財のため、
実際の文化財購入は6件となる。

1-(1)-②-6 寄託品一覧表

（単位：件）　平成30年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	12,240	196	1,196	3,109	55	260	6,235	86	620	1,962	53	304	934	2	12
絵画	3,420	57	415	467	13	65	2,248	28	244	555	16	103	150	0	3
書跡	1,686	68	272	393	10	30	880	41	203	351	16	36	62	1	3
彫刻	928	9	193	242	3	36	262	1	69	418	5	86	6	0	2
建築	5	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0
金工	988	14	85	133	5	18	549	2	35	211	7	31	95	0	1
刀剣	245	8	65	218	8	56				16	0	9	11	0	0
陶磁	1,271	1	7	129	0	3	848	1	3	8	0	0	286	0	1
漆工	733	15	57	95	6	15	485	4	15	120	5	26	33	0	1
染織	858	7	38	286	2	4	498	3	31	47	2	3	27	0	0
考古	950	13	34	162	4	13	424	6	10	236	2	10	128	1	1
民族資料	114	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	109	0	0
歴史資料	68	0	10	5	0	0	38	0	10	0	0	0	25	0	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	185	2	14	185	2	14									
東洋 書跡	39	1	3	39	1	3									
東洋 彫刻	31	0	0	31	0	0									
東洋 金工	6	0	1	6	0	1									
東洋 陶磁	167	1	1	167	1	1									
東洋 漆工	30	0	1	30	0	1									
東洋 染織	10	0	0	10	0	0									
東洋 考古	490	0	0	490	0	0									
東洋 民族	3	0	0	3	0	0									
黒田記念館収蔵品	13	0	0	13	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規定による「旧東洋課所掌分」あり。京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の寄託品も「日本」に含む。
＊東京国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-②-7 寄託品増減表

（単位：件）　平成30年3月31日現在

	国立博物館				東京国立博物館				京都国立博物館				奈良国立博物館				九州国立博物館			
	28年度	29年度			28年度	29年度			28年度	29年度			28年度	29年度			28年度	29年度		
	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計
合計	12,115	207	82	12,240	3,075	71	37	3,109	6,189	79	33	6,235	1,958	12	8	1,962	893	45	4	934
絵画	3,411	27	18	3,420	473	2	8	467	2,231	23	6	2,248	557	1	3	555	150	1	1	150
書跡	1,683	5	2	1,686	393	0	0	393	878	4	2	880	350	1	0	351	62	0	0	62
彫刻	930	8	10	928	245	0	3	242	263	2	3	262	416	6	4	418	6	0	0	6
建築	5	0	0	5	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	2
金工	961	29	2	988	133	0	0	133	523	27	1	549	210	2	1	211	95	0	0	95
刀剣	255	4	14	245	232	0	14	218					16	0	0	16	7	4	0	11
陶磁	1,249	28	6	1,271	128	1	0	129	846	8	6	848	8	0	0	8	267	19	0	286
漆工	722	22	11	733	97	0	2	95	481	13	9	485	118	2	0	120	26	7	0	33
染織	858	2	2	858	287	0	1	286	497	2	1	498	47	0	0	47	27	0	0	27
考古	947	14	11	950	169	1	8	162	424	0	0	424	236	0	0	236	118	13	3	128
民族資料	114	0	0	114	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	109	0	0	109
歴史資料	72	1	5	68	5	0	0	5	43	0	5	38	0	0	0	0	24	1	0	25
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	170	15	0	185	170	15	0	185												
東洋 書跡	39	0	0	39	39	0	0	39												
東洋 彫刻	31	0	0	31	31	0	0	31												
東洋 金工	5	1	0	6	5	1	0	6												
東洋 陶磁	137	31	1	167	137	31	1	167												
東洋 漆工	30	0	0	30	30	0	0	30												
東洋 染織	7	3	0	10	7	3	0	10												
東洋 考古	486	4	0	490	486	4	0	490												
東洋 民族	3	0	0	3	3	0	0	3												
黒田記念館収蔵品	0	13	0	13	0	13	0	13												

1-(1)-②-8 登録美術品一覧表

（単位：件）　平成30年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	31	0	4	29	0	4	0	0	0	0	0	0	2	0	0
絵画	7	0	4	7	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
書跡	18	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
彫刻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陶磁	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
染織	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 陶磁	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
複合資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

1-(1)-③　有形文化財の管理・保存・修理等

1-(1)-③-1 各収蔵庫、展示場の温湿度

【東京国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
本館	展覧会場	09：00～17：00	14～28℃	26～76%
	収蔵庫	09：30～17：00	16～24℃	34～78%
平成館	展覧会場	09：00～17：00	19～29℃	42～63%
	収蔵庫	09：30～17：00	21～26℃	40～65%
東洋館	展覧会場	09：30～17：00	17～28℃	33～61%
	収蔵庫	09：30～17：00	12～27℃	43～70%
法隆寺宝物館	展覧会場	24時間運転	21～25℃	46～60%
	収蔵庫	24時間運転	21～23℃	50～62%
黒田記念館	展覧会場	24時間運転	20～23℃	46～71%
	収蔵庫	24時間運転	21～25℃	54～70%

【京都国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
明治古都館	展覧会場	8：30～17：30	13～28℃	45～65%
	収蔵庫	8：30～17：30	18～25℃	50～60%
平成知新館	展覧会場	9：00～17：00	19～25℃	50～65%
	収蔵庫	9：00～17：00	20～25℃	55～60%
北収蔵庫		9：00～17：30	14～26℃	50～60%
東収蔵庫（改修工事中）		運用停止	―	―
文化財保存修理所		8：30～17：30	20～25℃	45～65%

【奈良国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度（年間）			湿度（年間）
			冬	夏	中	
なら仏像館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
青銅器館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
西新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
東新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±2%
地下回廊	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±2%

【九州国立博物館】

会場等	空調実施時間	温度（年間）	湿度（年間）
3階展覧会場	8:00～19:00	22～26℃	55±5%
4階展覧会場	7:00～21:00	22～26℃	55±5%
収蔵庫	8:40～21:30	22～24℃	材質別に50±2%、55±2%、60±2%

1-(1)-③-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

平成30年3月31日現在

東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館
画像	188件	画像	4,444件	画像	3,017件	
和古書・漢籍	19,002件			文字	4,683件	（完了）
洋古書	7,970件					

1-(1)-③-3 保存カルテ作成件数

【東京国立博物館】　　平成30年3月31日現在

合計		1,146		
計		列品貸与時	本格修理調査時	応急修理時
		647	142	357
絵画		165	13	128
書跡		50	1	10
彫刻		32	0	2
建築		0	0	0
金工		29	3	23
刀剣		45	95	0
陶磁		47	0	3
漆工		41	0	0
染織		23	2	2
考古		85	14	1
歴史資料		16	0	27
民族資料		0	1	2
和書		36	0	5
東洋	絵画	32	1	23
	書跡	7	1	4
	彫刻	4	0	34
	金工	0	0	0
	陶磁	18	0	3
	漆工	3	0	1
	染織	0	0	21
	考古	11	0	4
	民族	0	0	0
法隆寺献納宝物		1	0	0
その他（黒田含）		2	11	64

【京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】

計	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
	190	112	102
絵画	64	38	9
書跡	20	18	4
彫刻	6	20	15
建築	0	0	0
金工	20	8	0
刀剣		0	0
陶磁	31	0	0
漆工	21	8	0
染織	1	0	7
考古	24	20	4
民族資料	0	0	0
歴史資料	3	0	3
和書	0	0	0
その他	0	0	60

1-(1)-③-4 本格修理件数

平成30年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
合　計		105	69 (11)	11	6	19
絵　画		29	16	7	3	3
書　跡		8	3	1	1	3
彫　刻		1	0	0	0	1
建　築		0	0	0	0	0
金　工		3	3 (2)	0	0	0
刀　剣		2	2	0	0	0
陶　磁		0	0	0	0	0
漆　工		3	1	1	1	0
染　織		11	2	2	0	7
考　古		23	20 (9)	0	1	2
歴史資料		3	0	0	0	3
和　書		3	3	0	0	0
民族資料		1	1	0	0	0
東洋	絵　画	2	2			
	書　跡	1	1			
	彫　刻	0	0			
	金　工	0	0			
	陶　磁	1	1			
	漆　工	0	0			
	染　織	1	1			
	考　古	1	1			
	民　族	0	0			
法隆寺献納宝物		2	2			
黒田記念館収蔵品		0	0			
館史資料(収蔵品外)		10	10			

※東京国立博物館(　)内は考古相互貸借経費、内数。

1-(1)-③-5 修理概況

【東京国立博物館】 (69件)

〈絵画〉(16件)			
1列品番号	A-137	品　質	紙本着色
名　称	遊女立姿図(ゆうじょたちすがたず)	員　数	1幅
時　代	江戸時代	寸法等	縦94.2cm 横39.5 cm
年代世紀	18c	施工会社	㈱岡墨光堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂、軸を修理して再使用し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。		
2列品番号	A-422	品　質	絹本着色
名　称	遊女聞香図(ゆうじょもんこうず)	員　数	1幅
時　代	江戸時代	寸法等	縦87.6cm 横36.7 cm
年代世紀	18c	施工会社	㈱岡墨光堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂の一部、軸は修理して再使用し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。		
3列品番号	A-728	品　質	カンバス・油彩
名　称	旅順戦後の捜索(りょじゅんせんごのそうさく)	員　数	1面
時　代	明治時代	寸法等	縦121.8cm 横84.8 cm
年代世紀	明治28年(1895)	施工会社	有限会社　修復研究所２１
修理内容	1. 額装から外す。 2. 汚れを除去する。 3. 耳を付けて補強する。 4. 補彩を行ない、ワニスを塗布する。 5. 裏にポリカーボネート製蓋をする。 6. 額縁の清掃・修理を行ない、額装する。		
4列品番号	A-729	品　質	カンバス・油彩
名　称	三条実美像(さんじょうさねとみぞう)	員　数	1面
時　代	明治時代	寸法等	縦109.7cm 横74.2 cm
年代世紀	19c	施工会社	有限会社　修復研究所２１
修理内容	1. 額装から外す。 2. 汚れを除去する。 3. 変形修正し、耳を付けて補強する。 4. 充填部分に補彩を行ない、ワニスを塗布する。 5. 裏にポリカーボネート製蓋をする。 6. 額縁の清掃・修理を行ない、額装する。		
5列品番号	A-972	品　質	紙本墨画淡彩
名　称	神農図(しんのうず)	員　数	1幅
時　代	室町時代	寸法等	縦95.5cm 横46.2 cm
年代世紀	16c	施工会社	株式会社　光影堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂を新調、牙軸を修理して再使用し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。		
6列品番号	A-8562-1	品　質	紙本銅版
名　称	金龍山浅艸寺之図(きんりゅうさんせんそうじのず)	員　数	1枚
時　代	江戸時代	寸法等	縦15.3cm 横21.1 cm
年代世紀	18c～19c	施工会社	有限会社　山領絵画修復工房
修理内容	1. 解体し、旧裏打紙を除去する。 2. 汚れを除去する。 3. 新規裏打ちを行なう。 4. マット装に仕立てる。		
7列品番号	A-8564	品　質	紙本銅版
名　称	多賀城碑図(たがじょうひず)	員　数	1枚
時　代	江戸時代	寸法等	縦29.1cm 横23.7 cm
年代世紀	文化4年(1807)	施工会社	有限会社　山領絵画修復工房
修理内容	1. 解体し、旧裏打紙を除去する。 2. 汚れを除去する。 3. 新規裏打ちを行なう。 4. マット装に仕立てる。		
8列品番号	A-8574	品　質	紙本銅版
名　称	龍図(りゅうず)	員　数	6曲1双
時　代	江戸時代	寸法等	156.6×342.5 cm
年代世紀	19c	施工会社	有限会社　山領絵画修復工房
修理内容	1. 解体し、旧裏打紙を除去する。 2. 汚れを除去する。 3. 新規裏打ちを行なう。 4. マット装に仕立てる。		
9列品番号	A-8586	品　質	紙本銅版
名　称	新吉原夜俄之図(しんよしわらよるのにわかのず)	員　数	1枚
時　代	江戸時代	寸法等	縦10.6cm 横15.4 cm
年代世紀	19c	施工会社	有限会社　山領絵画修復工房
修理内容	1. 解体し、旧裏打紙を除去する。 2. 汚れを除去する。 3. 新規裏打ちを行なう。 4. マット装に仕立てる。		
10列品番号	A-8587	品　質	紙本銅版
名　称	上野山王台図(うえのさんのうだいず)	員　数	1枚
時　代	江戸時代	寸法等	本紙 縦10.6cm 横15.5cm
年代世紀	19c	施工会社	有限会社　山領絵画修復工房
修理内容	1. 解体し、旧裏打紙を除去する。 2. 汚れを除去する。 3. 新規裏打ちを行なう。 4. マット装に仕立てる。		
11列品番号	A-8780	品　質	紙本銅版
名　称	三囲図(みめぐりず)	員　数	1枚
時　代	江戸時代	寸法等	本紙 縦10.6cm 横15.4cm
年代世紀	19c	施工会社	有限会社　山領絵画修復工房
修理内容	1. 解体し、旧裏打紙を除去する。 2. 汚れを除去する。 3. 新規裏打ちを行なう。 4. マット装に仕立てる。		

12 列品番号	A-9880	品　質	紙本着色
名　称	アイヌ風俗図(あいぬふうぞくず)	員　数	2 面
時　代	江戸時代	寸 法 等	縦 121.2cm　横 60.6cm
年代世紀	19c	施工会社	㈱修護
修理内容	1. 解体する。 2. 剥落止めの後、クリーニングを行なう。 3. 本紙の破れを繕い、欠失部分には補紙を施す。 4. 旧裏打紙を除去し、新たに裏打ちを行なう。 5. 骨下地を新調し、本紙を張り込む。 6. 縁を新調し、裏面に額金具を設置する。		

13 列品番号	A-10574	品　質	絹本着色
名　称	愛染明王像(あいぜんみょうおうぞう)	員　数	1 幅
時　代	南北朝時代	寸 法 等	縦 104.5cm　横 54.4cm
年代世紀	14c	施工会社	㈱文化財保存
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補絹を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5.新規補絹部分に補彩を施す。 6. 表装裂、軸を新調し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。		

14 列品番号	A-11128	品　質	紙本金地着色
名　称	南蛮屏風(なんばんびょうぶ)	員　数	6 曲 1 双
時　代	江戸時代	寸 法 等	154.8×371.5 ㎝
年代世紀	17c	施工会社	㈱半田九清堂
修理内容	1. 屏風装を解体する。 2. 絵具層の剥落止めの後、クリーニングを行なう。 3. 表打ちを行ない、画面を保護し、旧裏打紙、補紙を除去する。 4. 新たに補紙、裏打ちを行なう。 5. 仮張りをした後、補紙に補彩を行なう。 6. 骨下地を新調し、下張りを行ない、裏貼紙、本紙、裂を貼り込む。 7. 新調した表装裂、襲木、金具を取り付けて、屏風装に仕立てる。		

15 列品番号	A-12327	年代世紀	15c
名　称	山水図	品　質	紙本墨画淡彩
指　定	重文	員　数	1 幅
指定年月	昭和 16 年(1941)7 月 3 日　絵第 187 号	寸 法 等	93.9 ×34.0cm
時　代	室町時代	施工会社	㈱岡墨光堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂、牙軸を修理して再使用し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。		

16 列品番号	A-12450	品　質	絹本著色
名　称	玄奘三蔵像(げんじょうさんぞうぞう)	員　数	1 幅
時　代	鎌倉時代	寸 法 等	縦 134.4cm 横 56.2cm
年代世紀	14c	施工会社	㈱文化財保存
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補絹を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補絹部分に補彩を施す。 6. 表装裂、軸を新調し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。		

〈東洋絵画〉(2 件)

17 列品番号	TA-82	品　質	絹本着色
名　称	四季花鳥図巻(しきかちょうずかん)	員　数	1 巻
時　代	清時代	寸 法 等	縦 42cm 長さ 521.2cm
年代世紀	18c	施工会社	㈱修美
修理内容	1. 解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補絹を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 軸首は再利用し、表紙、軸、八双等を新調し、巻子装に仕立てる。 6. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。		

18 列品番号	TA-315	年代世紀	14c
名　称	四睡図(しすいず)	品　質	紙本墨画
指　定	重文	員　数	1 幅
指定年月	昭和 57 年 (1982) 6 月 5 日　絵第 1830 号	寸 法 等	本紙 77.8 ×34.3cm
時　代	元時代	施工会社	㈱岡墨光堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂、牙軸は修理して再使用し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。		

〈書跡〉(3 件)

19 列品番号	B-2404	年代世紀	正治 2 年(1200)
名　称	熊野懐紙(くまのかいし)	品　質	紙本墨書
指　定	重文	員　数	1 幅
指定年月	書第 1925 号	寸 法 等	本紙 縦 29.6cm 横 50.1cm
時　代	鎌倉時代	施工会社	㈱半田九清堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めの後、クリーニングを行なう。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行なう。 5. 表装裂、牙軸を修理して再使用し、掛幅装に仕立てる。 6. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。		

20 列品番号	B-3178	年代世紀	12c～17c
名　称	医心方(いしんぽう)	品　質	紙本墨書
指　定	国宝	員　数	30 巻、1 冊
指定年月	昭和 59 年 (1984) 6 月 6 日　書第 2399 号	施工会社	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー、㈱修護、㈱半田九清堂
時　代	平安時代～江戸時代		
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙および旧補紙を除去するが、補筆のある旧補紙は残す。 4. 本紙の欠損部に補紙を施す。 5. 傷みの著しい巻頭などは、必要に応じて新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 6. 表紙、軸首は修理して再使用し、巻子装に仕立てる。 7. 包裂、桐製保存箱を新調する。（平成 27 年度から平成 28 年度にかけて 12 巻、1 冊、それ以後は年度ごとに 6 巻ずつ仕上げる。）		

21 列品番号	B-3474	品　質	紙本墨書
名　称	夢窓疎石墨跡杜甫詩(むそうそせきぼくせきとほし)	員　数	1 幅
時　代	鎌倉時代	寸 法 等	本紙 縦 22.3cm（最小値）　横 121.5cm
年代世紀	文保 2 年 (1318)	施工会社	㈱半田九清堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 表装裂を新調し、牙軸を修理して再使用し、掛幅装に仕立てる。 6. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。		

〈東洋書跡〉(1件)			
22列品番号	TB-1171	年代世紀	宣和6年(1124)
名　称	与虎丘紹隆印可状(くきゅうじょうりゅうにあたういんかじょう)	品　質	紙本墨書
指　定	国宝	員　数	1幅
指定年月	昭和26年(1951)6月9日　書第1号	寸法等	縦43.9cm 横52.4cm
時　代	北宋時代	施工会社	㈱桂文化財修理工房
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。補筆のある旧補紙は残す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂、風帯、牙軸は修理して再使用し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。		
〈金工〉(3件)			
23列品番号	E-14365	品　質	鉄製
名　称	経筒(きょうづつ)	員　数	5合
時　代	鎌倉時代～室町時代	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
年代世紀	14～16c		
寸法等	① 蓋口径6.2 蓋高1.5 筒身径6.5 筒身高10.8 ； ② 蓋口径6.2 蓋高0.4 筒身径6.5 筒身高10.5 ； ③ 蓋口径6.2 蓋高0.4 筒身径6.4 筒身高11.0 ； ④ 蓋口径5.3 蓋高2.5 筒身径6.5 筒身高11.2 ； ⑤ 蓋口径6.2 蓋高0.3 筒身径6.5 筒身高11.3		
修理内容	1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 欠失部分のうち、可能な部分のみ補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。		
24列品番号	E-15474	品　質	木製漆塗
名　称	椀残欠(わんざんけつ)	員　数	2個
時　代	平安時代	寸法等	① 高6.2cm 底径7.4cm ； ② 高6.5 底径7.4cm
年代世紀	12c	施工会社	有限会社　武蔵野文化財修復研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 浮き上がった漆膜を安定・強化させる。		
25列品番号	E-15522	品　質	銅製
名　称	瑞花双鳳八花鏡(ずいかそうおうはっかきょう)	員　数	1面
時　代	平安時代	寸法等	径16.1cm 高0.3cm
年代世紀	12世紀	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. 破断面を中心にクリーニングする。 2. 接合する。 3. 欠失部分を樹脂状の補填材で復元する。 4. 展示用のマウントを作製する。		
〈刀剣〉(2件)			
26列品番号	F-16027	品　質	鉄製漆塗
名　称	十二間星兜鉢(じゅうにけんのほしかぶとばち)	員　数	1頭
時　代	平安時代	寸法等	鉢高（眉庇含む）　15.1cm
年代世紀	12c	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 腰巻の際など最低限の箇所に補填、補彩を施す。 5. 腰巻の不定形な形状に対応した、取り外し可能なマウント台を作製する。		
27列品番号	F-19539-2	品　質	鉄製
名　称	潤漆千段巻塗打刀(うるみぬりせんだんまきぬりのうちがたな)	員　数	1口
時　代	江戸時代	寸法等	総長97.6 柄長22.3 鞘長75.4
年代世紀	19c	施工会社	㈱小西美術工藝社
修理内容	1. 栗形を鞘の塗膜が剥離しないように取り外す。 2. 鞘の色調・光沢に合わせた角黒漆塗の瓦金をつくり、外した栗形とともに取り付ける。 3. 鞘の塗膜の剥落箇所を周囲の色調・光沢に合わせた漆で補填する。 4. 柄糸の経年状態を参考にして古色をつけた白平打の下緒を復元し取り付ける。		
〈東洋陶磁〉(1件)			
28列品番号	TG-2075	品　質	磁製
名　称	五彩人物文長方合子(ごさいじんぶつもんちょうほうごうす)	員　数	1合
時　代	明時代	寸法等	総高10.3cm 長径28.8cm 短径20.0cm
年代世紀	万暦年間(1573～1620)	施工会社	陶磁器修復たま工房
修理内容	1. 解体する 2. 旧補彩をクリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分に充填・補彩する。		
〈漆工〉(1件)			
29列品番号	H-4699	品　質	木製漆塗
名　称	桔梗蒔絵螺鈿聖龕(ききょうまきえらでんせいがん)	員　数	1基
時　代	安土桃山～江戸時代	寸法等	縦18.3cm　横15.2cm　厚3.0cm
年代世紀	16～17c	施工会社	㈱小西美術工藝社
修理内容	1. 旧修理を切削除去する。 2. 養生を行ないながらクリーニングを行なう。 3. 剥離した螺鈿や漆塗膜を、可能な限り平滑となるよう漆等を含浸させて圧着する。欠失塗膜部に補填した漆下地を、当初面と同一面になるように平滑に切削整形する。 4. 亀裂開口部の空隙に漆下地等を充填する。 5. クリーニングによって露出し脆弱化した漆塗膜を強化するため、必要に応じて漆を塗布したのち、完全に拭き取る作業を最小限行なう。漆下地による補填を行なった箇所は、周縁部との色艶をあわせるように、適宜漆を局所的に摺り重ねる。		
〈染織〉(2件)			
30列品番号	I-2061	品　質	天鵞絨地に切付・刺繍
名　称	小忌衣 浅葱天鵞絨地菊水模様 (おみごろも　あさぎびろーどじきくすいもよう)	員　数	1領
時　代	江戸時代	寸法等	丈156.5cm　裄63.6cm
年代世紀	19c	施工会社	㈱松鶴堂
修理内容	1. 引解（解体）にする。 2. 縫い付けによる裏打ちをする。 3. 刺繍の綴付、蛇腹状の襟の仕立て直しを行なう。		
31列品番号	I-3246	年代世紀	16c
名　称	縫箔 白地草花肩裾模様(ぬいはく　しろじそうかかたすそもよう)	品　質	練緯（絹）、刺繍、摺箔
指　定	重文	員　数	1領
指定年月	昭和57年(1982)6月5日　工第2480号	寸法等	丈100.8cm　裄51.5cm
時　代	安土桃山時代	施工会社	㈱松鶴堂
修理内容	1. 全解体を行なう。 2. 表から当てている補修裂を外す。 3. 表裂、裏地それぞれに薄絹を添わせて補強修理を施す。 4. 元の姿に仕立て直す。 5. 刺繍糸の糸の解れ、乱れを整え留める。 6. 中性紙のケースに収納する。		
〈東洋染織〉(1件)			
32列品番号	TI-418-1	員　数	1着
名　称	コート　濃紺ヴェルヴェット地花弁文様金銀糸刺繍 (のうこんう゛ぇるう゛ぇっとじかきもんようきんぎんししゅう)	寸法等	丈110.0cm　肩幅44.0cm　袖長56.0cm
年代世紀	19c	施工会社	㈱染技連

品　質	絹製ヴェルヴット地に金属糸とスパンコールで刺繍、宝石で装飾		
修理内容	1. 部分的に解体する。 2. 損傷箇所に補修裂をあてて、縫いとめる。 3. 刺繍などのほつれをとめる。 4. 黄緑地の縁裂を新調して縫い合わせる。 5. 保存箱を新調する。		
〈考古〉(20件)			
33列品番号	J-22	品　質	陶製
名　称	須恵器 ハソウ(すえき はそう)	員　数	1個
時　代	古墳時代	寸法等	復元口径12.6cm 器高11.8cm
年代世紀	5～6c	施工会社	有限会社　武蔵野文化財修復研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 欠失部分を補填、復元する。 3. 補填箇所を補彩する。		
34列品番号	J-131	品　質	陶製
名　称	須恵器 蓋坏(すえき ふたつき)	員　数	1組
時　代	古墳時代	寸法等	坏蓋：口径8.1cm 器高3.4cm　坏身：口径7.1cm 受部径8.4cm 器高3.4cm
年代世紀	5～6c	施工会社	有限会社　武蔵野文化財修復研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 欠失部分を補填、復元する。 3. 補填箇所を補彩する。		
35列品番号	J-132	品　質	陶製
名　称	須恵器 蓋坏(すえき ふたつき)	員　数	1組
時　代	古墳時代	寸法等	坏蓋：口径7.5cm 器高3.2cm　坏身：口径6.5cm 受部径8.1cm 器高3.4cm
年代世紀	5～6c	施工会社	有限会社　武蔵野文化財修復研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 欠失部分を補填、復元する。 3. 補填箇所を補彩する。		
36列品番号	J-3293	品　質	陶製
名　称	須恵器 坏身(すえき つきみ)	員　数	1個
時　代	古墳時代	寸法等	復元口径11.8cm 受部径13.6cm 器高3.6cm
年代世紀	5～6c	施工会社	有限会社　武蔵野文化財修復研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 欠失部分を補填、復元する。 3. 補填箇所を補彩する。		
37列品番号	J-3311	品　質	陶製
名　称	須恵器 坏蓋(すえき つきぶた)	員　数	1個
時　代	古墳時代	寸法等	復元口径13.8cm 器高4.4cm
年代世紀	5c～6c	施工会社	有限会社　武蔵野文化財修復研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 欠失部分を補填、復元する。 3. 補填箇所を補彩する。		
38列品番号	J-3564	品　質	陶製
名　称	須恵器 坏身(すえき つきみ)	員　数	1個
時　代	古墳時代	寸法等	口径6.8cm 受部径8.2cm 器高3.3cm
年代世紀	5c～6c	施工会社	有限会社　武蔵野文化財修復研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 欠失部分を補填、復元する。 3. 補填箇所を補彩する。		
39列品番号	J-3580	品　質	陶製
名　称	須恵器 坏身(すえき つきみ)	員　数	1個
時　代	古墳時代	寸法等	復元口径6.8cm 受部径8.2cm 器高3.3cm
年代世紀	5c～6c	施工会社	有限会社　武蔵野文化財修復研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 欠失部分を補填、復元する。 3. 補填箇所を補彩する。		
40列品番号	J-3635	品　質	陶製
名　称	須恵器 坏身(すえき つきみ)	員　数	1個
時　代	古墳時代	寸法等	口径6.7cm 受部径8.0cm 器高3.3cm
年代世紀	5c～6c	施工会社	有限会社　武蔵野文化財修復研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 欠失部分を補填、復元する。 3. 補填箇所を補彩する。		
41列品番号	J-3972	品　質	陶製
名　称	須恵器 坏身(すえき つきみ)	員　数	1個
時　代	古墳時代	寸法等	口径7.4cm 受部径9.0cm 器高3.6cm
年代世紀	5c～6c	施工会社	有限会社　武蔵野文化財修復研究所
修理内容	1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所を補彩する。		
42列品番号	J-6478	品　質	土製
名　称	陶棺(とうかん)	員　数	1個
時　代	古墳(飛鳥)時代	寸法等	棺身 高62.1cm 長172.7cm 幅48.5cm 棺蓋 高23.6cm 幅65.1cm 長90.9cm
年代世紀	7c	施工会社	アトリエ多摩
修理内容	1. 旧補強用セメントを除去し、解体する。 2. 旧補填部分を除去し、クリーニングする。 3. 再度接合し、欠失部分は合成樹脂で補填する。 4. 補填箇所に補彩を施す。 5. 展示・保管・移動用の台座を作製する。		
43列品番号	J-7532	品　質	土製
名　称	土偶形容器(どぐうがたようき)	員　数	1個
時　代	弥生時代(前期)	寸法等	高36.5cm 縦幅9.3cm 横幅14.2cm
年代世紀	前4c～前3c	施工会社	有限会社　武蔵野文化財修復研究所
修理内容	1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。		
44列品番号	J-8035	品　質	刀身：鉄製、環頭柄頭・鍔・鎺：鉄製 銀象嵌、縁金具：鉄地金銅製
名　称	単鳳環頭大刀(たんほうかんとうたち)	員　数	1本
時　代	古墳時代	施工会社	飛鳥工房

年代世紀	6c		
寸 法 等	刀身：長61.2cm 最大幅2.5cm 厚0.8cm、環頭柄頭：全長9.5cm 環頭短径4.5cm 環頭長径5.5cm 環頭厚1.2cm 柄長5.0cm 柄厚0.5～1.0cm、鍔：長5.3cm 幅4.4cm 厚0.5cm、縁金具：長3.9cm 幅2.5cm 厚0.2cm、鎺：長2.0cm 幅2.9cm 厚2.0cm		
修理内容	1. クリーニングする（象嵌表出含む）。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。		
45 列品番号	J-8036	品　質	鉄製
名　称	鉄刀子(てつとうす)	員　数	1個
時　代	古墳時代	寸 法 等	全長15.8cm 刀身長10.1cm 刀身最大幅1.7cm 茎長5.7cm 茎最大幅1.1cm
年代世紀	6c	施工会社	飛鳥工房
修理内容	1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。		
46 列品番号	J-34947	品　質	土製
名　称	人面付壺形土器(じんめんつきつぼがたどき)	員　数	1個
時　代	弥生時代(中期)	寸 法 等	現存高68.4cm 口径14.3cm
年代世紀	前2～前1c	施工会社	繭山隆司
修理内容	1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。		
47 列品番号	J-36697	年代世紀	6c
名　称	埴輪　桂甲の武人(こくほう　はにわ　けいこうのぶじん)	品　質	土製
指　定	国宝	員　数	1個
指定年月	昭和49年（1974）6月8日　考第35号	寸 法 等	高130.5cm　最大幅39.5cm
時　代	古墳時代	施工会社	繭山隆司
修理内容	1. 修理前調査を行う。 2. 旧接合部分を外し、全体を解体する。 3. 残存する赤色等顔料を残しながら旧接合部分の石膏や汚れを洗浄する。 4. オリジナルの断片を新規に接合する。 5. 欠失部に補填を行う。 6. 新規補填箇所に補彩を行う。		
48 列品番号	J-37834	品　質	土製
名　称	深鉢形土器(ふかばちがたどき)	員　数	1個
時　代	縄文時代(中期)	寸 法 等	口径51.5cm 器高66.0cm
年代世紀	前3000～前2000年	施工会社	繭山隆司
修理内容	1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。		
49 列品番号	J-39038	品　質	青銅製
名　称	銅鐸(どうたく)	員　数	1個
時　代	弥生時代(後期)	寸 法 等	高86.5cm 舞径20.8×18.5cm 裾径(現存部)34.0×32.0cm
年代世紀	1～3c	施工会社	公益財団法人　元興寺文化財研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 津市教育委員会所蔵の同一個体破片を三次元計測して模造した破片を接合する。 5. 欠損した箇所を補填・復元する。 6. 補填箇所に彩色する。		
50 列品番号	J-39374	品　質	籠製漆塗
名　称	漆塗籠棺残片(うるしぬりかごかんざんぺん)	員　数	一括
時　代	古墳(飛鳥)時代	寸 法 等	厚1cm、桟部約1.5cm
年代世紀	7c	施工会社	高妻洋成
修理内容	1. 構造調査、成分分析を行なう。 2. 樹脂含浸・強化・乾燥を行なう。 3. 表面を強化する。		
51 列品番号	J-39512	品　質	土製
名　称	深鉢形土器(ふかばちがたどき)	員　数	1個
時　代	縄文時代(中期)	寸 法 等	口径15.4cm 底径6.5cm 高25.7cm
年代世紀	前3000～前2000年	施工会社	有限会社　武蔵野文化財修復研究所
修理内容	1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。		
52 列品番号	J-39513	品　質	土製
名　称	深鉢形土器(ふかばちがたどき)	員　数	1個
時　代	縄文時代(中期)	寸 法 等	口径26.8cm 高29.7cm
年代世紀	前3000～前2000年	施工会社	有限会社　武蔵野文化財修復研究所
修理内容	1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。		
〈東洋考古〉（1件）			
53 列品番号	TJ-4978	品　質	陶器
名　称	緑釉鳥(りょくゆうとり)	員　数	1個
時　代	楽浪	寸 法 等	高9.8cm 長さ14.8cm 幅5.2cm
年代世紀	1～3c	施工会社	陶磁器修復たま工房
修理内容	1. 接合部分を解体する。 2. 旧補彩部分を除去し、全体をクリーニングする。 3. 再度接合する。 4. 欠失部分に充填、補彩する。		
〈民族資料〉（1件）			
54 列品番号	K-25924	品　質	鉄製鋳造
名　称	吊耳鉄鍋(つりみみてつなべ)	員　数	1個
時　代	北海道アイヌ	寸 法 等	総高14cm 器高11.2cm 口径23.0cm
年代世紀	19c	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。4. 欠失部分を復元する。 5. 補填箇所に補彩する。		
〈和書〉（3件）			
55 列品番号	QA-4382	品　質	着色、折仕立
名　称	《備前国図》(びぜんのくにず)	員　数	1鋪
時　代	江戸時代	寸 法 等	縦187.2cm 横194.3cm
年代世紀	19c	施工会社	㈱墨仁堂
修理内容	1. 本紙の剥落止めを行ない、裏打紙を除去する。 2. 本紙の紙質に合わせた補修紙を作製し、欠失箇所に補紙を施す。 3. 新規裏打ちを行ない、表紙を補修して再使用する。 4. もとの折り目で畳み、表紙を取り付ける。		

56 列品番号	QA-4383	品　質	着色、折仕立
名　称	《三河国図》（みかわのくにず）	員　数	1 舗
時　代	江戸時代	寸 法 等	本紙 縦 187.3cm 横 189.0cm
年代世紀	19c	施工会社	㈱墨仁堂
修理内容	1. 本紙の剥落止めを行ない、裏打紙を除去する。 2. 本紙の紙質に合わせた補修紙を作製し、欠失箇所に補紙を施す。 3. 新規裏打ちを行ない、表紙を補修して再使用する。 4. もとの折り目で畳み、表紙を取り付ける。		

57 列品番号	QA-4384	品　質	着色、折仕立
名　称	《信濃国小諸城図》（しなののくにこもろじょうず）	員　数	1 舗
時　代	江戸時代	寸 法 等	縦 199.2cm 横 166.1cm
年代世紀	19c	施工会社	㈱墨仁堂
修理内容	1. 本紙の剥落止めを行ない、裏打紙を除去する。 2. 本紙の紙質に合わせた補修紙を作製し、欠失箇所に補紙を施す。 3. 新規裏打ちを行ない、表紙を補修して再使用する。 4. もとの折り目で畳み、表紙を取り付ける。		

〈法隆寺献納宝物〉（2 件）

58 列品番号	X-55-20120531-006（伝来未詳品）（今後正式に登録予定）	品　質	絹製、夾纈、綴纈
名　称	裳残欠(もざんけつ)	員　数	1 腰
時　代	奈良時代	寸 法 等	91.5×86.5cm
年代世紀	8c	施工会社	沢田むつ代、三田覚之
修理内容	1. 仮貼りされている和紙からはがす。 2. 部分ごとに解体する。 3. 加湿のうえで仕立て前の一枚裂の状態に展開する。 4. 楮紙にて裏打ちする。 5. 本来の仕立てに従って組み立てる。 6. 展示を兼ねた保存箱に設置する。		

59 列品番号	Y-91-20110426-012(未登録品)（今後正式に登録予定）	品　質	木綿
名　称	双鳥円文木綿裂(そうちょうえんもんもめんきれ)	員　数	一括
時　代	飛鳥～奈良時代	寸 法 等	40.0×47.0cm（最大片）
年代世紀	7c～8c	施工会社	沢田むつ代、三田覚之
修理内容	1. 筆とクリーナーにより埃を除去する。 2. 加湿のうえで展開する。 3. 水分を用いて汚れを除去する。 4. 断片の組み合わせを決定し、形状に合わせたマットを製作する。 5. マットに断片を落とし込んで設置する。		

〈館史資料〉（10 件）

60 列品番号	館史資料-681	品　質	紙本墨書
名　称	重要雑録　明治三十～三十二年 （じゅうようざつろく　めいじさんじゅうからさんじゅうにねん）	員　数	1 冊
時　代	明治 30～32 年(1897～99)	寸 法 等	27.5×18.6cm
年代世紀	19c	施工会社	有限会社　東京修復保存センター
修理内容	1. 冊子本を解装する。 2. 各頁ごとに折れや皺をのばす。 3. 欠失部分に漉き嵌めにて補紙を施す。 4. 表紙は新調し、題簽、ラベルなどは再使用する。 5. 封筒や付箋は、補紙等を施し、もとの場所に貼り付ける。 6. 冊子本に仕立てる。		

61 列品番号	館史資料-1096	品　質	紙本墨書、インク・鉛筆
名　称	内務省関係書類（ないむしょうかんけいしょるい）	員　数	一括(109 枚)
時　代	明治 6 年（1873）-14 年(1881)	寸 法 等	縦 35cm 横 24cm 厚さ 3cm
年代世紀	19c	施工会社	有限会社　東京修復保存センター
修理内容	1. 解体/接合…綴じ直し。表紙を新調する。旧表紙はドライクリーニング、プレスした後、保存箱に収納する。 2. 洗浄…ドライクリーニングする。 3. 強化・整形…フケ部分補強、皺伸ばし、必要に応じて繕いする。リーフキャスティング後、余白を断裁する。綴代部分は余白を多くとる。余白の裁ち落としは本紙毎の寸法で行う。 4. 収納等…中性紙保存箱を作製する。		

62 列品番号	館史資料-1097	品　質	黒表紙 簿冊 ガリ刷り 鉛筆 筆 ペン カーボン 下級紙 上質紙 模造和紙
名　称	帝室博物館保管美術品防空措置ニ関スル件（ていしつはくぶつかんほかんびじゅつひんぼうくうそちにかんするけん）	員　数	1 綴
時　代	昭和 20 年(1945)	寸 法 等	縦 28cm 横 19cm 厚さ 4cm
年代世紀	20c	施工会社	有限会社　東京修復保存センター
修理内容	1. 解体/接合…綴じ直し。現表紙は除去し、表紙を新調する。 2. 洗浄…ドライクリーニングする。クリップ痕を除去する。 3. 強化・整形…フケ部分補強、皺伸ばし、必要に応じて繕いする。綴り前半部の 6 枚、綴り後半部「防空綴」等 33 枚はすべて脱酸処置する。 4. 収納等…中性紙保存箱を作製する。付属の封筒はドライクリーニング、プレスした後、保存箱に収納する。		

63 列品番号	館史資料-1103	品　質	模造和紙 カーボン 墨 インク　鉛筆
名　称	移送品目録（いそうひんもくろく）	員　数	1 綴
時　代	昭和 19 年(1944)	寸 法 等	縦 28.5cm 横 20.5cm 厚さ 1.0cm
年代世紀	20c	施工会社	有限会社　東京修復保存センター
修理内容	1. 解体/接合…綴じ直しする。綴じ紐を交換する。 2. 洗浄…ドライクリーニングする。クリップ痕を除去する。 3. 強化・整形…皺伸ばし、必要に応じて繕いする。表紙、裏表紙は元使いする。1 枚(官教 77 号)脱酸処置する。		

64 列品番号	館史資料-1104	品　質	模造和紙　カーボン　鉛筆
名　称	浅川倉庫移送品目録中止ノ部 （あさかわそうこいそうひんもくろくちゅうしのぶ）	員　数	1 綴
時　代	昭和 19 年(1944)	寸 法 等	縦 25.4cm 横 18.0cm 厚さ 0.5cm
年代世紀	20c	施工会社	有限会社　東京修復保存センター
修理内容	1. 解体/接合…綴じ直しする。 2. 洗浄…ドライクリーニングする。クリップ痕を除去する。 3. 強化・整形…皺伸ばし、必要に応じて繕いする。		

65 列品番号	館史資料-1106	品　質	模造和紙　和紙　カーボン　インク　鉛筆
名　称	疎開関係雑件録（そかいかんけいざっけんろく）	員　数	1 綴
時　代	昭和 20 年(1945)	寸 法 等	縦 27.3cm 横 22.0cm 厚さ 0.5cm
年代世紀	20c	施工会社	有限会社　東京修復保存センター
修理内容	1. 解体/接合…綴じ直しする。綴じ紐交換する。 2. 洗浄…ドライクリーニングする。クリップ痕を除去する。 3. 強化・整形…皺伸ばし、必要に応じて繕いする。表紙、裏表紙は繕いと脱酸処置後で再利用する。1 枚(本文 1 枚目)脱酸処置する。		

66 列品番号	館史資料-1107	品　質	模造和紙 墨 インク　鉛筆
名　称	浅川倉庫疎開品目録訂正書（あさかわそうこそかいひんもくろくていせいしょ）	員　数	1 綴

時　代	昭和19年(1944)	寸 法 等	縦27.3cm 横22.0cm 厚さ0.5cm
年代世紀	20c	施工会社	有限会社　東京修復保存センター
修理内容	1. 解体/接合…綴じ直しする。綴じ紐交換する。 2. 洗浄…ドライクリーニングする。 3. 強化・整形…皺伸ばし、必要に応じて繕いする。		
67列品番号	館史資料-1108	品　質	模造和紙 墨 インク　鉛筆
名　称	内閣貴重書目録和書ノ部（ないかくきちょうしょもくろくわしょのぶ）	員　数	1綴
時　代	昭和19年(1944)	寸 法 等	縦27.3cm 横22.0cm 厚さ0.5cm
年代世紀	20c	施工会社	有限会社　東京修復保存センター
修理内容	1. 解体/接合…必要に応じて綴じ直しする。 2. 洗浄…ドライクリーニングする。 3. 強化・整形…皺伸ばし。必要に応じて繕いを行なう。 4. 収納等…中性紙保存箱を作製する。		
68列品番号	館史資料-1109		
名　称	東京帝室博物館美術品疎開完了並移送増減目録（とうきょうていしつはくぶつかんびじょつひんそかいかんりょうならびにいそうぞうげんもくろく）		
時　代	昭和19年(1944)	員　数	1綴
年代世紀	20c	寸 法 等	縦27.3cm 横22.0cm 厚さ0.5cm
品　質	模造和紙 カーボン 墨 インク	施工会社	有限会社　東京修復保存センター
修理内容	1. 解体/接合…必要に応じて綴じ直しする。 2. 洗浄…ドライクリーニングする。 3. 強化・整形…皺伸ばし、必要に応じて繕いする。		
69列品番号	館史資料-1110		
名　称	当館館蔵品及法隆寺献納宝物並貴重図書武蔵陵墓地内へ移送ニ関スル件 （とうかんかんぞうひんおよびほうりゅうじけんのうほうもつならびにきちょうとしょむさしりょうぼちないへいそうにかんするけん）		
時　代	昭和17年(1942)	員　数	1綴
年代世紀	20c	寸 法 等	縦27.3cm 横22.0cm 厚さ0.5cm
品　質	模造和紙 カーボン 墨 インク	施工会社	有限会社　東京修復保存センター
修理内容	1. 解体/接合…綴じ直しする。 2. 洗浄…ドライクリーニングする。 3. 強化・整形…フケ部分補強、皺伸ばし、必要に応じて繕いする。 4. 収納等…中性紙保存箱を作製する。		

【京都国立博物館】（11件）

＜絵画＞（7件）

1 名　称	維摩居士像	員　数	1幅
指　定	重要文化財	寸 法 等	縦89.0cm　横51.3cm
時　代	中国・南宋　13世紀	施工会社	株式会社光影堂
品　質	絹本墨画		
修理内容	・修理前に写真撮影を行い、現状を調査する。　・本紙と表装裂地を取り外し、裏打紙を除去する。・本紙の汚れを除去する。　・肌裏紙を除去し、新調する。・折れている箇所などに折れ伏せを入れる。・肌裏紙を除去し、新調する。・折れている箇所などに折れ伏せを入れる。・本紙と表装裂地を付廻す。・総裏を打ち、仮張りして十分に乾燥させる。・太巻添軸、二重箱を新調し、包裂に包み収納する。・修理後の写真撮影を行い、修理報告書を作成する。		
2 名　称	蓮池水禽図　俵屋宗達筆	員　数	1幅
指　定	国宝	寸 法 等	縦119cm、長48.3cm
時　代	江戸時代	施工会社	株式会社光影堂
品　質	紙本淡彩		
修理内容	・解体修理により、肌裏紙を除去。新たに肌裏打を施す。・濾過水にて本紙の汚れを除去する。・表装裂地を新調する。軸端は木軸とする。・太巻とし、桐箱を新調する。		
3 名　称	仏涅槃図	員　数	1幅
時　代	平安～鎌倉時代（12～13世紀）	寸 法 等	縦99cm、横67.6cm　表具 縦194.0cm 横89.8cm
品　質	絹本著色	施工会社	株式会社松鶴堂
修理内容	・剥落止めとクリーニングを行い、露出した裏彩色に表補絹を行う。・乾式肌上法により本紙にあてられた肌裏紙を除去し、補絹を行う。・肌裏を打ち、表から補絹箇所に地色あわせの補彩を行う。・増裏を打ち、折伏を入れる。・本紙の色調に合う表装裂を新調する。（金軸再利用）・本紙と表装裂地の付廻しをおこなう。・中裏と総裏を入れ、仮張りの状態で長期間乾燥させる。・表装に仕立てる。・修理過程の記録を残し、報告書を作成する。・修理年度は2カ年とする。・箱は新調しない。		
4 名　称	西湖図	員　数	1枚
時　代	江戸時代	寸 法 等	縦56cm、長114.5cm
品　質	紙本淡彩	施工会社	株式会社光影堂
修理内容	・調査を行う。（採寸、修理前後の調査、撮影）・旧裏打ち紙を除去する。本紙を間接洗浄する・虫損痕などの損傷箇所には似寄の和紙で繕いを行う。・本紙を薄美濃紙で裏打ち（肌裏打ち）を行う。・本紙の裏打ち紙は上下共役１分残す。・巻頭紙、巻末紙を付ける。・本紙に厚みを付ける為に美栖紙で裏打ち（増裏打ち）を行う　・巻子装に仕立てる。・中性紙の箱をつくり納める。		
5 名　称	石燈籠図屏風　伊藤若冲筆	員　数	6曲1双
時　代	江戸時代	寸 法 等	各縦159.0cm×横363.0cm
品　質	紙本墨画	施工会社	株式会社松鶴堂
修理内容	・調査を行う。（採寸、修理前後の調査、撮影）・旧裏打ち紙を除去する。本紙を間接洗浄する・虫損痕などの損傷箇所には似寄の和紙で繕いを行う。・本紙を薄美濃紙で裏打ち（肌裏打ち）を行う。・本紙の裏打ち紙は上下共役１分残す。・巻頭紙、巻末紙を付ける。・本紙に厚みを付ける為に美栖紙で裏打ち（増裏打ち）を行う　・巻子装に仕立てる。・中性紙の箱をつくり納める。		
6 名　称	柿本人麿像	員　数	1幅
時　代	江戸時代	寸 法 等	縦83.3cm×横39.8cm
品　質	絹本著色	施工会社	株式会社光影堂
修理内容	・調査を行う。（採寸、修理前後の調査、撮影）・旧裏打ち紙を除去する。本紙を間接洗浄する・虫損痕などの損傷箇所には似寄の和紙で繕いを行う。・本紙を薄美濃紙で裏打ち（肌裏打ち）を行う。・本紙の裏打ち紙は上下共役１分残す。・巻頭紙、巻末紙を付ける。・本紙に厚みを付ける為に美栖紙で裏打ち（増裏打ち）を行う　・巻子装に仕立てる。・中性紙の箱をつくり納める。		
7 名　称	長藩入京参朝図　遠藤茂平筆	員　数	1巻
時　代	明治時代	寸 法 等	縦48.8cm、長220.0cm
品　質	紙本墨画（朱書あり）	施工会社	株式会社宇佐美修徳堂
修理内容	・調査を行う。・旧裏打ち紙を除去する。・本紙を間接洗浄する。・虫損痕などの損傷箇所には似寄の和紙で繕いを行う。・本紙を薄美濃紙で裏打ち（肌裏打ち）を行う。		

	・本紙の裏打ち紙は上下共約１分残す。・巻頭紙、巻末紙を付ける。・裏面のラベルは巻末紙を貼りつける。・本紙に厚みを付ける為に美栖紙で裏打ち（増裏打ち）を行う。・巻子装に仕立てる。		
＜書跡＞（1件）			
8 名　称	重要文化財　大手鑑（八十葉）	員　数	1帖
時　代	奈良～室町時代（8～16世紀）	寸法等	縦44.6cm、横60.8cm
品　質	両面折帖装	施工会社	株式会社松鶴堂
修理内容	・修理前に本紙現状の写真撮影を行い、本紙表面及び損傷状況、装丁の調査・記録を行う。・墨、朱、金銀泥、顔料等の耐久性を確認し、必要に応じて膠水による剥落止めを施す。・各本紙を画帖本体から取り外し、現在の肌裏紙を除去する。・旧補修紙等を取り除く。・各本紙の損傷状況に応じてクリーニングを行い、経年による酸化物等の汚れを除去する。・解装後に本紙の材質、折目痕等の痕跡、裏面の状況等に応じて本紙補修を施す。・本紙に美濃紙による肌裏打ちを施し、仮張り乾燥を行う。鳥の子紙を貼り合わせて画帖台紙を作製する。画帖台紙に本紙を貼り込む。・二つ折りにした画帖台紙の一面を貼り合わせ、互い違いに開くように連結する。・かい合う本紙同紙の擦れを軽減するため、台紙のノドを除く三方に覆輪を取り付ける。・見返しの金箔台紙を再用する。・新たに表紙を作製する。表紙裂は金襴にて新調し、金具は現在のものを再用する。・画帖台紙に見返し及び表紙を取付け、元通りの画帖仕立てとする。・桐製の保存箱及び包裂を新調し、画帖を収納する。・修理後に写真撮影を行う。・修理報告書を作成する。（28年度より4ヶ年事業）		
＜漆工＞（1件）			
9 名　称	黒漆雲龍螺鈿琵琶	員　数	1基
時　代	琉球　17世紀	寸法等	全長82.5cm　幅32cm　海老尾高さ21.6cm
品　質	木造、漆塗、蒔絵、螺鈿、金銅製金具	施工会社	北村繁
修理内容	・修理前の写真撮影を行う。・作業中に剥落の恐れがある螺鈿や漆塗膜を和紙片で養生する。・クリーニングを行う。・剥離した螺鈿や漆塗膜を圧着する。・漆塗の表面を漆固めで強化する。・螺鈿の欠失部の周囲は際錆を施す。・象牙製の覆手と細い柱は膠や麦漆などで所定の位置に接着する。・浮き上がった捍撥の皮を可能な範囲で平滑になるように接着する。・槽の覆輪を確認し、必要に応じて補強する。・修理後の写真撮影を行う。（28年度より2ヶ年事業）		
＜染織＞（2件）			
10 名　称	重要文化財　紅地雪持ち橘文様唐織小袖	員　数	1領
時　代	桃山時代　16～17世紀	寸法等	丈144.0cm　裄61.5cm
品　質	絹	施工会社	株式会社　松鶴堂
修理内容	・解体を行う。・経年による折れ皺、畳皺を伸ばす。・損傷部分を、部分的に補修する。・金糸などの刺繍部分を補強する。・裏面に補強裂を当てる、あるいは重ね仕立てにするなどして仕立てる。・収納方法を検討し、保存形態に合わせて畳紙などを新調する。		
11 名　称	重要文化財　濃茶麻地菊棕櫚文様帷子	員　数	1領
時　代	江戸時代　17世紀	寸法等	丈155.1cm、裄62.7cm
品　質	絹	施工会社	株式会社　染技連
修理内容	・解体を行う。・経年による折れ皺、畳皺を伸ばす。・損傷部分を、部分的に補修する。・金糸などの刺繍部分を補強する。・裏面に補強裂を当てる、あるいは重ね仕立てにするなどして仕立てる。・収納方法を検討し、保存形態に合わせて畳紙などを新調する。		

【奈良国立博物館】（6件）

＜絵画＞(3件)			
1 名　称	絹本著色釈迦十六善神像 （けんぽんちゃくしょくしゃかじゅうろくぜんじんぞう）	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代　13世紀	寸法等	縦176.5cm　横122.4cm
品　質	絹本著色	施工会社	(株)文化財保存
修理内容	解体修理。本紙料絹の欠失、強い横折れ、裏打紙の劣化などの構造的な不具合を改善し、画面の鑑賞性の向上と本紙の柔軟性回復を目的として、表装を解体し裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。本紙処置を行う前に、顕微鏡等を用いて入念な調査を実施し、デジタル画像データを用いた詳細な損傷図を作成。濾過水を噴霧して吸取紙に汚れを吸収させるクリーニングを施す。旧肌裏紙の除去に際しては乾式肌上げ法を採用する。膠着力の低下した絵具層に、膠などの接着剤を用いて剥落止めの処置を行う。旧補絹は全て除去して、欠失箇所に本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所に地色補彩を行う。新調した裏打紙をあて、折れを軽減するために折れ伏せを施す。表装裂・上下軸木・啄木は新調し、軸首は歪みを調整のうえ再使用。桐太巻添軸・桐印籠箱・裂貼四方帙を新調し、包裂に包んで納品。修理前中後の記録を整理し、報告書を作成する。（継続3か年事業のうちの第2年目）		
2 名　称	絹本著色玄奘三蔵像（けんぽんちゃくしょくげんじょうさんぞうぞう）	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代　13世紀	寸法等	縦142.4cm　横55.5cm
品　質	絹本著色	施工会社	(株)文化財保存
修理内容	解体修理。本紙料絹の欠失や強い横折れなどの構造的な不具合を改善し、画面の鑑賞性の向上と軸装の柔軟性回復を目的として、表装を解体し裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。本紙処置を行う前に、顕微鏡等を用いて入念な調査を実施し、デジタル画像データを用いた詳細な損傷図を作成。濾過水を噴霧して吸取紙に汚れを吸収させるクリーニングを施す。旧肌裏紙の除去に際しては乾式肌上げ法を採用する。膠着力の低下した絵具層に、膠などの接着剤を用いて剥落止めの処置を行う。旧補絹は全て除去して、欠失箇所に本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所に地色補彩を行う。新調した裏打紙をあて、折れを軽減するために折れ伏せを施す。表装は全て新調。桐太巻添軸・桐印籠箱・裂貼四方帙を新調し、包裂に包んで納品。修理前中後の記録を整理し、報告書を作成する。（継続2か年事業のうちの第2年目）		
3 名　称	絹本著色親鸞聖人像（けんぽんちゃくしょくしんらんしょうにんぞう）	員　数	1幅
指　定	重要文化財	寸法等	縦148.8cm　横86.2cm
時　代	鎌倉～南北朝時代　14世紀	施工会社	(株)文化財保存
品　質	絹本著色		
修理内容	解体修理。表装を解体し裏打紙をすべて取り替える本格修理を行う。補絹箇所および補筆箇所を明確にするために損傷図を作った上で作業を進める。裏打紙の除去を行い、クリーニングを施す。剥落止めをして表打ちをし、肌裏紙を除去、取り外した旧補絹の箇所には劣化絹を用いて新たな補絹を施す。肌裏を打ち折れ付せを施す。乾燥後に必要な補彩を施す。修理過程においては必要に応じて光学調査を行う。表装裂、太巻添軸、軸首は再利用。鐶は四ツ鐶に変更し二個を復元新調する。桐印籠箱及び四方帙を新調。（継続2ヶ年事業のうち第1年目）		
＜工芸＞(1件)			
4 名　称	鳳凰文餓金経箱（ほうおうもんそうきんきょうばこ）	員　数	1合
指　定	重要文化財	寸法等	縦20.2cm　横39.3cm　高25.3cm
時　代	中国 元時代（14世紀）	施工会社	北村工房
品　質	木製　黒漆塗　餓金		
修理内容	写真撮影を伴う現状の調査を充分に行い、漆塗膜の欠損部など、二次的な破損の危険性のある箇所を養生した上で表面のクリーニングを行い、その後調合した漆を用いて漆塗膜の強化を図る。その上で、浮き上がった漆塗膜は希釈した麦漆などで接着し、欠損部は漆下地で形状を整える。なお、その際、鎗金部分及び朱漆部分に影響が及ばないよう留意する。木地接合部の損傷は麦漆などを含浸した後、必要に応じて欠損部に刻苧漆などを充填して補強し、漆下地で形状を整える。また打損箇所等も漆下地で補填し、形状を整える。新たに漆下地を施した部分は、表面を研磨して成形した後、周囲と調和するように仕上げる。修理完了後には写真撮影を行い、報告書を作成する。なお、稜角や蓋身の口縁に施された青貝は後補が疑われるが、今回は現状維持修理とし、除去等は行わず、損傷部分には補修を加える。（1ヶ年事業）		

<書跡>(1件)			
5 名　称	法華経（色紙経）（ほけきょう〔しきしきょう〕）	員　数	8巻
指　定	重要文化財	品　質	色紙墨書
時　代	平安時代　12世紀	施工会社	(株)文化財保存
寸法等	（巻第一）縦24.8cm　長922.8cm　（巻第二）縦24.8cm　長1078.5cm　（巻第三）縦24.8cm　長1016.2cm　（巻第四）縦24.8cm　長884.9cm　（巻第五）24.8cm　長961.1cm　（巻第六）24.8cm　長935.3cm　（巻第七）24.8cm　長868.1cm　（巻第八）縦24.8cm　長764.3cm		
修理内容	解体修理。事前調査を行った後、全体を解体する。旧補紙は除去し、その糊跡についても本紙に負担のない範囲で除去する。本紙表面に付着するほこりなど汚れも除去する。水濡れによる汚れは、直接水分を与えず、染色に影響のない範囲で間接的に湿り気を与え軽減させる。暴れ・折れ・皺等にも直接水分を与えず、間接的に湿りを与えて伸ばしプレス乾燥させ、修整する。強い折れには、適宜折れ伏せを施す。紙質調査を行った上で、適切な補修紙を作成し、欠失箇所を補填する。金泥・墨書・朱の状態を確認し、必要に応じ膠水溶液で剥落止めを施す。表紙・見返しの損傷箇所も補修紙により補填し、再利用する。八双・巻緒・軸首・軸木は可能な限り再利用するが、解体後不具合があった場合は新調を検討する。軸付紙は新調し、巻子装に仕立てる。包裂は新調する。保存箱は桐桟蓋二段重ねの中箱と桐台指外箱を新調する。（継続3ヶ年事業のうちの第3年目）		
<考古>(1件)			
6 名　称	斜縁神獣鏡、三角縁神獣車馬鏡〔奈良県佐味田宝塚古墳出土品〕 （しゃえんしんじゅうきょう、さんかくぶちしんじゅうしゃばきょう〔ならけんさみだたからづかこふんしゅつどひん〕）		
指　定	重要文化財	員　数	2面
時　代	古墳時代　4世紀	寸法等	斜縁神獣鏡：径20.9cm、三角縁神獣車馬鏡：径25.5cm
品　質	青銅製　鋳造品	施工会社	(公財)元興寺文化財研究所
修理内容	1.写真撮影、X線撮影、分析、観察等を行い処理前状態の記録を実施する。2.クリーニングを行い汚れや土砂、不必要な錆の除去を行う。また、古い接着剤を除去し可能な範囲で接合箇所を分離する。3.錆の進行を防ぐため、防錆薬剤による安定化処理を行う。4.防錆効果と本体強度の向上のため、合成樹脂の含浸を行う。5.防錆効果をさらに付加させるため、合成樹脂の塗布を行う。6.美観に配慮した接合、補填、整形、つや消し、仕上げ等を行う。7.保管台を作製する。8.薬品や写真記録、作業工程等の修理に関する情報を整理し、保管台と併せて報告書（最低3部）を納品する。（1ヶ年事業）		

【九州国立博物館】（19件）

<絵画>（3件）			
1 名　称	山水図（さんすいず）　1幅（28年度より継続・12ヶ月計画）	品　質	紙本墨画
所蔵者	九州国立博物館	寸法等	本紙：縦85.6cm　横31.5cm　表具：縦167.4cm　横43.6cm　軸長48.4cm
時　代	室町時代・16世紀	施工会社	株式会社文化財保存
修理内容	1.　本紙表面に付着している埃を柔らかい毛の筆などで払って除去する。2.上下軸を取り外し、軸装から解体する。3.膠や布海苔等の適切な材料を選択して、墨に対して剥落止めを行う。4.本紙を表装裂から取り外す。5.本紙表面から濾過水を噴霧して水溶性の汚れを除去する。6.墨の定着状況を確認し、状態に応じて自社濾過水にて1～2%に調整した膠を用いて剥落止めを行う。7.繊維組成分析の結果をもとに本紙補修に適した補修紙を作製する。8.湿式にて肌裏紙の除去を行う。この際、完全に本紙に湿りを与えるのではなく、肌裏紙の除去を丁寧かつ慎重に行う。9.本紙の欠損箇所と周囲に合わせて補修紙を整形し、補紙を行う。10.薄楮紙と小麦澱粉糊を使用して肌裏打ちを行う。11.美栖紙と古糊を使用して1回目の増裏打ちを行う。12.表装裂の裏打紙を除去し、薄楮紙と小麦澱粉糊を使用して肌裏打ちを行う。13.断裂、折れが生じている箇所、今後折れを生じそうな箇所に、極細く切った楮紙の帯にて折れ伏せを施す。14.美栖紙と古糊を使用して本紙の2回目の増裏打ちと表装裂の増裏打ちを行い、仮張りをする。15.仮張りした本紙と表装裂を三段表具の形に付廻しをする。16.美栖紙と古糊を使用して中裏打ちを行い、仮張りをする。17.仮張りから外し、耳折りをする。18.宇陀紙と古糊を使用して総裏打ちを行い、表張りをして十分な乾燥期間をおく。19.補紙箇所のみに本紙の地色に合わせて補彩を施す。20.裏摺りを施して伏せ張りし、十分な乾燥期間をおく。21.軸首を再使用し、上下軸、啄木等の材料は新調して掛軸装に仕立てる。22.包裂、桐太巻添軸、桐印籠箱を新調し、収納する。29年度は9～22を施工。		
2 名　称	海棠白頭翁・萱草百合図（かいどうはくとうおう・かんぞうゆりず）　2幅	品　質	絹本著色
所蔵者	九州国立博物館	寸法等	本紙：縦53.2cm　横102.1cm　表具：縦67.4cm　横206.3cm　軸長72.5cm
時　代	中国・清時代・18世紀	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.　本紙や表具の状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、彩色の調査、料絹の情報について記録を行った後、本紙に負担がかからないように掛軸装を解体し、少墨の湿りにて肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。2.　筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、吸取紙上に本紙を載せ、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて汚れの除去を行う。染み部分においては、除去に適した有機溶媒を用いて、本紙に負担のない範囲で可能な限り除去を行う。3.　彩色の膠着力のテストを行い、必要であれば免膠水溶液13％を用い剥落止めを行う。4.　肌裏除去は、まず初めに裏彩色がある部分の本紙表面をＨＰＣシートにて簀生を施し本紙料絹を固定し、最必要最低限の湿りを入れ肌裏除去を丁寧かつ慎重に行う。5.　本紙料絹の色調に合わせ天然染料にて染色した薄美濃紙を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ち後、さらに増裏紙においても本紙の色調を整えるために天然染料を用いて染色した美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する可能性がある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。6.本紙料絹の色合いを考慮した下染めを施した本紙と同組織の劣化絹を用いて、補絹を行う。7.再使用の表装裂地は補修を施し、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊の混合糊を用いて本紙と裂との付け廻しを行う。8.　本紙と裂の付け廻し後、掛軸装全体のバランスを整えるために、美栖紙にて古糊を用い　て中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻裂を用い、二段目以降は宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う。9.　本紙料絹の持っている地色を基本として行い、それに加え現在の経年変化した料絹の状態を加味した色合いにも考慮し補彩を施す。最終的な調整としては欠失部周辺の状態にも応じ、鑑賞を行う上で支障のないように、協議の上、微調整を行う。10.　軸首は元の象牙軸を再使用し、上下軸木、啄木、打込鐔等（京都：速水製）を新調し、掛軸装に仕立てる。11.　今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐために、桐太巻添軸を新調し、掛軸を太く巻き保存する。新調した羽二重の包み裂に本紙を包み、桐屋野郎箱を新調し納める。		
3 名　称	十八羅漢図巻（じゅうはちらかんずかん）　1巻	品　質	羅漢図は絹本著色、題・賛・跋は紙本墨書。牙軸
所蔵者	千眼寺	寸法等	縦26.5cm　全長1306.8cm
時　代	【画】中国 明時代（清時代）・永暦15年(1661)（順治18年(1661)） 【賛】江戸時代・寛文4年(1664)	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態等を写真・記録に詳細に留め、絹の織組織、紙質検査や紙のあらゆる情報について記録を行った後、本紙に負担がかからないように巻子装を解体し、本紙の継ぎを全て取り外す。2.筆や刷毛等によるドライクリーニングを行う。肌裏紙以外の旧裏打紙を除去後、吸取紙上に本紙を乗せ、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて汚れの除去を行う。3.膠着力の低下と、表面の掠れにより不安定になっている墨、彩色絵具、墨書に免膠水溶液1～2%を用い、剥落止めを行う。4.必要最低限の湿りを与え（湿式）、裏打紙、補修紙の除去を行う。5本紙と同質の繊維による補修紙を準備調整し、新糊（小麦澱粉糊）を用いて補修を行う。本紙と補修紙の重なりによる凹凸が最低限になるように削る。絹本本紙欠失箇所と周囲に本紙と同組織の絹を選定し、本紙料絹の色合いを考慮した下染めを施し、重なりなく補絹を行う。6.　本紙の色調に合わせ天然染料にて染色した薄美濃紙を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ち後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。さらに楮と雁皮の混合紙を用い、新糊と布海苔抽出液の混合糊にて総裏打ちを行う。7.再使用の見返しは補修を施し、新調裂地と共に薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行う。仮張り後、表紙裂と返しを合わせる。8.絹本本紙については補彩を施す。紙本本紙については、継いで画と並んだ際に違和感を生じる箇所については、視覚的に支障のないように微調整を行う。9.軸巻き紙は元の状態で軸に取り付けることとする。軸首は再使用、中軸、八双、紐、表紙裂を新調し、巻子装に仕立てる。10.今後新たな折れや損傷の進行を防ぐために、桐太巻添軸を新調し、巻子を太く巻き保存する。羽二重の包裂に包み、新調した桐屋郎箱に納入する。		

＜書跡＞（３件）			
4 名　称	大方広仏華厳経巻第十五(泉福寺焼経)（だいほうこうぶつけごんきょうまきだいじゅうご（せんぷくじやけきょう））　１巻（28 年度より２ヵ年計画）		
所蔵者	九州国立博物館	寸法等	本紙：縦 25.5 ㎝　全長 1279.1 ㎝
時　代	平安時代・12 世紀	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
品　質	藍紙墨書		
修理内容	1.本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査や本紙のあらゆる情報について記録を行った後、焼損部分の断片状の剥落をレーヨン紙にて保護、養生しながら展開し、料紙の継ぎ部分を外す。2.焼損によって天地小口が収縮し、中央部分との均衡が崩れたことを原因とする暴れや皺を改善し、巻子として安全に巻くために、ゴアテックス等を用いて部分ごとに水分量を調整しながら本紙に湿りを与え、プレス乾燥させ平らに整える。3.本紙の紙質、状態に合わせた補修紙を作製し本紙欠失箇所に補修を行う。焼損の著しい箇所に関しては、欠失箇所に加えて周辺の劣化が見られる部分の補強も検討する。折れなどの脆弱な箇所には必要に応じて薄楮紙などを使用した補強を行う。原則裏打ちは施さないが、巻頭の損傷の著しいものに関しては裏打ちによる補強も検討する。4.本紙の紙質、状態に合わせた補修紙を作製し本紙欠失箇所に補修を行う。5.各料紙を元通りに継ぎ直し、新調した表紙、軸巻紙、軸木、軸首、紐を取り付けて巻子装に仕立てる。6.今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐ為に、頭切桐太巻添軸を新調し、巻子を太く巻き保存する。新調した羽二重の包裂に本紙を包み、桐屋郎箱を新調し納める。29 年度は 4～6 を施工。		
5 名　称	大般若波羅蜜多経　春日版（だいはんにゃはらみたきょう　かすがばん）３巻	品　質	紙本墨刷
所蔵者	九州国立博物館	寸法等	巻第二十七：縦 26.7 ㎝　全長 934.1 ㎝　巻第五十六：縦 26.9 ㎝　全長 975.0 ㎝　巻第二百二十：縦 26.4 ㎝　全長 838.8 ㎝
時　代	鎌倉時代・弘安８年(1285)	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査や本紙のあらゆる情報について記録を行った後、八双と軸木を取り外す。文字のズレがある箇所の継ぎを外す。2.朱点部分の膠礬力のテストを行い、必要であれば免膠水溶液 1～2%を用い剥落止めを行う。3.折れや水損によって天地小口が収縮し、中央部分との均衡が崩れた暴れや皺を改善し、巻子として安全に巻くために、ゴアテックスを用いて部分ごとに水分械を調整しながら本紙に湿りを与え、プレス乾燥させ平らに整える。4.本紙の紙質、状態に合わせた補修紙を作製し本紙欠失箇所に補修を行う。 DIIPS 法にて補修紙を作製する。折れなどの脆弱な箇所には、必要に応じて薄楮紙などを使用した補強を行う。5.　文字のズレが生じていた継ぎ箇所を正常に継ぎ直し、軸木は再使用し、新調した軸巻紙・ 紐を取り付けて巻子装に仕立てる。6.今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐために、桐太巻添軸を新調し、 掛軸を太く巻き保存する。新調した羽二重の包み裂に本紙を包み、３巻入桐屋野郎箱を新調し納める。		
6 名　称	賦何路連歌（ふすなにみちれんが）１巻	品　質	紙本墨書
所蔵者	福岡県立アジア文化交流センター	寸法等	縦 18.4 ㎝　横 507.9 ㎝
時　代	室町時代・元亀２年(1571)	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態等を写真・記録に詳細に留め、紙質検査を含む料紙の情報について記録を行った後、本紙に負担がかからないように巻子装を解体し、料紙の継ぎを外す。2.筆や刷毛等によるドライクリーニングを行う。肌裏紙以外の旧裏打紙を除去後、吸取紙上に本紙を乗せ、濾過水（を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて汚れの除去を行う。3.膠着力の低下と、表面の掠れにより不安定になっている墨書に免膠水溶液 1～2%を用い、墨の剥落止めを行う。膠水溶液を塗布する際にも必要最低限に留め、膠による、光沢などが出ないように細心の注意を払い行う。4.必要最低限の湿りを与え、裏打紙、補修紙の除去を行う。5.本紙と同質の繊維による補修紙を準備調整し、新糊（小麦澱粉糊）を用いて補修を行う。本紙と補修紙の重なりによる凹凸が最低限になるように補修紙の削り補修を行う。6.本紙の色調に合わせ天然染料にて染色した薄美濃紙を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ち後、美栖紙にて古糊（新糊を 10 年間涼暗所で保管した糊）を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。さらに楮と雁皮の混合紙を用い、新糊と布海苔抽出液の混合糊にて総裏打ちを行う。7.再使用の見返しは補修を施し、新調裂地と共に薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行う。仮張り後、表紙裂と返しを合わせる。8.補修箇所の最終的な調整として、欠失部周辺の状態にも応じて視覚的に支障のないよう、補彩による微調整を行う。9.本紙と同質の繊維による軸巻き紙を選定し、軸首は再使用、中軸、八双、紐、表紙裂を新調し、巻子装に仕立てる。見返しは上述の通り際使用とする。10.今後新たな折れや損傷の進行を防ぐために、桐太巻添軸を新調し、巻子を太く巻き保存する。羽二重の包裂に包み、新調した桐屋郎箱に納入後、旧保存箱と共に新調した漆塗台指外箱に納める。		
＜彫刻＞（１件）			
7 名　称	阿弥陀如来坐像（あみだにょらいざぞう）　１躯	品　質	木造
所蔵者	九州国立博物館	寸法等	像高 56.0 ㎝　膝張 41.5 ㎝　膝奥 32.0 ㎝
時　代	平安時代・10 世紀	施工会社	公益財団法人美術院
修理内容	1.筆・刷毛等で丁寧に埃を掃き取り、舞い上がった埃はミュージアムクリーナーで吸い取り除去する。2.虫蝕朽損により劣化した木質部や、劣化する布貼り及び木屎漆にメチルセルロース水溶液を含浸し、安定をはかる。漆箔層の浮き上がりにアクリル樹脂エマルション及び水溶性アクリル樹脂を用いて剥落止めを行う。3.虫蝕朽損部や干割れには、木屎漆あるいはブチラール樹脂 20% 溶液＋砥の粉＋顔料を補填し、安定をはかる。彫刻面に散在する虫穴や、虫道が露出し損傷移行の危険性がある箇所は、ブチラール樹脂＋砥の粉＋顔料（箇々の虫蝕箇所周囲の色味に合わせたもの）をセロファン紙で作った三角錐型容器に詰め、充填する。4.古色修整工程。過去の修理において施された古色の変色部について、精製水を用いて綿棒等で一旦除去し、新たに漆・水干絵具・アクリル絵具を用いて修整を行う。		
＜染織＞（７件）			
8 名　称	壁掛け（パランポア）白地花樹文様更紗（かけかけ（ぱらんぽあ）しろじかじゅもんようさらさ）　１枚（27 年度より３ヵ年計画）	品　質	木綿
所蔵者	九州国立博物館	寸法等	幅　200.0 ㎝　長さ　282.0 ㎝
時　代	18-19 世紀（インド・コロマンデル海岸）	施工会社	一般社団法人国宝修理装潢師連盟
修理内容	1.写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.中央の縫い続きで縫いが離れている箇所は、旧線で継ぎを補足する。4.生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6.欠損端口の補修を想定する。7.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。29 年度は 5～8 を施工。		
9 名　称	装飾布　藍地植物文様更紗（そうしょくふ　あいじしょくぶつもんようさらさ）　１枚（27 年度より３ヵ年計画）	品　質	木綿
所蔵者	九州国立博物館	寸法等	幅　99.0cm 長さ　262.0cm
時　代	15-16 世紀	施工会社	一般社団法人国宝修理装潢師連盟
修理内容	1.写真撮影を行い、生地の状態を調査する。仕立てや旧補修などはないことから、解体は行わない。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.生地整えについては、検討した上で行う。残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。4.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。5.欠損端口の補修を想定する。6.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。7.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 29 年度は 4～7 を施工。		

10 名　称	装飾布　白地人物文様更紗(人形手)（そうしょくふ　しろじじんぶつもんようさらさ（にんぎょうで））　1枚（27年度より3ヵ年計画）	品　質	木綿
所蔵者	九州国立博物館	寸法等	幅　105 cm 長さ　490 cm
時　代	17-18世紀　（インドネシア　スラウェシ島トラジャ伝来）	施工会社	一般社団法人国宝修理装潢師連盟
修理内容	1.写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.仕立てはないため、接合および組立工程はなし。4.生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6.欠損端口の補修を想定する。7.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8. 現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 29年度は5～8を施工。		
11 名　称	サリー断片　赤地立木人物文様紋織（さりーだんぺん　あかじたちきじんぶつもんようもんおり）　1枚（27年度より3ヵ年計画）	品　質	木綿、撚金糸、絹
所蔵者	九州国立博物館	寸法等	幅　110 cm 長さ　171.5 cm
時　代	19-20世紀	施工会社	一般社団法人国宝修理装潢師連盟
修理内容	1.写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.補修後の生地の両端は元の針穴を辿って旧状に仕立てる。4.生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6.欠損端口の補修を想定する。7.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 29年度は5～8を施工。		
12 名　称	サリー　白地人物ペーズリー文様紋織（さりー　しろじじんぶつぺーずりーもんようもんおり）　1枚（27年度より3ヵ年計画）	品　質	木綿、金銀糸、絹、ミラー
所蔵者	九州国立博物館	寸法等	幅　115 cm 長さ　488 cm
時　代	19-20世紀	施工会社	一般社団法人国宝修理装潢師連盟
修理内容	1.写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.仕立てはないため、接合および組立工程はなし。4.生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6.欠損端口の補修を想定する。7.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 29年度は5～8を施工。		
13 名　称	茜地山水松鶴文更紗（あかねじさんすいまつつるもんさらさ）　1枚（27年度より3ヵ年計画）	品　質	木綿
所蔵者	九州国立博物館	寸法等	縦 312.0 cm　横 224.0 cm
時　代	17-18世紀　（インド・コロマンデル海岸）	施工会社	一般社団法人国宝修理装潢師連盟
修理内容	1.写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.仕立てはないため、接合および組立工程はなし。4.生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6.欠損端口の補修を想定する。7.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 29年度は5～8を施工。		
14 名　称	前田家伝来名物裂帖（まえだけでんらいめいぶつぎれちょう）　1冊（29年度より3ヵ年計画）	品　質	冊子装
所蔵者	九州国立博物館	寸法等	縦 109.6 cm　横 45.5 cm
時　代	元～明時代・13-17世紀	施工会社	株式会社岡墨光堂
修理内容	1.解体に耐えられないと判断した雲母の浮き箇所に、剥落止めの処置を施す。台紙を表、中、裏の3層に剥がし、糸綴じ部分と中層を残し表裏それぞれをノド部分から切り離す。ただし、構造的に困難であると判明した場合は、糸綴じを切り台紙を表裏2倍に剥がす。2. 解体前に、表面的な埃を、柔らかい刷毛か筆で裂を傷めないよう慎重に払う。3. 台紙を表、 裏に剥がし分離した後、補強のために新調した1 mm厚程度の台紙と貼り合わせる。新調する台紙は現状と同じ大きさで、厚みのある堵紙（江渕栄貫製）を数枚貼り合わせて、薄くても軽拡で強度のあるものにする。それぞれを貼り合わせる糊は、小麦澱粉糊に布海苔を混合してやや柔軟性のある仕上がりにする。裂や金糸などの浮きは、糊差しにて止める。印金や雲母の剥離は、膠水溶液や布海苔にて部分的な剥落止めを行う。4.38 面の台紙を引出し1段に1面ずつ入れる桐製箪笥を作製する。ただし、箪笥は9段のものと10段のものを2掉ずつ作製し、収蔵庫の棚に収納出来るようにする。台紙を引出しに収納する際には、染色品の保護に使用されている、酸とアルカリを含まないノンバッファー紙（製品名：ピュアガード）を台紙表面全体に被せる。29年度は1～2と、3の一部を施工。		
<考古>（2件）			
15 名　称	壺形土器（つぼがたどき）　1点	品　質	土製
所蔵者	九州国立博物館	寸法等	高 28.0 cm　最大径 20.5 cm
時　代	縄文時代・前2000年-前1000年	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.資料の現状を把握し、表面に付着した泥を刷毛や竹串、デザインカッターやリュウター（回転ハケ）、エタノールや注射器、綿棒等でクリーニングを行う。この際の除去物は集めて別保管とする。2.必要に応じて脆弱部分（破断面は全て）にパラロイドB72（アセトン希釈： 5％程度）を塗布し、樹脂による強化を行う。その際、器表裏面の質感の変化を最小限となる様に注意する。3.欠け部分（ガジリ等）にエポキシ樹脂（アラルダイト XNR-6504:主剤、XNH- 6504 : 硬化剤）、パラロイドB72(溶剤アセトン）とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合した物を使用して充填復元をおこなう。4.修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩色を施す。		
16 名　称	金銅単龍環頭柄頭付大刀（こんどうたんりゅうかんとうつかがしらつきたち）　1振残欠共13点		
所蔵者	九州国立博物館	品　質	金銅、銀
時　代	古墳時代・6～7世紀	施工会社	株式会社芸匠
寸法等	（単龍柄 頭）縦8.1 cm 、横6.5 cm、厚1.1 cm　（銀線　巻柄）銀製帯金具幅3.5 cm 、幅1.5 cm 、銀線幅0.2 cm　（足金物）各幅0.7 cm、厚0.1 cm（方形透金具残欠）復元長45.3 cm、幅 1.6 cm、厚さ 0.1 cm		
修理内容	1.対象資料の現状を把握し、埃や錆等のクリーニングを行う。この際保護の必要のある有機物（布・繊維等）はアクリル樹脂で塗布し、保護措置を行う。銀線巻柄残欠は台紙より外す。2.純水を定期的に交換しながら、採取した水の陰イオンがイオンメータで測定し 0 ppmに近くなるまで脱塩処理を行う。4. （防錆処理・樹脂含浸）ベンゾトリアゾールのアルコール溶液に含浸し、防錆処理を行う。含浸後一定期間乾燥させる。乾燥後パラロイドNAD10（溶剤ソルベントナフサ）を減圧含浸させる。含浸後一定期間乾燥させ、資料の樹脂強化を行う。5.エポキシ樹脂（アラルダイトXNR-6504:主剤、XNH-6504 : 硬化剤）、パラロイドB72(溶剤アセトン）とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合したものを使用して、目地部分の充填成形をおこなう。6.修理箇所にアクリル絵具で補彩色を施す。7.資料の形状に合わせ安定台座（樹脂ベッド）を製作し、それを台板に載せる様にする（主材料は木製）。方形透金具残欠は鞘に用いる金具なので、鞘に似せた形状の木製の台を作製し、その上に載せる様にする。		
<歴史資料>（3件）			
17 名　称	重要文化財 対馬宗家関係資料(つしまそうけかんけいしりょう)　18箱12巻（26年度より4ヵ年計画）	品　質	紙本墨書
所蔵者	九州国立博物館	寸法等	本紙　縦18.0-34.5 cm　横45.5-56.9 cm
時　代	江戸時代・18世紀	施工会社	一般社団法人国宝修理装潢師連盟

修理内容	1. 本紙や装丁状況を観察し、寸法及び損傷状態を写真や記録に詳細に留め、修理前の調査を行った後、継を外し、巻子装を解体する。2. 筆や刷毛を用いてドライクリーニングを行い、本紙表面に付着した埃等を除去する。3. 墨線の調査を行い、水によるクリーニングの作業に対して危険な状態になる可能性がある墨線に対して、兎膠水溶液1～2%を用い、剥落止めを行う。4. 本紙下に吸い取り紙を敷き、濾過水を本紙表面より噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。5. クリーニング後の本紙表面の調査を行い、経年変化による劣化により膠着力が低下している墨線に対して1～2%膠水溶液を用い、剥落止めを行う。6. レーヨン紙にて本紙表面の養生を行った後、最小限の湿りを与えることで肌裏紙の除去を行う。7. 虫損による料紙欠失箇所に、裏面より本紙基調色に染色した本紙と同繊維の補修紙を作製し、補修を施す。表紙裂も同様に欠失箇所に似寄りの組織の平絹具引き加工を施して補絹を施す。8. 本紙に薄美濃紙（染色は天然染料にて行う）を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。9. 表紙裂と見返しを、新糊と布海苔の混合糊にて合わせ、仮張りし十分な乾燥期間をおく。10. 折れ伏せ後、楮と雁皮の混合紙を用いて、新糊と布海苔の混合糊にて総裏打ちを行う。総裏打ち後は仮張りし、十分な乾燥期間をおく。11. 表紙裂の地色を基調色とし、補絹箇所に補彩を施す。12. 各料紙を継ぎ、巻末に新調の軸巻紙を取り付ける。軸木、紐は再使用し、巻子装に仕立てる。13. 桐太巻添軸を新調し、巻子を太く巻き保存する。新調した包み裂に本紙を包み、中性紙箱を新調し納める。29 年度は巻 10～12 を施工。		
18 名　称	重要文化財（一部）東大寺等関係文書（とうだいじとうかんけいもんじょ） 1 巻 3 通（28 年度より 2 ヵ年計画）	品　質	紙本墨書
所 蔵 者	九州国立博物館	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
時　代	【巻子】平安時代・天暦 8 年(954)-長保 4 年(1002) 【一紙文書】平安時代・久安 4 年(1148)、鎌倉時代・宝治 3 年(1249)、文永 8 年(1271)		
寸 法 等	巻子:縦 29.1 cm 横 758.6 cm　久安 4 年文書:縦 32.2 cm　横 52.5 cm　宝治 3 年文書:縦 34.3 cm　横 53.0 cm　文永 8 年文書:縦 30.8 cm　横 52.7 cm 紙付軸:縦 32.3 cm　横 18.8 cm　軸長 34.2 cm		
修理内容	1. 本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態等を写真・記録に詳細に留め、紙質検査等、料紙のさまざまな情報についても記録する。上記調査後、巻子は本紙継ぎ箇所に少量の湿りを与えて文書一通毎に解体する。2. 膠着力の低下と、表面の擦れ等により不安定になっている墨書及び朱印に、兎膠水溶液 1～2%を用い、剥落止めを行う。3. 筆や刷毛等によるドライクリーニングを行う。4. ゴアテックス等を用いて最小限の湿りを間接的に与え、旧補修紙の除去を行う。5. 旧補修紙のないものについては、ゴアテックス等を用いて最小限の水蒸気による湿りを間接的に与え、軽い荷重をかけて乾燥させることで平らに整形する。6. 各々の本紙の紙質、状態に合わせた補修紙を作製し、新糊（小麦澱粉糊）を用いて本紙欠失箇所に補修を行う。7. 各々の本紙の紙質、状態に合わせた補修紙を作製し、新糊（小麦澱粉糊）を用いて本紙欠失箇所に補修を行う。8. 基本的に裏打ちは施さないが、本紙料紙の劣化が著しく、本紙のみでは形態の保持が困難と判断される箇所については、薄く整形した補修紙もしくは天具帖等による薄楮紙をあてる、若しくは裏打ちを施すことで補強する。9. 各本紙を元の順番に継ぎ直し、補修した軸巻き紙と接続する。軸棒は再使用するが失われたと思われる軸頭は復元しない。装丁形態については、修理内容及び過程を踏まえ、所有者と十分な協議の上、決定する。10. 巻子は、今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐため桐太巻添軸を新調し、巻子を太く巻いて保存する。巻頭には覆い表紙を新調して巻き、紐でとめる。新調した羽二重の包裂に本紙を包み、桐屋郎箱を新調し、納める。一紙文書は、装丁によって、畳紙を新調して納め、中性紙保存箱に納入する、若しくは太巻添軸を新調し巻子とともに二幅入桐屋郎箱に納入する。29 年度は 6～10 を施工。		
19 名　称	安南国副都堂福義侯阮粛書 （あんなんこくふくとどうふくぎこうげんしゅくしょ）　1 幅	品　質	紙本墨書
所 蔵 者	九州国立博物館	寸 法 等	縦 115.4 cm　横 48.6 cm　軸長 54.4 cm　軸径:2.8 cm
時　代	ベトナム・後黎朝　光興 14 年(1591)	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1. 本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査を含む紙のあらゆる情報について記録を行った後、本紙に負担がかからないように掛軸装を解体する。2. 筆や刷毛などによるドライクリーニングを行う。肌裏紙以外の旧裏打紙を除去後、吸取り紙上に本紙を載せ、濾過水（水道水をポリプロピレン及び活性炭フィルターに通し、鉄分と塩素分を除去した水）を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて汚れの除去を行う。以降の作業において抱えている汚れによりシミや際付きを起こさないことを前提とする。またその際、現状の作品の風合いを損なわないようにするため、過剰なクリーニングは行わず、必要最小限のクリーニングに留めることとする。3. 膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている墨書と朱印に、免膠水溶液 1～2 %を用いて剥落止めを行う。膠水溶液を塗布する際にも必要最小限に留め、膠塗布によって光沢などが出ないように細心の注意を払い行う。4. 必要最小限の湿りを与え、裏打紙、補修紙の除去を行う。5. 本紙と同質の繊維による補修紙を準備調整し、新糊（小麦澱粉糊）を用いて補修を行う。本紙と補修紙の重なりによる凹凸が最小限になるように削り補修を行う。6. プレス整形にて本紙を整える。裏打ちが必要な場合は新糊を用いて、簿美濃紙（美濃：長谷川製）で裏打ちを行う。7. 平置きのままで中性紙マット装に仕立て、桐屋郎箱を新調し納入する。		

1-(1)-③-6 文化財修理データのデータベース化件数

平成30年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館
合　計		296	47	180　(5,017)	69　(883)
絵　画		123	3	96 (2,058)	24 (296)
書　跡		47	0	40 (1,121)	7 (190)
彫　刻		52	0	27 (1,337)	25 (252)
建　築		0	0	0 (15)	0 (1)
金　工		3	3	0 (2)	0 (4)
刀　剣		1	1	0 (0)	0 (0)
陶　磁		2	2	0 (1)	0 (0)
漆　工		11	0	0 (39)	11 (92)
染　織		25	16	7 (187)	2 (14)
考　古		18	17	1 (15)	0 (0)
歴史資料		7	0	7 (200)	0 (31)
和　書		1	1	0 (0)	0 (0)
民族資料		1	0	1 (4)	0 (2)
その他		1	0	1 (38)	0 (1)
東洋	絵　画	0	0		
	書　跡	0	0		
	彫　刻	0	0		
	金　工	0	0		
	陶　磁	2	2		
	漆　工	1	1		
	染　織	0	0		
	考　古	0	0		
	民　族	0	0		
法隆寺献納宝物		0	0		
黒田記念館収蔵品		0	0		
館史資料(収蔵品外)		1	1		

※ 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

※ 記載の件数は当年度新規入力件数、（　）内は当年度までの新規入力件数の累計。

※ 京都国立博物館の（　）内の記載については、24年度統計表まで、追加・更新件数を含む当年度のデータ入力の件数を記載していたが、25年度以降上記に統一している。

1-(2) 展覧事業

1-(2)-① 平常展

1-(2)-② 特別展等

1-(2)-①・②-1 来館者数推移（入館料別）（過去５ヵ年） （後述の資料に記載）◎共通資料a-①

1-(2)-①・②-2 来館者数推移（展覧会別）（過去５ヵ年） （後述の資料に記載）◎共通資料a-②

1-(2)-①・②-3 平常展・特別展・海外展 （後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-4 平常展の展示替件数 （後述の資料に記載）◎共通資料 a-③

1-(2)-①-5 平常展の展示総件数 （後述の資料に記載）◎共通資料 a-③

1-(2)-①-6 平常展来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料 e

1-(2)-②-7 特別展来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料 e

1-(2)-①-8 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置

平成30年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
100%	100%	100%	100%
137件(外国語)	50件(外国語)	76件(外国語)	64件(外国語)
137件(日本語)	50件(日本語)	76件(日本語)	64件(日本語)

パネル等（パネルと同内容の配布資料・音声ガイドを含む）

【東京国立博物館】計137件(外国語)/137件(日本語)

- 総合文化展（特集を除く） 99件（外国語）／99件（日本語）含国宝室
- 特集 28件（外国語）／28件（日本語）
- 黒田記念館 10件（外国語）／10件（日本語）

【京都国立博物館】計51件(外国語)/ 51件(日本語)

- 名品ギャラリー（特集展示等を除く） 35件（外国語）／35件（日本語）
- 特集展示「名刀聚英―永藤一の愛刀―」 1件（外国語）／ 1件（日本語）
- 特集展示「古書画へのまなざし―伴實コレクション―」 1件（外国語）／ 1件（日本語）
- 特集展示「大政奉還150周年記念　鳥羽伏見の戦い」 1件（外国語）／ 1件（日本語）
- 特集展示「京都水族館連携企画　京博すいぞくかん―どんなおさかないるのかな？」 5件（外国語）／ 5件（日本語）
- 特集展示「いぬづくし―干支を愛でる―」 1件（外国語）／ 1件（日本語）
- 特集展示「御所文化を受け継ぐ―近世・近代の有職研究―」 1件（外国語）／ 1件（日本語）
- 特別企画「貝塚廣海家コレクション受贈記念　豪商の蔵―美しい暮らしの遺産―」 5件（外国語）／ 5件（日本語）
- 特集展示「雛まつりと人形」 1件（外国語）／ 1件（日本語）

※26年9月より導入した4言語（日・英・中・韓）の音声ガイドを引き続き提供した。

【奈良国立博物館】計76件(外国語)/76件(日本語)

- 名品展（珠玉の仏たち） 7件（外国語）／ 7件（日本語）*1,*2
- 名品展（珠玉の仏教美術） 4件（外国語）／ 4件（日本語）
- 名品展（青銅器館） 12件（外国語）／12件（日本語）
- 特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」 4件（外国語）／ 4件（日本語）*2
- 特集展示「新たに修理された文化財」 9件（外国語）／ 9件（日本語）*2(一部)
- 特集展示「名もなき知識、発願者たち（写経編）」 1件（外国語）／ 1件（日本語）*2
- 特別陳列「お水取り」 2件（外国語）／ 2件（日本語）*2
- 特別陳列「薬師寺の名画」 4件（外国語）／ 4件（日本語）*2
- 模型展示「仏像の手の形（印相）」 9件（外国語）／ 9件（日本語）
- 模型展示「仏像の制作過程」 14件（外国語）／14件（日本語）
- パネル展示「奈良国立博物館の概要」 3件（外国語）／ 3件（日本語）*3
- パネル展示「奈良国立博物館の歴史」 3件（外国語）／ 4件（日本語）*3

・パネル展示「仏像の見方」　4件（外国語）／ 4件（日本語）*3

*1 28年4月よりなら仏像館において3言語（英・中・韓）の音声ガイドを提供。29年10月より日本語音声ガイドを追加提供した。

*2 日・英・中・韓の4カ国語を併記

*3 日・英・仏・中・韓の5カ国語を併記

【九州国立博物館】計 64 件(外国語)/64 件(日本語)

・文化交流展示（トピック展示・特別公開を除く）　40 件（外国語）／40 件（日本語）

・文化交流展示　トピック展示・特別公開等　24 件（外国語）／24 件（日本語）

うち「水の中からよみがえる歴史―水中考古学最前線―」　5 件（外国語）／ 5 件（日本語）

「対馬―遺宝にみる交流の足跡―」　5 件（外国語）／ 5 件（日本語）

「大分県国東宇佐六郷満山展～神と仏と鬼の郷～」　5 件（外国語）／ 5 件（日本語）

「白隠さんと仙厓さん」　4 件（外国語）／ 4 件（日本語）

「災害に学ぶ・備える～熊本地震と文化財レスキュー～」　1 件（外国語）／ 1 件（日本語）

新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」　4 件（外国語）／ 4 件（日本語）

・3 言語（英・中・韓）音声ガイドを提供した。

1-(2)-③ 観覧環境の向上等

1-(2)-③-1 観覧環境に関する来館者アンケート　（後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-③-2 多言語表記に関する外国人アンケート　（後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-③-3バリアフリー施設・設備の設置状況

平成30年3月31日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
トイレ(多目的トイレ、車いす対応)	14ヵ所 （本館5、平成館2、東洋館1、法隆寺宝物館1、資料館1、黒田記念館2、表慶館2（要介添え））	8ヵ所 （平成知新館4、明治古都館1、南門施設1（乳児ベッド併設）、屋外トイレ1、文化財保存修理所1）	3ヵ所 （東新館1、地下回廊2）	7ヵ所 （本体建物）
エレベータ(手すり、押しボタン、車いす対応)	10基 （本館1、平成館1、東洋館4、法隆寺宝物館1、黒田記念館2、表慶館1）	5基 （平成知新館4） 昇降装置1基 （旧管理棟1）	4基 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、東新館1、西新館1）	2基 （本体建物）
スロープ	5ヵ所 （本館、東洋館、法隆寺宝物館、表慶館、黒田記念館）	4ヵ所 （平成知新館1、明治古都館1、南門施設1、文化財保存修理所1）	3ヵ所 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、西新館1）	1ヵ所 （通用口）
ハンディキャップ優先駐車	2台	3台	足の不自由な方に対して有	23台
車椅子	28台 （正門・正門プラザ4、本館4、東洋館2、平成館15、法隆寺宝物館2、資料館1）	13台 （検札4、平成知新館7、倉庫保管2）	15台	28台
乳幼児用設備	○ベビーカー　2台 ○ベビーシート　15ヵ所 ○ベビーチェア　12ヵ所 ○授乳室　1ヵ所	○ベビーカー　8台 ○ベビーシート　12ヵ所 ○ベビーチェア　11ヵ所 ○授乳室　2ヵ所	○ベビーシート　2ヵ所 ○ベビーキープ　1ヵ所 ○おむつ交換台　1ヵ所	○ベビーカー　10台 ○ベビーシート　15ヵ所 ○ベビーチェア　6ヵ所 ○幼児用補助便座　6ヵ所 ○授乳室　1ヵ所
自動扉	61台(多目的トイレ含む)	33台(多目的トイレ含む)	13台	19台(多目的トイレ含む)
29年度整備事項			視覚障害者用点字鋲の設置（なら仏像館エントランス）	

1-(2)-③-4 音声ガイド実施状況

平成30年3月31日現在

東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
28年度計（台）：	282,187台	29年度計（台）：	128,728台	29年度計（台）：	63,751台	29年度計（台）：	52,425台
・特別展「茶の湯」	55,823台	・特別展「海北友松」（日本語版）	24,699台	・特別展「快慶　日本人を魅了した仏のかたち」	16,331台	・文化交流展示	11,238台
・日タイ修好130周年記念特別展「タイ　～仏の国の輝き～」	23,706台	うち日本語版	23,609台	日本語版	15,284台	うち英語版	2,426台
・フランス人間国宝展	―	うち英語版	471台	英語版	168台	うち中国語版	3,648台
・興福寺中金堂再建記念特別展「運慶」	132,846台	うち中国語版	506台	中国語版	843台	うち韓国語版	5,164台
・特別展「仁和寺と御室派のみほとけ ― 天平と真言密教の名宝 ―」	69,812台	うち韓国語版	113台	韓国語版	36台	・特別展「タイ～仏の国の輝き～」	6,264台
・アラビアの道ーサウジアラビア王国の至宝 29年度期間30.1.23～3.31	―	・特別展「国宝」（日、英、中、韓）	94,052台	・1000年忌特別展「源信ー地獄・極楽への扉」	8,495台	日本語版	6,177台
		うち日本語版	90,165台	日本語版	6,361台	英語版	27台
		うち英語版	1,218台	英語版	149台	中国語版	40台
（参考）今年度ダウンロード件数		うち中国語版	2,404台	中国語版	1,937台	韓国語版	20台
・「トーハクなび」（件）		うち韓国語版	265台	韓国語版	48台	・特別展「世界遺産　ラスコー展　クロマニョン人が見た世界」	13,703台
Android版	3,411件	名品ギャラリー	9,977台	・特別展「第69回正倉院展」	33,344台	日本語版	13,477台
iOS版	13,477件	うち日本語版	3,012台	日本語版・一般向け	31,134台	英語版	71台
アプリ端末貸出（日英）	12,099件	うち英語版	917台	日本語版・子供向け	1,010台	中国語版	113台
音声ガイド貸出（中韓）	10,000件	うち中国語版	5,516台	英語版・一般向け	181台	韓国語版	42台
		うち韓国語版	532台	中国語版・一般向け	960台	・特別展「新・桃山展 - 大航海時代の日本美術」	11,479台
・「法隆寺宝物館30分ナビ」iOSアプリ	3,475件			韓国語版・一般向け	59台	日本語版	11,263台
				・なら仏像館名品展	5,581台	英語版	84台
				日本語版	1,808台	中国語版	90台
				英語版	707台	韓国語版	42台
				中国語版	2,903台	・特別展「王羲之と日本の書」29年度期間30.2.10～3.31	9,741台
				韓国語版	163台	日本語版	9,514台
						英語版	35台
						中国語版	175台
						韓国語版	17台

1-(3) 教育・普及活動等

1-(3)-① 教育活動の充実

1-(3)-①-1 学習機会の提供（過去5ヵ年）

平成30年3月31日現在

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
○講演会等の回数					
東京国立博物館					
講演会等　実施回数	131回	127回	146回	160回	199回
講演会等　参加者数	15,777人	14,419人	18,080人	21,453人	29,382人
①講演会	30回	30回	23回	32回	26回
	7,184人	6,735人	6,023人	9,153人	6,999人
アンケート結果	84%	92%	89%	88%	88%
（内訳）					
・月例講演会等	12回	12回	12回	12回	12回
	1,951人	1,893人	2,369人	2,793人	2,716人
アンケート結果	80%	88%	94%	89%	90%
・記念講演会	11回	13回	9回	14回	7回
	3,368人	3,651人	3,005人	5,048人	2,589人
アンケート結果	88%	85%	93%	93%	84%
・シンポジウム	―	―	1回	2回（3日）	3回
	―	―	284人	579人	920人
アンケート結果	―	―	1	―	83%
・テーマ別講演会	6回	4回	1回	1回	0回
	1,709人	1,096人	365人	210人	0人
アンケート結果	84%	96%	86%	94%	―
・その他講演会	1回	1回	0回	3回	4回
	156人	95人	0人	523人	774人
アンケート結果	83%	98%	0%	1	―
②列品解説（ギャラリートーク等）	98回	94回	120回	125回	96回
	8,205人	7,326人	11,669人	11,123人	14,026人
③連続講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（2日）
	354人	320人	352人	947人	551人
アンケート結果	95%	87%	97%	97%	89%
④公開講座	2回	2回	2回	2回	2回
	34人	38人	36人	230人	116人
アンケート結果	97%	97%	98%	100%	96%
京都国立博物館					
講演会等　実施回数	21回	36回	39回	45回	32回
講演会等　参加者数	2,062人	4,596人	4,845人	5,132人	4,014人
①土曜講座	10回	31回	32回	38回	22回
	1,257人	3,888人	3,721人	4,123人	2,433人
アンケート結果	87%	80%	83%	82%	83%
②記念講演会	1回	1回	1回	1回	4回
	190人	193人	200人	190人	800人
アンケート結果	88%	-	-	―	86%
③夏期講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（2日）
	219人	206人	206人	210人	212人
アンケート結果	91%	89%	80%	94%	90%
④社会科教員のための向上講座	1回	1回	1回	1回	1回
	30人	66人	91人	69人	49人
⑤セミナー・シンポジウム等	―	2回	4回	4回	4回
	―	243人	627人	540人	520人
⑥ギャラリートーク	8回	―	―	―	―
	366人	―	―	―	―
⑦ギャラリートーク	8回	―	―	―	―
	366人	―	―	―	―
奈良国立博物館					
講演会等　実施回数	26回	27回	28 回	26回	26回
講演会等　参加者数	3,219人	3,525人	3,974人	3,518人	3,437人
①特別展等講座	13回	14回	15回	13回	13回
	1,682人	1,986人	2,123人	1,972人	2,141人
アンケート結果	85%	86%	79%	87%	91%
②夏季講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	587人	561人	609人	555人	525人
アンケート結果	95%	91%	95%	89%	91%
③サンデートーク	12回	12回	12回	12回	12回
	950人	978人	1,242人	991人	771人
アンケート結果	85%	87%	85%	88%	87%
九州国立博物館					
講演会等　実施回数	90回	82回	87回	77回	84回
講演会等　参加者数	7,276人	4,694人	6,212人	5,369人	6,024人
①特別展記念講演会	5回	4回	3回	3回	2回
	1,108人	980人	710人	675人	359人
アンケート結果	―	―	―	―	―
②講演及びシンポジウム	38回	26回	38回	25回	26回
	4,450人	2,132人	4,096人	3,293人	3,521人
アンケート結果	―	―	―	-	
③ミュージアムトーク	47回	52回	46回	49回	56回
	1,718人	1,582人	1,406人	1,401人	2,144人
○キャンパスメンバーズ					
東京国立博物館	43校	44校	48校	52校	53校
京都国立博物館	29校	29校	29校	27校	29校
奈良国立博物館	26校	27校	27校	25校	27校
九州国立博物館	24校	24校	25校	25校	25校

1-(3)-①-2 講座・講演会等の開催実績

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
回数・人数 ※1	**回数計**	**199回**	**回数計**	**32回**	**回数計**	**26回**	**回数計**	**84回**
	参加者計	**29,393人**	**参加者計**	**4,014人**	**参加者計**	**3,437人**	**参加者計**	**6,299人**
	講演会	26回 6,999人	土曜講座	22回 2,433人	特別展等講座	13回 2,141人	特別展記念講演会	2回 359人
	列品解説（ギャラリートーク等）	96回 14,026人	記念講演会	4回 800人	夏季講座	1回 525人	講演及びシンポジウム	26回 3,796人
	連続講座（2日間）	1回 551人	夏期講座（2日間）	1回 212人	サンデートーク	12回 771人	ミュージアムトーク	56回 2,144人
	公開講座	2回 116人	社会科教員のための向上講座	1回 49人				
			セミナー・シンポジウム等	4回 520人				
	その他展示に関連するイベント	74回 7,701人	その他展示に関連するイベント	—回 —回	その他展示に関連するイベント	14回 1,368人	その他展示に関連するイベント	39回 12,014人

※1実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。（実施回数は計上している。）

【東京国立博物館】

1) 講演会　　26回　　6,999人

①月例講演会

12回　　2,716人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	担当研究員数	"良い"の割合
1	4月8日	桜の絵にみる美と心	山下善也（九州国立博物館文化財課主任研究員）	229人	2人	90.70%
2	5月27日	親と子のギャラリー「トーハクデバードウォッチング―キジやクジャク、鳳凰が勢ぞろい―」の見方と特集展示ができるまで	勝木言一郎（教育講座室長） 神辺知加(ボランティア室主任研究員)	74人	1人	90.60%
3	6月10日	西アジアの発掘現場から―考古学が語る聖書の世界	小野塚拓造(東洋室研究員)	208人	2人	93.60%
4	7月29日	古墳時代の石製宝器と儀器	河野正訓(考古室研究員)	231人	2人	86.80%
5	8月12日	聖徳太子の伝説と法隆寺献納宝物	三田覚之(教育普及室研究員)	373人	2人	96.00%
6	9月30日	唐三彩	三笠景子(平常展調整室主任研究員)	201人	2人	90.40%
7	10月21日	甲冑入門	池田宏(客員研究員)	237人	1人	93.00%
8	11月4日	室町時代のやまと絵	土屋貴裕(特別展室主任研究員)	260人	2人	96.30%
9	12月9日	江戸の食文化	高橋裕次(大倉集古館)	183人	2人	79.10%
10	30年1月21日	やきもの、茶湯道具の伝来ものがたり―付属品・次第とともに観る―	横山梓(保存修復室研究員)	321人	2人	83.20%
11	30年2月3日	呉昌石とその時代	鍋島稲子(書道博物館主任研究員) 富田淳(学芸企画部長)	220人	2人	90.30%
12	30年3月31日	黒田清輝と明治の洋画―東アジア美術の視点から	山梨絵美子(東京文化財研究所副所長)	179人	2人	84.90%

②記念講演会

7回　　2,589人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	担当研究員数	"良い"の割合
1	4月15日	茶の湯展「桃山の茶陶」	伊藤嘉章（九州国立博物館副館長）	373人	2人	91.20%
2	5月13日	茶の湯展「茶の湯の魅力ー日本、朝鮮、中国のやきものを中心に」	三笠景子(平常展調整室主任研究員)	392人	2人	76.70%
3	8月5日	タイ展「仏の国の歩み」	猪熊兼樹(出版企画室主任研究員)	319人	2人	90.20%
4	10月1日	運慶展「興福寺と運慶―特に北円堂の諸像をめぐって―」	多川俊映(法相宗大本山興福寺貫首)	393人	2人	81.50%
5	10月28日	運慶展「運慶展　最新調査報告」	浅見龍介(企画課長)	393人	2人	85.60%
6	30年2月10日	仁和寺展「仁和寺と御室派」	立部祐道（総本山仁和寺門跡・御室派管長） 朝川美幸（総本山仁和寺学芸員）	367人	2人	73.80%
7	30年2月17日	仁和寺展「仁和寺と御室派のみほとけ」	丸山士郎（特別展室長）	352人	2人	92.20%

③シンポジウム

3回　　920人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数	担当研究員数	"良い"の割合
1	5月12日	茶の湯展「茶の湯を語る―ヒトから、モノから」	393人	2人	75.40%
2	7月15日	特別展「タイ～仏の国の輝き～」開催記念国際シンポジウム「タイの仏教美術と王権」	193人	2人	90.60%
3	1月12日～1月13日	国際シンポジウム「ミュージアムにおける日本美術の再発見」	334人	—	—

④テーマ別講演会

ー回　　ー人

⑤その他講演会

4回　　774人

	実施日	内容	参加者数	担当研究員数	″良い″の割合
1	9月16日	フランス人間国宝展　フォーラム 第1部「日仏両国における人間国宝」 リン・コーエン＝ソラール（フランス国立工芸研究所会長） ジェラール・デカン（元フランス国立工芸研究所会長・紋章彫刻作家） 室瀬和美（漆芸家） 司会：伊藤嘉章（九州国立博物館副館長） 第2部「建築の世界の伝統と革新」 エマニュエル・パロワ（ガラス作家） 伊東豊雄（建築家） 伊東順二（東京藝術大学特任教授・美術評論家）	182人	1人	—
2	9月17日	フランス人間国宝展　ドキュメンタリー上映＆トークイベント 「人生の探求」 ジャン・ジレル（陶芸家） 出川哲朗（大阪市立東洋陶磁美術館館長）	94人	1人	—
3	11月29日	東大寺講演会 「釈迦霊鷲山説法図―東大寺と奈良時代の仏画―」 沖松健次郎（絵画・彫刻室長） 「藤原仲麻呂の野望と東大寺」 森本公誠　師（東大寺長老）	288人	—	—
4	1月19日	仁和寺展フォーラム「観音堂解体修理の最新報告」 瀬川大秀（総本山仁和寺宗務総長）、井手亜里（京都大学教授）、奥村幸司（サビア代表）、吉田理（京都府教育長指導部文化財保護課 主査）、三田覚之（教育普及室研究員）	210人	2人	89%

2)　列品解説（ギャラリートーク等）　　96回　　14,026人

①ギャラリートーク

53回　　6,074人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	担当研究員数
1	4月5日	博物館でお花見を鑑賞ガイド	神辺知加（ボランティア室主任研究員）	97人	2人
2	4月7日	博物館でお花見を　器に咲く桜	槙山梓(保存修復室研究員)	72人	2人
3	4月11日	保存と修理　立体作品修理の現場から	野中昭美（保存修復室アソシエイトフェロー）	59人	2人
4	4月14日	ここに注目！保存と修理入門	瀬谷愛（保存修復室主任研究員）	68人	2人
5	4月25日	近代茶人と仏画―松永耳庵の場合	沖松健次郎(絵画・彫刻室長)	118人	2人
6	5月9日	中国石窟の仏像	勝木言一郎(教育講座室長)	108人	2人
7	5月16日	幕府祈願所霊雲寺と開基浄厳	瀬谷愛（保存修復室主任研究員）	74人	2人
8	5月18日	国際博物館の日記念ガイダンス「トーハクへようこそ」	小林牧（博物館教育課長）	70人	2人
9	5月18日	国際博物館の日記念ガイダンス「トーハクへようこそ」	小林牧（博物館教育課長）	77人	2人
10	5月23日	舞楽面・行道面と仮面芸能の魅力	西木政統(絵画・彫刻室アソシエイトフェロー)	147人	2人
11	5月30日	展覧会情報の調べ方について	住広昭子（博物館情報課情報資料室）	50人	2人
12	6月16日	四十八体仏入門	丸山士郎（情報資料室長）	98人	2人
13	6月20日	尾形光琳筆「風神雷神図屏風」	金井裕子(絵画・彫刻室主任研究員)	177人	2人
14	6月27日	インドネシアのワヤン	白井克也（考古室長）	69人	2人
15	7月11日	古墳時代の女子埴輪	河野正訓(考古室研究員)	148人	2人
16	7月14日	加納探幽の「鵜飼図」	遠藤楽子(国際交流室主任研究員)	91人	2人
17	7月31日	トーハクキッズデー子どものためのギャラリートーク「博物館のお話」	小島有紀子(教育講座室アソシエイトフェロー)	30人	2人
18	7月31日	トーハクキッズデー子どものためのギャラリートーク「仏像のお話」	神辺知加(ボランティア室主任研究員)	70人	2人
19	7月31日	トーハクキッズデー子どものためのギャラリートーク「トーハク動物めぐり」	末兼俊彦(平常展調整室研究員)	40人	2人
20	7月31日	近代茶人と仏画―松永耳庵の場合	勝木言一郎(教育講座室長)	70人	2人
21	8月4日	甦る飛鳥時代の白虎！	三田覚之（教育普及室研究員）	169人	2人
22	8月22日	金石に魅せられた書人たち	六人部克典(登録室アソシエイトフェロー)	87人	2人
23	8月29日	江戸初期の三筆　近衛信尹の書	恵美千鶴子(百五十年史編纂室長)	160人	2人
24	9月6日	博物館でアジアの旅スペシャルツアー「俑の魅力を探る旅」	三笠景子（平常展調整室主任研究員）	168人	2人
25	9月9日	博物館でアジアの旅ガイドツアー「南極成人の奇妙な旅」	猪熊兼樹（出版企画室主任研究員）	158人	2人
26	9月10日	博物館でアジアの旅ガイドツアー「呪いのパワーを探す旅」	白井克也（考古室長）	244人	2人
27	9月12日	博物館でアジアの旅ガイドツアー「幻獣を探す旅」	勝木言一郎(教育講座室長)	194人	2人
28	9月15日	博物館でアジアの旅ガイドツアー「不思議なマネーを探す旅」	市元塁（特別展室主任研究員）	130人	2人
29	9月16日	博物館でアジアの旅ガイドツアー「あの世とこの世をめぐる旅」	小野塚拓造（東洋室研究員）	227人	2人
30	9月18日	博物館でアジアの旅ガイドツアー「願いを叶える仏像の旅」	西木政統(貸与特別観覧室研究員)	320人	2人
31	9月26日	浮世絵の歴史	田沢裕賀(学芸研究部長)	180人	2人
32	10月3日	明治時代の日本美術史編纂	三輪紫都香(百五十年史編纂室アソシエイトフェロー)	132人	2人
33	10月13日	中世の水墨山水画	救仁郷秀明（列品管理課長）	63人	2人
34	10月31日	運慶前夜：平安時代後期の仏像について	皿井舞（絵画・彫刻室主任研究員） ⇒(変更)西木政統(貸与特別観覧室研究員)	245人	2人
35	11月3日	留学生の日　研究員によるギャラリートーク	ミウォシュ・ヴォズニ(国際交流室アソシエイトフェロー)	35人	2人
36	11月14日	高麗の英雄・崔忠献	白井克也（考古室長）	120人	2人
37	11月28日	中国書画精華―日本人のまなざし―	富田淳（学芸企画部長）	123人	2人
38	12月5日	旅する縄文土器	井出浩正(特別展室研究員)	104人	2人
39	12月19日	あなたも博物館でボランティア	鈴木みどり(ボランティア室長)	14人	2人
40	1月12日	博物館に初もうで　犬と迎える新年	末兼俊彦（平常展調整室主任研究員）	88人	2人
41	1月16日	呉昌碩とその時代―苦鉄没後90年―	富田淳（学芸研究部長）	167人	2人
42	1月23日	縄文時代後の北海道	品川欣也（考古室主任研究員）	82人	2人

43	1月30日	描かれた献納宝物	沢田むつ代（客員研究員）	111人	2人
44	2月6日	和歌山の埴輪－大日山35号墳出土品－	河野正訓（考古展示室研究員）	118人	2人
45	2月20日	漢時代の弩機	市元塁（特別展室主任研究員）	85人	2人
46	2月27日	アマルナ出土の古代エジプト資料	小野塚拓造（東洋室研究員）	114人	2人
47	3月2日	粋なお江戸のひな人形	三田覚之（教育普及室研究員）	150人	2人
48	3月13日	トーハクの修理事業 -これまでの歩みと課題	土屋裕子（保存修復室長）	126人	2人
49	3月20日	正倉院染織品における修理仕様	沢田むつ代（客員研究員）	97人	2人
50	3月23日	博物館でお花見を鑑賞ガイド	小島有紀子(教育講座室アソシエイトフェロー)	85人	2人
51	3月27日	X線CT装置の保存修理への活用	宮田将寛（調査分析室アソシエイトフェロー）	78人	2人
52	3月28日	博物館でお花見を鑑賞ガイド	勝木言一郎(教育講座室長)	75人	2人
53	3月30日	古典の香り「春」	田邊留美子（登録室アソシエイトフェロー）	92人	2人

②特別展関連ギャラリートーク

21回　　7,102人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数	担当研究員数
1	4月27日	「茶の湯」展　鑑賞ガイド 横山梓（保存修復室研究員）	184人	2人
2	5月17日	「茶の湯」展　毎日新聞落語会「茶の湯」寄席 司会　濱田元子(毎日新聞学芸部記者)　　出演　桃月白酒 演目　「井戸茶碗」	336人	1人
3	5月19日	「茶の湯」展　鑑賞ガイド 横山梓（保存修復室研究員）	89人	2人
4	7月4日	「タイ」展　タイ芸術局舞踊団来日特別公演 「煌めきのタイ～古典舞踊と音楽の世界」	380人	1人
5	7月4日	「タイ」展　タイ芸術局舞踊団来日特別公演 「煌めきのタイ～古典舞踊と音楽の世界」	318人	1人
6	7月7日	「タイ」展　みうらじゅんさん&いとうせいこうさんトークショー	338人	—
7	8月11日	「タイ」展　タイ舞踏を体験してみよう！	331人	
8	10月4日	「運慶」展　興福寺僧侶による運慶展ミニトーク	380人	1人
9	10月6日	「運慶」展　興福寺僧侶による運慶展ミニトーク	380人	1人
10	10月6日	「運慶」展　興福寺僧侶による運慶展ミニトーク	380人	1人
11	10月6日	「運慶」展　みうらじゅんさんトークイベント	271人	—
12	10月12日	「運慶」展　研究員によるトークイベント	295人	—
13	10月13日	「運慶」展　興福寺僧侶による運慶展ミニトーク	380人	1人
14	10月13日	「運慶」展　興福寺僧侶による運慶展ミニトーク	380人	1人
15	10月20日	「運慶」展　興福寺僧侶による運慶展ミニトーク	380人	—
16	10月20日	「運慶」展　興福寺僧侶による運慶展ミニトーク	380人	—
17	10月27日	「運慶」展　興福寺僧侶による運慶展ミニトーク	380人	—
18	10月27日	「運慶」展　興福寺僧侶による運慶展ミニトーク	380人	—
19	1月17日	「仁和寺」展　御詠歌	380人	—
20	1月17日	「仁和寺」展　御詠歌	380人	—
21	3月9日	「仁和寺」展　門跡によるお話の会	380人	—

③東京藝術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク

22回　　850人

	実施日	回数	テーマ	氏名	参加者数
1	6月7日(水）、6月14日(水）、6月21日(水）、7月1日(土）、8月10日(木）、8月22日(火）、9月10日(日）、9月17日(日）、9月24日(日）、10月3日(火）、10月10日(火）、10月17日(火)	10	紅型ができるまで	大小田万侑子、月村紀乃、山田麻緒	294人
2	1月11日（木）、1月13日（土）、1月25日（木）、1月31日（水）、2月4日（日）、2月14日（水）	6	東魏の如来三尊立像	閻志翔	213人
3	1月16日（火）、1月19日（金）、1月26日（金）、1月30日（火）、2月3日（土）、2月7日（水）	6	横山大観の出世作を読み解く	木原天彦	343人

3) 連続講座「日本における美術史学の誕生」 計1回(2日)

1回 551人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数	担当研究員数	"良い"の割合
1	11月17日	第1講「日本美術史誕生の時代」 講師：田沢裕賀（学芸研究部長） 第2講「明治時代の日本美術史編纂」 講師：三輪紫都香（百五十年史編纂室アソシエイトフェロー） 第3講「『書ハ美術ナラス』と明治期東京国立博物館の書跡収集・展示の歴史」 講師：恵美千鶴子（百五十年史編纂室長）	263人	2人	89.00%
	11月18日	第4講「100年前の東西文化交流史研究が残したもの」 講師：勝木言一郎（教育講座室長） 第5講「器形の継承と変容にみる工芸史」 講師：末兼俊彦（平常展調整室主任研究員） 第6講「帝室技芸員―"技芸"と"美術"のはざまで」 講師：塩谷純（東京文化財研究所近・現代視覚芸術研究室長）	288人	2人	89.00%

4) 公開講座

2回 116人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数	担当研究員数	"良い"の割合
1	7月26日	博物館セミナー・教育連携事業「博物館学講座」 「博物館の運営」・竹之内勝典(総務課長) 「博物館における国際交流」・楊鋭(国際交流室専門職員) 「特別展の仕組み」・市元塁(特別展室主任研究員) 「総合文化展の仕組み」・末兼俊彦(平常展調整室主任研究員) 「博物館の教育事業」・小林牧(博物館教育課長) 「博物館の情報システム」・村田良二(博物館情報室長) 「文化財の保存と修理」・土屋裕子(保存修復室長)	56人	2人	―
2	29年3月23日	バックヤードツアー「保存と修理の現場へ行こう」(1) 講師：冨坂賢（保存修復課長）、荒木臣紀（調査分析室長）、和田浩（環境保存室長）、土屋裕子（保存修復室長）、瀬谷愛（保存修復室研究員）、野中昭美（保存修復室アソシエイトフェロー	60人	2人	96.49%

5) その他展示に関連する事業 74回 7,701人

	実施日	内容	会場	参加者数	担当研究員数
1	5月14日	上野の山でキジめぐり	恩賜上野動物園・国立科学博物館・東京国立博物館	37人	2人
2	5月29日	プレミアムフライデー「リラックスヨガ in 表慶館」	表慶館1階	16人	2人
3	8月22日	彫って・染めて　古典紅型を体験しよう	本館地下みどりのライオン	11人	3人
4	9月29日	プレミアムフライデー「気軽に椅子ヨガ in 東洋館」	東洋館1室	20人	2人
5	9月29日	プレミアムフライデー「気軽に椅子ヨガ in 東洋館」	東洋館1室	20人	2人
6	9月29日	プレミアムフライデー「気軽に椅子ヨガ in 東洋館」	東洋館1室	20人	2人
7	9月29日	プレミアムフライデー「気軽に椅子ヨガ in 東洋館」	東洋館1室	20人	2人
8	10月27日	プレミアムフライデー「トークサロン①考古学への招待―縄文 VS 弥生―」	ホテルオークラレストランゆりの木 平成館考古展示室	20人	2人
9	11月24日	プレミアムフライデー「トークサロン②中国書画精画―日本人のまなざし―」	ホテルオークラレストランゆりの木 東洋館8室	20人	2人
10	6月9日～7月2日(21回)	日本文化体験　書体験	本館2階ラウンジ	3,470人	2人
11	10月10日～11月5日（12回）	日本文化体験　きもの体験	本館特別4室	367人	2人
12	11月7日～11月31日（21回）	日本文化体験　書体験	本館2階ラウンジ	2,368人	2人
13	7月15日、21日、8月15日(6回)	親と子のギャラリー関連「びょうぶとおどる」	本館特別5室	1,150人	4人
14	3月27日～3月31日（5回）	日本文化体験　きもの体験	本館特別4室	162人	2人

【京都国立博物館】

1) 土曜講座 22回 2,433人

特別展覧会関連などの講座

	開催日	テーマ	講師	参加者数
1	6月17日	永藤一コレクション ―正宗を追い求めた男―	東京国立博物館　主任研究員　末兼俊彦	139人
2	6月24日	小さな裂から広がる世界 ―正倉院裂の魅力―	教育室長　山川曉	122人

3	7月1日	なぜ仏画に国宝が多いのか ―これがわかれば美の免許皆伝―	保存修理指導室長　大原嘉豊	119人
4	7月8日	国宝展と武器・武具、仏具 ―日本金工をはぐくんだ沃土―	企画室長　伊藤信二	120人
5	7月15日	陶磁の国宝、わずか14件 ―そこからみる日本文化―	研究員　降矢哲男	119人
6	7月22日	日本人が憧れた国宝の中国絵画	研究員　呉孟晋	91人
7	8月5日	日本の古い絵画からみた水辺のいきもの今昔物語	京都水族館　館長　下村実	84人
8	8月19日	鳥羽伏見の戦いの戦場をたどる	列品管理室長　宮川禎一	172人
9	8月26日	京都ミュージアムズ・フォー連携講座 美術の中の水のいきもの	研究員　水谷亜希	75人
10	9月2日	国宝 最澄と空海の袈裟	工芸室長　山川曉	151人
11	12月23日	色を科学分析する	保存科学室長　降幡順子	111人
12	1月6日	作品から見える人とイヌのかかわり	保存修理指導室長　大原嘉豊	114人
13	1月13日	京都御所旧蔵品と国立博物館	工芸室長　山川曉	78人
14	1月20日	近代の有職故実 ―江戸時代から伝えられた雅び―	学習院大学非常勤講師　田中潤	107人
15	1月27日	梵音具―仏教の鳴器―	企画室長　伊藤信二	65人
16	2月3日	埴輪の顔―ハニワ顔のひみつ―	主任研究員　古谷毅	64人
17	2月10日	土蔵は大きなタイムカプセル！ ―旧廻船問屋、貝塚廣海家からの大型寄贈を記念して―	教育室長　永島明子	120人
18	2月17日	商家に伝わったやきもの	研究員　降矢哲男	87人
19	2月24日	浄土真宗の絵画制作と教線拡大	研究員　井並林太郎	69人
20	3月3日	御所人形の展開	工芸室長　山川曉	102人
21	3月10日	密教彫刻の世界 ―安祥寺・五智如来を中心に―	連携協力室長　淺湫毅	126人
22	3月17日	狩野派をめぐる30年	学芸部長　山本英男	198人

2)　記念講演会　　4回　　800人

	実施日	テーマ	講師	参加者数
1	4月22日	対談「海北友松を語る」	小説家　葉室麟 学芸部長　山本英男	200人
2	4月29日	孤高の絵師・海北友松	学芸部長　山本英男	200人
3	5月13日	友松の作品　―剛と柔・漢と和	東京国立博物館　学芸研究部長　田沢裕賀	200人
4	11月4日	国宝の杜へ ―京都国立博物館と古寺社保存法―	館長　佐々木丞平	200人

3)　夏期講座　　1回　　212人

	開講日	テーマ	講師	参加者数
1	7月27日	第1講 遊楽図の始まりと終り ―「高雄観楓図」と「彦根屏風」	東京大学文学部教授　佐藤康宏	212人
		第2講 国宝となった雪舟画 ―「天橋立図」を中心に―	学習院大学文学部教授 島尾新	
		第3講 幸阿弥長重≪初音蒔絵婚礼調度≫ ―近世初期漆工芸の傑作―	金沢美術工芸大学教授　山崎剛	
	7月28日	第1講 天野山金剛寺の仏像―金堂を中心に―	大阪大谷大学文学部准教授　田中健一	
		第2講 王朝絵画を読み解く ―源氏物語絵巻・平家納経―	徳川美術館学芸部長　四辻秀紀	
		第3講 経塚出土の国宝―道長の経筒・彰子の経箱―	上席研究員　宮川禎一	

4)　社会科教員のための向上講座　　1回　　49人

	開講日	テーマ	講師	参加者数
1	8月29日	講演「特集展示〈京博すいぞくかん〉のみどころと、名品ギャラリーの魅力紹介」 館内実地研修　特集展示「京博すいぞくかん―どんなおさかないるのかな？―」	研究員　水谷亜希	49人

5)　セミナー・シンポジウム等　　4回　　520人

	開講日	テーマ・講師		参加者数
1	4月15日	記念座談会「日本美術応援団、海北友松を応援する！！」	明治学院大学教授・日本美術応援団団長　山下裕二 俳優・京都国立博物館文化大使・日本美術応援団団員３号　井浦新 京都国立博物館学芸部長　山本英男	200人
2	5月21日	国際博物館の日記念シンポジウム「ICOM京都大会に向けて」	ICOM会長　Suay Fatama Aksoy、他	140人

3	7月16日	研究発表と座談会「平安時代後期を中心とした絵師の工房をめぐる諸問題」	大和文華館学芸員　古川　攝一、京都国立博物館保存修理指導室長　大原　嘉豊、奈良国立博物館教育室長　谷口 耕生、他	93人
4	9月29日	「イギリスにおける最新文化動向とオリンピック文化プログラム」講演会・ワークショップ	ブリティッシュ・カウンシル統括責任者代理 HEDLEY SWAIN	87人

6)　その他展示に関連する事業　　— 回　　— 人

【奈良国立博物館】

1)　特別展等講座　　13回　　2,141人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	4月22日	「快慶を生んだ社会と宗教」	京都府立大学准教授　横内裕人	194人
2	5月13日	「快慶の生涯と「如法」の仏像」	学芸部主任研究員　山口隆介	194人
3	5月27日	「快慶作品に関する二、三の問題」	上席研究員　岩田茂樹	194人
4	8月5日	「浄土の造形—源信以後を中心に—」	実践女子大学教授　武笠朗	183人
5	8月19日	「『往生要集』の成立—天台浄土教と源信の信心—」	聖心女子大学名誉教授　小原仁	194人
6	9月2日	「源信と浄土信仰の美術」	学芸部主任研究員　北澤菜月	194人
7	10月28日	「正倉院の臈纈技法について」	宮内庁正倉院事務所保存課整理室員　片岡真純	171人
8	11月3日	「正倉院の色」 ①「紅の赤裳とは何か？」 ②「正倉院宝物の色」 ③「正倉院宝物からみた奈良時代の玉の色」 ④「正倉院宝物と天平絵画の彩色技法」 ⑤パネルディスカッション	①奈良大学教授　上野誠 ②宮内庁正倉院事務所保存課調査室長　中村力也 ③奈良女子大学古代学学術研究センター特任講師　大賀克彦 ④学芸部教育室長　谷口耕生 ⑤上野誠、中村力也、大賀克彦、谷口耕生	224人
9	11月4日	「正倉院の鏡」	学芸部主任研究員　中川あや	161人
10	11月11日	「正倉院の屏風と蓮華蔵世界」	東北大学大学院文学研究科教授　長岡龍作	165人
11	1月8日	「神主たちの見た「おん祭」」	春日大社権禰宜　千鳥祐兼	69人
12	2月17日	「不退の行法、東大寺修二会（お水取り）」	東大寺長老　北河原公敬	98人
13	3月3日	「長沢芦雪と薬師寺旧福寿院障壁画」	東京文化財研究所研究員　安永　拓世	100人

2)　夏季講座　第46回「地獄・極楽と浄土信仰の美術」

1回　　525人

	開講日	テーマ	講師	参加者数
1	8月23日	「中国天台浄土教美術の世界」	九州大学大学院教授　井手誠之輔	525人
		「仏教の世界観－生死輪図を中心に－」	名古屋大学名誉教授　宮治昭	
		「源信と浄土信仰の美術 －「1000年忌特別展　源信　地獄・極楽への扉」紹介－」	学芸部主任研究員　北澤菜月	
	8月24日	「源信と摂関期日本」	愛知県立大学教授　上川通夫	
		「夢中見仏と来迎図」	弘前大学教授　須藤弘敏	
		「結縁の美術－中世肖像の一側面－」	上席研究員　岩田茂樹	
	8月25日	「六道を巡る」	奈良女子大学教授　加須屋誠	
		「地獄と極楽の宗教空間を探る」	昭和女子大学非常勤講師　阿部美香	

3)　サンデートーク　　12回　　771人

	実施日	テーマ	解説者	参加者数
1	4月16日	「文化財修理の現場から～津波による被災紙資料を中心として～」	学芸部研究員　大江克己	60人
2	5月21日	「星曼荼羅の源流をめぐって」	学芸部教育室長　谷口耕生	117人
3	6月18日	「奈良時代の福祉制度」	学芸部企画室長　野尻忠	60人
4	7月16日	「春日野の星」	学芸部工芸考古室長　清水健	80人
5	8月20日	「道宣と元照～その肖像画制作について～」	学芸部研究員　伊藤久美	63人
6	9月17日	「中国河南省の石窟寺院を訪ねて」	学芸部情報サービス室長　岩井共二	22人
7	10月15日	「春日塔跡の散策」	学芸部列品室長　吉澤悟	51人
8	11月19日	「文化財を科学するⅣ」	学芸部保存修理指導室長　鳥越俊行	33人
9	12月17日	「欧米で出会った日本彫刻あれこれ」	上席研究員　岩田茂樹	86人
10	1月21日	「刺繍の仏像」	学芸部研究員　田澤梓	66人
11	2月18日	「官人の腰帯」	学芸部主任研究員　中川あや	75人
12	3月18日	「将軍が崇敬した温泉神」	学芸部主任研究員　山口隆介	58人

4)　その他展示に関連するイベント　　14回　　1,368人

	実施日	内容	会場	参加者数
1	4月29日	特別展「快慶」関連イベント親と子のワークショップ「着て楽しむ！ほとけさまのファッション」	地下回廊	52人
2	5月3日	特別展「快慶」関連イベント「截金技法の体験をしてみよう！」	地下回廊	39人
3	5月16日	読売新聞社わいず倶楽部快慶展特別鑑賞会	講堂・展示室	155人

4	5月20日	特別展「快慶」関連イベント「截金技法の体験をしてみよう！」	地下回廊	20人
5	6月1日	特別展「快慶」閉館後貸切鑑賞	展示室	338人
6	7月29日	親子講座「エンマさまと地獄めぐり」	講堂	159人
7	7月30日	奈良教育大学との連携事業特別展「源信」関連イベント「つくってわかる！立体地獄絵」	地下回廊	35人
8	10月28日	正倉院展短歌コンクール受賞作品展示	地下回廊	—
9	10月29日	第69回正倉院展親子鑑賞会	講堂・展示室	117人
10	12月4日	奈良トライアングルミュージアムズ東京セミナー「冬の奈良と奈良国立博物館の楽しみ」	奈良まほろば館	57人
11	12月17日	おん祭と春日信仰の美術「茶会」	茶室・庭園・西新館南側ピロティ	87人
12	2月10日	『お水取り「講話」と「粥」の会』	講堂・茶室控室・展示室	32人
13	3月1日～11日、13日、14日	お水取り展中の定期観光バス向けボランティア解説	展示室	131人
14	3月6日	「お水取り展鑑賞とお松明」	講堂・展示室	146人

【九州国立博物館】

1)特別展記念講演会　　2回　　359人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	4月29日	日タイ修好130周年記念特別展・学術交流記念講演会「タイと日本　境界を越えて」 基調講演「タイ　海域をめぐる交流」 「日タイ交流　人とモノ」	タイ芸術局上席専門官 アマラー・シースチャート 学芸部企画課特別展室長　原田あゆみ 学芸部文化財課資料登録室研究員 望月規史	100人
2	7月11日	特別展「世界遺産　ラスコー展　クロマニョン人が見た世界」記念講演会「クロマニョン人はどこから来たのか？」	国立科学博物館人類史研究グループ長 海部陽介	259人

2)講演及びシンポジウム等　　26回　　3,796人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	4月8日	文化財保存修復学会公開シンポジウム「博物館IPMのこれから」 基調講演「九州国立博物館におけるこれまでのIPMの取り組み」 講演 「博物館におけるIPMの実践」 「三重県総合博物館におけるIPM」 「正倉院におけるIPM」 パネルディスカッション「これからの博物館IPM」	元当館特任研究員　本田光子 学芸部博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか 三重県総合博物館　間渕　創 宮内庁正倉院事務所　高畑　誠 コーディネーター：国立民族博物館　日高真吾 パネラー：木川りか、間渕創、高畑誠	100人
2	4月14日	しっとこ九博 「タイ～仏の国の輝き～」解説講座	学芸部企画課特別展室長　原田あゆみ	56人
3	4月22日	アクロス文化学び塾 日タイ修好130周年記念特別展「タイ～仏の国の輝き～」の見どころ	学芸部企画課特別展室長　原田あゆみ	62人
4	5月6日	リレー講座　見たい　行きたい　よかタイ！ 第一回「山田長政　アユタヤーの日本人」 「タイのごちそう決定版！-ラーマ2世の饗宴詩-」	学芸部文化財課資料登録室研究員 望月規史 公立大学法人名桜大学教授　山田均	100人
5	5月13日	リレー講座　見たい　行きたい　よかタイ！ 第二回「仏陀の足跡を求めて」 「輝ける仏の国　タイ」	学芸部長兼企画課長　小泉惠英 学芸部企画課特別展室長　原田あゆみ	90人
6	5月27日	第4回石橋財団レクチャーシリーズ 文化としての茶の湯、産品としての茶	ノースカロライナ大学教授・カロライナアジアセンター所長　モーガン・ピテルカ ウェイクフォレスト大学准教授 ロバート・ヘリナー 副館長　伊藤嘉章	130人
7	6月1日	魏志倭人伝の新しい世界 ～謎多い古代史　新しい切口で～ ①魏志倭人伝を読み直す ②伊都国と奴国－北部九州の二つの都	国際日本文化研究センター名誉教授 村井康彦 学芸部文化財課長　河野一隆	270人
8	7月17日	プロカメラマンが魅せる水中遺跡	水中写真家　山本祐司	80人
9	7月22日	特別展「世界遺産　ラスコー展　クロマニョン人が見た世界」 リレー講座「ラスコー洞窟の壁画を味わう」	学芸部特任研究員　臺信祐爾 学芸部文化財課長　河野一隆	251人
10	7月28日	しっとこ九博　「世界遺産ラスコー展～クロマニョン人が見た世界～」解説講座	学芸部文化財課長　河野一隆	37人
11	8月5日	特別展「世界遺産　ラスコー展　クロマニョン人が見た世界」 トークセッション「2万年前の壁画から芸術の起源を考える」	国立科学博物館　人類史研究グループ長 海部陽介 永青文庫副館長　橋本麻里	130人
12	8月6日	全国高等学校歴史学フォーラム2017 現場で検証『御城下絵図』 なぜ高地蔵は徳島に造られたのか 近世の日朝交流から善隣関係を学ぶ 地元に眠る、キリシタン橋/キリシタン禁教高札に関する調査報告 大村家墓所の研究　16代当主純伊と19代当主善前の没年と墓の造立年の不一致について 高校生、石で肉をさばいてみました！ 銚子と『極東新聞』	大分東明高等学校　郷土史研究部 徳島文理高等学校　郷土研究部 福岡県立筑紫丘高等学校 福岡県立朝倉高等学校史学部 長崎県壱岐高等学校 奈良県立橿原高等学校　歴史研究部 千葉県立千葉高等学校	300人

13	8月26日	シンポジウム 水中遺産の多様性－縄文から龍馬まで－ 特別展示「水の中からよみがえる歴史－水中考古学最前線－」のご紹介 講演①「水中ロボットを利用した琵琶湖葛籠尾崎湖底遺跡の調査」 講演②「坂本龍馬のいろは丸調査」 講演③「水中文化遺産の保護　欧州編」 討論会「水中文化遺産の魅力にせまる」 司会 コーディネーター パネリスト	立命館大学文学部教授　矢野健一 NPO法人水中考古学研究所理事　吉崎伸 大阪府教育庁文化財保護課総括主査 中西裕見子 学芸部文化財課長　河野一隆 学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞 立命館大学文学部教授　矢野健一 NPO法人水中考古学研究所理事　吉崎伸 大阪府教育庁文化財保護課総括主査 中西裕見子 文化庁記念物課　森先一貴 福岡市博物館　福薗美由紀 東海大学海洋学部　木村淳	50人
14	10月15日	直木賞作家 安部龍太郎氏 講演会 「天下人と大航海時代」	直木賞作家 安部龍太郎氏	216人
15	10月21日	リレー講座　「大航海時代の世界と日本」 【第1回】 「南蛮美術とビオンボ」 「陶磁器に見る文化交流 － 大航海時代がもたらしたもの」	学芸部企画課特別展室主任研究員 鷲頭 桂 学芸部企画課アソシエイトフェロー 酒井田千明	120人
16	10月27日	しっとこ九博「新・桃山展－大航海時代の日本美術」解説講座	学芸部企画課特別展室主任研究員 鷲頭 桂	43人
17	10月28日	リレー講座「大航海時代の世界と日本」 【第２回】 「諸史料に見る『安土城図屏風』」 「桃山の茶陶 － 茶碗を中心に － 」	学芸部企画課特別展室研究員　松浦晃佑 副館長　伊藤嘉章	140人
18	11月3日	桃山の日本とアジア・太平洋海域における美術の交通 ギャラリートーク　「新・桃山展の仲間たち」 趣旨説明 招聘講演「スペインのアメリカ植民地におけるアジアの屏風の貿易と、現地製作への影響」 「諸港と交易品の記述を持つ世界図について」 「九州国立博物館所蔵の花鳥図屏風の紹介」 ディスカッション	学芸部企画課特別展室主任研究員　鷲頭 桂 大阪大学教授　岡田裕成 スペイン・サラマンカ大学、ブラジル・ゴイアス連邦大学 アルベルト・バエナ・サパテロ 天理大学教授　藤田明良 学芸部企画課特別展室主任研究員　鷲頭桂 司会：岡田裕成 アルベルト・バエナ・サパテロ、藤田明良、鷲頭桂、東京大学史料編纂所准教授 岡美穂子	60人
19	11月12日	九博ふるさとセミナー 第1部　九州国立博物館　特別展示 講演「白隠さんと仙厓さん」 第2部　九州歴史資料館　企画展 講演「大宰府を探るサイエンス」	展示課長　楠井隆志 九州歴史資料館学芸調査室広報普及班技術主査・学芸員　酒井芳司	83人
20	30年1月14日	文化交流展特別展示「白隠さんと仙厓さん」記念特別講演会 ①「白隠と仙厓に見る大和の禅」	花園大学客員教授　臨済宗妙心派福聚寺住職 玄侑宗久	223人
21	30年1月20日	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群登録記念　九州国立博物館「大宰府学研究」事業 シンポジウム 「知られざる沖ノ島祭祀」 基調講演「沖ノ島祭祀の実像−古代の祭式からみた沖ノ島祭祀遺跡ー」 研究発表「巨石と社殿」 研究発表「沖ノ島祭祀と遣唐使の航海」 研究発表「御長手神事と沖ノ島」 パネルディスカッション 「知られざる沖ノ島祭祀」	國學院大學教授　笹生 衛 展示課研究員　小嶋 篤 福岡県世界遺産登録推進室　大高広和 宗像市世界遺産登録推進室　岡　崇	120人
22	30年1月28日	文化交流展特別展示「白隠さんと仙厓さん」記念特別講演会　②「白隠と仙厓」	花園大学国際禅学研究所顧問 芳澤勝弘	220人
23	30年2月10日	リレー講座「王羲之と日本の書」 第１回「王羲之愛好と書の魅力」	館長　島谷弘幸	320人
24	30年2月17日	リレー講座「王羲之と日本の書」 第2回「古い筆跡たちのささやき」	学芸部文化財課資料登録室長　丸山猶計	320人
25	30年3月2日	しっとこ九博 王羲之と日本の書　解説講座	学芸部文化財課資料登録室長　丸山猶計	75人
26	30年3月4日	興福寺中金堂再建記念・興福寺シンポジウム 「阿修羅像　天平の心と技を未来へ」 開会挨拶 基調講演「天平の名宝・阿修羅像－その伝世性をめぐって」 第1部　最新技術が探る阿修羅像 「CTスキャンでせまる阿修羅像の技」 「阿修羅像、懺悔と改心の造形」 第2部　CTスキャンで探る阿修羅像の健康診断 「修理痕跡が語る阿修羅の姿」 「人口知能を使って樹種特定に迫る」	館長　島谷弘幸 興福寺貫主　多川俊映 展示課長　楠井隆志 愛知県立芸術大学名誉教授　山崎隆之 奈良大学教授　今津節夫 京都大学教授　杉山淳司	200人

3) ミュージアムトーク　　56回 参加者総数　　2,144人

・担当研究員数　　延べ 56人　　※うち夜間開催分は　529人

・事業内容　文化交流展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。

（原則として毎週（10月からは原則第1、3、5）火曜日の15時より15～30分間、夜のミュージアムトークは原則として第2、4土曜日の17時より15～30分間）

	開催日	テーマ	解説者	参加者数
1	4月4日	陶磁器の修理	学芸部博物館科学課保存修復室主任研究員 志賀智史	20人
2	4月11日	リンデン「長崎の思い出」	展示課主任研究員 一瀬　智	20人
3	4月18日	溶解技術―生産を通してみた弥生時代―	交流課主任研究員　進村真之	23人
4	4月25日	アジアの古地図－地図製作とアジアの形－	学芸部企画課特別展室研究員 松浦晃佑	27人
5	5月2日	博物館の環境管理について	学芸部博物館科学課環境保全室研究員 秋山純子	20人
6	5月9日	タイの仏像　ドヴァーラヴァティー	学芸部企画課特別展室長 原田あゆみ	40人
7	5月16日	「埴輪の持ちもの」	展示課展主任研究員 岸本　圭	50人
8	5月23日	Maid in キューハクのレプリカを触ってみよう!	客員研究員 赤田昌倫	25人
9	5月30日	名品にみる茶陶の歴史	学芸部企画課アソシエイトフェロー 酒井田千明	40人
10	6月6日	明時代の漆工芸	学芸部文化財課資料登録室主任研究員 川畑憲子	40人
11	6月13日	ダンワラ古墳の鏡について	学芸部文化財課長　河野一隆	40人
12	6月20日	鐘（ぼんしょう）～和・漢・洋のコラボレーション	学芸部文化財課資料登録室研究員 望月規史	30人
13	6月27日	大宰府を行き交った文物	展示課研究員　小嶋　篤	30人
14	7月4日	描（えが）かれた名場面―物語絵画の魅力	学芸部企画課特別展室主任研究員 鷲頭　桂	15人
15	7月11日	両界曼荼羅―密教図像の世界―	学芸部企画課文化交流展室主任研究員 森實久美子	40人
16	7月19日	甕棺のはなし	展示課主任研究員　今井涼子	40人
17	7月25日	夏だ！海だ！水中考古学だ！	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	35人
18	8月1日	漢時代のきらめく青銅器－鍍金銀温酒樽	学芸部企画課特別展室主任研究員 川村佳男	30人
19	8月12日	夜のミュージアムトーク 気分は考古学者	展示課主任研究員　今井涼子	30人
20	8月13日	「特別展示　対馬」関連 対馬　遺宝に見る交流の足跡	展示課主任研究員 一瀬　智	100人
21	8月15日	だるまさんと禅の美術	学芸部文化財課資料管理室主任研究員 畑　靖紀	20人
22	8月20日	「特別展示　対馬」関連 「考古資料にみる対馬の歴史」	対馬市教育委員会　尾上博一	120人
23	8月22日	水中考古学　特別展示の裏側	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	40人
24	8月27日	「特別展示　対馬」関連 「対馬の信仰と美術」	対馬市博物館建物推進室　大澤　信	100人
25	8月26日	夜のミュージアムトーク 仏像の目のヒミツ	展示課長　楠井隆志	30人
26	8月29日	菅公がたぶん見ていた書の世界	学芸部文化財課資料登録室長 丸山猶計	30人
27	9月3日	「特別展示　対馬」関連 「対馬の古文書と宗家文書	長崎県立対馬歴史民族資料館 古川祐貴	100人
28	9月5日	対馬　遺宝に見る交流の足跡	展示課主任研究員 一瀬　智	20人
29	9月9日	夜のミュージアムトーク 石器石材をさわってみよう	学芸部博物館科学課保存修復室主任研究員 志賀智史	50人
30	9月13日	六郷満山　祈りのかたち	展示課長　楠井隆志	60人
31	9月23日	夜のミュージアムトーク 沖縄の染物　びんがた	学芸部企画課特別展室長 原田あゆみ	30人
32	9月26日	重要文化財　多宝千仏石幢について	学芸部特任研究員 臺信祐爾	35人
33	10月3日	掛け軸の修復の道具と材料	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 大橋有佳	20人
34	10月14日	夜のミュージアムトーク 博物館学風展示室の歩き方	副館長　伊藤嘉章	30人
35	10月17日	「『新・桃山展』の仲間たち	学芸部企画課特別展室主任研究員 鷲頭　桂	40人
36	10月28日	夜のミュージアムトーク 『お殿様』のはんこ	学芸部企画課特別展室研究員 松浦晃佑	30人
37	10月31日	銅鐸と銅鼓	交流課主任研究員　進村真之	40人
38	11月11日	夜のミュージアムトーク 土器、測ってみる？	展示課主任研究員 岸本　圭	80人
39	11月14日	更紗の魅力	学芸部企画課特別展室長 原田あゆみ	40人
40	11月25日	夜のミュージアムトーク 古墳時代の九州の石工たち	学芸部文化財課長　河野一隆	30人
41	11月28日	アジアの銭	学芸部文化財課資料登録室研究員 望月規史	25人
42	12月9日	夜のミュージアムトーク 色絵ってなあに？	学芸部企画課アソシエイトフェロー　酒井田千明	9人
43	12月12日	筑紫在住の蝦夷	展示課研究員　小嶋　篤	25人
44	12月23日	夜のミュージアムトーク 博物館の光と温湿度	学芸部博物館科学課環境保全室研究員 秋山純子	9人
45	1月13日	夜のミュージアムトーク “よみの国”の暮らし	学芸部企画課特別展室主任研究員 川村佳男	22人
46	1月16日	国宝　初音の調度について	学芸部文化財課資料登録室主任研究員 川畑憲子	70人
47	1月27日	夜のミュージアムトーク 縄文時代の緑色のアクセサリー	学芸部博物館科学課保存修復室主任研究員 志賀智史	90人

48	1月30日	白隠さんと仙厓さん、禅画のおもしろさ	学芸部文化財課主任研究員 山下善也	40人
49	2月10日	夜のミュージアムトーク 特別展「王羲之と日本の書」の仲間たち	学芸部文化財課資料登録室長 丸山猶計	32人
50	2月14日	涅槃図を読み解く	学芸部企画課文化交流展室主任研究員 森貴久美子	30人
51	2月24日	夜のミュージアムトーク 水中遺跡っていくつあるの？	学芸部博物館科学課アアソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	17人
52	2月27日	中世の渡来版経	展示課主任研究員 一瀬　智	20人
53	3月10日	夜のミュージアムトーク シルクロード入門	学芸部特任研究員　臺信祐爾	28人
54	3月13日	旅と風景	学芸部文化財課資料管理室主任研究員 畑　靖紀	35人
55	3月24日	夜のミュージアムトーク 文化財レスキューのしかた	文化財防災ネットワーク推進室アソシエイトフェロー　萬納恵介	12人
56	3月27日	海の遺跡を調べる	学芸部博物館科学課アソシエイフェロー 佐々木蘭貞	40人

4)　その他展示に関連するイベント

39回　　12,014人

	展覧会名等	期間	内容	会場	参加者数	備考
1	文化交流展	5月5日	はらのむしを探そう	館内および西鉄大宰府駅、太宰府天満宮他	305人	
2		7月23日	やっぴぃ＆ランディのサイエンスラボ ～水中の宝をさがせ!!～	ミュージアムホール	210人	
3		8月25日～27日	特別展示「水の中からよみがえる歴史－水中考古学最前線－」関連イベント 「鷹島海底遺跡　甦る元寇船VR体験」	エントランス	—	
4		9月13日、10月1日	六郷満山霊場特別御朱印帳無料配布	4階展示室前	200人	
5		9月13日～9月17日	文化交流展特別展示「対馬－遺宝にみる交流の足跡－」対馬市パネル展	エントランス	—	
6		9月13日～9月24日	文化交流展特別展示「大分県国東宇佐六郷満山－神と仏と鬼の郷－」 国東宇佐六郷満山開山1300年記念イベント 1300年の祈り	ミュージアムホール	—	
7		9月15日、16日、22日、23日、29日、30日、10月6日、7日、13日	プレゼント企画 夜間開館　×文化交流展特別展示「大分県国東宇佐六郷満山～神と仏と鬼の郷～」 梅ヶ枝餅引換券をプレゼント！	4階文化交流室案内所	502人	
8		9月30日、10月1日	文化交流展特別展示「大分県国東宇佐六郷満山－神と仏と鬼の郷－」 国東半島・宇佐地域物産展	九州国立博物館レストラン前広場	—	
9		9月30日	国指定重要無形民俗文化財 国東岩戸寺修正鬼会	太宰府天満宮側アクセストンネル入口	400人	
10		10月1日	文化交流展特別展示「大分県国東宇佐六郷満山－神と仏と鬼の郷－」 国東宇佐伝統行事特別公演	ミュージアムホール	200人	
11		30年１月13日	新春特別公開徳川美術館所蔵 国宝　初音の調度関連イベント 「江戸の化粧再現講座」	研修室	40人	
12	日タイ修好130周年記念特別展「タイ～仏の国の輝き～」	4月9日	タイ仏像観光大使　いとうせいこうさん、みうらじゅんさんトークショー	都久志会館（福岡市中央区）	550人	
13		4月11日	タイ芸術局来福特別公演 「煌めきのタイ～古典舞踊と音楽の世界～」	ミュージアムホール	150人	
14		4月16日	九州国立博物館杯 特別展「タイ～仏の国の輝き～」記念 第7回さいふごま大会	ミュージアムホール	50人	
15		4月28日、29日、5月5日、6日、12日、13日、19日、20日、26日、27日、6月2日、3日	夜間開館×特別展「タイ～仏の国の輝き～」 記念品プレゼント！	総合案内所	863人	
16	特別展「世界遺産ラスコー展　クロマニョン人が見た世界」	7月15日、8月4日、8月18日、9月1日	ナイトミュージアム「クロマニョン人現る!!」	3階特別展会場	—	
17		7月16日	九州国立博物館杯 特別展「ラスコー展～クロマニョン人が見た世界～」記念　第8回さいふごま大会	ミュージアムホール	80人	
18		8月5日、8月12日	夏休み特別企画 ナイトミュージアム 『きゅーはく 夜の洞くつ探検』	展示室・バックヤード・研修室、他	90人	
19		8月25日、26日、9月1日、2日	夜間開館×特別展「世界遺産　ラスコー展 クロマニョン人が見た世界」 梅が枝餅引換券プレゼント	特別展入場受付	1430人	

20	特別展「新・桃山展」－大航海時代の日本美術	10月12日～11月26日	「松林図屏風」（高精細複製品）露出展示	4階文化交流展示第9室	—	
21		10月13日～12月3日	「黄金の茶室」特別展示	エントランス	—	
22		10月14日	国指定重要無形民俗文化財 幸若舞「敦盛」披露	ミュージアムホール	246人	
23		10月14日、20日、21日、27日、28日、11月3日、4日、10日、11日、17日、18日、24日	プレゼント企画 夜間開館 × 特別展「新・桃山展－大航海時代の日本美術」 梅ヶ枝餅引換券をプレゼント！	特別展入場受付	3094人	
24		10月20日	夜のフォトミュージアム@九州国立博物館	4階展示室内	7人	
25		10月29日	きゅーはく茶会	エントランス	120人	
26		11月11日	【ブックオカ タイアップイベント】 星野博美さんトーク「キリシタンの世紀と殉教の記憶をめぐって」	研修室	40人	
27		11月12日	九州国立博物館杯 特別展「新・桃山展～大航海時代の日本美術～」記念 第9回さいふごま大会	ミュージアムホール	60人	
28		11月23日～26日	特別展「新・桃山展～大航海時代の日本美術～」記念　先着300名　ポストカードの配布	ミュージアムホール	1200人	
29	特別展「王羲之と日本の書」	30年2月10日、16日、17日、23日、24日、3月2日、3日、9日、10日、16日、17日、23日、24日、30日、31日	プレゼント企画 夜間開館 × 特別展「王羲之と日本の書」 梅ヶ枝餅引換券をプレゼント！	特別展入場受付	1060人	
30		30年2月11日	席上揮毫会「第1回」 黒田賢一先生、陣軍陽先生、岩田海道先生	ミュージアムホール	513人	
31		30年2月12日	九州国立博物館杯 特別展「王羲之と日本の書」記念 第10回さいふごま大会	ミュージアムホール	40人	
32		30年2月18日	席上揮毫会「第2回」 髙木聖雨先生、吉田成美先生、吉村宣枝先生	ミュージアムホール	530人	
33		30年2月23日	特別展「王羲之と日本の書」関連イベント 「つづけ字しおりワークショップ」	ミュージアムホール	60人	
34		30年3月5日～8日	九州国立博物館の島谷館長と行く 王羲之の故郷を訪ねる旅	山東省臨沂、上海博物館、他	34人	
35		30年3月13日～3月18日	「九州の現代書壇展」 「西日本書美術協会選抜作家展」	ミュージアムホール	—	
36		30年3月18日	高校生書道パフォーマンス	エントランス	—	
37		30年3月20日～3月25日	「九州の現代書壇展」 「西部毎日書道会選抜作家展」	ミュージアムホール	—	
38		30年3月27日～4月1日	「九州の現代書壇展」 「日本書芸院九州・沖縄選抜作家展」	ミュージアムホール	—	
39		30年3月27日～4月1日	日中国交正常化45周年記念書道展	エントランス	—	

1-(3)-①-3 児童生徒を対象とした教育普及事業

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
回数・人数 ※1 ※2	**回数計**	**1,002回**	**回数計**	**495回**	**回数計**	**82回**	**回数計**	**2,135回**
	参加者計	**283,499人**	**参加者計**	**283,463人**	**参加者計**	**3,478人**	**参加者計**	**10,500人**
	体験型プログラム等	703回 272,867人	体験型プログラム等	467回 282,014人	体験型プログラム等	26回 399人	体験型プログラム等	2,041回 8,651人
	学校との連携事業	299回 10,632人	学校との連携事業	28回 1,449人	学校との連携事業	56回 3,079人	学校との連携事業	94回 1,849人
	児童生徒を対象とした刊行物	3件 37,000部	児童生徒を対象とした刊行物	3件 116,000部	児童生徒を対象とした刊行物	— —	児童生徒を対象とした刊行物	— 件 —
	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —	児童生徒を対象とした音声ガイド	1件 1,010台	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —

※1一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする

※2実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。（実施回数は計上している。）

【東京国立博物館】

1)体験型プログラム等　　703回　　272,867人

①ハンズオン展示等

585回　177,837人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	総合文化展（東洋館）関連「アジアの占い体験」	東洋館6室	284回	25,929人	実際に体験した人数
2	通年	総合文化展（本館）「トーハクでデザイン」「トーハクで〇〇ができるまで」「トーハクで国宝をさぐろう」「トーハクをまわそう」	本館19室	301回	151,908人	実際に体験した人数

②ワークショップ

25回　10,882人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月29日・30日	ファミリーツアー「トーハク劇場へようこそ！」	平成館考古展示室	4回	225人	7/29①25人②35人、7/30③75人④90人 7月30日はキッズデーイベントとして実施
2	7月30日	スタンプでつくる松林図屏風	本館19室	1回	592人	キッズデーイベントとして実施
3	7月30日	見学ガイドアプリ 「学校版トーハクなび」貸出サービス	本館2階	1回	91人	キッズデーイベントとして実施
4	7月30日	みんなでつくる貼り交ぜ屏風（ぬり絵）	本館2階ラウンジ	1回	741人	キッズデーイベントとして実施
5	8月13日・20日	ファミリーワークショップ「びょうぶをつくる」	本館地下教育普及スペース	2回	44人	①26人②18人
6	9月18日	ナイト・ミュージアム　親子で東洋館探検！	東洋館	1回	72人	「博物館でアジアの旅」関連事業として実施
7	1月2・3日	博物館に初もうでカレンダー付ワークシート	本館2階便殿前	2回	6,950人	①3750人　②3200人 「博物館に初もうで」関連企画として実施
8	8月10日	古典紅型のトートバッグを作ろう	本館地下教育普及スペース	1回	17人	東京藝術大学大学院インターンシップ工程見本「紅型ができるまで」関連事業
9	9月16日	フランス人間国宝展　こどものためのアトリエ 「ミニ傘デコレーション体験」 講師：ミシェル・ウルトー（傘作家）	本館地下教育普及スペース	1回	26人	
10	9月16日	フランス人間国宝展　こどものためのアトリエ 「麦わら象嵌眼細工のコースターづくり体験」 講師：リゾン・ドゥ・コーヌ（麦わら象嵌細工作家）	本館地下教育普及スペース	1回	25人	
11	9月17日	フランス人間国宝展　こどものためのアトリエ 「羽根細工の小鳥づくり体験」 講師：ネリー・ソニエ（羽根細工作家）	本館地下教育普及スペース	1回	23人	
12	9月17日	フランス人間国宝展　こどものためのアトリエ 「折り紙を使ったポップアップ扇子づくり体験」 講師：シルヴァン・ル・グエン（扇作家）	本館地下教育普及スペース	1回	13人	
13	1月27日・28日	ファミリーツアー「トーハク劇場へようこそ！」	法隆寺宝物館	2回	52人	
14	1月27日・28日	子どもツアー「トーハク劇場へようこそ！」	法隆寺宝物館	2回	29人	

15	3月3日	ファミリーワークショップ「ひいな遊び―立雛を作ろう!―」	本館地下教育普及スペース	1回	18人	
16	3月29日、30日、31日	桜ワークショップ「春らんまん　桜ぬりえ」	本館地下教育普及スペース	3回	1,964人	

③その他の体験型プログラム　　―回　　―人

④児童生徒を対象とした展示

92回　　82,966人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月25日～6月4日	「親と子のギャラリー　トーハクでバードウォッチング　―キジやクジャク、鳳凰が勢ぞろい―」	平成館企画展示室	37回	―	人数カウントを行っておらず参加者数不明
2	7月4日～9月3日	「親と子のギャラリー　びょうぶとあそぶ」	本館特別5室、特別4室	55回	82,966人	

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

1回　　1,182人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月30日	トーハクキッズデー	本館、平成館考古展示室	1回	1,182人	小中生832人(日本人657人、外国人175人)、未就学児350人

2)学校との連携事業　　299回　　10,632人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

273回　　10,056人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	スクールプログラム	本館地下教育普及スペース、大講堂、展示室等	270回	10,045人	270校
2	5月17日、5月26日、9月6日	盲学校のためのスクールプログラム	本館地下教育普及スペース、展示室等	3回	11人	3校

②出前授業等　　―回　　―人

③職場体験

20回　　63人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	職場体験の受け入れ	本館、東洋館ほか	20回	63人	20校、延べ55日

④教員を対象とした研修

6回　　513人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	5月12日	特別展「茶の湯」教員研修	大講堂	1回	259人	
2	7月25日	「スクールプログラム」教員研修	本館地下教育普及スペース	1回	28人	
3	7月26日	鑑賞教育研究会	本館地下教育普及スペース	1回	5人	
4	8月9日	東京都教職員研修センター　専門性向上研修（社会科）	本館地下みどりのライオンほか	1回	14人	東京都の小中高社会科教員を対象にした研修への協力
5	9月29日	特別展「運慶」教員研修	大講堂	1回	177人	
6	11月15日	新宿区小学校教育研究会図画工作部研修	本館地下みどりのライオンほか	1回	30人	新宿区の小学校図工教員を対象としたの研修への協力

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

―回　　―人

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　　3件　　37,000部

	名　　称	発行部数	備　考
1	特別展「茶の湯」ジュニアガイド	10,000部	
2	親と子のギャラリー「びょうぶとあそぶ」ワークシート	20,000部	
3	博物館に初もうで カレンダー付きワークシート	7,000部	

②音声ガイド　　―件　　―台

③その他メディア　　―件　　―台

【京都国立博物館】

1)体験型プログラム等　　467回　　282,014人

①ハンズオン展示等

402回　225,809

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	さわって発見！ミュージアム・カート	京都国立博物館 平成知新館	173回	225,809人	参加者は概算 年始を除く名品ギャラリー開室日の毎日125日、36,809人 「国宝」展期間48日、189,000人
2	通年	デジタル絵巻	京都国立博物館 平成知新館	229回	―	開館日の毎日、参加者数カウント不可

②ワークショップ

42回　14,258人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月11日～5月21日の開館日	描いてみよう！墨の線	京都国立博物館 平成知新館	36回	11,508人	特別展覧会「海北友松」ワークショップ
2	7月31日	洛東ロータリー「京の伝統文化と子供モノづくり体験」	京都国立博物館 平成知新館	1回	2,160人	平成知新館を会場として、地域の伝統工芸に関わる職人、大学の学生らによる様々なワークショップを実施。当館もワークショップを実施。（洛東ロータリークラブ主催）
2	8月6日、20日	貝合わせで遊ぼう！	京都水族館	2回	113人	特集展示「京博すいぞくかん―どんなおさかないるのかな？―」関連イベント
3	10月9日	貝合わせで遊ぼう！	南相馬市博物館	1回	120人	「ミュージアムキッズ！フェアinみなみそうま2017」（こども☆ひかりプロジェクト主催）
4	11月25日・26日	スタンプでバッグをデザイン！	羽生水郷公園	2回	357人	「世界キャラクターさみっとin羽生」（世界キャラクターさみっとin羽生実行委員会主催）

③その他の体験型プログラム

6回　人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月17日・18日	トラりん登場！	熊本県立装飾古墳館	2回	―	「ミュージアムキッズ！全国フェア2017」（こどもひかりプロジェクト主催）にて、博物館の紹介及び館蔵品の解説を実施した。参加者数カウント不可
2	7月14日・28日 8月4日・18日	トラりん登場！	京都水族館	4回	―	京都水族館との連携企画にあわせ、水族館に出張にいった。参加者数カウント不可

④児童生徒を対象とした展示

1回　40,911人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月25日～9月3日	特集展示「京博すいぞくかん―どんなおさかないるのかな？―」	京都国立博物館 平成知新館	1回	40,911人	京都水族館との連携企画

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

16回　1,036人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	11月12日	「松鷹図」おしゃべり鑑賞会	堀川御池ギャラリー	3回	29人	文化財ソムリエが「松鷹図」（二条城）の複製を用いて、京都市立中学校総合文化祭の展示会場にて鑑賞会を行った。（文化財に親しむ授業実行委員会主催）
2	7月27日・8月3日・10日・24日・31日	京都水族館下村実館長 ギャラリー・トーク	京都国立博物館 平成知新館	5回	41人	特集展示「京博すいぞくかん―どんなおさかないるのかな？―」関連イベント
3	7月31日	「京博すいぞくかん―どんなおさかないるのかな？―」ギャラリートーク	京都国立博物館 平成知新館	7回	154人	洛東ロータリー「京の伝統文化と子供モノづくり体験」関連イベント
4	11月6日	特別展覧会「国宝」小中学校　特別鑑賞会	京都国立博物館 平成知新館	1回	812人	特別展覧会「国宝」関連イベント

2)学校との連携事業　　28回　　1,449人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

9回　93人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	5月17日	佐賀市立金泉中学校	京都国立博物館	1回	5人	博物館の歴史、博物館の仕事紹介、自由観覧
2	6月17日	京都市崇仁児童館	京都国立博物館	1回	35人	名品ギャラリー解説、自由観覧
3	6月23日	さいたま市立木崎中学校	京都国立博物館	1回	12人	博物館の歴史、博物館の仕事紹介、名品ギャラリー解説、自由観覧
4	8月22日	日高川町立早蘇中学校	京都国立博物館	1回	6人	牛若丸と弁慶について質問対応
5	8月22日	京都府立園部高等学校・附属中学校	京都国立博物館	1回	1人	博物館の仕事についてのインタビュー

6	9月28日	横浜国立大学教育学部附属鎌倉中学校	京都国立博物館	1回	3人	刀剣について体験、質問対応
7	10月27日	京都府立嵯峨野高等学校	京都国立博物館	1回	4人	文化財の伝え方、保存について質問対応
8	12月5日	茗溪学園中学校	京都国立博物館	1回	7人	坂本龍馬暗殺の謎について質問対応
9	11月18日	京都府立 鴨沂高等学校	京都国立博物館	1回	20人	雪舟筆「四季花鳥図屏風」の複製を用いた鑑賞

②出前授業等

7回　626人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月7日	文化財に親しむ授業　京都市立七条第三小学校　6年生	京都市立七条第三小学校	1回	59人	教材：雪舟筆「四季花鳥図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
2	7月12日	文化財に親しむ授業　京都市立大宮小学校　6年生	京都市立大宮小学校	1回	140人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
3	9月13日	文化財に親しむ授業　京都市立嵐山東小学校6年生	京都市立嵐山東小学校	1回	57人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
4	10月12日	文化財に親しむ授業　京都市立乾隆小学校　6年生	京都市立乾隆小学校	1回	26人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
5	10月30日	文化財に親しむ授業　京都市立鳳徳小学校　6年生	京都市立鳳徳小学校	1回	59人	教材：雪舟筆「四季花鳥図屏風」（複製）・俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
6	11月15日	文化財に親しむ授業　京都市立新林小学校　5、6年生	京都市立新林小学校	1回	140人	教材：雪舟筆「四季花鳥図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
7	12月11日	文化財に親しむ授業　京都市立七条中学校　1年生	京都市立七条中学校	1回	145人	教材：尾形光琳筆「八橋図屏風」、講師：文化財ソムリエ

③職場体験　　―回　　―人

④教員を対象とした研修

3回　92人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	8月9日	文化財を教室に！ー複製を活用した事例紹介と交流会―	京都国立博物館	1回	13人	発表者：幸田美知代（京都府立福知山高等学校・附属中学校）、湯本美紀（同志社大学大学院／文化財ソムリエ）、大久保謙志（NPO法人京都文化協会）、水谷亜希（京都国立博物館 研究員）
2	8月4日	大阪府高等学校美術工芸教育研究会　博物館・美大研修	京都国立博物館	1回	30人	講義：「博物館を楽しむ」水谷亜希（京都国立博物館 研究員）
3	8月29日	社会科教員のための向上講座（（小）社会科授業実践力向上講座（中・高・総）社会科教員指導力向上講座）	京都国立博物館	1回	49人	講義：「特集展示〈京博すいぞくかん〉のみどころと、名品ギャラリーの魅力紹介」水谷亜希（京都国立博物館 研究員） 主催：京都市教育委員会・京都市小学校社会科教育研究会・京都市中学校教育研究会社会科部会

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

9回　638人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月2日	視力障碍者福祉センター 歴史の授業（社会・高等科1年・2年）	視力障碍者福祉センター（京都府）	1回	10人	考古資料・複製を持参し、触ってもらいながら授業を行った 講師：宮川禎一（上席研究員）
2	8月19日	なつやすみスペシャル！まいぶんくらぶ「国宝！風神雷神図がやってくる」	泉南市埋蔵文化財センター（大阪府）	1回	32人	複製を活用したプログラムへの助言・当日の補助を行った
3	10月2日	京都教育大学附属高等学校 歴史の授業	京都教育大学附属高等学校	1回	80人	仏像の玉眼模型を持参し、触る体験を行った
4	11月13日	京都市立四条中学校 鑑賞の授業	京都市立四条中学校	1回	101人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
5	11月22日	福知山高等学校・附属中学校 鑑賞の授業	福知山高等学校・附属中学校（京都府）	1回	120人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
6	1月16日・17日	三重県立四日市高等学校 鑑賞の授業	三重県立四日市高等学校（三重県）	1回	78人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
7	1月31日	京都市立洛西中学校 鑑賞の授業	京都市立洛西中学校	1回	90人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
8	2月1日	平安女学院中学高等学校 鑑賞の授業	平安女学院中学高等学校（京都府）	1回	87人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
9	2月14日	和歌山県立粉河高等学校 鑑賞の授業	和歌山県立粉河高等学校（和歌山県）	1回	40人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
※	8月26日	京都ミュージアムズ・フォー連携講座 「美術の中の水のいきもの」	京都国立博物館	（1回）	（75人）	1-(3)-①-2 講座・講演会等の開催実績に記載の土曜講座の一環のため、ここではカウントしない

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物

3件　116,000部

	名　称	発行部数	備　考
1	展示を楽しむための鑑賞ガイド「トラりんと見てみよう！どんなおさかないるのかな？」	7,000部	7月発行、観覧者（子ども～大人）対象
2	展示を楽しむための鑑賞ガイド「今日から君も獅子と狛犬博士」（日・英・中・韓）	64,000部	30年1月発行、観覧者（子ども～大人）対象
3	博物館Dictionary No.198～207	45,000部	4月、6月、7月、12月、30年1月、2月発行、観覧者（子ども～大人）対象

②音声ガイド　―件　―台

③その他メディア　3件

	名　称	発行部数	備　考
1	虎BLOG	―	公式キャラクター「トラりん」のブログを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
2	トラりんTwitter	―	公式キャラクター「トラりん」のTwitterを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
3	トラりんFacebook	―	公式キャラクター「トラりん」のFacebookを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。

【奈良国立博物館】

1)体験型プログラム等　26回　399人

①ハンズオン展示等　―回　―回

②ワークショップ

8回　282人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月29日	特別展「快慶」関連イベント親と子のワークショップ「着て楽しむ！ほとけさまのファッション」	地下回廊	2回	52人	午前・午後１回ずつ実施
2	7月26日～27日	親子で学ぼう博物館	講堂・なら仏像館	2回	36人	26日、27日で１回ずつ実施
3	7月29日	親子講座「エンマさまと地獄めぐり」	講堂	2回	159人	午前・午後１回ずつ実施
4	7月30日	奈良教育大学との連携事業特別展「源信」関連イベント「つくってわかる！立体地獄絵」	地下回廊	2回	35人	午前・午後１回ずつ実施

③その他の体験型プログラム　―回　―人

④児童生徒を対象とした展示　17回　―人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	10月28日～11月13日	正倉院展短歌コンクール受賞作品展示	地下回廊	17回	―	28年度受賞作品を展示

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会　1回　117人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	10月29日	第69回正倉院展　親子鑑賞会	講堂	1回	117人	

2)学校との連携事業　56回　3,079人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

20回　1,001人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月～2月	学校プログラム	講堂	20回	1,001人	20校（ボランティアによるスライド学習、なら仏像館案内）

②出前授業等　―回　―人

③職場体験　3回　6人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月6日～7月7日	職場体験（奈良県立青翔中学校）	全館	1回	3人	
2	11月29日～12月1日	職場体験（奈良市立若草中学校）	全館	1回	2人	
3	平成30年1月30日～2月1日	職場体験（奈良市立春日中学校）	全館	1回	1人	

④教員を対象とした研修　1回　50人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	8月2日	奈良市教育委員会教員研修会	講堂	1回	50人	対応ボランティア13人

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

32回　2,022人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月～1月	奈良市世界遺産学習	講堂	32回	2,022人	ボランティアによるスライド学習、なら仏像館案内

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　　― 件　　― 部

②音声ガイド　　1件　　1,010台

	名　称	台数	備　考
1	第69回正倉院展(日本版・子供向け)	1,010台	利用台数

③その他メディア　　― 件

【九州国立博物館】

1)体験型プログラム等　　2,041回　　8,651人

①ハンズオン展示（あじっぱ・あじ庵・あじぎゃら）等

1,767回　　― 人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月11日～9月10日	タイ ～微笑の国～	あじ庵	134回	―	展示日数
2	4月24日 ～30年3月31日	オランダの遊び	あじっぱ	287回	―	展示日数
3	4月18日～10月15日	タイの生活	ディスプレイ	157回	―	展示日数
4	5月9日～6月11日	針聞書 ～はらのむしグランプリ～	あじぎゃら	28回	―	展示日数
5	6月13日～11月26日	世界の楽器	あじぎゃら	144回	―	展示日数
6	30年3月6日 ～30年3月31日	日本屋台（夏）	あじっぱ	233回	―	展示日数
7	7月11日～9月4日	「世界遺産　ラスコー展」体験コーナー「マンモスの牙にさわってみよう」	展覧会会場	49回	―	開催日数
8	7月25日～11月26日	秋吉コレクション ～郷土人形の世界～	あじぎゃら	109回	―	展示日数
9	9月13日～12月10日	民族衣装を着てみよう！（韓国・中国）	あじ庵	78回	―	展示日数
10	9月26日 ～30年3月31日	ポルトガルの生活	あじっぱ	155回	―	展示日数
11	10月17日 ～30年3月31日	チベットの魅力	ディスプレイ	137回	―	展示日数
12	11月28日 ～30年3月4日	秋吉コレクション ～小さい人形たち～	あじぎゃら	101回	―	展示日数
13	12月12日 ～30年2月4日	民族衣装を着てみよう！（モンゴル・ウズベキスタン）	あじ庵	42回	―	展示日数
14	30年2月6日 ～30年3月31日	お雛様飾り	あじ庵	47回	―	展示日数
15	30年2月10日 ～30年3月31日	特別展「王羲之と日本の書」体験コーナー 濃淡（立体文字）をさわってみよう	展覧会会場	42回	―	開催日数
16	30年3月6日 ～30年3月31日	針聞書	あじぎゃら	24回	―	展示日数

②ワークショップ

34回　　873人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月9日、12月17日	ガムランワークショップ	ミュージアムホール	2回	56人	単発講座28人×2回
2	7月15日、10月22日、12月3日、30年2月11日	なりきり学芸員体験	あじぎゃら	8回	35人	小学校３年生以上（大人も可）、各回6人
3	9月23日	古代アクセサリー作り	大野城市大文字公園（大野城大文字まつり）	1回	150人	「きゅーはく女子考古部」の活動
4	10月15日、 11月26日、 12月10日	なりきり考古学者体験	あじぎゃら	9回	40人	小学校４年生以上（大人も可）、各回5人
5	11月3日	なりきり文化財カメラマン体験	写場	1回	7人	高校生及び引率教員
6	11月12日	貫頭衣ペットボトルケース作り	広川町古墳公園資料館（ひろかわ古墳まつり）	1回	60人	「きゅーはく女子考古部」の活動
7	12月23日	土笛作り	エントランス	5回	50人	「きゅーはく女子考古部」の活動
8	12月23日	古代文字を書いてみよう	エントランス	1回	94人	キッズ・ミュージアムin 九博
9	12月23日	組み紐でミサンガ作り	エントランス	1回	56人	キッズ・ミュージアムin 九博
10	12月23日	あなたの知らない折り紙の世界	エントランス	1回	150人	キッズ・ミュージアムin 九博
11	12月23日	「九博の森」でネイチャークエスト	エントランス	1回	50人	キッズ・ミュージアムin 九博
12	12月23日	ワヤン・クリ（影絵）のぬりえ	エントランス	1回	65人	キッズ・ミュージアムin 九博
13	30年2月23日	特別展「王羲之と日本の書」関連 つづけ字しおりワークショップ	エントランス	2回	60人	

③その他の体験型プログラム　148回　7,778人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月11日～6月4日	「タイ～仏の国の輝き～」展体験コーナー 曜日仏　生まれた曜日を調べよう	展覧会会場	49回	―	開催日数
2	5月5日、6日	アジアの文化にふれてみよう （きゅーはくきゃらばん事業）	熊本県立装飾古墳館	2回	150人	
3	6月17日、18日	鬼瓦づくり （きゅーはくきゃらばん事業）	熊本県立装飾古墳館	2回	200人	
4	6月24日	親子で茶道体験	茶室	4回	22人	
5	7月9日	民族衣装体験 （きゅーはくきゃらばん事業）	棚倉町文化センター	1回	184人	
6	7月11日～9月4日	「世界遺産　ラスコー展」イベント「クロマニョン人現る!!」	展覧会会場	4回	―	開催日数
7	7月29日,30日	あじっぱ夏祭り	ミュージアムホール	2回	1,130人	
8	8月5日，12日	夜のどうくつ探検（ナイトミュージアム）	特別展示室・研修室・バックヤード等	2回	90人	
9	8月14日	ラスコー壁画を疑似体験 （きゅーはくきゃらばん事業）	イオンモール筑紫野	1回	100人	
10	8月26日	親子で茶道体験	茶室	4回	60人	
11	10月9日	アジアの文化にふれてみよう！ （きゅーはくきゃらばん事業）	南相馬市博物館	1回	100人	
12	10月12日	土器にふれてみよう！ （きゅーはくきゃらばん事業）	ソラリアプラザ	1回	100人	
13	10月15日	親子で茶道体験	茶室	4回	56人	
14	11月19日	アジアの文化にふれてみよう！ （きゅーはくきゃらばん事業）	神戸アートビレッジ	1回	127人	
15	11月23日	アジアの文化にふれてみよう！ （きゅーはくきゃらばん事業）	福岡県立青少年海の家「玄海の家」	1回	100人	
16	12月4日	アジアの文化にふれてみよう！ （きゅーはくきゃらばん事業）	久留米市立篠山小学校	1回	120人	
17	12月10日	親子で茶道体験	茶室	4回	61人	
18	12月23日	松菊里型竪穴式住居組立ワークショップ	エントランス	1回	20人	「きゅーはく女子考古部」の活動
19	12月23日	キッズ・ミュージアムin九博 （きゅーはくきゃらばん事業）	ミュージアムホール、エントランス、研修室	1回	1,184人	
20	30年1月6日、7日	アジアの文化にふれてみよう！ （きゅーはくきゃらばん事業）	九州芸文館	2回	135人	
21	30年2月10日	アジアの文化にふれてみよう！ （きゅーはくきゃらばん事業）	熊本県立装飾古墳館	1回	45人	
22	30年2月10日 ～30年4月8日	特別展「王羲之と日本の書」体験コーナー ひらがなを書いてみよう	展覧会会場	50回	―	開催日数
23	30年2月14日	モンゴルの文化に触れてみよう（きゅーはくきゃらばん事業）	那珂川町立岩戸小学校	1回	28人	
24	30年2月20日	歴史・文化に触れてみよう（きゅーはくきゃらばん事業）	福岡県立小郡特別支援学校	1回	50人	
25	30年2月25日	親子で茶道体験	茶室	4回	54人	
26	30年2月25日	九博こどもフェスタ	ミュージアムホール	1回	2,962人	プログラム体験者のべ数
27	30年3月3日	アジアの文化にふれてみよう！ （きゅーはくきゃらばん事業）	八女市げんき館おおぶち	1回	400人	
28	30年3月3日	古代の宴へようこそ！	ミュージアムホール	1回	300人	

④児童生徒を対象とした展示　92回　― 人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月11日～9月4日	特別展「世界遺産　ラスコー展」わかりやすい解説パネル	展覧会会場	49回	―	開催日数
2	30年2月10日 ～30年4月8日	特別展「王羲之と日本の書」わかりやすい解説パネル	展覧会会場	43回	―	開催日数

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会　― 回　― 人

2)学校との連携事業　94回　1,849人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

27回　1,612人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	5月18日	久留米市立小森小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	50人	
2	6月2日	大木町立木佐木小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	45人	

3	6月7日	筑後市立筑後小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	69人	
4	6月9日	筑紫野市天拝小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	68人	
5	6月15日	古賀市立古賀西小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	72人	
6	6月16日	飯塚市立穂波南中学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	136人	
7	6月20日	那珂川町立岩戸小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	42人	
8	6月23日	大川市立大川小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	41人	
9	6月28日	久留米市立青峰小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	29人	
10	6月29日	志免町立志免南小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	89人	
11	6月30日	福津市立勝浦小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	12人	
12	7月11日	大牟田市立橘中学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	83人	
13	9月6日	宇美町立宇美東小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	61人	
14	9月13日	柳川市立大和中学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	135人	
15	9月15日	みやま市立山川中学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	56人	
16	9月26日	大川市立三又小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	56人	
17	9月29日	八女市立見崎中学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	50人	
18	10月11日	鞍手町立剣南小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	46人	
19	10月13日	うきは市立妹川小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	19人	
20	11月8日	小郡市立立石小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	23人	
21	11月14日	大刀洗町立菊池小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	69人	
22	11月17日	芦屋町立芦屋東小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	39人	
23	11月24日	豊前市立千束小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	25人	
24	11月30日	糸田町立糸田中学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	83人	
25	12月8日	飯塚市立飯塚第二中学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	106人	
26	30年1月12日	大牟田市立手鎌小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	74人	
27	30年2月2日	豊前市立宇島小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	34人	

②出前授業等

6回　104人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月21日、 6月28日	総合学習飛び梅タイム「歴史探訪コース」	太宰府中学校	2回	24人	
2	9月28日、 10月2日、4日	研究授業「海を越えて渡る元軍」	富山県小矢部市立 蟹谷中学校	4回	80人	

③職場体験

20回　92人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月～9月 1月～2月	中学校職場体験	全館	20回	92人	

④教員を対象とした研修

4回　25人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	７月28日、 8月4日	「先生のための博物館活用術！」	研修室、展示室	2回	15人	
2	8月3日～5日、 8月10日～12日	高等学校教員初任者研修・経験10年経過研修	体験型施設あじっぱ	2回	10人	

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

37回　16人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	30年2月18日 ～30年3月11日	ジュニア学芸員体験	会議室・あじっぱ・あじぎゃら	4回	16人	
2	－	学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出し	―	33回	－	54パック

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　― 件　― 部

②音声ガイド　― 件　― 台

③その他メディア　― 件　― 回

1-(3)-①-4　大学生・大学院生を対象とした教育事業

平成30年3月31日現在

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	インターンシップ	26 人	インターンシップ	2 人	インターンシップ	2 人	インターンシップ	3 人
	大学との連携講座	― 件 ― 人	大学との連携講座	1 件 6 人	大学との連携講座	2 件 12 人	大学との連携講座	1 件 40 人
	見学対応	22 回 571 人	見学対応	3 回 40 人	見学対応	1 回 38 人	見学対応	3 回 140 人
	その他	1 回 27 人	その他	22 回 27 人	その他	― 回 ― 人	その他	8 回 105 人

【東京国立博物館】

1)　インターンシップ　　26 人

受入期間	7月6日～30年3月31日		
受入部署	学芸企画部／150年史編纂室、教育普及室、教育講座室、出版企画室、国際交流室、デザイン室 学芸研究部／保存修復課、東洋室、考古室 総務部／総務課		
参加者数	26 人	学校数	17 大学／　0 専門学校
担当研究員数	4 人		
事業内容	博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起、高い職業意識の育成を目的とした就業体験プログラム。学生は受入部署において、10～30日間の活動を行った。		

2)　大学等との連携講座　　― 件　　― 人

3)　見学対応　　22 回　　571 人

期　　間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	571 人	学校数	17 大学／　5 専門学校
担当研究員数	4人		
事業内容	鑑賞の支援および、文化財・博物館への理解促進のため、大学生や大学院生、専門学校生を対象に、東京国立博物館の展示や活動についてのガイダンスを実施した。		

4)　その他　　1 回　　27 人

期　　間	7月24日～7月28日		
回　　数	1回		
開催場所	平成館大講堂、平成館小講堂、他		
参加者数	27 人	学校数	16 大学／　専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	キャンパスメンバーズ校を対象とした博物館セミナー教および育連携事業「博物館学講座」を実施した。		

【京都国立博物館】

1)　インターンシップ　　2 人

受入期間	8月21日～9月1日、9月11日～9月22日		
受入部署	学芸部　保存修理指導室		
参加者数	2 人	学校数	2 大学／　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	文化財修復大学院生インターンシップ協議会より推薦を受けた学生について、国宝修理装潢師連盟の協力を得て、文化財修復に関わる加盟大学院生2名のインターンを文化財保存修理所にて受け入れた。11月24日には平成知新館4F研修室にて2名による報告会を行った。（出席者27名）		

2)　大学等との連携講座　　1 件　　6 人

内　　容	京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座
実施日	通年
開催場所	京都国立博物館
受入人数	6 人
担当研究員数	4 人

3)　見学対応　　3 回　　40 人

期　　間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	40 人	学校数	3 大学／　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	鑑賞の手助け、文化財・博物館への理解促進のため、大学生や大学院生、専門学校生を対象に、京都国立博物館の展示や事業についての解説を含めたガイダンスを実施した。		

4) その他　　22 回　　27 人

期　　間	9月8日		
回　　数	1		
開催場所	京都国立博物館　文化財保存修理所		
参加者数	9 人	学校数	4 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会を実施した。実際の修理現場の見学・説明といった研修を行い、学生の意欲や目的意識の向上を図った。		

期　　間	5月17日、5月24日、6月7日、6月21日、6月28日、7月5日、7月19日、8月23日、8月29日、9月6日、9月20日、9月26日、10月3日、10月18日、10月31日、11月7日、11月29日、12月6日、30年1月10日、30年2月7日、30年2月21日		
回　　数	21		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	18 人	学校数	6 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	3 人		
事業内容	「文化財ソムリエに向けたスクーリング」 京都市内の小中学校で訪問授業を行う「文化財ソムリエ」養成のためのスクーリングを実施した。 参加者は、京都市内の大学で日本文化を専門に学ぶ大学生、大学院生。		

【奈良国立博物館】

1) インターンシップ　　2 人

受入期間	8月17日、8月18日、8月22日,8月23日、8月24日（計5日間）		
受入部署	総務課		
参加者数	2 人	学校数	1 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	1人（職員）		
事業内容	立命館大学とのインターンシップに関する覚書に基づき、将来博物館の運営業務（事務系）への就職を検討している学生を募集し、2名の学生を受け入れ、管理運営に関する就業体験や課題の企画発表等を行った。		

2) 大学等との連携講座　　2 件　　12 人

内　　容	奈良女子大学大学院人間文化研究科との連携講座
実施日	前期、後期
開催場所	奈良女子大学、奈良国立博物館
受入人数	3 人　（前期2人、後期1人）
担当研究員数	1 人

内　　容	神戸大学大学院人文学研究科との連携講座
実施日	通年
開催場所	神戸大学、奈良国立博物館
受入人数	9 人
担当研究員数	2 人

3) 見学対応　　1 回　　38 人

期　　間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	38 人	学校数	1 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	1 人		
事業内容	鑑賞の支援および、文化財・博物館への理解促進のため、大学生や大学院生、専門学校生を対象に、奈良国立博物館の展示や活動についてのガイダンスを実施した。		

4) その他　　― 回　　― 人

【九州国立博物館】

1) インターンシップ　　3 人

受入期間	8月28日～9月1日（5日間）		
受入部署	学芸部博物館科学課		
参加者数	3 人	学校数	3 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	5 人		
事業内容	文化財修理の基本となる作業を体験できる貴重な機会を提供した。		

2) 大学等との連携講座　　1 件　　40 人

内　　容	放送大学の面接授業
実施日	12月6日、7日
開催場所	九州国立博物館
受入人数	40 人
担当研究員数	7 人

3) 見学対応　　3 回　　140 人

期　　間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	140 人	学校数	3 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	当館の概要についての講義、展示室の解説等を実施した。		

4) その他　　8 回　　105 人

期　　間	4月26日		
回　　数	1回		
開催場所	筑紫女学園大学		
参加者数	60 人	学校数	1 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	1 人		
事業内容	バックヤードツアー		

期　　間	8月17日～8月28日（10日間）		
回　　数	1回		
開催場所	全館		
参加者数	16 人	学校数	12 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	博物館実習		

期　　間	6月16日、7月7日、8月17日、12月15日、30年1月19日、30年3月23日		
回　　数	6回		
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）		
参加者数	29 人	学校数	1 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	カフェコンサート		

1-(3)-①-5 キャンパスメンバーズ

平成30年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
53校	29校（※）	27校（※）	25校

※うち京都国立博物館・奈良国立博物館共通加入21校

【東京国立博物館】

①加入校数（53校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	桜美林大学	9,998人	20年4月1日	
2	武蔵野美術大学	8,085人	20年4月1日	
3	文化学園（文化学園大学，　文化ファッション大学院大学, 文化学園大学短期大学部, 文化服装学院, 文化外国語専門学校）	7,539人	20年4月1日	
4	東京学芸大学	6,561人	20年4月1日	
5	東京藝術大学	4,682人	20年4月1日	
6	東京大学	34,674人	20年4月1日	
7	お茶の水女子大学	3,577人	20年4月1日	
8	杉野学園（杉野服飾大学, 杉野服飾大学短期大学部, ドレスメーカー学	1,224人	20年4月1日	
9	大正大学	5,570人	20年4月1日	
10	東海大学	32,995人	20年4月1日	
11	青山学院大学・青山学院女子短期大学	22,726人	20年4月1日	
12	ハリウッド大学院大学・ハリウッドビューティ専門学校	504人	20年4月1日	
13	多摩美術大学	5,335人	20年4月1日	
14	立教大学	23,496人	20年4月1日	
15	首都大学東京	9,871人	20年4月1日	
16	女子美術大学・女子美術大学短期大学部	3,778人	20年4月1日	
17	東京造形大学	1,910人	20年4月1日	
18	法政大学	40,044人	20年4月1日	
19	筑波大学	21,197人	20年4月1日	
20	昭和女子大学・昭和女子大学短期大学部	6,286人	20年4月1日	
21	実践女子大学・実践女子短期大学	4,903人	20年5月1日	
22	東洋大学	33,516人	20年6月1日	
23	東洋美術学校	1,100人	20年6月1日	
24	日本大学（芸術学部）	4,976人	20年6月1日	
25	文教大学	9,659人	20年7月1日	
26	上智学院（上智大学、上智短期大学部、上智社会福祉専門学校）	16,915人	20年10月1日	
27	国際基督教大学	3,131人	21年4月1日	
28	学習院女子大学	1,946人	21年11月1日	
29	獨協大学	9,531人	22年4月1日	
30	学習院大学	9,611人	22年4月1日	
31	東京工業大学	11,938人	22年7月1日	
32	日本女子大学	8,412人	23年4月1日	
33	二松学舎大学	2,977人	23年5月1日	
34	東京家政大学・東京家政大学短期大学部	7,440人	23年6月1日	
35	神奈川大学	19,869人	24年6月1日	
36	日本工業大学	4,981人	24年7月1日	
37	東京女子大学	4,497人	24年8月1日	
38	尚美学園大学	3,130人	25年4月1日	
39	中央大学	31,231人	25年6月1日	
40	麗澤大学	2,858人	25年6月1日	
41	慶応義塾大学	44,963人	25年8月1日	
42	共立女子大学・共立女子短期大学	5,723人	26年4月1日	
43	成城大学　文芸学部	1,932人	26年4月1日	
44	日本文化大學	775人	27年4月1日	
45	鶴見大学　文学部　文学研究科	1,442人	27年5月1日	
46	十文字学園女子大学・十文字学園女子大学短期大学部	3,521人	27年6月1日	
47	早稲田大学	51,917人	27年6月1日	
48	東京外国語大学	4,906人	28年4月1日	
49	横浜国立大学	10,688人	28年4月1日	
50	國學院大學	12,630人	28年4月1日	
51	聖心女子大学	2,640人	28年5月1日	
52	津田塾大学	3,448人	29年8月1日	
53	清泉女子大学	1,989人	29年10月1日	

※キャンパスメンバーズ対象人数が学生＋教員数のため、学生数には教員の人数も含む。

【京都国立博物館】

① 加入校数（29校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	佛教大学	17,512人	19年4月1日	奈良博との2館併用	
2	就実大学人文科学部	1,027人	20年4月1日	奈良博との2館併用	
3	学校法人同志社	40,332人	19年4月1日	奈良博との2館併用	
4	奈良大学	3,692人	19年5月1日	奈良博との2館併用	
5	学校法人　関西大学	33,378人	23年6月1日	奈良博との2館併用	
6	学校法人　京都産業大学	14,372人	24年8月1日	H28より京博のみ	
7	帝塚山大学・附属高等学校	3,373人	18年6月1日	奈良博との2館併用	
8	奈良女子大学	2,651人	18年6月1日	奈良博との2館併用	
9	学校法人 瓜生山学園	11,006人	18年6月1日	京博のみ	
10	京都工芸繊維大学	4,077人	19年6月1日	奈良博との2館併用	
11	嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学	816人	18年7月1日	奈良博との2館併用	
12	京都精華大学	3,322人	18年7月1日	奈良博との2館併用	
13	龍谷大学・龍谷短期大学	20,693人	18年7月1日	奈良博との2館併用	
14	京都女子大学・京都女子短期大学	7,396人	18年7月1日	奈良博との2館利用	
15	京都橘大学	4,863人	18年7月1日	奈良博との2館併用	
16	京都教育大学・附属高等学校	2,371人	20年7月1日	奈良博との2館併用	
17	成安造形大学	822人	18年8月1日	京博のみ	
18	京都市立芸術大学	1,082人	20年8月1日	京博のみ	
19	京都大学	23,492人	18年9月1日	奈良博との2館併用	
20	近畿大学文芸学部	2,245人	18年9月1日	奈良博との2館併用	
21	花園大学	1,968人	18年11月1日	京博のみ	
22	奈良先端科学技術大学院大学	1,180人	19年12月1日	奈良博との2館併用	
23	大谷大学・大谷短期大学	3,351人	18年12月1日	京博のみ	
24	大阪大学	24,515人	20年12月1日	奈良博との2館併用	
25	京都外国語大学・京都外国語短期大学	4,747人	21年8月1日	奈良博との2館併用	
26	京都府立大学	2,148人	23年7月1日	京博のみ	29年4月に一時退会、10月に再入会
27	立命館大学	36,504人	26年4月1日	奈良博との2館併用	
28	学校法人 二本松学院	8,50人	29年4月1日	京博のみ	
29	四天王寺大学 人文社会学部	1,809人	29年5月1日	奈良博との2館利用	

【奈良国立博物館】

①加入校数（27校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	奈良教育大学	1,348人	18年4月4日	奈良博のみ	
2	奈良学園大学　（奈良文化高等学校、奈良学園高等学校、奈良学園大学奈良文化女子短期大学部、奈良学園登美ヶ丘高等学校）	2,550 人	18 年 10 月 1 日	同上	
3	奈良佐保短期大学	286人	18 年 11 月 29 日	同上	
4	天理大学	3,227人	20 年 7 月 1 日	同上	
5	奈良県立大学	653人	21年4月1日	同上	
6	奈良工業高等専門学校	1,097人	23年7月1日	同上	
7	帝塚山大学	3,373人	18 年 5 月 8 日	京博との2館併用	
8	奈良女子大学	2,651人	18年5月15日	同上	
9	嵯峨美術大学、嵯峨美術短期大学	779人	18年6月9日	同上	
10	京都精華大学	3,464人	18年6月28日	同上	
11	京都橘大学	4,859人	18年6月30日	同上	
12	龍谷大学、龍谷大学短期大学部	20,693人	18年6月30日	同上	
13	京都大学	23,391人	18年8月22日	同上	
14	近畿大学文芸学部、近畿大学大学院総合文化研究科	2,171人	18年8月24日	同上	
15	佛教大学	18,349人	19年4月1日	同上	
16	奈良大学	3,847人	19 年 5 月 2 日	同上	
17	京都工芸繊維大学	4,077人	19年6月1日	同上	
18	学校法人　同志社　（同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社女子高等学校、同志社国際高等学校）	40,332人	19年6月1日	同上	
19	奈良先端科学技術大学院大学	1,180人	19年11月7日	同上	
20	就実大学　人文科学部	1,034人	20年4月1日	同上	
21	京都教育大学、京都教育大学附属高等学校	2,357人	20年7月1日	同上	
22	大阪大学、大阪大学歯学部附属歯科技工士学校	24,515人	20年12月1日	同上	
23	京都外国語大学、京都外国語短期大学	4,793人	21年8月1日	同上	
24	関西大学、関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校、関西大学高等部	33,378人	23年6月1日	同上	
25	立命館大学	36,504人	26年4月1日	同上	
26	京都女子大学	7,396人	29年4月1日	同上	
27	四天王寺大学　人文・社会学部	1,809人	29年5月1日	同上	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズカード	
内　　容	キャンパスメンバーズ加入大学の学生のリピート来館を促すことを目的にキャンパスメンバーズカードを作成、 来館毎にスタンプを押印し、３回目と６回目に当館のオリジナルグッズを進呈するスタンプラリーを実施。 キャンパスメンバーズカードと併せて、告知のポスターとカード立てを作成しキャンパスメンバーズ加入大学に配布。

【九州国立博物館】

① 加入校数（25校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	九州産業大学	10,627人	28年4月1日	
2	九州情報大学	430人	29年4月1日	
3	九州大学	18,973人	29年4月1日	
4	久留米大学	6,887人	28年4月1日	
5	西南学院大学	8,392人	28年4月1日	
6	第一薬科大学	1,173人	28年4月1日	
7	筑紫女学園大学	2,637人	27年4月1日	
8	日本赤十字九州国際看護大学	464人	29年4月1日	
9	日本経済大学（福岡キャンパス）	2,083人	29年5月1日	
10	福岡教育大学	5,470人	29年4月1日	
11	福岡国際大学	298人	28年4月1日	
12	福岡女子大学	1,065人	27年4月1日	
13	福岡大学	21,014人	28年4月1日	
14	放送大学福岡学習センター	2,508人	29年4月1日	
15	早稲田大学大学院情報生産システム研究科（北九州キャンパス）	411人	29年4月1日	
16	九州産業大学造形短期大学部	270人	28年4月1日	
17	福岡女子短期大学	492人	28年4月1日	
18	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校	150人	28年4月1日	
19	久留米大学附設高等学校	595人	28年4月1日	
20	西南学院高等学校	1,322人	28年4月1日	
21	筑紫女学園高等学校	1,437人	27年4月1日	
22	筑紫台高等学校	1,900人	27年4月1日	
23	福岡大学附属大濠高等学校	1,951人	28年4月1日	
24	福岡大学附属若葉高等学校	1,128人	28年4月1日	
25	福岡有朋高等専修学校	433人	29年4月1日	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：バックヤードツアー	
内　　容	バックヤードの見学、案内
実施期間	4月26日
開催場所	九州国立博物館内

事業名：きゅーはくカフェコンサート	
内　　容	カフェコンサート（福岡女子短期大学の学生による演奏）
実施期間	6月16日、7月7日、8月17日、12月15日、30年1月19日、30年3月23日
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）

1-(3)-①-6 「留学生の日」

館名・日程	内容	アンケート結果概要
東京国立博物館 11 月 3 日(金・祝) 9：30～21：00	○参加者数　1622 人《676 人》 内　留学生　1565 人 同伴者　51 人 ＡＬＴ　6 人 ・無料観覧（総合文化展のみ） ・留学生のためのお茶会 参加者数：28 人 ・留学生のためのお茶体験 参加者：147 人 ・ボランティアによる英語ガイド 参加者数：393 人 ・ボランティアによるガイドツアー 参加者数：342 人	・留学生アンケート回答者数 176 人 （回収率 88%） ・来館頻度：初めて 89%、2 回目以降 7% ・認知経路：ポスター64%、友人 19%　他 ・出身国：中国 62%　他 ・また博物館に来たいか：ぜひ来たい 40%来たい 52%、たぶん来ない 7%、来ない 1%
京都国立博物館 平成 30 年 1 月 14 日(日) 無料観覧 9：30～17：00	○参加者数　88 人《33 人》 留学生　88 人《30 人》 同伴者　0 人《3 人》 ・名品ギャラリー無料観覧 ・高校生による書道パフォーマンス並びに一般参加の書道体験を同日開催	・留学生アンケート回答者数 33 人 （回収率 37.5%） ・来館頻度：初めて 76%、2 回目以降 24% ・「留学生の日」：初めて 82%、2 回目以降 18% ・認知経路：ポスター・チラシを見て 24%、HP を見て 9%、友人・教師 61%　他 3% ・展示内容：とても良かった 52%、良かった 45%。普通 3% ・出身国：中国 36%、台湾 27%、韓国 9%、アメリカ 6%、ベトナム 6%、オーストラリア 6%、マレーシア 3%、イギリス 3%、アイルランド 3%
奈良国立博物館 11 月 1 日(水) 9：00～18:00 (正倉院展会期中のため 9：00 開館)	○来館者数　11,836 人《11,549 人》 留学生　65 人《49 人》 ・「正倉院展」(特別展)及び「名品展」の無料観覧	・アンケート実施せず （正倉院展開催中につき実施困難）
九州国立博物館 11 月 3 日(金・祝) 9：30～20：00	○来館者数 文化交流展(平常展)　2,863 人《1,626 人》 留学生　28 人《　13 人》 ※同伴者のカウントはなし ・文化交流展（平常展）のみ無料観覧 ・留学生限定文化交流ツアーin 九博	・留学生アンケート回答者数 15 人(回収率 54%) うち、文化交流ツアーin 九博参加者 12 人 ・出身国：中国 12 人、台湾 1 人、エクアドル 1 人、ネパール 1 人 ・来館回数：1 回 12 人、2 回 1 人、8 回 1 人、10 回 1 人 ・認知経路（複数回答）：ホームページ 1 人、学校から 5 人、友達から 8 人、その他 1 人、未回答 1 人 ・満足度（文化交流展）：とてもよかった 5 人、よかった 10 人 ・満足度（文化交流ツアーin 九博）：とてもよかった 6 人、よかった 6 人 ・文化交流ツアーin 九博の全体の流れやスタッフの対応：とてもよかった 8 人、よかった 4 人

＊来館者数、参加者数等：《　》内は平成 28 年度

1-(3)-①-7　ボランティア受入実績　　（後述の資料に記載）◎共通資料b

1-(3)-①-8 友の会・メンバーズパス等

1) 会員数

友の会(29年4月1日改定)　　平成30年3月31日現在

区分 / 館名	友の会会員数	(参考) 年会費
東京国立博物館	2,967 人 （旧友の会 118 人を含む）	8,000 円
九州国立博物館	83 人	10,000 円

メンバーズプレミアムパス(29年4月1日より新設)　　平成30年3月31日現在

区分（年会費） / 館名	会員数	一般 (5,000 円)	一般 (3,100 円)	学生 (3,500 円)	学生 (3,000 円)	学生 (2,100 円)	家族 (10,000 円)
東京国立博物館	15,950 人 （旧パスポート 341 人を含む）	15,460 人	−	490 人	−	−	−
奈良国立博物館 (奈良博プレミアムカード)	1,347 人	1,289 人	−	−	43 人	−	15 人
九州国立博物館	5,082 人	−	2,815 人	−	−	2,267 人	−

国立博物館メンバーズパス（４館共通/29年4月1日より新設） 平成30年3月31日現在

区分（年会費） / 館名	パスポート 会員数	一般 (2,000 円)	学生 (1,000 円)
東京国立博物館	5,768 人 （旧ベーシック 300 人を含む）	5,234 人	234 人
京都国立博物館	1,814 人	1,695 人	119 人
奈良国立博物館	317 人	300 人	17 人
九州国立博物館	26 人	25 人	1 人

2)各種会員を対象とした事業

友の会会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

『東京国立博物館ニュース』、東大寺講演会開催案内送付、コンサートの鑑賞割引、当館ミュージアムショップの商品の一部割引、レストラン・カフェでの飲食料金の割引、総合文化展招待券の配布。

【九州国立博物館】

当館特別展観覧券8枚贈呈、季刊情報誌「アジアージュ」、特別展示ちらし、特別展連続講座等イベント案内送付、当館ミュージアムショップ・レストラン･カフェでの割引、入会時の記念品プレゼント。

メンバーズプレミアムパスを対象とした事業

【奈良国立博物館】（奈良博プレミアムカード）

①『奈良国立博物館だより』（年4回）の配布
②当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
③当館レストランでの飲食料金の割引
④当館研究員による解説付きの別鑑賞会を実施
・7月26日（水）　特別展「源信　地獄・極楽への扉」
　特別鑑賞会　参加人数72名
・10月31日（火）　特別展「第69回正倉院展」
　特別鑑賞会　参加人数134名

【九州国立博物館】
①当館特別展の無料観覧（計4回まで、うち同一展は２回まで）
②当館平常展の無料観覧

1-(3)-①-9 賛助会

1) 会員数

平成30年3月31日現在

館名	東京国立博物館	京都国立博物館		奈良国立博物館	九州国立博物館
		（一般社団法人 清風会）	（ﾐｭｰｼﾞｱﾑ・ﾊﾟｰﾄﾅｰ）		
件数	559件	445人	7件	76件	2件
内訳	ﾌﾟﾚﾐｱﾑ会員（個人）:3人 特別会員（団体）:19団体 特別会員（個人）:15人 維持会員（団体）:48団体 維持会員（個人）:474人	賛助会員（団体）:31人 特別会員（団体）:25人 特別会員（個人）:43人 普通会員（団体）:16人 普通会員（個人）:330人	団体会員:6 件 個人会員:1 件	特別支援会員:4団体 特別会員:3団体 一般会員（団体）:15団体 一般会員（個人）:54人	ﾌﾟﾚﾐｱﾑ会員（個人）:0人 特別会員（個人）:0人 維持会員（個人）:0人 ﾌﾟﾚﾐｱﾑ会員（団体）:0人 特別会員（団体）:1団体 維持会員（団体）:1団体

2) 賛助会員を対象とした事業

【東京国立博物館】
①当館総合文化展、特別展（維持会員および特別会員個人は展覧会毎に1回）の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待
④『東京国立博物館ニュース』（年6回）の配布
⑤当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑥当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

【京都国立博物館】
①『京都国立博物館だより』（年4回）の配布
②当館平常展（平成知新館名品ギャラリー）、特別展の無料観覧
③清風会が行う鑑賞会、見学会、会報に協力
④当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑤国際シンポジウム（年1回）案内の発送

【奈良国立博物館】
①当館平常展、特別展の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③展覧会図録の1冊贈呈
④『奈良国立博物館だより』（年4回）の配布
⑤当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
⑥当館レストランでの飲食料金の割引
⑦当館研究員による解説付きの賛助会員特別鑑賞会を実施
・4月11日（火）　特別展「快慶　日本人を魅了した仏のかたち」
　特別鑑賞会　参加人数51名
・7月20日（木）　特別展「源信　地獄極楽への扉」
　特別鑑賞会　参加人数64名
・10月30日（月）　特別展「第69回正倉院展」
　特別鑑賞会　参加人数116名

【九州国立博物館】
①当館文化交流展、特別展の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待
④特別展図録の贈呈
⑤季刊情報誌『アジアージュ』（年4回）の配布
⑥当館駐車場無料利用
⑦当館施設利用料割引
⑧当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

1-(3)-①-10 渉外活動

平成 30 年 3 月 31 日現在

【東京国立博物館】

1) 会場提供　1 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者数（人）	備考
1	9 月 13 日 ～9 月 18 日	展示会	台東区主催によるイベント（伝統工芸職人展）	平成館ラウンジ	6,981	

2) 館主催・協力イベント　35 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者数（人）	備考
1	4 月 3 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2018　桜の街の音楽会　ヴァイオリンとビオラのデュオ	法隆寺宝物館	310	東京・春・音楽祭実行委員会共催
2	4 月 5 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2017「東博でバッハ vol.35」大塚直哉	法隆寺宝物館	122	東京・春・音楽祭実行委員会共催
3	4 月 12 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2017「東博でバッハ vol.36」村治奏一	法隆寺宝物館	114	東京・春・音楽祭実行委員会共催
4	4 月 28 日	イベント	プレミアムな！東博寄席　No.1	平成館大講堂	172	当館主催
5	5 月 26 日	イベント	プレミアムな！東博寄席　No.2	平成館大講堂	213	当館主催
6	6 月 24 日	イベント	初夏東博寄席	平成館大講堂	325	東京クラリネット･クワイアー共催 上野のれん会、東京国立博物館協力会協賛
7	6 月 25 日	音楽会	東京国立博物館　初夏のコンサート	平成館ラウンジ	205	サロン・ド・ソネット共催
8	7 月 6 日	音楽会	ファミリーコンサート	平成館大講堂	588 （2 回計）	東京クラリネット･クワイアー共催 上野のれん会、東京国立博物館協力会協賛
9	7 月 28,29 日	イベント	トーハクＢＥＥＲＮＩＧＨＴ！　No.1	平成館前	1918 （2 回計）	当館主催
10	7 月 30 日	音楽会	キッズデー　日本の楽器のコンサート	本館前	650 （2 回計）	当館主催
11	8 月 25 日	イベント	東博納涼怪談	本館大講堂	186	当館主催
12	8 月 25,26 日	イベント	トーハクＢＥＥＲＮＩＧＨＴ！　No.2	平成館前	2662 （2 回計）	当館主催
13	9 月 8 日	音楽会	アジアの旅　コムズの演奏	東洋館	340 （2 回計）	当館主催
14	9 月 9 日	音楽会	Nukumori　MOON　LIVE	本館前	2087	当館主催
14	9 月 14 日	音楽会	アジアの旅　中国琵琶の演奏	東洋館	640 （2 回計）	当館主催
15	9 月 18 日 9 月 19 日	音楽会	東京国立博物館　秋のコンサート	法隆寺宝物館	192 （2 回計）	サロン・ド・ソネット共催
16	9 月 22 日 9 月 23 日	イベント	博物館で野外シネマ　映画「ももへの手紙」（2012 年、沖浦啓之監督）	本館前	2811 （22 日は雨天により中止）	当館主催
17	10 月 21 日	講演会	上野の山文化ゾーンフェスティバル 講演会シリーズ「甲冑入門」	平成館大講堂	230	上野の山文化ゾーン連絡協議会
18	10 月 28 日	音楽会	Music Weeks in TOKYO 2017 まちなかコンサート	東洋館前	817 （2 回計）	東京文化会館他共催
19	10 月 29 日	音楽会	アジアの伝統楽器によるコンサート　東方音楽絵巻～古から今に煌めくアジアの楽器たち～	本館前	120	ＮＰＯ法人世界遺産コンサート主催
20	11 月 1 日 ～11 月 4 日	イベント	創エネ・あかりパーク 2017 に伴うライトアップ	本館前庭	―	「創エネ・あかりパーク 2017」実行委員会共催
21	11 月 4 日	講演会	上野の山文化ゾーンフェスティバル 講演会シリーズ「室町時代のやまと絵」	平成館大講堂	260	上野の山文化ゾーン連絡協議会
22	11 月 17 日	音楽会	藝大生による邦楽ミュージアムコンサート	法隆寺宝物館	292	上野「文化の杜」新構想実行委員会、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）主催
23	11 月 29 日	講演会	東大寺講演会	平成館大講堂	288	東大寺共催
24	12 月 23 日 12 月 24 日 12 月 25 日	音楽会	感謝 DAY クリスマスライブ	本館大階段 他	800	当館主催

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者数（人）	備考
25	12 月 25 日	イベント	2017 トーハク感謝 DAY 特別企画　ミュージカル落語「一口弁当～イジメ撲滅の願いを込めて～」	平成館ラウンジ	130	当館主催
26	30 年 1 月 2 日 1 月 3 日	イベント	和太鼓（湯島天神白梅太鼓）	本館前	3338 （4 回計）	当館主催
27	30 年 1 月 2 日 1 月 3 日	イベント	獅子舞（葛西囃子中村社中）	本館前	3835 （4 回計）	当館主催
28	30 年 1 月 3 日	イベント	クラリネット（ジュリアンズ）	平成館ラウンジ	1078 （2 回計）	当館主催
29	30 年 1 月 26 日	イベント	新春東博寄席	平成館大講堂	287	当館主催
30	30 年 1 月 26 日	音楽会	東京･初春･音楽祭　夜の音めぐり	法隆寺宝物館 他	327	東京・春・音楽祭実行委員会共催
31	30 年 3 月 10 日	音楽会	東京国立博物館×東京･春･音楽祭　夜の音巡り～桜の街の音楽会スペシャル	本館池前　他	1090 （4 回計）	東京・春・音楽祭実行委員会共催
32	30 年 3 月 17 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2018「東博でバッハ vol.37」野平一郎	平成館ラウンジ	234	東京・春・音楽祭実行委員会共催
33	30 年 3 月 22 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2018「東博でバッハ vol.38」工藤すみれ	法隆寺宝物館	126	東京・春・音楽祭実行委員会共催
34	30 年 3 月 29 日	イベント	東京･春･音楽祭 2018「東博でバッハ vol.39」上野耕平	法隆寺宝物館	126	東京・春・音楽祭実行委員会共催
35	30 年 3 月 29 日	イベント	東京・春・音楽祭 2018　桜の街の音楽会 No.1	本館大階段	240	東京・春・音楽祭実行委員会共催

【京都国立博物館】

1) 会場提供　　68 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4 月 6 日	茶席	茶会	茶室	4	
2	4 月 6 日～7 日	研修会	従事者研修	大会議室、講堂	90	
3	4 月 9 日	茶席	茶会	茶室	12	
4	4 月 18 日	茶席	茶会	茶室	7	
5	4 月 18 日	会議	ICOM 京都大会運営委員会　会議	大会議室	43	
6	4 月 20 日	研修会	修理技術者資格制度　新任者研修会	研修室	15	
7	4 月 23 日	講義	展覧会解説	講堂	60	
8	4 月 26 日	講義	展覧会解説	講堂	35	
9	5 月 14 日	茶席	茶会	茶室	40	
10	5 月 18 日	審査会	修理技術者資格制度　登録審査	研修室、会議室２	15	
11	5 月 20 日	審査会	ICOM 京都大会　PCO 審査会	旧管理棟会議室	50	
12	5 月 20 日	ワークショップ	ICOM 京都大会運営委員会　ワークショップ	大会議室	50	
13	5 月 27 日	レセプション	Human Rights Watch Concil Summit 2017 Kyoto	講堂、グランドロビー、水盤テラス、接客室１・２、噴水広場	200	
14	6 月 3 日	茶席	茶会	茶室	7	
15	6 月 7 日	会議	全国蒲鉾青年協議会役員会	接客室２	20	
16	6 月 12 日	説明会	説明会及び意見交換会	講堂	70	
17	6 月 15 日	講演会	日本結晶成長学会特別講演会	講堂	120	
18	6 月 15 日	講義	副館長講演	講堂	40	
19	6 月 28 日	講義	文化財保護講座	研修室	49	
20	7 月 9 日	研修会	通訳案内士研修	講堂	70	
21	7 月 28 日	講習会	修理技術者資格制度　講習会・第 1 回試験準備委員会	研修室、大会議室、会議室２	40	
22	8 月 24 日～25 日	講演会	第 6 回アジア太平洋音楽認知科学協会国際大会	講堂	210	
23	8 月 27 日～28 日	勉強会	ICOM 京都大会国際委員会窓口担当者勉強会	旧管理棟会議室	10	
24	9 月 3 日	講演会	龍馬没後 150 周年講演会	講堂	150	
25	9 月 6 日	協議会	全国蒲鉾青年協議会 50 周年記念大会	講堂、接客室１・２	200	
26	9 月 10 日	茶席	茶会	茶室	10	
27	9 月 25 日～28 日	研修会	従事者研修	研修室、大会議室	40	
28	10 月 2 日	特別鑑賞会	特別鑑賞会	講堂、グランドロビー、接客室２	239	
29	10 月 3 日	資格試験	修理技術者資格制度　第 1 次試験	研修室、大会議室、会議室２	22	
30	10 月 4 日･11 日	勉強会	建築様式の研究会	茶室	30	
31	10 月 4 日	勉強会	日本文化体験	茶室	7	
32	10 月 6 日	講義	展覧会解説	講堂	50	

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
33	10月8日	講演会	講演会	講堂	200	
34	10月11日	講義	展覧会解説	講堂	50	
35	10月13日	講義	展覧会解説	講堂	129	
36	10月14日	茶席	茶会	茶室	20	
37	10月20日～21日	茶席	茶会	茶室	100	
38	10月22日～27日	研修会	第10回指定文化財（美工品）企画・展示セミナー	大会議室	26	
39	10月29日	演奏会	篠笛体験会	茶室	25	
40	10月29日	講義	展覧会解説	講堂	80	
41	10月30日	勉強会	ICOM京都大会打合せ	旧管理棟会議室	10	
42	11月1日	茶席	茶会	茶室	20	
43	11月2日～3日	茶席	茶会	茶室	100	
44	11月5日	茶席	茶会	茶室	6	
45	11月6･日7日･8日・27日・12月4日･5日･21日・22日	作業	文化財複製製作作業	東収蔵庫２階監視員室	2	
46	11月6日	資格試験	修理技術者資格制度　第2次試験	研修室、大会議室、会議室２	20	
47	11月8日	講義	展覧会解説	大会議室	32	
48	11月19日	茶席	茶会	茶室	15	
49	11月26日	茶席	茶会	茶室	5	
50	11月27日	茶席	茶会	茶室	5	
51	12月1日～2日	講習会	修理技術者資格制度　講習会	研修室、会議室２	15	
52	12月2日～3日	茶席	茶会	茶室	63	
53	12月9日	茶席	茶会	茶室	25	
54	12月10日	審査会	コンコルソ・ムジカアルテ　地区本選	講堂	200	
55	12月17日	講演会	カルチャースクール特別講座	講堂	120	
56	1月14日	茶席	茶会	茶室	8	
57	1月21日	審査会	コンコルソ・ムジカアルテ　全国大会	講堂	200	
58	1月28日	講義	展覧会解説	講堂	50	
59	2月26日～3月2日	MR体験	MR体験	ミュージアムラボラトリー、接客室１・３	200	
60	3月2日	シンポジウム	学術シンポジウム	講堂、接客室１・２	206	
61	3月3日～9日	展示	商品展示会	明治古都館	150	
62	3月7日	講演会	日本絵画についての解説	講堂	120	
63	3月7日	内覧会	デザイナー関係者レセプション	グランドロビー、展示室	104	
64	3月10日	会議	ICOM関係会議	研修室、大会議室	60	
65	3月11日	説明会	ICOM京都大会説明会	旧管理棟会議室	30	
66	3月18日	茶席	茶会	茶室	20	
67	3月21日	イベント	Dress Up Party Bloom!	グランドロビー	63	
68	3月29日	研修会	従事者研修	研修室、大会議室	40	

2)　館主催・協力イベント　　22件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4月15日	座談会	日本美術応援団、海北友松を応援する！！	講堂	204	特別展覧会「海北友松」関連イベント
2	4月22日	講演会	対談「海北友松を語る」	講堂	204	特別展覧会「海北友松」関連イベント
3	4月26日	音楽会	開館120周年記念 特別展覧会「海北友松」展 ヒジヤ ミュージック クラブ ガラ・コンサート2017	明治古都館　中央ホール	138	主催：土屋医院　共催：当館
4	4月29日	講演会	孤高の絵師・海北友松	講堂	204	特別展覧会「海北友松」関連イベント
5	5月12日	落語	京都・らくご博物館（春）～特別企画・雀三郎一門会～	講堂	127	主催：当館 制作協力：米朝事務所
6	5月13日	講演会	友松の作品―剛と柔・漢と和	講堂	204	特別展覧会「海北友松」関連イベント
7	5月21日	シンポジウム	国際博物館の日記念シンポジウム―京都ICOM大会に向けて―	講堂	200	主催：当館、日本博物館協会他
8	6月24日	音楽会	MUSIC DIALOGUE IN KYOTO VOL.3	講堂	200	主催：一般社団法人 Music Dialogue 共催：当館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
9	6月24日	音楽会	ザ・ハーバード・クロコディロス 京都公演	グランドロビー	200	主催：ザ・ハーバード・クロコディロス京都公演実行委員会　共催：当館
10	7月2日	文楽	解説と実演による文楽鑑賞入門	講堂	204	主催：当館 制作協力：文楽協会
11	7月3日	講義	第35回文化財防火・市民講座	講堂、グランドロビー、明治古都館、展示室	130	主催：京都市消防局 共催：当館
12	7月4日	落語	京都・らくご博物館（夏）～夏休み企画・親子で楽しむ落語会～	講堂	102	主催：当館 制作協力：米朝事務所
13	7月30日	イベント	京都洛東ロータリークラブ創立30周年記念事業	グランドロビー、展示室、講堂、接客室１・２、技術資料参考館、茶室、庭園	2600	主催：京都洛東ロータリークラブ 共催：当館
14	9月6日	講義	日本展示学会　展示論講座	講堂、大会議室、会議室２、接客室２	50	主催：日本展示学会 共催：当館
15	10月11日	研修会	文化遺産保護　個別テーマ研修	研修室	10	主催：公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所 共催：当館
16	11月4日	講演会	国宝の杜へ―京都国立博物館と古社寺保存法―	講堂	204	特別展覧会「国宝」開催記念講演会
17	1月6日	イベント	芸舞妓・春の舞	グランドロビー	300	主催：当館
18	1月8日	イベント	琉球古典 たまゆらの世界	講堂	400	主催：一般社団法人ステージサポート沖縄 共催：当館
19	1月14日	イベント	書道パフォーマンス・書道体験	明治古都館	200	主催：当館　協力：立命館宇治高等学校
20	2月9日	落語	京都・らくご博物館〔冬〕～新春寄席～	講堂	200	主催：当館 制作協力：米朝事務所
21	3月10日･11日	イベント	特別企画「貝塚廣海家コレクション受贈記念 豪商の蔵―美しい暮らしの遺産―」開催記念 春の呈茶席	茶室	219	主催：当館
22	3月14日	音楽会	ヒジヤ ミュージッククラブ・コンサート2018	講堂	120	主催：土屋医院　後援：当館

【奈良国立博物館】

1）会場提供　　30件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4月2日	茶会	茶会	茶室	18	裏千家茶道教室
2	4月4日	会議	面接	会議室	10	株式会社日経サービス
3	4月5日	講演会	「奈良の仏」	講堂・展示室	101	株式会社ワールド航空サービス
4	4月6日	会議	面接	会議室	10	株式会社日経サービス
5	4月21日・23日	茶会	茶会	茶室	33	茶道裏千家流円明会
6	4月26日	講義	「天才仏師　快慶」	講堂・展示室	33	よみうり堺文化センター
7	4月26日・27日	茶会	茶会	茶室	21	茶道裏千家流円明会
8	5月16日	会議	面接	会議室	5	株式会社日経サービス
9	5月18日	会議	大阪府宗教連盟常務理事会	会議室	19	大阪府宗教連盟
10	5月18日	講義	快慶展についてのレクチャー	講堂・展示室	43	多摩美術大学
11	5月23日	会議	面接	会議室	8	株式会社日経サービス
12	7月9日	研修	重要文化財指定建造物の現地研修	仏教美術資料研究センター・庭園	31	史跡美術同好会
13	7月29日	講義	集中講義「源信展観覧後のレクチャー」	講堂・展示室	38	奈良女子大学
14	8月2日	講義	奈良市教職員研修	講堂・展示室	43	奈良市教育委員会
15	8月5日	講座	「奈良いいトコめぐり」	展示室	10	NHK文化センター梅田教室
16	8月10日	講座	「美術館めぐり」	講堂・展示室	10	株式会社NHK文化センター京都支社
17	8月16日	広報	近鉄広報誌への情報提供	仏教美術資料研究センター	1	株式会社ユーピーフォトス
18	8月26日	番組収録	NHK番組「今夜も生でさだまし」	仏教美術資料研究センター	60	NHK奈良放送局
19	9月23日	茶会	茶会	茶室	10	裏千家教授（特別師範）
20	10月28日～11月13日	キャンペーン	正倉院展図録、グッズ等の販売	西新館・地下回廊	―	(財)仏教美術協会
21	10月28日～11月13日	茶席	正倉院展「野点のお茶席」	西新館南側ピロティ・庭園	14,633	結の会
22	10月28日～11月13日	キャンペーン	休憩所及びフード・ドリンクの販売	新館西側敷地	―	㈱日本クリーンシステムズ

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
23	10月28日～11月13日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	—	校倉な会
24	10月28日～11月13日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	—	なら和み館
25	10月28日～11月13日	キャンペーン	郵便切手・はがき類の販売	新館西側敷地	—	奈良中央郵便局
26	12月17日	敷地提供	春日若宮おん祭執行に係る敷地提供	一の鳥居付近の敷地	—	春日大社
27	1月12日～1月14日	イベント	奈良国際映画祭	講堂・応接室	496	奈良市
28	1月19日	講義	なら仏像館の解説	講堂・展示室	70	日本定位・機能神経外科学会
29	2月6日～2月7日	茶会	第五回珠光茶会	茶室・展示室	160	奈良市
30	3月2日	講演会	「総合的な学習の時間」のための鹿愛護会による講演	講堂	63	奈良市立二名小学校

2）館主催・協力イベント　43件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4月8日～4月9日	庭園	庭園散策ツアー	庭園	447	
2	4月11日	鑑賞会	賛助会特別鑑賞会	講堂・展示室	51	
3	4月20日	夜間貸切観覧	「なら仏像館」夜間貸切観覧	展示室	159	JTB関東法人営業甲府支店
4	4月29日	イベント	特別展「快慶」関連イベント親と子のワークショップ「着て楽しむ！ほとけさまのファッション」	地下回廊	52	
5	5月3日	イベント	特別展「快慶」関連イベント「截金技法の体験をしてみよう！」	地下回廊	39	読売テレビ
6	5月16日	鑑賞会	読売新聞社わいず倶楽部 快慶展特別鑑賞会	講堂・展示室	155	読売新聞
7	5月20日	イベント	特別展「快慶」関連イベント「截金技法の体験をしてみよう！」	地下回廊	20	読売テレビ
8	6月1日	鑑賞会	特別展「快慶」閉館後貸切鑑賞	展示室	338	クラブツーリズム
9	7月15日～9月24日	イベント	ライトアッププロムナード・なら2017	なら仏像館・仏教美術資料研究センター外観	—	ライトアッププロムナード・なら実行委員会
10	7月20日	鑑賞会	賛助会特別鑑賞会	講堂・展示室	64	
11	7月26日～7月27日	イベント	親子で学ぼう博物館	講堂・なら仏像館	36	共催：奈良市教育委員会
12	7月26日	鑑賞会	奈良博プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂・展示室	72	
13	7月29日	講座	親子講座「エンマさまと地獄めぐり」	講堂	159	
14	7月30日	イベント	奈良教育大学との連携事業特別展「源信」関連イベント「つくってわかる！立体地獄絵」	地下回廊	35	
15	8月5日～8月14日	観光イベント	「第19回なら燈花会」 ろうそくやオブジェを設置	当館敷地	—	なら燈花会の会
16	8月10日～8月11日	コンサート	音燈華　ジュスカ・グランペール（ギター・バイオリンの演奏）	庭園・西新館南ピロティ	1,499	主催：大和ハウス工業株式会社 共催：奈良国立博物館
17	10月26日	観光イベント	「柿の日」に因み、奈良県特産物である柿を配布し、「奈良の柿」をPR	新館前広場	—	奈良県農林部・奈良県農業協同組合
18	10月28日～11月13日	展示	正倉院展　法華寺御流のいけばな展示	西新館1Fロビー	—	
19	10月28日～11月13日	観光イベント	正倉院展「あるくん奈良スタンプラリー」	当館敷地	—	
20	10月28日～11月13日	展示	正倉院展短歌コンクール受賞作品展示	地下回廊	—	主催：奈良国立博物館・読売新聞社・読売テレビ
21	10月28日	セミナー	正倉院展特別セミナー	仏教美術資料研究センター・展示室	70	
22	10月29日	鑑賞会	第69回正倉院展親子鑑賞会	講堂・展示室	117	
23	10月30日	鑑賞会	賛助会特別鑑賞会	講堂・展示室	116	
24	10月31日	鑑賞会	プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂・展示室	134	
25	11月1日～11月2日	鑑賞会	タクシー・ホテル等関係者特別鑑賞会	講堂・展示室	204	
26	11月1日	特別観覧	留学生の日	展示室	63	
27	11月3日	シンポジウム	正倉院学術シンポジウム2017「正倉院の色」	東大寺総合文化センター金鐘ホール	224	
28	11月18日	イベント	奈良トライアングルミュージアムズワークショップ「写仏散華づくり」	地下回廊	69	
29	11月18日～11月19日	特別鑑賞	関西文化の日	なら仏像館	2,685	
30	11月19日	庭園	庭園散策ツアー	庭園	50	

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
31	12月4日	セミナー	奈良トライアングルミュージアムズ東京セミナー「冬の奈良と奈良国立博物館の楽しみ」	奈良まほろば館	57	
32	12月17日	イベント	第2回ボランティア・フェスタ	地下回廊・展示室	4276	
33	12月17日	茶会	おん祭と春日信仰の美術「茶会」	茶室・庭園・西新館南側ピロティ	87	主催：裏千家　泉本宗悠
34	1月2日～1月3日	イベント	「新春企画　初博　初夢　初ショップ」	なら仏像館・地下回廊	500	
35	1月25日	特別公開	「文化財保存修理所特別公開」	講堂・文化財保存修理所	119	
36	2月4日	イベント	「笑い飯哲夫のおもしろ仏教講座」	講堂	173	
37	2月8日～2月14日	イベント	なら瑠璃絵オブジェの設置	西新館北側池前	－	なら瑠璃絵実行委員会
38	2月10日	講演・鑑賞	『お水取り「講話」と「粥」の会』	講堂・茶室控室・展示室	32	
39	2月13日	講演会	しあわせ回廊なら瑠璃絵特別講演会	講堂	106	なら瑠璃絵実行委員会
40	3月1日～11日、13日、14日	特別鑑賞	お水取り展中の定期観光バス向けボランティア解説	展示室	131	
41	3月3日	コンサート	Daiwa Sakura Aid　Presents「冬の桜」	仏教美術資料研究センター	134	大和ハウス工業（株）
42	3月6日	講演・鑑賞鑑賞	「お水取り展鑑賞とお松明」	講堂・展示室	146	
43	3月11日	イベント	仏教美術資料研究センター公開	仏教美術資料研究センター	516	

【九州国立博物館】

1) 会場提供　5件（イベント、講演会等）

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4月14日	イベント	歩かんね太宰府 「九博バックヤードと光明寺・伝衣塔・天開稲荷社」	バックヤード、他	14	主催：NPO法人歩かんね太宰府
2	6月24日	イベント	全国邪馬台国連絡協議会第6回九州地区大会 「倭人伝の国々・Part②」	ミュージアムホール	90	主催：全国邪馬台国連絡協議会
3	7月8日	イベント	秋園美緒コンサート	ミュージアムホール	80	主催：筑紫言の葉舎
4	10月31日	イベント	歩かんね太宰府 「九博バックヤードとパワースポット天開稲荷社」	バックヤード、他	14	主催：NPO法人歩かんね太宰府
5	11月25日	研修会	第50回NPO法人日本口腔科学会九州地方部会	ミュージアムホール、他	250	主催：第50回NPO法人日本口腔科学会九州地方部会

2) 館主催・協力イベント　165件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4月8日	シンポジウム	文化財保存修復学会公開シンポジウム 「博物館におけるＩＰＭのこれから」	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館
2	4月9日	イベント	日タイ修好130周年記念特別展「タイ～仏の国の輝き～」 タイ仏像大使　いとうせいこうさん、みうらじゅんさんトークショー	都久志会館	550	主催：九州国立博物館
3	4月11日	イベント	タイ芸術局来福特別公演 煌めきのタイ～古典舞踊と音楽の世界～	ミュージアムホール	150	主催：九州国立博物館
4	4月16日	イベント	九州国立博物館杯 特別展「タイ～仏の国の輝き～」記念 第7回さいふごま大会	ミュージアムホール	50	主催：九州国立博物館
5	4月22日	イベント	第69回はじめての茶道体験	茶室	中止	主催：九州国立博物館
6	4月22日	イベント	夜間開館プレイベント ①「夜の光の博物館」イベント 夜の光の博物館ワークショップ 夜の光の博物館ライトアップ	研修室	100	主催：九州国立博物館
7	4月22日	イベント	夜間開館プレイベント ②プラントハンター西畠清順が登場！ 西畠清順トークショー 西畠清順によるしだれ桜の群生披露	ミュージアムホール、 館外	200	主催：九州国立博物館
8	4月22日	イベント	夜間開館プレイベント 弦楽四重奏＆ティーサービス	エントランス	100	主催：九州国立博物館

	期間	種類 （イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者 （人）	備考
9	4月28日	イベント	夜間開館オープニングセレモニー ①太宰府天満宮 Presents サラ・オレインミニライブ ②ソフトバンクホークス 王貞治会長によるトーク ③点灯式夜間開館スタート ④ＫＯＯ－ＫＩ製作“きゅーはく夜の博物館ショートムービー”上映	ミュージアムホール、エントランス、他	400	主催：九州国立博物館
10	4月29日	講演会	日タイ修好130周年記念特別展・学術交流記念講演会「タイと日本　境界を越えて」 基調講演「タイ　海域をめぐる交流」 「日タイ交流　人とモノ」	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館
11	5月5日	イベント	はらのむしを探そう	館内および西鉄大宰府駅、太宰府天満宮他	305	主催：九州国立博物館
12	5月6日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内、バックヤード他	28	主催：九州国立博物館
13	5月6日	講演会	日タイ修好130周年記念特別展「タイ～仏の国の輝き～」 リレー講座　見たい 行きたい よかタイ！ 「山田長政　アユタヤ―の日本人」 「タイのごちそう決定版！－ラーマ２世王の饗宴詩－」	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館
14	5月13日	講演会	日タイ修好130周年記念特別展「タイ～仏の国の輝き～」 リレー講座　見たい 行きたい よかタイ！ 「仏陀の足跡を求めて」 「輝ける仏の国タイ」	ミュージアムホール	90	主催：九州国立博物館
15	5月20日	イベント	夜間開館イベント 「アジア民族衣装コレクション」	エントランス	190	主催：九州国立博物館
16	5月23日	イベント	日中国交正常化45周年記念写真展 オープニングイベント 中国民族楽器演奏（二胡） 主催者挨拶・テープカット 中国民族楽器演奏（古箏）	エントランス	100	主催：中華人民共和国駐福岡総領事館、九州国立博物館
17	5月23日 ～5月28日	展示	日中国交正常化45周年記念写真展	エントランス	－	主催：中華人民共和国駐福岡総領事館、九州国立博物館
18	5月26日	イベント	夜間開館イベント「プレミアムフライデーライブVol.1～二胡の夕べ～」	ミュージアムホール	120	主催：九州国立博物館
19	5月27日	講演会	第4回石橋財団レクチャーシリーズ 文化としての茶の湯、産品としての茶	ミュージアムホール	130	主催：イーストアングリア大学、セインズベリー日本藝術研究所
20	5月27日	イベント	第1回スケッチしナイト☆	４階文化交流展示室	7	主催：九州国立博物館
21	6月1日	講演会	「魏志倭人伝の新しい世界～謎多い古代史　新しい切り口で～」	ミュージアムホール	270	主催：京都女子大学
22	6月3日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内、バックヤード他	32	主催：九州国立博物館
23	6月10日	イベント	夜間開館イベント「太宰府天満宮菖蒲まつりコラボ企画“トワイライトＪＡＺＺ”」	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館
24	6月16日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	90	主催：九州国立博物館
25	6月17日	イベント	『海と日本PRPJECT　日比野克彦ワークショップ「種は船」』	ミュージアムホール	100	主催：NPO法人太宰府アートのたね 共催：九州国立博物館
26	6月24日	イベント	第76回親子で茶道体験	茶室	22	主催：九州国立博物館
27	6月30日	イベント	夜間開館イベント「プレミアムフライデーライブVol.2　逆瀬川剛史アコースティックライブ～旋律～」	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館
28	7月1日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内、バックヤード他	29	主催：九州国立博物館
29	7月7日	イベント	七タイベント きゅーはくカフェコンサート ～昼下がりの博物館でクラシックを楽しむ～	エントランス	110	主催：九州国立博物館
30	7月7日	イベント	七タイベント 星空プラネタリウム ～涼しいプラネタリウムでゆったりと七タを満喫～	エントランス	191	主催：九州国立博物館
31	7月9日	イベント	第1回ガムランワークショップ	ミュージアムホール	20	主催：九州国立博物館

	期間	種類 （イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者 （人）	備考
32	7月11日	記念講演会	特別展「世界遺産　ラスコー展　クロマニョン人が見た世界」 記念講演会「クロマニョン人はどこから来たのか？」	ミュージアムホール	259	主催：九州国立博物館
33	7月13日	イベント	全国歴史民俗系博物館協議会年次集会	ミュージアムホール、研修室等	100	主催：全国歴史民俗系博物館協議会
34	7月15日	イベント	ナイトミュージアム「クロマニョン人現る!!」	3階特別展会場	－	主催：九州国立博物館
35	7月15日	イベント	なりきり学芸員体験	あじっぱ	7	主催：九州国立博物館
36	7月15日	イベント	第69回はじめての茶道体験 With ゆかた de 太宰府～古都の夏～	茶室	13	主催：九州国立博物館
37	7月16日	イベント	九州国立博物館杯 特別展「ラスコー展～クロマニョン人が見た世界～」記念　第8回さいふごま大会	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館
38	7月17日	講演会	特別展示「水の中からよみがえる歴史－水中考古学最前線－」関連イベント 講演会「プロカメラマンが魅せる水中遺跡」	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館
39	7月19日	イベント	太宰府市・扶餘郡姉妹都市承継協定締結５周年記念事業「古代大宰府と泗沘・百済」日韓写真展オープニングセレモニー	ミュージアムホール	80	主催：太宰府市、扶餘郡
40	7月19日 ～7月27日	イベント	太宰府市・扶餘郡姉妹都市承継協定締結５周年記念事業「古代大宰府と泗沘・百済」日韓写真展	エントランス	－	主催：太宰府市、扶餘郡
41	7月22日	講演会	特別展「世界遺産　ラスコー展　クロマニョン人が見た世界」 リレー講座「ラスコー洞窟の壁画を味わう」	ミュージアムホール	251	主催：九州国立博物館
42	7月23日	イベント	特別展示「水の中からよみがえる歴史－水中考古学最前線－」関連イベント やっぴぃ＆ランディのサイエンスラボ ～水中の宝をさがせ!!～	ミュージアムホール	210	主催：九州国立博物館
43	7月28日	イベント	夜間開館イベント「プレミアムフライデーライブ Vol.3　立川翼～温故知新～」	エントランス	70	主催：九州国立博物館
44	7月29日 、30日	イベント	「いこうよ！あじっぱ夏祭り」	ミュージアムホール	500	主催：九州国立博物館
45	7月30日	イベント	ホロレンズで見る郷土人形	研修室		主催：九州国立博物館
46	8月4日	イベント	ナイトミュージアム「クロマニョン人現る!!」	3階特別展会場	－	主催：九州国立博物館
47	8月5日	講演会	トークセッション 「2万年前の壁画から芸術の起源を考える」	ミュージアムホール	130	主催：九州国立博物館
48	8月5日	イベント	夏休み特別企画 ナイトミュージアム 『きゅーはく 夜の洞くつ探検』	展示室・バックヤード・研修室、他	47	主催：九州国立博物館
49	8月5日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内、バックヤード他	49	主催：九州国立博物館
50	8月6日	シンポジウム	「全国高等学校歴史学フォーラム2017」	ミュージアムホール	300	主催：九州国立博物館
51	8月10日～ 30年 3月11日	展示	飾り山笠の展示	エントランス	－	主管：博多祇園山笠振興会
52	8月12日	イベント	第4回みゅーじあむ寄席 「ようこそ九博地獄めぐりへ」	ミュージアムホール	240	主催：九州国立博物館
53	8月12日	イベント	夏休み特別企画 ナイトミュージアム 『きゅーはく 夜の洞くつ探検』	展示室・バックヤード・研修室、他	43	主催：九州国立博物館
54	8月17日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	130	主催：九州国立博物館
55	8月18日	イベント	ナイトミュージアム「クロマニョン人現る!!」	3階特別展会場	－	主催：九州国立博物館
56	8月19日	イベント	第2回スケッチしナイト☆	4階文化交流展示室	30	主催：九州国立博物館
57	8月19日	イベント	祝☆来館1500万人突破！記念感謝祭	エントランス	200	主催：九州国立博物館
58	8月19日 、20日	イベント	吉野ヶ里 Days in 九博	ミュージアムホール	1200	主催：佐賀県立博物館、国営海ノ中道海浜公園事務所（国営吉野ケ里歴史公園）、吉野ヶ里歴史公園マネジメント共同企業体、吉野ヶ里公園管理センター
59	8月23日 、24日	イベント	九州国立博物館夏休み特別企画 星空プラネタリウム ～夏の夜空を涼しく眺めて楽しく学ぼう～	ミュージアムホール	492	主催：九州国立博物館
60	8月25日 ～27日	イベント	特別展示「水の中からよみがえる歴史－水中考古学最前線－」関連イベント 「鷹島海底遺跡　甦る元寇船 VR 体験」	エントランス	－	主催：九州国立博物館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
61	8月25日、26日、9月1日、2日	イベント	夜間開館×特別展「世界遺産　ラスコー展 クロマニョン人が見た世界」 梅が枝餅引換券プレゼント	特別展入場受付	1,430	主催：九州国立博物館
62	8月25日	イベント	夜間開館イベント夜間開館イベント 「プレミアムフライデーライブ Vol.4　森永基木～夢弦 MUGEN～」	ミュージアムホール	213	主催：九州国立博物館
63	8月26日	シンポジウム	特別展示「水の中からよみがえる歴史－水中考古学最前線－」関連イベント シンポジウム「水中文化遺産の多様性：縄文から龍馬まで」	ミュージアムホール	50	主催：九州国立博物館
64	8月26日	イベント	第77回親子で茶道体験	茶室	60	主催：九州国立博物館
65	8月29日～9月10日	展示	東九州神楽人の祭展　特別展示	エントランス	－	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議、神楽の里づくり推進協議会、大分県、宮崎県
66	8月30日	イベント	博多祇園山笠 御神入れ	エントランス	100	主管：博多祇園山笠振興会 協力：九州国立博物館振興財団／九州国立博物館、他
67	9月1日	イベント	ナイトミュージアム「クロマニョン人現る!!」	3階特別展会場	－	主催：九州国立博物館
68	9月2日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内、バックヤード他	105	主催：九州国立博物館
69	9月3日	イベント	第70回はじめての茶道体験	茶室	16	主催：九州国立博物館
70	9月9日、10日	イベント	東九州神楽人の祭展 神楽の集い－京築・庄内・諸塚－	ミュージアムホール、 エントランス	1200	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議、神楽の里づくり推進協議会、大分県、宮崎県
71	9月9日	イベント	東九州神楽人の祭展 神楽体験ワークショップ 神楽装束体験（庄内神楽）	エントランス	－	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議、神楽の里づくり推進協議会、大分県、宮崎県
72	9月9日、10日	イベント	東九州神楽人の祭展 神楽体験ワークショップ 御幣づくりワークショップ（諸塚神楽）	研修室	－	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議、神楽の里づくり推進協議会、大分県、宮崎県
73	9月9日、10日	イベント	東九州神楽人の祭展 神楽体験ワークショップ 神楽記念撮影コーナー（各公演終了後）	エントランス	－	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議、神楽の里づくり推進協議会、大分県、宮崎県
74	9月13日、10月1日	イベント	六郷満山霊場特別御朱印帳無料配布	4階展示室前	200	主催：九州国立博物館
75	9月13日～17日	展示	文化交流展特別展示「対馬－遺宝にみる交流の足跡－」対馬市パネル展	エントランス	－	主催：九州国立博物館
76	9月13日～24日	イベント	文化交流展特別展示「大分県国東宇佐六郷満山展～神と仏と鬼の郷～」 国東宇佐六郷満山開山1300年記念イベント1300年の祈り	エントランス	－	主催：九州国立博物館
77	9月15日 16日、22日 23日、29日 30日 10月6日 7日、13日	イベント	プレゼント企画 夜間開館 ×文化交流展特別展示「大分県国東宇佐六郷満山展～神と仏と鬼の郷～」 梅ヶ枝餅引換券をプレゼント！	4階文化交流室案内所	502	主催：九州国立博物館
78	9月24日	イベント	九博チャレンジ	研修室	－	主催：九州国立博物館
79	9月25日	イベント	第12回「大宰府古都の光」点灯式	屋外	－	主催：第12回「古都の光」：太宰府ブランド創造協議会事務局、九州国立博物館
80	9月29日	イベント	夜間開館イベント「プレミアムフライデーライブ vol.5　MUSEUM JAZZ」	ミュージアムホール	130	主催：九州国立博物館
81	9月30日	イベント	国指定重要無形民俗文化財 国東岩戸寺修正鬼会	太宰府天満宮側アクセストンネル入口	400	主催：古都大宰府ナイトエリア創出委員会、九州国立博物館
82	9月30日、10月1日	イベント	文化交流展特別展示「大分県国東宇佐六郷満山展～神と仏と鬼の郷～」 国東半島・宇佐地域物産展	館外	－	主催：国東半島・宇佐地域六郷満山開山1300年誘客キャンペーン実行委員会
83	10月1日	イベント	文化交流展特別展示「大分県国東宇佐六郷満山展～神と仏と鬼の郷～」 国東宇佐伝統行事特別公演 ①豊後みさき太鼓（豊後高田市） ②岩戸寺修正鬼会（国東市） ③院内龍神太鼓・童龍太鼓（宇佐市） ④山香盆踊り（杵築市） ⑤津嶋神楽（日出町）	ミュージアムホール	200	主催：九州国立博物館
84	10月1日	イベント	韓国伝統文化「ポジャギ」体験	研修室	－	主催：九州国立博物館

	期間	種類 （イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者 （人）	備考
85	10月7日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内、バックヤード他	121	主催：九州国立博物館
86	10月7日	イベント	九博　清和文楽特別公演	ミュージアムホール	326	主催：九州国立博物館
87	10月12日 ～11月26日	イベント	「松林図屏風」（高精細複製品）露出展示	4階文化交流展示第9室	－	主催：九州国立博物館
88	10月13日～ 12月3日	展示	「黄金の茶室」特別展示	エントランスホール	－	主催：九州国立博物館
89	10月14日	イベント	国指定重要無形民俗文化財 幸若舞「敦盛」披露	ミュージアムホール	246	主催：九州国立博物館
90	10月14日 、20日 、21日 、27日 、28日 11月3日 4日、10日 11日、17日 18日、24日	イベント	プレゼント企画 夜間開館 × 特別展「新・桃山展－大航海時代の日本美術」 梅ヶ枝餅引換券をプレゼント！	特別展入場受付	1,847	主催：九州国立博物館
91	10月15日	講演会	直木賞作家 安部龍太郎氏 講演会 「天下人と大航海時代」	ミュージアムホール	216	主催：九州国立博物館
92	10月15日	イベント	第78回親子で茶道体験	茶室	56	主催：九州国立博物館
93	10月15日	イベント	なりきり考古学者体験	あじっぱ	14	主催：九州国立博物館
94	10月20日	イベント	夜のフォトミュージアム@九州国立博物館	4階展示室内	7	主催：九州国立博物館
95	10月21日	講演会	特別展「新・桃山展－大航海時代の日本美術」 リレー講座「大航海時代の世界と日本」第1回	ミュージアムホール	120	主催：九州国立博物館
96	10月21日	イベント	第3回スケッチしナイト☆	4階文化交流展示室	20	主催：九州国立博物館
97	10月21日 ～22日	展示	玖珠町PRイベント 玖珠町PR展示（パネル展示、絵本展示、読み聞かせ）	エントランスホール	－	主催：大分県玖珠町
98	10月22日	イベント	なりきり学芸員体験	あじっぱ	12	主催：九州国立博物館
99	10月25日	イベント	IPMセミナープログラム	ミュージアムホール	120	主催：九州国立博物館
100	10月27日	イベント	夜間開館イベント「プレミアムフライデーライブ Vol.6　貴方の知っているクラシック！」	ミュージアムホール	190	主催：九州国立博物館
101	10月28日	講演会	特別展「新・桃山展－大航海時代の日本美術」 リレー講座「大航海時代の世界と日本」第2回	ミュージアムホール	140	主催：九州国立博物館
102	10月29日	イベント	きゅーはく茶会	1階和室	120	主催：九州国立博物館
103	11月3日	イベント	第8回留学生イベント 留学生向け「文化交流ツアー in 九博」	第一会議室、文化交流展示室	12	主催：九州国立博物館
104	11月4日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内、バックヤード他	160	主催：九州国立博物館
105	11月11日	イベント	【ブックオカ タイアップイベント】 星野博美さんトーク「キリシタンの世紀と殉教の記憶をめぐって」	研修室	40	主催：西日本新聞社事業部、九州国立博物館
106	11月12日	イベント	第71回はじめての茶道体験	茶室	11	主催：九州国立博物館
107	11月12日	イベント	九州国立博物館杯 特別展「新・桃山展～大航海時代の日本美術～」記念第9回さいふごま大会	ミュージアムホール	60	主催：九州国立博物館
108	11月7日 ～12日	展示	九州次世代展2017	エントランス	－	主催：九州国立博物館
109	11月23日～ 26日	イベント	特別展「新・桃山-大航海時代の日本美術」記念 先着300名　ポストカードの配布	3階特別展示室入口前	1,200	主催：九州国立博物館
110	11月24日	イベント	夜間開館イベント「プレミアムフライデーライブ Vol.7　懐かしのCinema Music～Cozy Ash Dream Concert～」	ミュージアムホール	210	主催：九州国立博物館
111	11月26日	イベント	なりきり考古学者体験	あじっぱ	15	主催：九州国立博物館
112	12月2日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内、バックヤード他	114	主催：九州国立博物館
113	12月3日	イベント	なりきり学芸員体験	あじっぱ	8	主催：九州国立博物館
114	12月5日 ～17日	展示	MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館	エントランス	－	主催：MOA美術館（公益財団法人岡田茂吉美術文化財団）、「MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館」実行委員会

	期間	種類 （イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者 （人）	備考
115	12月8日	イベント	夜間開館イベント 「夜のフォトミュージアム【刀剣編】」	4階展示室	35	主催：九州国立博物館
116	12月9日	イベント	夜間開館イベント「夜の九博★ファンタジア」 「星のポット」ワークショップ ＜音楽LIVE＞Bigfumi、サキタハヂメ、ピアノマン・ダリル 「星型ペンライト」プレゼント 九博ライトアップ&ディスプレイ点灯	ミュージアムホール、屋外	―	主催：古都太宰府ナイトエリア創出委員会、九州国立博物館
117	12月10日	イベント	第79回親子で茶道体験	茶室	61	主催：九州国立博物館
118	12月10日	イベント	なりきり学芸員体験〈実測体験〉	あじっぱ	11	主催：九州国立博物館
119	12月15日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	70	主催：九州国立博物館
120	12月16日	イベント	夜間開館イベント「夜の九博★ファンタジア」 九博ライトアップ&ディスプレイ点灯	エントランスホール	―	主催：九州国立博物館
121	12月17日	イベント	ガムランワークショップ	ミュージアムホール	27	主催：九州国立博物館
122	12月23日	イベント	あつまれ！わくわく☆キッズミュージアム	ミュージアムホール	1,184	主催：九州国立博物館
123	30年 1月1日 ～8日	イベント	正月イベント「アジアのお正月」 新春特別ギャラリー展示 「アジアの凧展」「アジアの新年祭」	エントランス		主催：九州国立博物館
124	30年 1月2日 、3日	イベント	正月イベント「アジアのお正月」 イベントパフォーマンス モンゴル伝統楽器「馬頭琴」コンサート(1/2) 中国南方獅子舞(1/3) 福岡少林武術団演舞(1/3)	ミュージアムホール	910	主催：九州国立博物館
125	30年 1月2日 、3日	イベント	正月イベント「アジアのお正月」 体験イベント 九博で書初め 韓国双六ユンノリで遊ぼう	エントランス、あじっぱ	―	主催：九州国立博物館
126	30年 1月6日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内、バックヤード他	45	主催：九州国立博物館
127	30年 1月13日	イベント	新春特別公開徳川美術館所蔵 国宝　初音の調度関連イベント 「江戸の化粧再現講座」	研修室	40	主催：九州国立博物館
128	30年 1月14日	講演会	文化交流展特別展示「白隠さんと仙厓さん」 記念講演会①「白隠と仙厓に見る大和の禅」	ミュージアムホール	223	主催：九州国立博物館
129	30年 1月16日～ 1月21日	展示	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群パネル展	エントランス	―	主催：九州国立博物館
130	30年 1月19日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	70	主催：九州国立博物館
131	30年 1月20日	シンポジウム	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群登録記念　九州国立博物館「大宰府学研究」事業シンポジウム　知られざる沖ノ島祭祀	ミュージアムホール	120	主催：九州国立博物館
132	30年 1月21日	イベント	韓国伝統文化ポシャギ体験	研修室	26	主催：九州国立博物館
133	30年 1月21日	イベント	第72回はじめての茶道体験	茶室	15	主催：九州国立博物館
134	30年 1月27日	イベント	沖縄と九州、海が繋ぐうた 古謝美佐子　九博コンサート～琉球弧の調べ～	ミュージアムホール	483	主催：九州国立博物館
135	30年 1月28日	講演会	文化交流展特別展示「白隠さんと仙厓さん」 記念講演会②「白隠と仙厓」	ミュージアムホール	220	主催：九州国立博物館
136	30年 1月13日	講演会	文化交流展示「新春特別公開　徳川美術館所蔵 国宝初音の調度」関連講座	研修室	180	主催：九州国立博物館
137	30年 2月3日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内、バックヤード他	123	主催：九州国立博物館
138	30年 2月10日	講演会	特別展「王羲之と日本の書」 リレー講座「王羲之と日本の書」 「王羲之愛好と書の魅力」	ミュージアムホール	300	主催：九州国立博物館
139	30年 2月10日～ 4月8日	展示	特別展「王羲之と日本の書」関連展示会 西日本書美術協会代表作家作品展	アクセストンネル内	―	主催：九州国立博物館
140	30年 2月11日	イベント	特別展「王羲之と日本の書」関連イベント 席上揮毫会（書のデモンストレーション） 黒田賢一先生、陣軍陽先生、岩田海道先生	ミュージアムホール	513	主催：九州国立博物館

	期間	種類 （イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者 （人）	備考
141	30 年 2 月 11 日	イベント	なりきり学芸員体験	あじっぱ	8	主催：九州国立博物館
142	30 年 2 月 12 日	イベント	九州国立博物館杯 特別展「王羲之と日本の書」記念第 10 回さいふごま大会	ミュージアムホール	40	主催：九州国立博物館
143	30 年 2 月 14 日 ～18 日	展示	九州女子大学 第 50 回卒業書作展	エントランスホール	―	主催：九州女子大学
144	30 年 2 月 17 日	講演会	特別展「王羲之と日本の書」 リレー講座「王羲之と日本の書」 「古い筆跡たちのささやき」	ミュージアムホール	250	主催：九州国立博物館
145	30 年 2 月 17 日	イベント	バックヤードツアー 特別公開『博物館科学・文化財保存修復施設』	館内、バックヤード	55	主催：九州国立博物館
146	30 年 2 月 17 日	イベント	第 4 回スケッチしナイト☆	4 階文化交流展示室	14	主催：九州国立博物館
147	30 年 2 月 18 日	イベント	特別展「王羲之と日本の書」関連イベント 席上揮毫会（書のデモンストレーション） 髙木聖雨先生、吉田成美先生、吉村宣枝先生	ミュージアムホール	530	主催：九州国立博物館
148	30 年 2 月 23 日	イベント	特別展「王羲之と日本の書」関連イベント 「つづけ字しおりワークショップ」	ミュージアムホール	60	主催：九州国立博物館
149	30 年 2 月 23 日	イベント	夜間開館イベント「プレミアムフライデーライブ Vol.8　春よ、来い」	ミュージアムホール	220	主催：九州国立博物館
150	30 年 2 月 25 日	イベント	第 80 回親子で茶道体験	茶室	54	主催：九州国立博物館
151	30 年 2 月 25 日	イベント	第 10 回「九博子どもフェスタ」	研修室	2,962	主催：九州国立博物館を愛する会
152	30 年 2 月 27 日	イベント	博多伝統芸能～博多芸妓の世界～	ミュージアムホール	350	主催：公益財団法人九州国立博物館振興財団
153	30 年 2 月 27 日 ～3 月 11 日	展示	平成 29 年度筑紫地区文化財写真展「ちくし再発見～交流の足跡～」	エントランスホール	―	主催：筑紫地区社会教育振興協議会
154	30 年 3 月 3 日	イベント	きゅーはく女子考古部プレゼンツ 古代の宴へようこそ！	ミュージアムホール	―	主催：九州国立博物館
155	30 年 3 月 3 日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内、バックヤード他	112	主催：九州国立博物館
156	30 年 3 月 4 日	シンポジウム	興福寺中金堂再建記念・興福寺シンポジウム 「阿修羅像　天平の心と技を未来へ」	ミュージアムホール	200	主催：九州国立博物館、法相宗大本山興福寺、朝日新聞社
157	30 年 3 月 4 日	イベント	第 73 回はじめての茶道体験	茶室	16	主催：九州国立博物館
158	30 年 3 月 13 日 ～18 日	展示	特別展「王羲之と日本の書」関連イベント 「九州の現代書壇展」 「西日本書美術協会選抜作家展」	ミュージアムホール	―	主催：九州国立博物館
159	30 年 3 月 18 日	イベント	特別展「王羲之と日本の書」関連イベント 「高校生書道パフォーマンス」 出演校：福岡県立香椎高等学校、佐賀県立佐賀北高等学校、大分高等学校	エントランス	―	主催：九州国立博物館
160	30 年 3 月 20 日 ～25 日	展示	特別展「王羲之と日本の書」関連イベント 「九州の現代書壇展」 「西部毎日書道会選抜作家展」	ミュージアムホール	―	主催：九州国立博物館
161	30 年 3 月 20 日 ～25 日	展示	福岡書道会 全九州新春書道展	エントランス	―	主催：九州国立博物館
162	30 年 3 月 23 日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	100	主催：九州国立博物館
163	30 年 3 月 27 日 ～4 月 1 日	展示	特別展「王羲之と日本の書」関連イベント 「九州の現代書壇展」 「日本書芸院九州・沖縄選抜作家展」	ミュージアムホール	―	主催：九州国立博物館
164	30 年 3 月 27 日 ～4 月 1 日	イベント	「中日平和友好条約」締結四十周年記念 丁申陽書道展	エントランス	―	主催：中華人民共和国駐福岡総領事館、上海市書法家協会
165	30 年 3 月 31 日	イベント	九博春まつり おもてなしスイーツ（太宰府参道天山「鬼瓦最中（粒餡）」1 個、櫻茶 1 杯） 春の演奏会	屋外レストラン前	440	主催：九州国立博物館

1-(3)-② 有形文化財に関する情報の発信と広報の充実

1-(3)-②-1 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

（前述の資料に記載）1-(1)-③-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

1-(3)-②-2 収集した情報資料数（総数）

平成30年3月31日現在

		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
		29年度新規	総数	29年度新規	総数	29年度新規	総数	29年度新規	総数
写真原板(フィルム)		0件	323,678件	0件	257,681件	0件	361,503件	0件	23,622件
デジタル撮影		12,258件	87,715件	8,246件	30,382件	5,411件	45,537件	4,873件	16,632件
資料	模造	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	模写	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	その他	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	計	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
図書	和書	4,825冊	204,576冊	2,597冊	147,928冊	2,446冊	87,288冊	4,673冊	112,749冊
	漢書	238冊	40,494冊	55冊	21,939冊	45冊	5,223冊	冊	冊
	洋書	197冊	13,541冊	6冊	4,529冊	74冊	1,953冊	113冊	2,637冊
	計	5,260冊	258,611冊	2,658冊	174,396冊	2,565冊	94,464冊	4,786冊	115,386冊
映画フィルム		0巻	0巻	0巻	0巻	0巻	30巻	0巻	0巻
スライド		0本	0本	0本	26本	0本	21本	0本	0本
		0コマ	0コマ	0コマ	2,779コマ	0コマ	2,192コマ	0コマ	12コマ
マイクロフィルム		0巻	3,660巻	0巻	643巻	0巻	68巻	0巻	515巻

東京国立博物館資料館の利用者数（過去5年間）

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
利用者数	5,661人	6,118人	5,936人	4,730人	4,971人
閉架図書（閲覧）	3,909件	3,800件	4,521件	4,862件	4,905件
マイクロフィルム（閲覧）	466件	562件	399件	588件	502件
レファレンスサービス	6,802件	4,401件	4,006件	5,014件	4,861件
コピーサービス	23,801枚	26,200枚	25,395枚	30,818枚	30,066枚

※23年9月1日より、従来からの西門入館利用に加え、正門からの来館者に対し資料館東口からの利用を開始した。以後の利用者数はこれを含む。

1-(3)-②-3 特別観覧件数

申請件数

平30年3月31日現在

区分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合計	336	15	321	146	2	144	51	10	41	46	0	46	93	3	90
写真撮影	88	2	86	8	1	7	20	1	19	19	0	19	41	0	41
映画撮影	13	9	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
テレビ撮影							6	6	0		0	0	6	2	4
ビデオ撮影							0	0	0				0	0	0
模写	7	2	5	1	0	1	0	0	0	2	0	2	2	1	1
模造							2	1	1				0	0	0
熟覧	228	2	226	136	0	136	23	2	21	25	0	25	44	0	44

点数

平30年3月31日現在

区分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合計	2,778	32	2,746	930	15	915	124	13	111	1,460	0	1,460	264	4	260
写真撮影	983	15	968	84	14	70	52	1	51	721	0	721	126	0	126
映画撮影	16	12	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
テレビ撮影							8	8	0	0	0	0	7	3	4
ビデオ撮影							0	0	0				0	0	0
模写	9	2	7	2	0	2	0	0	0	2	0	2	2	1	1
模造							3	1	2				0	0	0
熟覧	1,770	3	1,767	843	0	843	61	3	58	737	0	737	129	0	129

1-(3)-②-4 画像利用件数（フィルムを含む）

申請件数

平30年3月31日現在

区分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	0	0	0										0	0	0
	デジタルデータ提供	モノクロ	1,288	1,079	209				810	783	27	343	215	128	12	6	6
		カラー													123	75	48
	プリントでの提供	モノクロ	92	89	3				91	89	2	1	0	1			
		カラー	1	1	0				0	0	0	1	1	0			
画像再利用			133	82	51							132	81	51	1	1	0

点数

平30年3月31日現在

区分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	0	0	0										0	0	0
	デジタルデータ提供	モノクロ	5,179	3,329	1,850				3,081	2,610	471	1,606	590	1,016	77	8	69
		カラー													415	121	294
	プリントでの提供	モノクロ	180	175	5				177	175	2	3	0	3			
		カラー	4	4	0				0	0	0	4	4	0			
画像再利用			419	172	247							418	171	247	1	1	0

1-(3)-②-5 広報実績一覧
【東京国立博物館】
(1) 総合文化展（平常展）

・特別企画「博物館でお花見を」

会期	28年3月14日(火)～4月9日(日) 27日間
ターゲット	一般の美術愛好家、訪日・在日外国人、若年層（学生など）
重点項目	マスコミおよびインターネット・スマートフォンサイトによる美術愛好家、訪日・在日外国人等への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	1,179件発送(1都3県博物館・美術館・高校・中学･小学校(台東･墨田･文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)
交通広告	JR湘南新宿ライン＋上野東京ライン 中吊り広告、駅貼り広告(JR 上野、鶯谷駅など、山手線・東京メトロ・都営線・京王線・東急線)
新聞・雑誌広告	朝日新聞、読売新聞各2回、ジャパンタイムズ、ジャパンニュース各2回、メトロガイド1回
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、メールマガジン・SNSでの情報配信、@Pressによる発信など
その他	中国人向けソーシャルメディアWechat出広
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、東京新聞、サンケイスポーツ　ほか
テレビ、ラジオ	テレビ東京、台東ケーブルテレビ、J-WAVE　ほか
雑誌	さくらタイムズ（3月号）、「月刊　展覧会ガイド」（3月号）、Oggi（4月号）、ハルメク（4月号）ほか
インターネットメディア	OZmall、dot.（ドット）ほか
その他	―

・特別企画「博物館でアジアの旅」

会期	9月5日(火)～10月15日（日）(41日間)
ターゲット	一般の東洋美術愛好家、訪日・在日中国人、若年層（学生など）
重点項目	一般のマスコミおよびインターネット・スマートフォンサイトによる情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1160件(1都3県博物館・美術館・高校・中学･小学校(台東･墨田･文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)
交通広告	IR駅貼り（上野、鶯谷、秋葉原）、東京駅八重洲口北口サイネージ（9月中）、上野駅サイネージ（8月28日（月）～10月15日（日））、スカイツリー内サイネージ、東京メトロ池袋駅サイネージ・駅貼りセット、東京メトロ・東急・都営駅貼り（日本橋、表参道、日比谷駅、乃木坂、有楽町、渋谷、浅草）、京王線駅貼り
新聞・雑誌広告	「朝日新聞」、「ジャパンタイムズ」、「ジャパンニューズ」、「中文導報」各1回
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事10回、メールマガジン・SNSでの情報配信、@Pressによる発信など。twitter上で「わら人形」についてのbuzz有
その他	
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、群馬東部よみうり新聞社、新潟日報
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	「朝日新聞デジタル&m」「ロイター.co.jp」「上野が、すき。」、「レッツエンジョイ東京」、「セレブスタイルジャパン」、「おたくま経済新聞」ほか
その他	―

・特集「親と子のギャラリー　びょうぶとあそぶ　高精細複製によるあたらしい日本美術体験」

会期	7月4日(火)～9月3日(日)（62日間）
ターゲット	ファミリー層、小学生などの子どもとその親
重点項目	夏休みの家族向け媒体、インターネット媒体、映像技術系媒体

特記事項	キヤノン(株)共催、綴プロジェクトによる高精細複製品を活用。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約790件(1都3県博物館・美術館・高校・中学･小学校(台東･墨田･文京)等)
交通広告	東京駅八重洲北口、上野駅デジタルサイネージ、上野駅、鶯谷駅、渋谷駅、品川駅ポスター掲出
新聞・雑誌広告	メトロガイド1回、朝日小学生新聞、毎日小学生新聞各1回、 読売新聞（7月8日）、読売新聞夕刊「City Life」、朝日新聞、日経新聞日曜版「Style」各1回
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事10回、メールマガジン・SNSでの情報配信、@Pressによる発信など
その他	中国人向けスマートフォンアプリ「Wechat」広告、SNS広告配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	新聞：読売新聞（日曜版「アート散歩」8月13日、ジュニアプレス7月下旬～8月上旬）、朝日小学生新聞8月初旬掲載予定、東京新聞、世界日報、地域新聞　ほか 配信：共同通信(予定)
テレビ、ラジオ	NHK『首都圏ネットワーク』(生放送)、ニュースたいとう（J:COMチャンネル）、フジテレビ『みんなのニュース』、ラジオ：J-WAVE「GOOD NEIGHBORS」
雑誌	パンプキン8月号、歴史人、美術の窓8月号、人・街・元気！ぱど、UMA LIFE　ほか
インターネットメディア	日経DUAL、ウォーカープラス、レッツエンジョイ東京、DREAM NAVI、ココシル上野　ほか
その他	―

・特集「呉昌碩とその時代―苦鉄没後90年―」

会期	30年1月2日(火)～3月4日（日）（62日間）
ターゲット	書道家、書道ファン
重点項目	中国の書について理解を深める
特記事項	台東区との連携事業。報道内覧会実施　平成30年1月9日、24人出席
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	駅貼り(JR上野・鶯谷)、上野駅サイネージ
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ブログ関連記事8回、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞　ほか
テレビ、ラジオ	―
雑誌	月刊書道界、美術の窓　ほか
インターネットメディア	―
その他	―

・特別企画「博物館で初もうで」

会期	30年1月2日(火)～28日（日）（27日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、訪日・在日外国人、若年層（学生など）
重点項目	マスコミおよびインターネット・スマートフォンサイトによる美術愛好家、訪日・在日外国人等への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	1,160件発送(1都3県博物館・美術館・高校・中学･小学校(台東･墨田･文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)

交通広告	東京駅八重洲北口サイネージ、同丸の内口サイネージ、上野駅サイネージ、東京メトロ・東急・都営駅貼り（【メトロ】銀座線・日比谷線上野駅1＋1、銀座、表参道、六本木、日本橋、九段下、明治神宮前、根津、【都営】浅草、上野御徒町、【東急】二子玉川、自由が丘（東横・大井町各線1カ所）、京王線駅貼り
新聞・雑誌広告	朝日新聞展覧会特集企画、読売新聞特集企画、ジャパンニューズ各1回、ジャパンタイムズ2回、anan、週刊新潮
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事2回、メールマガジン・SNSでの情報配信、@Pressによる発信など
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、東京新聞、上毛新聞、共同通信配信　ほか
テレビ、ラジオ	NHK「ひるまえほっと」　ほか
雑誌	カーサ・ブルータス　ほか
インターネットメディア	週刊東京ウォーカー、TOKYO ART BEAT、ユカリノほか
その他	庭園開放、「転合庵」公開（4月11日～5月7日）

(2) 特別展、共催展等

・特別展「茶の湯」

会期	4月11日（火）～ 6月4日（日）（55日間）
ターゲット	古美術ファン、茶道関係者、日本文化に興味のある外国人
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約5700件(美術館、博物館、公立施設、大学、カルチャーセンター、和菓子協会等)に送付、館内配布
交通広告	JR　SWボード1/2枠　30駅30面、メトロUボードゴールド17駅20面、西武線池袋ビジョンおよび各駅ポスター、東急東横線・東武線ドア横ステッカー、京王線、渋谷・新宿大型ビジョン　ほか
新聞・雑誌広告	毎日新聞ほか
テレビ広告	TBSラジオ、BS-TBS、BS日テレ
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知2回、特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事5回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(NHK、NHKプロモーション、毎日新聞社)ウェブサイトでの紹介 SNS:公式フェイスブック、ツイッター　当館ツイッター,フェイスブックでの情報発信　ほか
その他	東近美－東博間ラッピングバス運行
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	毎日新聞、朝日新聞、聖教新聞、陸奥新報、福島民報　ほか
テレビ、ラジオ	ＮＨＫ「発掘！お宝ガレリア」、ＮＨＫ特番、ＮＨＫ「日曜美術館」、ＮＨＫラジオ「ラジオ深夜便」、ＦＭヨコハマ「Lovely Day～hana金～」、ＮＨＫラジオ「夕方ニュース」ほか
雑誌	「芸術新潮」、「家庭画報」「週刊朝日」、「淡交」、「茶道の研究」、「陶説」、「美術の窓」　ほか
インターネットメディア	OZ Mall、コモレバWEB、各種ニュースサイト　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	28年10月6日（平成館大講堂）
人数等	53媒体、65人出席
④報道内覧会	
実施日	4月10日
人数等	151媒体　196人出席

・特別展「タイ～仏の国の輝き～」

会期	7月4日（火）～8月27日（日）（55日間）
ターゲット	広くタイ文化に興味のある層、アジア文化・美術ファン
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	美術館・博物館、東京都および神奈川、千葉、埼玉中学校、高校、近隣小学校、大学、タイ料理店などへ送付。

交通広告	JR駅NTボード、JR上野駅デジタルサイネージ、京成線駅貼ポスター　ほか
新聞・雑誌広告	朝日新聞、読売新聞、日本経済新聞　ほか
テレビ広告	
「東京国立博物館ニュース」掲載	3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、フェイスブック、ブログ関連記事11回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト、展覧会公式ツイッター
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	毎日新聞、日本経済新聞、毎日新聞、地方紙各紙、ほか
テレビ、ラジオ	NHK日曜美術館アートシーン、テレビ東京「美の巨人たち」、BS日テレ「プラス10」、BS JAPAN特番、J-WAVE「GOOD NEIGHBORS」、ニッポン放送「ザ・ボイス」、NHK World「Newsroom Tokyo」など
雑誌	日経おとなのOFF、週刊新潮、婦人公論、プレジデントウーマン、プレシャス、家庭画報、旅行読売、美術展ぴあ、月刊美術、各種会員誌　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、「ココシル上野」、「NIKKEI ASIAN REVIEW」各種ニュースサイト　ほか
その他	7月24日（月）タイ観光大使の乃木坂46のメンバーを呼んで会場で取材を実施
③報道発表会	
実施日	29年2月22日　在京タイ王国大使館
人数等	79媒体、114名出席
④報道内覧会	
実施日	7月1日
人数等	116媒体、147名出席

・特別展「フランス人間国宝展」

会期	9月12日（火）～11月26日（日）（76日間）
ターゲット	中高年女性、現代美術工芸に興味のある層、フランス文化に興味のある層、工芸ファン
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	WONDER LABと呼ばれる世界巡回展の第1回。広報業務はNHKプロモーションが担当。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	博物館・美術館、カルチャー・センター、ギャラリー、ホテル、美術関連団体、旅行会社　等　約7,500件へ送付
交通広告	上野駅サイネージ、
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知2回、特集3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	フェイスブックでの動画広告、当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事5回、メールマガジン/SNSでの情報配信、公式ホームページ、ツイッターでの紹介
その他	
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、日経STYLE、新美術新聞、東京新聞　ほか
テレビ、ラジオ	J-WAVE　ほか
雑誌	ミセス、婦人画報、SIGNATURE 、FIGARO、Domani、HERS、Oggi、なごみ、週刊新潮、リシェス、美術展ぴあ2017秋冬、Nile’s NILE　など
インターネットメディア	Domani.com、spur.com、美術手帖.com、レッツエンジョイ東京、Houff Japan、girls Artalk、Byron、Fashion Press、上野が、すき　など
その他	―
③報道発表会	
実施日	5月17日　在京フランス大使館にて
人数等	41媒体67名出席
④報道内覧会	
実施日	9月11日
人数等	74名出席

・「運慶」

会期	9月26日（火）～11月26日（日）（62日間）
ターゲット	仏像ファン、日本美術ファン、歴史ファン、海外からの観光客
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。海外からの観光客への情報提供。
特記事項	―

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約8000件(博物館・美術館・学校、ギャラリー、図書館、寺院　等)
交通広告	大型ボード（ＪＲ46駅48面、東京メトロ20面）、東京メトロ電飾20面、上野東京ライン・湘南新宿ライン中吊り、銀座線中吊り、大江戸線中吊り、日比谷線・半蔵門線ドア横、東急線ドア横、京浜東北線ジャック（吊・窓・ドア・ステッカー・ビジョン）、上野駅サイネージ　ほか
新聞・雑誌広告	朝日新聞
テレビ広告	テレビ朝日スポット、TOKYO FMスポット
「東京国立博物館ニュース」掲載	3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	展覧会公式サイト内に運慶ファンクラブサイト「運慶学園」設置、各種専用コンテンツの配信、当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事8回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(朝日新聞社)ウェブサイトでの紹介、Twitter、Facebook、Yahoo、 Google へ広告出稿
その他	渋谷・原宿の街頭ビジョンへの出広、英語版A4チラシの作成　、
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、朝日小学生新聞、読売新聞　ほか
テレビ、ラジオ	ＮＨＫ BSプレミアム特番、ＮＨＫ日曜美術館、テレビ朝日「報道ステーションweekly」、同「スーパーＪチャンネル」、同「東京サイト」、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」、フジテレビ「とくダネ！」、中京テレビ「キャッチ！」、TOKYO FM「コヤブカメラ」、J-WAVE「LOHAS TALK」、FM横浜「hana’s pick」など
雑誌	『週刊朝日』、『週刊ポスト』、『女性セブン』、『和樂』［両Ａ面のブックインブック］秋の二大展覧会徹底ガイド〈東京編〉、運慶展の歩き方　This is 運慶、『芸術新潮』特集、『Pen』特集「運慶・快慶」、『サライ』別冊「運慶」、『Precious』、『婦人公論』、『ミセス』ほか多数 関連書籍：朝日新聞出版『運慶への招待』、『なぞって描けば祈願成就　運慶写仏』、小学館『運慶大全』、「さいとう・たかをの劇画『運慶』」、JTBパブリッシング『運慶仏像の旅』、『マンガでわかる天才仏師！運慶』　など※首都圏主要書店で運慶フェア実施
インターネットメディア	ニコニコ生放送、レッツ・エンジョイ・東京、インターネットミュージアムなど多数
その他	―
③報道発表会	
実施日	4月20日　学士会館にて
人数等	102媒体105人出席
④報道内覧会	
実施日	9月25日
人数等	237媒体、286人出席

・特別展「仁和寺と御室派のみほとけ」

会期	30年1月16日（火）～3月11日(日)　55日間
ターゲット	日本美術ファン、歴史ファン、仏像ファン
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約4,000件(博物館・美術館・学校、ギャラリー、図書館等)
交通広告	大型ボード（JR山手線24駅30面、メトロ30駅30面）、京王線タイアップ、京成線駅貼り（400枚）、中吊り（4950枚）、チラシ（8000枚）、東急線ドア横（640枚）、東武線ドア横（460枚）ほか
新聞・雑誌広告	読売新聞（社告、特集、イベントインフォなど20回程度）、朝日新聞 9/9朝刊　10段（15段企画内）
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事5回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(日本経済新聞社)ウェブサイトでの紹介
その他	有楽町ビックビジョン15秒スポット、「櫟（ラク）」普及委員会＝みうらじゅん氏、いとうせいこう氏が展覧会のサポーターに就任、リリース配信、ツイッター、フェイスブック、特設サイトでの広報
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、東京新聞　ほか
テレビ、ラジオ	BS日テレ「ぶらぶら美術博物館」、NHK日曜美術館アートシーン、フジテレビめざましテレビ、KBS京都ニュース　ほか
雑誌	一個人、目の眼、家庭画報、美術の窓、婦人公論、芸術新潮、週刊新潮、Precious、STORY、BAILA、ミセス、美術展ぴあ、婦人公論、和楽、月刊美術、メトロガイド、2018年美術展完全ガイド、必ず見たい2017－2018注目の美術展、時空旅人別冊、日経おとなのOFF、サライ、芸術新潮、男の隠れ家、冬Walker、まっぷる東京・横浜　ほか多数
インターネットメディア	bitecho!、Fashion Press、ココシル上野、セレブスタイルジャパン、Yahoo!ライフマガジン、レッツエンジョイ東京、タイムアウト東京、芸術新潮WEB、一個人WEB　など
その他	

③報道発表会	
実施日	6月19日　平成館大講堂
人数等	74媒体89人出席
④報道内覧会	
実施日	1月15日
人数等	152媒体208人出席

【京都国立博物館】

(1)名品ギャラリー（平常展）

・特集展示「名刀聚英―永藤一の愛刀―」

会期	6月13日（火）～7月17日（月・祝）（31日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、刀剣ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	刀剣春秋（刀剣春秋）、歳時紀行（歳時紀行社）　ほか計6件
インターネットメディア	―
その他	―

・特集展示「古書画へのまなざし―伴實コレクション―」

会期	6月13日（火）～7月23日（日）（36日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、古書画ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	書道界（藤樹社）　ほか計6件
インターネットメディア	―
その他	―

・特集展示　京都水族館連携企画「京博すいぞくかん―どんなおさかないるのかな？」

会期	7月25日（火）～ 9月3日（日）（36日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、小・中学生および保護者
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供および京都水族館来館者の誘致

特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約188件（※京都市内の博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅)
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、産経新聞、奈良新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	アートコレクターズ（生活の友社）、歳時紀行（歳時紀行社）　ほか計17件
インターネットメディア	―
その他	―

・特集展示「大政奉還150年記念　鳥羽伏見の戦い」

会期	7月25日（火）～9月 3日（日）（36日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、幕末ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	京都新聞、The Japan Times
テレビ、ラジオ	―
雑誌	Kansai Walker（KADOKAWA）　ほか計4件
インターネットメディア	―
その他	―

・新春特集展示「いぬづくし―干支を愛でる―」

会期	12月19日（火）～30年1月21日（日）（24日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、年末年始の観光客
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,797件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅)
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	NHK京都放送局
雑誌	和樂（小学館）、月刊茶の間（宇治田原製茶場）　ほか計17件
インターネットメディア	Into Japan（小学館）、Yahoo!ロコ（Yahoo!Japan）
その他	―

・特集展示「御所文化を受け継ぐ―近世・近代の有職研究―」

会期	12月19日（火）～30年1月28日（日）（30日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、皇室ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,797件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	日本経済新聞社
テレビ、ラジオ	―
雑誌	KYOTO VISITOR'S GUIDE（アドブレーン）　ほか計4件
インターネットメディア	―
その他	―

・特別企画「貝塚廣海家コレクション受贈記念　豪商の蔵―美しい暮らしの遺産―」

会期	30年2月3日（土）～3月18日（日）（38日間）
ターゲット	一般の古美術ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,797件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅)
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	婦人公論、きょうの歳時記・美術館（エイブル）　ほか計9件
インターネットメディア	―
その他	―

・特集展示「雛まつりと人形」

会期	30年2月20日（火）～3月18日（日）（24日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、人形ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供

特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	目の眼（目の眼）　ほか計3件
インターネットメディア	―
その他	―

(2)特別展覧会、共催展等

・開館120周年特別展覧会「海北友松」

会期	4月11日（火）～5月22日（日）（36日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、歴史ファン、水墨画ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約2,117件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(JR大阪駅、JR京都駅ほか京阪電車、阪急電鉄主要駅、京都市営地下鉄主要駅)、JR大阪駅サイネージ、JR京都駅東改札バナー、JR京都駅サイネージ
新聞・雑誌広告	毎日新聞
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式ホームページ、共催者（毎日新聞社、NHK京都放送局）ウェブサイトでの紹介 SNS:当館ツイッター、トラりんフェイスブック・ツイッターでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	毎日新聞、朝日新聞、読売新聞、日本経済新聞、産経新聞、京都新聞、奈良新聞、山陽新聞、神戸新聞、京都民報、公明新聞、赤旗、聖教新聞
テレビ、ラジオ	NHK日曜美術館、KBS京都
雑誌	聚美（聚美社）、芸術新潮（新潮社）　ほか計141件
インターネットメディア	ニコニコ生放送（ドワンゴ）　ほか計70件
その他	テーマのある旅（クラブツーリズム関西バス旅行センター）　ほか計18件
③報道発表会	
実施日	28年11月7日（月）
人数等	62媒体、78人出席（場所：ベルサール八重洲）
③報道発表会	
実施日	28年12月12日（月）
人数等	39媒体、56人出席（場所：京都国立博物館）
③報道発表会	
実施日	4月10日（月）
人数等	71媒体、114人出席（場所：京都国立博物館）
④報道内覧会	
実施日	4月11日（月）
人数等	71媒体、114人出席

・開館120周年記念特別展覧会「国宝」

会期	10月3日（火）～11月26日（日）（48日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、歴史ファン、国宝ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約2,138件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(JR大阪駅、JR京都駅ほか京阪電車、阪急電鉄主要駅、大阪市営地下鉄、京都市営地下鉄主要駅)、JR大阪駅サイネージ、JR京都駅東改札バナー、JR京都駅サイネージ、京都市バスラッピングバス
新聞・雑誌広告	毎日新聞「毎日国宝」連載120回、「月刊国宝」連載6回
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事4回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式ホームページ、共催者（毎日新聞社、NHK京都放送局）ウェブサイトでの紹介 SNS:当館ツイッター、トラりんフェイスブック・ツイッターでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	毎日新聞、朝日新聞、読売新聞、日本経済新聞、産経新聞、京都新聞、奈良新聞、山陽新聞、神戸新聞、陸奥新報、岩手日報、山形新聞、岐阜新聞、静岡新聞、宮崎日日新聞、沖縄タイムス、高知新聞、徳島新聞、四国新聞、南日本新聞、熊本日日新聞　ほか計30件
テレビ、ラジオ	日曜美術館、歴史秘話ヒストリア（NHK）、美の巨人たち（テレビ東京）、ぶらぶら美術館・博物館（BS日テレ）、Nスタ（TBS）、報道ステーション（テレビ朝日）、とくダネ！（フジテレビ）、NEWS ZERO（日本テレビ）、ハッピーカーライフ（ラジオ大阪）　ほか計14件
雑誌	日経おとなのOFF（日経BP社）、一個人（KKベストセラーズ）、サライ、和樂（小学館）、婦人画報（ハースト婦人画報社）、BRUTUS（マガジンハウス）　ほか計221件
インターネットメディア	ニコニコ生放送（ドワンゴ）　ほか計70件
その他	50＋（JR東海ツアーズ）　ほか計65件
③報道発表会	
実施日	28年11月7日（月）
人数等	62媒体、78人出席（場所：ベルサール八重洲）
③報道発表会	
実施日	28年12月12日（月）
人数等	39媒体、56人出席（場所：京都国立博物館）
③報道発表会	
実施日	6月5日（月）
人数等	10媒体、20人出席（場所：NHK京都放送局　8Kプラザ）
③報道発表会	
実施日	8月7日（月）
人数等	20媒体、30人出席（場所：京都国立博物館）
③報道発表会	
実施日	10月2日（月）
人数等	146媒体、216人出席（場所：京都国立博物館）
④報道内覧会	
実施日	10月2日（月）
人数等	146媒体、216人出席

【奈良国立博物館】
(1)名品展(平常展)

・名品展　「珠玉の仏たち」

会期	常時開催
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生向けに、マスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	外国人向け音声ガイド（英・中・韓）、日本語音声ガイドは29年10月28日から導入
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,650件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	―

新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	中外日報、朝日新聞、奈良新聞
テレビ、ラジオ	『CanalSat』（フランスのテレビ局）
雑誌	『運慶×仏像の旅』『歩いて楽しむ奈良大和路』JTBパブリッシング、『ニッポンの国宝100』小学館、『VISA』VISA会員誌、『奈良ゆとりの旅』実業之日本社、『美術展&美術館ぴあ』、『ことりっぷ』昭文社、『まっぷる　京都・奈良』『まっぷる奈良』昭文社、『企画展だけじゃもったいない日本の美術館めぐり』Ｇ.Ｂ.、『なら探検ミュージアム』吉岡印刷、『暢遊日本』マイナビ、『99＋1 Traveling through Art, Design & Architecture』国際観光振興機構、『大人も楽しい 博物館に行こう』昭文社
インターネットメディア	ギャラリーガイドブック、近畿日本鉄道「スポット情報」、WOW! JAPAN、るるぶ、mani mani ＋more! 奈良、阪神沿線ＭＵＳＥＵＭ　ＧＵＩＤＥほか
その他	―

・名品展　「珠玉の仏教美術」

会期	12月9日（土）～30年3月14日（水）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,650件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」

会期	12月9日（土）～30年1月14日（日）（32日間）
ターゲット	おん祭（12/17）前後および年末年始の春日大社参拝客、一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン
重点項目	おん祭（12/17）前後および年末年始の春日大社参拝客、一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,650件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	デジタルサイネージ（関西国際空港）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	奈良新聞夕刊、京都新聞夕刊、中外日報
テレビ、ラジオ	―
雑誌	『美術手帖』美術出版社、『マイ奈良』アサコム奈良ニッセイシャ、『ぱーぷる』エヌ・アイ・プランニング、『月刊大和路ならら』地域情報ネットワーク　ほか
インターネットメディア	ART AgendA、「Nara Park Quick Guide」
その他	―

・特別陳列「お水取り」

会期	30年2月6日（火）～3月14日（水）（35日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、「お水取り」（お松明）を見に来る観光客。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,650件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（大阪市営地下鉄）、デジタルサイネージ（JR奈良駅、関西国際空港）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	奈良新聞、朝日新聞
テレビ、ラジオ	『ならNAVI』NHK
雑誌	『マイ奈良』アサコム奈良ニッセイシャ、『ぱーぷる』エヌ・アイ・プランニング、『ノジュール』JTBパブリッシング、『月刊大和路ならら』地域情報ネットワーク、『月刊ギャラリー』ギャラリーステーション
インターネットメディア	『ええ古都なら』南都銀行、奈良ぶら、ARTNAVI EX、ホルベインアーチストナビ、アートウオーク
その他	―

・修理完成記念　特別陳列「薬師寺の名画－板絵神像と長沢芦雪筆旧福寿院障壁画－」

会期	30年2月6日（火）～3月14日（水）（35日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、、仏教美術ファン、絵画ファン、
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,650件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（大阪市営地下鉄）、デジタルサイネージ（JR奈良駅、関西国際空港）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	『ゆうドキッ！』奈良テレビ
雑誌	『マイ奈良』アサコム奈良ニッセイシャ、『月刊書道界』藤樹社、
インターネットメディア	『ええ古都なら』南都銀行、ART AgendA、奈良ぶら、サライ.jp、ARTNAVI EX、ホルベインアーチストナビ
その他	―

(2)特別展、共催展等

・特別展「快慶 日本人を魅了した仏のかたち」

会期	4月8日（土）～6月4日（日）（51日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、仏像ファン、
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、仏像ファン向けに、テレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,650件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（JR西日本、大阪市営地下鉄、近鉄、京都市営地下鉄、奈良交通）、チラシ（近鉄主要駅）、デジタルサイネージ（JR奈良駅）他
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	告知1回、特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	東京新聞、中日新聞、朝日新聞夕刊「A＋１」、奈良新聞、週刊大阪日日新聞、産経新聞、神戸新聞、読売新聞、Japan Times、日中文化交流、浄土宗新聞　ほか
テレビ、ラジオ	『日曜美術館』『ならNAVI』NHK、『かんさい情報ネットten』読売テレビ、『奈良ふしぎ旅図鑑』TBSビジョン
雑誌	『日経おとなのOFF』日経BP社、『美術の窓』生活の友社、『エクラ』集英社、『七緒』プレジデント社、『歴史街道』PHP研究所、『別冊宝島「はじめての仏像」』宝島社、『クロワッサン』マガジンハウス、『月刊コロンブス』東方通信社、『マイ奈良』アサコム奈良ニッセイシャ、『書道界』藤樹社、『関西春ウォーカー』株式会社KADOKAWA、『ぱーぷる』エヌ・アイ・プランニング、『芸術新潮』新潮社、『月刊大和路ならら』地域情報ネットワーク、『唯』唯編集室、『目の眼』目の眼、『Arts of Asia』Oriental Art　ほか
インターネットメディア	和樂、芸術新潮　WEB版、アートメディアArtGene、シニアコム.jp、ARTNAVI 、ストリート・アートナビ、奈良ぶら、関西ぶんか考、日本美術倶楽部　サライ.jp、Lmaga.jp　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	2月22日
人数等	12媒体、19人出席（場所：当館講堂）
④報道内覧会	
実施日	4月7日
人数等	32媒体、46人出席（場所：当館講堂）

・1000年忌特別展「源信　　地獄・極楽への扉」

会期	7月15日（土）～9月3日（日）（46日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生および学校関係者
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生および学校関係者向けに、テレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,650件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（JR西日本、大阪市営地下鉄、近鉄、阪急電鉄、阪神電鉄、）、チラシ（近鉄主要駅）、デジタルサイネージ（JR奈良駅、関西国際空港）他
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、毎日新聞、奈良新聞、京都新聞、公明新聞、奈良民報
テレビ、ラジオ	『地獄を描いた僧侶　～源信　極楽往生のすすめ～』『日曜美術館アートシーン』『奈良ナビ』ＮＨＫ、

雑誌	『日経おとなのOFF』日経BP社、『サライ』『和樂』小学館、『美術の窓』『アートコレクターズ』生活の友社、『現代挿花』中山文甫会館、『関西夏ウォーカー』株式会社KADOKAWA、『美術屋・百兵衛』麗人社、『ぱーぷる』エヌ・アイ・プランニング、『マイ奈良』アサコム奈良ニッセイシャ、『芸術新潮』新潮社、『月刊大和路ならら』地域情報ネットワーク、『書道界』藤樹社、『婦人公論』中央公論新社、『男の隠れ家』三栄書房、『目の眼』目の眼、『歴史人』KKベストセラーズ　ほか
インターネットメディア	Kansai　Art Beat、ホルベインアーチストナビ、インターネットミュージアム、ART AgendA、奈良ぶら、ストリート・アートナビ、Lmaga.jp、Travel.jpたびねす、関西ぶんか考、ARTNAVI EX、サライ.jp　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	5月31日
人数等	8媒体、11人出席（場所：当館講堂）
④報道内覧会	
実施日	7月14日
人数等	22媒体、29人出席（場所：当館講堂）

・特別展「第69回　正倉院展」

会期	10月28日（土）～11月13日（月）（17日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客向けにテレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,650件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（JR西日本、JR大阪駅、JR京都駅、JR東京駅、JR名古屋駅、大阪市営地下鉄、近鉄主要駅、京阪主要駅、東京メトロ主要駅、奈良交通、阪急電鉄、阪急梅田駅、）、チラシ（JR大阪駅、近鉄主要駅、大阪市営地下鉄、南海なんば駅）、デジタルサイネージ（JR奈良駅、関西国際空港）他
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	10月23日・25日放送MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」生CM
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、奈良新聞、奈良日日新聞、産経新聞、公明新聞、福島民友新聞　ほか
テレビ、ラジオ	『かんさい情報ネット ten！』『ウェークアップ！　ぷらす』『情報ライブ　ミヤネ屋』読売テレビ、『ならナビ』『ニュース８４５なら』『日曜美術館』NHK、『ちちんぷいぷい』毎日放送
雑誌	『トラベル&ライフ』JTB印刷、『和樂』小学館、『月刊大和路ならら』地域情報ネットワーク、『ぱーぷる』エヌ・アイ・プランニング、『マイ奈良』アサコム奈良ニッセイシャ、『yomiっこ』読売奈良ライフ、『目の眼』目の眼、『ノジュール』JTBパブリッシング、『月刊奈良』現代奈良協会、『アートコレクターズ』生活の友社、『SAVVY』京阪神エルマガジン社、『関西冬ウォーカー』株式会社KADOKAWA、『日経サイエンス』日経サイエンス、『ならめがね』エディッツ、『書道界』藤樹社　ほか
インターネットメディア	ART AgendA、WOW! JAPAN、あをによしなら旅ネット、SPICE、ウキキNavi、サライ.jp、関西ぶんか考　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	8月2日
人数等	19媒体、37人出席（場所：当館講堂）
実施日	8月28日
人数等	43媒体、48人出席（場所：日本記者クラブ）
④報道内覧会	
実施日	10月27日
人数等	30媒体、145人出席（場所：当館講堂）

【九州国立博物館】
(1)文化交流展（平常展）

・特別展示「水中からよみがえる歴史－水中考考古学最前線―」

会期	7月15日(土)～9月10日(日)（51日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、および学生等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	ミュージアムトーク開催時に、マスコミの取材があった。

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約250件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	バス停広告掲出
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、長崎新聞、西日本新聞
テレビ、ラジオ	NHK、RKB
雑誌	太宰府イベント情報、リビング福岡、九州王国 ほか
インターネットメディア	キレイライフプラス、ウォーカープラス
その他	マスコミ内覧会開催5社出席

・特別展示「対馬－遺宝にみる交流の足跡－」

会期	8月8日（火）～9月18日（月・祝）（37日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、仏像ファン、仏教文化ファン等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約50件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	バス停広告掲出
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	長崎新聞、毎日新聞、朝日新聞、西日本新聞
テレビ、ラジオ	NHK、対馬市ケーブルテレビ、KTNテレビ長崎
雑誌	太宰府イベント情報、リビング福岡、九州王国
インターネットメディア	アルトネ、キレイライフプラス、ウォーカープラス
その他	マスコミ内覧会開催6社出席

・六郷満山開山1300年記念　特別展示「大分県国東宇佐　六郷満山展～神と仏と鬼の郷～」

会期	9月13日（水）～11月5日（日）（47日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、仏像ファン、仏教文化ファン等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約50件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	西鉄エスカレーター壁面、ポスター車内（太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞、西日本新聞、るるぶフリー、日経おとなのOFF
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞、読売新聞、大分合同新聞、朝日新聞
テレビ、ラジオ	TVQ九州、NHK、RKB、JCOM、大分放送、国東市ケーブルテレビ
雑誌	太宰府イベント情報、リビング福岡、九州王国、月刊はかた、ライフさせぼ、遊人、美術の窓、西の都秋の彩祭、みちくさ 等
インターネットメディア	アルトネ、キレイライフプラス 等
その他	マスコミ内覧会開催7社出席

・特別展示「白隠さんと仙厓さん」

会期	30年1月1日（月・祝）～2月12日（月・振休）（38日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、仏像ファン、仏教文化ファン、日本美術ファン等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約160件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	バス停広告掲出、西鉄電車車内中吊り、西鉄太宰府駅看板掲出
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞、西日本新聞、日経おとなのOFF
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞
テレビ、ラジオ	
雑誌	太宰府イベント情報、リビング福岡、九州王国、くまもと経済、美術の窓、月刊書道界、広報だざいふ、ライフさせぼ、セリエンス倶楽部 等
インターネットメディア	キレイライフプラス
その他	

・新春特別公開徳川美術館所蔵「国宝　初音の調度」

会期	30年1月1日（月・祝）～1月28日（日）（25日間）
ターゲット	一般の美術工芸品ファン等
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約160件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	バス停広告掲出、西鉄電車車内中吊り
新聞・雑誌広告	
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	
テレビ、ラジオ	
雑誌	リビング福岡、広報だざいふ
インターネットメディア	キレイライフプラス
その他	

・特別展示「災害に学ぶ・備えるー熊本地震と文化財レスキューー」

会期	30年3月13日（火）～5月6日（日）（50日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、文化保護に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約-件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・JR）、ポスター駅貼り等（西鉄・JR）、ポスター車内（西鉄・JR・太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	
テレビ広告	
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	
テレビ、ラジオ	
雑誌	九州王国
インターネットメディア	
その他	

(2)特別展、共催展等

・展覧会名：特別展「日タイ修好130周年記念特別展「タイ～仏の国の輝き～」」

会期	4月11日(火)～6月4日(日)（49日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、美術ファン、仏像ファン、仏教文化ファン、タイ文化のファン等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DMM送付	約1,200件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・JR）、ポスター駅貼り等（西鉄・JR）、ポスター車内（西鉄・JR・太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州、FM福岡
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、全私学新聞
テレビ、ラジオ	TVQ九州、RKBラジオ、NHK、JCOM、RKB
雑誌	茶道の研究、目の眼、大人が観たい美術展2017、ワイワイタイランド、クラッシー、小学生新聞We can!、九州ウォーカー、月刊はかた、アクロス福岡、くるめすたいる、ライフさせぼ、ぐらんざ、wa、nasse、ぐらふふくおか、芸術新潮、シティ情報ふくおか、広報だざいふ、遊人、skip、コミュニティ八女、ミニコミまいんず、月刊書道界、Jimoto shinbun、ふるさとの自然と歴史、サライ、日経インテレッセ、美術屋百兵衛、外交、九州王国　等
インターネットメディア	おとなスタイル、アルトネ、ふくおかサポートねっと 等
その他	
③報道発表会	
実施日	29年1月24日
人数等	8媒体、16人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	4月10日
人数等	14媒体、30人出席

・特別展「世界遺産　ラスコ一展　クロマニョン人が見た世界」

会期	7月11日(火)～9月3日(日)（49日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、学生等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,200件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・JR）、ポスター駅貼り等（西鉄・JR）、ポスター車内（西鉄・JR・太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	わくわく課外授業
テレビ広告	TNC「ももち浜ストアプラス」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、毎日新聞、宮崎日日新聞
テレビ、ラジオ	RKB、TNC、MBCラジオ
雑誌	グラフふくおか、みちくさ、ふくおかウォーカー、にしてつニュース、でかなび、月刊タウン情報クマモト、月刊ｅ-みる、日経おとなのOFF、太宰府イベント情報、月刊書道界、ぐらんざ、リビング福岡、九州王国、九州経済 等
インターネットメディア	フクオカーノ、ふくおかサポートねっと、アルトネ、アートアジェンダ、キレイプラスライフ、ウォーカープラス、よかなび、イベントバンク、リビング福岡WEB、ヤフーライフマガジン 等
その他	福岡県庁デジタルサイネージ
③報道発表会	
実施日	4月25日
人数等	9媒体、19人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	7月10日
人数等	10媒体、26人出席

・特別展「新・桃山展－大航海時代の日本の美術」

会期	10月14日(土)～11月26日(日)（38日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、美術ファン、日本美術ファン等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	1,300件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・JR）、ポスター駅貼り等（西鉄・JR）、ポスター車内（西鉄・JR）
新聞・雑誌広告	道の駅フリーペーパー、読売新聞、毎日新聞、九州じゃらん
テレビ広告	FM福岡
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、西日本新聞、日経新聞、毎日新聞、読売新聞、赤旗、熊本日日新聞、大分合同新聞
テレビ、ラジオ	TNC、RKB、RKBラジオ、NHK
雑誌	wa、くるめすたいる、遊人、芸術新潮、ナッセ、いけ花龍生、muto、月刊書道界、西の都秋の彩祭、e-みる、東海道・山陽新幹線グリーン車搭載紙「ひととき」、広報ちくしの、ミニコミまいんず、でかなび、陶業時報、ホットペッパー、婦人公論、西鉄ニュース、太宰府イベント情報、ニッポンの国宝100、九州王国、ふるさとの自然と歴史、美術の窓、ぐらんざ、ライフさせぼ、リビング福岡、SKIP、必ず観たい注目の美術展、NHKステラ、FUKUOKA NOW 等
インターネットメディア	フクオカーノ、ケイティコム、アルトネ、yahoo、JRおでかけネット、じゃらんnet、アートアジェンダ、ふくおかサポートねっと、キレイライフプラス、JTBるるぶニュース、ウォーカープラス、美術手帖、歴人マガジン、CONFORT、よかなび、ヤフーライフマガジン 等

その他	―
③報道発表会	
実施日	7月25日
人数等	5媒体、9人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	関連企画展内覧会：9月26日、本展内覧会：10月13日
人数等	関連企画展内覧会：5媒体、6人出席、本展内覧会：12媒体、20人出席

・特別展「王羲之と日本の書」

会期	30年2月14日(水)～4月8日(日)（47日間）
ターゲット	書跡ファン、中国歴史ファン、書道愛好家、書道教室の生徒等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,300件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・JR）、ポスター駅貼り等（西鉄・JR）、ポスター車内（西鉄・JR・太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	道の駅フリーペーパー、読売新聞、毎日新聞
テレビ広告	
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	
テレビ、ラジオ	
雑誌	wa、2018年美術展完全ガイド、ふくおか経済、くまもと経済、e-みる、クラッシー、ミニコミまいんず、くるめスタイル、リビング福岡、九州王国、日経おとなのOFF 等
インターネットメディア	インターネットミュージアム、アートアジェンダ、ユカリノ 等
その他	
③報道発表会	
実施日	11月7日
人数等	8媒体、9人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	30年2月9日
人数等	11媒体、　18人出席

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

会期	29年4月1日（土）～3月31日（土）（307日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース展示紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	BSジャパン「ミステリアス・ジャパン」
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

(2)特別展等

・春期企画展「永野太造作品展―草創期の奈文研を支えた写真家―」

会期	4月29日（土）～5月31日（水）（28日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、仏像・写真愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞　ほか
テレビ、ラジオ	―
雑誌	マイ奈良
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	4月28日
人数等	5媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・夏期企画展(こども展示)「ナント！すてきな！？平城生活♪」

会期	7月22日（土）～9月3日（日）（38日間）
ターゲット	高校生以下及びその家族
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学･小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―

②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞　ほか
テレビ、ラジオ	京都ラジオ ほか
雑誌	マイ奈良
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	7月21日
人数等	5媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・秋期特別展「地下の正倉院展－国宝 平城宮跡出土木簡－」

会期	10月14日（土）～11月26日（日）（38日間）
ターゲット	木簡ファン、正倉院展愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学･小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回、文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞　ほか
テレビ、ラジオ	奈良テレビ　NHK大阪:関西ラジオワイド ほか
雑誌	読売奈良ライフ ほか
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	10月13日
人数等	8媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・新春ミニ展示「平城京の戌」

会期	30年1月4日（木）～1月28日（日）（22日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―

②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	京都新聞 ほか
テレビ、ラジオ	―
雑誌	マイ奈良
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	―
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

会期	4月1日（土）～30年3月31日（土）（359日間）
ターゲット	特別史跡藤原宮跡等見学者、香具山等周辺遺跡への訪問者
重点項目	飛鳥・藤原地域での発掘・調査研究の成果と遺跡理解の促進
特記事項	新聞・インターネットメディア等で展示紹介記事掲載
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈良県学習教材デジタルブック、旅行ガイドブック、奈良県ポータルサイト等に掲載
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	―
その他	橿原市観光案内所等にリーフレット配置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	産経WEST、産経フォト、毎日新聞ニュース交差点
その他	―

・速報展

①「元日朝賀の儀式のようす（189次）」
②「弥生時代の脚付き編みかご」
③「藤原京右京九条二・三坊、瀬田遺跡の調査（187次）」
④「藤原宮朝堂院の調査（189次）」
⑤「藤原宮大極殿院の調査（190次）」
⑥「奥山廃寺の素文軒平瓦」
⑦「飛鳥地域出土の湖西窯産須恵器」

【飛鳥資料館】

(1)平常展

会期	4月1日（土）～30年3月31日（土）（304日間）
ターゲット	飛鳥を訪れる観光客、歴史・考古学の愛好家など
重点項目	ホームページ、SNSの更新頻度アップによる告知効果をあげる
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―

広報刊行物掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	―
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	るるぶ奈良、奈良散策情報、DOkka!おでかけ探検隊、まっぷる情報、おしごとはくぶつかん情報館、東海歴史散歩、ミュージアムカフェ　ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット、日本政府観光局グローバルサイト、るるぶwebサイト、奈良のミュージアム
その他	―

(2)特別展等

・春期特別展「藤原京を掘る－藤原京－等地の調査－」

会期	4月28日（金）～7月2日（日）（57日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	藤原京における発掘調査成果を紹介し遺跡理解の促進
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,370件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校(県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回、文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞、奈良新聞　ほか
テレビ、ラジオ	NHK奈良、奈良テレビ
雑誌	マイ奈良、月刊大和路ならら、ぱーぷる、広報あすか　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、あをによしなら旅ネット、イベントバンク
その他	橿原ナビプラザ
③報道発表会	
実施日	4月27日
人数等	8媒体（場所：飛鳥資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・夏期企画展「第8回写真コンテスト 飛鳥の路」

会期	7月28日（金）～9月3日（日）（33日間）
ターゲット	写真愛好家、飛鳥を散策したい観光客、高校生及びその家族
重点項目	写真雑誌、高校写真部などへの情報提供と奈良県高校写真展優秀作品の展示
特記事項	入賞作品をインスタグラム対応フレームに入れて会場で配布して飛鳥めぐりを誘引する
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,410件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校(県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事3回、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、奈良新聞　ほか

テレビ、ラジオ	NHK奈良
雑誌	ならめがね、ぱーぷる、マイ奈良、広報あすか　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、あをによしなら旅ネット、イベントバンク、チラシミュージアム、登竜門
その他	橿原ナビプラザ
③報道発表会	
実施日	—
人数等	—
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・秋期特別展「高松塚古墳を掘る－解明された築造方法」

会期	10月6日（金）～12月3日（日）（51日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	SNSを利用して展示途中状況などを告知に利用 高松塚古墳の石室解体事業にともなう調査研究の成果と理解の促進
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,370件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事15回、SNSでの情報配信
その他	
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞、奈良新聞、公明新聞
テレビ、ラジオ	NHK奈良、奈良テレビ
雑誌	奈良のミュージアム、ぱーぷる、マイ奈良、広報あすか　ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット、「ええ古都なら」、インターネットミュージアム、、イベントバンク　ほか
その他	橿原ナビプラザ
③報道発表会	
実施日	10月5日
人数等	6媒体（場所：飛鳥資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・冬期企画展　「飛鳥の考古学2017」

会期	30年1月26日（金）～3月18日（日）（45日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	飛鳥・藤原地域での発掘・調査研究の成果と遺跡理解の促進
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,350件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回、文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、SNSでの情報配信
その他	—

②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、奈良新聞、産経新聞
テレビ、ラジオ	ＮＨＫ奈良、奈良テレビ
雑誌	ぱーぷる、月刊大和路ならら、マイ奈良、広報あすか　ほか
インターネットメディア	「ええ古都なら」、インターネットミュージアム、イベントバンク、Dookkaa! おでかけ探検隊 ほか
その他	橿原ナビプラザ
③報道発表会	
実施日	30年1月25日
人数等	7媒体（場所：飛鳥資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

1-(3)-②-6 広報刊行物一覧

【東京国立博物館】

刊行物名	発行部数	配布先
東京国立博物館ニュース	隔月刊年6回　各30,000部	来館者、マスコミ媒体（新聞・雑誌・放送局各社）、定期郵送希望者、友の会・賛助会等会員、キャンパスメンバーズ会員校、国内外の美術館・博物館・大学・研究所等に送付
東京国立博物館「案内と地図」	日本語　29.4　改訂　140,000部 英語　29.4　改訂　80,000部 中国語（簡体字）29.4　改訂　22,000部 中国語（繁体字）29.4　改訂　7,500部 韓国語　29.4　改訂　10,000部 フランス語　29.4　改訂　14,000部 スペイン語　29.4　改訂　9,000部 ドイツ語　29.4　改訂　6,500部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体、大使館、学校、観光案内所等に送付
東京国立博物館　展示・催しのご案内 2017.4-2018.3	29.3　29年度版　35,000部	館内で来館者に無償配布 観光案内所、マスコミ媒体等に送付

【京都国立博物館】

刊行物名	発行時期	発行部数	配布先
京都国立博物館だより	4、7、10、30年1月	194号（4・5・6月）　30,000部 195号（7・8・9月）　15,000部 196号（10・11・12月）　60,000部 197号（29年1・2・3月）　15,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
Kyoto National Museum Letter Vol.133～136	4、7、10、30年1月	Vol.129（4・5・6月）　3,000部 Vol.130（7・8・9月）　3,000部 Vol.131（10・11・12月）10,000部 Vol.132（29年1・2・3月）3,000部	観覧者、京都観光案内所
博物館Dictionary No.198～207	4月、6月、7月、12月、30年1月、2月	45,000部 （各2,000部。198号のみ27,000部。）	観覧者（小・中学生対象）
開館120周年告知ポスター・チラシ	4月	ポスター　200部 チラシ　50,000部	観覧者、周辺施設、鉄道主要駅、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
特集展示「京都水族館連携企画　京博すいぞくかん」ポスター・チラシ	7月	ポスター　400部 チラシ　110,000部	観覧者、周辺施設、鉄道主要駅、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
「京博のお正月2018」ポスター・チラシ	11月	ポスター　2,000部 チラシ　135,000部	観覧者、周辺施設、鉄道主要駅、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
「留学生の日2018」ポスター・チラシ	12月	ポスター　450部 チラシ　9,000部	観覧者ほか、関西圏の大学、専門学校へ送付
特集展示「いぬづくし」リーフレット	12月	15,000部	観覧者
特集展示「御所文化を受け継ぐ」リーフレット	12月	15,000部	観覧者
特別企画「貝塚廣海家コレクション受贈記念　豪商の蔵」ポスター・チラシ	1月	ポスター　200部 チラシ　10,000部	観覧者、周辺施設、鉄道主要駅ほか郵送希望者にも発送
特集陳列「雛まつりと人形」リーフレット	30年2月	5,000部	観覧者
平成30年度年間スケジュール	30年3月	20,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
京都国立博物館 平成知新館 展示案内	30年3月	日本語　26.9改訂 24,000部 英語　26.9改訂 8,000部 中国語（簡体字）26.9改訂 4,000部 中国語（繁体字）　4,000部 韓国語　26.9改訂　3,000部 フランス語　26.9改訂　3,000部 スペイン語　26.9改訂　3,000部 ドイツ語　3,000部	観覧者

【奈良国立博物館】

刊行物名	発行部数	配布先
奈良国立博物館だより （年4回）	春号　20,000部 夏号　20,000部 秋号　30,000部 冬号　15,000部	美術館・博物館・学校・研究所・郵送希望者等　約5,200件に発送 館内で来館者に配布
奈良国立博物館リーフレット	日本語版　35,000部 英語版　8,000部 フランス語版　1,000部 ドイツ語版　1,000部 中国語版　8,000部 韓国語版　2,000部 スペイン語版　1,000部	館内で来館者に配布
奈良国立博物館展示案内	35,000部	館内で来館者に配布

【九州国立博物館】

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
九州国立博物館案内リーフレット	日本語版　70,000部 中国語版　7,000部 韓国語版　12,000部 英語版　10,000部 ドイツ語版　2,000部 フランス語版　2,000部 スペイン語版　2,000部 合計　105,000部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
文化交流展示室案内マップ	日本語版　3,000部 合計　3,000部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
九州国立博物館概要	日本語版　3,000部 中国語版　300部 韓国語版　300部 英語版　500部 合計　4,100部	・視察者等に配布 ・学校関係へ郵送
季刊情報誌「アジアージュ」	春(40)号　50,000部 夏(41)号　50,000部 秋(42)号　50,000部 冬(43)号　50,000部 合計　200,000部	・館内で来館者に配布 ・美術館・博物館、近隣文化施設、県内市町村 近隣大学、太宰府市、友の会会員等へ郵送
九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内	毎月発行　各号16,500部	・館内で来館者に配布 ・郵便局、学校、図書館、ホテル、公共施設、道の駅等に配布
九州国立博物館　展示スケジュールのご案内	16,700部	・館内で来館者に配布
九州国立博物館　わくわく通信	年4回　総数　568,000枚	・近郊の小中学校に配布

1-(3)-②-7 ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載）◎共通資料d

1-(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

1-(4)-① 有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究

1-(4)-①-1 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-②

1-(4)-①-2 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-③

1-(4)-①-3 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑤

1-(4)-①-4 科学研究費助成事業による調査研究　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑦

1-(4)-①-5 客員研究員一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑧

1-(4)-② その他有形文化財に関連する調査研究

1-(4)-②-1 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-②

1-(4)-②-2 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-③

1-(4)-②-3 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑤

1-(4)-②-4 科学研究費助成事業による調査研究　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑦

1-(4)-②-5 客員研究員一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑧

1-(4)-③ 国内外の博物館等との学術交流等

1-(4)-③-1 研究交流実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-①

1-(4)-④ 調査研究成果の公表

1-(4)-④-1 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑥

1-(4)-④-2 平常展・特別展・海外展　（後述の資料に記載）　◎共通資料a-③

1-(4)-④-3 講座・講演会等の開催実績　（前述の資料に記載）　1-(3)-①-2 講座・講演会等の開催実績

1-(5) 国内外の博物館活動への寄与

1-(5)-① 国内外の博物館等への有形文化財の貸与

1-(5)-①-1国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与件数

平成30年3月31日現在

		国立博物館計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外
貸与先件数		242	232	10	117	111	6	62	60	2	36	35	1	27	26	1
合　計		1,544	1,391	153	914	783	131	349	336	13	210	205	5	71	67	4
絵画		454	397	57	196	150	46	158	147	11	80	80	0	20	20	0
書跡		133	127	6	52	47	5	48	48	0	28	28	0	5	4	1
彫刻		185	177	8	125	117	8	19	19	0	38	38	0	3	3	0
建築		13	13	0	12	12	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
金工		88	73	15	40	33	7	28	26	2	19	14	5	1	0	1
刀剣		48	43	5	48	43	5				0	0	0	0	0	0
陶磁		98	86	12	61	51	10	34	34	0	0	0	0	3	1	2
漆工		114	108	6	62	56	6	28	28	0	20	20	0	4	4	0
染織		54	28	26	45	19	26	6	6	0	1	1	0	2	2	0
考古		211	198	13	139	126	13	26	26	0	24	24	0	22	22	0
民族資料		2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0
歴史資料		27	27	0	18	18	0	2	2	0	0	0	0	7	7	0
和書		39	38	1	38	37	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0
東洋	絵画	32	32	0	32	32	0									
	書跡	7	7	0	7	7	0									
	彫刻	6	4	2	6	4	2									
	金工	0	0	0	0	0	0									
	陶磁	20	18	2	20	18	2									
	漆工	3	3	0	3	3	0									
	染織	0	0	0	0	0	0									
	考古	7	7	0	7	7	0									
	民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物		1	1	0	1	1	0									
黒田記念館収蔵品		2	2	0	2	2	0									

＊巡回展等で複数館に貸与する場合は、それぞれ館数と文化財件数をカウント。

付表・貸与件数の推移

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
貸与先件数		272	274	273	244	242
合　計		2,041	1,962	1,530	1,561	1,544
絵画		461	392	432	560	454
書跡		101	92	81	109	133
彫刻		183	361	313	136	185
建築		4	3	3	13	13
金工		63	94	92	85	88
刀剣		46	10	22	41	48
陶磁		250	257	116	80	98
漆工		121	109	54	99	114
染織		47	35	48	72	54
考古		324	243	201	193	211
民族資料		0	8	37	23	2
歴史資料		68	36	20	61	27
和書		13	13	18	19	39
東洋	絵画	13	42	20	14	32
	書跡	13	13	7	18	7
	彫刻	9	5	6	3	6
	金工	0	4	0	0	0
	陶磁	37	28	13	8	20
	漆工	0	5	2	9	3
	染織	1	7	0	7	0
	考古	47	10	0	2	7
	民族	0	0	0	0	0
法隆寺献納宝物		0	2	33	2	1
黒田記念館収蔵品		240	193	12	7	2

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

1-(5)-①-2 国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与先別件数

○収蔵品

平成30年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計(国内+海外)	205	1,171	117	841	41	193	26	76	21	61
国内	195	1,022	111	711	39	183	25	71	20	57
国・国立	41	252	19	156	12	67	5	15	5	14
地方・公立	110	566	63	402	17	77	17	49	13	38
私立団体	44	204	29	153	10	39	3	7	2	5
海外	10	149	6	130	2	10	1	5	1	4

○寄託品

平成30年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計(国内+海外)	98	373	24	73	45	156	23	134	6	10
国内	96	369	23	72	44	153	23	134	6	10
国・国立	18	118	6	27	7	71	3	18	2	2
地方・公立	51	135	11	21	25	56	12	51	3	7
私立団体	27	116	6	24	12	26	8	65	1	1
海外	2	4	1	1	1	3	0	0	0	0

1-(5)-①-3 海外への列品貸与

平成30年3月31日現在

【東京国立博物館】　海外貸与先　6件　　海外貸与文化財131件[うち寄託品 1件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
1	常設展示（長期貸与）	フランス国立ギメ美術館【フランス国立ギメ美術館（フランス共和国パリ市）】	14年1月1日 ～30年12月31日	東洋彫刻2件
2	【海外展】「北斎　－富士を超えて－/Late　Hokusai：old man crazy to paint」（仮称）	あべのハルカス美術館、大英博物館、NHK大阪放送、NHKプラネット近畿、朝日新聞社【大英博物館】	29年4月3日 ～9月14日	絵画4件
3	日伊国交150周年記念「花鳥風月　－屏風・襖にみる日本の自然－」	文化庁【ウフィッツィ美術館(イタリア・フィレンツェ)】	29年9月12日 ～30年1月26日	絵画5件
4	日タイ修好１３０周年記念「日本美術のあゆみ―信仰とくらしの造形―」展	バンコク国立博物館【バンコク国立博物館】	29年12月6日 ～30年3月9日	86件 絵画22、書跡4 彫刻8、金工4 刀剣3、陶磁6 漆工2、染織24 考古11 東洋陶磁2
5	国立博物館合同企画特別展「東アジアの虎美術―韓国・日本・中国―」	韓国国立中央博物館【韓国国立中央博物館】	30年1月5日 ～4月6日	30件 絵画11、書跡1 金工3、刀剣2 陶磁4、漆工4 染織2、考古2 和書1
6	【海外展】設立１１０周年特別展「偉大なる飛躍：信春から長谷川等伯へ」	ジャパン・ソサエティー・ギャラリー	30年3月9日 ～5月6日	4件 絵画4

【京都国立博物館】　海外貸与先2件　　海外貸与文化財 13件[うち寄託品 3件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
1	日伊国交150周年記念「花鳥風月」展	文化庁【ウフィッツィ美術館(イタリア・フィレンツェ)】	8月18日 ～30年 1月19日	絵画11件
2	海外展「日本美術のあゆみ - 信仰とくらしの造形 - 展」	文化庁【バンコク国立博物館】	11月6日 ～ 30年3月16日	金工2件

【奈良国立博物館】　海外貸与先 1件　　海外貸与文化財 5件[うち寄託品 0件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
1	日タイ修好１３０周年記念「日本美術のあゆみ－信仰とくらしの造形－」展	文化庁、バンコク国立博物館【バンコク国立博物館（タイ王国）】	11月7日 ～30年3月16日	5件 金工5

【九州国立博物館】　海外貸与先 1件　　海外貸与文化財 4件[うち寄託品 0件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
1	日タイ修好１３０周年記念「日本美術のあゆみ―信仰とくらしの造形―展」	バンコク国立博物館	11月7日 ～ 30年3月23日	4件 書跡1、金工1 陶磁2

1-(5)-①-4 考古の相互貸借実績

【東京国立博物館】

	貸与先名	貸与期間	貸与件数（件）	借用件数（件）
1	いわき市考古資料館	8月1日～30年2月28日	9	62
2	和歌山県立紀伊風土記の丘	11月1日～30年3月31日	20	13

【奈良国立博物館】

	貸与先名	貸与期間	貸与件数（件）	借用件数（件）
1	鳥取県立博物館	11月1日～30年3月31日	4	6
2	浜松市	11月1日～30年3月31日	2	3

（参考）

その他の貸与（収蔵品貸与促進事業）

【東京国立博物館】

	貸与先名	展覧会名称	貸与期間	貸与件数（件）
1	秋田県立近代美術館	「Ippin! 逸品 明治工芸の至宝展」	9月14日～12月7日	8
2	福島県立博物館	「山水憧憬―雪舟・蕪村・応挙　水墨の山野に遊ぶ―」	12月20日～30年3月9日	19

1-(5)-② 国内外の博物館等への援助・助言等

1-(5)-②-1 国内外の博物館への援助・助言等に関する取組状況
（専門的・技術的な援助・助言の件数、行政、公私立博物館等の各種委員会等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

平成30年度3月31日現在

計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
483件	138件	168件	72件	105件

【東京国立博物館】138件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	国際交流基金（パリ文化会館）	ジャポニスム2018に向けた展覧会助言	8月9日～13日	副館長　井上洋一、企画課特別展室主任研究員　井出浩正、同デザイン室主任研究員　矢野賀一、調査研究課考古室主任研究員　品川欣也
2	文化庁	国宝・重要文化財（美術工芸品）等の保存と活用の在り方等に関して	6月～11月	企画課長(兼国際交流室長)　浅見龍介
3	文化庁	買取鑑査会議	10月16日	企画課長(兼国際交流室長)　浅見龍介
4	国際交流基金	アメリカにおける日本美術の展覧会に関すること	4月～30年3月	企画課長(兼国際交流室長)　浅見龍介
5	北京大学	石刻資料・ガラス資料の調査に係る協力	4月21日	企画課特別展室主任研究員　市元塁
6	九州国立博物館	石刻拓本資料の調査に係る協力	6月8日	企画課特別展室主任研究員　市元塁
7	文化財保存全国協議会	全国大会における発表	7月2日	企画課特別展室主任研究員　市元塁
8	大エジプト博物館	新館建設に係る協力・助言	7月5日	企画課特別展室主任研究員　市元塁
9	国立歴史民俗博物館	展示リニューアルに係る東洋考古分野の展示に関する助言	8月18日	企画課特別展室主任研究員　市元塁
10	奈良文化財研究所	河南省招聘事業に係る協力	9月14日	企画課特別展室主任研究員　市元塁
11	永青文庫	永青文庫所蔵漢代画像磚・画像石に関する助言	10月31日	企画課特別展室主任研究員　市元塁
12	二荒山神社中宮祠宝物館	展覧会に関する助言	8月1日～2日	企画課特別展室主任研究員　井出浩正、列品管理課平常展調整室主任研究員　末兼俊彦
13	公益財団法人品川文化振興事業団 O美術館	館内照明設備の改修工事にかかわる援助・助言	4月～30年3月	企画課デザイン室長　木下史青
14	上野文化の杜	「照明探偵団 上野公園に現る vol.2」企画にかかわる援助・助言	10月16日、11月13日～14日	企画課デザイン室長　木下史青
15	宗教法人 浅草寺	浅草寺・五重塔等のライトアップ照明設備の改修(LED化)にかかわる援助・助言	4月～30年3月	企画課デザイン室長　木下史青
16	藤田美術館	美術館建築・照明設備の設計にかかわる援助・助言	30年1月9日、2月16日	企画課デザイン室長　木下史青
17	福島県立博物館	刀剣の展示・LED照明の仕様に関する助言	6月18日	企画課デザイン室長　木下史青
18	坂村真民記念館	展示ケース・照明についての助言	30年2月7日	企画課デザイン室長　木下史青
19	東京藝術大学大学院映像研究科 伊藤有壱教授	展示デザイン・展示設営に関する助言	30年2月14日	企画課デザイン室長　木下史青
20	大エジプト博物館研修	博物館における研究出版活動について	7月5日	企画課出版企画室長　松尾美貴、同主任研究員　猪熊兼樹
21	京都国立博物館	京都国立博物館が所蔵する宮廷装束および調度の調査研究への援助・助言	12月18日、30年2月14日～16日	企画課出版企画室主任研究員　猪熊兼樹
22	陸前高田市博物館	収蔵品を外部へ写真撮影依頼する際の覚書の記載内容についての提言。	12月1日	企画課出版企画室長　松尾美貴、保存修復課調査分析室長　荒木臣紀
23	ルーブル美術館	来館者数の推移と傾向に関わる助言・意見交換	4月～12月	企画課国際交流室主任研究員　遠藤楽子
24	コロタイプ技術の保存と印刷文化を考える会　第28回研究会	明治初期の博物館活動と写真	12月16日	企画課国際交流室主任研究員　遠藤楽子
25	サウジアラビア国立博物館	特別展の運営および広報について	30年1月23日	企画課長浅見龍介、同国際交流室主任研究員遠藤楽子
26	AECOM社世界アミューズメント施設・博物館来館者年間調査「2017 TEA/AECOM Attraction Attendance Index」	来館者数の推移と傾向について	30年3月13日	企画課国際交流室主任研究員　遠藤楽子
27	文化庁	古墳壁画の保存活用に関する検討会　委員	4月～30年3月	博物館教育課長　小林牧
28	奈良県公園緑地課	飛鳥宮跡保存活用検討委員会　委員	4月～30年3月	博物館教育課長　小林牧
29	水戸芸術館	博物館における教育普及活動	7月6日	博物館教育課長　小林牧
30	大エジプト博物館研修	博物館における教育普及活動	9月13日	博物館教育課長　小林牧
31	大阪城天守閣	アプリ「トーハクなび」、音声ガイドについての調査	10月11日	博物館教育課長　小林牧、同教育普及室長　藤田千織

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
32	文化庁	第7回ミュージアムマネジメント研修　講師	12月14日	博物館教育課長　小林牧
33	東京都建設局公園緑地部	葛西臨海水族園のあり方検討委員会委員	12月～30年3月	博物館教育課長　小林牧
34	台湾国立故宮博物院南院	教育部門の来館者サービス、展覧会関連の教育活動について	4月3日	博物館教育課教育普及室長　藤田千織
35	九州国立博物館	教育プログラム「ナイト・ミュージアム」の見学、インタビュー	9月19日	博物館教育課教育普及室長　藤田千織
36	国立科学博物館附属自然教育園	ボランティア運営について	7月4日	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり
37	国立特別支援教育総合研究所、山梨大学、Opificio Artistico Silverstre Ideale, Instituto Dei Ciechi Francesco Cavazza Onlus、日伊の障がい児支援教育	東京国立博物館の視覚障碍者対応、盲学校のためのスクールプログラムについて	10月22日	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり
38	岩手県立美術館	盲学校のためのスクールプログラムについて	10月26日	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり
39	文化庁	第10回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー「教育普及活動の諸事例」	6月27日	博物館教育課ボランティア室主任研究員　神辺知加
40	公益財団法人浜松市文化振興財団	博物館におけるボランティア活動について	12月1日	博物館教育課ボランティア室主任研究員　神辺知加
41	文京区立森鴎外記念館	運営協議会委員	3月～30年3月	博物館情報課長（兼情報資料室長）　田良島哲
42	内閣府	デジタルアーカイブ・ジャパン推進委員会　実務者検討委員会　構成員	4月～30年3月	博物館情報課長（兼情報資料室長）　田良島哲
43	文化庁	国立アイヌ民族博物館 展示検討委員会　委員	4月～30年3月	博物館情報課長（兼情報資料室長）　田良島哲
44	国際協力機構	「博物館学集中コース」講師	10月3日	博物館情報課長（兼情報資料室長）　田良島哲
45	情報保存研究会	第11回資料保存シンポジウム講演「文化財保護とデジタル情報」	10月10日	博物館情報課長（兼情報資料室長）　田良島哲
46	大エジプト博物館	新館建設に係る協力・助言	7月4日	博物館情報課情報管理室長　村田良二、同情報資料室　住広昭子
47	国立民族学博物館	平成28年度「博物館学集中コース」研修講師	10月26日	広報室長　鬼頭智美
48	ARK HILLS Club	ARK HILLS Club Talk 美術品輸送及び博物館の広報について	5月31日	広報室長　鬼頭智美
49	石川県博物館協会	平成29年度博物館等職員研修講座講師	30年3月16日	広報室長　鬼頭智美
50	愛知県教育委員会	愛知県文化財保護審議会委員	4月1日～30年3月31日	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
51	埼玉県歴史と民俗の博物館	埼玉県資料評価委員	4月1日～30年3月31日	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
52	京都国立博物館	特別展覧会「海北友松」講演会講師	5月13日	学芸研究部長　田沢裕賀
53	大英博物館	北斎プロジェクトシンポジウム出席・発表	5月26日～27日	学芸研究部長　田沢裕賀
54	宮内庁三の丸尚蔵館	作品修理指導	6月28日～29日	学芸研究部長　田沢裕賀
55	文化庁	買取鑑査会議	10月16日	学芸研究部長　田沢裕賀
56	故宮博物院	日本美術作品購入審査	10月20日	学芸研究部長　田沢裕賀
57	宮内庁三の丸尚蔵館	保存活用の在り方に関する有識者懇談会有識者	12月12日～	学芸研究部長　田沢裕賀
58	文化庁文化財部伝統文化課	平成29年度「選定技術公開事業」企画審査会委員	5月12日～30年3月31日	列品管理課登録室長（兼貸与特別観覧室長）小山弓弦葉
59	福岡市経済観光文化局美術館運営部	平成29年度美術資料収集審査（古美術）	6月2日	列品管理課登録室長（兼貸与特別観覧室長）小山弓弦葉
60	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	6月30日	列品管理課登録室長（兼貸与特別観覧室長）小山弓弦葉
61	国立台湾師範大学（台湾・台北市）	ワークショップ「染織品の保存と修復」	8月13日～15日	列品管理課登録室長（兼貸与特別観覧室長）小山弓弦葉
62	松戸市博物館	染織文化財展示指導	9月20日、11月14日	列品管理課登録室長（兼貸与特別観覧室長）小山弓弦葉
63	文化庁文化財部伝統文化課	重要無形文化財保持者喜多川俵二作品調査	10月29日	列品管理課登録室長（兼貸与特別観覧室長）小山弓弦葉
64	仙台市博物館	染織文化財展示指導	10月30日、11月29日	列品管理課登録室長（兼貸与特別観覧室長）小山弓弦葉

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
65	静岡県教育委員会	平成29度第1回文化財保護審議会	11月27日	列品管理課登録室長（兼貸与特別観覧室長）小山弓弦葉
66	日本学術振興会	科学研究費　審査委員	12月1日～30年11月30日	列品管理課登録室長（兼貸与特別観覧室長）小山弓弦葉
67	静岡県教育委員会	平成29度第2回文化財保護審議会	30年3月21日	列品管理課登録室長（兼貸与特別観覧室長）小山弓弦葉
68	日本工芸会	第51回伝統工芸染織展　審査	30年3月29日	列品管理課登録室長（兼貸与特別観覧室長）小山弓弦葉
69	群馬県博物館連絡協議会	平成29年度群馬県博物館連絡協議会講演会で講演	5月12日	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　六人部克典
70	長野県史料保存活用連絡協議会	長野県史料保存活用連絡協議会第2回講習会で基調講演	10月26日	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　六人部克典
71	茨城県博物館協会	平成29年度茨城県博物館協会研修会で講演	11月2日	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　六人部克典
72	茨城県博物館協会	平成29年度茨城県博物館協会第2回研修会で講演	30年2月16日	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　六人部克典
73	Museum of Fine Arts, Boston	Showdown! Kuniyoshi vs. Kunisada 展覧会企画協力	8月11日～12月10日	列品管理課平常展調整室長松嶋雅人
74	日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員（審査委員）	12月1日～30年11月30日	列品管理課平常展調整室長松嶋雅人
75	鹿児島県歴史資料センター黎明館	展示題箋等における多言語化対応に関わる助言	12月14日	列品管理課平常展調整室長松嶋雅人
76	町田市立博物館	町田市立博物館運営委員	7月1日～31年6月30日	調査研究課長（兼東洋室長）　今井敦
77	公益財団法人永青文庫	永青文庫所蔵中国陶磁の調査	8月14日～15日	調査研究課長（兼東洋室長）　今井敦
78	愛知県陶磁美術館	記念講演会「東アジアにおける「染付」の展開」	11月4日	調査研究課長（兼東洋室長）　今井敦
79	公益財団法人永青文庫	永青文庫所蔵朝鮮・東南アジア陶磁の調査	11月20日	調査研究課長（兼東洋室長）　今井敦
80	公益財団法人永青文庫	記念講演会「中国陶磁の流れと永青文庫コレクション」	30年3月13日	調査研究課長（兼東洋室長）　今井敦
81	東京芸術大学	論文の査読	7月～8月	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞
82	仏教芸術学会	論文の査読	12月	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞
83	日本史研究会	例会への参加要請	12月23日	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞
84	仏教芸術学会	仏教芸術学会設立準備会委員	6月～	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞
85	国立歴史民俗博物館	「URUSHI　ふしぎ物語－人と漆の12000年史－」展示プロジェクト委員	4月1日～30年3月31日	調査研究課工芸室長　竹内奈美子
86	日本博物館協会	美術品梱包輸送技能取得士認定制度に関する委員会委員および認定試験委員会委員	4月1日～30年3月31日	調査研究課工芸室長　竹内奈美子
87	第64回日本伝統工芸展運営委員会	鑑査委員（木竹工第一次鑑査）	6月2日～30年3月11日	調査研究課工芸室長　竹内奈美子
88	第40回日本牙角彫刻展実行委員会	審査委員	7月2日	調査研究課工芸室長　竹内奈美子
89	大和文華館	平成30年度に同館で開催予定の高麗に関する特別展に関する助言	4月25日、6月22日、12月21日	調査研究課考古室長　白井克也
90	國學院大學博物館	同館で保管・展示するクリスの柄にかかわる助言	6月15日	調査研究課考古室長　白井克也
91	ペンシルヴェニア大学博物館	シカゴ・コロンブス世界博覧会に際しての作品交換に関する助言	7月12日	博物館情報課長　田良島哲、調査研究課考古室長　白井克也
92	伊勢崎市教育委員会	埴輪の模造の方針に関する意見交換	30年2月15日	調査研究課考古室長　白井克也、同主任研究員　品川欣也、同研究員　河野正訓、同研究員　山本亮
93	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構	アイヌ工芸品展にかかる助言	9月26日	調査研究課考古室主任研究員　品川欣也
94	国立アイヌ博物館準備室	開館にともなう常設展にかかる助言	12月15日	調査研究課考古室主任研究員　品川欣也
95	国立アイヌ博物館準備室	開館にともなう常設展にかかる助言	30年1月24日	調査研究課考古室主任研究員　品川欣也
96	青森県立郷土館	リニューアルにともなう展示室・展示ケースに対する助言	30年2月20日	調査研究課考古室主任研究員　品川欣也
97	国立アイヌ博物館準備室	開館特別展にかかる助言	30年3月16日	調査研究課考古室主任研究員　品川欣也
98	サウジアラビア国立博物館職員の研修	JAICAによる研修を一部を担当	12月6日	調査研究課東洋室研究員　小野塚拓造
99	相撲博物館	文化財の燻蒸に用いるガスの選択などについて。	4月	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
100	文化庁	銀板写真の修理について	6月	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀
101	武州歴史民俗博物館	赤外線撮影と画像の解析	7月	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀
102	東京文化財研究所、国際基督教大学付属高校	X線CT画像の解析	8月	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀、同アソシエイトフェロー　宮田将寛
103	福島県立博物館	レプリカの作成についての助言	8月	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀
104	公益財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団	X線CT画像の解析	9月	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀、同アソシエイトフェロー　宮田将寛
105	国立歴史民俗学博物館	X線CT撮影と画像の解析	6月、7月、9月	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀、同アソシエイトフェロー　宮田将寛
106	さいたま市教育員会	X線CT撮影と画像の解析	9月	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀、同アソシエイトフェロー　宮田将寛
107	文化財保存修復学会	論文の査読	11月	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀
108	東京文化財研究所	論文の査読	12月	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀
109	相模原市博物館	X線CT画像の解析	12月、30年2月	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀、同アソシエイトフェロー　宮田将寛
110	八戸市博物館、文化庁	X線CT画像の解析	30年2月	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀、同アソシエイトフェロー　宮田将寛
111	文化庁	紺紙金泥経の蛍光X線分析と解析	30年2月	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀
112	文化庁	X線CT画像の解析	30年2月	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀、同アソシエイトフェロー　宮田将寛
113	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会保存環境ワーキンググループ専門委員	4月1日～30年3月31日	保存修復課環境保存室長 和田浩
114	日本博物館協会	美術品梱包輸送技能取得士認定制度に関する委員会委員および認定試験委員会委員	4月1日～30年3月31日	保存修復課環境保存室長 和田浩
115	長野県立歴史館	長野県史料保存活用連絡協議会第2回講習会で基調講演	10月26日	保存修復課環境保存室長 和田浩
116	茨城県博物館協会	平成29年度茨城県博物館協会研修会で講演	11月2日	保存修復課環境保存室長 和田浩
117	国立歴史民族学博物館	共同研究員(研究課題「博物館における持続可能な資料管理および環境整備--保存科学の視点から」)	9月11日～3月31日	保存修復課環境保存室長 和田浩
118	日本展示学会	論文の査読	10月	保存修復課環境保存室長 和田浩
119	東京文化財研究所	論文の査読	12月	保存修復課環境保存室長 和田浩
120	筑波大学（守屋正彦教授）	博物館資料の収集・保存・研究活動にかかる学習への協力（「美術史基礎演習Ⅱ」）	30年1月16日	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　井上素子
121	特定非営利活動法人　文化財保存支援機構	アクリル脱塩作業監督	7月12日～13日	保存修復課保存修復室長 土屋裕子
122	津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会	ワークショップ「ブロッティング法によるアクリル画の脱塩」	8月3日	保存修復課保存修復室長 土屋裕子
123	金沢美術工芸大学（荒木恵信教授）	曽我 二直菴印「架鷹図屏風」の修理仕様および助成金申請書類についての助言	12月	保存修復課保存修復室長 土屋裕子
124	特定非営利活動法人　文化財保存支援機構	油彩画の修理企画書について（平成29年度文化財保存修復を目指す人のための実践コース）	12月	保存修復課保存修復室長 土屋裕子
125	岩手県立美術館（根本亮子氏）	油彩画の修理仕様についての助言	12月	保存修復課保存修復室長 土屋裕子
126	九州国立博物館	大型拓本の展示および修理についての助言	12月	保存修復課保存修復室長 土屋裕子
127	国立アイヌ民族博物館	文化財保存関連論文の審査	7月	保存修復課保存修復室長 土屋裕子
128	福井市立強度歴史博物館（佐々木佳美）	複合素材で制作された文化財の保存と修理について	30年1月	保存修復課保存修復室長 土屋裕子
129	岩手県立博物館	被災作品の展示のための（油彩画）グレージング作業	30年3月1日	保存修復課保存修復室長 土屋裕子

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
130	鎌倉市教育委員会	鎌倉市文化財専門委員会	4月1日～30年5月31日	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛
131	多摩美術大学生涯学習センター	公開講座　世紀を歩く―美術と文化Ⅶ：16世紀　キリシタン大名―信仰と実利のはざまで	12月2日	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛
132	八戸市立博物館	館蔵品の修理計画に関する相談	10月12日～24日	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　野中昭美
133	東北芸術工科大学	博物館内での修理実務に関する特別講義	12月12日	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　野中昭美
134	茨木県立歴史館	茨木県立歴史館所蔵の三昧塚古墳出土の大刀等についての調査	4月9日	客員研究員　沢田むつ代
135	柏原市歴史資料館	高井田山古墳出土品に付着する繊維の調査	7月11日～12日	客員研究員　沢田むつ代
136	栃木市藤原歴史民俗博物館	栃木市山王寺大桝塚古墳出土品に付着する繊維等の調査	12月22日	客員研究員　沢田むつ代
137	上野「文化の杜」新構想実行委員会	上野「文化の杜」新構想実行委員会 副会長	4月1日～30年3月31日	総務部長　山下登
138	文化遺産国際協力コンソーシアム	国際シンポジウム海外招聘者のエクスカーション（東京国立博物館館内解説）	10月8日	総務課国際化業務アソシエイトフェロー 北川瑞季

【京都国立博物館】168件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	京都府・京都市・京都商工会議所	京都文化力プロジェクト実行委員会　理事	4月～5月	館長　佐々木丞平
2	公益財団法人仏教美術研究上野記念財団	評議員	4月～6月	館長　佐々木丞平
3	文化庁文化財部伝統文化課	有識者会議　委員	4月～7月	事業推進係アソシエイトフェロー　リンネ　マリサ
4	(公)日本漢字能力検定協会	「漢字博物館・図書館アドバイザリー会議」委員	4月～9月	館長　佐々木丞平
5	同志社大学	嘱託講師	4月～9月	保存修理指導室長　大原嘉豊
6	京都造形芸術大学	非常勤講師	4月～9月	工芸室研究員　降矢哲男
7	京都府	「きょうと障害者文化芸術推進機構」役員	4月～11月	館長　佐々木丞平
8	奈良国立博物館	文化財保存修理所運営委員会　委員	4月～30年1月	学芸部長　山本英男
9	越前市教育委員会	越前市文化財保護委員会　委員	4月～30年1月（10月25日）	保存修理指導室長　大原嘉豊
10	大エジプト博物館合同保存修復プロジェクト共同企業代表 一般財団法人日本国際協力センター	技術支援会議　委員	4月～30年2月	副館長　栗原祐司
11	公益財団法人京都古文化保存協会	評議員	4月～30年3月	館長　佐々木丞平
12	京都府商工労働観光部	大琳派祭　プロジェクションマッピング実施業務委託に係る意見聴取会議委員	4月～30年3月	館長　佐々木丞平
13	公益財団法人　泉屋博古館	評議員会　理事	4月～30年3月	館長　佐々木丞平
14	公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー 古典の日推進委員会	特別委員	4月～30年3月	館長　佐々木丞平
15	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	評議員	4月～30年3月	館長　佐々木丞平
16	ICOM日本委員会 公益財団法人日本博物館協会	ICOM京都大会2019組織委員会　委員	4月～30年3月	館長　佐々木丞平
17	ICOM京都大会2019京都推進委員会	ICOM京都大会2019京都推進委員会　委員	4月～30年3月	館長　佐々木丞平
18	宮内庁京都事務所	御所・離宮懇談会　委員	4月～30年3月	館長　佐々木丞平
19	奈良国立博物館	評議員	4月～30年3月	館長　佐々木丞平
20	公益財団法人三菱財団	理事	4月～30年3月	館長　佐々木丞平
21	公益財団法人日本博物館協会	評議員	4月～30年3月	館長　佐々木丞平
22	一般社団法人清風会	理事	5月～30年3月	館長　佐々木丞平
23	ICOM日本委員会	副委員長	5月～30年3月	館長　佐々木丞平
24	人権ネットを活用した地域活性化事業実行委員会　委員長 （水平社博物館）	「人権ネットを活用した地域活性化事業」実行委員会　委員	4月～30年3月	館長　佐々木丞平
25	スポーツミュージアム連携・啓発事業実行委員会	スポーツミュージアム連携・啓発事業実行委員会　委員	4月～30年3月	館長　佐々木丞平
26	公益財団法人　大和文華館	評議員	4月～30年3月	学芸部長　山本英男
27	京都大学大学院人間・環境学研究科	教育・研究指導　客員教授	4月～30年3月	学芸部長　山本英男
28	京都女子大学	非常勤講師	4月～30年3月	学芸部長　山本英男

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
29	京都大学大学院人間・環境学研究科	教育・研究指導　客員教授	4月～30年3月	上席研究員　宮川禎一
30	高知県	坂本龍馬記念館リニューアル基本構想検討委員会委員	4月～30年3月	上席研究員　宮川禎一
31	京都大学大学院人間・環境学研究科	教育・研究指導　客員准教授	4月～30年3月	工芸室長　山川　暁
32	島根県教育委員会	島根県文化財保護審議会委員	4月～30年3月	工芸室長　山川　暁
33	滋賀県教育委員会	文化財保護審議会委員	4月～30年3月 （7月30日、10月10日、11月10日）	工芸室長　山川　暁
34	愛知県	愛知県史編さん委員会特別調査執筆委員	4月～30年3月	工芸室長　山川　暁
35	京都大学大学院人間・環境学研究科	教育・研究指導　客員准教授	4月～30年3月	保存修理指導室長　大原嘉豊
36	佛教大学	非常勤講師(集中講義)	4月～30年3月	保存修理指導室長　大原嘉豊
37	宗教法人総持寺(和歌山市教育委員会)	総持寺当麻曼荼羅修理委員会　委員	4月～30年3月	保存修理指導室長　大原嘉豊
38	茶道総合資料館	裏千家茶道総合資料館　客員研究員	4月～30年3月	工芸室研究員　降矢哲男
39	花園大学	非常勤講師	4月～30年3月	美術室長　羽田　聡
40	近畿大学	非常勤講師	4月～30年3月	美術室長　羽田　聡
41	奈良大学通信教育部	通信教育部指導教員(非常勤)	4月～30年3月	工芸室研究員　降矢哲男
42	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国際日本文化研究センター	共同研究員	4月～30年3月	列品管理室主任研究員　呉孟晋
43	ICOM京都大会2019組織委員会	ICOM(国際博物館会議)京都大会運営委員	4月～30年3月	副館長　栗原祐司 総務・人事係長　三島貴雄 事業推進係アソシエイトフェロー　リンネ　マリサ
44	鳥取県教育委員会	とっとり弥生の王国調査整備活用委員会　委員	4月～30年3月	保存科学室長　降幡順子
45	大阪市経済戦略局	大阪市経済戦略局文化課実施事業の契約候補者選定にかかる公募型プロポーザル方式有識者会議委員	4月4日	副館長　栗原祐司
46	京都大学総合博物館	「幕末の動乱と坂本龍馬」講演会　講師	4月8日	上席研究員　宮川禎一
47	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会ワーキンググループ専門委員　現地調査	4月12日 5月10日 5月24日	保存修理指導室長　大原嘉豊
48	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会ワーキンググループ専門委員	6月7日 30年3月10日	保存修理指導室長　大原嘉豊 保存科学室長　降幡順子
49	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ材料調査班専門委員	5月～30年3月	保存修理指導室長　大原嘉豊 保存科学室長　降幡順子
50	奈良文化財研究所	高松塚古墳壁画およびキトラ古墳壁画の保存と活用に関するプロジェクトチーム会議及びミーティング	4月17日～18日 6月30日	保存科学室長　降幡順子
51	日本橋三越本店　リビング・IDS営業部	トークショーイベント出演	4月21日～22日	館長　佐々木丞平
52	野﨑家塩業歴史館	野﨑家塩業歴史館　所蔵資料調査	4月25日～26日 5月23日～24日 8月31日～9月1日 11月21日～22日 30年2月6日～7日	教育室長　永島明子
53	京都文化プロジェクト実行委員会　事務局長	京都文化力プロジェクト推進フォーラムリレー対談	4月26日	館長　佐々木丞平
54	元興寺文化財研究所	天野山金剛寺所蔵木製納骨五輪塔資料の調査	4月27日、30年2月17日	工芸室研究員　降矢哲男
55	ICOM日本委員会	理事	5月～30年3月	副館長　栗原祐司
56	公益財団法人祇園祭山鉾連合会	祇園祭山鉾装飾品等専門委員	5月～30年3月	工芸室長　山川　暁 連携協力室長　淺湫　毅
57	一般社団法人Music Dialogue	対談	5月2日	館長　佐々木丞平
58	公益財団法人京都市生涯学習振興財団	5月講座「ゴールデン･エイジ・アカデミー」　講師	5月12日	上席研究員　宮川禎一
59	越前市教育委員会	粟生寺展に伴う文化財調査	5月13日～14日	保存修理指導室長　大原嘉豊
60	奈良国立博物館	文化財保存修理所運営委員会　出席	5月18日	学芸部長　山本英男
61	奈良文化財研究所	国宝高松塚古墳壁画の材料調査	5月22日	保存科学室長　降幡順子
62	立命館大学	大学講義「博物館概論」　講演	5月26日	教育室研究員　水谷亜季
63	きょうと障害者文化芸術推進機構	検討部会員	6月～30年3月	副館長　栗原祐司

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
64	公益財団法人日本博物館協会	理事	6月～30年3月	副館長　栗原祐司
65	社会福祉法人京都府社会福祉事業団視力障害者福祉センター	「考古学のおもしろさ」　講師	6月2日	上席研究員　宮川禎一
66	堺市長	東京シンポジウム2017-文化遺産を考える-への　基調講演	6月3日	館長　佐々木丞平
67	公益財団法人大和文華館	平成29年度定時評議委員会及び第2回理事会　委員	6月13日	学芸部長　山本英男
68	九州国立博物館	平成29年度九州国立博物館文化財保存修復施設運営委員会委員	6月14日	学芸部長　山本英男
69	奈良文化財研究所研究支援推進部	ファイアウォールにて意図しない通信を検地した事案について、他のセキュリティ関係サーバ、パソコンのログ調査及び助言	6月14日～16日	事業推進係主任　澁谷完滋
70	奈良大学	博物館実習講演会講師	6月17日	工芸室研究員　降矢哲男
71	奈良国立博物館	「染織技法による仏像の研究」に係る国宝綴織當麻曼荼羅図の研究会	6月22日	企画室長　伊藤信二 工芸室長　山川　暁
72	アール・ブリュットネットワーク	企画委員	7月～30年3月	副館長　栗原祐司
73	龍村美術染織繍技術保存会	顧問	7月～30年3月	工芸室長　山川　暁
74	共立女子大学	説話文学会で行うパネル発表に関する打合せ･研究会・資料収集	7月8日～9日	企画室研究員　井並林太郎
75	奈良文化財研究所研究支援推進部	キャノンITソリューションズにおけるフォレンジック調査報告のヒアリング	7月10日	事業推進係主任　澁谷完滋
76	福井市	福井県愛宕坂茶道美術館館蔵品の学術調査	7月14日 10月20日～21日 30年3月17日～18日	美術室長　羽田　聡
77	徳島県教育委員会	「板東俘虜収容所関係資料」ユネスコ「世界の記憶」（記憶遺産）調査検討委員会　委員	7月18日 30年2月27日	副館長　栗原祐司
78	一般社団法人日本能率協会産業振興センター	文化財保存技術展/ミュージアム設備機器展　特別講演	7月20日	館長　佐々木丞平
79	奈良文化財研究所飛鳥資料館	銭弘俶八万四千塔に関する学術調査	7月25日～26日	保存科学室長　降幡順子
80	文化庁文化財部美術学芸課	仁和寺文化財調査	7月25日～26日	企画室アソシエイトフェロー　上杉智英
81	文化庁文化財部美術学芸課	仁和寺所蔵作品調査	7月26日	美術室長　羽田　聡
82	読売新聞東京本社	特別展「幸村-奇想の誕生-」展示指導	7月26日	工芸室研究員　降矢哲男
83	一般社団法人国宝修理装潢師連盟	修理技術者資格制度委員会　第1回試験準備委員会　委員	7月28日	保存修理指導室長　大原嘉豊 美術室長　羽田　聡
84	東京文化財研究所	東京文化財研究所・佐賀大学共催研究会「日本における染織文化財の保存」　講師	7月29日	工芸室長　山川　暁
85	神戸大学	非常勤講師	8月1日～31日	保存科学室長　降幡順子
86	大阪府教育委員会	大阪府文化財保護審議会　委員	8月～30年3月	企画室長　伊藤信二
87	学校法人関西大学	「山本竟山の学問一湖南・雨山・鉄斎との文人交流ネットワーク」展覧会実施に関する指導・助言	8月～30年3月	列品管理室主任研究員　呉孟晋
88	丸亀市教育委員会	丸亀市史跡快天山古墳保存整備委員会　委員	8月～30年3月	保存科学室長　降幡順子
89	静岡市教育委員会	静岡市文化財保護審議会委員	8月～30年3月 （9月11日、30年2月5日～6日）	連携協力室長　淺湫　毅
90	毎日新聞大阪本社広告局	取材	8月9日	館長　佐々木丞平
91	泉南市教育委員会	「風神雷神図屏風(高精細複製）」を用いた作品鑑賞	8月19日	教育室研究員　水谷亜季
92	東京国立博物館	日本染織コレクションの形成とその美術的価値の確立に関する作品調査	8月20日～27日 11月5日～12日	事業推進係アシスタントフェロー　リンネ･マリサ
93	㈱ベストセラーズ	取材(座談会)	8月23日	館長　佐々木丞平
94	東京国立博物館	文化財情報資源の探索と発見のためのデータ連携に関する研究調査	8月24日 30年2月1日～2日	事業推進係主任　澁谷完滋
95	奈良文化財研究所	ミャンマー出土陶磁器の化学分析に関する講義および分析装置の説明	8月24日	保存科学室長　降幡順子
96	㈱新潮社「芸術新潮」編集部	月刊誌「芸術新潮」隔月インタビュー連載「原田マハ　美のパイオニアに会いに行く」取材	8月28日	館長　佐々木丞平
97	奈良文化財研究所	文化遺産防災総合シミュレーション調査ミーティング（8月29日、30年3月13日） 和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議公開研修会（3月14日）	8月29日、30年3月13日～14日	事業推進係アソシエイトフェロー　近藤無滴
98	丸亀市教育委員会	丸亀市史跡快天山古墳保存整備委員会　委員	8月29日	保存科学室長　降幡順子
99	愛知県総務部	愛知県史編さん委員会文化財部会による資料調査および撮影	8月29日	工芸室長　山川　暁
100	大阪大谷大学	新義真言系聖教の形成と教学的交流に関する基礎的研究	8月30日～31日	企画室アソシエイトフェロー　上杉智英
101	京都女子大学	非常勤講師	9月～30年1月	工芸室長　山川　暁

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
102	聖心女子大学	非常勤講師	9月～30年3月	考古室主任研究員　古谷毅
103	國學院大学	非常勤講師	9月～30年3月	考古室主任研究員　古谷毅
104	野田市	野田市編さん委員会専門委員	9月～30年3月	考古室主任研究員　古谷毅
105	國學院大学	客員教授	9月～30年3月	考古室主任研究員　古谷毅
106	流山市教育委員会	流山市鰭ヶ崎三本松古墳調査指導委員会委員	9月～30年3月	考古室主任研究員　古谷毅
107	関西大学東西学術研究所	第3回中国近現代文化研究大会　委員	9月2日～3日	列品管理室主任研究員　呉孟晋
108	越前市生涯学習センター	越前まなぼう座　越前おもしろ歴史回廊　講師	9月9日	上席研究員　宮川禎一
109	鹿児島大学総合研究博物館	「三次元計測・X線CT調査と古墳時代甲冑研究の課題」　講師	9月9日	考古室主任研究員　古谷毅
110	奈良文化財研究所	キトラ古墳壁画の材料調査	9月11日～13日	保存科学室長　降幡順子
111	日本スポーツ振興センター	アドバイザー	10月～30年3月	副館長　栗原祐司
112	京都大学大学院文学研究科	非常勤講師	10月～30年3月	上席研究員　宮川禎一
113	京都美術工芸大学	非常勤講師	10月～30年3月	連携協力室長　淺湫　毅
114	奈良文化財研究所	壁画古墳壁画保存対策プロジェクトチーム会議　委員	10月5日～6日	保存科学室長　降幡順子
115	NHK大阪放送局	NHK公開講演会「京都国立博物館開館120周年記念　特別展覧会「国宝」展」　講師	10月6日	保存修理指導室研究員　福士雄也
116	中国新聞社	「広島･京都文化フォーラム」パネリスト	10月7日	上席研究員　宮川禎一
117	説話文学会	シンポジウム　出席	10月7日	企画室研究員　井並林太郎
118	智山専修学院	「仏教の文化と美術」　講師	10月7日	保存修理指導室長　大原嘉豊
119	高知県立高知城歴史博物館	坂本龍馬書官公開に係る特別講座　講師	10月8日	上席研究員　宮川禎一
120	NHK大阪放送局	NHK公開講演会「京都国立博物館開館120周年記念　特別展覧会「国宝」展」　講師	10月12日	教育室長　永島明子
121	京都造形芸術大学	アートプロデュース学科専門科目　芸術特講Ⅱにおける特別講師	10月18日	教育室研究員　水谷亜季
122	NHK大阪放送局	NHK公開講演会「京都国立博物館開館120周年記念　特別展覧会「国宝」展」　講師	10月20日	企画室研究員　井並林太郎
123	公益社団法人京都鴨芹会	教養講座「国宝～その歴史と美について」講師	10月21日	上席研究員　宮川禎一
124	文化庁文化財部美術学芸課	第10回指定文化財(美術工芸品）企画・展示セミナー　講師	10月23日	副館長　栗原祐司
125	NHK大阪放送局	NHK公開講演会「京都国立博物館開館120周年記念　特別展覧会「国宝」展」　講師	10月24日	工芸室研究員　降矢哲男
126	文化庁文化財部美術学芸課	第10回指定文化財(美術工芸品）企画・展示セミナー　講師	10月27日	上席研究員　宮川禎一
127	滋賀県教育委員会	滋賀の文化財保存継承検討懇話会　委員	10月28日 12月20日	工芸室長　山川　暁
128	東山南部地域活性化委員会	国宝の紹介、鑑賞方法等に関する講演	10月29日	工芸室研究員　降矢哲男
129	京都造形芸術大学	「歴史遺産Ⅱ-1」非常勤講師	10月29日	工芸室長　山川　暁
130	東山南部地域活性化委員会	「120周年を迎えた京都国立博物館」及び「2019年の世界博物館博覧会」について　講演	10月29日	館長　佐々木丞平
131	滋賀県教育委員会	滋賀県指定有形文化財(美術工芸品）の指定にかかる調査指導	11月1日	保存科学室長　降幡順子
132	NHK大阪放送局	NHK公開講演会「京都国立博物館開館120周年記念　特別展覧会「国宝」展」　講師	11月7日	列品管理室主任研究員　呉孟晋
133	公益財団法人土岐市文化振興事業団	茶の湯の歴史と陶磁器との関連について講義	11月11日	工芸室研究員　降矢哲男
134	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究（特別調査会「彫刻」）	11月12日～13日	連携協力室長　淺湫　毅
135	上智大学アジア人材養成研究センター	文化遺産国際協力拠点交流事業ワークショップ　出席	11月17日	副館長　栗原祐司
136	佛教大学宗教文化ミュージアム	秋季特別展関連講演会	11月18日	教育室研究員　水谷亜季
137	日本のミュージアムのための国際発信力向上推進事業	ICOM-ICDAD(装飾美術・デザインの博物館・コレクション国際委員会)年次大会　出席	11月25日～12月4日	事業推進係アシスタントフェロー　リンネ･マリサ
138	とっとり弥生の王国調査整備活用委員会	平成29年度とっとり弥生の王国調査整備活用委員会調査研究部会　委員	11月30日	保存科学室長　降幡順子
139	兵庫県立考古博物館	運営委員会　委員	12月～30年3月	副館長　栗原祐司
140	日本ミュージアム・マネージメント学会	第23回大会実行委員	12月～30年3月	副館長　栗原祐司
141	山口大学人文学部　古代武器研究会	第14回「考古武器研究会」討論コーディネーター	12月2日～3日	考古室主任研究員　古谷毅
142	文化庁文化財部美術学芸課	文化財(美術工芸品)の作品撮影	12月7日	列品管理室主任　岡田愛
143	立命館大学文学部東洋研究学域	「博物館における教育普及について」講師	12月13日	教育室研究員　水谷亜季

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
144	京田辺市教育委員会	「京たなべ生涯学習講座」　講師	12月18日	上席研究員　宮川禎一
145	兵庫県立美術館	平成29年度ボランティアコーディネーター養成セミナー講師	12月23日	事業推進係アシスタントフェロー　リンネ･マリサ
146	公益財団法人京都SKYセンター	京都SKYシニア大学への出講	30年1月23日	工芸室研究員　降矢哲男
147	装道礼法きもの学院	「ひな人形に見る衣装」講師	30年1月27日	工芸室長　山川　暁
148	東京国立博物館	法隆寺献納宝物に関する調査	30年1月28日～29日 30年1月28日～30日	保存修理指導室長 大原嘉豊 企画室研究員　井並林太郎
149	島根大学法文学部	公益財団法人朝日新聞文化財団文化財保護事業「出雲型石棺式石室出土金属製品の保存修復と公開」にかかる学術協力	30年1月29日～30日、3月6日、3月16日～18日	考古室主任研究員　古谷　毅
150	京都府立嵯峨野高等学校	「京の文化財」ラボ研究発表に関する助言・指導	30年2月9日	教育室研究員　水谷亜季
151	静岡市教育委員会	静岡市文化財保護審議会委員	30年2月5日～6日	連携協力室長　浅湫　毅
152	国文学研究資料館	国際研究交流集会への出席及び報告	30年2月5日～6日	副館長　栗原祐司
153	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究（特別調査会「書跡」）	30年2月8日～9日	企画室アソシエイトフェロー　上杉智英
154	福井市	福井県愛宕坂茶道美術館館蔵品の学術調査	30年2月15日～16日	工芸室研究員　降矢哲男
155	京都洛東ロータリークラブ	記念式典への出席、記念講演会の講演	30年2月17日	館長　佐々木丞平
156	舞鶴市	「地域における博物館の役割と活性化」を考える博物館セミナー講師	30年2月16日	副館長　栗原祐司
157	公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団	「弥生・古墳時代のかお・古代のかお～考古資料に見る顔表現～」講話	30年2月17日～18日	考古室主任研究員　古谷　毅
158	徳島県教育委員会	第6回「板東俘虜収容所関係資料」ユネスコ「世界の記憶」(記憶遺産)調査検討委員会への出席	30年2月27日	副館長　栗原祐司
159	第47回日本伝統工芸近畿展実行委員会	第47回日本伝統工芸近畿展鑑査委員	30年2月27日	事業推進係アシスタントフェロー　リンネ･マリサ
160	東京国立博物館長	収蔵品に関する共同研究（特別調査会「工芸」）	30年3月1日～3月2日	工芸室研究員　降矢哲男
161	天理市観光協会	「大和の中のヤマト」シンポジウム in 東京国立博物館ここまで判った物部氏－考古学の調査研究成果から－講師	30年3月3日～3月4日	考古室主任研究員　古谷　毅
162	国際仏教学大学院大学日本古写経研究所	日本古写経テキストデータベース準備会出席	30年3月5日	企画室アソシエイトフェロー　上杉智英
163	西日本旅客鉄道株式会社	2018年度「京の冬の旅」全国宣伝販売会議及び意見交換会出席	30年3月6日	館長　佐々木丞平
164	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究（特別調査会「工芸」）	30年3月7日～8日	企画室長　伊藤信二
165	実践女子大学	知恩院寄託宋版一切経調査・研究及び助言	30年3月13日～14日	企画室アソシエイトフェロー　上杉智英
166	宗教法人四天王寺	四天王寺仏教文化講演会　第549回　講師	30年3月24日	学芸部長　山本英男
167	東京国立博物館	収蔵品に関する共同調査（特別調査会「絵画」）	30年3月25日～26日	保存修理指導室長 大原嘉豊 企画室研究員　井並林太郎
168	仁和寺	仁和寺御経蔵聖教確認調査	30年3月25日～26日	企画室アソシエイトフェロー　上杉智英

【奈良国立博物館】72件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	宮内庁	正倉院懇談会会員	4月～30年3月	館長　松本伸之
2	奈良女子大学	経営協議会委員	4月～30年3月	館長　松本伸之
3	奈良女子大学	非常勤講師	4月～30年3月	企画室長　野尻忠
4	ICOM京都大会2019組織委員会	運営委員会委員	4月～30年3月	企画室アソシエイトフェロー　堀内しきぶ
5	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ美術史班専門委員	4月～30年3月	教育室長　谷口耕生
6	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ材料調査班専門委員	4月～30年3月	保存修理指導室長　鳥越俊行
7	公益財団法人　日本博物館協会	参与	4月～30年3月	館長　松本伸之
8	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター	文化遺産保護協力事業運営審議会委員	4月～31年3月	館長　松本伸之
9	文化庁	文化庁新指定文化財の撮影協力	4月11日～4月14日	資料室員　佐々木香輔
10	九州国立博物館	九州国立博物館文化財保存修理施設運営委員会に委員として出席し助言	4月14日	学芸部長　内藤栄
11	桂文化財修理工房	文化財の修理に関する助言・指導	4月26日	教育室長　谷口耕生
12	京都国立博物館	京都国立博物館文化財保存修理施設運営委員会に委員として出席し助言	5月23日	学芸部長　内藤栄
13	法隆寺	金堂壁画保存活用委員会委員	6月1日～30年3月31日	館長　松本伸之

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
14	一般財団法人　仏教美術協会	評議員	6月19日～31年6月	館長　松本伸之
15	東北大学	非常勤講師	6月1日～7月31日	工芸考古室長　清水健
16	公益財団法人　日本工芸会	日本工芸会定時総会に出席し助言	6月5日	館長　松本伸之
17	公益財団法人　松伯美術館	理事	6月13日～30年6月12日	館長　松本伸之
18	公益財団法人　大和文華館	理事	6月13日～30年6月12日	館長　松本伸之
19	クリーブランド美術館	クリーブランド美術館主催「神道」展に対し、調査・出陳交渉協力	6月13日～6月15日、12月9日～12月10日、12月13日～12月14日、12月19日～12月20日	教育室長　谷口耕生 工芸考古室長　清水健
20	公益財団法人高梨学術奨励基金事務局	公益財団法人高梨学術奨励基金理事	6月15日～30年6月14日	館長　松本伸之
21	公益財団法人　仏教美術研究上野記念財団	理事会に委員として出席し助言	6月19日	館長　松本伸之
22	京都国立博物館	評議員	6月19日～31年3月31日	館長　松本伸之
23	奈良県経済倶楽部	ユネスコアジア文化センター文化遺産保護協力事業運営審議会に委員として出席し助言	6月23日	館長　松本伸之
24	奈良県教育委員会	奈良県文化財保護審議会委員	7月1日から30年6月30日	学芸部長　内藤栄
25	公益財団法人　藤田美術館	所蔵品の保管に関する助言・指導	7月4日、9月13日、9月26日、9月29日	学芸部長　内藤栄 工芸考古室長　清水健 工芸考古室アソシエイトフェロー　田澤梓 主任研究員　中川あや
26	泉屋博古館	中国古代青銅器のＣＴ調査に関する助言・指導	7月7日	保存修理指導室長　鳥越俊行
27	知恩院	知恩院の環境調査に関する助言・指導	7月7日・9月11日・10月2日	保存修理指導室長　鳥越俊行
28	奈良文化財研究所	研修講師	7月12日	主任研究員　中川あや
29	神戸市教育委員会	神戸市文化財保護審議会委員	7月15日～30年7月14日	上席研究員　岩田茂樹
30	国立歴史民俗博物館	共同研究「『聆涛閣集古帖』の総合資料学的研究」研究会に参加し助言	7月22日～7月23日、11月18日、30年1月27日、30年2月12日	工芸考古室長　清水健
31	法隆寺	講演「仏像のはじまり　-インド・中国から日本へ-」第67回夏季大学	7月26日	館長　松本伸之
32	文化庁	仁和寺所蔵の文化財調査への協力	7月27日	企画室長　野尻忠
33	大津市教育委員会	大津市文化財専門委員会委員	8月1日～30年7月31日	上席研究員　岩田茂樹
34	長野県埋蔵文化財センター	小島・柳原遺跡群調査指導委員会委員	8月3日～30年8月2日	学芸部長　内藤栄
35	伊豆山神社	文化財保存環境に関する助言・指導	8月7日～8月8日、30年3月26日	主任研究員　山口隆介
36	奈良県東京事務所	特別展「源信」に関する講演	8月18日	主任研究員　北澤菜月
37	京田辺市教育委員会	京田辺市史編さん専門部会　美術工芸・建造物部会　会員	9月～32年6月26日	教育室長　谷口耕生
38	文部科学省	文化審議会委員（文化功労者選考分科会）	9月2日～30年9月1日	館長　松本伸之
39	読売新聞社	正倉院フォーラム東京にて講演	9月10日	館長　松本伸之
40	知足院	知足院の環境調査について助言	9月11日	保存修理指導室長　鳥越俊行
41	四天王寺大学	非常勤講師	9月13日～30年3月31日	主任研究員　北澤菜月
42	東京国立博物館	東京国立博物館主催　特別展「運慶」に関する撮影協力	9月19日～9月22日	資料室員　佐々木香輔
43	博物館ボランティアに関する国際シンポジウム及び中国博物館協会ボランティア専門委員会	シンポジウム及び年会に参加し、助言	9月24日～9月28日	館長　松本伸之
44	唐招提寺	唐招提寺仏像写真撮影、経典調査に関する助言・指導	9月27日	上席研究員　岩田茂樹 情報サービス室長　岩井共二 企画室長　野尻忠 資料室員　佐々木香輔
45	大学共同利用期間法人人間文化研究機構国立民族学博物館	共同研究員	10月1日～30年3月31日	保存修理指導室長　鳥越俊行
46	京都美術工芸大学	正倉院展出前授業講師	10月2日	学芸部長　内藤栄
47	名古屋市博物館	正倉院フォーラム名古屋にて講演	10月7日	工芸考古室長　清水健
48	奈良県	これからの文化財保護体系検討会委員	10月10日～30年度	館長　松本伸之
49	徳島県教育委員会	徳島県の文化財調査に関する援助・助言	10月30日	企画室長　野尻忠

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
50	大和高田ロータリークラブ	講演「正倉院宝物の魅力」	10月31日	館長　松本伸之
51	京都府教育委員会	京都府の文化財調査に関する援助・助言	11月1日	企画室長　野尻忠
52	天理市文化財保護審議会	天理市文化財保護審議会委員	11月1日～31年10月31日	教育室長　谷口耕生
53	韓国国立中央博物館	『韓日　金銅半跏思惟像』報告書編集作業協力	11月30日～12月2日	主任研究員　山口隆介
54	法隆寺	蛍光Ｘ線分析調査結果に関する助言・指導	11月1日	保存修理指導室長　鳥越俊行 主任研究員　山口隆介
55	東京国立博物館	東京国立博物館主催　特別展「運慶」に関する調査･撮影協力	11月6日	上席研究員　岩田茂樹 情報サービス室長　岩井共二 主任研究員　山口隆介
56	奈良県東京事務所	奈良トライアングルミュージアムズ東京セミナー講師	12月4日	主任研究員　山口隆介
57	COMCOL	ICOM京都大会運営委員会委員としてCOMCOL年次会合に参加し助言	12月4日～12月11日	企画室アソシエイトフェロー　堀内しきぶ
58	唐招提寺	収蔵庫環境調査に関する助言・指導	12月5日	保存修理指導室長　鳥越俊行
59	醍醐寺	仏像のX線CTスキャン調査結果に関する助言	12月13日	上席研究員　岩田茂樹 主任研究員　山口隆介 保存修理指導室長　鳥越俊之
60	大分県芸術文化スポーツ振興財団	講演「奈良・東大寺と六郷満山文化について」	12月16日	館長　松本伸之
61	東大寺	仏像のX線CTスキャン調査結果に関する助言	12月21日	上席研究員　岩田茂樹 主任研究員　山口隆介 保存修理指導室長　鳥越俊之
62	奈良県	奈良の仏像海外展示推進協議会委員	30年1月12日～31年度中	館長　松本伸之
63	奈良市	講演「天平文化を読み解く」奈良学セミナー	30年1月21日	館長　松本伸之
64	東北歴史博物館	東北歴史博物館主催　東日本大震災復興祈念特別展「東大寺と東北―復興を支えた人々の祈り」に関する調査・撮影協力	30年1月12日、1月15日、1月18日、3月29日	上席研究員　岩田茂樹 企画室長　野尻忠 列品室長　吉澤悟 情報サービス室長　岩井共二 工芸考古室長　清水健 工芸考古室アソシエイトフェロー　田澤梓 資料室員　佐々木香輔
65	唐招提寺	唐招提寺所蔵文化財の撮影に関する助言・指導	30年1月16日、1月22日、1月25日	列品室長　吉澤悟 主任研究員　北澤菜月 美術室アソシエイトフェロー　伊藤久美
66	東京国立博物館	第4回北米・欧州ミュージアム日本専門家連携・交流事業における日本美術の保存・修理に関する助言・指導及び奈良周辺の文化財調査に関する協力	30年1月16日～1月19日	学芸部長　内藤栄 上席研究員　岩田茂樹 列品室長　吉澤悟 情報サービス室長　岩井共二 保存修理指導室長　鳥越俊行 主任研究員　山口隆介
67	韓国　古版画博物館	奈良における文化財調査に関する援助・助言	30年2月27日	情報サービス室アソシエイトフェロー　朴株顯
68	一般財団法人　仏教美術協会	仏教美術協会会議に出席し助言	30年3月19日	館長　松本伸之 副館長　石垣鉄也 学芸部長　内藤栄
69	奈良文化財研究所	古代寺院出土金属製品の調査に関する援助・助言	30年1月16日、30年2月13日	主任研究員　中川あや
70	山口市役所	山口市歴史文化基本構想調査委員会へ出席し助言	30年2月2日	情報サービス室長　岩井共二
71	韓国　国立中央博物館	正倉院国際学術シンポジウムへ出席・発表	30年3月7日	学芸部長　内藤栄 美術室アソシエイトフェロー　樋笠逸人
72	東京国立博物館	東京国立博物館所蔵銅鏡の調査に関する援助・助言	30年3月8日	主任研究員　中川あや

【九州国立博物館】105件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	公益財団法人日本習字教育財団	学術研究助成審査員、研究助成成果論文査読委員	4月～30年3月	学芸部文化財課資料登録室長　丸山猶計
2	東京国立博物館、株式会社NHKプロモーション	特別展「茶の湯」作品集荷、展示作業の指導等	4月5日～7日、4月10日、5月9日、6月4日～6日、6月25日～26日、7月4日	副館長　伊藤嘉章

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
3	東京国立博物館	月例講演会（桜セミナー）「桜の絵にみる美と心」講師	4月8日	学芸部文化財課主任研究員 山下善也
4	一般社団法人　文化財保存修復学会	文化財保存修復学会公開シンポジウムにおける講演	4月8日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
5	公益社団法人　日本工芸会	第64回日本伝統工芸展運営委員会における助言	4月11日	館長　島谷弘幸
6	株式会社毎日新聞社	特別展「茶の湯」記念講演会ににおける講演	4月15日	副館長　伊藤嘉章
7	外務省	日米文化教育交流会議（カルコン）パネル委員	4月24日	館長　島谷弘幸
8	株式会社TVQ九州放送	放送番組審議会委員における助言	4月27日、5月25日、6月22日、7月27日	館長　島谷弘幸
9	岐阜県文化財保護審議会	岐阜県文化財保護条例にもとづく県指定諮問文化財の調査、審議会への出席	5月12日、7月10日、11月16日、30年2月6日	副館長　伊藤嘉章
10	奈良国立博物館	奈良国立博物館文化財保存修理所運営委員会における指導・助言	5月18日	学芸部長兼企画課長 小泉惠英
11	2017年度大韓展示デザイン学会国際学術大会	2017年度大韓展示デザイン学会国際学術大会における講演	5月19日～21日	学芸部長兼企画課長 小泉惠英
12	国立歴史民俗博物館	共同研究「中世日本の国際交流における海上交通に関する研究」研究会出席、調査	5月20日～21日、30年3月10日～11日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
13	株式会社毎日新聞社	特別展「茶の湯」記念シンポジウムにおける司会	5月21日	副館長　伊藤嘉章
14	独立行政法人日本学術振興会	平成29年度科学研究費委員会挑戦的研究部会第3小委員会における合議審査	5月22日	学芸部特任研究員　臺信祐爾
15	文部科学省	平成29年度教科用図書検定調査審議会総括部会における助言	5月23日	館長　島谷弘幸
16	京都国立博物館	京都国立博物館文化財保存修理所運営委員会における指導・助言	5月23日	学芸部長兼企画課長 小泉惠英
17	学校法人　九州学園	評議員会・理事会における助言	5月26日、7月28日、11月17日	館長　島谷弘幸
18	公益財団法人仙台市市民文化事業団	日・タイ修好130周年　仙台市市民文化事業団設立30周年記念「特別講演　タイ王立舞踊団」関連イベント「タイ文化講座～微笑みの国の歴史と美術～」における講演	5月27日	学芸部企画課特別展室長 原田あゆみ
19	公益財団法人　福岡文化財団	評議員会における助言	6月2日	館長　島谷弘幸
20	龍谷大学	科学研究費助成事業に係る研究打合せ	6月3日	学芸部長兼企画課長 小泉惠英
21	高梁市成羽美術館	「練達した線と余白の美～相田みつを　書の魅力～」講師	6月4日	館長　島谷弘幸
22	学校法人　筑紫女学園	学長候補者選考委員会における助言	6月8日	館長　島谷弘幸
23	株式会社　丹青研究所	文化観光セミナー「文化財『伝える』と『見える』から」講師	6月9日	副館長　伊藤嘉章
24	福岡県教育庁	福岡県銃砲刀剣類登録審査会補助員	6月15日、8月8日、10月5日、30年2月1日、30年3月15日	学芸部文化財課資料登録室研究員　望月規史
25	吉備学会	特別講演「時代と共に－変貌する博物館－」講師	6月17日	館長　島谷弘幸
26	公益財団法人陽明文庫	理事会における助言	6月20日、30年3月13日	館長　島谷弘幸
27	熊本県博物館ネットワークセンター	県内博物館学芸員等の総合プロデューサー育成研修会講師	6月28日	博物館科学課(長崎県研修生)　松下久子
28	宮内庁	三の丸所蔵館で保存管理している皇室用美術工芸品の修理に関する指導	6月28日～29日、11月9日～10日、30年2月1日～2日	館長　島谷弘幸
29	文化庁	文化審議会文化財分科会第四専門調査会における助言	6月30日	館長　島谷弘幸
30	文化庁	水中遺跡調査検討委員会における助言	6月30日	学芸部長兼企画課長 小泉惠英
31	文化庁	水中遺跡調査検討委員会における助言	6月30日、30年2月16日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
32	熊本県博物館ネットワークセンター	公開シンポジウム「大規模災害時における博物館の役割」講師	7月5日	館長　島谷弘幸
33	熊本県博物館ネットワークセンター	公開シンポジウム「大規模災害時における博物館の役割」講師	7月5日	学芸部長兼企画課長 小泉惠英
34	日本ユネスコ国内委員会	日本ユネスコ国内委員会における助言	7月7日、9月12日、30年3月19日	館長　島谷弘幸
35	新宮町教育委員会	相島海底遺跡調査指導委員会における助言	7月10日、9月4日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
36	小郡市教育委員会	たなばた学遊倶楽部「はつらつ教養講座」講師	7月13日	学芸部文化財課資料登録室長　丸山猶計
37	全国歴史民俗系博物館協議会	全国歴史民俗系博物館協議会年次集会（研究集会）における報告	7月13日	博物館科学課(長崎県研修生)　松下久子

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
38	広島県立歴史博物館	広島頼家関係資料史料調査指導委員会における指導助言	7月20日、30年3月6日	学芸部文化財課資料登録室長　丸山猶計
39	鳥取県むきばんだ史跡公園	「むきばんだ女子考古部」キックオフイベント講師	7月23日	学芸部企画課特別展室研究員　西島亜木子
40	鹿屋市教育委員会	「リナシティまるごと博物館」講師	8月11日	学芸部文化財課長　河野一隆
41	柏原市立歴史資料館	市民歴史大学「横穴探求」における講演	8月12日	学芸部文化財課長　河野一隆
42	大野城市	大野城市シニア大学「山城塾」講師	8月24日	学芸部文化財課長　河野一隆
43	福岡市	福岡市美術館美術資料収集審査	8月25日	学芸部企画課特別展室長　原田あゆみ
44	西日本華道連盟	西日本華道芸術大学講座講師	8月27日	館長　島谷弘幸
45	九州歴史資料館	九州歴史資料館協議会における助言	8月29日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
46	比較文明学会九州支部	研究会における講演	9月2日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
47	文部科学省	教科用図書検定調査審議会第６部会書道小委員会における助言	9月6日、30年1月15日	館長　島谷弘幸
48	福岡県伝統的工芸品振興協議会	第41回福岡県伝統的工芸品展審査委員	9月19日	学芸部文化財課長　河野一隆
49	ふくおか博物館人材育成事業実行委員会	文化庁芸術振興費補助金（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）に係る「学芸員技術研修会」における講師	9月20日～21日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
50	小矢部市立蟹谷中学校	社会科授業講師	9月22日、9月28日、10月4日	学芸部企画課特別展室研究員　松浦晃佑
51	公益社団法人　日展	改組　新　第4回日展審査員総会	10月4日、11月2日	館長　島谷弘幸
52	宮地嶽条幅揮毫大会実行委員会	宮地嶽神社条幅揮毫大会審査	10月8日	館長　島谷弘幸
53	熊本県庁	平成28年熊本地震被災文化財等復旧復興基金活用動産文化財検討委員会における助言	10月19日、12月20日、30年3月9日	学芸部長兼企画課長　小泉惠英
54	東海大学海洋学部	「サンフランシスコ号海事考古学調査とガレオン交易船の造船技術に関する国際研究」に関連する千葉県御宿町沖合いでの水中考古学磁気探査への協力	10月29日～11月5日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
55	アートフル大分プロジェクト実行委員会	地域美術館体験講座「スクールミュージアム（国東市立安岐中学校）」に係る特別講演講師	11月2日	副館長　伊藤嘉章
56	九州女子大学	平成29年度大学祭学科特別企画　人間基礎学専攻主催「第30回高等学校揮毫大会　記念講演会」講師	11月5日	館長　島谷弘幸
57	博多織工業組合	第115回博多織求評会二次審査委員	11月9日	副館長　伊藤嘉章
58	朝倉市教育委員会	文化財資料についての鑑定評価	11月10日	学芸部文化財課資料登録室研究員　望月規史
59	一般財団法人筆の里振興事業団	講演会講師、作品査定	11月11日	館長　島谷弘幸
60	京都大学大学院工学研究科	「平成29年度文化遺産国際協力拠点交流事業」（ミャンマー連邦共和国の文化遺産のデジタル保存展示に関する拠点交流事業）バガンシンポジウムにおける調査および教育指導、関係者会議出席	11月14日～21日	学芸部博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子
61	京都大学大学院工学研究科	「平成29年度文化遺産国際協力拠点交流事業」（ミャンマー連邦共和国の文化遺産のデジタル保存展示に関する拠点交流事業）バガンシンポジウムにおける講演および教育指導、関係者会議出席	11月14日～22日	学芸部特任研究員　臺信祐爾
62	第35回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会	第35回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会特別講演講師	11月16日	館長　島谷弘幸
63	東京文化財研究所	文化財情報資料部第9回研究会でのコメンテーター、討議参加および打合せ	11月21日	学芸部企画課特別展室長　原田あゆみ
64	宇佐市平和ミュージアム（仮称）建設準備委員会	宇佐市平和ミュージアム（仮称）建設準備委員会における助言	11月24日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
65	別府市教育委員会	「湯けむり歴史講座」講師	11月30日	学芸部文化財課長　河野一隆
66	公益財団法人日本博物館協会	分科会司会	11月30日	館長　島谷弘幸
67	東京国立博物館	科学研究費助成事業に係る研究会出席	12月3日	館長　島谷弘幸
68	神奈川県立金沢文庫	連続講座「唐物と東アジアの海域交流」講師	12月9日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
69	美術史学会	美術史学会東支部大会におけるシンポジウム講師	12月10日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
70	白峰社	第35回記念白峰者書展審査	12月12日	館長　島谷弘幸
71	宮内庁	宮内庁三の丸尚三館収蔵品の保存・公開の在り方に関する有識者懇談会における助言	12月12日、30年3月12日	館長　島谷弘幸
72	文部科学省	平成29年度博物館学芸員専門講座講師	12月13日	館長　島谷弘幸
73	文部科学省	平成29年度博物館学芸員専門講座講師	12月13日	館長　島谷弘幸
74	岡山県古代吉備文化財センター	講演会講師	30年1月20日	学芸部文化財課長　河野一隆
75	大谷大学真宗総合研究所	パーリ語貝葉写本包み布に関する調査	30年1月21日～23日	学芸部企画課特別展室長　原田あゆみ

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
76	愛知県陶磁美術館	愛知県陶磁美術館資料委員会における助言	30年1月22日	副館長　伊藤嘉章
77	公益財団法人　根津美術館	講演会講師	30年1月27日～28日	学芸部文化財課主任研究員 山下善也
78	国立歴史民俗博物館	共同研究研究会及び打ち合わせ	30年1月27日～28日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
79	東京国立博物館	法隆寺献納宝物に関する調査	30年1月29日～30日	学芸部企画課文化交流展室 主任研究員　森實久美子
80	独立行政法人国際協力機構	2017年度トルコ国別研修「博物館及び文化財の自然災害からの保護に係る能力開発」コースに係る研修講師	30年2月5日	学芸部長兼企画課長 小泉惠英
81	独立行政法人国際協力機構	2017年度トルコ国別研修「博物館及び文化財の自然災害からの保護に係る能力開発」コースに係る研修講師	30年2月5日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　萬納恵介
82	独立行政法人国際協力機構	2017年度トルコ国別研修「博物館及び文化財の自然災害からの保護に係る能力開発」コースに係る研修講師	30年2月6日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
83	独立行政法人国際協力機構	2017年度トルコ国別研修「博物館及び文化財の自然災害からの保護に係る能力開発」コースに係る研修講師	30年2月6日	学芸部博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史
84	独立行政法人国際協力機構	2017年度トルコ国別研修「博物館及び文化財の自然災害からの保護に係る能力開発」コースに係る研修講師	30年2月6日	学芸部博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子
85	独立行政法人国際協力機構	2017年度トルコ国別研修「博物館及び文化財の自然災害からの保護に係る能力開発」コースに係る研修講師	30年2月6日	総務課主任　白水康雄
86	全国美術館会議	第50回全国美術館会議保存研究部会会合における講演	30年2月9日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
87	文化庁	水中遺跡調査検討委員会に関する協力者会議における助言	30年2月9日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
88	国立民族学博物館	共同研究会への出席	30年2月18日～19日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
89	公益財団法人九州経済調査協会	セミナー講師	30年2月20日	学芸部文化財課資料登録室長　丸山猶計
90	福岡県立美術館協議会	福岡県立美術館協議会における助言	30年2月22日	学芸部長兼企画課長 小泉惠英
91	公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団	企画展の準備や広報計画等の取組みに係る研修会講師	30年2月23日	学芸部長兼企画課長 小泉惠英
92	公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団	平成29年度事業評価委員会における助言	30年2月23日	学芸部長兼企画課長 小泉惠英
93	公益財団法人　田部美術館	第35回田部美術館大賞「茶の湯の造形展」審査	30年2月24日～25日	副館長　伊藤嘉章
94	国立歴史民俗博物館	平成29年度資料保存環境検討委員会における助言	30年2月26日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
95	文化庁	文化審議会文化財分科会第一専門調査会における助言	30年2月28日～3月2日	副館長　伊藤嘉章
96	一般社団法人学士会	講演会講師	30年3月3日	館長　島谷弘幸
97	可児市教育委員会	大萱古窯跡群調査・保存・整備指導委員会における助言	30年3月3日	副館長　伊藤嘉章
98	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究（特別調査会「工芸」）出席	30年3月6日～7日	学芸部文化財課資料登録室研究員　望月規史
99	対馬市	博物館整備事業における講演会講師	30年3月9日～10日	館長　島谷弘幸
100	周南市教育委員会	周南市文化財審議会における助言等	30年3月13日	学芸部文化財課資料登録室研究員　望月規史
101	岡田美術館	講演会講師	30年3月18日	副館長　伊藤嘉章
102	文化庁	キトラ古墳壁画及び国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開に係る運営・実施事業に関する企画案選定委員会選定委員	30年3月22日～31日	学芸部博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子
103	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究（特別調査会「絵画」）出席	30年3月25日～26日	学芸部企画課文化交流展室 主任研究員　森實久美子
104	文化庁	第7回カルコン美術対話委員会出席	30年3月26日～27日	館長　島谷弘幸
105	熊本博物館	熊本博物館協議会における助言	30年3月27日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか

2 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業の実施

2-(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

2-(1)-1 調査研究テーマ一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-②

2-(1)-2 学会、研究会等発表実績一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-③

2-(1)-3 論文等発表実績一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑤

2-(1)-4 調査研究刊行物一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑥

2-(1)-5 科学研究費助成事業による調査研究 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑦

2-(1)-6 客員研究員一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑧

2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

2-(2)-1 調査研究テーマ一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-②

2-(2)-2 学会、研究会等発表実績一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-③

2-(2)-3 論文等発表実績一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑤

2-(2)-4 調査研究刊行物一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑥

2-(2)-5 科学研究費助成事業による調査研究 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑦

2-(2)-6 客員研究員一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑧

2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働

2-(3)-① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進

2-(3)-①-1 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況
（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数、諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の満足度）

平成30年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
5件	2件	3件

【東京文化財研究所】2件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数（日）	回数（回）	満足度（%）	備考
1	アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業：研修、ワークショップ	4月17日～19日	イラン文化遺産手工芸観光庁等、文化財保存専門家	3	3	-	
		10月29日～11月5日	イラン国立博物館及びイラン文化遺産観光研究所、文化財保存専門家	8			
		9月11～20日	アルメニア・染織文化遺産保存修復専門家	10			
2	国際研修「紙の保存と修復」：日本国内研修	8月28日～9月15日	文化遺産保護の学芸員及び保存修復専門家	19	1	100	

【奈良文化財研究所】3件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数	回数	満足度（%）	適用
1	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2017（集団研修）「木造建造物の保存と修復」	8月29日～9月28日	アジア太平洋地域の政府機関、大学、研究所などに勤務し、文化遺産の管理、保護、修復に携わっているもの	31	1	―	
2	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2017（個別テーマ研修）「博物館等における文化財の保存と活用」	10月10日～11月3日	フィジー、パプアニューギニア、ソロモン諸島の専門家	25	1	―	
3	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する「文化遺産ワークショップ」（ネパールで開催）	11月15日～20日	ネパール人の専門家	6	1	―	

2-(3)-①-2 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数）

【東京文化財研究所】1件

	名称	機関名	備考
1	陶磁器資料館（ドイツ）所蔵　染付蒔絵鳥籠装飾広口大瓶の修復方法に関する共同研究	ドレスデン国立美術館	

【奈良文化財研究所】　3件

	名称	機関名	備考
1	「日本考古学の国際的研究推進事業」の実施に関する協定	英国セインズベリー日本藝術研究所	
2	友好共同研究議定書	中国社会科学院考古研究所	
3	友好共同研究の協定書	中国遼寧省文物考古研究所	

2-(3)-② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究

2-(3)-②-1 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（刊行物件数）

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-2 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際会議等開催件数）

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】3件　　平成30年3月31日現在

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数（日間）	回数（回）	摘要
1	国際シンポジウム「無形文化遺産をグローカルに見る―地域社会と研究者、国家、ユネスコの相互作用―」 International Symposium on Glocal Perspectives on Intangible Cultural Heritage: Local Communities, Researchers, States and UNESCO	7月7日～9日	専門家 研究者 一般	3日	1回	文化庁受託経費
2	国際シンポジウム2017「無形文化遺産をめぐる交渉」 International Symposium "Negotiating Intangible Cultural Heritage"	11月29日 ～12月1日	専門家 研究者 一般	3日	1回	文化庁受託経費
3	第六回アジア太平洋無形文化遺産研究センター運営理事会 The Sixth Governing Board Meeting of IRCI	12月22日	IRCI運営理事	1日	1回	文化庁受託経費

2-(3)-②-3　研究交流実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-①

2-(3)-②-4　調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

2-(3)-②-5　学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

2-(3)-②-6　シンポジウム開催実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

2-(3)-②-7　論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

2-(3)-②-8　調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-9　ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載）◎共通資料d

2-(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

2-(4)-① 文化財情報基盤の整備・充実

2-(4)-①-1 図書、雑誌等の公開に関する取組状況

平成30年3月31日

		東京文化財研究所			奈良文化財研究所		
資料閲覧室・図書資料室の開室日数(日)		137日			183日		
資料閲覧室・図書資料室の利用者数(人)		931人			380人		
		28年度末	29年度追加	29年度末	28年度末	29年度追加	29年度末
文化財に関する資料・図書の受入件総数(件)	図書	114,509件	3,187件	117,696件	355,353件	4,231件	359,584件
	雑誌	158,763件	3,846件	162,609件	93,623件	3,068件	96,691件
	その他(図録・報告書等)	36,348件	1,374件	37,722件	5,922件	4,056件	9,978件
	計	309,620件	8,407件	318,027件	454,898件	11,355件	466,253件

＊奈良文化財研究所においては、図録・報告書等は図書に含む。

2-(4)-①-2 文化財に関するデータベースの状況

平成30年3月31日

	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
文化財に関するデータベースの公開件数(件)	26件	31件
データベースのデータ件数(件)	1,233,111件	1,417,962件
データベース等へのアクセス件数(件)	1,643,823件	10,149,058件
(ホームページへのアクセス件数(件))	3,337,734件	10,887,187件

2-(4)-② 調査研究成果の発信

2-(4)-②-1 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

2-(4)-②-2 講演会等の開催実績

平成30年3月31日

【東京文化財研究所】　5件　357人

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数（人）	備考
1	第５１回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」	11月2～3日	東京文化財研究所	東京文化財研究所	美術史研究の成果を一般に公表する講座を開催した。	225人	
2	第１２回無形民俗文化財研究協議会「無形文化遺産への道―ユネスコ無形文化遺産条約と地域の遺産―」	12月18日	東京文化財研究所	東京文化財研究所	ユネスコ無形文化遺産に関する研究協議会を開催した。	132人	

【奈良文化財研究所】　19件　4,440人

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数（人）	備考
1	平城宮東院地区の発掘調査(平城第584 次）現地見学会	5月21日	奈良市法華寺町685 ほか発掘調査現場	奈良文化財研究所	平城宮東院地区の発掘調査(平城第584 次）の現地見学会を開催した。	519人	
2	東大寺東塔院跡発掘現場説明会	10月7日	東大寺東塔院跡発掘現場	史跡東大寺旧境内発掘調査団 （東大寺･奈良県立橿原考古学研究所･奈良文化財研究所）	東大寺東塔院跡発掘現場説明会を開催した。	801人	
3	平城宮東院地区の発掘調査(平城第593 次）現地説明会	12月23日	奈良市法華寺町685 ほか発掘調査現場	奈良文化財研究所	平城宮東院地区の発掘調査(平城第593 次）の現地説明会を開催した。	823人	
4	藤原宮大極殿院の発掘調査（飛鳥藤原第195次）現地見学会	30年3月3日	橿原市高殿町	奈良文化財研究所	藤原宮大極殿院の発掘調査（飛鳥藤原第195次）現地見学会を開催した。	645人	
5	飛鳥資料館の春期特別展記念講演会「藤原京の役所を探る」	6月10日	飛鳥資料館	奈良文化財研究所	藤原京の発掘調査のうち、左京六条三坊の調査研究成果を展示し、藤原京の役所について講演した。	64人	
6	第120回公開講演会	6月17日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所	一般の方々を対象に、奈良文化財研究所の調査研究成果について、講演を行った。	195人	
7	第9回東京講演会「デジタル技術で魅せる文化財」	10月7日	有楽町朝日ホール	奈良文化財研究所	東京で、奈良文化財研究所の調査研究についての講演会を開催した。	340人	
8	秋期特別展記念講演会「高松塚古墳の構築技術を解明する」	10月28日	飛鳥資料館	奈良文化財研究所	奈文研が関わった石室解体事業とその後の10年を振り返る展示をし、高松塚古墳の構築技術について講演した。	70人	
9	第121回公開講演会	11月11日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所	一般の方々を対象に、奈良文化財研究所の調査研究成果について、講演を行った。	154人	
10	第1 回 報告書データベース作成に関する説明会	9月29日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所	全国遺跡報告総覧の実務について、地方公共団体およびその関係機関、法人等調査組織、大学等の埋蔵文化財担当職員等を対象に行った。	55人	
11	第21回古代官衙・集落研究集会	12月8日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所	地方官衙政庁域の変遷と特質について、地方公共団体職員・大学教員等の研究者を対象として行った。	144人	

12	第9回文化的景観研究集会	12月9日～10日	京都府立大学・大学会館（9日） 滋賀県東近江市と近江八幡市（10日）	奈良文化財研究所	「地域らしさを支える土木　―文化的景観における公共事業の整え方―」について開催した	105人	
13	第2回 報告書データベース作成に関する説明会	12月20日	国立大学法人東北大学(川内キャンパス)文科系総合講義棟　法学部第2講義室	奈良文化財研究所	全国遺跡報告総覧の実務について、地方公共団体およびその関係機関、法人等調査組織、大学等の埋蔵文化財担当職員等を対象に行った。	50人	
14	遺跡整備・活用研究集会	12月22日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所	史跡等を活かした地域づくり・観光振興について史跡等の整備・活用に携わっている地方公共団体職員・関係者、大学所属の研究者等を対象に行った。	77人	
15	第3回 報告書データベース作成に関する説明会	30年1月23日	岡山大学創立五十周年記念館金光ホール	奈良文化財研究所	全国遺跡報告総覧の実務について、地方公共団体およびその関係機関、法人等調査組織、大学等の埋蔵文化財担当職員等を対象に行った。	30人	
16	第4回 報告書データベース作成に関する説明会	30年2月2日	福岡市博物館講座室1	奈良文化財研究所	全国遺跡報告総覧の実務について、地方公共団体およびその関係機関、法人等調査組織、大学等の埋蔵文化財担当職員等を対象に行った。	55人	
17	第18 回古代瓦研究会シンポジウム	30年2月3日～4日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所	８世紀の瓦づくりⅧ　―一本づくり・一枚づくりの展開１－について、地方公共団体職員・大学教員、学生等の研究者を対象に行った。	141人	
18	第5 回 報告書データベース作成に関する説明会	30年2月20日	東京文化財研究所　セミナー室	奈良文化財研究所	全国遺跡報告総覧の実務について、地方公共団体およびその関係機関、法人等調査組織、大学等の埋蔵文化財担当職員等を対象に行った。	70人	
19	保存科学研究集会2017「金属製遺物の調査・研究に関する最近の動向」	30年3月9日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所	金属製遺物の調査・研究に関する最近の動向について、国・地方公共団体もしくはそれに準ずる団体に所属する文化財担当職員および日本文化財科学会あるいは文化財保存修復学会の会員を対象に行った。	102人	

2-(4)-②-3 シンポジウム開催実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

2-(4)-②-4 ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載）◎共通資料d

2-(4)-②-5 学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数

平成30年3月31日

	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数（件）	3,454件	61,861件

2-(4)-③ 展示公開施設の充実

2-(4)-③-1 来館者数推移（入館料別）（過去５ヵ年）（後述の資料に記載）◎共通資料a-①

2-(4)-③-2 来館者数推移（展覧会別）（過去５ヵ年）（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

2-(4)-③-3 平常展・特別展・海外展　（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

2-(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
2-(5)-① 文化財に関する研修の実施
2-(5)-①-1 文化財に関する研修の実施実績

【東京文化財研究所】　　1件　　受講者 31人

No.	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数（人）	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修	7月10日～7月21日	9	博物館・美術館等の文化財の保存担当者	文化財の保存科学の基礎と実践上の諸問題についての講義と実習	31人	100%	100%	その他（保存担当学芸員フォローアップ研修、6月16日、85名）

【奈良文化財研究所】　　14件　　受講者 178人

No.	研修課程	研修期間	日数（日）	研修対象※	研修内容	参加者数（人）	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	建築遺構調査課程	6月12日～6月16日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	発掘調査で検出される建築遺構や出土建築部材に関して必要な上部構造の専門的知識や発掘方法などについての研修。	7人	100%	100%	
2	建造物保存活用基礎課程	6月19日～6月23日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財建造物の保護行政をおこなうための文化財建造物に関する基礎、および文化財建造物の保存・活用に関する基礎の習得を目指す研修。	21人	100%	100%	
3	出土品管理・活用課程	7月10日～7月14日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	発掘調査報告書公刊後に求められる、出土品の有効かつ効率的な管理から活用、展示に関しての基礎的な研修。特に、美術工芸品とは一線を画す出土品の展示に主眼を置きたい。	22人	100%	100%	
4	災害痕跡調査課程	7月24日～7月28日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	地震、津波、火山などの災害痕跡を理解するための専門的知識と調査方法を取得することを目的とした研修。	5人	100%	100%	
5	遺跡情報記録調査課程	9月12日～9月15日	4	地方公共団体の文化財担当職員※	遺跡・遺物の正確な記録とその保存活用手法として、GISやデータベースの利用、遺跡情報の公開に関する知識の取得を目指す研修。	8人	100%	100%	
6	文化的景観整備活用課程	9月20日～9月22日	3	地方公共団体の文化財担当職員※	文化的景観の保護に取り組んでいる担当者を対象とし、文化的景観の整備活用に必要な知識を習得することを目的とする研修。	6人	100%	100%	
7	三次元計測課程	9月25日～9月29日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	三次元計測の利用に関して必要な専門知識と技術の習得を目指した研修。	14人	100%	100%	
8	保存科学Ⅱ（有機質遺物）課程	10月10日～10月18日	7	地方公共団体の文化財担当職員※	出土有機質遺物の一時保管方法から保存処理方法についての基礎的な研修。	6人	100%	100%	
9	古代・中近世瓦調査課程	11月13日～11月17日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	古代・中近世遺跡出土瓦の調査研究に関して必要な専門知識と技術の研修。	10人	100%	100%	
10	文化財写真課程	11月27日～12月7日	9	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財の記録の中核をなす記録写真撮影について、様々な文化財写真分野の基礎知識と、デジタル写真を中心とした実習による実技を習得できる研修。	18人	100%	100%	

11	報告書編集基礎課程	12月7日 ～12月14日	6	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財調査記録に必要不可欠な報告書出版について、記述内容の意義や記述記録の基礎知識を習得するための研修。	20人	100%	100%	
12	報告書デジタル作成課程	12月14日 ～12月21日	6	地方公共団体の文化財担当職員※	報告書出版に必要な編集やコンテンツ制作の技術について、デジタル編集を中心に据えた実習で、技術を習得することを目的とした研修。	15人	100%	100%	
13	名勝保存活用基礎課程	H30年1月15日 ～1月19日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	名勝の概念、調査、保存管理、修理、整備、庭園史等について、基本的な考え方から実務に至る基礎知識を習得することを目的とする研修。	11人	100%	100%	
14	保存科学Ⅲ（応急処置）課程	H30年2月13日 ～2月16日	4	地方公共団体の文化財担当職員※	脆弱遺物の取り上げ方法から、保存処理までの一時保管方法についての基礎的な研修。	15人	100%	100%	

※地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者

【文化財防災ネットワーク推進本部】 4件　　受講者 132人

No.	研修課程	研修期間	日数（日）	研修対象	研修内容	参加者数（人）	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	文化財等防災ネットワーク研修	29年10月31日～11月1日	2	地方自治体担当者等	1日目：「これからの文化財防災」「水損紙資料の微生物被害と応急処置」等の講義。 2日目：水損紙資料の応急処置についての実習を中心とした実践的な内容と、全体ディスカッションで構成した研修。	16人	－	－	会場：奈良文化財研究所
2	水損資料応急処置ワークショップ	30年2月14日 ～2月15日	2	地方自治体担当者等	平成29年夏の九州北部豪雨災害により生じた水損資料の安定化処置を進めていくにあたっての、水損資料応急処置・安定化処置についての講義と実習。	31人	－	－	会場：九州歴史資料館
3	平成29年度文化財防災ネットワーク事業研修会「災害時への備えとしての環境モニタリング」	30年2月19日 ～2月19日	1	博物館等文化財保存施設の学芸員	博物館等文化財保存施設において、災害発生時、またその後の資料保全に必要な環境管理等に関する事項の習得を目的とした研修。	19人	－	－	会場：東京文化財研究所
4	うきは市文化財サポーター育成講座	29年10月16日～30年3月5日	6	うきは市民等	福岡県うきは市と登録有形文化財河北家住宅所蔵の動産文化財を対象に、市民と協働した地域歴史遺産保全活動モデルの構築のために、平時における悉皆調査方法を実践で学ぶことを目指した講座。	66人	－	－	会場：うきは市民ホール他 全6回。参加者数は延べ人数

2-(5)-② 文化財に関する協力・助言等

2-(5)-②-1 専門的・技術的な援助・助言の取組状況
（行政、公私立博物館等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

平成30年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
1,031件	678件	353件

【東京文化財研究所】　678件

	プロジェクト名称	件数
1	文化財の収集、保管に関する指導助言	19件
2	無形文化遺産に関する助言	22件
3	文化財の虫菌害に関する調査・助言	42件
4	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	60件
5	文化財の材質・構造に関する調査・助言	14件
6	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	521件

【奈良文化財研究所】　353件

	プロジェクト名称	件数
1	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	47件
2	地方公共団体等が行う平城京域発掘調査等への協力・援助	9件
3	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	238件
4	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	59件

2-(5)-③　平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

2-(5)-③-1　ボランティア受入実績　（後述の資料に記載）◎共通資料b

2-(5)-⑤　文化財等の防災・救援等への寄与

2-(5)-⑤-1　研究交流実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-①1）・3）

2-(5)-⑤-2　シンポジウム開催実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-④

2-(5)-⑤-3　ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載）　◎共通資料d

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務改善の取組

1-(5)一般管理費の削減

1-(5)-① 施設の有効利用件数

平成30年3月31日現在

○件数

（単位：件）

		国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
			計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	総件数	1,926	1,379	866	122	111	280	547	200	347
	うち有償	827	782	581	86	19	96	45	10	35
	うち無償	1,099	597	285	36	92	184	502	190	312
茶室	総件数	184	184	131	22	6	25			
	うち有償	127	127	86	21	5	15			
	うち無償	57	57	45	1	1	10			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	総件数	1,178	651	385	57	29	180	527	200	327
	うち有償	284	256	145	28	6	77	28	10	18
	うち無償	894	395	240	29	23	103	499	190	309
その他（左記以外の建物、敷地）	総件数	172	152	14	11	68	59	20	0	20
	うち有償	44	27	14	5	8	0	17	0	17
	うち無償	128	125	0	6	60	59	3	0	3
撮影利用	総件数	392	392	336	32	8	16	0	0	0
	うち有償	372	372	336	32	0	4	0	0	0
	うち無償	20	20	0	0	8	12	0	0	0

○有償利用の利用金額

（単位：千円）

	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	98,945	93,853	81,717	10,518	896	722	5,092	324	4,768
茶室	6,433	6,433	5,650	492	153	138			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	10,017	8,921	7,125	1,188	45	563	1,096	324	772
その他（左記以外の建物、敷地）	55,441	51,445	43,077	7,670	698	0	3,996	0	3,996
撮影利用	27,054	27,054	25,865	1,168	0	21	0	0	0

※アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、堺市博物館の施設の一部を使用しているため、外部利用は行っていない。

◎共通資料
a 展示

a-① 来館者数推移（入館料別）（過去5ヵ年）

平成30年3月31日現在

年度				25	26	27	28	29
国立文化財機構	総来館者数			2,818,511	3,890,178	4,146,847	3,810,178	4,875,133
	平常展	計		1,011,274	1,372,538	1,536,565	1,577,811	1,736,421
		有料	一般	373,417	522,569	636,504	653,711	778,185
			大学生	36,886	59,208	76,590	71,850	76,093
			小・中・高生	546	537	0	0	159
			友の会	89,509	123,720	139,076	152,643	185,553
		無料	一般(黒田含む)	47,371	85,285	107,574	108,272	107,824
			小・中・高・大生	166,233	165,340	176,248	183,375	206,900
		招待者等		297,312	415,879	400,573	407,960	381,707
	特別展	計		1,807,237	2,517,640	2,610,282	2,232,367	3,138,712
		有料	一般	1,132,319	1,670,944	1,678,816	1,404,313	2,049,172
			高・大生	66,814	93,348	113,109	76,242	105,410
			小・中生	23,243	22,149	34,820	31,337	29,312
			友の会	44,592	58,421	66,016	56,725	56,008
		無料	小・中生・一般	99,764	102,343	122,894	82,184	98,848
		招待者等		440,505	570,435	594,627	581,566	799,962
東京国立博物館	総来館者数			1,322,288	1,913,643	1,994,508	1,907,647	2,569,585
	平常展	計		484,429	587,528	747,944	761,709	1,030,180
		有料	一般	250,330	269,639	383,579	381,817	525,037
			大学生	26,117	31,324	42,528	41,159	48,052
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	77,771	96,297	108,147	119,573	160,739
		無料	高校生	18,844	20,345	27,108	24,623	32,714
			小・中生	41,197	50,040	52,386	55,176	70,686
		招待者等		70,170	95,280	87,619	101,677	143,888
		黒田記念館(無料)		—	24,603	46,577	37,684	49,064
	特別展	計		837,859	1,326,115	1,246,564	1,145,938	1,539,405
		有料	一般	561,236	926,279	811,089	733,704	995,261
			高・大生	29,955	51,690	61,790	36,115	41,210
			小・中生	—	—	—	—	—
			友の会	9,585	12,920	11,889	10,714	11,684
		無料	小・中生	14,715	31,503	51,547	26,992	20,051
		招待者等		222,368	303,723	310,249	338,413	471,199
京都国立博物館	総来館者数			148,429	539,134	653,336	384,340	941,931
	平常展	計		—	265,791	205,526	186,162	136,862
		有料	一般	—	147,106	124,229	110,054	80,789
			大学生	—	16,801	21,478	14,192	12,016
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	—	12,764	15,234	15,248	9,341
		無料	高校生	—	11,137	15,261	10,773	13,069
			小・中生	—	—	—	—	—
		招待者等		—	77,983	29,324	35,895	21,647
	庭園開放	計		—	—	1,699	11,417	15,676
		有料	一般	—	—	825	5,572	8,082
			大学生	—	—	—	—	—
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	—	—	93	635	505
		無料	大学生	—	—	56	1,040	436
			高校生	—	—	235	2,117	2,777
			小・中生	—	—	—	—	—
		招待者等		—	—	490	2,053	3,876
	特別展	計		148,429	273,343	446,111	186,761	789,393
		有料	一般	76,358	190,015	306,503	109,451	579,728
			高・大生	10,734	14,231	18,021	8,885	31,654
			小・中生	3,224	1,683	—	—	—
			友の会	9,174	11,978	19,001	10,511	13,192
		無料	小・中生	1,471	4,571	7,803	7,233	17,566
		招待者等		47,468	50,865	94,783	50,681	147,253
奈良国立博物館	総来館者数			461,690	476,993	455,859	449,322	549,211
	平常展	計		122,075	92,147	95,208	145,676	135,776
		有料	一般	44,307	31,433	30,165	63,886	60,294
			大学生	3,967	3,519	3,204	7,431	6,518
			小・中・高生	546	537	0	0	159
			友の会	2,703	3,344	3,957	5,290	4,250
		無料	小・中・高生	39,249	20,933	18,221	31,133	28,257
		招待者等		31,303	32,381	39,661	37,936	36,298
	特別展	計		339,615	384,846	360,651	303,646	413,435
		有料	一般	258,597	273,574	267,663	219,776	298,133
			高・大生	13,756	13,403	13,852	12,674	17,109
			小・中生	7,622	9,208	9,843	7,685	11,792
			友の会	11,206	14,443	16,265	15,750	16,058
		無料	小・中生	3,067	0	0	202	420
		招待者等		45,367	74,218	53,028	47,559	69,923
九州国立博物館	総来館者数			727,603	804,663	884,128	922,468	668,269
	平常展	計		349,848	357,362	412,621	393,590	350,848
		有料	一般	75,827	71,014	93,457	89,006	101,029
			大学生	6,571	7,251	9,072	8,766	9,253
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	9,035	11,315	11,645	11,897	10,718
		無料	高校生	26,305	22,494	26,765	23,788	22,730
			小・中生	38,785	38,507	34,381	33,435	34,789
		招待者等		193,325	206,781	237,301	226,698	172,329
	特別展	計		377,755	447,301	471,507	528,878	317,421
		有料	一般	224,247	271,895	283,603	333,172	168,511
			高・大生	11,482	13,249	18,463	17,722	14,820
			小・中生	12,397	11,258	24,977	23,652	17,520
			友の会	14,627	19,080	18,861	19,750	15,074
		招待者等		115,002	131,819	125,603	134,582	101,496
平城宮跡資料館	総来館者数			108,896	109,188	105,334	102,053	104,279
	平常展	無料	一般	39,502	52,221	50,064	62,210	50,598
	特別展	無料	一般	69,394	56,967	55,270	39,843	53,681
藤原宮跡資料館	総来館者数			7,869	8,461	10,933	8,378	8,162
	平常展	無料	一般	7,869	8,461	10,933	8,378	8,162
飛鳥資料館	総来館者数			41,736	38,096	42,749	35,970	33,696
	平常展	計		7,551	9,028	12,570	8,669	8,319
		有料	一般	2,953	3,377	4,249	3,376	2,954
			大学生	231	313	308	302	254
		無料	小・中・高生	1,853	1,884	1,835	1,290	1,442
		招待者等		2,514	3,454	6,178	3,701	3,669
	特別展	計		34,185	29,068	30,179	27,301	25,377
		有料	一般	11,881	9,181	9,958	8,210	7,539
			大学生	887	775	983	846	617
		無料	小・中・高生	11,117	9,302	8,274	7,914	7,130
		招待者等		10,300	9,810	10,964	10,331	10,091

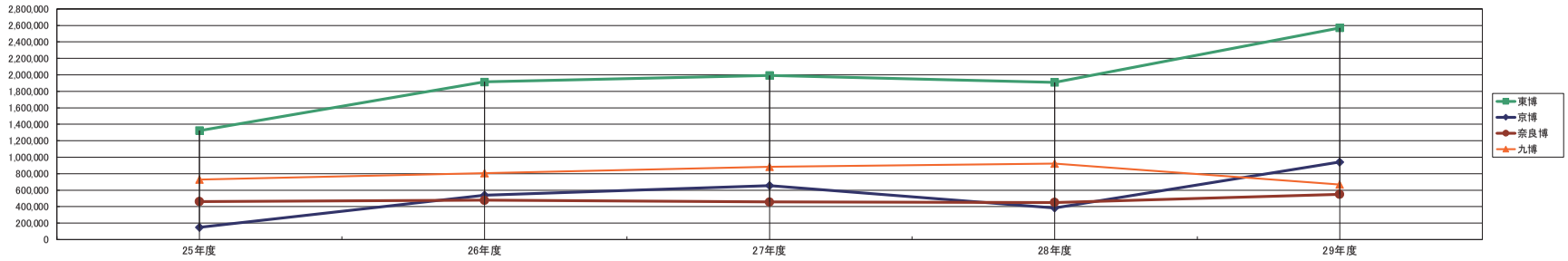
※飛鳥資料館特別展有料高校生入場者数は、ｷﾄﾗ公開(25)のみ有料(大学生)に含み、それ以外は無料(小・中・高生)に含む。
※京都国立博物館における平常展、庭園開放については高校生以下の区別せず。
※京都国立博物館における庭園開放は、平常展に含む。

独立行政法人国立文化財機構　展覧会別来館者数（25～29年度）

国立文化財機構　合計

	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度	
合計	総　合　計	2,818,511	総　合　計	3,890,178	総　合　計	4,146,847	総　合　計	3,810,178	総　合　計	4,875,133
	平常展のみの来館者	1,011,274	平常展のみの来館者	1,372,538	平常展のみの来館者	1,536,565	平常展のみの来館者	1,577,811	平常展のみの来館者	1,736,421
	特別（共催）展計	1,807,237	特別（共催）展計	2,517,640	特別（共催）展計	2,610,282	特別（共催）展計	2,232,367	特別（共催）展計	3,138,712

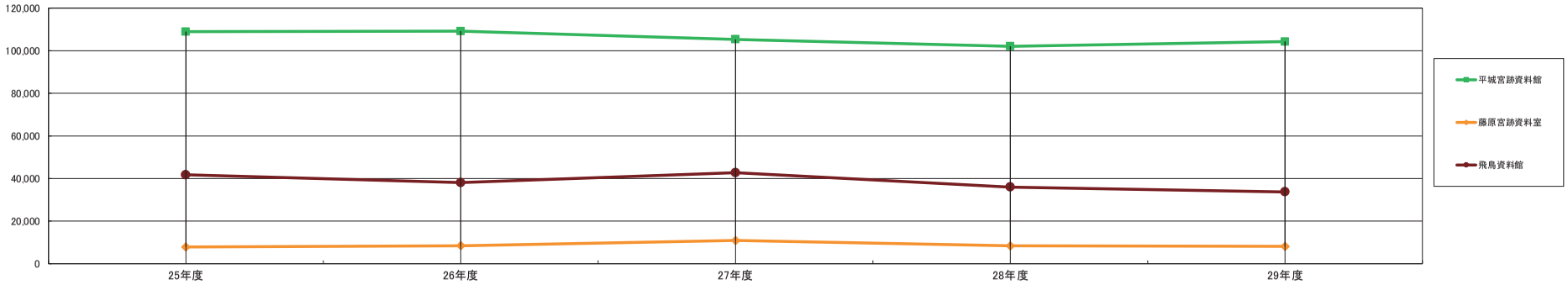
1）国立博物館



	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度	
計	総　　計	2,660,010	総　　計	3,734,433	総　　計	3,987,831	総　　計	3,663,777	総　　計	4,729,996
	平常展のみの来館者	956,352	平常展のみの来館者	1,302,828	平常展のみの来館者	1,462,998	平常展のみの来館者	1,498,554	平常展のみの来館者	1,669,342
	特別（共催）展計	1,703,658	特別（共催）展計	2,431,605	特別（共催）展計	2,524,833	特別（共催）展計	2,165,223	特別（共催）展計	3,059,654
東博	総計（黒田記念館含む）	1,322,288	総計（黒田記念館含む）	1,913,643	総計（黒田記念館含む）	1,994,508	総計（黒田記念館含む）	1,907,647	総計（黒田記念館含む）	2,569,585
	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	484,429	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	587,528	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	747,944	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	761,709	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	1,030,180
	特別（共催）展計	837,859	特別（共催）展計	1,326,115	特別（共催）展計	1,246,564	特別（共催）展計	1,145,938	特別（共催）展計	1,539,405
	特別展「飛驒の円空」	20,544	特別展「栄西と建仁寺」	229,994	特別展「みちのくの仏像」	16,573	特別展「生誕150年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」	157,589	特別展「茶の湯」	245,795
	特別展「国宝　大神社展」	193,990	特別展「キトラ古墳壁画」	119,268	コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流	72,344	特別公開「国宝土偶 縄文の女神」	※2　－	日タイ修好130周年記念特別展「タイ ～仏の国の輝き～」	116,100
	特別展「和様の書」	104,577	特別展「台北　國立故宮博物院－神品至宝－」	402,241	特別展「鳥獣戯画―京都　高山寺の至宝」	239,115	特別展「黄金のアフガニスタン ―守り抜かれたシルクロードの秘宝―」	154,875	「フランス人間国宝展」	70,192
	特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」	※1 (62,378)	2014年日中韓国立博物館合同企画特別展「東アジアの華　陶磁名品展」	※1(65,075)	「クレオパトラとエジプトの王妃展」	267,959	日韓国交正常化50周年記念　特別展「ほほえみの御仏―二つの半跏思惟像―」	78,562	興福寺中金堂再建記念特別展「運慶」	600,439
	特別展「京都－洛中洛外図と障壁画の美」	278,801	「日本国宝展」	386,708	アート オブ ブルガリ１３０年にわたるイタリアの美の至宝　THE ART OF BVLGARI. 130 YEARS OF ITALIAN　MASTERPIECES	142,000	特別展「古代ギリシャ展―時空を超えた旅―」	199,567	特別展「仁和寺と御室派のみほとけ-天平と真言密教の名宝-」	324,042
	特別展「クリーブランド美術館展 ―名画でたどる日本の美」	104,865	特別展「みちのくの仏像」	162,948	特別展「始皇帝と大兵馬俑」	483,809	特別展「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」	212,144	「アラビアの道－サウジアラビア王国の至宝」（3月31日現在）	182,837
	特別展「人間国宝展　-生み出された美、伝えゆくわざ-」	112,960	特別展「3.11大津波と文化財の再生」	※2　－	特別展「生誕150年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」	24,764	臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念　特別展「禅―心をかたちに」	133,629		
	特別展「支倉常長像と南蛮美術－400年前の日欧交流－」	※2　－	コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流	24,956	特別公開「国宝土偶 縄文の女神」	※2　－	特別展「春日大社－千年の至宝」	209,572		
	特別展「栄西と建仁寺」	22,122								
京博	総　　計	148,429	総　　計	539,134	総　　計	653,336	総　　計	384,340	総　　計	941,931
	平常展のみの来館者	0	平常展のみの来館者	265,791	平常展のみの来館者	205,526	平常展のみの来館者	186,162	平常展のみの来館者	136,862
					庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	1,699	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	11,417	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	15,676
	特別（共催）展計	148,429	特別（共催）展計	273,343	特別（共催）展計	446,111	特別（共催）展計	186,761	特別（共催）展計	789,393
	特別展「狩野山楽・山雪」	85,841	特別展「南山城の古寺巡礼」	69,443	特別展覧会　「桃山時代の狩野派－永徳の後継者たち－」	118,186	臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念　特別展覧会「禅－心をかたちに－」	88,228	開館120周年記念　特別展覧会「海北友松」	164,900
	特別展観「遊び」	23,659	特別展「修理完成記念 国宝 鳥獣戯画と高山寺」	203,900	特別展観　第100回大蔵会記念 仏法東漸－仏教の典籍と美術－※３	34,696	特別展覧会　没後150年「坂本龍馬」	98,533	開館120周年記念　特別展覧会「国宝」	624,493
	特別展「魅惑の清朝陶磁」	38,929			琳派誕生四〇〇年記念 特別展覧会「琳派　京を彩る」	327,925				
奈良博	総　　計	461,690	総　　計	476,993	総　　計	455,859	総　　計	449,322	総　　計	549,211
	平常展のみの来館者	122,075	平常展のみの来館者	92,147	平常展のみの来館者	95,208	平常展のみの来館者	145,676	平常展のみの来館者	135,776
	特別（共催）展計	339,615	特別（共催）展計	384,846	特別（共催）展計	360,651	特別（共催）展計	303,646	特別（共催）展計	413,435
	特別展「當麻寺　－極楽浄土へのあこがれ－」	54,114	特別展　「武家のみやこ　鎌倉の仏像－追真とエキゾチシズム－」	37,022	特別展「まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展」	10,561	特別展「国宝　信貴山縁起絵巻－朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝－」	55,198	特別展「快慶」	123,842
	特別展「みほとけのかたち～仏像に会う」	39,232	特別展「国宝　醍醐寺のすべて　－密教のほとけと聖教－」	78,476	開館120年記念特別展「白鳳－花ひらく仏教美術－」	128,901	生誕800年記念特別展「忍性　－救済に捧げた生涯－」	39,834	1000年忌特別展「源信　地獄・極楽への扉」	72,540
	特別展「第65回正倉院展」	246,269	特別展　「天皇皇后両陛下傘寿記念　第66回正倉院展」	269,348	特別展 第67回正倉院展	221,189	特別展 第68回正倉院展	208,614	特別展 第69回正倉院展	217,053
九博	総　　計	727,603	総　　計	804,663	総　　計	884,128	総　　計	922,468	総　　計	668,269
	平常展のみの来館者	349,848	平常展のみの来館者	357,362	平常展のみの来館者	412,621	平常展のみの来館者	393,590	平常展のみの来館者	350,848
	特別（共催）展計	377,755	特別（共催）展計	447,301	特別（共催）展計	471,507	特別（共催）展計	528,878	特別（共催）展計	317,421
	特別展「大ベトナム展」	71,192	特別展「華麗なる宮廷文化　近衛家の国宝　京都・陽明文庫展」	60,808	九州国立博物館開館10周年記念特別展「戦国大名―九州の群雄とアジアの波濤―」	77,455	特別展「始皇帝と大兵馬俑」	158,738	日タイ修好130周年記念特別展「タイ　～仏の国の輝き～」	56,314
	特別展「中国　王朝の至宝」	77,554	特別展「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美―」	70,794	九州国立博物館開館10周年記念特別展「大英博物館展　―100のモノが語る世界の歴史―　A History of the World in 100 Objects」	133,174	特別展「東山魁夷展　自然と人、そして町」	133,002	特別展「世界遺産 ラスコー展」	118,555
	特別展「尾張徳川家の至宝」	139,448	特別展「台北　國立故宮博物院－神品至宝－」	256,070	九州国立博物館開館10周年記念特別展「美の国日本」	160,753	特別展「京都 高山寺と明恵上人―特別公開 鳥獣戯画―」	161,172	特別展「新・桃山展―大航海時代の日本美術」	87,413
	特別展「国宝　大神社展」	89,561	特水城・大野城・基肄城築造1350年記念別展「古代日本と百済の交流―大宰府・飛鳥そして公州・扶餘―」/特別展「日本発掘－発掘された日本列島2014－」	59,629	九州国立博物館開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン－守り抜かれたシルクロードの秘宝－」	67,641	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」	75,966	特別展「王羲之と日本の書」（3月31日現在）	55,139
					特別展「始皇帝と大兵馬俑」	32,484				

※１　この特別展は、平常展料金のため、平常展のみの来館者に計上
※２　この特別展、特別公開の会場は平常展の一部で、別途カウントを行っていない。
※３　この特別展観は平常展の一部として開催しているため、特別展計には計上しない。

2）研究成果公開施設



	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度	
計	総　合　計	158,501	総　合　計	155,745	総　合　計	159,016	総　合　計	146,401	総　合　計	146,137
	平常展のみの来館者	54,922	平常展のみの来館者	69,710	平常展のみの来館者	73,567	平常展のみの来館者	79,257	平常展のみの来館者	67,079
	特別（共催）展計	103,579	特別（共催）展計	86,035	特別（共催）展計	85,449	特別（共催）展計	67,144	特別（共催）展計	79,058
平城宮跡資料館	総　計	108,896	総　計	109,188	総　計	105,334	総　計	102,053	総　計	104,279
	平常展のみの来館者	39,502	平常展のみの来館者	52,221	平常展のみの来館者	50,064	平常展のみの来館者	62,210	平常展のみの来館者	50,598
	特別（共催）展計	69,394	特別（共催）展計	56,967	特別（共催）展計	55,270	特別（共催）展計	39,843	特別（共催）展計	53,681
	春期企画展「発掘速報展　平城2012」	34,025	ロビー展示「震災復興調査とその支援」	※1ー	ロビー展示「震災復興調査とその支援」	※1ー	ロビー展示「震災復興調査とその支援」	※1-	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1-
	夏期企画展「平城京どうぶつえん」	18,616	夏期企画展「平城京ビックリはくらんかいー奈良の都のナンバーワンー」	17,712	夏のこども展示「平城京“ごみ”ずかん-ごみは宝-」	18,108	夏のこども展示「ナント！おいしい！？平城京！！ —奈良の都の食事情—」	9,532	平城宮跡資料館春期企画展「発掘速報展　平城2016」	927
	秋期特別展「地下の正倉院展 ー木簡学ことはじめ」／「平城宮跡発掘調査部設立50周年記念展」	16,753	秋期特別展「地下の正倉院展—木簡を科学する—」／「埋蔵文化財センターの40年」	19,281	秋期特別展「地下の正倉院展 造酒司木簡の世界」	16,830	秋期特別展「地下の正倉院展 式部省木簡の世界—役人の勤務評価と昇進—」	17,653	平城宮跡資料館 春期企画展「永野太造作品展—草創期の奈文研を支えた写真家—」	21,811
	ロビー展示「震災復興調査とその支援」	※1ー	ミニ展示「発掘速報展　平城2014」（第１期）	9,806	発掘速報ミニ企画展示第1期	10,003	平城宮跡資料館春期企画展「発掘速報展　平城2016」	12,658	夏のこども展示　「ナント！　すてきな！？　平城生活♪」	10,882
			ミニ展示「発掘速報展　平城2014」（第2期）	10,168	発掘速報ミニ企画展示第2期	10,329			秋期特別展「地下の正倉院展-国宝 平城宮跡出土木簡-」	14,841
									平城宮跡資料館ミニ展示「平城京の成」	5,220
藤原宮跡資料室	総　計	7,869	総　計	8,461	総　計	10,933	総　計	8,378	総　計	8,162
	平常展のみの来館者	7,869	平常展のみの来館者	8,461	平常展のみの来館者	10,933	平常展のみの来館者	8,378	平常展のみの来館者	8,162
	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0
飛鳥資料館	総　計	41,736	総　計	38,096	総　計	42,749	総　計	35,970	総　計	33,696
	平常展のみの来館者	7,551	平常展のみの来館者	9,028	平常展のみの来館者	12,570	平常展のみの来館者	8,669	平常展のみの来館者	8,319
	特別（共催）展計	34,185	特別（共催）展計	29,068	特別（共催）展計	30,179	特別（共催）展計	27,301	特別（共催）展計	25,377
	第3回写真コンテスト「神々の山　大和三山のある風景」	1,148	春期特別展「いにしえの匠たちーものづくりからみた飛鳥時代ー」	10,597	飛鳥資料館開館40周年　春期特別展「はじまりの御仏たち」	10,725	春期特別展「文化財を撮る—写真が遺す歴史—」	9,974	春期特別展「藤原京を掘る—藤原京一等地の調査—」	9,613
	春期企画展「飛鳥寺2013」	9,406	夏期企画展第５回写真コンテスト「飛鳥の甍」	3,505	飛鳥資料館開館40周年　夏期企画展　飛鳥資料館第6回写真コンテスト作品展「ひさかたの天(そら)ーいにしえの飛鳥を想ふー」	4,088	夏期企画展　飛鳥資料館第7回写真コンテスト作品展「飛鳥の石」	3,383	夏期企画展　飛鳥資料館第8回写真コンテスト作品展「飛鳥の路」	2,930
	5月～6月ロビーミニ展示※2	2,648	企画展「津田洋　大和の美仏に魅せられて」	2,716	秋期特別展 飛鳥資料館開館40周年　「キトラ古墳と天の科学」	12,862	秋期特別展　「祈りをこめた小塔」	9,373	秋期特別展「高松塚古墳を掘る-解明された構築過程-」	9,877
	夏期企画展「飛鳥・藤原京を考古科学する」	2,633	秋期特別展「はぎとり・きりとり・かたどり ー大地にきざまれた記憶ー」	9,592	冬期企画展「飛鳥の考古学2015-飛鳥の古墳調査最前線ー」	2,504	冬期企画展　「飛鳥の考古学2016-飛鳥むかしむかし早川和子原画展-」	4,571	冬期企画展「飛鳥の考古学2017」	2,957
	第4回写真コンテスト「飛鳥川の導」※3	2,313	冬期企画展「飛鳥の考古学2014 - 縄文・弥生・古墳から飛鳥へ - 」	2,658						
	ミニ企画展「日光男体山のかがやき-山岳信仰奉賽鏡の世界-」	1,046								
	秋期特別展「飛鳥・藤原京への道」	9,132								
	発見30周年記念　キトラ古墳壁画特別公開	4,008								
	冬期企画展示「飛鳥の考古学２０１３」	1,851								

※1　平常展の一部として実施
※2　「飛鳥寺2013」と同時開催期間は同展と一体でカウントのため、単独開催期間の来館者数2,648人のみ計上。なお、同時開催期間も含めた全期間の来館者数は10,473人
※3　「日光男体山のかがやき」と同時開催期間は同展と一体でカウントのため、単独開催期間の来館者数2,313人のみ計上。なお、同時開催期間も含めた期間の来館者数は3,359人

a-③ 平常展・特別展・海外展

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

①開館日数　312 日間（平常展のみの開館日数　81 日間）
②会　　場
(1)本　館　1階、2階
(2)東洋館　1階、2階、3階、4階、5階
(3)法隆寺宝物館　1階、2階
(4)平成館　1階
(5)黒田記念館
③展示総件数　10,223件（うち国宝425件、重要文化財1,023件）
(1)本館・平成館企画展示室　4,430件（うち国宝251件、重要文化財　462件）
(2)東洋館　2,932件（うち国宝　3件、重要文化財　72件）
(3)法隆寺宝物館　478件（うち国宝 17件、重要文化財　241件）
(4)平成館考古展示室　2,137件（うち国宝154件、重要文化財　233件）
(5)黒田記念館　246件（うち国宝 0件、重要文化財　15件）
④展示替件数　6,616 件　・　展示替回数　延べ 364 回
⑤入場料金
黒田記念館以外　一般620円、大学生410円
黒田記念館　無料
⑥特集　全28件（●国宝、◎重要文化財、〇重要美術品）

場所	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
本館 14 室	懐石のうつわ	4 月 18 日 ～ 5 月 21 日	40 件(重文 2 件)
＜主な作品＞ 網絵懐石道具、◎鼠志野鶺鴒文鉢、織部扇形蓋物、◎錆絵芦文大皿、古染付御所車図六角手付鉢			
茶事における懐石の席で出されるうつわを特集した展示。懐石は、茶事の食事の席として濃茶薄茶の前にふるまわれる。懐石のうつわは、陶磁器、漆器を中心に用いられ、各種の向付や椀、鉢、皿、徳利、酒盃などは客の舌だけでなく目でも料理を楽しませる。 この展示では、5 代中村宗哲による漆の懐石具一式と、茶の湯で愛玩されてきた陶磁器のうつわを紹介した。黄瀬戸、志野、織部といった美濃のものや唐津のもの、祥瑞、古染付といった中国への注文品などは、茶の湯が最盛期を迎えた安土桃山時代から江戸時代初期にかけて数多く作られ、今日もなお私たちを魅了する。同時開催の特別展「茶の湯」（～6 月 4 日）と合わせて鑑賞いただいた。			
本館 特別 2 室	幕府祈願所 霊雲寺の名宝	4 月 25 日～6 月 4 日	15 件(重文 6 件)
＜主な作品＞ 梵書胎蔵界大日如来真言、両界曼荼羅図、◎弥勒曼荼羅図、訳経記、悉曇三密鈔			
文京区湯島の霊雲寺は、元禄 4 年（1691）五代将軍徳川綱吉の帰依を受けた覚彦浄厳（1639～1702）を開基とし、国家安泰を祈る幕府祈願所として創建された真言宗寺院である。浄厳はとくに梵字悉曇学に関する多くの研究書を著し、また仏教徒としての戒律護持の大切さを説いた。一方で江戸庶民にも多くの灌頂、授戒を行ない、霊雲寺は民衆にも寄り添う寺院として広く親しまれた。本特集では、霊雲寺が所蔵する名宝と当館所蔵の関連資料をともに展示し、霊雲寺と寺宝の魅力、開基浄厳の行状について紹介した。			
平成館 企画展示室	親と子のギャラリー　トーハクでバードウォッチング ―キジやクジャク、鳳凰が勢ぞろい―	4 月 25 日 ～6 月 4 日	37 件(重美 1 件)
＜主な作品＞ 色絵雉置物　五代清水六兵衛作昭和時代・20 世紀、刺繍孔雀図屏風田中利七作明治 26 年(1893) 友禅染掛幅桐鳳凰図 江戸時代・19 世紀			
春の行楽やゴールデンウィークで東博を訪れるファミリー層を対象に、美術鑑賞の楽しさ・面白さを伝えるための特集「親と子のギャラリー」を、国際博物館の日を記念して国立科学博物館、上野動物園との３館園連携企画として実施した。キジ、ニワトリ、クジャクなどキジ科の鳥や、キジ科の鳥、セイランがモデルともいわれる鳳凰をモチーフとした作品を紹介した。特に、美術品のモチーフに多く登場するクジャクと鳳凰はそれぞれコーナーを設けて展示し、人がそれらをどのように見て、どのように表現してきたかについて説明した。子どもの理解の助けとなる実物展示や補助的な解説パネルの作成を２館園の協力により行い、作品名称についても通常の列品名のほか、子ども用にわかりやすくした名称や文章を併せて掲示するなど、理解の促進を図った。また、三館園をめぐるツアー「上野の山でキジめぐり」を 2017 年 5 月 20 日に実施した。			
本館 14 室	日本の仮面　舞楽面・行道面	5 月 23 日～8 月 27 日	31 件(重文 19 件)
＜主な作品＞ ◎菩薩面、◎舞楽面 胡徳楽、◎舞楽面 納曽利、◎舞楽面 童舞、行道面　五部浄居天			
雅楽の一種で、舞を伴う舞楽に用いるのが舞楽面、練供養や、これに類似した法会に用いた仮面を行道面という。奈良・手向山八幡宮、愛知・熱田神宮、愛知・真清田神社などが所蔵の舞楽面、丹生都比売神社（天野社）伝来の舞楽面と行道面を展示し、古代、中世の芸能の多様性と、仮面の彫刻的魅力に触れていただいた。			

本館 特別 1・2 室	平成 28 年度新収品展	6 月 27 日～7 月 17 日	72 件(重文 2 件)
＜主な作品＞ サットサイシリーズ、◎書状、◎准胝仏母像、玄奘三蔵像、青花雲龍文方壺			
平成 28 年度に新たに収蔵品に加わった文化財のうち、寄贈品・購入品より 72 件を公開した。新収品を通じ、当館のもっとも重要な事業のひとつに位置づけられる「文化財の収集」について、その成果と意義をお示しした。			
本館 特別 4 室、特別 5 室	親と子のギャラリー　びょうぶとあそぶ	7 月 4 日 ～9 月 3 日	2 件
＜主な作品＞ 松林図屏風（高精細複製）、群鶴図屏風（高精細複製）			
高精細複製品を用い、映像や音楽を効果的に使って日本美術の新しい鑑賞体験をデザインする革新的な展示を試みた。特別 5 室では屏風本来の鑑賞方法にのっとり、会場内に設けた畳のステージに松林図屏風（高精細複製）を露出展示した。さらに、屏風の背後に高さ 5m、直径 15mの半円形の特設スクリーンを設置し、松林の外に広がる景色や松林の中を飛ぶ鳥などの映像を投影することによって、来館者を作品世界の中や外側に広がる風景へといざなった。特別 4 室ではフリーア美術館所蔵の群鶴図屏風（高精細複製）を露出展示し、描かれた絵の中の世界を体感できるインタラクティブなデジタルコンテンツを展示室の壁に投影した。さらに体験を深めるハンズオン展示、ワークシートの配布、ワークショップ、ダンサーによる松林図屏風の前でのダンスイベントなどを実施した。こうした試みにより、来場者が自らの想像力を生かした鑑賞の楽しさを知り、伝統文化に親しむきっかけとなることを目指した。			
平成館 企画展示室	新指定 重要文化財　野毛大塚古墳－世田谷の中期古墳－	7 月 11 日～9 月 10 日	39 件(重文 39 件)
＜主な作品＞ ◎滑石製槽、◎滑石製下駄、◎滑石製坩、◎滑石製斧			
野毛大塚古墳は、東京都世田谷区にある、５世紀の帆立貝形古墳（全長 82m）である。４つある埋葬施設のうち、明治 30（1897）年に箱形石棺（第二主体部）が発見され、そこから多数の石製模造品が出土した。水を使った儀礼に関わる、導水形の施設を再現した滑石製槽は、他に類例はなく、下駄、坩（小壺）、皿といった珍しい作品も含まれる。また、滑石製刀子は 232 点以上あり、東日本でも最大数を誇る。これらの野毛大塚古墳出土品の内、すでに第一、三、四主体部等から出土した世田谷区所蔵品は、平成 28 年度に重要文化財に指定されている。このたび当館が所蔵する第二主体部の出土品が重要文化財に指定されることになり、新指定を記念して野毛大塚古墳出土品を展示した。また、古墳や石棺、他の主体部出土品は写真パネルを用いて紹介したことで、展示の理解を深めた。			
本館 特別 1 室	近衞信尹と三藐院流の書－近世初期の名筆―	8 月 29 日～10 月 9 日	14 件(重美 1 件)
＜主な作品＞ 三十六歌仙帖			
近衞信尹(1565～1614）は、本阿弥光悦、松花堂昭乗とあわせて、「三筆」（いわゆる「寛永の三筆」）に称えられる。上代様を基礎にして、雄渾な独特の和様の筆致である信尹の書風は、三藐院流と呼ばれて流行した。 本特集では、近衞信尹の書の魅力を紹介するとともに、信尹の書風を引き継ぐ近衞信尋ほか三藐院流の書を展示した。			
本館 14 室	運慶の後継者たち―康円と善派を中心に	8 月 29 日～12 月 3 日	14 件(重文 12 件)
＜主な作品＞ 文殊菩薩立像、◎愛染明王坐像、◎菩薩立像、◎文殊菩薩坐像（文殊菩薩騎獅像および侍者立像のうち）、◎善財童子立像（文殊菩薩騎獅像および侍者立像のうち）			
「運慶展」（９月２６日～１１月２６日）の開催にちなみ、列品および寄託品のなかより、「運慶展」には出陳されない運慶以降の慶派仏師の手になる作品を展示した。鎌倉時代に活躍した運慶の量感豊かで力強い写実的な作風は、後の世代に大きな影響を与えた。本企画では、なかでも運慶の次々世代にあたる康円および、奈良を拠点に独自の展開を遂げた善円（善慶）を代表する善派仏師の作品を中心に、運慶以後の鎌倉彫刻の展開について紹介した。			
東洋館 12 室	チベットの仏像と密教の世界	9 月 5 日～10 月 15 日	34 件
＜主な作品＞ 除蓋障菩薩坐像（八大菩薩のうち）、仏頂尊勝母坐像、チャクラサンヴァラ父母仏立像、六臂マハーカーラ立像、黄色ジャンバラ坐像、ヴァジュラバイラヴァ父母仏立像			
全体テーマを「マジカル・アジア」とする、平成２９年度「博物館でアジアの旅」にちなみ開催した。チベット仏教は、密教のなかでも呪術性が強く、とりわけ儀礼を重視することで知られる。そのため、教理と結びついた複雑な造形と仏の体系が築かれてきた。これに加えて、インドの風土に由来する多面多臂といった異形や、鳥獣や骸骨など異色のモチーフが多用され、見る者を圧倒する。中国にも断続的にその影響がみられるが、とりわけ元や清といった遊牧民族の王朝における信仰は篤く、チベット僧が招かれ数多くの仏像が制作された。当館も清朝時代、北京周辺の遺品を多数所蔵している。本展示では、なかでも特色ある作品を選び、その豊かな信仰世界をご紹介した。			
東洋館 13 室	アジアの祈り	9 月 5 日～10 月 15 日	10 件
＜主な作品＞ 銭剣、カヴァ用木鉢、レンチョン、仮面			
平成 29 年度の博物館でアジアの旅「マジカル・アジア」の一環として、アジアの民族資料にみられる祈りにかかわる作品のうち、通常の展示にはあまり用いないものを展示した。			

東洋館 5室	唐三彩	9月5日～30年2月4日	48件(重文1件)

＜主な作品＞
三彩駱駝、三彩貼花龍耳瓶、三彩女子

造形、装飾ともに卓越した技術で発展をとげてきた中国陶磁。なかでも人物や動物を生き生きと表し、また緑、黄、藍、白などあざやかな色彩で観る者を惹きつける唐三彩に注目した。アジアの旅のテーマ「マジカル・アジア」に合わせて、人物や空想上の動物、家畜などの姿を表わした明器を中心に、幅広く親しまれた唐三彩の発生から展開をたどり、その魅力を多面的に紹介した。
また、ケース6では近年寄贈になった北宋汝窯青磁の作品を中心に、中国青磁の名品を常設的に展示した。

平成館 企画展示室	清朝末期の光景―小川一真の北京城写真―	9月26日～11月19日	72件

＜主な作品＞
太和門、太和殿

本特集では、明治34年・光緒27年（1901）、東京帝国大学の紫禁城調査に同行した写真師・小川一真（1860～1929）によって撮影された『北京城写真』を紹介した。写真は、義和団事件で光緒帝と慈禧皇太后（西太后）が一時的に紫禁城を離れた時期に、紫禁城の建築を調査する目的で撮影されたものである。小川一真の卓越した技術によって撮影された、清朝末期の北京城の情景をご覧いただいた。

平成館 考古展示室	いわきの考古学―貝塚と横穴墓―	9月26日～12月25日	63件

＜主な作品＞
深鉢形土器、鹿角製燕形銛頭、鹿角製結合式釣針（寺脇型）、人面付石製品、人面付岩版、金銅製馬鈴、幡金具

いわき市は福島県南東部に位置し、同県内では浜通り地方とも呼ばれる太平洋に面した地域である。
縄文時代の太平洋沿岸には貝塚が数多く分布するが、とくにいわき市は前期から晩期の貝塚が集中することでも知られ、晩期には寺脇型と呼ばれる特徴的な鹿角製の漁具が発達した。また縄文時代の儀礼に用いられた岩偶や岩版などの石製品もまた地域的な特徴をもつことで著名である。
一方、古墳時代には横穴墓が盛行した地域として知られ、墓内には金銅製馬具や幡金具といった豪華な副葬品が納められた。また、いわき市周辺は装飾古墳が集中しており、豊かな彩色が施された中田横穴墓は、当該地域を代表するものとして名高い。
本特集は、平成29年度考古相互貸借事業によるものであり、いわき市考古資料館の所蔵品を中心に紹介した。

本館 15室	明治時代の日本美術史編纂	10月3日～11月26日	44件(重文15件)

＜主な作品＞
Histoire de l'art du Japon(日本美術史)、稿本日本帝國美術略史、千九百年仏国巴里万国博覧会古代品出陳記念牌 日本帝国博物館宛、千九百年仏国巴里万国博覧会古代品出陳記念牌　証書 日本帝国博物館宛、帝国美術歴史編纂関係書類　下

『稿本日本帝国美術略史』は、日本において初めて編纂された公式の美術史で、明治34年（1901）に刊行された。明治33年（1900）のパリ万国博覧会を契機として完成した本書はそれまでの文化財調査の蓄積を元にして岡倉天心を中心に帝国博物館（東京国立博物館の前身）が編纂した。フランス語版がパリ万博に出品された後、帝室博物館（東京国立博物館の前身）が日本語版を刊行した。 本展示では東京国立博物館に残る『稿本日本帝国美術略史』編纂に関わる記録と写真、歴史資料を通して、美術博物館として歩み始めた時期の博物館の姿を紹介した。

東洋館 8室	中国書画精華―日本人のまなざし―	10月17日～12月10日	49件 (国宝3件、重文9件、重美5件)

＜主な作品＞
◎二祖調心図軸、琴棋書画図軸、◎雪汀遊禽図軸、〇秋林隠居図軸、◎五龍図巻、◎竹塘宿雁図軸、山水図冊、●古文尚書巻第六、●碣石調幽蘭第五、行書虹県詩巻、楷書玄妙観重脩三門記巻、●禅院額字「旃檀林」、◎禅院額字「釈迦宝殿」

今年も、秋の中国美術の名品展として「中国書画精華」を開催した。日本には古くから中国の書画が舶載され、それらは日本美術にも大きな影響を与えてきた。特に、宋・元時代の書画は、鎌倉時代以降の禅宗と共に数多く伝えられ、書院や茶室において、日本の趣味にもとづく新たな鑑賞法のもとに親しまれてきた。また、狩野派を始めとする江戸時代の画家たちは、室町将軍家の価値観を継承しつつ、明・清時代絵画の図様・画法も積極的に学習していった。そして明治時代以降、日中の往来が盛んになるにつれ、中国伝世の精品が少なからず日本に伝えられ、中国本来の文人趣味を理想とする財界人・文化人によって優れたコレクションが形成された。中国歴代書画の名品がいつごろ日本に伝えられ、どのような影響を与えてきたのか、日本における受容に留意しつつ、名品の数々を紹介した。

本館 特別1・2室	室町時代のやまと絵―絵師と作品―	10月24日～12月3日	35件(重文11件)

＜主な作品＞
◎浜松図屏風、◎浜松図屏風、◎月次風俗図屏風、◎融通念仏縁起絵巻　巻上、◎融通念仏縁起絵巻　巻下、◎清水寺縁起絵巻　巻下、◎星光寺縁起絵巻　巻下、◎伝足利義政像、◎桃井直詮像、◎牡丹花肖柏像、◎松図屏風

「室町時代の絵画と言えば水墨画」。教科書をはじめ、一般にこうした認識は未だ根強い。ただこの時代、水墨を基調とする「漢画」とともに多く描かれていたのは、伝統的な「やまと絵」主題の絵画だった。室町時代のやまと絵には描いた絵師の名が判明する作例も多く、絵師それぞれの個性の違いや、同一絵師の名を冠した作品の中でもスタイルの差異を確認することもできる。この特集では、室町時代やまと絵師たちの画業とともに、その豊かな表現世界を紹介した。

本館 特別1室	2017年ユネスコ「世界の記憶」登録記念 朝鮮国書―朝鮮通信使の記録	12月5日～12月25日	23件(重文16件)

＜主な作品＞
◎龍文朱塗箱、◎朝鮮国王国書別幅

この度、当館が所蔵する重要文化財「朝鮮国書」を含む『朝鮮通信使の記録』が、ユネスコ「世界の記憶」(Memory of the World)に登録された。「世界の記憶」は世界的に重要な記録物への認識を高め、保存やアクセスを促進することを目的とし、ユネスコの事業として1992年に開始されたものである。『朝鮮通信使の記録』は、12回にわたって行われた通信使について、日本と韓国それぞれに伝来する外交記録、旅程の記録、文化交流の記録から構成され、「朝鮮国書」は外交記録として登録された。当館では最後の使節となった1811年の国書を含む、計9回の使節の国書を有

しており、なかでも 1617 年の国書は、安土桃山時代に断絶していた日朝間の国交が江戸時代に特異な形で再開されたことを示す大変貴重な資料である。国書の接受は国家間外交の象徴的な行為であり、文面には「誠信交隣」の精神が満ち溢れており、朝鮮通信使を介した日朝外交の平和的な展開を伝えるものである。今後、益々、両国に伝わる文化財を通じた、友好的かつ継続的な交流を図り、文化財の保存と活用の意義を踏まえながら、朝鮮通信使に関する学術的な研究が深化することを期待したい。			
本館 特別 2 室	親指のマリアとキリシタン遺品	12 月 5 日～12 月 25 日	40 件(重文 25 件)
＜主な作品＞ 聖母子像、シドッチ頭部（復元）、西洋紀聞（写本）、◎聖母像（親指のマリア）			
平成 26 年（2014）文京区の切支丹屋敷跡から発掘された人骨が国立科学博物館の鑑定によりイタリア人宣教師ジョバンニ・バッティスタ・シドッチと判定された。この歴史的発見を受け、クリスマスの時期にあわせ、当館が所蔵するシドッチが持参した可能性が高い油彩の聖母像（通称親指のマリア）や、シドッチへの尋問をまとめた新井白石「西洋紀聞」ほかシドッチ関連資料とともに、聖母子や聖人などを表したキリシタン遺品を展示し、来館者が日本のキリスト教信仰について理解を深める一助とした。 文京区教育委員会と国立科学博物館の協力により、切支丹屋敷と人骨発掘の様子、人骨分析に関する解説を作成する。文京区教育委員会からはシドッチの復顔を借用した。			
平成館 企画展示室	やきもの、茶湯道具の伝来ものがたり　―付属品・次第とともに観る―	12 月 5 日～30 年 1 月 28 日	19 件(重文 2 件)
＜主な作品＞ ◎青磁輪花碗 銘 馬蝗絆、唐物肩衝茶入 銘 松山、◎一重口水指 銘 柴庵、園城寺霰釜、錆絵十体和歌短冊皿 「八十一歳乾山」錆絵銘			
本展示は陶磁器作品を中心に、日ごろ見せる機会の少ない付属品までも含めて作品とともに展示し、作品がどのようにして伝わってきたかを紹介した。付属品は、文字どおり作品に「付属する」もので、茶の湯の世界では次第とも呼ばれる。それらは、共箱のように、作者が自ら箱書きするなどし作品が作られたときから一緒に存在するものや、さまざまな所蔵者を経ていくうちに、増えていったものなどがある。この展示では「茶湯道具の次第」「コレクターの眼」「共箱」といった小テーマを設け、作品と付属品とを合わせてみていただくことで、作品の伝来や背景に広がる世界を楽しんでいたいた。			
本館 14 室	刀剣鑑賞の歴史	12 月 5 日～30 年 2 月 25 日	15 件 (国宝 4 件、重文 4 件、重美 1 件)
＜主な作品＞ ●刀 （無銘）、●刀 （金象嵌銘 城和泉守所持 正宗磨上　本阿（花押））			
刀剣の鑑賞は、「姿（すがた。形状）」、刀身表面にあらわれる木目のような模様の「地鉄（じがね）」、そして焼刃の模様である「刃文（はもん）」などを見どころにしている。姿は制作された時代ごとの特徴、地鉄は流派の特徴、そして刃文は刀工自身の特徴があらわれるとされ、その分析は近代以前から既に高度に発達していた歴史がある。この特集では、茎（なかご。刀身の柄）に作者の銘が残る刀剣と、同一作者の無銘の作品を陳列するなどして、刀剣がどのような視点から鑑賞されてきたかを辿った。			
本館 特別 1・2 室	博物館に初もうで　犬と迎える新年	30 年 1 月 2 日～1 月 28 日	57 件
＜主な作品＞ 朝顔狗子図杉戸、洋犬図絵馬、山水図、名所江戸百景・高輪うしまち、犬を戯らす母子			
平成 30 年の干支に因み、戌（いぬ）をテーマとした作品を展示する。犬は世界中で最も古くに家畜化されたと考えられる動物であり、様々な民族の文化に影響を与えた。 「いぬのかたち」：日本人に愛されてきた、かわいらしい子犬や珍しい異国犬の造形をテーマとした。絵画では、日本人の持っていた犬のイメージを概観し、それがどのように円山応挙や酒井抱一らの名品に結実し、彼らの築いた典型がどのように継承されたのか、について概観した。彫刻・工芸では、バラエティーに富んだ素材と表現技法を用いた立体的な犬の姿形に着目し、そこに込められた愛情深い表現を紹介した。 「いぬとくらす」：では、常に人と共にあった犬の文化史的な意義をテーマとした。「鶏犬相聞こゆ」という桃源郷のような、田園における隠逸生活の友として、あるいは都市の雑踏に寄り添う存在として、また美女に抱えられた愛玩動物として、様々な絵画にあらわされた犬の姿を通じて、犬と人との関わりをわかりやすく紹介した。			
東洋館 8 室	呉昌碩とその時代―苦鉄没後 90 年―	30 年 1 月 2 日～3 月 4 日	78 件
＜主な作品＞ 行書斉侯罍識語軸、墨竹図軸、雲根図軸、山水図軸、斉雲館印譜、海浜話別図巻、臨石鼓文軸、行書王維五言句横披			
清時代の末期から民国の初期にかけて、書・画・印に妙腕をふるった呉昌碩(1844～1927)は、清王朝 300 年の掉尾を飾る文人として知られている。初名を俊、のちに俊卿といい、民国元年(1912)から昌碩と改めた。56 歳のとき、安東県(江蘇省)の知事となるものの、一ヶ月で辞職し、生涯を在野で過ごした。呉昌碩は、終生にわたって石鼓文の臨書に励み、その風韻を書・画・印に結実させた。平成 29 年度は呉昌碩の没後 90 年にあたることから、呉昌碩の作品を概観し、その業績を顕彰した。台東区立書道博物館との連携企画第 15 弾。			
平成館 考古展示室	和歌山の埴輪―岩橋千塚と紀伊の古墳文化―	30 年 1 月 2 日～3 月 4 日	13 件(重文 7 件)
＜主な作品＞ ◎翼を広げた鳥形埴輪、◎胡籙形埴輪、◎両面人物埴輪			
和歌山県の北端を西流する紀ノ川の河口部に、岩橋千塚古墳群が立地する。 この岩橋千塚古墳群は、４世紀末から７世紀後半にかけて作られた総数約 850 基の古墳が分布し、国の特別史跡に指定されている。なかでも６世紀前半の首長墓である大日山 35 号墳からは埴輪群が出土し、翼を広げた鳥形埴輪や両面人物埴輪は、他に類例のないものとして著名である。大日山 70 号墳では、朝鮮半島との関係が深い陶質土器や鍛冶具を副葬するなど、紀ノ川流域の渡来系文化を代表する。 本特集は、平成 29 年度考古相互貸借事業によるものであり、和歌山県立紀伊風土記の丘の所蔵品を中心に紹介した。			

本館 特別 2 室	江戸後期の京焼陶工―奥田頴川と門下生を中心に	30 年 2 月 6 日～4 月 22 日	42 件(重文 1 件、重美 1 件)
＜主な作品＞ ○色絵飛鳳文隅切膳、◎染付龍濤文提重、煎茶具、白泥色絵人物文涼炉「欽古」印、色絵桜楓文木瓜形鉢			
本展示では、江戸時代後期に活躍した京焼陶工・奥田頴川とその門下生を中心に取り上げる。 奥田頴川（1753-1811）は、京都で初めて本格的な磁器づくりを成功させた陶工である。当時、文化人の間で中国趣味や煎茶が人気を博していた時代の流れに応じ、中国陶磁に倣いつつ、独自の創造を加えた作品を手掛けている。 頴川の下には、青木木米（1767-1833）、欽古堂亀助（1765-1837）、仁阿弥道八（1783-1855）らが集い、彼らもまた単なる中国陶磁の模倣にとどまらない作風を展開する。さらには、各地の藩に招かれるなどして、御庭焼の開窯や発展に関与しており、多様な作風が生み出された京都の陶磁器づくりが、やがて全国へ広がっていくきっかけを作り出すことに貢献している。この展示では、前半でそれぞれが手掛けたとされる個々の作品を紹介し、後半に諸藩の御庭焼等、開窯や発展に関与した地方窯について紹介し、18～19 世紀における京焼の諸相と、技術伝播について見ていただいた。			
本館 14 室	おひなさまと日本の人形	30 年 2 月 27 日～3 月 18 日	52 件
＜主な作品＞ 牙首雛、古今雛、三つ葉葵紋蒔絵雛道具、古式次郎左衛門雛、古今雛、嵯峨人形 遊女立姿、裸嵯峨			
３月３日は桃の節供。雛祭にちなんで恒例となった特集を行う。今回は江戸の有力な郷士であった日比谷家に伝来した大揃えの古今雛を中心として、主に江戸時代の関東地方で製作された雛人形・雛道具を展示する。三谷家伝来の牙首雛や山本家伝来の古今雛といった富裕層の雛人形とともに、越ヶ谷雛や鴻巣雛といった庶民の雛人形をあわせて展示することで、江戸時代の関東地域における雛文化を概観した。 また嵯峨人形や賀茂人形、奈良人形といった関西地域で製作された木彫人形をあわせて展示する。特に仏師が製作したことに由来するという嵯峨人形は絢爛たる彩色が特徴であり、衣裳人形とは異なる造形の美しさがある。 一方、従来行っているように、立雛や古式次郎左衛門雛、古式享保雛といった初期の雛人形もあわせて展示し、雛人形の成立から発展までも見通せるようにした。人形の名品を通じ、繊細で美しく、そしてかわいらしいものを尊び、高い技術を駆使して作品を作り上げてきた日本の美意識を、楽しく伝えた。			
本館 特別 1 室	東京国立博物館コレクションの保存と修理	30 年 3 月 13 日～4 月 8 日	16 件
＜主な作品＞ 年中行事図屏風			
本特集では、東京国立博物館が手がける保存と修理の成果をより分かりやすく紹介するため、近年に解体を含む根本的な修理を終えた絵画、工芸、考古資料などさまざまな分野から、形態、技法が異なる作品を取り上げた。 展示では、作品とともに修理過程で得られた情報も、パネルなどを用いて公開し、博物館が担う文化財修理の役割を広く理解していただくようにつとめる。　本年度は、本格修理完了品として「年中行事屏風図」「小忌衣 浅葱天鵞絨地菊水模様」「人面付壺形土器」など 12 件、対症修理完了品として「正倉院伝来裂」「享保雛」など 4 件、計 16 件を展示する。またパネル展示となるが、本格修理が終了し再設置した「大燈篭」を、春の庭園解放に合わせて紹介した。			
本館 14 室	日本の仮面　能狂言面の神と鬼	30 年 3 月 20 日～4 月 22 日	24 件
＜主な作品＞ 能面　大癋見、能面　翁、狂言面　毘沙門、能面　茗荷悪尉、能面　安達女、能面　橋姫			
時には恵みを、時には脅威をもたらす大自然を象徴する存在である龍神、雷神、天狗が登場する能も数多くあり、その役の面は表情豊かで造形の魅力もある。また、角を生やし、大きく見開いた目はあやしい光を放ち、牙をむく恐ろしい形相の女性を表した面、にこやかな神々の面なども併せて展示し、能面の多様性をご覧いただいた。			

(2) 特別展、共催展等（海外展を含む）

展覧会名	**特別展「茶の湯」**
会　　期	4月11日（火）～6月4日（日）（49日間）
会　　場	平成館
主　　催	東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、毎日新聞社
協　　賛	伊藤園、トヨタ自動車、日本写真印刷、三井住友海上火災保険、三井物産
特別協力	表千家不審菴、裏千家今日庵、武者小路千家官休庵、藪内燕庵、遠州茶道宗家、江戸千家宗家蓮華庵、江戸千家、大日本茶道学会、茶道宗偏流不審庵
展示協力	大光電機
作品件数	259件
来館者数	245,795人（目標150,000人、達成率：163.9%）
入場料金	一般1,600円(1,400円/1,300円)、大学生1,200円(1,000円/900円)、高校生900円(700円/600円)、中学生以下無料、＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	84.3%
担当研究員数	3人
展覧会の内容	12世紀頃、中国で学んだ禅僧によってもたらされた宋時代の新しい喫茶法は、禅宗寺院や武家などの間で浸透していった。「唐物」を用い、また室内を飾ることに価値を見出し、安土桃山時代には、日常に使われているもののなかから自分の好みに合った道具をとりあわせる「侘茶」が千利休により大成されて、茶の湯は天下人から大名、町衆へ広く普及した。本展覧会では、おもに室町時代から近代までの「茶の湯」の美術の変遷を展観した。
講演会等	「桃山の茶陶―和物茶碗」講師：伊藤嘉章(九州国立博物館副館長)　平成館大講堂　3月15日（土）　373名 「茶の湯の魅力―日本、朝鮮、中国のやきものを中心に」講師：三笠景子(東洋室主任研究員)　5月13日（土）　392名

展覧会名	日タイ修好130周年記念特別展「タイ ～仏の国の輝き～」
会　　期	7月4日（火）～8月27日（火）（49日間）
会　　場	平成館
主　　催	東京国立博物館、タイ王国文化省芸術局、日本経済新聞社、BSジャパン
共　　催	国際交流基金アジアセンター
協　　賛	NEC、花王、スターツグループ、ダイキン工業、大日本印刷、東レ、トヨタ自動車、三菱商事
協　　力	日本貨物航空
後　　援	タイ王国大使館、タイ国政府観光庁
作品件数	142件
来館者数	116,100人（目標70,000人、達成率：165.9%）
入場料金	一般1,600円(1,400円/1,300円)、大学生1,200円(1,000円/900円)、高校生900円、(700円/600円)、中学生以下無料　*(　)内は前売り／20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	88.4%
担当研究員数	2人
展覧会の内容	タイでは、仏教は人々の暮らしに寄り添う大きな存在であり、長い歴史のなかで多様な仏教文化が花開いた。本展では仏教国タイについて、タイ族前史の古代国家、タイ黎明期のスコータイ朝、国際交易国家アユタヤー朝、現王朝のラタナコーシン朝における仏教美術の名品を通じて、同国の歴史と文化を紹介した。本展覧会は、日タイ修好130周年を記念するものであることから、日本とタイの交流史についても合わせて紹介した。
講演会等	「仏の国の歩み」講師：猪熊兼樹(東博学芸企画部企画課出版企画室主任研究員)　平成館大講堂　8月5日　319名 国際シンポジウム「タイの仏教美術と王権」猪熊兼樹（東博学芸企画部企画課出版企画室主任研究員）、原田あゆみ（九博学芸部企画課特別展室長）、ﾙﾝﾛｰﾄ ﾀﾑﾙﾝﾙｱﾝ（ｼﾗﾊﾟｺｰﾝ大学准教授）、ﾅﾀﾊﾟｯﾄ ﾁｬﾝﾀｳｨｯﾄ（元 ﾀｲ芸術局上席専門官）、末兼俊彦（東博学芸研究部列品管理課平常展調整室主任研究員）　平成館大講堂　7月15日　193名

展覧会名	フランス人間国宝展
会　　期	9月12日(火) ～11月26日(日) (67日間)
会　　場	表慶館
主　　催	東京国立博物館、NHKプロモーション、朝日新聞社、HEART & crafts
後　　援	フランス文化省、在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本
メセナ	ベタンクールシュエーラー財団
協　　賛	ヴァン クリーフ&アーペル、三井住友銀行
協　　力	フランス国立工芸研究所、全日本空輸、竹尾、ピエール・エルメ・パリ、J-WAVE、Redactik、Loupi
作品件数	235件
来館者数	70,192名（目標40,000人、達成率：175.5%）
入場料金	一般1400円(1,200円／1,100円)、大学生1,000円(800円／700円)、高校生600円(400円／300円) 中学生以下無料。(　)内は前売り／20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	84.9%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	フランス文化省は、日本の人間国宝（重要無形文化財の保持者）認定にならって、1994年にメートル・ダールという呼称で人間国宝制度を創設しました。本展は、羽細工や金銀細工をはじめとする15の工芸分野、各1名ずつの作家の作品を展示するとともに、同国にける技術の伝承について紹介した。
講演会等	フォーラム　9月16日 平成館大講堂 「日仏両国における人間国宝」講師：リン・コーエン＝ソラール（フランス国立工芸研究所会長）、ジェラール・デカン（元フランス国立工芸研究所会長・紋章彫刻作家）、室瀬和美（漆芸家）、司会：伊藤嘉章（九州国立博物館副館長） 「建築の世界の伝統と革新」講師：エマニュエル・バロワ（ガラス作家）、東豊雄（建築家）、伊東順二（東京藝術大学特任教授・美術評論家）　182名。

展覧会名	興福寺中金堂再建記念特別展「運慶」
会　　期	9月26日(火) ～11月26日(日)（５５日間）
会　　場	平成館
主　　催	東京国立博物館、法相宗大本山興福寺、朝日新聞社、テレビ朝日
後　　援	TOKYO FM
協　　賛	あいおいニッセイ同和損保、鹿島建設、JR東日本、大和証券グループ、凸版印刷
協　　力	神奈川県立金沢文庫、小学館、ビックカメラ
作品件数	37件
来館者数	600,439名（目標250,000人、達成率：240.2%）
入場料金	一般1,600円(1,400円/1,300円)、大学生1,200円(1,000円/900円)、高校生900円(700円/600円) 中学生以下無料、*(　)内は前売り／20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	91.4%
担当研究員数	4名
展覧会の内容	運慶は、卓越した造形力で生きているかのような現実感に富んだ仏像を生み出し、輝かしい彫刻の時代をリードした。本展では、運慶とゆかりの深い興福寺をはじめ各地から名品を集めて、その生涯の事績を通覧した。さらに運慶の父・康慶、実子・湛慶、康弁ら親子3代の作品を揃え、運慶の作風の樹立から次代の継承までをたどった。
講演会等	「興福寺と運慶―特に北円堂の諸像をめぐって―」講師:多川俊映(法相宗大本山興福寺貫首)　10月1日　平成館大講堂　393名 「運慶展　最新調査報告」講師：浅見龍介(東京国立博物館企画課長)　10月28日　平成館大講堂　393名

展覧会名	特別展「仁和寺と御室派のみほとけ― 天平と真言密教の名宝 ―」
会　　期	1月16日（火）～3月11日（日）（48日間）
会　　場	平成館
主　　催	東京国立博物館、真言宗御室派総本山仁和寺、読売新聞社
協　　力	仁和会
協　　賛	光村印刷
作品件数	174件
来館者数	324,042名（目標150,000人、達成率：216.0%）
入場料金	一般1,600円(1,400円／1,300円)、大学生1,200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)※中学生以下無料 ※(　)内は前売り／20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	93.9%
担当研究員数	5名
展覧会の内容	仁和寺は、光孝天皇が鎮護国家・仏法興隆を図るため仁和2年（886）に建立を発願、次代の宇多天皇が先帝の遺旨を継いで仁和4年（888）に完成させ、以後、歴代天皇の厚い帰依を受け、真言宗の門跡寺院である。本展では、仁和寺創建時の阿弥陀如来坐像および両脇侍立像、空海筆の三十帖冊子、中国・北宋時代の孔雀明王像、仏教工芸など仁和寺所蔵の文化財と、仁和寺を総本山とする御室派寺院が所蔵する仏像を中心とした文化財を紹介した。
講演会等	「仁和寺と御室派」講師：立部祐道(総本山仁和寺門跡・御室派管長)、朝川美幸(総本山仁和寺学芸員)　2月10日（土）　367名 「仁和寺と御室派のみほとけ」講師：丸山士郎(東京国立博物館特別展室長)　2月17日　362名 フォーラム「観音堂解体修理の最新報告」講師：瀬川大秀(総本山仁和寺宗務総長)、井出亜里(京都大学教授)、奥村幸司(サビア代表)、吉田理(京都府教育庁指導部文化財保護課主査)、三田覚之(当館教育普及室研究員)　1月19日　平成館大講堂　210名

展覧会名	アラビアの道ーサウジアラビア王国の至宝
会　　期	1月23日（火）～ 2018年5月13日（日）（９９日間）
会　　場	表慶館
主　　催	東京国立博物館、サウジアラビア国家遺産観光庁、NHK、朝日新聞社
特別協賛	サウジアラムコ
協　　賛	昭和シェル石油、住友化学
作品件数	424件
来館者数	182,837名（目標60,000人、達成率：-%）
入場料金	総合文化展観覧料：一般620円(520円)、大学生410円(310円)　＊（　）内は20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	-%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	古代より交易路が張り巡らされ、人々と諸文明が行き交ったアラビア半島。本展では、その躍動的な歴史と文化を示すサウジアラビア王国の至宝を日本で初めて公開した。100万年以上前にさかのぼるアジア最初の石器、5000年前に砂漠に立てられた人形石柱、ヘレニズム時代やローマ時代に賑わった古代都市からの出土品、イスラームの聖地マッカ（メッカ）のカァバ神殿で17世紀に使われた扉、サウジアラビア初代国王の遺品（20世紀）など、400件以上の貴重な文化財をとおして、アラビア半島の知られざる歴史を紹介した。
講演会等	なし

展覧会名	＜海外展＞ 日タイ修好130周年記念「日本美術のあゆみ―信仰とくらしの造形―」展
会　　期	29年12月27日～30年2月18日（40日間）
会　　場	タイ王国・バンコク国立博物館
主　　催	タイ王国文化省芸術局、文化庁、東京国立博物館、九州国立博物館、国際交流基金
作品件数	110件
担当研究員数	4人
来館者数	59,599人
展覧会の内容： 日タイ修好130周年を記念する行事の一環であり、タイ王国で日本美術を総合的に紹介する初めての展覧会。本展覧会は「信仰」と「くらし」をテーマに、国宝・重要文化財を含む106件を「日本美術のはじまり」、「仏教美術」、「公家と武家」、「禅と茶の湯」、「多彩な江戸文化」という6つの構成で紹介した。特に日本文化の特質を物語る考古資料、美術品等にスポットをあて、縄文時代から江戸時代にかけての考古資料、絵画、彫刻、工芸品、書跡等、我が国の文化と歴史に関する資料約70件を展示した。	
講演会等：なし	

展覧会名	＜海外展＞ 国立博物館合同企画特別展　「東アジアの虎美術―韓国・日本・中国―」
会　　期	30年1月26日（金）～3月18日（日）（52日間）
会　　場	韓国国立中央博物館
主　　催	韓国国立中央博物館、東京国立博物館、中国国家博物館
作品件数	104件
担当研究員数	2人
来館者数	34,050人
展覧会の内容： 本展覧会は、日本、韓国、中国の3つの国の国立博物館が合同で実施する第3回目の国際共同企画展である。今回は東アジア全域で好まれた「虎」をテーマに、3館が所蔵する絵画や工芸作品の代表作例を一堂に展示した。日本は東京国立博物館、中国は国家博物館の所蔵品を出品し、韓国は国立中央博物館を中心に、国立慶州博物館、三星美術館リウムほか韓国国内の博物館・美術館の所蔵品を展示した。	
講演会等：なし	

【京都国立博物館】

(1)平常展(名品ギャラリー)

①開館日数　307日(名品ギャラリーのみ開館日数：144日、名品ギャラリー（１階彫刻室）と特別展（海北友松）開館日数：36日、特別展（国宝）のみ開館日数：48日、庭園のみ開館日数：79日)
②展示総件数　978件
③展示替件数　973件
④入場料金　一般520円、大学生260円　※庭園のみ開館時は、一般260円
⑤特集展示等：全8件

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特集展示	名刀聚英―永藤一の愛刀―	6月13日～7月17日	22件(重要文化財4件)
特集展示	古書画へのまなざし一伴實コレクション一	6月13日～7月23日	18件
特集展示	京都水族館連携企画 京博すいぞくかん一どんなおさかないるのかな？	7月25日～9月3日	102件（重要文化財7件、重要美術品1件）
特集展示	大政奉還150年記念 鳥羽伏見の戦い	7月25日～9月3日	30件
新春特集展示	いぬづくし一干支を愛でる一	12月19日～30年1月21日	16件
特集展示	御所文化を受け継ぐ一近世・近代の有職研究	12月19日～30年1月28日	42件
特別企画	貝塚廣海家コレクション受贈記念 豪商の蔵―美しい暮らしの遺産―	30年2月3日～3月18日	117件（重要美術品1件）
特集展示	雛まつりと人形	30年2月20日～3月18日	39件（重要美術品1件）

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	**開館120周年記念　特別展覧会「海北友松」**
会　　期	4月11日～5月21日（36日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、毎日新聞社、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿
協　　賛	大和ハウス工業、日本写真印刷
協　　力	日本香堂
作品件数	76件（うち国宝3件、重要文化財17件）
来館者数	164,900人（目標来館者数80,000人・達成率206.1%）
入場料金	一般1,500円、大学生1,200円、高校生900円
アンケート結果　満足度	満足度91.3%
講演会等	・記念座談会 4月15日「日本美術応援団、海北友松を応援する！！」 明治学院大学教授 山下裕二氏、俳優・京都国立博物館文化大使 井浦新氏、京都国立博物館学芸部長 山本英男 ・講演会 4月22日 対談「海北友松を語る」小説家 葉室麟氏、京都国立博物館学芸部長 山本英男 4月29日「孤高の絵師・海北友松」京都国立博物館学芸部長 山本英男 5月13日「友松の作品―剛と柔・漢と和」東京国立博物館学芸研究部長 田沢裕賀氏

展覧会名	**開館120周年記念　特別展覧会「国宝」**
会　　期	10月3日～11月26日（48日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、毎日新聞社、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿
後　　援	文化庁、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会
特別協賛	島津製作所
協　　賛	京都美術工芸大学、GSユアサ、小学館、大和ハウス工業、東海旅客鉄道、西日本旅客鉄道、日本新薬、NISSHA
技術協力	キテラス、シーシーエス
協　　力	日本香堂
作品件数	210件（うち国宝210件）
来館者数	624,493人（目標来館者数200,000人・達成率312.2%）
入場料金	一般1,500円、大学生1,200円、高校生900円
アンケート結果　満足度	満足度78.3%
講演会等	・記念講演会 11月4日「国宝の杜へ一京都国立博物館と古社寺保存法―」京都国立博物館館長 佐々木丞平

【奈良国立博物館】

(1)名品展（平常展）

①開館日数：321日(名品展のみの開館日数：226日)
②展示総件数：548件
③展示替件数：210件
④入場料金：一般　520円　大学生　260円
⑤特別陳列等：全111件
名品展
　珠玉の仏たち（なら仏像館）132件
　珠玉の仏教美術（西新館）153件

特集展示「新たに修理された文化財」（西新館）7件
特集展示「名もなき知識、発願者たち（写経編）」（西新館）19件
中国古代青銅器（青銅器館）237件

特別陳列

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特別陳列	おん祭と春日信仰の美術―特集　社家史料と若宮―	12月9日～30年1月14日	38件(重要文化財1件)
特別陳列	お水取り	30年2月6日～3月14日	69件（重要文化財20件）
特別陳列	薬師寺の名画－板絵神像と長沢芦雪筆旧福寿院障壁画－	30年2月6日～3月14日	4件（重要文化財1件）

(2)特別展、共催展等

展覧会名	**特別展「快慶　日本人を魅了した仏のかたち」**
会　　期	4月8日(土)～6月4日(日)（51日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館、読売新聞社、読売テレビ
特別協賛	－
協　　賛	岩谷産業、清水建設、大和ハウス工業、非破壊検査
特別協力	－
協　　力	天童木工、日本航空、日本香堂、仏教美術協会
作品件数	88件（うち国宝7件、重要文化財50件）
来館者数	123,842人(目標来館者数 70,000人・達成率176.9%)
入場料金	一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
アンケート結果　満足度	94.4%
担当研究員数	2名
展覧会の内容	わが国を代表する仏師のひとりであり、鎌倉彫刻様式の完成に重要な役割を果たした人物として運慶と並び称されてきた快慶の代表的な作品を展示し、わが国の仏教美術史に残した偉大な足跡をたどる。現存する快慶作品の約8割を一堂に集めるとともに、その成立と密接に関わる絵画や高僧たちとの交渉を伝える史料をあわせて展示することで、快慶作品の魅力と日本彫刻史上の意義を広く紹介した。
講演会等	○公開講座 3回　参加者数合計　582人 4月22日(土)「快慶を生んだ社会と宗教」横内裕人（京都府立大学准教授）/ 参加者数　194人 5月13日(土)「快慶の生涯と「如法」の仏像」山口隆介（主任研究員）/ 参加者数　194人 5月27日(土)「快慶作品に関する二、三の問題」岩田茂樹（上席研究員）/ 参加者数　194人 ○展覧会関連イベント 3回　参加者数合計　111人 4月29日(土・祝)親と子のワークショップ「着て楽しむ！ ほとけさまのファッション」/ 参加者数　52人 5月 3日(水・祝)ワークショップ「截金技法の体験をしてみよう！」/ 参加者数　39人 5月20日(土)ワークショップ「截金技法の体験をしてみよう！」/ 参加者数　20人

展覧会名	**1000年忌特別展「源信　地獄・極楽への扉」**
会　　期	7月15日(土)～9月3日(日)（45日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館、朝日新聞社、ＮＨＫ奈良放送局
特別協賛	－
協　　賛	あいおいニッセイ同和損保、きんでん、竹中工務店、ライブアートブックス
特別協力	－
協　　力	凸版印刷、日本香堂、仏教美術協会
作品件数	136件（うち国宝22件、重要文化財65件）
来館者数	72,540人(目標来館者数40,000人・達成率181.4%)
入場料金	一般1,500円、高校・大学生900円、小・中学生500円
アンケート結果　満足度	92.0%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	『往生要集』を著し極楽浄土信仰を広めた平安時代の僧・恵心僧都源信の足跡を紹介するとともに、六道絵や阿弥陀来迎図といった源信の影響下に生まれた名品も合わせて展示した。絵画を中心に、国宝22件、重要文化財65件を含む136件の関連作品を展示し、源信の後世に与えた影響の大きさと死後の世界へのイマジネーションを紹介した。
講演会等	○公開講座 3回　参加者数合計　571人 8月 5日(土)「浄土の造形―源信以後を中心に―」武笠 朗（実践女子大学教授）/ 参加者数　183人 8月19日(土)「『往生要集』の成立―天台浄土教と源信の信心―」小原仁（聖心女子大学文学部名誉教授）/ 参加者数　194人 9月 2日(土)「源信と浄土信仰の美術」北澤菜月（主任研究員）/ 参加者数　194人 ○夏季講座 1回　参加者数合計　525人 8月23日（水）～25日（金）夏季講座「地獄・極楽と浄土信仰の美術」/ 参加者数　525人

	○展覧会関連イベント 2回　参加者数合計　194人 7月29日(土)親子講座「エンマさまと地獄めぐり」鷹巣 純（愛知教育大学教授）/ 参加者数　159人 7月30日(日)親子向けワークショップ「つくってわかる！立体地獄絵」奈良教育大学大学院生/ 参加者数　35人

展覧会名	第69回正倉院展
会　　期	10月28日（土）～11月13日（月）（17日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館
特別協賛	―
協　　賛	岩谷産業、ＮＴＴ西日本、関西電気保安協会、キヤノン、京都美術工芸大学、近畿日本鉄道、ＪＲ東海、ＪＲ西日本、シオノギヘルスケア、ダイキン工業、大和ハウス工業、白鶴酒造、丸一鋼管、大和農園
特別協力	読売新聞社
協　　力	ＮＨＫ奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、ミネルヴァ書房、読売テレビ
作品件数	58件
来館者数	217,053人(目標来館者数180,000人・達成率120.6%)
入場料金	一般1,100円、高校・大学生700円、小・中学生400円
アンケート結果　満足度	78.0%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	8世紀の東アジア文化の至宝である正倉院宝物58件を公開する。
講演会等	○公開講座 3回　参加者数合計　497人 10月28日(土)「正倉院の繧繝技法について」片岡真純（宮内庁正倉院事務所保存課整理室員）/ 参加者数　171人 11月 4日(土)「正倉院の鏡」中川あや（主任研究員）/参加者数　161人 11月11日(土)「正倉院の屏風と蓮華蔵世界」長岡龍作（東北大学大学院教授）/ 参加者数　165人 ○シンポジウム 1回　参加者数合計　224人 11月3日（金・祝）正倉院学術シンポジウム2017「正倉院の色」/ 参加者数　224人

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

①開館日数 308 日(うち平常展のみ開館日数 129 日)＊台風のため臨時休館（9/17）
②展示総件数：1,894 件(うち国宝 62 件、重要文化財 178 件)
③展示替件数：1,594 件
④入場料金：一般 430 円、大学生 130 円
⑤特別展示・特別公開等：全 6 件

展示名称	特別展示　水の中からよみがえる歴史　―水中考古学最前線―				
開催期間	7 月 15 日(土)～ 9 月 10 日(日)	開催場所	文化交流展示室 基本展示室 4 テーマ、第 9 室	陳列件数（うち指定品件数）	84 件（うち重文 1 件）
内容	水中考古学を取り上げ、全国の水中から発見された遺物、調査技術の発展、最前線の調査事例等を紹介した。				
展示名称	特別展示　対馬　―遺宝にみる交流の足跡―				
開催期間	8 月 8 日(火)～ 9 月 18 日(月・祝)	開催場所	文化交流展示室 基本展示室 5 テーマ、第 11 室	陳列件数（うち指定品件数）	56 件（うち重文 20 件）
内容	対馬の交流が育んだ歴史と文化について、遺跡からの出土品、信仰にまつわる品々、古文書等ゆかりの文化財を紹介した。				
展示名称	特別展示　大分県国東宇佐六郷満山展～神と仏と鬼の郷～				
開催期間	9 月 13 日(水)～ 11 月 5 日(日)	開催場所	文化交流展示室 基本展示室 3 テーマ、 第 5 室・6 室・7 室	陳列件数（うち指定品件数）	45 件（うち重文 6 件）
内容	平成 30 年に六郷満山が開かれて 1300 年となることを記念し、国東半島・宇佐地域で育まれた仏教文化を紹介した。				
展示名称	特別展示　白隠さんと仙厓さん				
開催期間	30 年 1 月 1 日(月・祝)～ 2 月 12 日(月・振休)	開催場所	文化交流展示室 第 11 室	陳列件数（うち指定品件数）	28 件
内容	江戸時代に庶民への布教につとめ、江戸時代の禅宗界に新風を巻き起こした白隠と仙厓の九州に遺る代表的な作品を紹介した。				
展示名称	特別展示　災害に学ぶ・備える　～熊本地震と文化財レスキュー～				
開催期間	30 年 3 月 13 日（火）～ 5 月 6 日（日）	開催場所	文化交流展示室 第 1 室	陳列件数（うち指定品件数）	15 件
内容	熊本地震から 2 年の節目を迎え、熊本における地震の歴史を振り返るとともに被災文化財レスキューの取り組みを紹介した。				
展示名称	新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」				
開催期間	30 年 1 月 1 日(月・祝日)～ 1 月 28 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 9 室	陳列件数（うち指定品件数）	25 件（うち国宝 3 件）
内容	恒例企画。徳川美術館が所蔵する国宝「初音の調度」を紹介するほか、源氏物語図屏風や南部家伝来の婚礼調度を併せて公開。				

(2) 特別展、共催展等（海外展を含む）

展覧会名	日タイ修好130周年記念特別展「タイ～仏の国の輝き～」			
会　　期	4月11日(火)～6月4日(日)（49日間）			
会　　場	九州国立博物館　特別展示室			
主　　催	九州国立博物館・福岡県、タイ王国文化省芸術局、西日本新聞社、ＴＶＱ九州放送、日本経済新聞社、BSジャパン			
作品件数	150件(うち、国宝1件、重要文化財8件)			
来館者数	56,314人(目標来館者数60,000人・達成率93.9%)			
入場料金	一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円			
アンケート結果満足度	89.5%			
講演会等	5回　参加者合計　408人			
	特別講演会			
	期日	講演会名	所属・講師	参加者
	4月29日	日タイ修好130周年記念特別展・学術交流記念講演会 「タイと日本　境界を越えて」 「タイ交流　人とモノ」	タイ芸術局上席専門官 アマラー・シースチャート 学芸部企画課特別展室長　原田あゆみ 学芸部文化財課資料登録室研究員 望月規史	100人
	講演会			
	期日	講演会名	所属・講師	参加者
	4月14日	しっとこ九博 「タイ～仏の国の輝き～」解説講座	学芸部企画課特別展室長　原田あゆみ	56人
	4月22日	アクロス文化学び塾 日タイ修好130周年記念特別展「タイ～仏の国の輝き～」の見どころ	学芸部企画課特別展室長　原田あゆみ	62人
	5月6日	リレー講座 見たい　行きたい　よかタイ！第一回 「山田長政　アユタヤーの日本人」 「タイのごちそう決定版！－ラーマ２世の饗宴詩- 」	学芸部文化財課資料登録室研究員 望月規史 公立大学法人名桜大学教授　山田　均	100人
	5月13日	リレー講座 見たい　行きたい　よかタイ！第二回 「仏陀の足跡を求めて」 「輝ける仏の国　タイ」	学芸部長兼企画課長　小泉惠英 学芸部企画課特別展室長　原田あゆみ	90人
	イベント等			
	期日	イベント名		参加者
	4月9日	いとうせいこうさん・みうらじゅんさんトークショー		550人
	4月11日	タイ芸術局来福特別公演「煌きのタイ～古典舞踊と音楽の世界～」		150人
	4月16日	九州国立博物館杯第7回さいふごま大会 特別展「タイ～仏の国の輝き～」記念		50人
	4月28日～6月3日までの金曜・土曜日（12日間）	夜間開館×特別展「タイ～仏の国の輝き～」記念品プレゼント		863人

展覧会名	特別展「世界遺産　ラスコー展　クロマニョン人が見た世界」			
会　　期	7月11日(火)～9月3日(日)（49日間）			
会　　場	九州国立博物館　特別展示室			
主　　催	九州国立博物館・福岡県、毎日新聞社、RKB毎日放送、西日本新聞社			
作品件数	180件(うち、国宝件、重要文化財件、重要美術品件)			
来館者数	118,555人(目標来館者数60,000人・達成率197.6%)			
入場料金	一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円			
アンケート結果満足度	86.2%			
講演会等	4回　参加者合計　677人			
	特別講演会			
	期日	講演会名	所属・講師	参加者
	7月11日	記念講演会 「クロマニョン人はどこから来たのか?」	本展監修者、国立科学博物館 人類史研究グループ長　海部陽介	259人
	講演会			
	期日	講演会名	所属・講師	参加者
	7月22日	リレー講座 「ラスコー洞窟の壁画を味わう」	学芸部特任研究員　臺信祐爾 学芸部文化財課長　河野一隆	251人
	7月28日	しっとこ九博　「世界遺産ラスコー展～クロマニョン人が見た世界～」解説講座	学芸部文化財課長　河野一隆	37人

	8月5日	トークセッション 「2万年前の壁画から芸術の起源を考える」	本展監修者、国立科学博物館 人類史研究グループ長　海部陽介 エディター・ライター、永青文庫副館長　橋本麻里	130人
	イベント等			
	期日	イベント名		参加者
	7月15日、 8月4日 8月18日 9月1日	ナイトミュージアム　「クロマニョン人現る！！」		ー
	7月16日	九州国立博物館杯第8回さいふごま大会 特別展「ラスコー展～クロマニョン人が見た世界～」記念		80人
	8月5日 8月12日	夏休み特別企画ナイトミュージアム 『きゅーはく夜の洞くつ探検』		90人
	8月25日、 26日、 9月1日、 2日	夜間開館×特別展「世界遺産　ラスコー展　クロマニョン人が見た世界」 梅が枝餅引換券プレゼント		3,094人

展覧会名	**特別展「新・桃山展ー大航海時代の日本の美術」**			
会　　期	10月14日(土)～11月26日(日)（38日間）			
会　　場	九州国立博物館　特別展示室			
主　　催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TNCテレビ西日本			
作品件数	123件(うち、国宝4件、重要文化財28件、重要美術品4件)			
来館者数	87,413人(目標来館者数90,000人・達成率97.1%)			
入場料金	一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円			
アンケート結果　満足度	86.0%			
講演会等	4回　参加者合計　519人			
	講演会			
	期日	講演会名	所属・講師	参加者
	10月15日	直木賞作家 安部龍太郎氏 講演会 「天下人と大航海時代」	直木賞作家 安部龍太郎	216人
	10月21日	リレー講座「大航海時代の世界と日本」 「南蛮美術とビオンボ」 「陶磁器に見る文化交流 －大航海時代がもたらしたもの」	学芸部企画課特別展室主任研究員　鷲頭 桂 学芸部企画課アソシエイトフェロー 酒井田千明	120人
	10月27日	しっとこ九博「新・桃山展ー大航海時代の日本美術」解説講座	学芸部企画課特別展室主任研究員 鷲頭 桂	43人
	10月28日	リレー講座「大航海時代の世界と日本」 「諸史料に見る『安土城図屏風』」 「桃山の茶陶 － 茶碗を中心に － 」	学芸部企画課特別展室研究員　松浦晃佑 副館長　伊藤嘉章	140人
	イベント等			
	期日	イベント名		参加者
	10月12日～ 11月26日	「松林図屏風」（高精細複製品）露出展示		ー
	10月13日～ 11月26日	「黄金の茶室」特別展示		ー
	10月14日	国指定重要無形民俗文化財 幸若舞「敦盛」披露		246人
	10月20日	夜のフォトミュージアム@九州国立博物館		7人
	10月29日	きゅーはく茶会		120人
	11月11日	【ブックオカ タイアップイベント】 星野博美さんトーク「キリシタンの世紀と殉教の記憶をめぐって」		40人
	11月12日	九州国立博物館杯 特別展「新・桃山展～大航海時代の日本美術～」記念 第9回さいふごま大会		60人
	11月23日～ 26日	特別展「新・桃山展～大航海時代の日本美術～」記念　先着300名　ポストカードの配布		1,200人

展覧会名	**特別展「王羲之と日本の書」**
会　　期	30年2月10日(土)～4月8日(日)（50日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、毎日新聞社、RKB毎日放送、西日本新聞社
作品件数	116件(うち、国宝26件、重要文化財18件、重要美術品4件)
来館者数	55,139人(目標来館者数40,000人・達成率ー%)（※30年2月10日～3月31日まで）
入場料金	一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円

アンケート結果　満足度	ー%			
講演会等	2回　参加者合計　640人			
	講演会			
	期日	講演会名	所属・講師	参加者
	30年2月10日	リレー講座「王羲之と日本の書」 「王羲之愛好と書の魅力」	館長　島谷弘幸	320人
	30年2月17日	リレー講座「王羲之と日本の書」 「王羲之愛好と書の魅力」	学芸部文化財課資料登録室長　丸山猶計	320人
	イベント等			
	期日	イベント名		参加者
	30年2月10日、16日、17日、23日、24日、3月2日、3日、9日、10日、16日、17日、23日、24日、30日、31日	プレゼント企画 夜間開館　×　特別展「王羲之と日本の書」 梅ヶ枝餅引換券をプレゼント！		1,060人
	30年 2月11日	【第1回】席上揮毫会（書のデモンストレーション） 出演：黒田賢一先生、陣軍陽先生、岩田海道先生		513人
	30年2月12日	九州国立博物館杯 特別展「王羲之と日本の書」記念 第10回さいふごま大会		40人
	30年 2月18日	【第2回】席上揮毫会（書のデモンストレーション） 出演：髙木聖雨先生、吉田成美先生、吉村宣枝先生		530人
	30年2月23日	特別展「王羲之と日本の書」関連イベント 「つづけ字しおりワークショップ」		60人
	30年3月5日 ～3月8日	書聖　王羲之と日本の書　開催記念 九州国立博物館の島谷館長と行く王羲之の故郷を訪ねる旅		34人
	30年3月18日	高校生書道パフォーマンス		ー人
	30年3月13日 ～3月18日	「九州の現代書壇展」 「西日本書美術協会選抜作家展」		ー人
	30年3月20日 ～3月25日	「九州の現代書壇展」 「西部毎日書道会選抜作家展」		ー人
	30年3月27日 ～4月1日	日中国交正常化45周年記念書道展		ー人
	30年3月27日 ～4月1日	「九州の現代書壇展」 「日本書芸院九州・沖縄選抜作家展」		ー人

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

①開館日数：307日（平常展のみの開館日数：181日）
②展示総件数：560件
③展示替回数：1回
④入場料金：無料
⑤平常展のみの来館者数：51,525人

(2)特別展、企画展等：4件

展覧会名	春期企画展「永野太造作品展―草創期の奈文研を支えた写真家―」		
会　　期	4月29日（土）～5月31日（水）（28日間）	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	45件（0件）
来館者数	21,811人	入場料金	無料
講演会等	なし		

展覧会名	夏期企画展(こども展示)　「ナント！すてきな！？平城生活♪」		
会　　期	7月22日（土）～9月3日（日）（38日間）	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	125件（0件）
来館者数	10,882人	入場料金	無料
講演会等	ギャラリートーク 4回・参加者数合計85人		

展覧会名	秋期特別展「地下の正倉院展ー国宝 平城宮跡出土木簡ー」		
会　　期	10月14日（土）～11月26日（日）（38日間）	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	95件（国宝95件）
来館者数	14,841人	入場料金	無料
講演会等	ギャラリートーク3回・参加者数合計172人		

展覧会名	新春ミニ展示「平城京の戌」		
会　　期	30年1月4日（木）～1月28日（日）（22日間）	会　場	平城宮跡資料館　入口ロビー
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	2件（0件）
来館者数	5,220人	入場料金	無料
講演会等	なし		

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

①開館日数：359日
②展示総件数：534件
③展示替回数：7回
④入場料金：無料
⑤特集陳列等　：7件
⑥平常展来館者数　：8,162人

名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
【特集陳列】		
元日朝賀の儀式のようす（第189次）	4月3日～30年 3月31日	イラスト1
弥生時代の脚付き編みかご	6月23日～30年 3月31日	パネル3
藤原京右京九条二・三坊、瀬田遺跡の調査（187次）	6月29日～30年 3月31日	土器20、縄文土器10
藤原宮朝堂院の調査（189次）	6月29日～30年 3月31日	パネル3
藤原宮大極殿院の調査（190次）	6月29日～30年 3月31日	瓦4
奥山廃寺の素文軒平瓦	6月29日～30年 3月31日	瓦2
飛鳥地域出土の湖西窯産須恵器	6月29日～30年 3月31日	須恵器15

【飛鳥資料館】

(1)平常展

①開館日数：304日（平常展のみの開館日数：118日）
②展示総件数：136件
③展示替回数：2回
④入場料金：一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料　※（　）は20名以上の団体
⑤平常展のみの来館者数：8,319人

(2)特別展、企画展等：4件

展覧会名	春期特別展「藤原京を掘る-藤原京一等地の調査-」		
会　　期	4月28日（金）～7月2日（日）　（57日間）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	250点（0件）
来館者数	9,613人		
入場料金	一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※（　）は20名以上の団体		
講演会	講演会1回　参加者数合計64人		

展覧会名	平成29年度飛鳥資料館夏期企画展「第8回写真コンテスト 飛鳥の路」		
会　　期	7月28日（金）～ 9月3日（日）　（33日間）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	205点（0件）
来館者数	2,930人		
入場料金	一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※（　）は20名以上の団体		
講演会	ー		

展覧会名	秋期特別展「高松塚古墳を掘るー解明された築造方法」		
会　　期	10月6日（金）～12月3日（51日）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	32件（1件）
来館者数	9,877人		
入場料金	一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※（　）は20名以上の団体		
講演会	ギャラリートーク1回、講演会1回　参加者数合計70人		

展覧会名	冬期企画展　「飛鳥の考古学2017」		
会　　期	30年1月26日（金）～3月18日（日）（45日）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	57点（0件）
来館者数	2,957人		
入場料金	一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※（　）は20名以上の団体		
講演会			

b ボランティア受入実績

1 受入人数

平成30年3月31日現在

国立文化財機構計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
1,041人	151人	270人	143人	313人	164人

2 活動内容

【東京国立博物館】 計151人

種別 （登録人数）	概 要
生涯学習ボランティア （143人）	1)各種教育普及事業の補助活動の充実を図る 【教育普及事業の補助】 ・スクールプログラム「はじめての東博」実施（通年） ・学校向けワークショップ補助（通年） ・ファミリー向けワークショップ補助（通年） ・一般向けワークショップ補助（通年） ・工程見本展示鑑賞補助 （通年） ・ギャラリートーク、各種講演会、イベント事業の実施補助(通年) ・教育普及事業の告知(「本日の博物館」シール貼替え・通年) ・東洋館オアシス「アジアの占い体験」実施（通年） ・本館19室みどりのライオン体験コーナー実施（通年） ・日本文化体験補助（通年） 【保存修復事業の補助（通年）】 【館内案内】 ・本館 1階エントランス、2階、17室(通年実施) ・多言語案内・手話の告知バッジによる来館者の案内・誘導(通年) 【資料印刷・作成】 ・点字パンフレットの印刷（通年） ・東洋館オアシススタンプ台紙の印刷（通年） ・たんけんマップの作成・印刷（通年） 【職場体験実施活動補助】 受入数：20校 生徒数：63人 （中学、高校合計数） 【障がい者対応】 ・バリアフリー対応班の発足（31人） ・東京国立博物館紹介パンフレットの点訳版作成(14冊) ・博物館案内・各ガイドにおける聴覚障がい者対応のためのコミュニケーションボードの使用(通年) ・触知図を使用した館内案内（通年） ・盲学校のためのスクールプログラムの実施補助（通年） ・UDトーク実証実験におけるボランティア意見交換(1回) 【各種連携事業】 ・「キッズデー」（7月30日）内プログラム アートスタジオ、刀剣・武士の装いツアー、考古展示室ガイド、キッズデー特設案内所、ワークショップ補助、キッズコーナー補助 ・「留学生の日」(11月3日)内プログラム ボランティアによる茶会、たてもの散歩ツアー、考古展示室ガイド、彫刻ガイド、陶磁ガイド、本館ハイライトツアー、英語ガイド実施、館内案内 ・「博物館でアジアの旅」(9月5日～10月15日)内プログラム たてもの散歩ツアー、彫刻ガイド、東洋館ツアー ・「博物館でお花見を」（平成29年4月1日～9日、平成30年3月13日～31日内プログラム） 樹木ツアー、本館ハイライトツアー、たてもの散歩ツアー、東洋館ツアー、英語ガイド、近代の美術ガイド、庭園茶室ツアー、法隆寺宝物館、アートスタジオ、浮世絵ガイド、お茶会、彫刻ガイド 【ボランティアデー開催】 ・新規ボランティア募集説明会、ボランティアによる活動紹介ツアー、各ガイドツアー、お茶会の実施（12月1・2日） 2)来館者参加型ガイドツアー等の実施361回14,773人 自主企画プログラム（予約ガイド、各種連携事業、留学生の日、ボランティアデーにおける対応を含む。一日複数回実施の場合は、延べ回数） ・樹木ツアー 23回627人参加 ・浮世絵ガイド 20回902人 ・本館ハイライトツアー 39回2,379人 ・法隆寺宝物館ガイド 38回1,854人 ・考古展示室ガイド 28回1,237人 ・陶磁ガイド 10回308人 ・庭園茶室ツアー 12回209人

種別 （登録人数）	概　　要
	・お茶会　26回387人 ・彫刻ガイド　37回1,813人 ・英語ガイド　31回1,043人（留学生の日の定点ガイド含む） ・アートスタジオ　11回312人 ・たてもの散歩ツアー　31回1,211人 ・近代の美術ガイド　13回532人 ・東洋館ツアー　24回812人 ・刀剣・武士の装いツアー　14回999人 ・ボランティア活動紹介ツアー　4回148人
東京芸術大学大学院インターンシップ (8人)	当館研究員と東京芸術大学大学院生が連携し準備、事業を行った。学生の貴重な経験や研究の一助となり、かつ、来館者にとっても展示についての理解を深めるきっかけとなった。 【ギャラリートーク(研究発表)班】2名 総合文化展展示作品に関するギャラリートークを展示室で行った。【計12回、556人】 「東魏の如来三尊立像」6回、213人 「横山大観の出世作を読み解く」6回、343人 【調査研究班】6名 沖縄の「紅型」をテーマに調査、工程見本の制作、展示、パンフレット作成、ギャラリートーク、ワークショップを行った。 ・ギャラリートーク 「紅型ができるまで」10回、294人 ・ワークショップ 「古典紅型のトートバッグを作ろう」(子供向け)1回、17人 「彫って・染めて　古典紅型を体験しよう」(一般向け)1回、11人 ※「東京藝術大学大学院インターンシップ」は、従前との比較のため、ボランティア数の内数として計上している。従前の「東京芸術大学学生ボランティア」を25年4月より名称変更し、現在は「1 (3) ①3」大学との連携事業等の実施」の事業である。詳細は処理番号1313Aを参照。

【生涯学習ボランティアに対する研修の実施】　計65回
- ・新規ボランティア研修　3回
- ・活動紹介ツアー研修　8回
- ・バリアフリー班研修　6回
- ・イベント班研修　1回
- ・ワークショップ班研修　3回
- ・スクールプログラム班研修　7回
- ・保存修復班研修　1回
- ・日本文化体験研修　32回
- ・英語研修　1回
- ・防災訓練　1回
- ・自主企画グループ研修　2回

【生涯学習ボランティアに対する解説会の実施】(以下の展示等につき実施)　計4回
- ・特別展「茶の湯」　1回
- ・親と子のギャラリー「びょうぶとあそぶ」1回
- ・特別展「運慶」1回
- ・特別展「仁和寺と御室派のみほとけ」1回

【京都国立博物館】　計270人

種　別 （登録人数）	概　　要
京博ナビゲーター（208人）	京博ナビゲーター（ボランティア）が、下記の活動を行った ・ミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにおける活動（年始を除く名品ギャラリー開室日毎日、173日、概算36,809人） ・特別展覧会「海北友松」ワークショップ「描いてみよう！墨の線」（36日、11,508人参加） ・特別展覧会「国宝」関連　特別版ミュージアム・カート「金印」「桜ヶ丘銅鐸」ほか（48日、概算189,000人参加） ・教育普及活動の補助（夏期講座） そのほか、京博ナビゲーターを対象とした研修会（6回）、卒業式（1回）、新規ナビゲーターに向けた説明会（4回）、面談（6回）、基礎講座（8回）を実施した。
調査・研究支援ボランティア(29人)	各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。
文化財ソムリエ(18人)	「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生が、当館研究員によるスクーリング（21回）を受けたのち、京都市内の小中学校訪問授業において下記の通り講師をつとめた。 6月7日（京都市立七条第三小学校）、7月12日（京都市立大宮小学校）、9月13日（京都市立嵐山東小学校）、10月12日（京都市立乾隆小学校）、10月30日（京都市立鳳徳小学校）、11月15日（京都市立新林小学校）、12月11日（京都市立七条中学校）
京都・らくご博物館学生ボランティア（15人）	年4回当館主催で開催する「京都・らくご博物館」において、京都女子大学落語研究会の有志が運営に協力した。

【奈良国立博物館】　計143人

種　別（登録人数）	概　　要
世界遺産グループ(48人)	【世界遺産学習】 奈良市の公立小学校5年生の受け入れ　32校　2,022人 【学校団体案内】 ・幼稚園、小学生、中学生、高校生（外国人含む）　20校　1,001人 【イベント補助】 ・特別展「快慶」関連イベント 親と子のワークショップ「着て楽しむ！ほとけさまのファッション」1回 ・奈良市教育委員会との共催イベント「親子で学ぼう博物館」　2回　18組 【掃除】 ・スタッフルーム　4回
解説グループ(61人)	【通年の活動】 ・青銅器館のデスクでの質問対応と解説　　通年（294日） ・地下回廊・パネル展示のデスクでの質問対応と解説　通年（283日） ・なら仏像館のデスクでの質問対応と解説　　通年（600日） ・西新館名品展のデスクでの質問対応と解説　77日 【展示案内】 ・なら仏像館ミニツアー解説　通年（600回） ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」の質問対応（12月9日～１月14日）　23日 ・特別陳列「お水取り」の質問対応（2月6日～3月14日）35日 ・特別陳列「お水取り」ミニツアー解説（3月1日～3月14日）14日（27回） 【その他、予約による解説実施】　17件 【中学生職場体験　館内案内】　　3件 【掃除】 ・スタッフルーム　3回
サポートグループ（34人）	【教育普及事業の補助】 ・公開講座の受付　　11回 ・サンデートークの受付　12回 ・夏季講座の受付　　3日 【イベントの補助】 ・親と子のワークショップ「着て楽しむ！ほとけさまのファッション」　受付と補助　1回 ・親子講座「エンマ様と地獄めぐり」　受付と補助　1回 ・親子講座「つくってわかる！立体地獄絵」　受付と補助　1回 ・アンケート調査　受付と補助　20回 ・第69回正倉院展親子鑑賞会　受付と補助　1回 ・奈良トライアングルミュージアムワークショップ　写仏散華づくり　受付と補助　1回 ・「文化財保存修理所特別公開」受付と補助　1回 ・お水取り「講話」と「粥」の会　受付と補助　1回 ・奈良国立博物館文化大使「笑い飯哲夫のおもしろ仏教講座」受付と補助　1回 【館及びボランティア室の業務の補助】 ・第69回夏季講座の配布資料袋詰め作業　1回 ・正倉院学術シンポジウムの配布資料袋詰め作業　1回 ・ボランティア対象の各種研修等の受付　16回 【掃除】 ・スタッフルーム　　3回 【交流チームの活動】 ・社寺旧跡等の見学会の実施　2回　189人（参加数） ・H27年度ボランティア修了式と茶話会　153人（参加数） 【庭園チームの活動】 ・春の茶室庭園ツアーの立案と実施　2日　447人（雨天によりピロティーからの案内） ・秋の茶室庭園ツアーの立案と実施　2日　50人　（うち、1日は雨天のため中止） ・仏教美術資料研究センター公開の立案と実施　1日　516人（参加数） 【通信誌チームの活動】 ・ボランティア通信誌「ブリッジ」発行　4回

【ボランティアに対する研修の実施】　計16回
- ・名品展研修　10回
- ・特別展、特別陳列、特集展示の研修　6回

【グループ別の勉強会の実施】計24回
- ・世界遺産グループ　　8回
- ・解説グループ　　11回
- ・サポートグループ　　8回

【各グループ共通の活動】
- ・第69回正倉院展・講堂ボランティア解説　17日　97回
- ・第2回ボランティア･フェスタ　12月17日（14のブース）
  - ･特別陳列｢おん祭と春日信仰の美術｣解説デスク
  - ・特別陳列｢おん祭と春日信仰の美術｣解説ツアー　2回
  - ・名品展解説デスク
  - ・青銅器館解説デスク
  - ・なら仏像館解説デスク（大人用、子ども用）
  - ・なら仏像館解説ツアー　4回

・ワークショップ折り紙
・ワークショップ大仏穴くぐり
・ワークショップ散華つくり
・ワークショップ梵字を書こう
・ワークショップ仏像に変身しよう！
・いろいろクイズ
・ボランティア活動紹介（パネル）
・奈良博魅力発見（パネル）

【九州国立博物館】　計　313人

種　別　(登録人数)	概　　要
展示解説ボランティア (68人)	文化交流展示室での案内、及び展示室内及び展示室入口において来館者の質問や案内依頼等に対応。 展示案内は予約団体(一般・学校)、当日受付(個人・グループ)に対応。
教育普及ボランティア (35人)	「あじっぱ」で来館者への対応。 参加体験型のものづくり教室などを企画・実施。 来館者と展示物を介して交流し、体験を通してアジアの文化を伝える。
館内案内日本語ボランティア (30人)	館内の概要・施設案内(ガイド)およびバックヤードツアーの案内。 館内案内は予約団体(一般・学生)、及び当日来館者に対応。 バックヤードツアーも毎週火・金曜は予約団体のみ、日曜は当日受付で実施。
外国語案内ボランティア (66人)	英語・韓国語・中国語で、館内のガイド。
環境ボランティア (35人)	IPM(総合的有害生物管理)活動に関する支援。
イベントボランティア (3人)	お正月、昭和の日、七夕関連のボランティアイベントの企画・立案・実施。
資料整理ボランティア (18人)	郷土人形(土人形)の調書の作成・データ化。 あじぎゃらでの郷土人形の企画展示。
サポートボランティア (13人)	ボランティア広報紙の作成（年４回）や他部会のボランティアのイベント等の活動のサポート。 ボランティア同士の横のつながりや、他館ボランティアとの交流の構築。
学生ボランティア (8人)	他部会のボランティアの活動のサポート。 各種イベントの企画・立案・実施。
フィールドボランティア〔新設〕 (13人)	博物館周辺の自然環境（山林及び水辺、遊歩道）の保全。
手話ボランティアグループ （24人）	聴覚障がいのある来館者の対応。

・この他、博物館周辺の環境整備活動グループとして35人が活動。
（上記35名は、九州国立博物館を愛する会所属のため、ボランティアではない。）
(研修)全体研修　4回、部会別研修　40回、グループ研修　40回
(対応来館者数) 展示解説(8,289人)、館内案内(8,544人)、バックヤードツアー(3,711人)

【奈良文化財研究所】　計164人

種　別　(登録人数)	概　　要
解説ボランティア（164人）	平城宮跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説

・各種ボランティアに対する学習会等
平城宮跡資料館夏期企画展・特別展の展示研修　5回
解説ボランティア基礎研修　3回
解説ボランティア向け現地説明会　1回
解説ボランティア勉強会　6回

c 調査研究

c-① 研究交流実績一覧

1) 海外研究者招聘・受入実績（延べ人数）

平成30年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
328 人	63 人	35 人	2 人	17 人	9 人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	200 人	30 人		170 人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		文化財防災ネットワーク推進本部		
	44 人		21 人		

【東京国立博物館】延べ　35人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	サクチャイ・サーイシン	タイ	シラパコーン大学教授	国際シンポジウム「タイの仏教美術と王権」における講演及び調査のため	7 月 13 日～7 月 18 日
2	ルンロート・タムルンルアン	同上	シラパコーン大学准教授	同上	7月13日～7月18日
3	ナタパット・チャンタウィット	同上	元タイ芸術局上席専門官／タイ芸術局国立博物館部職員	同上	7月13日～7月18日
4	パノムブート・チャンドラチョート	タイ	タイ王国文化省芸術局国立博物館事務局長	特別展「タイ～仏の国の輝き～」にかかる相互交流促進のため	8月24日
5	尹　芝蓮	韓国	韓国国立中央博物館学芸研究室研究企画部学芸員	東京国立博物館・大韓民国国立中央博物館間の学術交流のため	10月17日～10月26日
6	顧　潔燕	中国	中国上海科学技術館展示教育部部長	日本・中国間の文化交流および博物館教育普及活動の実施に関する情報の交換、協力関係の推進を図るため	11月19日～11月23日
7	徐　蕾	同上	中国上海科学技術館教育開発課課長	同上	11月19日～11月23日
8	朱　嶠	同上	中国上海科学技術館教育開発課職員	同上	11月19日～11月23日
9	李　柏華	同上	上海博物館青銅研究部研究館員	東京国立博物館・上海博物館間の2017年度学術交流のため	11月20日～11月29日
10	包　燕麗	同上	上海博物館工芸研究部主任研究館員	同上	11月20日～11月29日
11	朴　鉉澤	韓国	韓国国立中央博物館教育文化交流団デザインチーム　デザイン専門経歴官	東京国立博物館・大韓民国国立中央博物館間の学術交流のため	11月21日～12月4日
12	Dr. Monika Bincsik	米国	メトロポリタン美術館	北米欧州ミュージアム日本専門家連携交流事業参加のため	30年1月12日～1月19日
13	Dr. Anne Nishimura Morse	同上	ボストン美術館	同上	30年1月12日～1月19日
14	Dr. Sinéad Vilbar	同上	クリーブランド美術館	同上	30年1月12日～1月19日
15	Dr. Andreas Marks	同上	ミネアポリス美術館	同上	30年1月12日～1月19日
16	Dr. Laura Allen	同上	サンフランシスコ・アジア美術館	同上	30年1月12日～1月19日
17	Mr. Tim Clark	英国	大英博物館	同上	30年1月12日～1月19日
18	Dr. Rupert Faulkner	同上	ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館	同上	30年1月12日～1月19日
19	Dr. Daan Kok	オランダ	ライデン国立民族学博物館	同上	30年1月12日～1月19日
20	Dr. Rosina Buckland	英国	スコットランド国立博物館	同上	30年1月12日～1月19日
21	Mr. Michel Maucuer	フランス	フランス国立ギメ東洋美術館	同上	30年1月12日～1月19日
22	Ms. Ainura Yusupova	ロシア	プーシキン美術館	北米欧州ミュージアム日本専門家連携交流事業参加のため	30年1月12日～1月19日
23	Ms. Mary Redfern	アイルランド	チェスター・ビーティー・ライブラリー	同上	30年1月12日～1月19日
24	Dr. Rhiannon Paget	米国	ザ・リングリング美術館	同上	30年1月12日～1月19日
25	Ms. Anna Kamenskikh	ロシア	プーシキン美術館	同上	30年1月12日～1月19日
26	Mr. Sergey Shandyba	同上	国立宗教歴史博物館（サンクトペテルブルク）	同上	30年1月12日～1月19日
27	Dr. Aaron Rio	米国	ミネアポリス美術館	同上	30年1月12日～1月19日
28	Mr. Andrew Gutierrez	同上	クリーブランド美術館	同上	30年1月12日～1月19日
29	Dr. Yuki Morishima	同上	サンフランシスコ・アジア美術館	同上	30年1月12日～1月19日
30	Ms. Silvia Gaetti	ドイツ	グラッシィ工芸美術館（ライプツィヒ）	同上	30年1月12日～1月19日
31	Dr. Louise Boyd	英国	スコットランド国立博物館	同上	30年1月12日～1月19日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
32	Dr. Marketa Hanova	チェコ	プラハ国立美術館	同上	30年1月12日～1月19日
33	Ms. Mirjam Denes	ハンガリー	フェレンツ・ホップ東洋美術館（ブダペスト）	同上	30年1月12日～1月19日
34	Dr. Jeannie Kenmotsu	米国	ポートランド美術館	同上	30年1月12日～1月19日
35	Dr. Akiko Yano	英国	大英博物館	同上	30年1月12日～1月19日

【京都国立博物館】　2人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Suay Fatama Aksoy	トルコ	ICOM 会長	国際博物館の日シンポジウムへの参加、ICOM京都大会に関する打合せ	5月17日～5月22日
2	HEDLEY SWAIN	イギリス	ブリティッシュ・カウンシル・統括責任者代理	イギリスにおける最新文化政策動向とオリンピック文化プログラム講演会・ワークショップ	9月21日～9月29日

【奈良国立博物館】　延べ　17人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Jennifer Casler Price	アメリカ	キンベル美術館学芸員	特別展「快慶　日本人を魅了した仏のかたち」にかかる作品点検及び輸送作業のため	3月29日～4月3日
2	Matthew Siegal	同上	ボストン美術館美術保存修復・収集管理室長	同上	4月1日～4月5日
3	Daniel Hausdorf	同上	メトロポリタン美術館アシスタントコンサバター	同上	4月1日～4月7日
4	金　赫中	韓国	慶州博物館学芸研究士	両博物館における文化財の調査研究及び保存・展示等の協力関係を推進するため	4月12日～5月11日
5	Daniel Hausdorf	アメリカ	メトロポリタン美術館アシスタントコンサバター	特別展「快慶　日本人を魅了した仏のかたち」作品点検、返却作業のため	6月8日～6月14日
6	Abigail Hykin	同上	ボストン美術館コンサバター	同上	6月8日～6月14日
7	Claire Barry	同上	キンベル美術館コンサバター	同上	6月9日～6月14日
8	魏　祝挺	中国	浙江省博物館歴史文物部研究員	日本と中国の文化財に関わる研究の発展及び両国間の学術交流の進展に資するため	7月1日～8月31日
9	兪　炳夏	韓国	慶州博物館館長	第69回正倉院展視察並びに当館職員との意見交換のため	10月26日～10月28日
10	李　在勧	同上	慶州博物館防護書記	同上	10月26日～10月28日
11	李　泰熹	同上	慶州博物館学芸研究士	両博物館における文化財の調査研究及び保存・展示等の協力関係を推進するため	11月16日～12月15日
12	馬　蕭林	中国	河南博物院院長	同上	11月27日～12月1日
13	楊　楊	同上	河南博物院事務室人事課長	同上	11月27日～12月1日
14	閻　国宇	同上	河南博物院社会教育サービス部ボランティア担当	同上	11月27日～12月1日
15	趙　岑瑒	同上	上海博物館保管部副主任館員	両博物館における文化財の調査研究及び保存・展示等の協力関係を推進するため	12月12日～12月21日
16	王　佳	同上	上海博物館展覧部館員	同上	12月12日～12月21日
17	董　衛平	同上	上海博物館陳列設計部副研究員	同上	12月12日～12月21日

【九州国立博物館】　延べ　9人

	氏名	国名	所属機関・役職	用務	期間
1	タッチャソーン・タンテイウォン	タイ王国	バンコク国立博物館・学芸員	特別展「タイ～仏の国の輝き～」作品点検・陳列指導	4月1日～4月10日
2	アマラー・シースチャート	同上	タイ王国芸術局・上席専門官	日タイ修好130周年記念特別展「タイ～仏の国の輝き～」学術交流記念講演会講師	4月28日～4月30日
3	高田知仁	同上	サイアム大学教養学部日本語コミュニケーション学科・学科長	基盤研究（B)「日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究」に係る打合せ	5月13日～5月15日
4	ソラリン・チャルーンナパー	同上	タイ国立博物館事務局保存修復部	特別展「タイ～仏の国の輝き～」作品の点検並びに撤収作業	6月4日～6月11日
5	ソムラック・カムトロン	同上	プラパトムチェーディー国立博物館・主任	同上	6月4日～6月11日
6	トーマス・ストラング	カナダ	Canadian Conservation Institute・Senior Conservation Scientist	科学研究費助成事業（基盤Ａ）「彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討」に係る研究打合せおよび調査	10月21日～11月2日
7	ウバルド・チェザーリオ	イタリア	Istituto Centrale per il Restauro e la Conservazionedel Patrimonio Archivistico e Librario・External collaborator	IPMセミナーの実施に係る協力及び打合せ	10月21日～10月28日
8	明　世羅	韓国	国立公州博物館学芸研究士	学術文化交流協定に基づく研究者等の交流	12月4日～12月17日
9	申　明熙	同上	同上	同上	12月4日～12月17日

※上記には、他機関が招聘し、九州国立博物館を訪問（滞在）したものや、自己負担での外国人研究者の訪問実績は含んでいない。
※上記には、日本国内の機関（大学、研究所等）に所属する外国人研究者の招聘は含んでいない。

【東京文化財研究所】延べ　30人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Mohammad Hassan Talebian	イラン	イラン文化遺産手工芸観光庁	「イラン文化遺産セミナー」への講演	4月1日～4月2日
2	Seyed Mohammad Beheshti	同上	イラン文化遺産観光研究所	同上	同上
3	BARTYZALOVÁ Barbora	チェコ共和国	プラハ国立美術館	国際研修参加のため	8月27日～9月16日
4	BENNETT R. William III	アメリカ	スミソニアン協会文書館	同上	同上
5	BOFFO Rocío María	アルゼンチン	国立東洋美術館	同上	8月24日～9月16日
6	CRELENCIA Anne Rosette	フィリピン	フィリピン国立図書館	同上	8月27日～9月16日
7	DAUGULE-BALODE Iveta ダウグル・バロデ イヴェタ	ラトビア	ラトビア国立図書館	同上	同上
8	ELGAR Jacki	アメリカ	ボストン美術館	同上	同上
9	ELPER Timna	イスラエル	イスラエル国立図書館	同上	8月27日～9月17日
10	GKINNI Zoitsa	ギリシャ	ギリシャ国立図書館	同上	8月27日～9月16日
11	McKAY Prue Alison	オーストラリア	オーストラリア国立公文書館	同上	同上
12	TSUI Wai-shan	中国	香港特別行政区レジャー文化サービス事務署文物修復事務所	同上	同上
13	Pierre Tarjanian	アメリカ	メトロポリタン美術館	西洋武器の専門家による実見調査及び研究会参加のため	9月16日～9月23日
14	Johannes Widodo	シンガポール共和国	シンガポール国立大学	国際シンポジウム「東南アジアの歴史的都市のまちづくり」参加のため	10月6日～10月9日
15	Liang Chow Ming (Clement)	マレーシア	ペナン・ヘリテージ・トラスト	同上	10月5日～10月9日
16	Moe Moe Lwin	ミャンマー連邦共和国	ヤンゴン・ヘリテージ・トラスト	同上	同上
17	Maw Lin	同上	リビングデザインアーキテクツアンドプランナーズ	同上	同上
18	Eric Babar Zerrudo	フィリピン	聖トマス大学 熱帯の文化財及び自然環境保護センター	同上	10月6日～10月9日
19	Nguyen Su	ベトナム社会主義共和国		同上	10月5日～10月9日
20	Parastou Naeimi Taraei	イラン	文化財保存研究所（RCCCR）	セミナー「博物館収蔵品に影響を与える空気汚染と博物館の環境管理」の講演者として招へい	10月29日～11月5日
21	Maryam Ahmadi	同上	イラン国立博物館	同上	同上
22	Christina HAGELSKAMP	アメリカ	メトロポリタン美術館	評価セミナー2017：ワークショップ「漆工芸品の保存と修復」参加のため	11月6日～11月10日
23	Magdalena KOZAR	ドイツ	ドレスデン陶磁器コレクション	同上	同上
24	Delphine MESMAEKER	ベルギー	王立美術歴史博物館	同上	同上
25	Andreas SAMPATAKOS	ギリシア	アテネ応用科学大学	同上	同上
26	Kathleen Salomon	アメリカ	ゲッティ研究所	文化庁平成29年度外国人芸術家・文化財専門家招へい事業	12月4日～12月10日
27	朴原模	韓国	ユネスコアジア太平洋無形文化遺産国際情報・ネットワーキングセンター	第12回無形民俗文化財研究協議会での発表・パネルディスカッションへの参加のため	12月16日～12月19日
28	Jacques GAUCHER	カンボジア（フランス国籍）	フランス極東学院アンコールトム考古調査隊	研究会「東南アジアの古代都市を考える」での講演、参加のため	30年1月18日～1月26日
29	Bob HUDSON	オーストラリア	シドニー大学アジア学部	同上	30年1月17日～1月23日
30	Camillo Nuti	イタリア	ローマ第三大学建築学部	二神科研「空間情報データベースによる文化財の災害被害予測の高度化及び防災計画策定への応用」の研究遂行のための情報交換	30年1月28日～2月2日

【奈良文化財研究所】延べ　170人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	PLOKINGHORNE Martin	オーストラリア	フリンダース大学・主任研究員	日本学術振興会 外国人招へい研究者	3月31日～11月18日
2～7	王天勁 他5名	中国	河南省文物建築保護研究院・副所長	平城宮跡見学（朱雀門・大極殿・発掘現場）	6月7日
8	李桂憲	韓国	扶余文化財研究所・所長	百済帝釈寺址の調査現状と今後の課題について講演	6月13日
9	李龙彬 (LI LONGBIN)	中国	遼寧省文物考古研究所・副所長	共同研究遂行にむけた協議、学術交流	6月24日～7月1日
10	谷丽芬 (GU LIFEN)	同上	遼寧省文物考古研究所・館員	同上	6月24日～7月1日
11	徐政 (XU ZHENG)	同上	同上	同上	6月24日～7月1日
12	苏军强(SU JUNQIANG)	同上	同上	同上	6月24日～7月1日
13～37	張冠梓 他24名	同上	社会科学院青年研究者代表団・人事教育局長	平城資料館、大極殿、遺構展示館見学	6月30日
38～43	金東烈 他5名	韓国	国立文化財研究所建築文化財研究室・学芸研究士	皇龍寺回廊考察研究のための日本事例調査と研究交流および日本古代建築道具研究現況把握のための基礎資料収集	7月12日
44	李喜永(Lee Hee-young)	同上	国立文化財研究所・林業事業官	共同研究	7月18日～7月22日
45	李元浩(Lee Won-ho)	同上	国立文化財研究所・学芸研究士	同上	7月18日～7月22日
46	羅明河(Na Moung-ha)	韓国	国立文化財研究所・自然文化財研究室長	同上	7月18日～7月22日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
47～50	ノ・ヘミン 他3名	同上	翰林大学・学生	奈文研の業務内容と日本文化財管理・維持・活用についての質問	8月1日
51～59	邱佳慧 他8名	台湾	台湾医学大学・副教授	研究所見学	8月9日
60～61	M.K.ピーターソン 他1名	ミクロネシア	ポーンペイ州知事	研究所の概要説明、平城宮跡資料館・第一次大極殿・遺構展示館見学	8月11日
62	Than Than Thein	ミャンマー	ヤンゴン大学考古学部・講師	陶磁器の調査方法に関する研修に参加	8月21日～8月27日
63	Naing Naing Lay Maw	同上	ヤンゴン大学考古学部・准講師	同上	8月21日～8月27日
64	Ei Shwe Phyo	同上	ヤンゴン大学・大学院生	同上	8月21日～8月27日
65	劉海旺(Liu Haiwang)	中国	河南省文物考古研究院・院長	共同研究	9月11日～9月15日
66	趙志文(Zhao Zhiwen)	同上	河南省文物考古研究院・研究員	同上	9月11日～9月15日
67	李暁莉(Li Xiaoli)	同上	河南省文物考古研究院・館員	同上	9月11日～9月15日
68	唐静(Tang Jing)	同上	河南省文物考古研究院・館員	同上	9月11日～9月15日
69	王琴(Wang Qin)	同上	河南省文物局文物資源管理与開発利用処・処長	同上	9月11日～9月15日
70	鄭 聖睦(ジョン ソンモク)	韓国	慶州文化財研究所・學藝研究士	共同発掘調査	9月11日～11月2日
71	Kyaw Myo Win	ミャンマー	ミャンマー宗教文化省世界遺産部・副部長	考古遺跡の調査方法に関する研修に参加	10月15日～10月21日
72	Kyaw Nyi Nyi Htet	同上	ミャンマー宗教文化省ピイ考古学フィールドスクール・講師	同上	10月15日～10月21日
73	Htun Htun Aye	同上	ミャンマー宗教文化省世界遺産部・部長補佐	同上	10月15日～10月21日
74～76	Nikolau Daloracika Tokainabatu 他2名	フィジー	フィジー博物館考古室・現地調査官	ACCUによる文化遺産の保護に資する研修	10月23日～10月24日
77～78	Jethro Tulupul Stalen 他1名	パプアニューギニア	パプアニューギニア国立美術博物館保存室・主任保存技師	同上	10月23日～10月24日
79	Grinta Gay Ale'eke(グリンタ ゲイ アレエケ)	ソロモン諸島	文化観光省ソロモン諸島国立博物館考古室・考古調査員	同上	10月23日～10月24日
80	李有骞(Li Youqian)	中国	黒龍江省文物考古研究所 副研究館員	「東アジアにおける旧石器・新石器過渡期の基礎的研究」のため	10月23日～10月29日
81	李罡(Li Gang)	同上	河北大学歴史学院　講師	同上	10月23日～10月29日
82	岳健平(Yue Jianping)	同上	脊椎動物与古人類研究所　博士研究生	同上	10月23日～10月29日
83～88	呂静 他5名	同上	復旦大学文物与博物館額系・教授	都城発掘調査部、埋蔵文化財センター訪問	10月25日
89～118	計30名	台湾	国立台北芸術大学文化資源学院・大学院生	平城宮跡および奈良文化財研究所の見学	12月6日
119～120	Yunus Arbi 他1名	インドネシア	教育文化省世界文化遺産課・課長補佐	平城宮跡の管理について視察	12月12日
121	鄭仁郎(Jeong In-tae)	韓国	国立伽耶文化財研究所・学芸研究士	共同研究	12月18日～12月22日
122	尹亨準(Yoon Hyung-jun)	同上	同上	同上	12月18日～12月22日
123	呉東壎(Oh Dong-sun)	同上	同上	同上	12月18日～12月22日
124～135	LI JIN(李瑾) 他11名	中国	成都市木造歴史的建造物研修団・団長(成都市文化広電新聞出版局博物館処・処長)	文化財建造物を中心とする文化遺産の保存・活用研究の取り組みについて視察	12月20日
136	韓志仙(Han Ji-sun)	韓国	国立中原文化財研究所・学芸研究士	共同研究	1月15日～1月19日
137	姜素英(Kang So-yeong)	同上	国立文化財研究所・学芸研究士	同上	1月15日～1月19日
138	李志映(Lee Ji-young)	同上	国立羅州文化財研究所・学芸研究士	同上	1月15日～1月19日
139	李恩碩(Lee Eun-seok)	同上	国立海洋文化財研究所・海洋遺物研究課長	同上	1月15日～1月19日
140	黄仁鎬(Hwang In-ho)	同上	国立文化財研究所・学芸研究官	同上	1月15日～1月19日
141	田傭昊(Jeon Yong-ho)	同上	国立文化財研究所・学芸研究士	同上	1月15日～1月19日
142～151	Ibrahim Baris SARICA 他9名	トルコ	文化観光庁文化遺産博物館局博物館本部・考古学専門家	JICA国別研修「トルコ博物館及び文化財の自然災害からの保護に係る能力開発」	1月29日
152	文玉賢(Moon Ok-hyun)	韓国	国立中原文化財研究所・学芸研究士	共同研究	2月20日～2月23日
153	張誠允(ang Sung-yoon)	同上	国立文化財研究所・学芸研究士	同上	2月20日～2月23日
154	李仁淑(Lee In-suk)	同上	国立慶州文化財研究所・学芸研究士	同上	2月20日～2月23日
155	陳星燦(Chen Xingcan)	中国	社会科学院文物考古研究所・所長	同上	2月26日～3月2日
156	朱岩石(Zhu Yanshi)	同上	社会科学院考古研究所・副所長	同上	2月26日～3月2日
157	劉国祥(Liu Guoxiang)	同上	社会科学院考古研究所・科研処長	同上	2月26日～3月2日
158～162	権宅章 他4名	韓国	文化財庁新羅王京核心遺跡復元整備事業推進団・学芸研究官(チーム長)	第一次大極殿員築地回廊復元関連の発掘および復元考証研究	2月27日～3月1日
163	TALGAT MAMIROV	カザフスタン	国立博物館国家遺産研究所・考古遺産部長	「東アジア旧石器・新石器移行期の基礎的研究」のため	3月2日～3月13日
164	Young Ratana	カンボジア	国立芸術大学・准教授	共同研究	3月4日～3月11日
165	Thach Phanith	同上	国立芸術大学・卒業生	同上	3月4日～3月11日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
166	El Puthipor	同上	国立芸術大学・卒業生	共同研究	3月4日～3月11日
167	TAIMAGAMBETOV ZHAKEN	カザフスタン	国立博物館・館長代理	共同研究成果の発表および、来年度調査研究について打合せ	3月21日～3月24日
168	SADUOV ASSILKHAN	同上	カザフスタン文書センター・所長	同上	3月21日～3月24日
169	UALIYEV KUATZHAN	同上	スポーツ･文化省・官房長	同上	3月21日～3月24日
170	YU CHONG	中国	中山大学社会学与人類学学院・副研究員	広東省で実施している貝塚遺跡に関する資料調査および、今後の分析研究に関する協議のため	3月25日～3月31日

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ　44人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Micheal FOSTER	アメリカ	Professor, Department of East Asian Language and Cultures, University of California, Davis	国際シンポジウム「無形文化遺産をグローカルに見る―地域社会と研究者、国家、ユネスコの相互作用―」出席	7月7日～9日
2	Noriko AIKAWA-FAURE	フランス	Former Director/Chief, The Intangible Cultural Heritage Section, UNESCO	同上	7月7日～9日
3	Tim CURTIS	同上	Section Chief, Intangible Cultural Heritage Section, UNESCO	同上	7月7日～9日
4	Hanhee HAHM	韓国	Professor, Department of Archaeological and Cultural Anthropology, Chonbuk National University	同上	7月7日～9日
5	Thi Hien NGUYEN	ベトナム	Vice Director, Center for Cultural Heritage, Vietnam National Institute of Culture and Arts Studies	同上	7月7日～9日
6	Youngjoon HA	韓国	President, Yeongsang Tug of War Preservation Society	同上	7月7日～9日
7	Deming AN	中国	Researcher, Institute of Literature, Chinese Academy of Social Sciences	同上	7月7日～9日
8	Alexandra DENES	タイ	Lecturer, Department of Media Arts and Design, Chiang Mai University	同上	7月7日～9日
9	Janet Elizabeth BLAKE	イラン	Associate Professor, Department of Islamic Law, Faculty of Law, Shahid Beheshti University	同上	7月7日～9日
10	Vayalkara JAYARAJAN	インド	Chairman Folkland, International Centre for Folklore and Culture	同上	7月7日～9日
11	Yiqi HA	中国	The Fourth Generation Successor of Chinese Hashi-Style Kite	同上	7月7日～9日
12	Meredith WILSON	仏領ポリネシア	Research Associate, Stepwise Heritage and Tourism Pty. Ltd, Australia	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるバヌアツ調査	7月17日～25日
13	Svanibor PETTAN	スロベニア	Professor, Department of Musicology, Faculty of Arts, University of Ljubljana, Slovenia / Vice-President, International Council for Traditional Music (ICTM)	国際シンポジウム2017「無形文化遺産をめぐる交渉」出席	11月29日～12月2日
14	William NITZKY	アメリカ	Assistant Professor, Department of Anthropology, California State University, Chico	同上	11月29日～12月2日
15	Vicente DIAZ	同上	Associate Professor, Department of American Indian Studies, University of Minnesota Twin Cities	同上	11月29日～12月2日
16	Analyn SALVADOR-AMORES	フィリピン	Associate Professor of Social Anthropology and Director of the Museo Kordilyera Ethnographic Museum, University of the Philippines, Baguio	同上	11月29日～12月2日
17	Mohd Anis MD NOR	マレーシア	Managing Director, Nusantara Performing Arts Research Center (NusParc) Adjunct Professor, Faculty of Music and Performing Arts Sultan Idris Education University	同上	11月29日～12月2日
18	Don NILES	パプアニューギニア	Acting Director and Senior Ethnomusicologist, Institute of Papua New Guinea Studies	同上	11月29日～12月2日
19	M.D. Muthukumaraswamy	インド	Director, National Folklore Support Centre	同上	11月29日～12月2日
20	Verne DE LA PEÑA	フィリピン	Director and Associate Professor, Department of Musicology, University of the Philippines Diliman	同上	11月29日～12月1日
21	Graeme WERE	オーストラリア	Head of Anthropology, School of Social Science, University of Queensland	同上	11月29日～12月2日
22	XIAO Mei	中国	Professor, Department of Musicology and Research Institute of Ritual Music in China, Shanghai Conservatory of Music	同上	11月29日～12月2日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
23	PHAM Thi Thanh Huong	ベトナム	Chief of Culture Unit, UNESCO Ha Noi Office	国際シンポジウム2017「無形文化遺産をめぐる交渉」陪席	11月29日～12月2日
24	YANG Xiao	中国	Assistant Dean of Department of Art Education and Ethnomusicology and Professor of Department of Musicology, Sichuan Conservatory of Music	同上	11月29日～12月2日
25	LING Jiasui	同上	PhD Student, Shanghai Conservatory of Music	同上	11月29日～12月2日
26	Pilyoung PARK	韓国	Programme Officer, International Information and Networking Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (ICHCAP)	同上	11月29日～12月2日
27	Hyeongi SON	同上	Project Officer, International Information and Networking Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (ICHCAP)	同上	11月29日～12月2日
28	Himalchuli GURUNG	中国	Programme Specialist for Culture, UNESCO Beijing Office	「第六回アジア太平洋無形文化遺産研究センター運営理事会」出席	12月22日
29	Kwon-Soon HWANG	韓国	Director of the Department of World Heritage Team, Cultural Heritage Administration of the Republic of Korea	同上	12月22日
30	Bin LIANG	中国	Director-General, International Training Center for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (CRIHAP)	「第六回アジア太平洋無形文化遺産研究センター運営理事会」陪席	12月22日
31	Tianxiong DUAN	同上	Deputy Director of the General Office, International Training Center for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (CRIHAP)	同上	12月22日
32	Jing GUAN	同上	Training Programme Coordinator, International Training Center for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (CRIHAP)	同上	12月22日
33	Kwon HUH	韓国	Director-General, International Information and Networking Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (ICHCAP)	同上	12月22日
34	Deoksoon KIM	同上	Chief of Planning & Management Section, International Information and Networking Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (ICHCAP)	同上	12月22日
35	Eunjae CHOI	同上	Project Consultant, Planning & Management Section, International Information and Networking Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (ICHCAP)	同上	12月22日
36	Hyung-bin PARK	同上	Senior Researcher, World Heritage Division, Cultural Heritage Administration, the Republic of Korea	同上	12月22日
37	Gyeong-gyu MUN	同上	Programme Specialist, World Heritage Division, Cultural Heritage Administration, the Republic of Korea	同上	12月22日
38		アフガニスタン		「アジアの紛争後国家等における無形文化遺産の現状に関する現地調査」に向けた準備ワークショップ(アフガニスタン) 出席	30年3月7日～9日
39		同上		同上	同上
40		同上		同上	同上
41		同上		同上	同上
42	Himali JINADASA	スリランカ	Senior Advisor to the Hon. Minister, Office of the Minister of Industry and Commerce, Ministry of Industry and Commerce, Sri Lanka	「アジアの紛争後国家等における無形文化遺産の現状に関する現地調査」に向けた準備ワークショップ(スリランカ) 出席	30年3月13日～15日
43	Ritu SETHI	インド	Chairperson, Craft Revival Trust, India	同上	同上
44	Renee Coreses TARAVELA	フィリピン	Head of the Cultural Communities and Traditional Arts Section, National Commission for Culture and Arts	「アジアの紛争後国家等における無形文化遺産の現状に関する現地調査」に向けた準備ワークショップ(スリランカ) 陪席	同上

【文化財防災ネットワーク推進本部】21人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Dorji WANGCHUK	ブータン	Conservator, National Museum of Bhutan	国際シンポジウム及び国際研修2017参加（研修者）	8月27日～9月17日
2	Abner Omaging LAWANGEN	フィリピン	Local Disaster Risk Reduction and Management Officer, Local Government of Tublay, Benguet, Philippines	同上	8月27日～9月17日
3	Hamit BIRTANE	トルコ	Technical Expert, Directorate of Gallipoli Historical Site	同上	8月27日～9月18日
4	Innocent Hudson MANKHWALA	マラウイ	Archivist, Conservation Section, Department of Culture, National Archives of Malawi	同上	8月27日～9月17日
5	Ming Chee ANG	マレーシア	General Manager, George Town World Heritage Incorporated	同上	8月27日～9月16日
6	Victor MARCHEZINI	ブラジル	Researcher, National Centre for Monitoring and Early Warning of Natural Disasters (CEMADEN)	同上	8月27日～9月17日
7	Virashith PHOMSOUVANH	ラオス	Acting Deputy Director, Remote Sensing Center, Ministry of Natural Resource and Environment (MONRE)	同上	8月27日～9月17日
8	Sayma IQBAL	インド	Lead Conservation Consultant, Kashmir Chapter, INTACH	同上	8月27日～9月17日
9	Bertrand Pascal LAVEDRINE	フランス	Director, The Centre de recherche sur la Conservation, National Museum of Natural History	同上	8月27日～9月17日
10	Domenico GRECO	イタリア	Civil Engineer - Young Researcher, University of Salerno, ICOMOS/ICORP Italy	同上	8月27日～9月17日
11	Khin Aye YEE	ミャンマー	Operation Officer, Social, Urban, Rural and Resilience Global Practice, World Bank Group, World Bank, Myanmar	同上	8月27日～9月17日
12	Aparna TANDON	イタリア	Project Manager, Collections Unit, ICCROM	国際研修2017参加（講師）	8月27日～9月6日
13	Ksenia CHMUTINA	イギリス	Lecturer, Sustainable and Resilient Urbanism, The School of Civil and Building Engineering, Loughborough University	同上	8月27日～9月9日
14	Corine WEGENER	アメリカ	Director, Smithonian Cultural Rescue Initiative, Office of the Provost/Under Secretary for Museums and Research, Smithonian Institution	同上	9月3日～9月11日
15	Rohit Kumar RANJITKAR	ネパール	Nepal Director, Kathmandu Valley Preservation Trust (KVPT)	同上	9月6日～9月12日
16	Lee BOSHER	イギリス	Senior Lecturer, The School of Civil and Building Engineering, Loughborough University	同上	9月3日～9月16日
17	Elke SELTER	ベルギー	Expert Emergency Response, Emergency Preparedness and Response Unit, Culture Sector, UNESCO	国際シンポジウム及び国際研修2017参加（講師）	9月6日～9月18日
18	Joseph Alan KING	イタリア	Director of the Sites Unit, International Centre for the Study of the Preservation and Restoration of Cultural Property	同上	9月10日～9月17日
19	Wesley Webb CHEEK	アメリカ	Urban Studies Doctoral Fellow, City, Culture and Community, Tulane University	同上	9月10日～9月17日
20	Catherine Elizabeth KIRBY	アメリカ	Grants Development Specialist, Office of the Provost and Under Secretary for Museums and Research, Smithsonian Institution	同上	9月10日～9月17日
21	Kai Ube Prasad WEISE	ネパール	Architect, Planners' Alliance for the Himalayan & Allied Regions (PAHAR Nepal)	同上	9月11日～9月17日

2）他機関の共同研究への参画実績

科学研究費助成事業の研究分担者等として参画（延べ人数）

平成30年3月31日現在

<table>
<tr><th rowspan="2">国立文化財機構合計</th><th>博物館計</th><th>東京国立博物館</th><th>京都国立博物館</th><th>奈良国立博物館</th><th>九州国立博物館</th></tr>
<tr><td>66 人</td><td>30人</td><td>11人</td><td>7人</td><td>18人</td></tr>
<tr><td rowspan="4">120人</td><td>文化財研究所計</td><td colspan="2">東京文化財研究所</td><td colspan="2">奈良文化財研究所</td></tr>
<tr><td>54 人</td><td colspan="2">22人</td><td colspan="2">32人</td></tr>
<tr><td colspan="2">アジア太平洋無形文化遺産研究センター</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">0 人</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

【東京国立博物館】延べ　30人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	京都国立博物館	河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究	京都国立博物館長 佐々木丞平	企画課長（兼国際交流室長）　浅見龍介、列品管理課平常展調整室主任研究員　末兼俊彦
2	九州国立博物館	在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究	九州国立博物館長　島谷弘幸	企画課長（兼国際交流室長）　浅見龍介、企画課特別展室長　丸山士郎、東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
3	奈良国立博物館	高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相	奈良国立博物館長　松本伸之	企画課特別展室長　丸山士郎、調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎、保存修復課環境保存室長　和田浩
4	関西大学	古代寺院荘厳具の復元的研究～川原寺裏山遺跡出土金属製品を中心として～	関西大学教授　米田文孝	企画課特別展室主任研究員　市元塁
5	九州国立博物館	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　－東アジア金属工芸史の再構築－	九州国立博物館学芸部企画課主任研究員　川村佳男	企画課デザイン室主任研究員　矢野賀一、保存修復課環境保存室長　和田浩
6	東京大学史料編纂所	東京国立博物館所蔵湿板写真ガラス原板に関する基礎的研究（一般共同研究）	企画課国際交流室主任研究員 遠藤楽子	博物館情報課長（兼情報資料室長）　田良島哲
7	筑波大学	東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究	筑波大学大学院教授 守屋正彦	博物館教育課教育講座室長　勝木言一郎
8	京都大学人文科学研究所	中国古典籍日本古写本の研究（JSPS25244015）	京都大学名誉教授　高田時雄	博物館情報課長（兼情報資料室長）　田良島哲
9	東京大学史料編纂所	摂関家伝来史料群の研究資源化と伝統的公家文化の総合的研究	東京大学史料編纂所教授 尾上陽介	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
10	九州国立博物館	日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究	九州国立博物館学芸部企画課特別展室長　原田あゆみ	列品管理課平常展調整室主任研究員　末兼俊彦
11	東京文化財研究所	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究ー大航海時代を中心にー	東京文化財研究所文化財情報資料部広領域研究室長 小林公治	列品管理課平常展調整室主任研究員　末兼俊彦
12	京都大学	真言密教寺院の資料調査に基づく分野横断的綜合研究	京都大学大学院文学研究科教授　上島享	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞
13	信州大学	平安時代における「国風」的文化現象についての学際的研究	信州大学大学院文学研究科准教授　佐藤全敏	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞
14	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所	蛍光Ｘ線分析と鉱物組成分析による飛鳥藤原地域出土古代瓦の生産・供給体制の研究	奈良文化財研究所都城発掘調査部考古第三研究室長 清野孝之	調査研究課考古室研究員　山本亮
15	上智大学	基盤Ｂ「古代西アジアにおける宗教と福祉の相互関係をめぐる綜合的実証研究」	上智大学神学部特任教授 月本昭男	調査研究課東洋室研究員 小野塚拓造
16	天理大学	基盤Ｂ「地域考古学」と「聖書考古学」の協業による古代パレスチナ地域史の再構築	天理大学文学部教授 桑原久男	調査研究課東洋室研究員 小野塚拓造
17	公益財団法人出光文化福祉財団	『幕末明治期の日本人が写っている銀板写真（ダゲレオタイプ）の基礎調査と持続可能型保存ネットワークの構築に関する研究』	東京都写真美術館保存科学専門員　山口孝子	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀
18	公益財団法人ポーラ美術振興財団	日本国内のおける銀板写真（ダゲレオタイプ）の保存に関する悉皆基礎調査と持続可能型保存ネットワークの構築に関する研究	東京都写真美術館保存科学専門員　山口孝子	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀
19	筑波大学	被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究	筑波大学教授　松井俊也	保存修復課環境保存室長　和田浩
20	愛知県立芸術大学	「月次祭礼図模本」の総合復元研究	愛知県立芸術大学美術学部准教授　岩永てるみ	保存修復課保存修復室主任研究員 瀬谷愛
21	木更津市郷土博物館金のすず、国立歴史民俗博物館	金鈴塚古墳研究（繊維等の織物資料担当）	金のすず副館長　稲葉昭智、歴史民俗博物館研究部准教授 上野祥史	客員研究員　沢田むつ代
22	埼玉県坂戸市教育委員会	入西石塚古墳研究（金属器遺物付着の繊維資料について）	坂戸市教育委員会　藤野一之	客員研究員　沢田むつ代
23	明治大学博物館	三昧塚古墳出土品研究（挂甲や鏡等の金属製品に付着する織物等について）	明治大学博物館考古部門担当 忽那敬三	客員研究員　沢田むつ代

【京都国立博物館】延べ　11人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	実践女子大学	日本現存福州版大蔵経の総合的研究の深化と典籍学への応用	文学部教授　牧野和夫	学芸部企画室アソシエイトフェロー　上杉智英
2	奈良国立博物館	高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相	館長　松本伸之	学芸部企画室長　伊藤信二
3	富山県立大学	富山・本法寺蔵「法華経曼荼羅図」の総合的研究	工学部教授　原口志津子	学芸部保存修理指導室長 大原　嘉豊
4	京都大学	東アジア美術における仏伝の表象	人文科学研究所准教授 稲本　泰生	学芸部保存修理指導室長 大原　嘉豊

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
5	大阪大谷大学	新義真言系聖教の形成と教学的交流に関する基礎的研究	文学部教授　宇都宮啓吾	学芸部美術室長　羽田　聡
6	東京国立博物館	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	学芸研究部長　田沢裕賀	学芸部長　山本英男、学芸部保存修理指導室研究員　福士雄也
7	奈良県立橿原考古学研究所	三次元デジタル・アーカイブを活用した青銅器製作技術解明の総合的研究	資料課係長　水野敏典	学芸部考古室主任研究員 古谷　毅
8	奈良文化財研究所	蛍光Ｘ線分析と鉱物組成分析による飛鳥藤原地域出土古代瓦の生産・供給体制の研究	都城発掘調査部・考古第三研究室長　清野孝之	保存科学室長　降幡順子
9	奈良文化財研究所	飛鳥時代金属製品の加工技術に関する基礎的研究	飛鳥資料館・学芸室長 石橋　茂登	保存科学室長　降幡順子
10	奈良文化財研究所	アンコール王朝末期の総合的歴史学の構築	副所長　杉山洋	学芸部連携協力室長　淺湫毅

【奈良国立博物館】延べ　7人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	九州大学	作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究	教授　井手誠之輔	学芸部教育室長 谷口　耕生
2	九州大学	作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究	教授　井手誠之輔	学芸部情報サービス室主任研究員 北澤　菜月
3	京都大学	東アジア美術における仏伝の表象	准教授　稲本泰生	学芸部教育室長 谷口　耕生
4	京都大学	同上	同上	学芸部情報サービス室長 岩井　共二
5	北海道博物館	X線CTを核としたアイヌ民族資料の保存修復に関する研究	学芸員　杉山智昭	学芸部保存修理指導室長 鳥越　俊行
6	高野山大学	海洋交易路における仏教流伝形態の研究	名誉教授　松長有慶	学芸部長　内藤　栄
7	東京国立博物館	文化財情報資源の探索と発見のためのデータ連携に関する研究	学芸企画部博物館情報課情報管理室長　村田　良二	資料室長　宮崎　幹子

【九州国立博物館】延べ　18人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	鹿児島大学	X線CT調査による古墳時代甲冑のデジタルアーカイブおよび型式学的新研究	総合研究博物館教授 橋本達也	学芸部文化財課長 河野一隆
2	東京文化財研究所	酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発 －旧修理材料や微生物痕の除去－	保存科学研究センター 修復材料研究室長 早川典子	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
3	奈良大学	X線CTを核にした3Dデータの活用に基づく文化財の新研究基盤創設	文学部教授　今津節生	客員研究員　赤田昌倫
4	熊本大学	阿蘇地域を中心とした古墳時代の九州島における情報伝達･文物交流の実証的研究	文学部准教授　杉井　健	学芸部博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史
5	東京外国語大学	東南アジア史の統合的編年プラットフォームの構築： 「長い12・13世紀」を中心に	大学院総合国際学研究院教授 青山　亨	学芸部企画課特別展室長 原田あゆみ
6	佐賀大学	史学と自然科学の融合研究で探る幕末明治期における地域鉄産業の変貌と展開	シンクロトロン光応用研究センター特命教授　脇田久伸	学芸部文化財課長 河野一隆
7	奈良国立博物館	高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相	館長　松本伸之	学芸部長兼企画課長　小泉惠英
8	九州大学	作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究	大学院人文科学研究院教授 井手誠之輔	学芸部文化財課資料管理室主任研究員　畑　靖紀
9	東京大学	摂関家伝来史料群の研究資源化と伝統的公家文化の総合的研究	史料編纂所教授　尾上陽介	館長　島谷弘幸
10	実践女子大学	19世紀日本の女性南画家の移動と交遊圏	文学部教授　仲町啓子	学芸部文化財課主任研究員 山下善也
11	鹿児島大学	住吉派の摸写から見る近世御用絵師の絵画制作研究	法文教育学域教授　下原美保	学芸部文化財課主任研究員 山下善也
12	京都府立大学	対馬に所在する中国・朝鮮伝来経典の総合的研究	文学部教授　横内裕人	学芸部企画課特別展室研究員 松浦晃佑
13	北海道博物館	X線CTを核としたアイヌ民族資料の保存修復に関する研究	学芸部博物館社会貢献グループ　学芸主査　杉山智昭	客員研究員　赤田昌倫
14	東京国立博物館	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	学芸研究部長　田沢裕賀	学芸部文化財課資料管理室主任研究員　畑　靖紀
15	東京国立博物館	同上	同上	学芸部文化財課主任研究員 山下善也
16	東京国立博物館	文化財情報資源の探索と発見のためのデータ連携に関する研究	学芸企画部博物館情報課情報管理室長　村田良二	学芸部文化財課アソシエイトフェロー　竹内俊貴
17	奈良大学	X線CTを核にした3Dデータの活用に基づく文化財の新研究基盤創設	文学部教授　今津節生	展示課長　楠井隆志
18	京都府立大学	対馬に所在する中国・朝鮮伝来経典の総合的研究	文学部教授　横内裕人	展示課主任研究員　一瀬　智

【東京文化財研究所】延べ　22人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	早稲田大学	エジプト、ルクソール西岸の新王国時代岩窟墓の形成と発展に関する調査研究	文学学術院教授 近藤　二郎	文化遺産国際協力センター研究員 前川　佳文
2	早稲田大学	近松没後義太夫節浄瑠璃作品のデジタル・アーカイブを利用した包括的研究	坪内博士記念演劇博物館 名誉教授 鳥越　文蔵	無形文化遺産部長 飯島　満
3	法政大学	能楽及び能楽研究の国際的定位と新たな参照標準確立のための基盤研究	能楽研究所 教授 山中　玲子	特任研究員 高桑　いづみ
4	東京大学	「図書館資料保存論」に関する基礎的研究	大学院経済学研究科(経済学部) 講師 小島　浩之	保存科学研究センター長 佐野　千絵
5	東京藝術大学	光に脆弱な文化財材料の光劣化機構の研究-低酸素環境での劣化挙動と波長依存性-	大学院美術研究科 准教授 塚田　全彦	保存科学研究センター長 佐野　千絵

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
6	三重大学	耐震的に脆弱な文化財組積造建造物の被災後の保存修復法	工学研究科 教授 花里　利一	保存科学研究センター主任研究員 森井 順之
7	九州国立博物館	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討	学芸部博物館科学課長 木川　りか	保存科学研究センター分析科学研究室長 犬塚　将英
8	九州国立博物館	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討	学芸部博物館科学課長 木川　りか	保存科学研究センター生物科学研究室長 佐藤　嘉則
9	大谷大学	モンゴルの世界遺産「大ブルカン・カルドゥン山」に関する学融合的研究	文学部 教授 松川　節	文化財情報資料部文化財情報研究室長 二神　葉子
10	東北大学	仏像の表象機能に関わる総合的調査研究―空間・荘厳・胎内に着目して	文学研究科 名誉教授 有賀　祥隆	文化財情報資料部長 津田　徹英
11	東京国立博物館	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 皿井　舞	保存科学研究センター副センター長 早川　泰弘
12	東京国立博物館	同上	同上	文化財情報資料部専門職員 城野　誠治
13	九州大学	未解読楽譜研究のための情報検索システムの構築	芸術工学研究院 教授 矢向　正人	特任研究員 高桑　いづみ
14	茨城大学	内生細菌共生維持機構を利用して微生物に潜在機能を付与する技術の開発	農学部 准教授 西澤　智康	保存科学研究センター生物科学研究室長 佐藤　嘉則
15	日本女子大学	長唄の旋律形成に関する学際的研究	文学部 学術研究員 配川　美加	特任研究員 高桑　いづみ
16	日本女子大学	同上	同上	無形文化遺産部客員研究員 星野　厚子
17	奈良文化財研究所	アンコール王朝末期の総合的歴史学の構築	企画調整部特任研究員 杉山　洋	無形文化遺産部音声映像記録研究室長 石村　智
18	龍谷大学	文化財建造物の伝統的な塗装彩色材料の再評価と保存・修理・資料活用に関する研究	文学部 教授 北野　信彦	保存科学研究センター分析科学研究室長 犬塚　将英
19	龍谷大学	同上	同上	保存科学研究センター保存環境研究室長 吉田　直人
20	愛知県立芸術大学	絵画表現における風土と技術-膠を中心とする伝統的材料の持続性に関する調査研究-	美術学部 教授 北田　克己	保存科学研究センター修復材料研究室長 早川　典子
21	東京大学	観世家のアーカイブの形成と室町期能楽の新研究	大学院総合文化研究科 教授 松岡　心平	特任研究員 高桑　いづみ
22	東京国立博物館	ディルムン文明の起源―バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究―	客員研究員 後藤　健	文化遺産国際協力センター研究員 安倍　雅史

【奈良文化財研究所】延べ　32人

○科学研究費補助金　延べ　27人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	東京大学	日本目録学の確立と古典学研究支援ツールの拡充 ―天皇家・公家文庫を中心に―	教授　田島　公	都城発掘調査部主任研究員 馬場　基
2	京都工芸繊維大学	近代日本の博覧会における建築展示に関する研究	教授　石田　潤一郎	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長　高妻　洋成
3	東京大学	歴史知識情報のオープンデータ化に向けたスキームと情報利活用手法の再構築	教授　久留島　典子	都城発掘調査部主任研究員 馬場　基
4	奈良大学	文字文化からみた東アジア社会の比較研究	教授　角谷　常子	副所長 渡邉 晃宏
5	山口大学	東アジアにおける都城と葬地の政治的・社会的関連に関する比較史的総合研究	教授　橋本　義則	都城発掘調査部考古第二研究室 研究員　小田　裕樹
6	京都大学	古代「仏都圏」の社会と文化に関する地域史的・比較史的研究	教授　吉川　真司	都城発掘調査部主任研究員 山本　崇
7	大阪大学	モンゴル東部新発見の突厥碑文調査と遺跡保護に関する考古学・歴史学的研究	教授　大澤　孝	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー 山口　欧志
8	東京大学	前近代人物情報論の構築にむけた花押・筆跡の網羅的収集と汎用的利用に関する研究	教授　林　譲	企画調整部文化財情報研究室 研究員　高田　祐一
9	東京大学	同上	同上	都城発掘調査部史料研究室研究員 山本　祥隆
10	福岡大学	新・日韓交渉の考古学―弥生時代―	教授　武末　純一	都城発掘調査部主任研究員 庄田　慎矢
11	愛媛大学	4カ国アルタイ地域を対象とした初期鉄器時代の鉄器生産に関する実証的研究	教授　村上　恭通	都城発掘調査部主任研究員 丹羽　崇史
12	元興寺文化財研究所	出土青銅製文化財の保存処理に使用されたアクリル樹脂の劣化について	研究員　植田　直見	埋蔵文化財センター客員研究員 難波　洋三
13	奈良県立橿原考古学研究所	古墳時代中期における甲冑生産組織の研究－「型紙」と製作工程の分析を中心として－	総括研究員　吉村　和昭	企画調整部客員研究員 小林　謙一
14	京都大学	オントロジー指向による考古遺跡情報の知識体系化－東南アジア大陸部を事例に－	研究員　柴山　守	企画調整部長 森本　晋
15	法政大学	物質文化と精神文化の交流と断絶からみた、海峡を繋ぐ「北の内界世界」の総合的研究	教授　小口　雅史	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　田村　朋美
16	京都橘大学	ゴーランド・コレクション総合研究の新知見に基づく日本古墳時代像・研究史の再構築	教授　一瀬　和夫	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　諫早　直人
17	帝京大学	中央アジア、シルクロード拠点都市と地域社会の発展過程に関する考古学的研究	教授　山内　和也	都城発掘調査部考古第二研究室 研究員　山藤　正敏
18	東北大学	年輪幅・酸素安定同位体比標準年輪曲線ネットワーク構築とそれに基づく木材産地推定	助教　大山　幹成	埋蔵文化財センター年代学研究室 研究員　星野　安治

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
19	東京文化財研究所	ブータンの版築造建造物の類型と編年に関する研究	所長　亀井　伸雄	都城発掘調査部遺構研究室研究員 海野　聡
20	大谷大学	モンゴルの世界遺産「大ブルカン・カルドゥン山」に関する学融合的研究	教授　松川　節	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー 山口　欧志
21	名古屋大学	古代における谷底平野および周辺丘陵部の開発と宗教施設の展開に関する研究	准教授　梶原　義実	都城発掘調査部考古第二研究室長 尾野　善裕
22	東京医療保健大学	古代食の綜合的復元による食生活と疾病の関係解明	准教授　三舟　隆之	都城発掘調査部主任研究員 馬場　基
23	東京医療保健大学	古代食の綜合的復元による食生活と疾病の関係解明	准教授　三舟　隆之	都城発掘調査部考古第二研究室 研究員　小田　裕樹
24	東京医療保健大学	古代食の綜合的復元による食生活と疾病の関係解明	准教授　三舟　隆之	埋蔵文化財センター主任研究員 山崎　健
25	鳴門教育大学	中南米熱帯収束帯の年輪気候学と14C Bombシリーズの構築	教授　米延　仁志	埋蔵文化財センター年代学研究室 研究員　星野　安治
26	奈良教育大学	古環境の変遷と動・植物利用の諸段階	教授　金原　正明	埋蔵文化財センター客員研究員 菊地　大樹
27	お茶の水女子大学	民族考古学と化学分析からさぐる生業活動の諸相	特任准教授　細谷　葵	都城発掘調査部主任研究員 庄田　慎矢

○学術研究助成基金助成金　延べ　5人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	埼玉大学	楽浪郡存続期における鉄器と玉類の流通網及び技術移転に関する包括的研究	准教授　中村　大介	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　田村　朋美
2	東京文化財研究所	環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究	修復材料研究室長 朽津　信明	埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷　草一郎
3	奈良女子大学	玉類の生産および流通と社会変化の因果関係に関する考古科学的研究	特任講師　大賀　克彦	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　田村　朋美
4	早稲田大学	衛星画像のGIS分析による隋唐都城とシルクロード都市の空間構造の比較考古学的研究	准教授　城倉　正祥	都城発掘調査部考古第二研究室 研究員　山藤　正敏
5	天理大学	専制国家成立期の長城地帯における金銀器・青銅器の生産と流通	教授　小田木　治太郎	埋蔵文化財センター客員研究員 菊地　大樹

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】0人

3）研究者海外派遣実績（延べ人数）

平成30年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
475人	157 人	67人	21人	22人	47人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	297 人	161人		136人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	文化財防災ネットワーク推進本部			
	20 人	1 人			

【東京国立博物館】延べ　67人（科学研究費助成事業、その他補助金を除く）

（参考：科学研究費助成事業、その他助成金を含む合計人数は89人）

○海外交流展経費・招へい共通事業費　26人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	矢野　賀一	タイ	4 月 26 日～4 月 28 日	バンコク国立博物館の施設環境調査のため	海外交流展経費	
2	矢野　賀一	同上	5月21日～5月25日	「日本美術のあゆみ―信仰とくらしの造形―」展にかかる打合せのため	同上	
3	小山　弓弦葉	同上	5月22日～5月24日	同上	同上	
4	沖松　健次郎	同上	5月22日～5月24日	同上	同上	
5	矢野　賀一	同上	6月25日～6月28日	同上	同上	
6	沖松　健次郎	同上	6月25日～6月29日	同上	同上	
7	河野　正訓	韓国	7月12日～7月26日	韓国・国立中央博物館と当館との2017年度学術交流のため	招へい共通事業費	
8	富田　淳	中国	7月19日～7月21日	2018年開催予定の中国北京画院「斉白石絵画展」打合せのため	海外交流展経費	
9	楊　鋭	同上	7月19日～7月21日	同上	同上	
10	矢野　賀一	タイ	7月27日～7月29日	「日本美術のあゆみ―信仰とくらしの造形―」展にかかる打合せのため	同上	
11	矢野　賀一	同上	8月28日～8月31日	同上	同上	
12	沖松　健次郎	同上	9月26日～9月28日	同上	同上	
13	小山　弓弦葉	同上	9月26日～9月28日	同上	同上	
14	矢野　賀一	同上	9月26日～9月29日	同上	同上	
15	猪熊　兼樹	韓国	10月31日～11月9日	韓国・国立中央博物館と当館との2017年度学術交流のため	招へい共通事業費	
16	矢野　賀一	タイ	11月6日～11月9日	「日本美術のあゆみ―信仰とくらしの造形―」展にかかる打合せ及び調査のため	海外交流展経費	
17	沖松　健次郎	同上	11月6日～11月9日	同上	同上	
18	矢野　賀一	同上	11月29日～12月2日	日・タイ修好130周年記念「日本美術のあゆみ―信仰とくらしの造形―」展開催に伴う打合せのため	同上	
19	富田　淳	同上	12月20日～12月23日	第６回アジア国立博物館協会（ANMA）総会及び会議出席のため	招へい共通事業費	
20	遠藤　楽子	同上	12月20日～12月23日	同上	同上	
21	楊　鋭	同上	12月20日～12月23日	同上	同上	
22	富田　淳	韓国	30年1月23日～1月26日	韓日中国立博物館長会議及び特別展「東アジアの虎美術－韓国・日本・中国－」開会式出席のため	海外交流展経費	
23	楊　鋭	同上	30年1月23日～1月26日	韓日中国立博物館長会議及び特別展「東アジアの虎美術－韓国・日本・中国－」開会式出席のため	同上	
24	王　蕾	同上	30年1月23日～1月26日	韓日中国立博物館長会議及び特別展「東アジアの虎美術－韓国・日本・中国－」開会式随行のため	同上	
25	李　京林	同上	30年1月23日～1月28日	韓日中国立博物館長会議及び特別展「東アジアの虎美術－韓国・日本・中国－」開会式随行のため	同上	
26	市元　塁	中国	30年3月3日～3月9日	中国・上海博物館と当館との2017年度学術交流のため	招へい共通事業費	

○職員旅費（その他）：延べ41人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	和田　浩	タイ	4 月 26 日～4 月 28 日	バンコク国立博物館の施設環境調査のため	環境保全費	
2	和田　浩	同上	5月22日～5月24日	同上	同上	
3	和久井　遥	英国	5 月 24 日～5 月 29 日	大英博物館開催 Late Hokusai: Thought, Technique, Society Sympojium 参加および展覧会視察のため	館内調査研究	
4	田沢　裕賀	同上	5 月 24 日～5 月 29 日	同上	同上	
5	楊　鋭	中国、韓国	6月4日～6月9日	諸外国の代表的な美術館・博物館に関する調査のため	本部事務局運営費交付金	
6	小野塚　拓造	オーストリア、ドイツ	6月15日～6月21日	同上	同上	
7	ミウォシュ・ヴォズニ	米国	6 月 19 日～6 月 24 日	同上	同上	
8	君波　妙子	フランス、英国	6月19日～6月25日	同上	同上	
9	和田　浩	タイ	6月26日～6月28日	バンコク国立博物館の施設環境調査のため	環境保全費	
10	和田　浩	同上	7月27日～7月29日	同上	同上	
11	和田　浩	同上	8月28日～8月31日	同上	同上	
12	北川　瑞季	中国	9月25日～9月28日	「博物館ボランティアに関する国際シンポジウム」に出席する館長の随行のため	館長裁量経費	
13	楊　鋭	同上	9月25日～9月28日	国際シンポジウム随行のため	同上	
14	和田　浩	タイ	9月26日～9月29日	バンコク国立博物館の施設環境調査のため	環境保全費	
15	井上　洋一	台湾	10月18日～10月22日	「博物館評価に関する国際シンポジウム」への出席ならびに基調講演のため	副館長裁量経費	
16	楊　鋭	同上	10月18日～10月22日	国際学術シンポジウム随行のため	同上	
17	富田　淳	中国	10月31日～11月4日	2017年趙孟頫書画国際学術研討会出席のため	館内調査研究	
18	和田　浩	タイ	11月6日～11月9日	バンコク国立博物館の施設環境調査のため	環境保全費	
19	井上　洋一	サウジアラビア	11月6日～11月12日	国際会議への出席、サウジ遺跡観光庁（SCTH)との打合せ	館長裁量経費	
20	白井　克也	同上	11月6日～11月11日	サウジアラビア考古学フォーラム参加及び展覧会打合せのため	同上	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
21	小野塚　拓造	同上	11月6日～11月11日	サウジアラビア考古学フォーラム参加及び展覧会打合せのため	館長裁量経費	
22	趙　玉萍	中国	11月27日～11月30日	2017年文化科技国際シンポジウム随行及び通訳のため	同上	
23	和田　浩	タイ	12月9日～12月13日	バンコク国立博物館の展示および一時保管環境整備	同上	
24	河野　正訓	同上	12月11日～12月17日	日タイ修好130周年記念「日本美術のあゆみ―信仰とくらしの造形―」展にかかる輸送及び展示作業のため	同上	
25	大橋　美織	同上	12月13日～12月19日	同上	同上	
26	矢野　賀一	同上	12月13日～12月20日	同上	同上	
27	小山　弓弦葉	同上	12月13日～12月22日	同上	同上	
28	沖松　健次郎	タイ	12月18日～12月29日	日タイ修好130周年記念「日本美術のあゆみ―信仰とくらしの造形―」展にかかる展示作業のため	同上	
29	井上　洋一	同上	12月20日～12月27日	第6回アジア国立博物館協会理事会・定期大会出席他	同上	
30	田沢　裕賀	同上	12月24日～12月27日	日タイ修好130周年記念「日本美術のあゆみ―信仰とくらしの造形―」展開会式出席のため	同上	
31	北川　瑞季	同上	12月24日～12月27日	バンコク国立博物館「日本展」開会式出席他	同上	
32	矢野　賀一	ドイツ	30年1月8日～1月13日	グラスバウハーン社における展示ケース検査および展示調査のため	特別展会場用展示ケース	
33	井出　浩正	同上	30年1月8日～1月13日	同上	同上	
34	和田　浩	ドイツ、フランス	30年1月8日～1月13日	特別展用展示ケースの工場検査及び海外展示施設調査のため	同上	
35	和田　浩	タイ	30年1月18日～1月20日	バンコク国立博物館の施設環境調査と運用に関する打合せのため	環境保全費	
36	井上　洋一	韓国	30年1月23日～1月26日	2018年韓日中館長会議への出席	館長裁量経費	
37	和田　浩	米国	30年2月7日～2月10日	ジャパンソサエティギャラリーにおける展示環境調査のため	環境保全費	
38	河野　正訓	タイ	30年2月8日～2月21日	日タイ修好130周年記念「日本美術のあゆみ―信仰とくらしの造形―」展管理、撤収作業のため	館長裁量経費	
39	皿井　舞	同上	30年2月17日～2月21日	同上	同上	
40	小山　弓弦葉	同上	30年2月17日～2月22日	同上	同上	
41	沖松　健次郎	同上	30年2月17日～2月26日	同上	同上	

○科学研究費助成事業：延べ21人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	和田　浩	スイス	5月8日～5月14日	IAPRI(International association of packaging research institutes)第28回シンポジウムにおける研究成果発表のため	科学研究費	
2	関谷　泰弘	米国	4月1日～30年2月	ミュージアム調査	同上	
3	関谷　泰弘	フランス	6月17日～6月27日	国際シンポジウムCommunicating the museum参加	同上	
4	小野塚　拓造	イスラエル	8月3日～8月25日	テル・レヘシュ遺跡の考古学調査及びテル・ゼロール遺跡の出土資料の調査のため	同上	
5	西川　夏永	米国	8月8日～8月11日	科学研究費による作品調査及び撮影のため	同上	
6	沖松　健次郎	同上	8月8日～8月11日	同上	同上	
7	富田　淳	中国	8月8日～8月16日	科学研究費による調査のため	同上	
8	関　紀子	同上	8月8日～8月16日	同上	同上	
9	古谷　毅	中国	8月10日～8月14日	科学研究費による調査及び会議のため	同上	
10	小山　弓弦葉	米国	8月20日～8月27日	科学研究費による作品調査のため	同上	
11	和田　浩	中国	8月24日～8月26日	東アジア文化遺産保存シンポジウムにおける研究成果発表のため	同上	
12	関谷　泰弘	オランダ	9月29日～10月6日	ICOM　MPR研究発表	同上	
13	小山　弓弦葉	同上	11月5日～11月12日	科学研究費による作品調査のため	同上	
14	田良島　哲	中国	12月2日～12月4日	中国典籍日本古写本の研究（高田科研）の研究成果報告及び事務打合せのため	同上	
15	和田　浩	インド	30年1月26日～1月28日	ニューデリー国立博物館における調査のため	同上	
16	猪熊　兼樹	韓国	30年2月6日～2月11日	科学研究費による調査のため	同上	
17	丸山　士郎	インド	30年2月25日～3月3日	同上	同上	
18	小野塚　拓造	イスラエル	30年3月5日～3月14日	古代西アジアにおける宗教と福祉の相互関係をめぐる綜合的実証研究にかかる調査、フェニキア人の「出現」－考古資料から見た初期の交易活動と対外進出にかかる調査のため	同上	
19	関　紀子	中国	30年3月6日～3月12日	科学研究費による調査のため	同上	
20	矢野　賀一	中国	30年3月19日～3月24日	科研（基盤(B)「極薄青銅器と響銅を対象にした制作技術の比較―東アジア金属工芸史の再構築―」）にかかる打合せおよび調査のため	同上	
21	和田　浩	中国	30年3月19日～3月24日	同上	同上	

○その他補助金：延べ1人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	今井　敦	米国	30年1月28日～2月4日	海外日本美術調査のため	文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業	

【京都国立博物館】延べ　21人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	栗原　祐司	台湾	4月19日～23日	日本の世界記憶遺産の取り組みについての講演、関係者と打合せ及び視察	他機関負担	
2	リンネマリサ	アメリカ	4月29日～5月12日	国際会議出席、ICOM京都大会の広報活動、アメリカ博物館協会大会参加	同上	
3	栗原　祐司	オランダ、ベルギー、フランス	5月31日～6月11日	多言語化に関する調査、ICOM諮問委員会出席	機構本部事務局及び他機関負担	
4	リンネマリサ	オランダ、ベルギー	6月1日～7日	多言語化に関する調査	機構本部事務局	
5	佐々木　丞平	フランス、イタリア	6月6日～12日	ICOM諮問委員会出席、防災関係施設視察	他機関負担	
6	リンネマリサ	韓国	7月31日～8月3日	国際カンファレンス参加、発表、ICOM京都大会広報	同上	
7	大原　嘉豊	同上	8月24日～31日	海外交流招待事業として公開講座講演及び情報交換	同上	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
8	栗原　祐司	同上	9月13日～16日	寧越国際博物館フォーラム2017への出席、研究発表及び視察	他機関負担	
9	栗原　祐司	台湾	10月13日～15日	第9回台湾古文書及び歴史研究国際学術シンポジウムに出席	同上	
10	栗原　祐司	ウズベキスタン	11月7日～11月12日	舞鶴市世界記憶遺産保存活用推進委員会調査訪問	同上	
11	栗原　祐司	カンボジア	11月17日～19日	文化遺産国際協力拠点交流事業ワークショップ　出席	同上	
12	呉　孟晋	中国	11月23日～26日	国際シンポジウムでの発表	同上	
13	リンネマリサ	アメリカ	11月25日～12月4日	ICOM-ICDAD国際委員会会議出席及び視察	同上	
14	栗原　祐司	アルゼンチン	11月26日～12月5日	FIHRHロサリオ大会に参加	同上	
15	降幡　順子	中国	12月18日～21日	黄冶窯他出土資料調査、醴泉坊出土資料の調査	奈良文化財研究所	
16	呉　孟晋	同上	12月22日～24日	科研費（中国書画）に関する作品調査	科学研究費	
17	永島　明子	フランス	2月25日～3月5日	フランス国立ギメ東洋美術館所蔵の漆工品調査および研究交流	運営費交付金	
18	伊藤　信二	インド	2月25日～3月3日	科学研究費基盤B「高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相（研究代表者：松本伸之）」の研究分担としての現地調査	科学研究費	
19	古谷　毅	韓国	3月21日～25日	第3回古代韓日古墳研究交流曾	同上	
20	栗原　祐司	アメリカ	3月25日～29日	第7回カルコン美術対話委員会	他機関負担	
21	リンネマリサ	同上	同上	同上	同上	

【奈良国立博物館】延べ　22人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	佐々木　香輔	中国	12月3日～12月30日	中国河南博物院との協定に基づく学術交流	他機関負担	河南博物院（中国）
2	田澤　梓	韓国	12月11日～30年1月5日	韓国国立慶州博物館との協定に基づく学術交流	同上	国立慶州博物館（韓国）
3	岩田　茂樹	同上	30年1月18日～2月12日	同上	同上	同上
4	岩井　共二	中国	12月13日～12月22日	中国上海博物館との協定に基づく学術交流	同上	上海博物館他（中国）
5	伊藤　久美	同上	12月13日～12月22日	同上	同上	同上
6	安孫子　卓史	同上	12月13日～12月22日	同上	同上	同上

・その他の調査等のための海外渡航実績

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	内藤　栄	台湾	7月15日～7月17日	科研費「染織技法による仏像の研究」に係る調査	科学研究費助成事業	国立故宮博物院、国立故宮博物院南院
2	田澤　梓	同上	7月15日～7月17日	同上	同上	同上
3	内藤　栄	インドネシア	9月6日～9月9日	科研費「海洋交易路における仏教流伝形態の研究」に係る調査	科学研究費助成事業（分担）	グリオグデェイマス寺院、ウダヤナ大学、インドネシア国立博物館
4	松本　伸之	中国	9月24日～9月28日	博物館ボランティアに関する国際シンポジウムに出席	他機関負担	上海博物館
5	中川　あや	同上	9月24日～9月28日	同上	同上	同上
6	谷口　耕生	台湾	10月7日～10月9日	科研費「作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究」に係る調査	科学研究費助成事業（分担）	国立故宮博物院
7	北澤　菜月	台湾	10月7日～10月9日	同上	同上	同上
8	山口　隆介	韓国	11月30日～12月2日	「韓日 金銅半跏思惟像」の編集作業	他機関負担	国立中央博物館
9	堀内　しきぶ	スウェーデン	12月4日～12月11日	COMCOL年次会合に出席	同上	Museum of Västerbotten
10	内藤　栄	インドネシア	30年2月17日～2月25日	科研費「海洋交易路における仏教流伝形態の研究」に係る調査	科学研究費助成事業（分担）	バリ博物館、ギニャール考古学局収蔵施設等
11	松本　伸之	中国	30年3月1日～3月3日	科研費「高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相」に係る調査	科学研究費助成事業	故宮博物院、中国国家博物館
12	内藤　栄	韓国	30年3月6日～3月8日	正倉院所蔵韓半島遺物国際学術シンポジウムでの研究発表	他機関負担	国立中央博物館
13	樋笠　逸人	同上	30年3月6日～3月8日	同上	同上	同上
14	内藤　栄	同上	30年3月9日～3月10日	2018耽羅史国際学術大会に参加	同上	済州研究院済州学研究センター
15	谷口　耕生	中国	30年3月10日～3月14日	科研費「作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究」に係る調査	科学研究費助成事業（分担）	山東省博物館、霊巌寺、玉函山石窟、神通寺等
16	北澤　菜月	台湾	30年3月10日～3月12日	同上	同上	国立故宮博物院

【九州国立博物館】延べ　47人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	川村佳男	中国	5月17日～25日	展覧会に係る打合せ及び作品・遺跡調査	運営費交付金、他機関負担	
2	一瀬　智	同上	5月17日～5月22日	瀋陽故宮展に係る調査	他機関負担	アジア文化交流センター負担
3	鷲頭　桂	フランス	5月30日～6月3日	特別展「新・桃山展」関連の学会出席及び研究発表	運営費交付金、助成金（東方基金）	
4	小嶋　篤	韓国	7月19日～7月21日	水中遺跡及び海事文化の展示手法調査	他機関負担	アジア文化交流センター負担
5	原田あゆみ	タイ王国	8月5日～8日	基盤研究（B）「日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究」に係る調査	科学研究費助成事業	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
6	小泉惠英	タイ王国	8月5日～7日	基盤研究（B）「日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究」に係る調査	科学研究費助成事業	
7	川村佳男	中国	8月21日～28日	青銅器調査に係る会議出席および発表／展覧会に係る作品調査	運営費交付金、他機関負担	
8	赤田昌倫	同上	8月23日～26日	基盤研究（C）「X線CTを用いた文化財有機質材料の同定方法の確立」に係る学会発表	科学研究費助成事業	
9	川畑憲子	台湾	8月28日～9月4日	基盤研究（C）「出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究」に係る作品調査	同上	
10	松下久子	フランス、イタリア	9月3日～9日	江戸中期の漆装飾磁器に見られる蒔絵風装飾技術に関する調査	助成金（メトロポリタン東洋美術研究センター）	長崎県研修生
11	原田あゆみ	タイ王国	9月6日～21日	特別展「タイ～仏の国の輝き～」に係る作品返却作業	運営費交付金	
12	小泉惠英	同上	9月6日～21日	同上	同上	
13	川村佳男	中国	9月17日～24日	展覧会に係る調査	他機関負担	
14	崔　英花	同上	9月24日～30日	展覧会に係る調査及び協議	運営費交付金	
15	島谷弘幸	同上	9月28日～30日	同上	同上	
16	大橋有佳	ベトナム	10月8日～14日	ベトナム国立歴史博物館との学術文化交流事業のうち、所蔵文化財の保存状態調査及び関連情報の収集	運営費交付金	
17	志賀智史	同上	10月8日～14日	同上	同上	
18	川村佳男	中国	10月13日～22日	展覧会に係る調査	他機関負担	
19	河野一隆	インドネシア	10月19日～21日	基盤研究（C）「インドネシア・パセマ高原の装飾古墳の基礎的研究」に係る協議・提案	科学研究費助成事業	
20	森實久美子	ドイツ	10月22日～26日	基盤研究（B）「在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究」に係る調査	同上	
21	島谷弘幸	同上	10月22日～27日	同上	同上	
22	河野一隆	イラン	10月30日～11月5日	ICOM-ASPACチャバハール大会への参加	他機関負担	
23	志賀智史	ベトナム	11月1日～4日	ベトナム国立歴史博物館との学術文化交流事業のうち、所蔵文化財の修理事業	運営費交付金	
24	原田あゆみ	タイ王国	11月9日～11日	文化庁海外展「日本美術のあゆみ」に係る調査及び協議	同上	
25	島谷弘幸	韓国	11月13日～15日	学術文化交流協定に基づく研究者等の交流事業に関する協議及び新館長就任祝い	同上	
26	進村真之	同上	11月13日～15日	同上	他機関負担	アジア文化交流センター負担
27	川村佳男	中国	11月13日～19日	展覧会に係る調査	同上	
28	秋山　純子	ミャンマー	11月14日～21日	京都大学・文化庁プロジェクト「平成29年度文化遺産国際協力拠点交流事業」バガンシンポジウムにおいて調査及び教育指導、関係者会議出席	同上	
29	臺信祐爾	同上	11月14日～22日	同上	同上	
30	川畑憲子	台湾	11月27日～29日	基盤研究（C）「出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究」に係る作品調査	科学研究費助成事業	
31	一瀬　智	韓国	11月28日～12月11日	学術文化交流協定に基づく研究者等の交流	他機関負担	アジア文化交流センター負担
32	加藤小夜子	同上	12月5日～12月11日	同上	同上	アジア文化交流センター負担
33	原田あゆみ	タイ王国	12月13日～27日	日タイ修好130年記念「日本美術のあゆみ」展に係る展示作業・開会式、ANMA(Asian National Museums Association)参加	運営費交付金	
34	島谷弘幸	同上	12月21日～27日	同上	同上	
35	小泉惠英	同上	12月21日～27日	同上	同上	
36	横田拓也	同上	12月23日～27日	日タイ修好130年記念「日本美術のあゆみ」展開会式	同上	
37	岸本　圭	同上	12月25日～27日	同上	他機関負担	アジア文化交流センター負担
38	森實久美子	同上	30年1月20日～29日	文化庁海外展「日本美術のあゆみ」にかかる展示替え及び在番	運営費交付金	
39	臺信祐爾	スイス	30年1月26日～30日	特別展「至上の印象派展ビュールレ・コレクション」に係わるクーリエ業務のため	他機関負担	
40	大橋有佳	タイ王国	30年1月27日～2月9日	文化庁主催海外展「日本美術のあゆみ」に伴うクーリエ業務	運営費交付金	
41	川村佳男	中国	30年1月30日～2月4日	展覧会に係る調査	他機関負担	
42	原田あゆみ	タイ王国	30年2月17日～22日	文化庁海外展「日本美術のあゆみ」に係る作品撤収作業／日タイ修好記念事業講演会・会議	運営費交付金	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
43	小泉惠英	インド	30年2月25日～3月2日	基盤研究（B)「高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相」に係る調査	科学研究費助成事業（分担）	
44	川村佳男	中国	30年2月26日～3月2日	展覧会にかかる打ち合わせ及び作品・遺跡調査	運営費交付金	
45	原田あゆみ	インドネシア	30年3月3日～8日	基盤（B)「東南アジア史の統合的編年プラットフォームの構築：「長い12・13世紀」を中心に」に係る調査	科学研究費助成事業（分担）	
46	川村佳男	中国	30年3月19日～24日	科研「極薄青銅器と響銅を対象とした制作技術の比較」にかかる打ち合わせ及び調査	科学研究費助成事業	
47	島谷弘幸	アメリカ	30年3月25日～28日	文化庁第7回カルコン美術対話委員会	運営費交付金、職員旅費	

【東京文化財研究所】延べ　161人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	安倍　雅史	カンボジア	6月19日～6月24日	ICC-Angkor国際調整会議(技術委員会)への出席	運営費交付金	
2	安倍　雅史	同上	7月15日～7月31日	カンボジア・シェムリアップ、アンコール遺跡群タネイ寺院	同上	
3	安倍　雅史	同上	11月27日～12月11日	タネイ遺跡他の現地調査	同上	
4	安倍　雅史	イラン	12月13日～12月22日	ホルマンガン遺跡出土石器資料と動物骨資料の分析	科学研究費	
5	安倍　雅史	バーレーン	30年1月6日～1月31日	ワーディー・アッ＝サイル古墳群の調査発掘	同上	
6	安倍　雅史	カンボジア、インド	30年3月7日～19日	タネイ遺跡現地調査およびSOSAA第６回国際会議	運営費交付金	
7	アレハンドロ　マルティネス	ブータン	5月29日～6月5日	歴史的版築造建造物調査	科学研究費	
8	アレハンドロ　マルティネス	フランス	6月5日～6月10日	災害後の文化遺産リコンストラクションの事例集作成準備打ち合わせへの参加	他機関負担	
9	アレハンドロ　マルティネス	カンボジア	7月15日～7月22日	カンボジア・シェムリアップ、アンコール遺跡群タネイ寺院	運営費交付金	
10	アレハンドロ　マルティネス	ウクライナ　ポーランド	7月25日～8月5日	ウクライナとポーランドの木造教会堂の保存、維持管理方法についての調査	他機関負担	
11	アレハンドロ　マルティネス	ブータン	8月18日～8月27日	歴史的版築建造物調査	科学研究費	
12	アレハンドロ　マルティネス	ミャンマー	9月17日～9月25日	ミャンマー国における文化遺産保護協力事業に伴う現地調査	受託（文化庁）	
13	アレハンドロ　マルティネス	フランス	10月15日～10月19日	イコモス・リコンストラクションWG打ち合わせ	他機関負担	
14	アレハンドロ　マルティネス	カンボジア	11月28日～12月7日	タネイ遺跡他の現地調査	運営費交付金	
15	アレハンドロ　マルティネス	インド	12月8日～12月17日	イコモス総会への参加・発表	同上	
16	アレハンドロ　マルティネス	フランス	30年1月28日～2月1日	イコモス　リコンストラクションワークショップ参加	他機関負担	
17	アレハンドロ　マルティネス	ミャンマー	30年2月8日～2月12日	歴史的煉瓦造建造物のモニタリング・建築調査	受託（文化庁）	
18	アレハンドロ　マルティネス	ブータン	30年3月8日～15日	歴史的版築造建造物の建築調査およびワークショップの開催	運営費交付金	
19	石田　真弥	台湾	8月19日～8月27日	鉄構造物の保存と修理に関する調査	同上	
20	石村　智	ミクロネシア連邦	8月20日～8月28日	スカイスケープ科研の調査	他機関負担	
21	石村　智	フィジー	9月23日～10月3日	IRCIが実施する現地調査への協力	同上	
22	石村　智	韓国	12月3日～12月10日	ユネスコ無形文化遺産保護条約第12回政府間委員会に出席するため	運営費交付金	
23	石村　智	タイ	12月18日～12月22日	クメール遺跡の調査	科学研究費	
24	石村　智	台湾	30年1月7日～1月10日	シンポジウム参加	他機関負担	
25	石村　智	フィリピン	30年1月24日～2月1日	IRCIによる現地調査	同上	
26	伊藤　純	ネパール	7月19日～7月24日	ネパールの被災文化遺産保護に関する調査	受託（文化庁）	
27	伊藤　純	同上	30年2月13日～2月20日	カトマンズ盆地内歴史的集落調査および現地行政官との会議	同上	
28	元　喜載	ドイツ	7月2日～7月17日	ワークショップ開催	基金	
29	元　喜載	メキシコ	30年2月6日～2月9日	国際研究に係る会議	運営費交付金	
30	元　喜載	ドイツ	30年3月24日～28日	作品調査および会議	同上	
31	江村　知子	キューバ	6月5日～6月10日	キューバにおける日本文化財調査	同上	
32	江村　知子	ポーランド	8月19日～8月26日	ＩＦＬＡ国際図書館連盟世界大会参加	同上	
33	江村　知子	アメリカ	30年2月25日～3月5日	ARLIS/NA参加、作品調査	科学研究費	
34	江村　知子	同上	30年3月12日～3月16日	作品調査および研究情報収集	同上	
35	小田　桃子	台湾	8月7日～8月18日	ワークショップ「染織品の保存と修復」開催	基金	
36	小田　桃子	ドイツ	30年3月24日～28日	作品調査および会議	運営費交付金	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
37	小田切　真梨	イギリス	30年3月12日～3月15日	会議(国際研修開催協力に係る会議)	同上	
38	小野　真由美	アメリカ	7月21日～7月25日	科研にかかわる作品調査	科学研究費	
39	小山田　智寛	イギリス	30年2月13日～2月17日	日本の文化財研究に関する外国語文献入力の進捗状況とこれを反映した東京文化財研究所の総合検索における運用評価に関する協議会ならびに講演	運営費交付金	
40	加藤　雅人	キューバ	6月5日～6月10日	キューバにおける日本文化財調査	同上	
41	加藤　雅人	ドイツ	7月3日～7月15日	ワークショップ開催	基金	
42	加藤　雅人	台湾	8月13日～8月18日	ワークショップ「染織品の保存と修復」開催	同上	
43	加藤　雅人	メキシコ	30年2月6日～2月9日	国際研究に係る会議	運営費交付金	
44	加藤　雅人	イギリス	30年3月12日～3月15日	会議(国際研修開催協力に係る会議)	基金	
45	加藤　雅人	ドイツ	30年3月25日～28日	作品調査および会議	運営費交付金	
46	亀井　伸雄	ドイツ ポーランド	7月5日～7月12日	国際研修視察および世界遺産委員会視察	同上	
47	亀井　伸雄	ブータン	8月18日～8月27日	歴史的版築建造物調査	科学研究費	
48	亀井　伸雄	ドイツ	11月18日～11月23日	漆のワークショップに関する現地視察	運営費交付金	
49	亀井　伸雄	カンボジア	11月29日～12月4日	タネイ遺跡他の現地調査	同上	
50	亀井　伸雄	ブータン	30年3月11日～3月15日	歴史的版築造建造物に関するワークショップの開催	同上	
51	川野邊　渉	イタリア	9月19日～9月24日	ICCROM理事会出席のため	他機関負担	
52	川野邊　渉	同上	11月27日～12月4日	ICCROM総会出席のため	同上	
53	間舎　裕生	ネパール	5月29日～6月24日	ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業に伴う現地調査	受託（文化庁）	
54	間舎　裕生	アルメニア	9月4日～9月23日	国際ワークショップ「染織芸術と保存-過去と現在を結ぶ」開催のため	運営費交付金	
55	間舎　裕生	ネパール	11月20日～11月26日	シヴァ寺出土遺物の整理作業	受託（文化庁）	
56	間舎　裕生	バーレーン	30年1月24日～2月12日	ワーディー・アッ＝サイル古墳群の調査発掘	科学研究費	
57	間舎　裕生	カンボジア	30年3月12日～3月23日	タネイ遺跡現地調査	運営費交付金	
58	菊池　理予	台湾	8月8日～8月11日	ワークショップ「染織品の保存と修復」開催	基金	
59	菊池　理予	同上	8月14日～8月18日	同上	同上	
60	北河　大次郎	同上	8月19日～8月27日	鉄構造物の保存と修理に関する調査	運営費交付金	
61	北河　大次郎	イギリス	10月11日～10月21日	英国における鉄構造物事例調査	同上	
62	北河　大次郎	台湾	30年3月1日～3月4日	台湾に所在する近代の産業遺産の保存と活用に関する調査	先方負担	
63	橘川　英規	ノルウェー	9月12日～9月18日	2017 EAJRS CONFERENCEへの参加	運営費交付金	
64	橘川　英規	アメリカ	30年2月19日～2月25日	ヨシダヨシエアーカイブ調査、担当者等との研究協議ほか	同上	
65	金　善旭	ミャンマー	5月17日～5月25日	第1回ミッション(構造モニタリング、材料実験および構法調査)	受託（文化庁）	
66	金　善旭	ネパール	5月29日～6月7日	ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業に伴う現地調査	同上	
67	金　善旭	ミャンマー	7月7日～7月19日	構造モニタリング調査	同上	
68	金　善旭	同上	9月17日～9月25日	ミャンマー国における文化遺産保護協力事業に伴う現地調査	同上	
69	金　善旭	ネパール	10月31日～11月7日	ネパール現地調査	同上	
70	金　善旭	ミャンマー	11月25日～12月4日	バガン遺跡現地調査	受託（文化庁）／科学研究費	
71	朽津　信明	台湾	6月12日～6月14日	被災遺構の保存に関する調査	運営費交付金	
72	久保田　裕道	ネパール	7月19日～7月24日	ネパールの被災文化遺産保護に関する調査	受託（文化庁）	
73	久保田　裕道	同上	30年2月13日～2月20日	カトマンズ盆地内歴史的集落調査および現地行政官との会議	同上	
74	倉島　玲央	ミャンマー	12月6日～12月10日	バガン漆芸術大学との協議、現地調査	運営費交付金	
75	五木田まきは	キューバ	6月5日～6月10日	キューバにおける日本文化財調査	同上	
76	五木田まきは	ドイツ	7月2日～7月17日	ワークショップ開催	基金	
77	五木田まきは	台湾	8月8日～8月18日	ワークショップ「染織品の保存と修復」開催	同上	
78	五木田まきは	メキシコ	30年2月6日～2月9日	国際研究に係る会議	運営費交付金	
79	後藤　里架	ドイツ	7月2日～7月17日	ワークショップ開催	基金	
80	後藤　里架	台湾	8月8日～8月18日	ワークショップ「染織品の保存と修復」開催	同上	
81	小林　公治	中国	8月11日～8月19日	中国国内に所蔵される螺鈿漆器類の調査	科学研究費	
82	小林　公治	韓国	8月31日～9月3日	Lee＆Won財団主催第10回国際学術講演会公園および関連行事参加	他機関負担	
83	小林　公治	デンマーク スウェーデン イタリア ドバイ	10月16日～10月27日	各国内に所在する螺鈿ほかの調査	科学研究費	
84	小峰　幸夫	イラン	4月15日～4月21日	木製文化財に対する虫害に関するワークショップの実施	運営費交付金	
85	境野　飛鳥	ポーランド	7月1日～7月14日	第41回世界遺産委員会への出席	同上	
86	境野　飛鳥	フランス	11月13日～11月17日	第21回世界遺産締約国会議	同上	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
87	境野　飛鳥	イタリア	11月27日～12月4日	ICCROM総会出席のため	同上	
88	塩谷　純	イギリス	30年2月13日～2月17日	日本の文化財研究に関する外国語文献入力の進捗状況とこれを反映した東京文化財研究所の総合検索における運用評価に関する協議会ならびに講演	同上	
89	鴫原　由美	ミャンマー	7月10日～7月22日	ミャンマー・バガン寺院壁画の保護に係る現地調査	同上	
90	鴫原　由美	同上	30年1月23日～2月3日	同上	同上	
91	友田　正彦	イラン	4月15日～4月21日	木製文化財に対する虫害に関するワークショップの実施	同上	
92	友田　正彦	ミャンマー	5月17日～5月25日	第1回ミッション(構造モニタリング、材料実験および構法調査)	受託（文化庁）	
93	友田　正彦	ネパール	5月29日～6月7日	ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業に伴う現地調査	同上	
94	友田　正彦	カンボジア	6月19日～6月24日	ICC-Angkor国際調整会議(技術委員会)への出席	運営費交付金	
95	友田　正彦	同上	7月20日～7月27日	カンボジア・シェムリアップ、アンコール遺跡群タネイ寺院	同上	
96	友田　正彦	ブータン	8月18日～8月27日	歴史的版築建造物調査	科学研究費	
97	友田　正彦	ミャンマー	9月17日～9月25日	ミャンマー国における文化遺産保護協力事業に伴う現地調査	受託（文化庁）	
98	友田　正彦	ネパール	10月31日～11月7日	ネパール現地調査	同上	
99	友田　正彦	ミャンマー	11月25日～11月30日	バガン遺跡現地調査	同上	
100	友田　正彦	カンボジア	12月2日～12月7日	タネイ遺跡他の現地調査	運営費交付金	
101	友田　正彦	同上	12月12日～12月16日	ICC国際会議への参加	同上	
102	友田　正彦	ネパール	12月25日～12月28日	歴史的集落保全に関する自治体フォーラムへの出席およびアガンチェン寺周辺修復工事打ち合わせ	受託（文化庁）	
103	友田　正彦	同上	30年2月24日～2月28日	アガンチェン寺修復方針協議会への出席	同上	
104	友田　正彦	ブータン	30年3月8日～3月15日	歴史的版築造建造物に係るワークショップの開催および関連調査	運営費交付金	
105	中村　恵	カンボジア	11月29日～12月4日	タネイ遺跡他の現地調査	同上	
106	中山　俊介	ドイツ、ポーランド	7月5日～7月12日	国際研修視察および世界遺産委員会視察	同上	
107	中山　俊介	トルコ	6月13日～6月19日	壁画の保存状態・保全管理に関する現地調査	同上	
108	中山　俊介	ミャンマー	7月15日～7月19日	ミャンマー・バガン寺院壁画の保護に係る現地調査	同上	
109	中山　俊介	台湾	8月7日～8月12日	ワークショップ「染織品の保存と修復」開催	基金	
110	中山　俊介	同上	8月19日～8月27日	鉄構造物の保存と修理に関する調査	運営費交付金	
111	中山　俊介	トルコ	10月25日～11月1日	カッパドキアにおける壁画保存管理に関する研修現地視察他	同上	
112	中山　俊介	ドイツ	11月18日～11月23日	漆のワークショップに関する現地視察	同上	
113	中山　俊介	カンボジア	11月29日～12月4日	タネイ遺跡他の現地調査	同上	
114	中山　俊介	ミャンマー	12月6日～12月10日	バガン漆芸術大学との協議、現地調査	運営費交付金	
115	西　和彦	イタリア	11月28日～12月3日	ICCROM総会出席のため	同上	
116	早川　典子	デンマーク	9月3日～9月9日	ICOM-CCにおける発表	科学研究費	
117	早川　典子	ミャンマー	12月6日～12月10日	バガン漆芸術大学との協議、現地調査	運営費交付金	
118	二神　葉子	ポーランド	7月1日～7月14日	第41回世界遺産委員会への出席	同上	
119	二神　葉子	韓国	12月3日～12月10日	ユネスコ無形文化遺産保護条約第12回政府間委員会に出席するため	同上	
120	二神　葉子	イタリア、フランス	11月13日～11月19日	文化財防災に関する聞き取り調査、世界遺産条約履行の動向に関する調査	科学研究費	
121	二神　葉子	モンゴル	30年1月7日～1月10日	世界遺産範囲拡張に関する情報交換	同上	
122	外間　尹隆	イタリア	11月28日～12月3日	ICCROM総会出席のため	運営費交付金	
123	前川　佳文	同上	4月19日～4月28日	ミャンマーおよびトルコ事業に関する打ち合わせ	同上	
124	前川　佳文	トルコ共和国	6月12日～6月24日	壁画の保存状態・保全管理に関する現地調査	受託（文化庁）	
125	前川　佳文	ミャンマー	7月7日～7月31日	ミャンマー・バガン寺院壁画の保護に係る現地調査	運営費交付金	
126	前川　佳文	イタリア	9月13日～9月29日	ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	科学研究費	
127	前川　佳文	トルコ	10月26日～11月4日	壁画保全管理状況調査と壁画保存のための研修の実施	運営費交付金	
128	前川　佳文	エジプト	12月21日～30年1月1日	新王国時代岩窟墓内に描かれた壁画の保存修復事前調査および壁画損傷個所の応急処置	科学研究費	
129	前川　佳文	ミャンマー	30年1月23日～2月13日	ミャンマー・バガン寺院壁画の保護に係る現地調査	運営費交付金	
130	前川　佳文	イタリア、エジプト	30年2月24日～3月13日	ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	科学研究費	
131	前原　恵美	ドイツ	9月5日～9月8日	日独会議に出席するため	他機関負担	
132	前原　恵美	韓国	12月3日～12月10日	ユネスコ無形文化遺産保護条約第12回政府間委員会に出席するため	運営費交付金	
133	牧野　真理子	レバノン	30年3月2日～3月10日	シリア人文化財関係者研修事業「シルクロードが結ぶ友情プロジェクト」への協力	他機関負担	
134	増渕　麻里耶	トルコ	5月8日～5月16日	出土鉄製品・製鉄関連遺物の調査	科学研究費	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
135	増渕　麻里耶	同上	6月12日～6月24日	壁画の保存状態・保全管理に関する現地調査	受託（文化庁）	
136	増渕　麻里耶	ミャンマー	7月10日～7月19日	ミャンマー・バガン寺院壁画の保護に係る現地調査	運営費交付金	
137	増渕　麻里耶	トルコ	10月25日～11月4日	壁画保全管理状況調査と壁画保存のための研修の実施	同上	
138	増渕　麻里耶	韓国	10月16日～10月19日	The 9th international conference on the Beginnings of the Use of Metals and Alloys (BUMA9)に参加するため。	科学研究費	
139	森井　順之	台湾	6月12日～6月14日	被災遺構の保存に関する調査	運営費交付金	
140	森井　順之	ネパール	8月13日～8月19日	組積造建造物の常時微動調査	科学研究費	
141	森井　順之	中国	8月23日～8月26日	2017上海国際文化遺産シンポジウム	運営費交付金	
142	森井　順之	ネパール	12月24日～12月28日	歴史的建造物の地震計測	科学研究費	
143	安川　政和	トルコ	10月25日～11月1日	壁画保全管理状況調査と壁画保存のための研修の実施	運営費交付金	
144	安永　拓世	イギリス	30年2月13日～2月17日	日本の文化財研究に関する外国語文献入力の進捗状況とこれを反映した東京文化財研究所の総合検索における運用評価に関する協議会ならびに講演	同上	
145	山田　大樹	イラン	4月15日～4月28日	木製文化財に対する虫害に関するワークショップの実施	運営費交付金／科学研究費	
146	山田　大樹	ネパール	6月10日～6月27日	ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業に伴う現地調査	受託（文化庁）	
147	山田　大樹	イラン	8月19日～8月25日	科研若手(B)現地調査	科学研究費	
148	山田　大樹	ネパール	9月6日～9月14日	カトマンズ盆地内歴史的集落調査および現地行政官との会議	受託（文化庁）	
149	山田　大樹	ロシア	10月10日～10月17日	国際会議への出席、論文発表	科学研究費	
150	山田　大樹	ネパール	10月29日～11月10日	ネパール現地調査	受託（文化庁）	
151	山田　大樹	イラン	12月5日～12月12日	科研調査に伴う先方機関との打ち合わせ	科学研究費	
152	山田　大樹	ネパール	12月23日～12月28日	歴史的集落保全に関する自治体フォーラムへの出席およびアガンチェン寺周辺修復工事打ち合わせ	受託（文化庁）	
153	山田　大樹	同上	30年1月31日～2月8日	ネパール現地調査	同上	
154	山田　大樹	同上	30年3月24日～3月30日	アガンチェン寺周辺建築群の形態変遷に関する現地調査	運営費交付金	
155	山梨　絵美子	カンボジア	7月20日～7月24日	カンボジア・シェムリアップ、アンコール遺跡群タネイ寺院	同上	
156	山梨　絵美子	アルメニア	9月17日～9月22日	国際ワークショップ「染織芸術と保存-過去と現在を結ぶ」開催のため	同上	
157	山梨　絵美子	台湾	10月5日～10月9日	国際シンポジウム「日本近代洋画の醸成と発展」に講師として参加するため。	他機関負担	
158	山府木　碧	同上	8月19日～8月27日	鉄構造物の保存と修理に関する調査	運営費交付金	
159	山村　みどり	エルサレム	6月10日～6月15日	書籍『1989年以降日本の現代美術』の研究発表	科学研究費	
160	山村　みどり	フランス	6月24日～7月6日	同上	同上	
161	山村　みどり	シンガポール	7月28日～8月1日	同上	同上	

【奈良文化財研究所】延べ　136人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	石橋　茂登	台湾	4月20日～4月23日	講演・シンポジウム参加	先方負担	
2	杉山　洋	カンボジア	4月22日～4月28日	西トップ遺跡の調査修復	運営費交付金	
3	森本　晋	アゼルバイジャン	5月2日～5月7日	ユネスコ主催第3回シルクロード・オンライン会議出席	先方負担	
4	海野　聡	ブータン	5月29日～6月5日	ブータンにおける歴史的建造物調査	科学研究費	
5	前川　歩	同上	5月29日～6月5日	同上	同上	
6	田村　朋美	ウズベキスタン	5月31日～6月7日	ウズベキスタン南部地域出土ガラス製遺物の調査	同上	
7	影山　悦子	同上	5月31日～6月10日	ポスト・クシャーン朝期の遺物の調査、ファヤズテパ遺跡出土壁画の記録、調査	科学研究費、助成金	
8	佐藤　由似	タイ、カンボジア	6月7日～6月25日	東南アジア大陸部研究に関する国際学会、アンコール文化遺産保護に関する研究協力	先方負担、運営費交付金	
9	杉山　洋	カンボジア	6月18日～6月25日	西トップ遺跡の調査修復	助成金	
10	影山　悦子	イギリス	6月24日～6月30日	京都大学国際シンポジウムHistory and Culture of Iran and Central Asia in the first Millennium C.E.への参加、研究報告等	先方負担	
11	佐藤　由似	ポーランド	6月30日～7月9日	ヨーロッパ東南アジア考古学会での発表	運営費交付金	
12	森本　晋	同上	7月4日～7月14日	第４１回ユネスコ世界遺産委員会出席	同上	
13	庄田　慎矢	韓国	7月7日～7月9日	日韓新石器時代研究会に参加するため	科学研究費	
14	島田　敏男	タイ、カンボジア	7月12日～7月17日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金	
15	丹羽　崇史	中国	7月15日～7月18日	上海博物館附属実験施設等の調査	科学研究費	
16	佐藤　由似	カンボジア	7月15日～7月25日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金	
17	脇谷　草一郎	中国	7月16日～7月18日	故宮博物院養心殿の劣化状態調査に参加	同上	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
18	高田　祐一	韓国	7月20日～7月24日	国立文化財研究所との木簡データベース連携協議、および慶州新出土木簡の調査	同上	
19	方　国花	韓国	7月20日～7月24日	国立文化財研究所との木簡データベース連携協議、および慶州新出土木簡の調査	運営費交付金	
20	渡邉　晃宏	同上	7月20日～7月24日	同上	科学研究費	
21	加藤　真二	中国	7月21日～7月29日	霊井遺跡関連遺物の調査	同上	
22	国武　貞克	同上	7月21日～7月29日	同上	同上	
23	国武　貞克	カザフスタン	8月4日～8月21日	カザフスタンにおける旧石器資料調査	同上	
24	佐藤　由似	カンボジア	8月6日～8月20日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金	
25	山口　欧志	モンゴル	8月10日～8月16日	モンゴル国世界文化遺産関連遺跡の調査	科学研究費	
26	山藤　正敏	キルギス	8月10日～8月21日	アク・ベシム遺跡出土資料の調査	同上	
27	丹羽　崇史	中国	8月11日～8月17日	冶金関連資料の調査	同上	
28	高妻　洋成	同上	8月23日～8月25日	東アジア文化遺産保存シンポジウムへの参加	運営費交付金	
29	金　旻貞	同上	8月23日～8月26日	東アジア文化遺産保存学会発表および参加	科学研究費	
30	庄田　慎矢	韓国	8月23日～8月26日	共同研究の打ち合わせ	運営費交付金、先方負担	
31	丹羽　崇史	台湾	8月23日～8月28日	アジア鋳造技術史学会台北大会への参加、および資料調査	科学研究費	
32	田村　朋美	同上	8月24日～8月27日	アジア鋳造技術史学会2017台北大会に出席	同上	
33	小田　裕樹	中国	8月26日～9月8日	「東アジアにおける都城と葬地の政治的・社会的関連に関する比較史的総合研究」の一環として、国際シンポジウムおよび唐皇帝陵の踏査	同上	
34	杉山　洋	カンボジア	8月28日～9月3日	西トップ遺跡の調査と修復	助成金	
35	佐藤　由似	同上	8月30日～9月4日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金	
36	庄田　慎矢	イギリス	9月4日～9月11日	研究打ち合わせ、学会参加	科学研究費	
37	山口　欧志	モンゴル	9月7日～9月12日	科学研究費による研究のため	同上	
38	田村　朋美	同上	9月10日～9月15日	モンゴル出土ガラス製遺物の調査	他機関負担	
39	鈴木　智大	中国	9月11日～9月17日	中国浙江省における古建築調査	科学研究費	
40	佐藤　由似	カンボジア	9月13日～9月21日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金	
41	浦　蓉子	中国	9月13日～9月24日	中国田螺山遺跡の木製品調査	科学研究費	
42	今井　晃樹	同上	9月16日～9月24日	北魏洛陽宮城出土遺物の調査	運営費交付金	
43	清野　陽一	同上	9月16日～9月24日	同上	同上	
44	栗山　雅夫	同上	9月16日～9月24日	同上	同上	
45	岩戸　晶子	同上	9月16日～9月24日	同上	同上	
46	脇谷　草一郎	ドイツ	9月17日～9月24日	国際共同研究申請に関する会議、およびSWBSS2017に出席する	寄附金滞在費、運営費交付金	
47	庄田　慎矢	中国	9月19日～9月23日	資料調査、研究打合わせ	科学研究費	
48	石田　由紀子	韓国	9月21日～9月25日	古代の測量技術と尺度に関する資料調査	他機関科学研究費	
49	国武　貞克	カザフスタン	9月23日～11月4日	カザフスタンにおける旧石器資料調査	科学研究費	
50	丹羽　崇史	中国	10月7日～10月9日	資料見学	助成金	
51	丹羽　崇史	韓国	10月15日～10月19日	BUMAIX(第9回治金史学会）への参加・発表	科学研究費	
52	海野　聡	同上	10月17日～10月20日	古都の世界遺産に関する国際学術会議での講演	先方負担	
53	小池　伸彦	中国	10月17日～10月21日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究「三燕文化出土遺物の研究」のため	運営費交付金	
54	廣瀬　覚	同上	10月17日～10月21日	同上	運営費交付金、先方負担	
55	大澤　正吾	同上	10月17日～10月21日	同上	同上	
56	栗山　雅夫	同上	10月17日～10月21日	同上	同上	
57	諫早　直人	同上	10月17日～10月21日	同上	同上	
58	渡邉　晃宏	韓国	10月18日～10月21日	韓国木簡学会・国立慶州文化財研究所共催国際学術大会	先方負担	
59	森本　晋	イタリア	10月21日～10月27日	世界遺産歴史都市の保全状況調査	運営費交付金	
60	杉山　洋	カンボジア	10月23日～11月1日	西トップ遺跡の調査と修復	同上	
61	丹羽　崇史	韓国	10月23日～12月15日	日韓発掘交流への参加	運営費交付金、先方負担	
62	佐藤　由似	ベトナム	10月26日～10月30日	ビンディン陶磁器に関する国際会議での発表	運営費交付金	
63	中島　義晴	韓国	10月30日～11月3日	韓国国立文化財研究所との共同研究	運営費交付金、先方負担	
64	MARES Emmanuel	同上	10月30日～11月3日	同上	同上	
65	内田　和伸	同上	10月30日～11月3日	韓国国立文化財研究所との共同研究	同上	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
66	岩戸　晶子	同上	10月31日～11月3日	慶州古代寺院における出土瓦の調査	同上	
67	清野　孝之	韓国	10月31日～11月3日	慶州古代寺院における出土瓦の調査	運営費交付金、先方負担	
68	清野　陽一	同上	10月31日～11月3日	同上	同上	
69	森本　晋	台湾	11月7日～11月10日	PNC(太平洋近隣友好協会)大会での研究発表	運営費交付金	
70	山口　欧志	インドネシア	11月9日～11月13日	ボロブドゥール寺院等の三次元計測	他機関負担	
71	中村　一郎	ネパール	11月12日～11月22日	ACCUユネスコ・アジア文化センター主催ワークショップ	先方負担	
72	石橋　茂登	韓国	11月13日～11月16日	日韓共同研究「日韓古墳・寺院の比較研究」にかかる調査	運営費交付金、先方負担	
73	高田　祐一	同上	11月13日～11月17日	同上	同上	
74	廣瀬　覚	同上	11月13日～11月17日	同上	運営費交付金、先方負担	
75	諫早　直人	同上	11月13日～11月17日	同上	同上	
76	佐藤　由似	カンボジア	11月14日～11月17日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金	
77	箱崎　和久	中国	11月17日～11月24日	山西省歴史的建造物調査・河北省遺跡調査	科学研究費	
78	海野　聡	同上	11月17日～11月24日	同上	同上	
79	加藤　真二	同上	11月20日～11月24日	科研費による霊井関連遺跡出土品の調査	同上	
80	杉山　洋	カンボジア	11月22日～12月1日	西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金	
81	廣瀬　覚	韓国	11月26日～11月29日	「朝鮮半島西南部の前方後円墳をめぐる倭と馬韓の交渉史」の第３回共同研究会への参加	先方負担	
82	森本　晋	カンボジア	11月28日～12月2日	西トップ遺跡の調査	他機関科研費	
83	佐藤　由似	同上	12月8日～12月15日	ＩＣＣアンコール遺跡国際調整会議への出席	運営費交付金	
84	影山　悦子	ミャンマー	12月8日～12月16日	測量研修の補助	受託	
85	山藤　正敏	同上	12月8日～12月16日	同上	同上	
86	森本　晋	同上	12月8日～12月16日	同上	同上	
87	渡邉　晃宏	中国	12月11日～12月12日	中国社会科学院考古研究所との友好議定書、共同研究についての協議	運営費交付金	
88	今井　晃樹	同上	12月11日～12月14日	同上	同上	
89	丹羽　崇史	同上	12月18日～12月22日	共同研究に関する協議、唐三彩の調査	運営費交付金、先方負担	
90	神野　恵	同上	12月18日～12月22日	同上	同上	
91	森川　実	同上	12月18日～12月22日	同上	同上	
92	山藤　正敏	同上	12月18日～12月22日	同上	同上	
93	杉山　洋	カンボジア	12月18日～12月26日	西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金	
94	田村　朋美	ロシア	12月22日～12月29日	科研費「物質文化と精神文化の交流と断絶から見た海峡を繋ぐ「北の内海世界」の総合的研究」による海外学術調査	他機関科研費	
95	佐藤　由似	カンボジア	12月24日～12月30日	西トップ遺跡の調査	運営費交付金	
96	丹羽　崇史	中国	12月27日～1月2日	資料調査	助成金	
97	加藤　真二	同上	1月2日～1月7日	科研費による霊井関連遺跡出土品の調査・調整	科学研究費	
98	海野　聡	韓国	1月10日～1月13日	韓国の歴史的建造物と建築の表象に関する調査	同上	
99	佐藤　由似	カンボジア、ミャンマー	1月10日～2月13日	ポスト・アンコール期の調査、国際協力拠点交流	科学研究費、受託	
100	杉山　洋	カンボジア	1月22日～2月3日	招へい者の選考と西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金	
101	田村　朋美	ベトナム	1月24日～1月30日	ベトナム南部オケオ遺跡出土ガラス資料の実見、および遺跡の踏査	他機関負担	
102	島田　敏男	カンボジア	1月27日～2月1日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金	
103	影山　悦子	ミャンマー	2月6日～2月12日	窯跡・陶磁器の調査研修の補助	受託	
104	森本　晋	同上	2月6日～2月12日	窯跡・陶磁器の調査研修	同上	
105	丹羽　崇史	中国	2月10日～2月12日	資料見学	助成金	
106	杉山　洋	カンボジア	2月22日～2月26日	西トップ遺跡にかかる建築学的調査	運営費交付金	
107	高田　祐一	イギリス	2月23日～3月2日	文化財情報発信に関する協議	同上	
108	国武　貞克	同上	2月23日～3月2日	同上	同上	
109	小沼　美結	同上	2月23日～3月2日	文化財情報発信に関する協議	科学研究費	
110	石橋　茂登	韓国	2月25日～2月28日	大韓民国における古代十二支像の事例調査	受託	
111	金　旻貞	同上	2月25日～2月28日	同上	同上	
112	森本　晋	台湾	2月25日～3月1日	中央研究院での陶磁器と写真技術に関する調査	運営費交付金	
113	栗山　雅夫	同上	2月25日～3月1日	同上	同上	
114	佐藤　由似	同上	2月25日～3月1日	同上	同上	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
115	影山　悦子	ウズベキスタン	2月25日～3月5日	ポスト・クシャーン朝期の遺物の調査、記録	科学研究費、助成金	
116	中島　志保	中国	2月27日～3月2日	固着した資料の処理方法に関する情報収集	補助金、運営費交付金	
117	森本　晋	ベルギー・フランス	3月6日～3月11日	計量基準資料の調査	運営費交付金	
118	海野　聡	ブータン・タイ	3月7日～3月15日	ブータン王国・タイ建造物調査	科学研究費分担金	
119	渡邉　晃宏	韓国	3月8日～3月10日	2018耽羅史国際学術大会への参加・招待報告	先方負担	
120	杉山　洋	同上	3月8日～3月10日	同上	同上	
121	庄田　慎矢	中国	3月11日～3月18日	研究打ち合わせ、資料調査、試料採取	科学研究費	
122	渡邉　晃宏	韓国	3月12日～3月15日	国立文化財研究所との共同研究による木簡等の調査	運営費交付金、先方負担	
123	方　国花	同上	3月12日～3月15日	同上	同上	
124	馬場　基	同上	3月12日～3月15日	同上	同上	
125	石橋　茂登	中国	3月12日～3月16日	唐代古墳壁画の保存活用事例の調査	受託	
126	中田　愛乃	同上	3月12日～3月16日	唐代古墳壁画の保存活用事例の調査	同上	
127	玉田　芳英	同上	3月12日～3月16日	同上	同上	
128	栗山　雅夫	同上	3月12日～3月16日	同上	同上	
129	佐藤　由似	カンボジア	3月14日～3月17日	西トップ遺跡の調査	運営費交付金	
130	諫早　直人	韓国	3月15日～3月17日	国立伽耶文化財研究所が主催する学術大会における発表	先方負担	
131	山藤　正敏	キルギス	3月19日～3月23日	キルギス共和国アク・ベシム遺跡出土資料の調査	科学研究費	
132	芝　康次郎	韓国	3月25日～3月29日	日韓共同研究の一環として、百済（泗沘期）の土器の実見調査、遺跡見学および朝鮮時代の宮中・両班階級の食膳・調理事例の調査	運営費交付金	
133	小田　裕樹	同上	3月25日～3月29日	同上	同上	
134	山藤　正敏	同上	3月25日～3月29日	同上	同上	
135	大澤　正吾	同上	3月25日～3月29日	同上	同上	
136	国武　貞克	カザフスタン	3月27日～4月7日	カザフスタンにおける旧石器資料調査	先方負担	

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ　20人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	岩本　渉	台湾（台中）	5月11日～13日	“International Forum on Intangible Cultural Heritage: The Pedagogy of Intengible Cultural Heritage in Contemporary Asia”出席	受託経費（文化庁）	
2	岩本　渉	中国（成都）	6月11日～13日	“A Meeting of the Open-Ended Intergovernmental Working Group on Developing an Overall Results Framework for the 2003 Convention”出席	同上	
3	野嶋　洋子	バヌアツ	7月17日～25日	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるバヌアツ調査	寄附金（文化財保存活用基金）	
4	岩本　渉	イラン(シラーズ)	9月10日～11日	“Fifth Annual Coordination Meeting of Category 2 Centres Active in the Field of Intangible Cultural Heritage”出席	受託経費（文化庁）	
5	大貫　美佐子	ベトナム（フエ）	9月21日～22日	“Annual training Workshop for cultural managers in Viet Nam”出席、及びフエの博物館・文化財修復現場等の視察	同上	
6	野嶋　洋子	フィジー	9月25日～10月1日	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるフィジー調査	寄附金（文化財保存活用基金）	
7	石村　智	同上	9月25日～10月1日	同上	同上	
8	岩本　渉	タイ（バンコク）	10月31日～11月1日	来年度事業のための情報収集	受託経費（文化庁）	
9	児玉　茂昭	同上	10月31日～11月1日	来年度事業のための情報収集	同上	
10	岩本　渉	フランス(パリ)	11月23日～24日	“Second Coordination Meeting with UNESCO Category 2 Institutes and Centres (C2Cs) and UNITWIN/UNESCO Chairs related to the UNESCO Culture Sector”出席	同上	
11	大貫　美佐子	同上	11月23日～24日	同上	同上	
12	岩本　渉	韓国(済州)	12月4日～6日	“12th Session on the UNESCO Intergovernmental Committee for the Safeguarding of the Intangible Cultural Heritage”陪席	受託経費（文化庁）	
13	児玉　茂昭	同上	12月6日～9日	同上	同上	
14	野嶋　洋子	フィリピン	30年1月24日～2月1日	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるフィリピン調査	寄附金（文化財保存活用基金）	
15	石村　智	同上	30年1月24日～2月1日	同上	同上	
16	大貫　美佐子	同上	30年2月7日	来年度新事業実施に関する打合せ	受託経費（文化庁）	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
17	坂本　翼	フィリピン	30年2月7日	来年度新事業実施に関する打合せ	受託経費（文化庁）	
18	岩本　渉	ベトナム	30年2月8日～9日	来年度新事業実施に関する打合せ	同上	
19	坂本　翼	同上	同上	同上	同上	
20	野嶋　洋子	タヒチ	30年3月21日～24日	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業における情報収集及び次年度ワークショップについての打合せ	寄附金（文化財保存活用基金）	

【文化財防災ネットワーク推進本部】延べ　１人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	中島　志保	中国	30年2月27日～3月2日	固着した資料の処置方法に関する情報収集	平成29年度文化芸術振興費補助金、運営費交付金	

c-② 調査研究テーマ一覧

平成30年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
204 件	135 件	65 件	21 件	18 件	31 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	68 件	22 件	46 件	0 件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	1 件				

【東京国立博物館】　65件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　57件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	特別調査（「法隆寺献納宝物」（第39次））	学芸研究部	調査研究課長（兼東洋室長）　今井敦
2	特別調査（「書跡」第15回）	学芸研究部	調査研究課書跡・歴史室長（兼保存修復課長）　冨坂賢
3	特別調査（「工芸」第9回）	学芸研究部	調査研究課工芸室長　竹内奈美子
4	特別調査（「彫刻」第7回）	学芸研究部	企画課長（兼国際交流室長） 浅見龍介
5	特別調査（「絵画」第2回）	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長 沖松健次郎
6	関東地域の社寺所蔵文化財に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課長（兼東洋室長）　今井敦
7	油彩画の材料・技法に関する共同調査	学芸研究部	保存修復課保存修復室長　土屋裕子
8	仏教美術等の光学的手法による共同研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長 沖松健次郎
9	館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究	学芸研究部	博物館情報課長（兼情報資料室長） 田良島哲
10	東洋民族資料に関する調査研究	学芸研究部	企画課出版企画室主任研究員 猪熊兼樹
11	特集「チベットの仏教と密教の世界」に関連する調査研究	学芸研究部	列品管理課貸与特別観覧室研究員 西木政統
12	特集「新指定　重要文化財　野毛大塚古墳―世田谷の中期古墳―」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課考古室研究員　河野正訓
13	特集　親と子のギャラリー「びょうぶとあそぶ」に関連する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　小林牧
14	特集「唐三彩」に関連する調査研究	学芸研究部	列品管理課平常展調整室主任研究員 三笠景子
15	特集「アジアの祈り」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課考古室長　白井克也
16	特集「室町時代のやまと絵―絵師と作品―」に関連する調査研究	学芸研究部	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕
17	特集「刀剣鑑賞の歴史」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課工芸室主任研究員 酒井元樹
18	特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」に関連する調査研究	学芸研究部	保存修復課長（書跡・歴史室長） 冨坂賢
19	特集「日本の仮面　能狂言面の神と鬼」に関連する調査研究	学芸研究部	企画課長（兼国際交流室長） 浅見龍介
20	特集「高野切―平安時代最盛期の仮名」に関連する調査研究	学芸研究部	東京国立博物館百五十年史編纂室長 恵美千鶴子
21	日本染織コレクションの形成に関する研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	列品管理課登録室長（兼貸与特別観覧室長）　小山弓弦葉
22	絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕
23	中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容に関する研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	保存修復課保存修復室主任研究員 瀬谷愛
24	清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　関紀子
25	大小櫂物（絵暦）の美術史及び文化史に関する総合的研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	客員研究員　岩崎均史
26	中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長 沖松健次郎
27	法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	博物館教育課教育普及室研究員 三田覚之
28	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	客員研究員　沢田むつ代
29	ディルムン文明の起源－バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究－（科学研究費助成事業）	学芸研究部	客員研究員　後藤健
30	「地域考古学」と「聖書考古学」の協業による古代パレスチナ地域史の再構築（科学研究費助成事業）	学芸研究部	調査研究課東洋室研究員　小野塚拓造
31	東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	博物館教育課教育講座室長 勝木言一郎
32	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究－大航海時代を中心に－（科学研究費助成事業）	学芸研究部	列品管理課平常展調整室主任研究員 末兼俊彦
33	「月次祭礼図摸本」の総合復元研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	保存修復課保存修復室主任研究員 瀬谷愛
34	模本制作の第一人者・田中親美を中心とした近現代の書の受容に関する基礎的研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	東京国立博物館百五十年史編纂室長 恵美千鶴子
35	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 皿井舞
36	日本刀における連続と変容の表現に着目した歴史的展開の考察（科学研究費助成事業）	学芸研究部	調査研究課工芸室主任研究員 酒井元樹
37	フェニキア人の「出現」－考古資料から見た初期の交易活動と対外進出（科学研究費助成事業）	学芸研究部	調査研究課東洋室研究員　小野塚拓造
38	東アジア礼制に基づく物質文化研究　―日・中・韓・越・琉の宮廷工芸を対象として―（科学研究費助成事業）	学芸研究部	企画課出版企画室主任研究員 猪熊兼樹
39	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	学芸研究部長　田沢裕賀
40	古代寺院荘厳具の復元的研究～川原寺裏山遺跡出土金属製品を中心として～（科学研究費助成事業）	学芸研究部	企画課特別展室主任研究員　市元塁

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
41	摂関家伝来史料群の研究資源化と伝統的公家文化の総合的研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	東京国立博物館百五十年史編纂室長 恵美千鶴子
42	古代西アジアにおける宗教と福祉の相互関係をめぐる綜合的実証研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	調査研究課東洋室研究員　小野塚拓造
43	平安時代における「国風」的文化現象についての学際的研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 皿井舞
44	真言密教寺院の資料調査に基づく分野横断的綜合研究－新たな仏教思想史の枠組みを求めて（科学研究費助成事業）	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 皿井舞
45	中国典籍日本古写本の研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	博物館情報課長（兼情報資料室長） 田良島哲
46	日本陶磁における銀彩の美術史的意義について（鹿島美術財団）	学芸研究部	列品管理課平常展調整室主任研究員 三笠景子
47	上杉家の伝来能楽面の学際的調査研究（野上記念法政大学能楽研究所）	学芸研究部	企画課長（兼国際交流室長） 浅見龍介
48	特別展「運慶」に関する調査研究	学芸企画部	企画課長（兼国際交流室長） 浅見龍介
49	特別展「仁和寺と御室派のみほとけ―天平と真言密教の名宝―」に関する調査研究	学芸企画部	企画課特別展室長　丸山士郎
50	「アラビアの道―サウジアラビア王国の至宝」に関する調査研究	学芸企画部	調査研究課考古室長　白井克也
51	創刊記念『國華』130周年・朝日新聞140周年　特別展「名作誕生―つながる日本美術」に関する調査研究	学芸企画部	保存修復課保存修復室主任研究員 瀬谷愛
52	特別展「縄文　―１万年の美の鼓動―」に関する調査研究	学芸企画部	調査研究課考古室主任研究員 品川欣也
53	博物館環境デザインに関する調査研究	学芸企画部	企画課デザイン室長　木下史青
54	博物館教育に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　小林牧
55	凸版印刷と共同で実施する、ミュージアムシアターでの公開に向けた調査研究	学芸企画部	博物館情報課長（兼情報資料室長） 田良島哲
56	ＩＣＴを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　小林牧
57	ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究；新来館者の定着に向けた実証的調査分析（科学研究費助成事業）	総務部	総務課　関谷泰弘

○その他有形文化財に関連する調査研究　8件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	博物館の環境保存に関する調査研究	学芸研究部	保存修復課長　冨坂賢
2	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築（科学研究費助成事業）	学芸研究部	保存修復課環境保存室長　和田浩
3	被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	保存修復課環境保存室長　和田浩
4	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課情報管理室長　村田良二
5	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	学芸企画部	東京国立博物館百五十年史編纂室長 恵美千鶴子
6	博物館における文化財の情報資源化に関する研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	客員研究員　高橋裕次
7	文化財情報資源の探索と発見のためのデータ連携に関する研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部、学芸企画部	博物館情報課情報管理室長　村田良二
8	東京国立博物館所蔵写真資料データベース（科学研究費助成事業）	学芸研究部	学芸企画部長　富田淳

【京都国立博物館】 21件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　17件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	京都周辺出土の考古遺物に関する調査研究	学芸部	上席研究員　宮川禎一
2	訓点資料としての典籍に関する調査研究	学芸部	美術室長　羽田　聡
3	陶磁に関する調査研究	学芸部	工芸室研究員　降矢哲男
4	近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究　河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究（科学研究費助成事業）	学芸部	連携協力室長　淺湫　毅
5	幕末近代の商家が伝えた文化財の総合調査（科学研究費助成事業）	学芸部	教育室長　永島明子
6	日本の宮廷装束・調度に関する基礎的研究（科学研究費助成事業）	学芸部	工藝室長　山川　暁
7	長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究（科学研究助成事業）	学芸部	列品管理室主任研究員　呉　孟晋
8	近世期に作成された、書画の「極書」に関する基礎的研究（科学研究費助成事業）	学芸部	保存修理指導室研究員　福士雄也
9	特集展示「鳥羽伏見の戦い」に関連する調査研究	学芸部	上席研究員　宮川禎一
10	特集展示「京博すいぞくかん―どんなおさかないるのかな？」に関連する調査研究	学芸部	教育室研究員　水谷亜希
11	東アジアにおける繍仏の基礎的研究（科学研究費助成事業）	学芸部	企画室長　伊藤信二
12	思渓版大蔵経刊行実態の解明－目録と遺例による実証的研究（科学研究費助成事業）	学芸部	企画室アソシエイトフェロー 上杉智英
13	開館１２０周年記念特別展覧会「国宝」に関する調査研究	学芸部	工芸室研究員　降矢哲男
14	特別展「池大雅 天衣無縫の旅の画家」に関する調査研究	学芸部	保存修理指導室研究員　福士雄也
15	ボランティアによる、ハンズオン教材等を活用した展示作品理解のための事業に関する調査研究（科学研究費助成事業）	学芸部	教育室研究員　水谷亜希
16	博物館教育に関する調査研究	学芸部	教育室研究員　水谷亜希
17	古墳時代武装具に関する研究（科学研究費助成事業）	学芸部	考古室主任研究員　古谷毅

○その他有形文化財に関連する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊
2	文化財の保存・修復に関する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊
3	鉛釉陶器の鉛同位体比値と金属元素の価数から考察する生産地と焼成技術の特徴に関する調査研究（科学研究費助成事業）	学芸部	保存科学室長　降幡順子
4	文化財情報に関する調査研究	学芸部	上席研究員　宮川禎一

【奈良国立博物館】 18件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　14件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	復元模写制作に伴う仏教絵画の光学的調査と研究	学芸部	教育室長　谷口 耕生
2	古代の写経と聖教に関する基礎的研究	学芸部	企画室長　野尻 忠
3	仏教工芸・上代工芸の総合的調査	学芸部	工芸考古室長　清水 健
4	墳墓出土品の調査と研究	学芸部	列品室長　吉澤 悟
5	南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究	学芸部	上席研究員　岩田 茂樹
6	東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究	学芸部	教育室長　谷口 耕生
7	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に関連する調査研究	学芸部	企画室長　野尻 忠
8	Ｘ線ＣＴスキャナ等による彫刻・漆工・考古資料などの文化財に関する構造技法の調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越 俊行
9	染織技法による仏像の研究（科学研究費助成事業）	学芸部	学芸部長　内藤 栄
10	高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相に関する調査研究（科学研究費助成事業）	学芸部	館長　松本 伸之
11	1000年忌特別展「源信　地獄・極楽への扉」に関する調査研究	学芸部	主任研究員　北澤 菜月
12	特別展「第６９回正倉院展」に関する調査研究	学芸部	工芸考古室長　清水 健
13	創建1250年記念特別展「国宝 春日大社のすべて」に関する調査研究	学芸部	工芸考古室長　清水 健
14	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究	学芸部	教育室長　谷口 耕生

○その他有形文化財に関連する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越 俊行
2	文化財修理の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越 俊行
3	保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越 俊行
4	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究	学芸部	資料室長　宮崎 幹子

【九州国立博物館】31件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　24件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析に関する調査研究	学芸部 博物館科学課	博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか
2	近世キリスト教に関する研究	学芸部企画課	特別展室研究員　松浦晃佑
3	高校所蔵考古資料を利用した博学連携活動の実践的研究（科学研究費助成事業）	展示課	主任研究員　今井涼子
4	水中遺跡の保存活用に関する調査研究	学芸部	学芸部長兼企画課長　小泉惠英
5	日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究（科学研究費助成事業）	学芸部企画課	特別展室長　原田あゆみ
6	特別展示「神と仏と鬼の郷－国東宇佐六郷満山－」に関する調査研究	展示課	展示課長　楠井隆志
7	特別展示「白隠さんと仙厓さん」に関する調査研究	展示課	展示課長　楠井隆志
8	特集展示「国宝　銅鐸絵画」に関する調査研究	交流課	主任研究員　進村真之
9	特集展示「全国高等学校考古名品展2018」に関する調査研究	展示課	主任研究員　今井涼子
10	特集展示「坂本五郎コレクション受贈記念　北斎と鍋島、そして」に関する調査研究	学芸部文化財課	文化財課長　河野一隆
11	特集展示「平戸松浦家伝来の伊能図」に関する調査研究	学芸部企画課	特別展室研究員　松浦晃佑
12	特集展示「玉 - 古代を彩る至宝 - 」に関する調査研究	展示課	研究員　小嶋　篤
13	在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究（科学研究費助成事業）	九州国立博物館	九州国立博物館長　島谷弘幸
14	出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究（科学研究費助成事業）	学芸部文化財課	資料登録室主任研究員　川畑憲子
15	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　－東アジア金属工芸史の再構築－（科学研究費助成事業）	学芸部企画課	特別展室主任研究員　川村佳男
16	インドネシア・パセマ高原の装飾古墳の基礎的研究（科学研究費助成事業）	学芸部文化財課	文化財課長　河野一隆
17	特別展 「王羲之と日本の書」 に関する調査研究	学芸部文化財課	資料登録室長　丸山楢計
18	明治150年記念　特別展「オークラ　コレクション」に関する調査研究	学芸部文化財課	主任研究員　山下善也
19	特別展 「京都・醍醐寺－真言密教の宇宙－」 に関する調査研究	学芸部企画課	文化交流展室主任研究員　森實久美子
20	特別展 「室町将軍（仮称）」 に関する調査研究	学芸部企画課	文化交流展室主任研究員　森實久美子
21	特別展「三国志展（仮称）」に関する調査研究	学芸部企画課	特別展室主任研究員　川村佳男
22	特別展「瀋陽故宮展（仮称）」に関する調査研究	学芸部企画課	特別展室主任研究員　川村佳男
23	ＮＨＫと共同で実施する高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアターでの映像公開に向けた調査研究	学芸部企画課	文化交流展室主任研究員　森實久美子
24	特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究	学芸部企画課	特別展室研究員　西島亜希子

○その他有形文化財に関連する調査研究　7件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化財の材質・構造等に関する共同研究	学芸部 博物館科学課	博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか
2	博物館における文化財保存修復に関する研究	学芸部 博物館科学課	保存修復室主任研究員　志賀智史
3	博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	学芸部 博物館科学課	博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか
4	文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討（科学研究費助成事業）	学芸部 博物館科学課	環境保全室研究員　秋山純子
5	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討（科学研究費助成事業）	学芸部 博物館科学課	博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか
6	文化財防災ネットワーク推進事業（平成29年度文化芸術振興費補助金）	学芸部	学芸部長兼企画課長　小泉惠英

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
7	X線CTを用いた文化財有機質材料の同定方法の確立（科学研究費助成事業）	学芸部 博物館科学課	客員研究員　赤田昌倫

【東京文化財研究所】　22件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　7件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長 江村知子
2	日本東洋美術史の資料学的研究	文化財情報資料部	日本東洋美術史研究室長　小林達朗
3	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	文化財情報資料部	近・現代視覚芸術研究室長　塩谷純
4	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	文化財情報資料部	広領域研究室長　小林公治

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　飯島満
2	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　飯島満
3	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　飯島満

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　8件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	文化財情報資料部	文化財情報研究室長　二神葉子

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　7件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	保存科学研究センター	生物科学研究室長　佐藤嘉則
2	保存と活用のための展示環境の研究	保存科学研究センター	保存環境研究室長　吉田直人
3	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	保存科学研究センター	分析科学研究室長　犬塚将英
4	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	保存科学研究センター	修復計画研究室長　朽津信明
5	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	保存科学研究センター	修復材料研究室長　早川典子
6	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	保存科学研究センター	近代文化遺産研究室長　北河大次郎
7	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	保存科学研究センター	保存科学研究センター長　佐野千絵

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　5件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	文化遺産国際協力センター	国際情報研究室長　西和彦
2	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長　友田正彦
3	保存修復技術の国際的応用に関する研究	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人
4	在外日本古美術品保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人
5	国際研修	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　2件

○文化財情報基盤の整備・充実　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長 江村知子
2	文化財情報基盤の整備・充実	文化財情報資料部	文化財情報研究室長　二神葉子

【奈良文化財研究所】　46件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　18件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	文化遺産部	建造物研究室長　島田敏男
2	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部	歴史研究室長　吉川　聡

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　16件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡等整備）	文化遺産部	遺跡整備研究室長　内田和伸
2	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	文化遺産部	遺跡整備研究室長　内田和伸
3	平城宮東院地区の発掘調査①	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
4	平城宮東院地区の発掘調査②	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
5	平城京跡右京一条二坊四坪・西一坊大路の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
6	東大寺東塔院の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
7	藤原宮大極殿院地区の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英
8	飛鳥地域等の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英
9	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英
10	平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査・研究	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
11	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	飛鳥資料館	学芸室長　石橋茂登
12	中国との共同研究	都城発掘調査部　平城地区	副所長　渡辺晃宏
13	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部	景観研究室長　島田敏男
14	遺跡データベースの作成と公開	埋蔵文化財センター 企画調整部 都城発掘調査部	埋蔵文化財センター 遺跡・調査技術研究室長　金田明大
15	古代官衙・集落遺跡研究、古代瓦研究	都城発掘調査部　平城地区	部長　玉田芳英
16	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部　平城地区	考古第三研究室長　清野孝之

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　8件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長　金田明大
2	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成
3	動植物遺体の調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長兼保存修復科学研究室長 高妻洋成
2	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成
3	建造物の彩色に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成
4	高松塚古墳、キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成
5	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　3件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	イギリスセインズベリー日本芸術研究所との共同研究	企画調整部	部長　森本　晋
2	カンボジア・西トップ遺跡の調査と修復	企画調整部	国際遺跡研究室専門職　佐藤由似
3	ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力	企画調整部	部長　森本　晋

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　5件

○文化財情報基盤の整備・充実　　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財に関するデータベースの充実	企画調整部	部長　森本　晋
2	図書の収集・整理・公開・提供	研究支援推進部	連携推進課長　津田保行

○調査研究成果の発信　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催、ウェブサイトの充実	研究支援推進部 企画調整部	研究支援推進部連携推進課長 津田保行

○展示公開施設の充実　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	企画調整部	部長　森本　晋
2	平城宮跡解説ボランティアの研修内容の充実及び運用改善	研究支援推進部	連携推進課長　津田保行

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　12件

○文化財に関する研修の実施　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財担当者研修	企画調整部 研究支援推進部	企画調整部長　森本　晋

○文化財に関する協力・助言等　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	地方公共団体等の要請による発掘調査等への協力・援助	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
2	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英
3	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	奈良文化財研究所	所長　松村恵司
4	他機関等との共同研究及び受託研究	研究支援推進部	所長　松村恵司
5	被災した地域の復旧・復興事業に伴う地方公共団体等への支援・協力	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成

○平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・管理等への協力	研究支援推進部	研究支援課長　　伴　佳英
2	平城宮復原整備研究	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
3	国土交通省が行う平城宮いざない館の建設への協力	企画調整部	展示企画室長　加藤真二
4	文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力	飛鳥資料館	学芸室長　石橋茂登
5	ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	研究支援推進部	連携推進課長　津田保行

○連携大学院教育の推進　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進	研究支援推進部	所長　松村恵司

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1件

○アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	所長　岩本　渉

(参考) 受託研究一覧

合計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
44 件	9 件	34 件	1 件

【東京文化財研究所】　9件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	著名外国人招へいによる日本文化発信に係る調査研究事業	文化財情報資料部
2	絵金屏風の保存修理に関する調査研究	保存科学研究センター
3	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	保存科学研究センター
4	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	保存科学研究センター
5	被災資料有害物質発生状況調査業務	保存科学研究センター
6	文化遺産国際協力コンソーシアム事業	文化遺産国際協力センター
7	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	文化遺産国際協力センター
8	文化遺産保護国際貢献事業「ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業・建築分野」	文化遺産国際協力センター
9	文化遺産保護国際貢献事業「トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業」	文化遺産国際協力センター

【奈良文化財研究所】　34件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	考古資料および文献史料からみた過去の地震・火山災害に関する情報の収集とデータベースの構築・公開	埋蔵文化財センター
2	山田道の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
3	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託	都城発掘調査部　平城地区
4	平城宮跡歴史公園第一次大極殿院南門他発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
5	史跡　飛鳥寺跡に隣接する県道「橿原神宮東口停車場飛鳥線」の厳重立会調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
6	平成２９年度文化遺産国際協力拠点交流事業実施委託業務（ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業）	企画調整部
7	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務	研究支援推進部
8	特別史跡キトラ古墳の保存・活用及びキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営業務	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
9	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
10	京都市の文化的景観保存計画策定調査	文化遺産部
11	南山城村における文化的景観保存修景事業	文化遺産部
12	鳥取県鳥取市青谷横木遺跡出土木簡等の保存処理等総合的研究	都城発掘調査部　平城地区
13	鳥取県鳥取市大桝遺跡出土大型呪符木簡他の保存処理等の総合的研究	都城発掘調査部　平城地区

	調査研究テーマ名	担当部課
14	藤原京右京七条二坊、四分遺跡（宅地造成）発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
15	台の下貝塚出土の動物遺存体の分析	埋蔵文化財センター
16	長門鋳銭所跡出土木簡等の保存処理等を経ての総合的研究	都城発掘調査部　平城地区
17	松帆銅鐸・舌の調査研究	埋蔵文化財センター
18	平成29年度　国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務	埋蔵文化財センター
19	国宝薬師寺東塔遺物整理業務（金属製品）	都城発掘調査部　平城地区
20	国宝薬師寺東塔遺物整理業務（石材）	都城発掘調査部　平城地区
21	津山市城西伝統的建造物調査	文化遺産部
22	矢掛町矢掛宿伝統的建造物群保存対策調査	文化遺産部
23	藤原京右京二条一坊、醍醐遺跡、醍醐環濠（森村宅）発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
24	藤原京右京二条一坊、醍醐遺跡、醍醐環濠（宅地部分）発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
25	藤原京右京二条一坊、醍醐遺跡、醍醐環濠（道路部分）発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
26	出雲市内神社建造物調査研究業務	文化遺産部
27	特別史跡藤原宮跡（別所町水路改修）発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
28	瑞巌寺周辺の岩窟・石塔の映像記録・測量調査	埋蔵文化財センター
29	香川県岸の上遺跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究	都城発掘調査部　平城地区
30	法隆寺若草伽藍跡西方の調査出土壁画片の調査	埋蔵文化財センター
31	非破壊調査による絵画構造解明のための基礎研究	埋蔵文化財センター
32	吉野町宮滝遺跡の地中探査	埋蔵文化財センター
33	平城宮いざない館詳覧ゾーンにかかる学芸業務	企画調整部
34	平城京跡西大寺跡の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	平成28年度　無形文化遺産保護パートナーシッププログラム（受託）	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

c-③ 学会、研究会等発表実績一覧

平成30年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
410件	262件	89件	63件	53件	57件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	142件	47件	95件	0件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター			文化財防災ネットワーク推進本部	
	3件			3件	

【東京国立博物館】　89件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　67件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	明末清初の書－連綿趣味の魅力を語る－	学芸企画部長　富田淳 ほか外部研究者	11月25日	静嘉堂文庫美術館
2	同上	趙孟頫蘭亭十三跋流伝考－以宋克・銭博的範例為中心－	学芸企画部長　富田淳	11月2日	故宮博物院
3	同上	高校考古の課題と可能性－特に遺跡・遺物の保存と活用の観点から－	企画課特別展室主任研究員　市元塁	7月2日	文化財保存全国協議会第48回新潟大会
4	同上	学校所蔵考古・歴史資料の現状と課題―所在調査、研究、活用の事例―	企画課特別展室主任研究員　市元塁 ほか外部研究者	4月15日	考古学研究会　第63回総会・研究集会ポスターセッション
5	同上	「仏の国のあゆみ」	企画課出版企画室主任研究員　猪熊兼樹	8月5日	特別展「タイ～仏の国の輝き～」記念講演会（東京国立博物館平成館大講堂）
6	同上	「大嘗祭の歴史と文化」	企画課出版企画室主任研究員　猪熊兼樹	30年2月25日	脇山主基斎田90周年記念講演会（福岡市博物館講堂）
7	同上	親と子のギャラリー『トーハクでバードウォッチング―キジやクジャク、鳳凰が勢ぞろい―』の見方と特集展示ができるまで	博物館教育課教育講座室長　勝木言一郎、同ボランティア室主任研究員　神辺知加	5月27日	東京国立博物館月例講演会（於東京国立博物館）
8	同上	100年前の東西文化交流史研究が目指したもの	博物館教育課教育講座室長　勝木言一郎	11月18日	連続講座「日本における美術史学の誕生」（於東京国立博物館）
9	同上	中国仏教美術にみる儒教思想の受容と展開	同上	30年1月26日	国際会議「釈奠―東アジアの孔子祭典を考える」（於筑波大学）
10	同上	藤原行成の書とその系譜	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	8月5日	第57回現日書展講演会
11	同上	用Ｘ光研究中国古代封泥	特任研究員　谷豊信	10月29日	第五届“孤山証印”西泠印社国際印学峰会（中国浙江省杭州市）
12	同上	「東京国立博物館における染織文化財の保存・修復について」	列品管理課登録室長（兼貸与特別観覧室長） 小山弓弦葉	7月29日	独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・国立大学法人佐賀大学共催「染織品を中心とする文化財の保存にかかる共同研究」締結キックオフ集会　日本における染織文化財の保存
13	同上	「金春家伝来能装束について」	同上	30年2月11日	千葉市・青葉能講演会
14	同上	関東甲信越における地域の文化財防災体制の確立に向けて	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 六人部克典	30年1月30日	文化財防災体制構築に関する研究会（京都国立博物館）
15	同上	明治前期の海外における出雲焼の受容　―万国博覧会を通して―	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　國井悠	11月11日	陶磁談話会
16	同上	新出の浅山芦国筆「芝翫帖」について―絵師・書肆・歌右衛門贔屓としての芦国に着目して	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 曽田めぐみ	11月25日	第22回　国際浮世絵学会 秋季大会
17	同上	「美の滋賀」講座「白州正子が愛した滋賀神と仏の美を語る」	列品管理課貸与特別観覧室研究員西木政統、高梨純次（秀明文化財団）、和澄浩介（滋賀県立近代美術館）	30年1月17日	LEAGUE有楽町
18	同上	「タイにおける日本式刀剣」	列品管理課平常展調整室主任研究員　末兼俊彦	7月8日	日本タイ学会「文化財から考える日タイの関係」
19	同上	「タイの王室儀礼における日本刀」	同上	7月15日	東京国立博物館国際シンポジウム「タイの仏教美術と王権」
20	同上	「日本美術のあゆみ―信仰とくらしの造形―」展について	調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎	12月27日	日タイ修好130周年記念展「日本美術のあゆみ―信仰とくらしの造形―」記念講演（バンコク国立博物館）
21	同上	「日本美術のあゆみ―信仰とくらしの造形―」展について	同上	30年1月21日	日タイ修好130周年記念展「日本美術のあゆみ―信仰とくらしの造形―」開催記念講演会（バンコク国立博物館）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
22	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	日本の文化財の特性ー「日本美術のあゆみ―信仰とくらしの造形―」展を事例として	調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎	30年2月18日	ICOMOS Thailand　研究例会（バンコク国立博物館）
23	同上	平安時代の造仏における中央と地方	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞	11月21日	清泉女子大学大学院思想文化専攻・文化史学科共催シンポジウム
24	同上	文化財の公開と修理	同上	30年3月4日	京都文化博物館
25	同上	漆器の領分―婚礼調度の世界	調査研究課工芸室長 竹内奈美子	8月5日	第105回歴博フォーラム「URUSHI ふしぎ物語－人と漆の12000年史－」
26	同上	道端の人文学―日本の中の韓国を訪ねて「東京国立博物館で出会う韓国」	調査研究課考古室長 白井克也	10月18日	韓国文化院
27	同上	鉄製品から見た三国・古墳時代の日韓交流	調査研究課考古室研究員 河野正訓	7月14日	国立中央博物館との学術交流発表会
28	同上	古墳時代の石製宝器と儀器	同上	7月29日	東京国立博物館 月例講演会
29	同上	奈良県「橿原市瀬田遺跡の調査―陸橋付き円形周溝墓を中心に―」	調査研究課考古室研究員 山本亮 ほか外部研究者	6月24日	第20回近畿弥生の会　京都場所
30	同上	纒向周辺地域の古式土師器とその特質	調査研究課考古室研究員 山本亮	9月16日	古代学研究会
31	同上	土器の組成変化にみる古墳時代初頭から前期の布留遺跡	同上	30年3月4日	ここまで判った物部氏
32	同上	北海道常呂郡置戸町置戸山2遺跡の第1次発掘調査報告	調査研究課考古室アソシエイトフェロー 飯田茂雄 ほか外部研究者	5月28日	日本考古学協会
33	同上	日本の古代エジプト資料に関する情報の把握と発信	調査研究課東洋室研究員 小野塚拓造 ほか外部研究者	10月29日	日本オリエント学会 第59回大会（東京大学）
34	同上	X線CT撮影画像に及ぼす様々な要因についての研究	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀、同アソシエイトフェロー　宮田将寛	6月30日	文化財保存修復学会
35	同上	津波で被災した写真プリントの安定化処理方法の構築	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀 ほか外部研究者	8月24日～25日	東アジア文化遺産学会
36	同上	X線CT撮影画像に及ぼす様々な要因についての研究	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀、同アソシエイトフェロー　宮田将寛	6月30日	文化財保存修復学会
37	同上	文化財防災に関する人材育成・情報発信の成果と課題	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー 井上素子	30年1月30日	文化財防災体制構築に関する研究会（京都国立博物館）
38	同上	口頭発表「津波で被災したカンバス画の安定化処置―綿布に描かれたアクリル画のブロッティング法による脱塩―」	保存修復課保存修復室長 土屋裕子、同研究補佐員 本茉梨絵 ほか外部研究者	7月1日	一般社団法人文化財保存修復学会
39	同上	口頭発表「東京国立博物館の保存活動」	保存修復課保存修復室長 土屋裕子	10月1日	東京藝術大学　国際シンポジウム「台湾文化を後世に伝える－日本との違い」
40	同上	ギャラリートーク｛カンバス画の安定化処理について）」	同上	30年3月2日	「明日につなぐ気仙のたからもの津波で被災した陸前高田資料を中心に」展　岩手県立博物館（3月3日～3月28日
41	同上	口頭発表｛絵画関係資料再生の現状と課題」	同上	30年3月11日	平成29年度大津波プロジェクト主催支援シンポジウム 「連綿と続く被災文化財再生への歩みー博物館復興をめざしてー」 （公益財団法人日本博物館協会）
42	同上	津波により被災した漆工芸品の新しい脱塩処理方法の検討～湿布法の応用と検証～	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　野中昭美、同研究補佐員 本茉梨絵、同保存修復室長　土屋裕子 ほか外部研究者	7月1日～2日	文化財保存修復学会
43	日本染織コレクションの形成に関する研究（科学研究費助成事業）	山中商会が扱った古美術品としての日本染織ーアメリカにおける活動を中心に	列品管理課登録室長（兼貸与特別観覧室長） 小山弓弦葉	30年3月17日	黒田記念館セミナー室
44	絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究（科学研究費助成事業）	室町時代のやまと絵	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕	11月4日	東京国立博物館月例講演会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
45	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究（科学研究費助成事業）	正倉院の染織	客員研究員　沢田むつ代	9月10日	正倉院フォーラム、読売新聞社
46	同上	繊維製品―三昧塚古墳出土品の遺物に付着する繊維製品等について―	客員研究員　沢田むつ代	10月15日	考古学研究会大45回　シンポジウム
47	同上	入西石塚古墳出土の短甲と鏡等に付着する繊維について	同上	11月11日	入西石塚古墳研究会
48	「地域考古学」と「聖書考古学」の協業による古代パレスチナ地域史の再構築（科学研究費助成事業）	「古代イスラエルの出現 ―テル・アゼカとテル・レヘシュの近年の発掘調査結果に基づいて―」	調査研究課東洋室研究員 小野塚拓造 ほか外部研究者	6月9日	立教大学キリスト教学科公開シンポジウム
49	フェニキア人の「出現」－考古資料から見た初期の交易活動と対外進出（科学研究費助成事業）	「文化変容の中のアイデンティティ：フェニキアの事例を中心に」	同上	10月29日	日本オリエント学会 第59回大会（東京大学）における企画セッション
50	平安時代における「国風」的文化現象についての学際的研究（科学研究費助成事業）	仏教彫刻から見た「国風文化」の概要	調査研究課絵画・彫刻室 主任研究員　皿井舞	8月19日	平安時代における「国風」的文化現象についての学際的研究
51	同上	平安時代における和様彫刻の成立について	同上	10月16日	ワルシャワ大学日本学科国際シンポジウム
52	真言密教寺院の資料調査に基づく分野横断的綜合研究－新たな仏教思想史の枠組みを求めて（科学研究費助成事業）	仁和寺阿弥陀三尊像と宇多天皇	同上	8月8日	真言密教寺院の資料調査に基づく分野横断的綜合研究
53	同上	仁和寺と御室派のみほとけ-展覧会出陳の仏像をめぐって	同上	30年2月4日	よみうり大手町スクール
54	同上	The Style and Techniques of Dry Lacquer Sculptures in Japan: The Latest Scientific Report About the Seated Senju Kannon Bosatsu of Fujiidera	同上	30年3月26日	Sixth Forbes Symposium at the Freer Gallery of Art
55	中国典籍日本古写本の研究（科学研究費助成事業）	古筆手鑑から見た漢籍古写本	博物館情報課長（兼情報資料室長）　田良島哲	12月3日	「日本古写本与中国典籍」系列講座（上海・復旦大学）
56	特別展「運慶」に関する調査研究	仏師運慶の作品とその魅力	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統	11月17日	東海東京証券株式会社
57	同上	《銀座美術夜話会 第5話》閉幕間近！まだまだ楽しむ運慶展	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統 ほか外部研究者	11月20日	銀座 蔦屋書店
58	博物館環境デザインに関する調査研究	博物館の展示と照明デザイン ―LED照明の導入で感じること・考えること	企画課デザイン室長 木下史青	10月6日	第17回パナソニック汐留ミュージアム 学芸員照明研究会
59	同上	展示構成と会場デザイン「博物館の展示と照明デザイン」	同上	10月26日	文化庁「企画・展示セミナー」
60	同上	米国東海岸におけるミュージアムの社会的役割	博物館教育課教育普及室長　藤田千織	30年2月13日	ミュージアム・マネジメント学会・エデュケーター研究会
61	博物館教育に関する調査研究	ボランティアと共に取り組むバリアフリー―盲学校のためのスクールプログラムを中心に―	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり	9月26日	中国博物館協会ボランティア協議会
62	同上	東京国立博物館ボランティア	同上	12月21日	荒川区社会福祉協議会
63	凸版印刷と共同で実施する、ミュージアムシアターでの公開に向けた調査研究	ＶＲ作品で楽しむ土偶の魅力	調査研究課考古室主任研究員　品川欣也	30年2月10日	北海道環境生活部文化・スポーツ局文化振興課縄文世界遺産推進室主催「北の縄文セミナー」北海道庁赤れんが庁舎
64	ＩＣＴを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究	照明デザインのさらなる地平をめざして～研究者と照明デザイナーが語る光のスペクトル～　「美術品を照らす次世代の光」	企画課デザイン室長 木下史青 ほか外部研究者	9月 5日	照明学会 照明デザイン分科会及び視覚・色・光環境分科会主催
65	同上	LED照明・有機EL照明時代を迎えた美術館・博物館照明　「有機ＥＬ照明を用いた展示」	企画課デザイン室長 木下史青	9月 7日	照明学会 美術館・博物館の次世代照明基準に関する研究調査委員会
66	同上	デザインの始まり―最古石器から握斧（ハンドアックス）へ	同上	30年3月 9日	IMT(インターメディアテク）連続講演会
67	ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究；新来館者の定着に向けた実証的調査分析（科学研究費助成事業）	Transforming Public Space through Arts Participation: A Case Study on Art/Lit Living Innovation Zone (LIZ) Program as a Museum-Community Collaboration	総務課係長　関谷泰弘 ほか外部研究者	10月4日	ICOM MPR

○その他有形文化財に関連する調査研究　22件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	博物館の環境保存に関する調査研究	東京国立博物館における展示ケースの進化	企画課デザイン室主任研究員　矢野賀一、保存修復課環境保存室長　和田浩	6月17日	日本展示学会
2	同上	法隆寺金堂焼損部収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究-実測調査と数値解析による収蔵庫内の温湿度の現状の分析-	保存修復課環境保存室長　和田浩 ほか外部研究者	6月11日	日本文化財科学会
3	同上	災害対策調査部会2016年度活動報告	同上	7月1日	文化財保存修復学会
4	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築（科学研究費助成事業）	Study on transport environment of cultural properties via ship in Japan	保存修復課環境保存室長　和田浩	5月9日	28th IAPRI World Symposium on Packaging
5	同上	文化財の国内長距離輸送時の各輸送工程において発生した加速度の評価	同上	6月10日	日本文化財科学会
6	同上	キトラ古墳壁画輸送時に発生した加速度の解析	保存修復課環境保存室長　和田浩 ほか外部研究者	7月1日	文化財保存修復学会
7	同上	海上輸送を経由する文化財輸送環境の評価	同上	7月11日	日本包装学会
8	同上	マルチボディダイナミクスを活用した文化財輸送環境のシミュレーション	保存修復課環境保存室長　和田浩	7月25日	2017Japan Altair Technology Conference
9	同上	A Case Study on Transport Environment of Cultural Properties by Ship	同上	8月25日	The Sixth Symposium of the Society for Conservation of Cultural Heritage in East Asia
10	同上	文化財輸送環境の最適化に向けた基礎的研究	保存修復課環境保存室長　和田浩 ほか外部研究者	12月4日	日本機械学会
11	同上	美術品輸送専用車両による輸送環境のシミュレーションに関する基礎的研究	同上	11月16日	全日本包装技術研究大会
12	同上	キトラ古墳壁画搬送時の熱・水分環境評価	同上	6月11日	日本文化財科学会
13	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	Digitalization of Research Resource at Tokyo National Museum	博物館情報課長（兼情報資料室長）　田良島哲	6月26日	RENKEI cultural Heritage Scholarship Workshop（立命館大学）
14	同上	Management of Collection Information at Tokyo National Museum [poster]	同上	9月26日	International Conference on Digital Preservation 2017（京都大学）
15	同上	散逸した古典籍の復原の可能性 --博物館資料とIIIFへの期待--	同上	10月17日	IIIF Japan シンポジウム（IIIF Japan 企画実行委員会）
16	同上	Digitization and Utilization of Collection Resource at Tokyo National Museum	同上	11月28日	“文化＋科技”国際論壇（北京・故宮博物院）
17	同上	博物館コレクション情報公開に際しての課題	同上	30年2月7日	国立歴史民俗博物館「総合資料学の創成」人文情報ユニット研究会
18	同上	博物館資料とIIIF	博物館情報課情報管理室長　村田良二	7月27日	第4回CODHセミナー「デジタルアーカイブにおける画像公開の新しいトレンド」（人文学オープンデータ共同利用センター）
19	同上	散発的にデジタル化したデータの管理手法について	博物館情報課情報管理室アソシエイトフェロー　和久井遥	11月19日	アート・ドキュメンテーション学会
20	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	東京国立博物館所蔵湿板写真ガラス原板に関する研究	企画課国際交流室主任研究員　遠藤楽子	7月15日	東京大学史料編纂所画像史料解析センター研究集会「写真資料の保存と学術資源化をめぐって」
21	同上	東京大学史料編纂所1階ホール展示「『壬申検査関係写真』展ー東京国立博物館所蔵湿板写真ガラス原板に関する研究成果よりー」	企画課国際交流室主任研究員　遠藤楽子、博物館情報課長（兼情報資料室長）　田良島哲 ほか外部研究者	30年2月27日～3月22日	共同主催：「東京国立博物館所蔵湿板写真ガラス原板に関する基礎的研究」共同研究チーム／東京大学史料編纂所古写真研究プロジェクト
22	同上	東京国立博物館模本絵画コレクション形成にかかる一考察	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　金井裕子	9月13日	東京国立博物館館史研究会

【京都国立博物館】63件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　56件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	長谷川等伯と智積院障壁画	同上	5月28日	一般社団法人清風会記念講演会 東山閣
2	同上	雪舟	同上	10月13日	ＮＨＫ京都文化教室
3	同上	狩野元信、画壇を制覇す-その芸術と戦略	同上	10月21日	サントリー美術館
4	同上	桃山時代を飾る花　小袖裂の世界	工芸室長　山川　暁	4月2日	大和文華館日曜美術講座

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
5	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	東のはての宝の蔵　日本が伝える世界の染織品	工芸室長　山川　暁	5月13日	桜蔭会講演会
6	同上	肖像と服飾　頂相に托されたもの	同上	6月3日	服飾美学会シンポジウム「図像資料を読み解く」
7	同上	袈裟から広がる風景	同上	10月21日	日本織物文化研究会講演会
8	同上	国宝でたどる「書」の歴史	美術室長　羽田　聡	8月19日	NHK文化センター名古屋教室
9	同上	英彦山中興法蓮上人の肖像について	連携協力室長　淺湫　毅	4月29日	仏教文学会
10	同上	興福寺と奈良の仏像	同上	30年3月18日	高槻市立しろあと歴史館連続講座仏像に出会う７
11	同上	詫磨派の問題－勝賀を中心に－	保存修理指導室長 大原　嘉豊	7月16日	公益財団法人仏教美術研究上野記念財団平成29年度 「研究発表と座談会」
12	同上	韓国と中国と日本との関係から見た高麗時代の仏教美術	同上	8月25日	韓国国立中央博物館
13	同上	三次元計測・Ｘ線ＣＴ調査と古墳時代甲冑研究の課題	考古室主任研究員 古谷 毅	9月9日	学術振興会基盤研究Ｂ研究会「Ｘ線ＣＴ×島内139号地下式横穴墓-線CT調査による古墳時代甲冑の研究」九州国立博物館・鹿児島大総合研究博物館・えびの市教育委員会（於 福岡大学）
14	同上	基調講演・個別研究発表に関する総合討論のコーディネートおよびコメント	同上	12月2・3日	第14回古代武器研究会（於 山口大学）
15	同上	弥生・古墳時代のかお・古代のかお～考古資料に見る顔表現	同上	30年2月18日	平成29年度特別展「こだいのかお２～ふんどう君となかまたち～」に伴う講演会（於 松山市考古館）
16	同上	物部氏と武器生産 -石上神宮と王権の武装-	同上	30年3月4日	天理市観光協会設立６０周年記念大和の中のヤマト「シンポジウムここまで判った物部氏 -布留遺跡の調査成果から-」（於 東京国立博物館）
17	同上	考古資料から見た弥生～古墳時代出雲地方の特質 -形成と領域-	同上	30年3月17日	島根大学萌芽研究プロジェクト・朝日新聞文化財団文化財保護事業・島根県立八雲立つ風土記の丘連携シンポジウム「黄泉国訪問譚と古墳時代出雲の葬制-考古学・地質学・歴史学のコラボレーション-」（於 島根県立八雲立つ風土記の丘）
18	同上	器財埴輪の伝統性 -武装具形埴輪と倭の武装-	同上	30年3月24日	第3回古代韓日古墳研究交流會・第34回古墳文化研究會「日韓埴輪の比較･検討と倭系古墳出現の歴史的背景」（於 慶北大學校博物館）
19	同上	日本における文化財行政の歴史	保存修理指導研究員 福士雄也	11月18日	京都橘大学「美術工芸史研究Ⅱ」
20	同上	江戸時代の画家研究のための史料読解	同上	12月16日	京都橘大学「美術工芸史研究Ⅱ」
21	同上	若冲と18世紀の京都画壇	同上	30年2月10日	城陽市西部コミュニティーセンター
22	同上	新時代の美意識 源氏と平家の至宝	企画室研究員 井並林太郎	9月2日	NHK文化センター名古屋教室
23	同上	画中詞の成立―「矢田地蔵縁起絵巻」を中心に―	同上	10月7日	説話文学会9月例会（第167回例会）（於筑波大学筑波キャンパス）
24	同上	博物館での仕事について	列品管理室主任研究員 呉　孟晋	10月4日	神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部講義「グローバル・コミュニケーション入門」
25	同上	東京、台湾そして広東をつなぐ画家：須磨コレクションの重松岩吉について	同上	11月18日	国際コロキウム「移動する画家と東アジア近代美術の形成」福岡アジア美術館にて
26	同上	王冶梅在日本時期的絵画	同上	11月24日	国際シンポジウム「清風徐来：中国清代絵画書法（衡水）国際学術研討会」衡水中国書画博物館（中国河北省衡水市）にて
27	同上	博物館と中国語	同上	30年1月10日	常葉大学2017年度後期「中国語IIB」
28	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	近世京都商人恵比須屋荘兵衛―前川五郎左衛門家の記録と什物―	教育室研究員　水谷亜希	11月18日	佛教大学宗教文化ミュージアム秋期特別展関連講演会
29	陶磁に関する調査研究	展示を考える	工芸室研究員　降矢哲男	6月17日	奈良大学博物館実習講演会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
30	陶磁に関する調査研究	鎌倉室町の喫茶文化	工芸室研究員　降矢哲男	11月11日	土岐市美濃陶磁歴史館特別展『お茶と美濃焼』講演会
31	同上	国宝にみる日本文化	同上	30年1月23日	京都SKYシニア大学「発見・ライフデザインコース」企画講座
32	幕末近代の商家が伝えた文化財の総合調査	廣海家展ができるまで	教育室長　永島明子	30年2月13日	一般社団法人清風会記念講演会
33	長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究	漢学と中国学のはざまで：長尾雨山と近代日本の中国書画コレクション	列品管理室主任研究員 呉　孟晋	11月25日	国際研究集会「第11回SGRAチャイナ・フォーラム」（渥美国際交流財団関ログローバル研究会主催）、北京師範大学にて
34	同上	近代京都と中国書画：長尾雨山関係資料からみえてくること	同上	30年1月20日	立命館土曜講座「臥以遊之：中国の芸術文化に親しむ」、立命館大学にて
35	同上	新出の長尾雨山関係資料について	同上	30年3月10日	明治美術学会第5回例会、平成30年3月10日、西宮市大谷記念美術館にて
36	思渓版大蔵経刊行実態の解明－目録と遣例による実証的研究	大正蔵本『安吉州思渓法宝資福禅寺大蔵経目録』の底本とその問題点	企画室アソシエイトフェロー　上杉智英	9月2日	日本印度学仏教学会第68回学術大会（於花園大学）
37	特別展等の開催に伴う調査研究	海北友松―刀を絵筆にかえた絵師	学芸部長　山本英男	4月14日	NHK主催友松展記念講演会　梅田文化センター
38	同上	日本美術応援団、海北友松を応援する	同上	4月15日	京都国立博物館　友松展記念座談会
39	同上	海北友松―刀を絵筆にかえた絵師	同上	4月21日	NHK主催友松展記念講演会 高槻市傷害教育センター
40	同上	海北友松を語る	同上	4月22日	京都国立博物館　友松展記念座談会
41	同上	海北友松―刀を絵筆にかえた絵師	同上	5月6日	NHK主催友松展記念講演会 守山市民ホール
42	同上	桃山画壇の巨匠・海北友松	同上	5月20日	つがやま市民文化教養講座　ライズビル都賀山
43	開館120周年記念　特別展覧会「国宝」に関する調査研究	『国宝』展の魅力	学芸部長　山本英男	10月31日	岸和田健老大学
44	同上	国宝を120%楽しむために	教育室長　永島明子	10月12日	展覧会関連講演会（泉佐野市文化振興財団、ＮＨＫ大阪放送局主催） レイクアルスタープラザ・カワサキ生涯学習センターにて
45	同上	The Best of National Treasures for ICAA	同上	11月14日	The Institute of Classical Architecture & Art（ICAA）
46	同上	国宝200件！夢の8週間へのご案内	保存修理指導研究員 福士雄也	10月6日	NHK公開講座（於芦屋ルナホール）
47	同上	特別展覧会「国宝」のみどころ―長谷川等伯筆「松林図屏風」と久蔵筆「桜図壁貼付」の共演	同上	11月3日	萬亀楼
48	同上	国宝でつむぐ和と漢の物語	列品管理室主任研究員 呉　孟晋	11月7日	展覧会関連講演会（NHK主催）、高槻市生涯学習センターにて
49	同上	破格の造形 卯花墻の魅力	工芸室研究員　降矢哲男	8月5日	NHK名古屋文化センター、京都国立博物館開館120周年記念特別展覧会「国宝」講座
50	同上	国宝にみる茶の湯文化	同上	10月24日	宇治市生涯学習センター、NHK公開講演会「国宝」
51	同上	京都国立博物館開館120周年記念 特別展覧会「国宝」のみどころ	同上	11月7日	京都国立博物館開館120周年記念特別展覧会「国宝」のみどころ講座（ＮＨＫ梅田文化センター）
52	同上	国宝でたどる“極上”日本絵画の歴史	企画室研究員 井並林太郎	10月20日	NHK公開講演会（於豊能町立ユーベルホール）
53	同上	国宝からみる仏像の魅力	連携協力室長　淺湫毅	10月20日	高槻市北清水公民館講座 仏像へのいざない
54	博物館教育に関する調査研究	古美術を鑑賞するってどういうこと？	教育室研究員　水谷亜希	10月20日	京都造形芸術大学　アートプロデュース学科　特別講義
55	同上	博物館における教育普及について	同上	12月13日	立命館大学　博物館概論
56	同上	博物館がすべきこと？博物館だからできること！―歴史系博物館と子ども―	同上	30年2月6日	こどもひかりプロジェクト　研究交流会 in KYOTO

○その他有形文化財に関連する調査研究　7件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	その他有形文化財に関連する調査研究	日本における文化財行政の歴史	保存修理指導研究員 福士雄也	11月18日	京都橘大学「美術工芸史研究Ⅱ」
2	同上	Disaster Mitigation Approaches in Kyoto National Museum	同上	9月4日	UNESCO Chair Programme on Cultural Heritage and Risk Managemen

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
3	その他有形文化財に関連する調査研究	収蔵庫の環境整備（KICKの事例紹介）	保存修理指導研究員 福士雄也	30年1月30日	被災文化財受け入れに関する諸問題（文化財防災体制構築に関する研究会）
4	同上	飛鳥寺塔心礎出土耳環の調査	保存科学室長　降幡順子	6月10日	日本文化財科学会第34回大会
5	同上	古代寺院跡から出土した金銅製品の材質構造調査－奈良文化財研究所・飛鳥資料館保管資料を中心に―	同上	7月1日	文化財保存修復学会第39回大会
6	同上	平城京寺院出土の施釉陶器瓦磚の分析	同上	10月20日	施釉陶器瓦研究会
7	文化財の保存・修復に関する調査研究	京都国立博物館の染織品の保存と修理計画	工芸室長　山川曉	7月29日	東京文化財研究所・佐賀大学共同研究シンポジウム「日本における染織文化財の保存」

【奈良国立博物館】　53件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　53件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	仏像のはじまり	館長　松本伸之	7月26日	第67回法隆寺夏季大学
2	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	至宝！正倉院宝物をみる	同上	9月10日	正倉院フォーラム2017
3	教育普及活動に関する調査研究	奈良国立博物館におけるボランティア活動	同上	9月26日	博物館ボランティアに関する国際シンポジウム（於中国・上海博物館）
4	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	奈良・東大寺と六郷満山文化	同上	12月16日	大分県立美術館
5	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院展出前授業	学芸部長　内藤栄	10月2日	京都美術工芸大学
6	同上	せいぶ正倉院講座	同上	10月31日	奈良市西部公民館
7	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	快慶作品に関する二、三の問題	上席研究員　岩田茂樹	5月27日	奈良国立博物館公開講座
8	同上	浄土寺の彫像―重源・快慶の事績を中心に―	同上	7月8日	2017年播磨学特別講座「播磨の国宝～集積の謎とその魅力に迫る～」
9	同上	結縁の美術―中世肖像の一側面―	同上	8月24日	奈良国立博物館第46回夏季講座「地獄・極楽と浄土信仰の美術」
10	同上	欧米で出会った日本彫刻あれこれ	同上	12月17日	奈良国立博物館サンデートーク
11	同上	着て楽しむ！ほとけさまのファッション	情報サービス室長 岩井共二	4月29日	親と子のワークショップ（於奈良国立博物館）
12	同上	中国河南省の石窟寺院を訪ねて	同上	9月17日	奈良国立博物館サンデートーク
13	同上	春日野の星	工芸考古室長　清水健	7月16日	奈良国立博物館サンデートーク
14	同上	春日龍珠箱に描かれた十二宮をめぐって	同上	9月17日	天文文化研究会第16回例会
15	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院と東大寺	同上	10月7日	正倉院展フォーラム名古屋～宝物の魅力を語る～
16	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	春日赤童子像の図像について	同上	11月12日	読売新聞後援・いのちと心の講座135　平成29年《おん祭への招待》
17	同上	国宝 那智瀧図を読み解く	同上	12月9日	熊野那智大社御創建1700年・那智山青岸渡寺西国三十三所草創1300年記念　熊野三山歴史講座
18	同上	星曼荼羅の源流をめぐって	教育室長　谷口耕生	5月21日	奈良国立博物館サンデートーク
19	同上	南都絵所の形成―尊智流を中心に	同上	7月16日	公益財団法人上野記念財団研究と座談会「平安時代後期を中心とした絵師の工房をめぐる諸問題」

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
20	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院宝物と天平絵画の彩色技法	教育室長　谷口耕生	11月3日	正倉院学術シンポジウム2017
21	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	「信貴山縁起絵巻」特別講義	同上	12月11日	東京芸術大学
22	館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財の保存・修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	文化財を科学するⅣ	保存修理指導室長 鳥越俊行	11月19日	奈良国立博物館サンデートーク
23	同上	奈良国立博物館所蔵　地蔵菩薩坐像・竜樹菩薩坐像のＸ線ＣＴ調査	保存修理指導室長　鳥越俊行、前保存修理指導室アソシエイトフェロー 大江克己	6月10・11日	日本文化財科学会第34回大会
24	同上	奈良県珠城山三号墳出土馬具の科学的調査～双鳳文杏葉並びに忍冬唐草文鏡板を中心として～	同上	6月10・11日	日本文化財科学会第34回大会
25	同上	Ｘ線ＣＴと３Ｄプリンタを駆使したアイヌ民族資料「イカヨプ（狩猟用矢筒）」の内部構造および内容物の可視化	同上	7月1日	文化財保存修復学会第39回大会
26	同上	八栁神社所蔵　紺紙金泥法華経の科学調査	同上	7月2日	文化財保存修復学会第39回大会
27	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	奈良時代の福祉制度	企画室長　野尻忠	6月18日	奈良国立博物館サンデートーク
28	同上	東大寺二月堂の修二会と遠敷明神の香水	同上	8月20日	わかはく講座
29	同上	鎌倉時代の額安寺文書を読む	同上	12月10日	大和郡山市昭和地区公民館
30	同上	春日塔跡の散策	列品室長　吉澤悟	10月15日	奈良国立博物館サンデートーク
31	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院ガラス器の故地	同上	11月4日	歴史人類学会第38回大会
32	同上	正倉院宝物にみる「胡風」と「西域」	同上	11月28日	奈良国立博物館国際研究集会
33	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	恵心僧都源信と浄土信仰の美術	情報サービス室主任研究員　北澤菜月	8月12日	興福寺佛教文化講座
34	同上	源信と浄土教の美術	同上	8月23日	奈良国立博物館第46回夏季講座「地獄・極楽と浄土信仰の美術」
35	同上	源信と浄土信仰の美術	同上	9月2日	奈良国立博物館公開講座
36	同上	恵心僧都源信と浄土信仰の美術	同上	12月16日	龍谷大学世界仏教文化研究センターアジア仏教文化研究センター学術講演会
37	同上	古代寺院跡から出土した金銅製品の材質構造調査―奈良文化財研究所・飛鳥資料館保管資料を中心に―	教育室主任研究員 中川あや	7月1・2日	文化財保存修復学会第39回大会
38	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院の鏡	同上	11月4日	正倉院展公開講座
39	同上	官人の腰帯	同上	30年2月18日	奈良国立博物館サンデートーク
40	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	快慶の生涯と「如法」の仏像	美術室主任研究員 山口隆介	5月13日	奈良国立博物館公開講座
41	同上	快慶と運慶―新時代を切り開いた天才仏師―	同上	9月16日	喜光寺
42	同上	肥後定慶の軌跡と造像	同上	12月9日	姫路市　市民教養講座「歴史講座」
43	同上	善円の軌跡と造像	同上	12月10日	霊山寺塾
44	同上	将軍が崇敬した温泉神	同上	30年3月18日	奈良国立博物館サンデートーク
45	同上	道宣と元照	美術室アソシエイトフェロー　伊藤久美	8月20日	奈良国立博物館サンデートーク

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
46	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院展親子鑑賞会	工芸考古室アソシエイトフェロー　田澤梓	10月29日	奈良国立博物館親子鑑賞会
47	同上	古代の尺八―正倉院宝物　樺纒尺八を中心に―	同上	12月27日	韓国・国立慶州博物館
48	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	刺繍の仏像	同上	30年1月21日	奈良国立博物館サンデートーク
49	館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財の保存・修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	文化財修理の現場から～津波による被災紙資料を中心として～	前保存修理指導室アソシエイトフェロー 大江克己	4月16日	奈良国立博物館サンデートーク
50	同上	Ｘ線ＣＴスキャナを用いた出土金属製品の構造解析―古墳時代の鉄地金銅製武器・武具・馬具を中心として―	同上	8月19日	第8回兵庫考古学談話会
51	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	奈良国立博物館と正倉院展	同上	11月5日	東京藝術大学美術学部附属古美術研究施設
52	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	美術×語学の可能性	企画室アソシエイトフェロー　堀内しきぶ	11月24日	フジ国際語学院新宿校
53	同上	Identity flexibility in “Tamashii-nuki”: Transformation from a Worshipped Object to an Exhibited One through a Religious Ritual	同上	12月7日	ICOM COMCOL（コレクション国際委員会） UMEA 2017

〇その他有形文化財に関連する調査研究　0件

【九州国立博物館】　57件

〇有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　32件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	特別展「タイ～仏の国の輝き～」	日タイ修好130周年記念特別展「タイ～仏の国の輝き～」	学芸部企画課特別展室長 原田あゆみ	4月12日	しっとこ九博（会場：筑紫野市歴史博物館）
2	同上	同上	同上	4月19日	大野城市シニア大学講座（会場：九州国立博物館）
3	同上	「タイ仏教美術から読み解く王権と仏教」	同上	4月20日	ＢＩＺＣＯＬＩ（会場：九州経済調査協会　BIZCOLI）
4	同上	日タイ修好130周年記念特別展「タイ～仏の国の輝き～」の見どころ	同上	4月22日	講演会 アクロス文化学び塾
5	「ドヴァーラヴァティーにおける法輪建立と王権」	「タイの仏教美術と王権」	同上	7月15日	東京国立博物館国際シンポジウム
6	特別展「タイ～仏の国の輝き～」	「タイと日本　境界を越えて」	原田あゆみ・小泉惠英・望月規史（以上、九博）、アマラー・シースチャート（タイ芸術局上席研究員）	4月29日	日タイ修好130周年記念特別展・学術交流記念講演会
7	同上	「アユタヤーの日本人」「タイのごちそう決定版！ラーマ2世王の饗宴詩」	学芸部文化財課研究員 望月規史、山田均（公立大学法人名桜大学教授）	5月6日	特別展「タイ～仏の国の輝き～」リレー講座　見タイ　行きタイ良かタイ（会場：九州国立博物館）
8	同上	「輝く仏の国　タイ」「仏陀の足跡を求めて」	学芸部長　小泉惠英、 学芸部企画課特別展室長 原田あゆみ	5月13日	同上
9	同上	「微笑みの国の歴史と美術」	学芸部企画課特別展室長 原田あゆみ	5月27日	「もっと知りタイ！タイ文化講座」会場：立システムズホール仙台(仙台市青年文化センター)
10	文化交流の観点から見た17～18世紀日本美術の研究	Biombos as the Mirror of Cultural Exchanges between Japan and Europe in the 17th century	学芸部企画課特別展室主任研究員　鷲頭桂	6月1日	L’ ASIE PORTUGAISE : DES ARTS ET DES LETTRES (Colloque international), Fondation Calouste Gulbenkian/Universite Paris-Sorbonne

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
11	材質調査	X 線 CT 調査による古墳時代甲冑の分析	鹿児島大学　橋本達也、奈良大学　今津節生、企画課課長　河野一隆、客員研究員　赤田昌倫、展示課主任研究員 岸本圭、展示課研究員　小嶋篤	6月4日	日本文化財科学会33回大会
12	同上	X 線 CT スキャナを用いた国宝「初音の調度」構造調査-小櫛箱、乱れ箱、湯桶の構造研究発表-	客員研究員　赤田昌倫、徳川美術館　吉川美穂、学芸部文化財課資料登録室主任研究員　川畑憲子	6月10日、11日	日本文化財科学会34回大会
13	材質調査	奈良国立博物館所蔵　地蔵菩薩坐像・竜樹菩薩坐像のX線CT調査	奈良国立博物館　保存修理指導室長　鳥越俊行、展示課長　楠井隆志、客員研究員　赤田昌倫、奈良国立博物館　岩田茂樹、岩井共二、山口隆介、大江克己、奈良大学　今津節生	6月10日、11日	日本文化財科学会34回大会
14	特別展「タイ～仏の国の輝き～」	日タイ修好130周年記念特別展「タイ～仏の国の輝き～」―文化財から考える日タイ関係―	原田あゆみ・小泉惠英・望月規史（以上、九博）、末兼俊彦・猪熊兼樹（以上、東博）	7月8日	日タイ学会　第19回研究大会
15	同上	「ドヴァーラヴァティーにおける法輪建立と王権」	学芸部企画課特別展室長　原田あゆみ	7月15日	東京国立博物館国際シンポジウム「タイの仏教美術と王権」
16	同上	日タイ修好130周年記念特別展「タイ～仏の国の輝き～」の見どころ	同上	7月26日	日経カルチャー世界を識る 会場：タイ王国大使館
17	文化交流の観点から見た17～18世紀日本美術の研究	Exotic Garden: A Birds and Flowers Screen and the Export of Japanese Folding Screens in the 17th century	学芸部企画課特別展室主任研究員　鷲頭桂	7月26日	（International Symposium）Global Circulations & Transformations: Art and Textile in East Asia 1540-1760, 糸・布・衣の循環史研究会主催
18	特別展「新・桃山展―大航海時代の日本美術」	大航海時代の日本美術：新・桃山展のハイライトを巡る	同上	10月20日	大野城市シニア大学講座（会場：九州国立博物館）
19	特別展「新・桃山展―大航海時代の日本美術」	南蛮美術とビオンボ（リレー講座「大航海時代の世界と日本」）	学芸部企画課特別展室主任研究員　鷲頭桂	10月21日	特別展「新・桃山展―大航海時代の日本美術」（会場：九州国立博物館）
20	同上	大航海時代の日本美術：新・桃山展のハイライトを巡る	同上	10月27日	しっとこ九博（会場：筑紫野市歴史博物館）
21	同上	『新・桃山展－大航海時代の日本美術』を楽しむ	同上	10月27日	ＢＩＺＣＯＬＩ（会場：九州経済調査協会　BIZCOLI）
22	同上	大航海時代の日本美術：新・桃山展のハイライトを巡る	同上	10月29日	ピーポート甘木（会場：朝倉市総合市民センター）
23	文化交流の観点から見た17～18世紀日本美術の研究	Introduction of the Birds and Flowers Screen of Kyushu National Museum	学芸部企画課特別展室主任研究員　鷲頭桂	11月3日	Workshop "Momoyama Japan and the Artistic Contacts via Asian and Transpacific Sea Lanes",大阪大学西洋美術史研究室主催
24	特別展「新・桃山展―大航海時代の日本美術」	BOOKUOKA2017イベント：「キリシタンの世紀と殉教の記憶をめぐって」（作家星野博美氏を迎えて）	学芸部企画課特別展室主任研究員　鷲頭桂	11月11日	BOOKUOKA2017（会場：九州国立博物館）
25	博物館におけるデジタルデータの活用について	水中考古学関連展示、ラスコー展などにおけるデジタルデータの展示への活用について	学芸部特任研究員 臺信祐爾	11月20日	平成29年度文化遺産国際協力拠点交流事業　ミャンマーバガンシンポジウム
26	特別展「王羲之と日本の書」	王羲之愛好と書の魅力（特別展リレー講座）	館長　島谷弘幸	30年2月10日	特別展「王羲之と日本の書」（会場：九州国立博物館）
27	同上	古い筆跡たちのささやき（特別展リレー講座）	学芸部文化財課資料登録室長　丸山猶計	30年2月17日	特別展「王羲之と日本の書」（会場：九州国立博物館）
28	同上	特別展「王羲之と日本の書」みどころ解説	同上	30年2月14日	福岡県高等学校書道教育研究部会福岡地区研修会 （会場：九州国立博物館）
29	同上	王羲之と日本の書～運命的な書との出会いを	同上	30年2月20日	ＢＩＺＣＯＬＩ（会場：九州経済調査協会　BIZCOLI）
30	同上	深く、楽しく、よくわかる　九州国立博物館「特別展　王羲之と日本の書」	同上	30年2月27日	大野城市シニア大学講座（会場：九州国立博物館）
31	同上	特別展「王羲之と日本の書」みどころ解説	同上	30年3月2日	しっとこ九博（会場：筑紫野市歴史博物館）
32	高校所蔵考古資料を利用した博学連携活動の実践的研究	高等学校所在資料を活用した博学連携事業について	展示課主任研究員 今井涼子	30年3月11日	「学校と文化資源」研究会

○その他有形文化財に関連する調査研究　25件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財IPM	博物館におけるIPMの実践	学芸部博物館科学課長兼 環境保全室長　木川りか	4月8日	文化財保存修復学会公開シンポジウム　博物館におけるIPMのこれから
2	日本絵画史の研究	桜の絵にみる美と心	学芸部文化財課主任研究員　山下善也	4月8日	東京国立博物館桜セミナー
3	文化財IPM	文化財害虫について、文化財の虫等への対処法	学芸部博物館科学課長兼 環境保全室長　木川りか	5月24日	IPM研修（国立文化財機構職員向け対象研修会）
4	同上	温湿度モニタリング	学芸部博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子	5月24日	IPM研修（国立文化財機構職員向け対象研修会）
5	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	阿蘇石製石棺に採用された赤色顔料について	学芸部博物館科学課 保存修復室主任研究員 志賀智史	6月10日、11日	日本文化財科学会34回大会
6	有形文化財の保存県境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究	「赤外線画像を使った彩色材料の面的調査」	学芸部博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子	6月10日、11日	日本文化財科学会34回大会
7	文化財IPM	ガラス外壁を有する博物館建造物における衝突野鳥の傾向分析と対策	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、学芸部博物館科学課研究員　秋山純子、九州環境管理協会　大城戸博文、柿本大典、学芸部博物館科学課研究補佐員　泊智子、光山文枝、名誉館員　本田光子	7月1日	文化財保存修復学会39回大会
8	文化財防災	空調のない被災文化財の一時保管場所における様々な保管容器内の環境調査	学芸部博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、客員研究員　赤田昌倫、三角菜緒、名誉館員　本田光子	7月1日	文化財保存修復学会39回大会
9	文化財生物劣化調査・対策	石人山古墳装飾石棺表面の微生物群集構造解析	東京文化財研究所　佐藤嘉則、茨城大学　西澤智康、小沼奈那美、東京文化財研究所　犬塚将英、森井順之、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、東京文化財研究所　朽津信明	7月1日	文化財保存修復学会39回大会
10	文化財生物劣化調査	歴史的木造建造物における新たな害虫モニタリング手法の実用性の検討	東京文化財研究所　小峰幸夫、日光社寺文化財保存会　原田正彦、千葉県立中央博物館　斉藤明子、東京文化財研究所　佐藤嘉則、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、京都大学　藤井義久	7月1日	文化財保存修復学会39回大会
11	材質調査	朝鮮・三国時代の鞍装飾の一例	学芸部博物館科学課保存修復室主任研究員 志賀智史	7月2日、3日	文化財保存修復学会第39回大会
12	有形文化財の保存県境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究	「赤外線画像を利用した彩色材料の検討」	学芸部博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子	8月24日、25日	2017上海国際文化遺産シンポジウム
13	材質調査	X線CTを用いた塗装材料の基礎研究	客員研究員 赤田昌倫	8月24日～26日	2017上海国際文化遺産シンポジウム
14	水中文化遺産	水中考古学の過去・現在・未来	学芸部博物館科学課 アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	9月2日	比較文明学会第61回研究会
15	文化財科学	文化財に関わる理系の仕事	学芸部博物館科学課長兼 環境保全室長　木川りか	9月9日	福岡銀杏会
16	文化財IPM	博物館資料と生物被害対策	同上	9月20日	文化庁事業「博物館科学研修会」長崎歴史文化博物館
17	同上	温湿度のモニタリング方法と重要性 測定機器、調湿方法、データ管理　（実習）	学芸部博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子	10月26日	IPM研修
18	同上	文化財害虫について 文化財害虫の同定（実習） 文化財の虫やカビへの対応法	学芸部博物館科学課長兼 環境保全室長　木川りか	10月26日 、27日	IPM研修
19	同上	文化財害虫発見記録データ分析 データの見方	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、学芸部博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子	10月27日	IPM研修

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
20	文化財IPM	文化財の生物被害と加害生物およびレベルコントロールについて	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか	12月7日	（公財）文化財研究所　第６回IPMコーディネータ資格取得講習会
21	水中文化遺産	鷹島海底遺跡の調査とその後－これからの水中考古学研究	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー佐々木蘭貞	12月9日	神奈川県立金沢文庫　『唐物KARA-MONO展』　連続講座
22	同上	鷹島海底遺跡出土遺物から蒙古襲来絵詞を読み解く	同上	12月10日	美術史学会東支部大会
23	近世日本絵画史の研究	狩野派を知る見る楽しむ	学芸部文化財課主任研究員　山下善也	30年1月27日	根津美術館『狩野派の絵画　墨と金』講演会
24	文化財IPM	美術館、博物館における虫菌害対策　IPMや燻蒸等の具体例	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか	30年2月9日	全国美術館会議　保存研究部第50回会合　長崎県美術館
25	文化財防災	カビを中心とする生物被害への対応	同上	30年2月14日	水損資料応急処置ワークショップ九州歴史資料館

【東京文化財研究所】　47件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　7件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　5件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	崇敬と好奇、そして禁忌のまなざし―明治天皇の視覚表現をめぐって	文化財情報資料部近・現代視覚芸術研究室長　塩谷純	30年2月15日	イギリス・セインズベリー日本藝術研究所
2	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	岸田劉生における1913年から16年の「クラシツク」受容について	文化財情報資料部客員研究員　田中淳	9月5日	文化財情報資料部研究会
3	同上	フランスにおける近代美術資料　美術館・図書館・アーカイブ・インターネットリソースの紹介と活用例	文化財情報資料部客員研究員　齋藤達也	12月26日	同上
4	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	メトロポリタン美術館が所蔵するヨーロッパの武器武具と甲賀市水口に伝わるレイピアの検討	メトロポリタン美術館武器武具部門長　ピエール・テルジャニアン	9月22日	同上
5	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	タイにおける螺鈿工芸の変遷とその意味	サイアム大学　高田知仁	11月21日	文化財情報資料部研究会

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	江島弁財天信仰と常磐津節演奏家―浮世絵〈相州江之嶋弁才天開帳参詣群集之図〉を起点に―	無形文化遺産部無形文化財研究室長　前原恵美	12月2日	東洋音楽学会
2	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	神霊観念の諸相について	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	6月10日	日本宗教民俗学会

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　26件

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　26件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	石人山古墳装飾石棺表面の微生物群集構造解析	保存科学研究センター生物科学研究室長　佐藤嘉則　他	7月1日	文化財保存修復学会第39回大会
2	同上	歴史的木造建造物における新たな害虫モニタリング手法の実用性の検討	保存科学研究センターアソシエイトフェロー小峰幸夫　他	同上	同上
3	同上	成田禎介《船着き場》、奈良岡正夫《朝陽》に発生したカビ被害の調査について	保存科学研究センター生物科学研究室長　佐藤嘉則　他	同上	同上
4	同上	博物館 IPM におけるバイオエアロゾル測定の活用に向けた基礎的な研究	保存科学研究センター客員研究員　間渕創　他	同上	同上
5	同上	Identification of novel cyanobacteria occurred on surfaces of the stone sarcophagus at Sekijinsan Tumulus	保存科学研究センター生物科学研究室長　佐藤嘉則　他	8月29日	環境微生物系学会合同大会2017
6	同上	多湿環境における生麩糊のカビ発育比較	同上	9月26日	日本防菌防黴学会第 44 回年次大会
7	保存と活用のための展示環境の研究	Towards A new standard for museum lightings in Japan	保存科学研究センター保存環境研究室客員研究員吉澤望　他	9月12日	Museum Lighting Symposium

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
8	保存と活用のための展示環境の研究	白色LED光が蛍光性文化財材料の色彩に与える影響について	保存科学研究センター保存環境研究室長　吉田直人　他	6月10、11日	日本文化財科学会第34回大会
9	同上	収蔵庫の空気環境の評価と清浄化について	保存科学研究センター保存環境研究室客員研究員　呂俊民　他	7月1日	文化財保存修復学会第39回大会
10	同上	白色LED光の被照射面での挙動と色彩への影響に関する考察	保存科学研究センター保存環境研究室長　吉田直人　他	同上	同上
11	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	INAXライブミュージアム「窯のある資料館」における保存環境と塩類析出に関する調査	保存科学研究センター分析科学研究室長　犬塚将英　他	6月9～11日	日本文化財科学会第34回大会
12	同上	国宝慈光寺経における真鍮泥の利用	保存科学研究センター副センター長　早川泰弘　他	同上	同上
13	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	断層露頭の保存に関する保存科学的考察	保存科学研究センター修復計画研究室長　朽津信明　他	7月1日	文化財保存修復学会第39回大会
14	同上	地質露頭の科学的保存と公開に関する研究	同上	10月12、13日	日本応用地質学会平成29年度研究発表会
15	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	ポリビニルアルコール分解酵素の彩色・絵画修復への適用	保存科学研究センター修復材料研究室長　早川典子、客員研究員　酒井清文　他	7月2日	文化財保存修復学会第39回大会
16	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	膠の性状と装潢における適性の関連	保存科学研究センター日本学術振興会研究員　宇高健太郎、修復材料研究室長　早川典子　他	同上	同上
17	同上	紙の緑青焼けに及ぼす銅成分と膠について	保存科学研究センター客員研究員　貴田啓子、修復材料研究室長　早川典子　他	同上	同上
18	同上	膠を用いた模擬劣化彩色体の調製方法	保存科学研究センター日本学術振興会研究員　宇高健太郎、修復材料研究室長　早川典子　他	同上	同上
19	同上	ジェランガム処置した紙の残留物に関する調査	保存科学研究センター客員研究員　貴田啓子、修復材料研究室長　早川典子　他	同上	同上
20	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	紙に付着した粘着テープの劣化ーアクリル系樹脂粘着テープ除去方法の検討ー	文化財防災ネットワーク推進室アソシエイトフェロー内田優花、修復材料研究室長　早川典子　他	7月2日	文化財保存修復学会第39回大会
21	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	Effect of copper ions derived from Malachite pigment on deterioration of Japanese paper Substrate	保存科学研究センター客員研究員　貴田啓子、修復材料研究室長　早川典子　他	8月24～26日	The 6th International Symposium of the Society for Conservation of Cultural Heritage in East Asia, 2017
22	同上	Application of the enzymes for removing polyvinyl alcohol(PVA) from the artworks	保存科学研究センター修復材料研究室長　早川典子、客員研究員　酒井清文　他	9月4～8日	ICOM-CC 18th triennal conference
23	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	キトラ古墳壁画の修復	保存科学研究センター修復材料研究室長　早川典子、特任研究員　川野邊渉　他	7月2日	文化財保存修復学会第39回大会
24	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	防災遺産の系譜と立山砂防	保存科学研究センター近代文化遺産研究室長　北河大次郎	10月1日	富山県世界遺産登録推進事業実行委員会
25	同上	これからの近代化遺産を考える	同上	10月28日	足利の近代化遺産を考える会
26	同上	インフラ・土木遺産の観光資源としての魅力と可能性	同上	11月22日	土木学会西部支部

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　14件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　14件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	保存修復技術の国際的応用に関する研究	Preliminar Scientific Investigations on Constitutive Materials from temple n.1205, Bagan Valley (Myanmar)	Department of Basic Sciences and Fundamentals, University of Urbino, Urbino・Maria Letizia Amadori2 Department of Chemistry, University of Milan, Milan・Paola Fermo、文化遺産国際協力センター研究員　前川佳文　他	5月2日	TECHNART

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
2	保存修復技術の国際的応用に関する研究	ミャンマー・バガン遺跡群における壁画保存修復に向けた調査研究	保存科学研究センターアソシエイトフェロー　鴫原由美、文化遺産国際協力センター研究員　前川佳文、文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　増渕麻里耶	7月2日	文化財保存修復学会第39回大会
3	同上	Conservation and Restoration of the Outer Walls of the Brick Temples in Bagan, Myanmar	文化遺産国際協力センター研究員　前川佳文	7月27日	The 10th Expert Meeting on Earthquake Damage to the Bagan Archaeological Site
4	同上	Non-invasive and Micro-invasive Investigations on Wall Paintings from a XIII centuries Temple in Bagan Valley (Myanmar)	Department of Basic Sciences and Fundamentals, University of Urbino, Urbino・Maria Letizia Amadori National Research Council・Mara Camaiti、文化遺産国際協力センター研究員　前川佳文　他	10月23日	Metrology for Archaeology
5	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	ネパールにおける層塔建築物の地震被害と構造性能評価に関する研究 その1 地震被害の概要	香川大学准教授　宮本慎宏	9月1日	2017年度日本建築学会大会（中国）
6	同上	ネパールにおける層塔建築物の地震被害と構造性能評価に関する研究 その2 常時微動計測	香川大学修士課程 奥廣晴香	同上	同上
7	同上	ネパールにおける層塔建築物の地震被害と構造性能評価に関する研究 その3 伝統的煉瓦壁の材料強度試験	首都大学東京修士課程 山口あかり	同上	同上
8	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	コカナにおける伝統的建造物の復興の実態（被災後１年半），2015年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況調査報告 その4	東京大学助教　森朋子	9月1日	2017年度日本建築学会大会（中国）
9	同上	民家の形態変容から見た住まいへの要請に関する考察，2015年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況調査報告 その5	東京大学修士課程 小林里瑳	同上	同上
10	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	歴史的町並み保存の視点から見たコカナの非伝統工法民家のファサードの実態，2015年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況調査報告 その6	東京大学修士課程　濱田愛	9月1日	同上
11	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	コカナにおける街区内部の空間に関する現状と課題，2015年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況調査報告 その7	東京大学修士課程 三文字昌也	同上	2017年度日本建築学会大会（中国）
12	同上	he study on the irrigation system, ‘Rajkulo’, in the historical settlement, Khokana, of Kathmandu Valley, The 6th International Symposium of Asian Cultural Landscape Association	東京大学助教　森朋子	7月22日	The 6th International Symposium of Asian Cultural Landscape Association
13	同上	The report on the current situation of damaged historical settlement in Khokana, Nepal after the 2015 earthquake, The 14th International Congress of Asian Planning Schools Association	同上	10月12日	The 14th International Congress of Asian Planning Schools Association
14	文化遺産保護国際貢献事業「トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業」	The various types of perishable materials to be used on site with relevant Health and Safety guidelines	文化遺産国際協力センター研究員　前川佳文	11月2日	Challenges and Issues to Wall Painting Conservation

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　0件

【奈良文化財研究所】　95件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　22件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	生駒・長福寺本堂の修理工事と木札の調査	文化遺産部室長　吉川聡 奈良県教育委員会 山下秀樹	9月30日	生駒ふるさとミュージアム講演会
2	同上	古文書調査と自然現象	文化遺産部室長　吉川聡	30年3月12日	第6回CODHセミナー　歴史ビッグデータ ～過去の記録の統合解析に向けた古文書データ化の挑戦～

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　20件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡整備）	「史跡等を活かした地域づくり・観光振興」にかかる事前アンケート集計	文化遺産部研究員 高橋知奈津	12月22日	平成29年度遺跡整備・活用研究集会
2	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	回遊式庭園の研究現況	同上	10月29日	平成29年度庭園の歴史に関する研究会
3	同上	東院庭園と渤海の庭園	同上	9月23日	東院の宴
4	同上	森蘊による歴史的な庭園の「復原的研究」	文化遺産部アソシエイトフェロー マレス・エマニュエル	7月23日	「復元学の提唱　～考証学と復元学の結節点～」
5	同上	人は庭園に何を見るのか？	同上	9月9日	神戸日仏協会　特別講座
6	同上	「画家クロード・モネの庭をめぐる考察-フランスの日本庭園、日本のフランス庭園」	同上	11月23日	平成29年度「観光資源としての庭園」に関する研究会
7	飛鳥･藤原京跡出土遺物･遺構に関する調査研究等	藤原宮造営に伴う瓦生産体制と瓦窯構造の変化	都城発掘調査部研究員 石田由紀子	6月3日	窯跡研究会第15回研究会
8	同上	特別史跡藤原宮跡(大極殿院の調査／飛鳥藤原第186次調査)	都城発掘調査部研究員 清野陽一	8月5日	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館土曜講座
9	同上	尾北窯における須恵器生産 尾北窯について考える	都城発掘調査部室 長尾野善裕	8月19日	東海土器研究会･歴史土器研究会共催研究集会
10	飛鳥･藤原京跡出土遺物･遺構に関する調査研究等	デジタルデータでみる高松塚古墳	都城発掘調査部主任研究員 廣瀬覚	10月7日	奈良文化財研究所第9回東京講演会
11	同上	高松塚古墳の構築技術を解明する	同上	10月28日	平成29年度飛鳥資料館秋期特別展講演会
12	同上	藤原宮の造営と下層運河SD1901A	都城発掘調査部研究員 大澤正吾	11月11日	奈良文化財研究所第121回公開講演会
13	飛鳥･藤原京跡出土遺物･遺構に関する調査研究等	山田道の調査と出土木簡	都城発掘調査部主任研究員 山本崇	12月2日	木簡学会第39回研究集会
14	同上	宮殿における幢幡遺構･幢旗遺構･旗竿遺構の展開	都城発掘調査部研究員 大澤正吾	30年3月3日	第34回条里制･古代都市研究会大会
15	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	「文化的景観」の概念形成と制度運用	文化遺産部研究員 惠谷浩子	5月13日	東京農業大学　緑のフォーラム2017
16	同上	文化的景観から建築を考える　-北山杉の里・中川の建築調査を通じて-	文化遺産部アソシエイトフェロー　本間智希	5月21日	平成29年度日本造園学会全国大会ミニフォーラムin日本大学湘南キャンパス
17	同上	都市と周縁の関係－京都から瀬戸内を考える	文化遺産部研究員 惠谷浩子	9月6日	平成29年度瀬戸内海研究フォーラムin京都
18	同上	営みの関わり合いを伝える－岐阜・暮らしの伏流水－	同上	10月12日	全国文化的景観地区連絡協議会岐阜大会
19	古代官衙・集落遺跡研究、古代瓦研究	国庁と郡庁の正殿にみる建築的比較	都城発掘調査部研究員 海野聡	12月8～9日	第21回古代官衙･集落研究集会「地方官衙政庁域の変遷と特質」
20	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	大和の一本づくり・一枚づくり	都城発掘調査部主任研究員 岩戸晶子	30年2月3､4日	第18回シンポジウム　8世紀の瓦づくりⅧ「一本づくり･一枚づくりの展開１」

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　62件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　31件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	中央アジアシルクロード都市遺跡カフィル・カラ城の研究	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー 山口欧志他	5月27、28日	日本考古学協会第83回総会
2	同上	遺物のデジタル三次元計測法の比較検討	埋蔵文化財センター室長 金田明大他	6月9日	日本文化財科学会第34回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
3	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	何がみえるのか?―土器製作痕跡へのSfM/RTI計測の試行	埋蔵文化財センター室長 金田明大他	6月9日	日本文化財科学会第34回大会
4	同上	土器圧痕の超適応的な三次元デジタルレプリカ法	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　山口欧志	6月9日	同上
5	同上	平城京出土瓦基準資料の三次元デジタルデータベース構築に向けて	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー 山口欧志他	6月9日	同上
6	同上	石造物のデジタルドキュメンテーションと活用	同上	6月9日	同上
7	同上	大変だったので仮想空間で伐採してみました。	埋蔵文化財センター室長 金田明大	9月2日	第2回 文化財方法論研究会
8	同上	三次元計測とRTIによる土器計測・観察の可能性と課題	同上	9月2日	同上
9	同上	遺物の微細痕跡の資料化	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　山口欧志	9月2日	同上
10	同上	マイクラで遊ぶ：文化財の計測データで楽しむ	同上	9月2日	同上
11	同上	SfM-MVSハンズオン 初級編	同上	9月2日	同上
12	同上	SfM-MVSハンズオン 中級編	同上	9月3日	同上
13	同上	データベース作成に向けた瓦当の三次元計測法とその実践	埋蔵文化財センター客員研究員　中村亜希子	9月3日	同上
14	同上	文化財のデジタル文化資源化：見たままの姿を伝え、 深層を探る	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　山口欧志	10月7日	奈良文化財研究所 第9回東京講演会「デジタル技術で魅せる文化財―奈文研とICT―」
15	同上	三次元計測の可能性を考える―実践から見る可能性と課題	埋蔵文化財センター室長 金田明大	10月28日	日本情報考古学会第39回大会
16	同上	アジア歴史文化遺産のデジタルドキュメンテーション	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　山口欧志	12月3日	第８回横幹連合コンファレンス
17	同上	ドンゴイン・シレーの三次元計測からみえるもの	同上	12月10日	国際シンポジウム「モンゴル考古学のいま－東部モンゴルの古代テュルク王侯遺跡〈ドンゴイン・シレー碑文遺跡〉の調査研究」
18	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	渤海国出土紋様磚の検討	埋蔵文化財センター客員研究員　中村亜希子	12月2、3日	日本中国考古学会2017年度大会
19	同上	高精度物理探査手法による鞠智城広域遺構配置の把握	埋蔵文化財センター室長 金田明大	30年3月18日	鞠智城「特別研究」成果報告会
20	年輪年代学研究	平城京跡出土木簡の年輪年代学的手法による同一材の推定－「皇」「太子」削屑の事例を中心に－	埋蔵文化財センター研究員・星野安治，都城発掘調査部研究員・山本祥隆	6月10日	日本文化財科学会第34回大会
21	年輪年代学研究	高解像X線CT画像マッピングを応用した放射性炭素ウィグルマッチ法と年輪年代法の併用による金光寺宝篋印塔の年代測定	埋蔵文化財センター主任研究員・大河内隆之，元興寺文化財研究所・狭川真一，元興寺文化財研究所・木沢直子，加速器分析研究所・早瀬亮介	6月10日	同上
22	同上	日本産ヒノキ科樹木の木材産地推定に向けた標準年輪曲線ネットワーク構築	東北大学・大山幹成，鳴門教育大学・米延仁志，埋蔵文化財センター研究員・星野安治，Universidad de Santiago de Compostela・Marta Domínguez-Delmás，Universidad de Santiago de Compostela・Ignacio García-González，東京都埋蔵文化財センター・鈴木伸哉，森林総合研究所・藤原健，信州大学・安江恒，早稲田大学・佐野雅規，名古屋工業大学・庄建治朗	12月3日	日本植生史学会第32回大会
23	同上	年輪年代学的手法による木簡の同一材推定	埋蔵文化財センター研究員・星野安治，都城発掘調査部研究員・山本祥隆，都城発掘調査部主任研究員・桑田訓也	30年3月	日本木材学会第68回大会
24	動植物遺体の調査研究	群馬県金井東裏遺跡出土の動物質遺物	埋蔵文化財センター主任研究員　山崎健	6月18日	日本動物考古学会第5回大会
25	同上	現生標本の現状と課題－文化財防災の観点から－	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　松崎哲也、埋蔵文化財センター主任研究員　山崎健	6月18日	同上
26	同上	弥生時代と動物のかかわり	埋蔵文化財センター主任研究員　山崎健	9月9日	文化財セミナー『骨からみる人間と動物のかかわり』

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
27	動植物遺体の調査研究	古代における貝類利用の実態	埋蔵文化財センター主任研究員　山崎健	10月21日	第288回近江貝塚研究会
28	同上	古代都市部における動物利用	同上	10月28日	金沢大学公開講座『動物骨は語る』
29	同上	Animal Utilizaton at the Fujiwara and Heijyo Palace Sites	同上	11月10日	若手研究者セミナー『ユーラシア世界における動植物利用の拡散』
30	同上	苜蓿と馬匹生産	埋蔵文化財センター客員研究員　菊地大樹	11月27日	日本ウマ科学会第30回学術集会
31	同上	秦国の牧経営	同上	12月2日	日本中国考古学会2017年度大会

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　31件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	高松塚古墳、キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	テラヘルツ波イメージング技術による高松塚古墳壁画のしっくいの調査	埋蔵文化財センター長 高妻洋成	7月1日	文化財保存修復学会第39回大会
2	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	キトラ古墳壁画搬送時の熱・水分環境評価	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、埋蔵文化財センター室長　高妻洋成、埋蔵文化財センター客員研究員　柳田明進、埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー 金旻貞　ほか3名	6月10、11日	日本文化財学会第34回大会
3	同上	キトラ古墳壁画輸送時に発生した加速度の解析	埋蔵文化財センター室長 高妻洋成、埋蔵文化財センタ ー主任研究員　脇谷草一郎 ほか3名	7月2日	文化財保存修復学会第39回大会
4	同上	ガランドヤ古墳における結露抑制を目的とした石室内保存環境の検討	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎	10月1日	東京藝術大学シンポジウム’台湾文化を後世に伝える―日本との違い’
5	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	水蒸気移動による出土鉄製文化財の新規脱塩法の開発（その２）腐食の抑制に対する効果の検討	埋蔵文化財センター研究員 柳田明進、埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、埋蔵文化財センター室長　高妻洋成	6月10日	日本文化財学会第34回大会
6	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	酸素の供給条件の異なる水中で保管した現生および出土木材試料の劣化	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー松田和貴 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、埋蔵文化財センター室長　高妻洋成	6月10日	同上
7	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	Sr同位体比による日本出土古代ガラスの産地推定の試み	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美ほか１名	6月10日	日本文化財学会第34回大会
8	同上	植物灰ガラスの多様性と生産地に関する考古科学的研究	埋蔵文化財センター　客員研究員大賀克彦、埋蔵文化財センター研究員田村朋美	6月10、11日	同上
9	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	PEGの溶出により汚損した出土木簡の修復―PEGの除去と高級アルコール含浸および真空凍結乾燥による保存処理の再実施―	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー松田和貴 、埋蔵文化財センター室長 高妻洋成	6月10、11日	日本文化財学会第34回大会
10	同上	Temporary storage of waterlogged wood excavated fromarchaeological sites	埋蔵文化財センター室長 Kazutaka Matsuda	7月20日	The 2nd Asia Research Node Symposium on Humanosphere Science
11	同上	Networking of conservation of waterlogged wooden cultural heritagesin south-east Asia	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　Yohsei Kohdzuma	7月20日	同上
12	同上	展示、保管時における鉄製遺物の劣化に及ぼす湿度の影響	埋蔵文化財センター研究員 柳田明進	30年3月8日	保存科学研究集会
13	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	大分市高瀬石仏の保存環境評価～その１）現状の概要と分析	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、埋蔵文化財センター　客員研究員 小椋大輔ほか4名	6月10日	日本文化財学会第34回大会
14	同上	大分市高瀬石仏の保存環境評価～その２）熱・水分移動の数値解析	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、埋蔵文化財センター　客員研究員 小椋大輔ほか4名	6月10日	同上
15	同上	特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡における劣化対応の経過報告２	埋蔵文化財センター室長 高妻洋成ほか5名	6月10、11日	同上
16	同上	元町石仏における覆屋内温湿度調整による塩類風化抑制に関する研究 ―数値解析による覆屋の塩類風化抑制効果の評価―	埋蔵文化財センター　客員研究員　小椋大輔、埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎、埋蔵文化財センター室長　高妻洋成ほか3名	6月10、11日	同上

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
17	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	新池埴輪製作遺跡18号窯における館内の温熱環境が硫酸塩の挙動に与える影響	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、埋蔵文化財センター　客員研究員肥塚隆保、埋蔵文化財センター室長　高妻洋成ほか2名	6月10、11日	日本文化財学会第34回大会
18	同上	熊本地震前後の装飾古墳の石室環境	埋蔵文化財センター　客員研究員　小椋大輔、埋蔵文化財センター主任研究員脇谷草一郎　ほか2名	6月10、11日	同上
19	同上	元町石仏における覆屋内環境調整による塩類風化抑制に関する研究　－壁体構成が石仏の塩類風化に与える影響の検討－	埋蔵文化財センター　客員研究員　小椋大輔、埋蔵文化財センター主任研究員脇谷草一郎　ほか3名	6月25日	日本建築学会近畿支部研究発表会
20	同上	大分市高瀬石仏の保存環境分析と対策の評価 その１）実測と数値解析に基づく現状分析	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、埋蔵文化財センター　客員研究員小椋大輔ほか4名	6月25日	同上
21	同上	大分市高瀬石仏の保存環境に関する研究その１）実測に基づく現状分析	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、埋蔵文化財センター　客員研究員小椋大輔ほか4名	8月31日	日本建築学会大会（中国）
22	同上	大分市高瀬石仏の保存環境に関する研究その２）数値解析に基づく現状分析	同上	8月31日	同上
23	同上	元町石仏における覆屋内温湿度調整による塩類風化抑制に関する研究　数値解析による覆屋の塩類風化抑制効果の評価	埋蔵文化財センター　客員研究員　小椋大輔、埋蔵文化財センター主任研究員脇谷草一郎　ほか3名	8月31日	同上
24	同上	旧甲子園ホテルの外装材に使用される石材の保存に関する研究　その１　石材の現状調査	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎ほか３名	8月31日	同上
25	同上	Environmental control for mitigating salt deterioration by sodium sulfate on Motomachi Stone Buddha in Oita prefecture, Japan	埋蔵文化財センター主任研究員　Soichiro Wakiya, Daisuke埋蔵文化財センター研究員Ogura, 埋蔵文化財センター室長　Yohsei Kohdzumaほか3名	9月21日	SWBSS 2017
26	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	Numerical analysis on salt damage suppression of the Buddha statue carved into the cliff by controlling the room temperature and humidity in the shelter	埋蔵文化財センター主任研究員　Soichiro Wakiya, Daisuke, 埋蔵文化財センター主任研究員Soichiro Wakiya, 埋蔵文化財センター室長　Yohsei Kohdzuma ほか3名	9月21日	同上
27	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	石造文化財の保存　－環境制御による元町石仏の塩類風化抑制に関する研究－	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、埋蔵文化財センター　客員研究員小椋大輔ほか3名	10月26日	全国遺跡環境整備会議
28	建造物の彩色に関する調査研究	テラヘルツ波イメージング技術を用いた彩色文化財の界面調査	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　金旻貞、埋蔵文化財センター室長　高妻洋成	6月10、11日	日本文化財学会第34回大会
29	同上	建造物塗装の劣化に関する研究　－塗膜および木材中の水分について－	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、埋蔵文化財センター室長　高妻洋成ほか1名	6月10、11日	同上
30	同上	建造物塗装の退色に影響をおよぼす環境因子について	同上	7月1日	文化財保存修復学会第39回大会
31	同上	テラヘルツ波イメージング技術を用いた彩色文化財の界面調査	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー）Min jung Kim, 埋蔵文化財センター室長　Yohsei Kohdzuma	8月24日	The Sixth Symposium of the Society for Conservation of Cultural Heritage in East Asia, Shanghai, China

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　7件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　7件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	イギリスセインズベリー日本芸術研究所との共同研究	Recent challenges revealing the diversity of plant use in prehistoric East Asia, Exploring the past, present and future of the science of agriculture	都城発掘調査部主任研究員・庄田慎矢	5月30日	国立科学博物館
2	同上	全国遺跡報告総覧の仕組みと海外展開	企画調整部研究員 高田祐一	2月26日	英国ヒストリック・イングランド
3	同上	発掘調査報告書の電子公開と活用の意義	都城発掘調査部主任研究員・国武貞克	2月26日	同上

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
4	イギリスセインズベリー日本芸術研究所との共同研究	全国遺跡報告総覧の仕組みと海外展開	企画調整部研究員 高田祐一	2月27日	英国ヨーク大学
5	同上	発掘調査報告書の電子公開と活用の意義	都城発掘調査部主任研究員・国武貞克	2月27日	同上
6	カンボジア・西トップ遺跡の調査と修復	西トップ遺跡北祠堂基壇下、レンガ状遺構の調査と性格	企画調整部専門職　佐藤由似、企画調整部特任研究員　杉山洋	6月21日	第24回国際調整委員会技術小委員会
7	同上	西トップ遺跡北石堂の再構築	企画調整部専門職 佐藤由似　ほか	12月13日	第29回国際調整委員

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　3件

○文化財情報基盤の整備・充実　3件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関するデータベースの充実	全国遺跡報告総覧における旧石器関係シソーラスの構築	企画調整部研究員　高田祐一、都城発掘調査部主任研究員　国武貞克	7月1日	日本旧石器学会 総会・研究発表・シンポジウム
2	同上	全国遺跡報告総覧と考古学ビッグデータ	企画調整部研究員 高田祐一	10月7日	奈良文化財研究所第9回東京講演会
3	同上	編年時間参照系モデルによる曖昧な時間属性に対する問合せ方式の実装	企画調整部長　森本晋ほか	10月28日	地理情報システム学会

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　1件

○文化財に関する協力・助言等　1件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	被災した地域の復旧・復興事業に伴う地方公共団体等への支援・協力	現生標本の現状と課題－文化財防災の観点から－	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　松崎哲也、埋蔵文化財センター主任研究員　山崎健	6月18日	日本動物考古学会第5回大会

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　3件

○アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究　3件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	アジア太平洋における無形文化遺産研究について	所長　岩本渉	5月11日～14日	2017 International Forum on Intangible Cultural Heritage: the Pedagogy of Intangible Cultural Heritage in Contemporary Asia
2	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	「無形文化遺産の継承の拠点としてのミュージアム」	副所長　大貫美佐子	9月21日～23日	Annual Workshop for Cultural Managers in Viet Nam (organized by Department of Culture and Tourism, Viet Nam)
3	同上	アジア太平洋無形文化遺産研究センター2017年度活動報告	アソシエイトフェロー 児玉茂昭	30年1月31日	文化遺産国際協力コンソーシアム第57回企画分科会

【文化財防災ネットワーク推進本部】　3件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財等の防災・救援等への寄与	博物館における連携のあり方―文化財の防災・減災を観点として―	文化財防災ネットワーク推進室アソシエイトフェロー　六人部克典、室長　岡田健	5月12日	平成29年度群馬県博物館連絡協議会講演会
2	文化財等の防災・救援等への寄与	文化財防災ネットワークと平時の備え	文化財防災ネットワーク推進室研究員　和田浩、アソシエイトフェロー　六人部克典	10月26日	長野県史料保存活用連絡協議会第2回文献史料保存活用講習会「災害と史料保全Ⅱ」
3	文化財等の防災・救援等への寄与	無形文化遺産の災害復興と防災	東京文化財研究所　無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	30年1月20日	第4回全国史料ネット研究交流集会

c-④ シンポジウム開催実績一覧

平成30年3月31日現在

<table>
<tr><th>国立文化財機構合計</th><th>博物館計</th><th>東京国立博物館</th><th>京都国立博物館</th><th>奈良国立博物館</th><th>九州国立博物館</th></tr>
<tr><td rowspan="6">17件</td><td>11 件</td><td>3件</td><td>2件</td><td>1件</td><td>5件</td></tr>
<tr><td>文化財研究所計</td><td colspan="2">東京文化財研究所</td><td colspan="2">奈良文化財研究所</td></tr>
<tr><td>1 件</td><td colspan="2">1件</td><td colspan="2">0件</td></tr>
<tr><td colspan="2">アジア太平洋無形文化遺産研究センター</td><td colspan="3">文化財防災ネットワーク推進本部</td></tr>
<tr><td colspan="2">2 件</td><td colspan="3">3 件</td></tr>
</table>

【東京国立博物館】　3件

○茶の湯を語る―ヒトから、モノから
- 開 催 日　29年5月21日
- 開催場所　東京国立博物館平成館大講堂
- 主　　催　東京国立博物館
- 参加人数　393人
- 事業内容　特別展「茶の湯」に関連して、モノとヒトという異なる視点からのアプローチを試みた。また分野も陶磁器のみではなく、絵画や歴史資料などの専門家を招き、基調講演・研究発表、並びにパネルディスカッションを実施した。

○タイの仏教美術と王権
- 開 催 日　29年7月15日
- 開催場所　東京国立博物館平成館大講堂
- 主　　催　東京国立博物館、国際交流基金アジアセンター、文化庁、日本経済新聞社
- 参加人数　193人
- 事業内容　特別展「タイ～仏の国の輝き～」を記念してタイや日本で活躍する第一線の研究者の方々を招き、タイの仏教と王権との関係性に注目して、その美術史的な意義に関する考察を含め、展覧会紹介・講演・事例報告・研究発表、並びにパネルディスカッションを実施した。

○国際シンポジウム「ミュージアムにおける日本美術の再発見」
- 開 催 日　30年1月12日～13日
- 開催場所　東京国立博物館平成館大講堂
- 主　　催　海外ミュージアム日本専門家連携・交流事業実行委員会2017（事務局：東京国立博物館）
- 参加人数　334人
- 事業内容　「ミュージアムにおける日本美術の再発見」という潜在的で普遍的なテーマに、専門家が抱いているイメージとミュージアムが果たす役割について事例報告・研究会、発表、並びにパネルディスカッションを実施した。

【京都国立博物館】　2件

○国際博物館の日記念シンポジウム「ICOM京都大会に向けて」
- 開 催 日　5月21日
- 開催場所　京都国立博物館　平成知新館講堂
- 主　　催　日本博物館協会、ICOM日本委員会、ICOM京都大会組織委員会、京都国立博物館
- 参加人数　140人
- 事業内容　ICOM京都大会のキックオフイベントとして、第1部ではICOM会長および同執行役員による基調講演、日本科学未来館館長による特別講演、ICOMミラノ大会の報告、ICOM京都大会の準備状況の報告が行われた。第2部では、本年の国際博物館の日のテーマ「歴史と向き合う博物館―博物館が語るものは」について、7名のパネリストによりパネルディスカッションを行った。

○研究発表と座談会　「平安時代後期を中心とした絵師の工房をめぐる諸問題」
- 開 催 日　7月16日
- 開催場所　京都国立博物館　平成知新館講堂
- 主　　催　京都国立博物館、公益財団法人仏教美術研究上野記念財団
- 参加人数　93人
- 事業内容　テーマに基づき３名の講師による発表とパネルディスカッションを行った。

【奈良国立博物館】　1件

○正倉院学術シンポジウム2017「正倉院の色」
- 開 催 日　11月3日
- 開催場所　東大寺総合文化センター　金鐘ホール
- 主　　催　奈良国立博物館
- 後　　援　読売新聞社
- 参加人数　224名
- 事業内容　近年多くの画期的な成果が報告されている「正倉院の色」をテーマに、千数百年の歳月を経て伝来した正倉院宝物のすばらしさを内外に発信し、わが国の文化財保護活動に対する理解を広く共有することを目的とし、４名の研究者による研究発表と、パネルディスカッションを行った。

【九州国立博物館】　5件

○公開シンポジウム　博物館IPMのこれから
- 開 催 日　4月8日
- 開催場所　ミュージアムホール
- 主　　催　九州国立博物館
- 参加者数　100人
- 事業内容　基調講演「九州国立博物館におけるこれまでのIPMの取り組み」
講演「博物館におけるIPMの実践」、「三重県総合博物館におけるIPM」、「正倉院におけるIPM」
パネルディスカッション「これからの博物館IPM」

○公開シンポジウム　全国高等学校歴史学フォーラム2017
- 開 催 日　8月6日
- 開催場所　ミュージアムホール
- 主　　催　九州国立博物館

共　　催　　福岡県教育委員会、日本考古学協会、全国高等学校文化連盟福岡県支部
参加者数　　300人
事業内容　　高校生が、歴史学研究に関する活動内容や成果をポスターセッション及びワークショップにて発表。
徳島文理高等学校「なぜ高地蔵は徳島に造られたのか」、橿原高等学校「高校生、石で肉をさばいてみました！」
千葉高等学校『銚子と極東新聞』、朝倉高等学校『キリシタン禁教高札に関する調査報告』他

○記念シンポジウム　水中遺産の多様性－縄文から龍馬までー　特別展示「水の中からよみがえる歴史－水中考古学最前線－」公開記念
開 催 日　　8月26日
開催場所　　ミュージアムホール
主　　催　　九州国立博物館
参加者数　　50人
事業内容　　特別展示「水の中からよみがえる歴史－水中考古学最前線－」のご紹介
講演「水中ロボットを利用した琵琶湖葛籠尾崎湖底遺跡の調査」、「坂本龍馬のいろは丸調査」、「水中文化遺産の保護　欧州編」
討論会「水中文化遺産の魅力にせまる」

○事業シンポジウム　「知られざる沖ノ島祭祀」「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群登録記念　九州国立博物館「大宰府学研究」事業
開 催 日　　30年1月20日
開催場所　　ミュージアムホール
主　　催　　九州国立博物館、福岡県
参加者数　　120人
事業内容　　基調講演「沖ノ島祭祀の実像-古代の祭式からみた沖ノ島祭祀遺跡－」
研究発表「巨石と社殿」、「沖ノ島祭祀と遣唐使の航海」、「御長手神事と沖ノ島」
パネルディスカッション「知られざる沖ノ島祭祀」

○公開シンポジウム　興福寺中金堂再建記念・興福寺シンポジウム「阿修羅像　天平の心と技を未来へ」
開 催 日　　3月4日（日）
開催場所　　ミュージアムホール
主　　催　　九州国立博物館、法相宗大本山興福寺、朝日新聞社
参加者数　　200人
事業内容　　基調講演：天平の名宝・阿修羅像－その伝世性をめぐって
研究発表：第1部最新技術が探る阿修羅像「ＣＴスキャナでせまる阿修羅像の技」、「阿修羅像、懺悔と改心の造形」
第2部ＣＴスキャナで探る阿修羅像の健康診断「修理痕跡が語る阿修羅の姿」、「人工知能を使って樹種特定に迫る」

【東京文化財研究所】　1件

○文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「東南アジアの歴史的都市でのまちづくり」
開 催 日　　29年10月7日
開催場所　　東京国立博物館、東京文化財研究所
主　　催　　文化庁、国際交流基金アジアセンター、文化遺産国際協力コンソーシアム
参加者数　　177人
事業内容　　ASEANの国々で歴史的都市保全に取り組んでいる有識者等による国際シンポジウムを開催した。

【奈良文化財研究所】　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　2件

○　国際シンポジウム「無形文化遺産をグローカルに見る：地域社会と研究者、国家、ユネスコの相互作用」
開 催 日　　29年7月7日～9日
開催場所　　成城大学
主　　催　　アジア太平洋無形文化遺産研究センター、成城大学グローカル研究センター、文化庁
参加者数　　90人
事業内容　　無形文化遺産の保護に関する基調講演や、海外を含む専門家などの参加者が議論・分析するための5つのセッションを設け事例共有を行った。

○　国際シンポジウム「無形文化遺産をめぐる交渉」
開 催 日　　29年11月29日～12月1日
開催場所　　国立民族学博物館　第４セミナー室
主　　催　　アジア太平洋無形文化遺産研究センター、国立民族学博物館、文化庁
参加者数　　38人
事業内容　　基調講演や海外を含む各専門家が発表する４つのセッションを設け、様々なレベルにおける多くのアクター間の交渉が、いかに無形文化遺産の保護と継承に影響するかを分析し、ローカルコミュニティと外部組織の協働的交渉を通じて文化を復興する可能性について議論した。

【文化財防災ネットワーク推進本部】　3件

○パレアアクシア企画展　関連シンポジウム「大規模災害時における博物館の役割」
開 催 日　　29年7月5日
開催場所　　くまもと県民交流館パレア10階 パレアホール
主　　催　　熊本県、独立行政法人国立文化財機構
共　　催　　熊本県教育委員会、熊本被災史料レスキューネットワーク、熊本県博物館連絡協議会
後　　援　　熊本県文化財保護協会
参加者数　　143人
事業内容　　熊本地震における文化財レスキュー活動に関して広く市民に普及・啓発するため、活動報告を含めたシンポジウムを開催した。

○国際シンポジウム「日本と世界が共に目指す文化遺産防災」
開 催 日　　29年9月16日
開催場所　　立命館大学 衣笠キャンパス 創思館カンファレンスルーム
主　　催　　立命館大学 歴史都市防災研究所、独立行政法人国立文化財機構
協　　力　　UNESCO、ICCROM、ICOM、ICOMOS/ICORP
参加者数　　75人
事業内容　　文化遺産の危機管理に関する総合的な防災手法のモデルケース策定を目指し、国内外の各機関が目指すべき方向性や役割について検討するシンポジウムを開催した。

○シンポジウム「文化財を災害から守る３ 文化財の記録と継承～文化財を守り、伝えるために～」
開 催 日　　29年10月28日
開催場所　　けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）2階 ミュージアムホール
主　　催　　京都国立博物館
後　　援　　木津川市、精華町
参加者数　　60人
事業内容　　文化財等の防災・減災の取り組みに関して広く地域市民に理解してもらうことを目的として、「文化財の記録と継承」をテーマとしたシンポジウムを開催した。

c-⑤ 論文等発表実績一覧

平成 30 年 3 月 31 日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
427 件	269 件	135 件	62 件	37 件	35 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	158 件	37 件	121 件	0 件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	3 件				

【東京国立博物館】135件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　115件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	学芸企画部長　富田淳	北山堂コレクションについて	『書法漢学研究』	有限会社アートライフ社	7 月 25 日	有
2	同上	同上	呉昌碩と金石の気	呉昌碩とその時代	公益財団法人　台東区芸術文化財団	30 年 1 月 2 日	無
3	同上	同上	呉昌碩と楊峴	同上	同上	30 年 1 月 2 日	無
4	同上	企画課特別展室主任研究員　市元塁 ほか外部研究者	日本における中国考古学関係文献目録（2016 年）	中国考古学（17）	日本中国考古学会	12 月 2 日	無
5	同上	同上	学校所在資料の過去・現在・未来―第 1 部の趣旨―	考古学研究 255 号	考古学研究会	12 月 30 日	有
6	同上	企画課特別展室主任研究員　市元塁	学校所在資料形成史―学校になぜ考古資料があるのか？―	同上	同上	12 月 30 日	有
7	同上	同上	学校における考古資料の所在，管理，機能	同上	同上	12 月 30 日	有
8	同上	企画課特別展室主任研究員　市元塁 ほか外部研究者	学校と考古学をつなぐ新たな取組	考古学研究 256 号	同上	30 年 3 月 30 日	有
9	同上	企画課特別展室主任研究員　井出浩正、調査研究課考古室アソシエイトフェロー　飯田茂雄	東京国立博物館図版目録　経塚遺物篇（西日本）	『東京国立博物館図版目録　経塚遺物篇（西日本）』新訂	東京国立博物館	30 年 3 月 31 日	無
10	同上	企画課出版企画室主任研究員　猪熊兼樹	「古神宝に見る有職文様」	『神の宝の玉手箱』特別展図録	サントリー美術館	5 月 31 日	無
11	同上	同上	『宮廷物質文化史』	単著	中央公論美術出版	8 月 25 日	無
12	同上	同上	「ラタナコーシン時代の工芸」	『タイ国情報』9 月号	日本タイ協会	9 月 1 日	無
13	同上	同上	『『旧儀式図画帖』にみる宮廷年中行事』	単著	東京国立博物館	30 年 3 月 1 日	無
14	同上	同上	「フエ皇城世廟の九鼎の意匠」	東京国立博物館紀要 53 号	同上	30 年 3 月 31 日	無
15	同上	企画課国際交流室主任研究員　遠藤楽子	「狩野永敬筆東京国立博物館所蔵十二ヶ月花鳥図屏風考―四季花鳥図の江戸時代前期における展開例として」	同上	同上	30 年 3 月 31 日	無
16	同上	博物館教育課教育講座室長　勝木言一郎	中国仏教美術にみる儒教思想の需要と展開	東アジア文化の基層としての儒教イメージに関する研究論文集	筑波大学日本美術史研究室	30 年 3 月 30 日	無
17	同上	同上	インドの細密画	図版目録　インド細密画篇	東京国立博物館	30 年 3 月 30 日	無
18	同上	博物館教育課教育講座室アソシエイトフェロー　小島有紀子	体験型・参加型展示	博物館学史研究事典	雄山閣	12 月 25 日	無
19	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長 恵美千鶴子	藤原定家と熊野懐紙	『ビオシティ』70 号	ブックエンド	4 月 3 日	無
20	同上	同上	世尊寺家の書 01　藤原定実筆　古今和歌集（元永本）	『ビオシティ』71 号	同上	7 月 6 日	無
21	同上	列品管理課登録室長（兼特別観覧室長） 小山弓弦葉	「小紋の歴史」	『美しいキモノ』2017 年冬号別冊	ハースト婦人画報社	11 月 20 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
22	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	列品管理課登録室長 （兼特別観覧室長） 小山弓弦葉	きもの歴史散歩「辻が花を知る」	『美しいキモノ』2018 年春号	ハースト婦人画報社	30 年 2 月 20 日	無
23	同上	同上	『日本の伝統模様』（全 3 巻）　監修	『日本の伝統模様』（全 3 巻）	汐文社	30 年 3 月 31 日	無
24	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 六人部克典	呉昌碩と沈石友	『呉昌碩とその時代－苦鉄没後 90 年－』	公益財団法人 台東区芸術文化財団	30 年 1 月 2 日	無
25	同上	同上	関東甲信越における地域の文化財防災体制の確立に向けて	『文化財防災体制構築に関する研究会 文化財防災ネットワーク推進事業アソシエイトフェロー研究成果発表会 』	国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進室	30 年 3 月 31 日	無
26	同上	同上	神奈川県博物館協会の防災訓練に寄せて―協会と文化財防災ネットワーク推進室の繋がり	『神奈川県博物館協会会報』第 89 号	神奈川県博物館協会	30 年 3 月 31 日	無
27	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 田邊留美子	『源氏物語』の薫物に関する考察―『薫集類抄』から―	日本文学　Vol.66	日本文学協会	9 月 10 日	有
28	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 曽田めぐみ	河鍋暁斎筆《地獄極楽めぐり図》について（9） ―第 18 図「市村竹之丞の一行」に描かれた歌舞伎の登場人物	『暁斎』123 号	河鍋暁斎記念美術館	10 月 11 日	無
29	同上	同上	河鍋暁斎筆《地獄極楽めぐり図》について（10） ―第 29 図「宴会」の構想と《狂斎百図》との関連を中心に	『暁斎』124 号	同上	30 年 2 月 15 日	無
30	同上	同上	維摩と文殊 ―河鍋暁斎筆「大和美人図屏風」に込められた寓意	『畫下遊楽　2　奥平俊六先生退職記念論文集』	藝華書院	30 年 3 月 10 日	無
31	同上	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統	滋賀･鵜足寺の天台系七仏薬師如来像	『MUSEUM』668 号	東京国立博物館	6 月 15 日	有
32	同上	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人	あやしい美人画	単著	東京美術	6 月 16 日	無
33	同上	同上	“Rival Artists of the Floating World”	Showdown! Kuniyoshi vs. Kunisada 展覧会図録	MFA Publications, Museum of Fine Arts, Boston,	8 月 11 日	無
34	同上	同上	作品解説　No.142「賢聖障子絵、,No.143「牡丹図襖」、No.144「唐人物図屏風」、No.145「孔雀に鶴図衝立」、No.146「唐人物図屏風」	特別展「仁和寺と御室派のみほとけ ―天平と真言密教の名宝 ―」図録	東京国立博物館	30 年 1 月 16 日	無
35	同上	同上	作品解説　円山応挙筆「虎図」「虎嘯生風図」	特別展「東アジアの虎美術―韓国・日本・中国―」図録	韓国国立中央博物館	30 年 1 月 26 日	無
36	同上	同上	作品解説　《日堯上人像》（本法寺蔵） 《日通上人像》（本法寺蔵）	設立 110 周年特別展「偉大なる飛躍：信春から長谷川等伯へ」図録	Japan Society	30 年 3 月	無
37	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員 三笠景子	各論「茶の湯の萌芽―唐物に向けられた眼」	『茶の湯』展覧会図録	東京国立博物館	4 月 11 日	無
38	同上	同上	エッセイ「『君台観左右帳記』の意義」	同上	同上	4 月 11 日	無
39	同上	同上	作品解説 No1、2、34～45、50、51、63～67、70、71、75、94、96～99、101、115、117、120～123、144、153、156～160、169、170、176、177、179、180、182、190、192、194、197～205、207～212、215、217、218、225～228、231、232、235～239、244、246、248～252、254、256～259	同上	同上	4 月 11 日	無
40	同上	同上	「日本人の眼―特別展「茶の湯」開催の意義」	『陶説』769 号	日本陶磁協会	4 月 1 日	無
41	同上	同上	「東京国立博物館　特別展「茶の湯」に寄せて 新たな眼―江戸から明治、大正における茶の湯の諸相について」	『陶説』770 号	同上	5 月 1 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
42	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	列品管理課平常展調整室主任研究員 三笠景子	「表紙解説　唐物文琳茶入　銘 宇治」	『茶道の研究』738 号	三徳庵	5 月	無
43	同上	同上	「表紙解説　青磁輪花茶碗　銘 馬蝗絆」	『茶道の研究』741 号	同上	8 月	無
44	同上	同上	「表紙解説　呉州赤絵赤玉香合」	『茶道の研究』744 号	同上	11 月	無
45	同上	同上	「表紙解説　青磁鳳凰耳花入」	『茶道の研究』746 号	同上	30 年 1 月	無
46	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員 末兼俊彦	「日タイの絆～日本式刀剣～」	日本タイ学会機関紙『タイ国情報』9 月号	日本タイ学会	9 月	無
47	同上	調査研究課長（兼東洋室長）　今井敦	東アジアにおける染付の展開	特別企画展「染付：青繪の世界」図録	愛知県陶磁美術館	11 月 3 日	無
48	同上	同上	永青文庫の中国陶磁コレクション	『季刊永青文庫』No.101	公益財団法人永青文庫	30 年 2 月 10 日	無
49	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞	春日権現験記絵巻巻三・巻四解説	『春日権現験記絵巻三・巻四　光学調査報告書』	東京文化財研究所	5 月	無
50	同上	同上	信貴山縁起絵巻の光学調査の意義について	『国宝　信貴山縁起絵巻調査研究報告書―光学調査編―』	奈良国立博物館・東京文化財研究所	30 年 1 月 31 日	無
51	同上	同上	平安時代における造像と天皇	『天皇の美術史　古代国家と仏教美術』	吉川弘文館	30 年 2 月	無
52	同上	同上	Painter's Pallet の和訳	『Color and Material』	東京文化財研究所	30 年 3 月	無
53	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 金井裕子	総論　日本の虎の美術　中世・近世絵画編	国立博物館合同企画特別展『東アジアの虎美術－韓国・日本・中国－』図録	韓国国立中央博物館	30 年 1 月 26 日	無
54	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員　大橋美織	付属品にみる作品をめぐる交流	『玉堂清韻社報』第５号	浦上家史編纂委員会	10 月 1 日	無
55	同上	調査研究課工芸室長竹内奈美子	漆器の領分―婚礼調度の世界	『URUSHI　ふしぎ物語－人と漆の 12000 年史－』	国立歴史民俗博物館	7 月 11 日	無
56	同上	調査研究課考古室長白井克也	アラビアの道―サウジアラビア王国の至宝	『うえの』706 号	上野のれん会	30 年 2 月 1 日	無
57	同上	調査研究課考古室研究員　山本亮	近畿からみた伊勢型二重口縁壺をめぐる諸問題	Mie History　Vol.2	三重歴史文化研究会	5 月	無
58	同上	同上	大和南部の小型丸底壺	東生　第 6 号	東日本古墳確立期土器検討会	5 月	無
59	同上	同上	近畿地方中部における小型丸底土器の地域相	同上	同上	5 月	無
60	同上	調査研究課考古室研究員　山本亮 ほか外部研究者	藤原宮朝堂院の調査	奈良文化財研究所紀要 2017	奈良文化財研究所	7 月	無
61	同上	同上	藤原京右京九条二・三坊、瀬田遺跡の調査	同上	同上	7 月	無
62	同上	調査研究課考古室研究員　山本亮	山田寺北面大垣の調査	同上	同上	7 月	無
63	同上	同上	奥山廃寺（奥山久米寺）出土の素文軒平瓦	同上	同上	7 月	無
64	同上	同上	藤原京西二坊大路の調査成果	条里制・古代都市研究第 33 号	条里制・古代都市研究会	30 年 3 月	有
65	同上	調査研究課考古室アソシエイトフェロー飯田茂雄	砂川 1968 年、補遺「礫群」	考古学集刊　第 13 号	明治大学	5 月	無
66	同上	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀、同アソシエイトフェロー宮田将寛 ほか外部研究者	岩手県気仙沼市光勝寺所蔵阿弥陀如来像の X 線 CT 調査について	岩手県気仙沼市　光勝寺　阿弥陀如来像修理報告書	大津波プロジェクト実行委員会（岩手県立博物館内）	5 月	無
67	同上	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀	エックス線ＣＴを用いた科学調査について	絲綢之路　No.85	公益財団法人 文化財保護・芸術研究助成財団	10 月 16 日	無
68	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー井上素子	明治初期の児童教育と教育錦絵	『明治維新から 150 年　浮世絵にみる子どもたちの文明開化』	町田市立国際版画美術館	10 月 7 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
69	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	保存修復課環境保存室 アソシエイトフェロー 井上素子	文化財防災に関する人材育成・情報発信の成果と課題	『文化財防災体制構築に関する研究会 文化財防災ネットワーク推進事業アソシエイトフェロー研究成果発表会 』	国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進室	30 年 3 月 31 日	無
70	同上	保存修復課保存修復室長　土屋裕子、同研究補佐員　本茉梨絵 ほか外部研究者	「津波で被災したカンバス画の安定化処置―綿布に描かれたアクリル画のブロッティング法による脱塩―」	文化財保存修復学会第 39 回大会　研究発表要旨集	一般社団法人文化財保存修復学会	7 月 1 日	無
71	同上	保存修復課保存修復室長　土屋裕子	「専門家との協同作業がもたらすもの―東京国立博物館の臨床保存」	博物館研究　特集「保存業務と学芸員」	公益財団法人　日本博物館協会	10 月	無
72	同上	同上	「展示手法に応じた修理－東京国立博物館の展示と対症修理」	文化財保存修復学会誌	一般社団法人文化財保存修復学会	30 年 3 月	無
73	同上	同上	「綿布に描かれたアクリル画の安定化処理―行木正義のアクリル画を例として」	大津波被災文化財保存修復プロジェクト安定化処理（2018 増補版）	津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会、公益財団法人日本博物館協会、ICOM 日本委員会	30 年 3 月	無
74	同上	保存修復課保存修復室 主任研究員　瀬谷愛	2016 年の歴史学界　回顧と展望　日本（中世）　七　美術	『史学雑誌』第 126 編第 5 号	史学会	5 月 20 日	無
75	同上	保存修復課保存修復室 研究員　横山梓	作品解説　№.79、129、145、163、195、216	特別展「茶の湯」図録	東京国立博物館	4 月 11 日	無
76	同上	同上	表紙解説「重文　信楽一重口水指　銘柴庵」	「茶道の研究」737 号	三徳庵	4 月	無
77	同上	同上	表紙解説「織部扇形筒向付」	「茶道の研究」742 号	同上	9 月	無
78	同上	同上	表紙解説「黒楽茶碗　銘 かのこ斑一入作」	「茶道の研究」746 号	同上	30 年 2 月	無
79	同上	同上	表紙解説「重文　色絵牡丹図水指　仁清」	「茶道の研究」747 号	同上	30 年 3 月	無
80	同上	保存修復課保存修復室 アソシエイトフェロー 野中昭美	「津波により被災した漆工芸品の新しい脱塩処理方法の検討～湿布法の応用と検証～」	文化財保存修復学会第 39 回大会　研究発表要旨集	一般社団法人文化財保存修復学会	7 月 1 日	無
81	a.特別調査（「法隆寺献納宝物」（第 39 次））	博物館教育課教育普及室研究員　三田覚之	法隆寺献納宝物特別調査概報 古今目録抄 4	法隆寺献納宝物特別調査概報	東京国立博物館	30 年 3 月	無
82	特集「チベットの仏教と密教の世界」に関連する調査研究	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統	チベットの仏像と密教の世界	展示リーフレット	同上	9 月 5 日	無
83	特集「新指定 重要文化財　野毛大塚古墳―世田谷の中期古墳―」に関連する調査研究	調査研究課考古室研究員　河野正訓	新指定 重要文化財　野毛大塚古墳－世田谷の中期古墳－	特集リーフレット	同上	7 月 11 日	無
84	特集「唐三彩」に関連する調査研究	企画課特別展室主任研究員　市元塁	三彩鎮墓獣	東京国立博物館ニュース（744）	同上	8 月 1 日	無
85	特集「高野切―平安時代最盛期の仮名」に関連する調査研究	東京国立博物館百五十年史編纂室長 恵美千鶴子	尊経閣文庫所蔵「無題号記録」の書写年代について―高野切第三種筆跡との比較より―	『禁裏・公家文庫研究』第６輯	思文閣出版	8 月 1 日	無
86	絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究（科学研究費助成事業）	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕	『室町時代のやまと絵―絵師と作品―』図録	『室町時代のやまと絵―絵師と作品―』図録	東京国立博物館	10 月 24 日	無
87	中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容に関する研究（科学研究費助成事業）	保存修復課保存修復室 主任研究員　瀬谷愛	幕府祈願所 霊雲寺の名宝	特集リーフレット	東京国立博物館	4 月 25 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
88	中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容に関する研究（科学研究費助成事業）	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛	若一王子社縁起と板谷絵所	『徳川家光と王子神社縁起絵巻』展覧会図録	北区飛鳥山博物館	30年3月17日	
89	法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究（科学研究費助成事業）	博物館教育課教育普及室研究員　三田覚之	法隆寺献納宝物の木簡について	『MUSEUM』670号	東京国立博物館	10月15日	有
90	同上	同上	奈良・法隆寺献納宝物	木簡研究　39	木簡学会	11月	有
91	同上	同上	飛鳥寺本尊　銅造釈迦如来坐像（重要文化財）調査報告	鹿園雑集　奈良国立博物館研究紀要　19	奈良国立博物館	7月31日	有
92	同上	同上	日韓　金銅半跏思惟像　科学的調査に基づく研究報告	日韓　金銅半跏思惟像　科学的調査に基づく研究報告	国立中央博物館	30年3月	無
93	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究（科学研究費助成事業）	客員研究員	「法隆寺献納宝物の広東裂―その分類および絵画・彫刻等からみた文様の伝播について―」	『MUSEUM』667号	東京国立博物館	4月15日	有
94	同上	客員研究員	「法隆寺伝来・上代裂　天蓋垂飾・錦・綴織・刺繍等の残欠―平成二十五年度の修理の成果―」	『MUSEUM』670号	同上	10月15日	有
95	同上	客員研究員	「善一田古墳出土の盛矢具に付着する繊維について」	『乙金地区遺跡群23<中巻>善一田遺跡第4次調査』	大野城市教育委員会	11月	無
96	「地域考古学」と「聖書考古学」の協業による古代パレスチナ地域史の再構築（科学研究費助成事業）	調査研究課東洋室研究員　小野塚拓造	聖書考古学の焦点	『季刊考古学』第141号	雄山閣	10月26日	無
97	模本制作の第一人者・田中親美を中心とした近現代の書の受容に関する基礎的研究（科学研究費助成事業）	東京国立博物館百五十年史編纂室長 恵美千鶴子	明治の皇室に選ばれた表象―明治宮殿と御物	『天皇の美術史6　近代皇室イメージの創出』	吉川弘文館	6月14日	無
98	同上	同上	世尊寺家の書02　藤原定信筆　戊辰切	『ビオシティ』73号	ブックエンド	30年1月	無
99	同上	同上	世尊寺家の書03　藤原伊房筆　藍紙本万葉集	『ビオシティ』74号	同上	30年3月	無
100	中国典籍日本古写本の研究（科学研究費助成事業）	博物館情報課長（兼情報資料室長）田良島哲	古筆切としての漢籍古鈔本の特徴	中国典籍日本古写本の研究 Newsletter 4		30年1月	無
101	特別展「運慶」に関する調査研究	企画課長（兼国際交流室長）　浅見龍介	運慶の独創性とその源	特別展「運慶」図録	東京国立博物館	9月26日	無
102	同上	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統	コラム「仏像の作者は誰か」ほか作品解説11件	展覧会図録『運慶』	朝日新聞社・テレビ朝日	9月26日	無
103	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞	仏師運慶の系譜	特別展図録『運慶』	東京国立博物館	9月26日	無
104	特別展「仁和寺と御室派のみほとけ―天平と真言密教の名宝―」に関する調査研究	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕	仁和寺と孔雀	特別展「仁和寺と御室派のみほとけ―天平と真言密教の名宝」図録	同上	30年1月16日	無
105	同上	同上	仁和寺と山水屏風	同上	同上	30年1月16日	無
106	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長 恵美千鶴子	仁和寺と書　空海「三十帖冊子」	『ビオシティ』72号	ブックエンド	10月10日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
107	特別展「仁和寺と御室派のみほとけ―天平と真言密教の名宝―」に関する調査研究	東京国立博物館百五十年史編纂室長 恵美千鶴子	三十帖冊子の歴史	特別展図録『仁和寺と御室派のみほとけ』	東京国立博物館	30年1月	無
108	特別展「仁和寺と御室派のみほとけ―天平と真言密教の名宝―」に関する調査研究	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞	仁和寺の創建と宇多天皇	特別展図録『仁和寺と御室派のみほとけ』	東京国立博物館	30年1月16日	無
109	特別展「縄文―1万年の美の鼓動―」に関する調査研究	企画課特別展室主任研究員　井出浩正	縄文時代中期の浅鉢形土器のあり方―神奈川県秦野市鶴巻上ノ窪遺跡出土の浅鉢形土器を事例に―	山本暉久先生古稀記念論集　二十一世紀考古学の現在	六一書房	4月20日	無
110	博物館環境デザインに関する調査研究	企画課デザイン室長 木下史青	《東京国立博物館館史資料より、復興造営工事写真帖》	『建築雑誌』2017年9月号「連載 近現代建築資料の世界20」	日本建築学会	9月26日	無
111	同上	同上	特集資料『有機EL照明を用いた展示―東京国立博物館特別公開《国宝土偶縄文の女神》』	照明学会誌101巻12月号[特集資料]特集LED/OLEDを用いた次世代の美術館・博物館照明	照明学会	12月	無
112	同上	同上	MOA美術館、GINZA SIX、富山県美術館、東京藝術大学大学美術館	『なごみ』 2017年連載〈 sense of わ〉5月号、8月号、11月号	淡交社	4月28日、7月28日、10月28日	無
113	博物館教育に関する調査研究	博物館教育課長　小林牧、同教育普及室長 藤田千織	東京国立博物館館内ガイドの位置連動型ガイド「トーハクなび」 ログデータからみるアプリケーション使用実績報告	東京国立博物館研究情報アーカイブにて公開	東京国立博物館	6月15日	無
114	同上	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり	ボランティアと共に取り組むバリアフリー―盲学校のためのスクールプログラムを中心に―	社会の進歩と発展を担う博物館ボランティア	中国博物館協会ボランティア協議会	9月25日	無
115	ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究；新来館者の定着に向けた実証的調査分析（科学研究費助成事業）	総務課係長　関谷泰弘	英米との比較による我が国ミュージアムにおける来館者開発の導入に向けた基礎研究	日本ミュージアム・マネージメント学会紀要21巻1号	日本ミュージアム・マネージメント学会	6月	有

○その他有形文化財に関連する調査研究　20件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	博物館の環境保存に関する調査研究	企画課デザイン室主任研究員　矢野賀一、保存修復課環境保存室長 和田浩	東京国立博物館における展示ケースの進化	日本展示学会第36回研究大会研究発表梗概集	日本展示学会	6月17日	無
2	同上	保存修復課環境保存室長　和田浩 ほか外部研究者	法隆寺金堂焼損部収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究-実測調査と数値解析による収蔵庫内の温湿度の現状の分析-	日本文化財科学会第34回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6月11日	無
3	同上	同上	災害対策調査部会2016年度活動報告	文化財保存修復学会第39回大会 研究発表要旨集	文化財保存修復学会	7月1日	無
4	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築（科学研究費助成事業）	保存修復課環境保存室長　和田浩	キトラ古墳壁画の輸送　輸送中に発生した加速度について	『月刊文化財』649号	文化庁文化財部監修	10月1日	無
5	同上	同上	文化財の梱包	日本包装学会誌26(6)	日本包装学会	12月1日	無
6	同上	保存修復課環境保存室長　和田浩 ほか外部研究者	Study on transport environment of cultural properties via ship in Japan	Proceedings of the 28th IAPRI World Symposium on Packaging, Lausanne	IAPRI (International association of packaging research institutes)	5月1日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
7	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築（科学研究費助成事業）	保存修復課環境保存室長　和田浩	文化財の国内長距離輸送時の各輸送工程において発生した加速度の評価	日本文化財科学会第34回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6月10日	無
8	同上	保存修復課環境保存室長　和田浩 ほか外部研究者	キトラ古墳壁画輸送時に発生した加速度の解析	文化財保存修復学会第39回大会 研究発表要旨集	文化財保存修復学会	7月1日	無
9	同上	保存修復課環境保存室長　和田浩	美術品輸送専用車両	日本包装学会誌 26(6)	日本包装学会	12月1日	無
10	同上	保存修復課環境保存室長　和田浩 ほか外部研究者	海上輸送を経由する文化財輸送環境の評価	日本包装学会第26回年次大会研究発表会予稿集	同上	7月11日	無
11	同上	保存修復課環境保存室長　和田浩	A Case Study on Transport Environment of Cultural Properties by Ship	東亜文化遺産保護学会第6次国際学術研討会論文摘要手冊	東亜文化遺産保護学会 (The Society for Conservation of Cultural Heritage in East Asia)	8月25日	無
12	同上	保存修復課環境保存室長　和田浩 ほか外部研究者	文化財輸送環境の最適化に向けた基礎的研究	日本機械学会 第26回交通・物流部門大会 講演論文集	日本機械学会	12月4日	無
13	同上	保存修復課環境保存室長　和田浩	美術品梱包輸送技能取得士	日本包装学会誌 26(6)	日本包装学会	12月1日	無
14	同上	保存修復課環境保存室長　和田浩 ほか外部研究者	美術品輸送専用車両による輸送環境のシミュレーションに関する基礎的研究	全日本包装技術研究大会大会予稿集	日本包装技術協会	11月16日	無
15	同上	同上	キトラ古墳壁画の輸送環境解析から見た文化財の輸送および荷役作業の評価に関する考察	考古学と自然科学 75	日本文化財科学会	30年2月15日	有
16	同上	同上	キトラ古墳壁画搬送時の熱・水分環境評価	日本文化財科学会第34回大会研究発表要旨集	同上	6月11日	無
17	同上	保存修復課環境保存室長　和田浩	文化財輸送環境解析に関する研究動向	包装技術 56(2)	日本包装技術協会	30年2月1日	無
18	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	博物館情報課長（兼情報資料室長）田良島哲	文化財写真の系譜と『奈良六大寺大観』『大和古寺大観』	平成29年度文化庁「文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究」報告書	公益社団法人日本写真家協会	30年3月	無
19	同上	博物館情報課情報管理室アソシエイトフェロー　和久井遥	散発的にデジタル化したデータの管理手法について	第10回秋季研究集会予稿集	アート・ドキュメンテーション学会	11月19日	無
20	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	博物館情報課長（兼情報資料室長）田良島哲	森鷗外「帝室博物館書目解題」再考	美術フォーラム21 Vol.35	美術フォーラム21	5月30日	無

【京都国立博物館】62件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　56件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	美術室長　羽田　聡	「知恩院の至宝 VOL.12 天平年間写経生日記」	『華頂』592号	浄土宗総本山知恩院	5月	無
2	同上	同上	「京都国立博物館所蔵　伏見天皇宸翰消息」	『古文書研究』84号	勉誠出版	12月	無
3	同上	同上	「名品に咲く華　和漢朗詠色紙貼交屏風」	『華道』80―4	日本華道社	30年3月	無
4	同上	教育室長　山川曉	「染織史からみる伝法衣」	『禅文化』244号	禅文化研究所	4月25日	無
5	同上	同上	「表紙解説　夢窓疎石像」	同上	同上	4月25日	無
6	同上	教育室長　山川曉	「紅綾地変わり菱亀甲文様総鹿子絞繍小袖」	『國華』1462	國華社	8月20日	有
7	同上	同上	「草花文様四つ替小袖」	『華道』	日本華道社	12月	無
8	同上	教育室長　永島明子	「美術館だより307　京都国立博物館㉝　富士蒔絵盆　中山胡民作」	『なにわ』752号	大阪府警察本部警務部教養課 一般財団法人大阪府警察職員互助会	30年1月30日	無
9	同上	同上	「知恩院の至宝 vol.20 黒地秋草蒔絵桐紋付長持」	『華頂』創刊600号記念号	浄土宗総本山知恩院	30年2月1日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
10	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	連携協力室長・淺湫毅 （池田素子氏と共著）	「宮津市・金剛心院の地蔵菩薩立像と佛性寺の阿弥陀如来立像」	『学叢』39	京都国立博物館	5月25日	無
11	同上	連携協力室長　淺湫毅	「鳥取・三佛寺の蔵王権現と滋賀・上野神社の男神坐像（伝素盞男尊）」	同上	同上	5月25日	無
12	同上	保存科学室長 降幡順子	「飛鳥寺塔心礎出土耳環」	『奈良文化財研究所紀要 2017』	奈良文化財研究所	6月30日	無
13	同上	同上	「群馬県白山古墳出土品の研究 1」	『鹿園雑集』第 19 号	奈良国立博物館	7月31日	無
14	同上	保存修理指導室長 大原　嘉豊	「羅漢像」（知恩院の至宝１３）	『華頂』５９３号	浄土宗総本山知恩院	6月	無
15	同上	同上	「知恩院の至宝 VOL.15 阿弥陀経曼陀羅図」	『華頂』５９５号	同上	9月	無
16	同上	同上	「国宝　山水屏風（京都国立博物館蔵）解題」	『国宝　山水屏風（京都国立博物館蔵）解題』京都国立博物館複製監修）	同朋舎新社	10月30日	無
17	同上	同上	「美術館だより 305　清園寺縁起　京都・清園寺」	『なにわ』１２月号	大阪府警察	11月	無
18	同上	同上	「国宝 絹本著色不動明王像(黄不動)〔京都・曼殊院蔵〕修理時に発見された御衣絹加持の痕跡に関して」	『月刊文化財』６５０号	第一法規	11月1日	無
19	同上	同上	作品解説	『粟生寺展』越前市武生公会堂記念館地域連携企画展図録	越前市武生公会堂記念館	12月18日	無
20	同上	同上	「詫磨派の問題ー勝賀を中心にー」	『研究発表と座談会 平安時代後期を中心とした絵師の工房をめぐる諸問題』	公益財団法人仏教美術研究上野記念財団研究報告書第四十四冊	30年3月31日	無
21	同上	考古室主任研究員 古谷 毅	「三次元計測・Ｘ線ＣＴ調査と古墳時代甲冑研究の課題」	学術振興会基盤研究Ｂ研究会『Ｘ線ＣＴ×島内139号地下式横穴墓-線CT調査による古墳時代甲冑の研究』資料集	九州国立博物館・鹿児島大総合研究博物館・えびの市教育委員会	9月9日	無
22	同上	同上	「物部氏と武器生産 -石上神宮と王権の武装」	『天理市観光協会設立60周年記念 大和の中のヤマト「シンポジウム ここまで判った物部氏 -布留遺跡の調査成果から』資料集	天理市観光協会	30年3月4日	無
23	同上	同上	「考古資料から見た弥生～古墳時代出雲地方の特質 -形成と領域-」	『島根大学萌芽研究プロジェクト・朝日新聞文化財団文化財保護事業・島根県立八雲立つ風土記の丘連携シンポジウム「黄泉国訪問譚と古墳時代出雲の葬制-考古学・地質学・歴史学のコラボレーション-」』（予稿集）	島根大学・島根県立八雲立つ風土記の丘	30年3月17日	無
24	同上	同上	「器財埴輪の伝統性 -武装具形埴輪と倭の武装-」	『第3回古代韓日古墳研究交流會・第 34 回古墳文化研究會－日韓埴輪の比較･検討と倭系古墳出現の歴史的背景－』（予稿集）	京都国立博物館科学研究費研究会・慶北大學校	30年3月24日	無
25	同上	列品管理室主任研究員 呉孟晋	「（動向）美術」	『中国年鑑２０１７』	中国研究所	5月	無
26	同上	同上	作品解説	『典雅と奇想：明末清初の中国名画』	東京美術	11月	無
27	同上	列品管理室主任研究員 呉孟晋	「東京、台湾そして広東をつなぐ画家：須磨コレクションの重松岩吉について」	国際コロキウム『移動する画家と東アジア近代美術の形成』予稿集	福岡大学	11月	無
28	同上	同上	「桃李園図・金谷園図　仇英筆」	『華頂』598 号	浄土宗総本山知恩院	12月	無
29	同上	同上	「画報と画家：『良友』画報にみる嶺南画派の画家たち」	『上海モダン：『良友』画報の世界』	勉誠出版	30年3月	無
30	同上	同上	「『良友』画報における美術関係記事目次」	同上	同上	30年3月	無
31	同上	同上	「野﨑家における王冶梅の画業」	『文化共生学研究』17 号	岡山大学大学院社会文化科学研究科	30年3月	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
32	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	保存修理指導室研究員 福士雄也	「2016 年の歴史学界―回顧と展望―近世・美術」	『史学雑誌』第 126 編第 5 号	史学会	5月20日	無
33	同上	同上	「曾我蕭白筆　富士三保清見寺図」	『國華』1464 号	國華社	10月20日	有
34	同上	企画室研究員 井並林太郎	「若狭国鎮守神人絵系図―修理報告を踏まえて―」	『学叢』39 号	京都国立博物館	5月25日	無
35	同上	同上	「騎馬武者像」	『なにわ』745 号	大阪府警察本部警務部教養課 一般財団法人大阪府警察職員互助会	6月29日	無
36	同上	企画室アソシエイトフェロー　上杉智英	「知恩院の至宝 VOL.14 大楼炭経」	『華頂』594 号	浄土宗総本山知恩院	7月	無
37	同上	同上	「知恩院の至宝 VOL.16 三略」	『華頂』596 号	同上	10月	無
38	陶磁に関する調査研究	工芸室研究員 降矢哲男	「中国への憧れと日本独自の美意識」	『淡交』885 号	淡交社	9月	無
39	同上	同上	「黒いやきものの登場と流行」	『天然黒ぐろ―鉄と炭素のものがたり』	ＬＩＸＩＬ出版	12月	無
40	幕末近代の商家が伝えた文化財の総合調査	教育室長　永島明子	「廣海家の蔵が伝えたもの」	『貝塚廣海家コレクション受贈記念特別企画　豪商の蔵―美しい暮らしの遺産―』	京都国立博物館	30年2月3日	無
41	同上	同上	「土蔵から展示室へ」	同上	同上	30年2月3日	無
42	同上	上席研究員　宮川貞一 企画室長　伊藤信二 美術室長　羽田　聡 工芸室長　山川　暁 連携協力室長　淺湫毅 教育室長　永島明子 工芸室研究員 降矢哲男 保存修理指導室研究員 福士雄也	作品解説	同上	同上	30年2月3日	無
43	長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究	列品管理室主任研究員 呉孟晋	「三希堂：乾隆帝をいやした極小空間」「呉昌碩との交流：富岡鉄斎と橋本関雪」	『中国文化事典』	丸善出版	4月	無
44	同上	同上	「長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究」	科研報告書（若手 B）	京都国立博物館	30年3月	無
45	思渓版大蔵経刊行実態の解明－目録と遺例による実証的研究	企画室アソシエイトフェロー　上杉智英	「大正蔵本『後思渓録』の祖本とその問題点」	『印度学仏教学研究』第 66 巻第 2 号	日本印度学仏教学会	30年3月	有
46	特別展等の開催に伴う調査研究	学芸部長　山本英男	「雲竜図　海北友松」	『美術館だより 297』	京都国立博物館	4月	無
47	同上	同上	「孤高の絵師　海北友松」	『京都国立博物館開館 120 周年記念特別展覧会　海北友松』（展覧会図録）	毎日新聞社 ほか	4月	無
48	同上	学芸部長　山本英男 美術室長　羽田　聡	作品解説	『京都国立博物館開館 120 周年記念特別展覧会　海北友松』（展覧会図録）	京都国立博物館 毎日新聞社 NHK 京都放送局 NHK プラネット近畿	4月	無
49	開館 120 周年記念特別展覧会「国宝」に関する調査研究	学芸部長　山本英男	「特集　国宝の美　日本人が生み出した美の精華」	『淡交』885 号	淡交社	9月	無
50	同上	列品管理室主任研究員 呉孟晋	「「渡来絵画」からみた日本の国宝史」	『京都国立博物館開館 120 周年記念特別展覧会　国宝』（展覧会図録）	毎日新聞・NHK	10月	無
51	同上	同上	「宮女図（伝桓野王図）」	『なにわ』749 号	大阪府警察職員互助会	11月	無
52	同上	工芸室研究員 降矢哲男	等伯・久蔵、親子の共演	『淡交』9 月号	淡交社	8月28日	無
53	同上	同上	「国宝とは何か」	『淡交』885 号	同上	9月	無
54	同上	同上	「中国への憧憬と日本独自の美意識」	『国宝』図録	京都国立博物館 毎日新聞社 NHK 京都放送局 NHK プラネット近畿	10月3日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
55	開館 120 周年記念特別展覧会「国宝」に関する調査研究	学芸部長　山本英男 上席研究員　宮川貞一 企画室長　伊藤信二 美術室長　羽田　聡 工芸室長　山川　暁 連携協力室長　淺湫毅 保存修理指導室長 大原嘉豊 教育室長　永島明子 列品管理室主任研究員 呉孟晋 工芸室研究員 降矢哲男 保存修理指導室研究員 福士雄也 企画室研究員 井並林太郎 企画室アソシエイトフェロー　上杉智英	作品解説	『京都国立博物館開館 120 周年記念特別展覧会　国宝』（展覧会図録）	京都国立博物館 毎日新聞社 NHK 京都放送局 NHK プラネット近畿	10月	無
56	博物館教育に関する調査研究	教育室研究員 水谷亜希	公募による大学生・大学院生が〈文化財ソムリエ〉として訪問授業	『ミュゼ』第 117 号	アム・プロモーション	4月	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　6件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財の保存修復に関する調査研究	保存科学室長 降幡順子	石室石材の残存する「朱線」の自然科学分析	『特別史跡高松塚古墳発掘調査報告』	文化庁・奈良文化財研究所・橿原考古学研究所・明日香村	5 月 31 日	無
2	同上	同上	南壁石下検出赤色顔料の自然科学分析	同上	同上	5 月 31 日	無
3	同上	同上	床面出土ガラス小玉の非破壊分析調査	同上	同上	5 月 31 日	無
4	同上	同上	青谷上寺地遺跡出土ガラス玉 G52 黒色塊の材質分析	『青谷上寺地遺跡発掘調査研究年報 2016』	鳥取県埋蔵文化財センター	30 年 3 月	無
5	鉛釉陶器の鉛同位体比値と金属元素の価数から考察する生産地の焼成技術の特徴に関する調査研究	同上	縄生廃寺出土唐三彩の化学分析	『奈良文化財研究所紀要 2017』	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
6	同上	同上	平城宮出土の奈良三彩陶器と施釉瓦磚	同上	同上	6 月 30 日	無

【奈良国立博物館】37件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　36件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	学芸部長　内藤栄	空海の舎利信仰の源流―後七日御修法とスリランカの仏歯供養	『鹿園雑集』第 19 号	奈良国立博物館	7 月 31 日	無
2	同上	上席研究員　岩田茂樹	金剛峯寺四天王像をめぐって	『快慶―日本人を魅了した仏たち』特別展図録	奈良国立博物館・読売新聞社・読売テレビ	4 月 8 日	無
3	同上	情報サービス室長 岩井共二	中国式仏像の出現	『アジア仏教美術論集　東アジアⅠ』	中央公論美術出版	5 月	無
4	同上	同上	『往生要集』と浄土教の仏像	『1000 年忌特別展源信　地獄・極楽への扉』特別展図録	奈良国立博物館・朝日新聞社	7 月 15 日	無
5	同上	同上	薬師寺金堂　日光・月光菩薩立像の着衣形式について	『鹿園雑集』第 20 号	奈良国立博物館	30 年 3 月 31 日	無
6	同上	工芸考古室長　清水健	作品解説	『創建一二五〇年記念　奈良 西大寺展 叡尊と一門の名宝』展覧会図録	日本経済新聞社	4 月 15 日	無
7	同上	同上	春日赤童子の図像について	『第八八二回　国指定重要無形民俗文化財　春日若宮おん祭』（おん祭解説書）第三三集	一般財団法人春日若宮おん祭保存会	11 月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
8	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	教育室長　谷口耕生	快慶と絵様―御仏の相好を写す	『快慶―日本人を魅了した仏たち』特別展図録	奈良国立博物館・読売新聞社・読売テレビ	4月8日	無
9	同上	同上	薬師寺板絵神像小考	『修理完成記念特別陳列　薬師寺の名画―板絵神像と長沢芦雪筆旧福寿院障壁画―』	奈良国立博物館	30年2月6日	無
10	館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財保存の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	保存修理指導室長 鳥越俊行	"Volume Visualization of Hidden Gallery System of Drywood Termite Using Computed Tomography: A New Approach on Monitoring of Termite Infestation", "Sustainable Future for Human Security: Environment & Resources"	Springer	Springer	10月	無
11	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	企画室長　野尻忠	口絵解説　大般若経（魚養経）巻第二百五十一	『正倉院文書研究』15号	正倉院	11月8日	無
12	同上	同上	展示概説　おん祭と春日信仰の美術―特集 社家史料と若宮―	『おん祭と春日信仰の美術―特集 社家史料と若宮―』特別陳列図録	一般財団法人仏教美術協会	12月9日	無
13	同上	同上	薬師寺伝来の大般若経（魚養経）と正倉院文書にみる宝亀初年の一切経書写	『鹿園雑集』第20号	奈良国立博物館	30年3月31日	無
14	同上	列品室長　吉澤悟	群馬県白山古墳出土品の研究1	『鹿園雑集』第19号	同上	7月31日	無
15	同上	同上	律僧忍性の救済活動を通してみる中世都市奈良	『「宗教都市」奈良を考える』	山川出版社	9月2日	無
16	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	同上	緑瑠璃十二曲長坏は乾隆ガラスか？	『第69回正倉院展』特別展図録（宝物寸描）	奈良国立博物館	10月28日	無
17	同上	同上	ソグド人がもたらした西域文化	同上	同上	10月28日	無
18	収蔵品写真・資料等の活用についての研究成果を公表する。	資料室長　宮崎幹子	博物館と文化財写真―奈良国立博物館におけるガラス乾板整理の経験から―	『文化財としてのガラス乾板―写真が紡ぎなおす歴史像―』	勉誠出版	4月30日	無
19	同上	同上	仏教美術写真の蓄積と公開―奈良国立博物館仏教美術資料研究センターと近年のアーカイブズ事業を中心に―	『美術フォーラム21』第35号	醍醐出版	5月30日	無
20	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	美術室主任研究員 斎木涼子	内侍所神鏡をめぐる儀礼―十一世紀における神聖化	『洛北史学』19	洛北史学会	6月	無
21	同上	情報サービス室主任研究員　北澤菜月	恵心僧都源信と浄土信仰の美術	『1000年忌特別展源信　地獄・極楽への扉』特別展図録	奈良国立博物館・朝日新聞社	7月15日	無
22	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	教育室主任研究員 中川あや	正倉院北倉に納められた鏡	『第69回正倉院展』特別展図録（宝物寸描）	奈良国立博物館	10月28日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
23	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	美術室主任研究員 山口隆介	快慶の生涯と「如法」の仏像	『快慶―日本人を魅了した仏たち』特別展図録	奈良国立博物館・読売新聞社・読売テレビ	4月8日	無
24	同上	同上	三宝荒神坐像（来迎院）	『國華』1458	國華社	4月20日	無
25	同上	同上	作品解説	『高野山正智院の歴史と美術』	正智院・高野山霊宝館	7月15日	無
26	同上	同上	大日如来坐像(円空仏)	『聖徳』233号	聖徳宗教学部	7月26日	無
27	同上	同上	もっと知りたい運慶	『運慶への招待』	朝日新聞出版	9月20日	無
28	同上	同上	作品解説	『日韓金銅半跏思惟像―科学的調査に基づく研究報告―』	韓国・国立中央博物館	12月	無
29	同上	同上	快慶作品の造像銘記に関する二、三の知見	『鹿園雑集』第20号	奈良国立博物館	30年3月31日	無
30	同上	美術室アソシエイトフェロー　伊藤久美	法相曼荼羅	『聖徳』234号	聖徳宗教学部	12月1日	無
31	同上	同上	「華厳宗祖師絵伝」義湘絵の再検討	『美術史学』	東北大学文学部美術史研究室	30年3月31日	無
32	同上	工芸考古室アソシエイトフェロー　田澤梓	古代の尺八―正倉院宝物　樺纒尺八を中心に―	『鹿園雑集』第20号	奈良国立博物館	30年3月31日	無
33	2019年ICOM京都大会に向けて研究成果を報告する。	企画室アソシエイトフェロー　堀内しきぶ	国際委員会報告　COMCOL（コレクティング国際委員会）	『ICOM大会報告書(第二四回　イタリア・ミラノ大会)』	ICOM日本委員会	4月	無
34	館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財保存修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	前保存修理指導室アソシエイトフェロー 大江克己	保存修理について（群馬県白山古墳出土品の研究１）	『鹿園雑集』第19号	奈良国立博物館	7月31日	無
35	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	美術室アソシエイトフェロー　樋笠逸人	明恵上人『夢記』の文殊現形記事について―高山寺本第一篇からの小考―	『鹿園雑集』第20号	同上	30年3月31日	無
36	同上	情報サービス室アソシエイトフェロー 朴美蓮	李亨禄筆《冊架図》の特殊性について―遠近法・陰影法を中心に	『鹿島美術研究』年報第三四号別冊	鹿島美術財団	11月	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　1件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財の科学的調査方法の研究及び実施を行い、その成果を発表する。	学芸部保存修理指導室長　鳥越俊行	等身大の木彫像を対象とした大型文化財用Ｘ線ＣＴスキャナの導入と調査作例について	『鹿園雑集』第20号	奈良国立博物館	30年3月31日	無

【九州国立博物館】　35件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　13件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	水中文化遺産	学芸部博物館科学課 アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	元寇沈没船を探る－日本・ベトナムにおける調査	『水中文化遺産』	勉誠出版	6月	無
2	同上	同上	水中考古学のいま―発見と保護と研究	西日本文化　No.479	西日本文化協会	7月1日	無
3	西域美術	学芸部特任研究員 臺信祐爾	西域の仏教美術	ユーラシア研究	ユーラシア研究所	8月20日	無
4	特別展示「大分県国東宇佐　六郷満山展～神と仏と鬼の郷～」	文化財防災ネットワーク推進室　萬納恵介	作品解説	特別展示図録「大分県国東宇佐　六郷満山展～神と仏と鬼の郷～」	九州国立博物館	9月	無
5	文化交流の観点から見た17～18世紀日本美術の研究	学芸部企画課特別展室主任研究員　鷲頭桂	「新・桃山展の仲間たち」および作品解説	特別展図録『新・桃山展―大航海時代の日本美術』	忘羊社	10月14日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
6	水中文化遺産	学芸部博物館科学課 アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	鷹島海底遺跡の調査とその後～これからの水中考古学研究	神奈川県立金沢文庫特別展図録『唐物ー中世鎌倉文化を彩る海の恩恵』	神奈川県立金沢文庫	12 月	無
7	同上	同上	水中考古学の過去・現在・未来	文明研究・九州 11 号	比較文明学会	30 年 1 月	無
8	特別展「王羲之と日本の書」に関する調査研究	館長　島谷弘幸	書の楽しみとその魅力	『王羲之と日本の書』（展覧会図録）	『王羲之と日本の書』（展覧会図録）	30 年 2 月 10 日	無
9	同上	学芸部企画課特別展室主任研究員　鷲頭桂、同室研究員　松浦晃佑、文化交流展室研究員　森實久美子、文化財課主任研究員　山下善也、同資料登録室長　丸山猶計、同室主任研究員　川畑憲子、同室研究員　望月規史	作品解説	『王羲之と日本の書』（展覧会図録）	『王羲之と日本の書』（展覧会図録）	30 年 2 月 10 日	無
10	同上	学芸部文化財課資料登録室長　丸山猶計	王羲之と日本の書	『王羲之と日本の書』（展覧会図録）	『王羲之と日本の書』（展覧会図録）	30 年 2 月 10 日	無
11	水中文化遺産	学芸部博物館科学課 アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	諸外国における水中考古学教育とトレーニング	『水中遺跡の歴史学』	山川出版	30 年 3 月	無
12	文化交流の観点から見た 17～18 世紀日本美術の研究	学芸部企画課特別展室 主任研究員　鷲頭桂	Japanese Art in the Age of Discoveries at Kyushu National Museum	The Oriental Ceramic Society Newsletter, Number **	The Oriental Ceramic Society	30 年 3 月	無
13	高校所蔵考古資料を利用した博学連携活動の実践的研究	展示課 主任研究員　今井涼子	高校所蔵考古資料を利用した博学連携活動の実践的研究	九州国立博物館紀要『東風西声』第 13 号	九州国立博物館	30 年 3 月 30 日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　22件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	日本書道史の研究	学芸部文化財課資料登録室長　丸山猶計	筆墨に潜む白隠	白隠禅師二百五十年遠諱記念『白隠』（展覧会図録）	花園大学歴史博物館	5 月 11 日	無
2	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	学芸部博物館科学課 保存修復室主任研究員 志賀智史	阿蘇石製石棺に採用された赤色顔料について	日本文化財科学会 34 回大会発表要旨集	日本文化財科学会	6 月 9 日	無
3	材質調査	同上	朝鮮・三国時代の鞍装飾の一例	文化財保存修復学会第 39 回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	7 月 1 日	無
4	文化財建造物における塗装材料の解析	客員研究員　赤田昌倫	文化財建造物における塗装材料の解析	SPring-8/SACLA 利用研究成果集	Spring8	7 月 25 日	有
5	文化財の生物被害調査	Miyuki Nishijima, Nozomi Tazato, Yutaka Handa, Nao Umekawa, Rika Kigawa, Chie Sano, Junta Sugiyama	Microbacterium tumbae sp. no., an actinobacterium isolated from the stone chamber of ancient tumulus	International journal of systematic and evolutionary microbiology 67	Microbiology society	2017	有
6	修復材料の耐久性の検討	東京藝術大学　桐野文良、学芸部博物館科学課 アソシエイトフェロー 大橋有佳、東京藝術大学 塚田全彦、稲葉政満	平等院鳳凰堂の仕上げに用いる表面コーティングしたベンガラ材の耐光性と付着製の予備検討	鳳翔学叢 第 13 輯	平等院	29 年 3 月	有
7	仏教美術の研究史	文化財防災ネットワーク推進室　萬納恵介	「四王院の造営と安置仏像」	大橋一章・松原智美編著『西大寺―美術史研究のあゆみ一』	里文出版	30 年 1 月	
8	日本近世絵画の研究	学芸部文化財課主任研究員　山下善也	狩野山雪と「和」の画題―「武家相撲絵巻」をめぐって	美術研究　423 号	東京文化財研究所	30 年 1 月	無
9	文化財の保存修復	東京文化財研究所　佐藤嘉則、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、日本学術振興会特別研究員　貴田啓子、東京文化財研究所　川野辺渉、早川典子	高松塚・キトラ古墳壁画上の微生物汚れの除去　-酵素の選抜とその諸性質-	保存科学　57 号	東京文化財研究所	30 年 3 月	有
10	文化財の生物被害調査・対策	東京文化財研究所　佐藤嘉則、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、東京文化財研究所　犬塚将英、森井順之、明治大学　矢島國雄	虎塚古墳石室の扉石表面に形成したバイオフィルムの微生物群集構造解析とその制御	同上	同上	30 年 3 月	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
11	文化財の生物被害調査	株式会社テクノスルガ・ラボ　喜友名朝彦、マクロジェンジャパン　安光得、東京文化財研究所　佐藤嘉則、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、東京文化財研究所　佐野千絵、株式会社テクノスルガ・ラボ千葉分室　杉山純多	高松塚・キトラ両古墳の Penicillium 属分離株の分子系統学的帰属および Penicillium sp. 2 の分類学的記載と生物劣化問題へのかかわり	保存科学　57 号	東京文化財研究所	30 年 3 月	有
12	文化財の生物被害調査	株式会社テクノスルガ・ラボ　西島美由紀、喜友名朝彦、マクロジェンジャパン　安光得、株式会社テクノスルガ・ラボ　富田順子、喜友名朝彦　東京文化財研究所　佐藤嘉則、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、東京文化財研究所　佐野千絵、文化庁　宇田川滋正、建石徹、株式会社テクノスルガ・ラボ千葉分室　杉山純多	分子生物学的手法による高松塚・キトラ両古墳の微生物群集構造解析	同上	同上	30 年 3 月	有
13	考古資料の調査	土井が浜遺跡・人類学ミュージアム　大薮由美子、客員研究員　赤田昌倫、博物館科学課研究補佐員　田中麻美、土居が浜遺跡・人類学ミュージアム　高椋浩史・河田聡、客員研究員　今津節生	124 号人骨の傷痕における X 線 CT を用いた調査	土井が浜遺跡・人類学ミュージアム研究紀要　第 12 号	土井が浜遺跡・人類学ミュージアム	30 年 3 月	無
14	材質調査	学芸部博物館科学課　保存修復室主任研究員　志賀智史、修理工房宰匠、文化庁　藤田励夫	九州国立博物館所蔵　安南国副都堂福義侯阮書簡の保存修理から見えてきたこと	九州国立博物館紀要『東風西声』第 13 号	九州国立博物館	30 年 3 月 30 日	無
15	材質調査	学芸部博物館科学課　アソシエイトフェロー　大橋有佳、同主任研究員　志賀智史、同課長兼環境保全室長　木川りか	当館所蔵「大方広仏華厳経巻第十五（泉福寺焼経）」及び長松寺所蔵「重要文化財　高麗版大般若経」の接着に使用された膠着剤の調査	同上	同上	30 年 3 月 30 日	無
16	文化交流の観点から見た 15～16 世紀日本美術の研究	学芸部文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀	渡唐天神像小考―館蔵品の素材と表現について―	同上	同上	30 年 3 月 30 日	無
17	ラスコー洞窟壁画	学芸部　特任研究員　臺信祐爾	ラスコー洞窟発見について　―マルセル・ラヴィダの手記による―	同上	同上	30 年 3 月 30 日	無
18	出土赤色顔料についての調査研究	学芸部博物館科学課　保存修復室主任研究員　志賀智史	金井東裏遺跡から出土した赤色顔料について	金井東裏遺跡発掘調査報告書	群馬県教育委員会	3 月下旬	無
19	出土赤色顔料についての調査研究	学芸部博物館科学課　保存修復室主任研究員　志賀智史	竹松遺跡から出土した赤色顔料について	竹松遺跡発掘調査報告書	長崎県教育委員会	3 月下旬	無
20	出土赤色顔料についての調査研究	群馬県埋蔵文化財調査事業団　杉山秀宏・学芸部博物館科学課　保存修復室主任研究員　志賀智史	赤玉について ～朱玉との比較から～	群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要 36	群馬県埋蔵文化財調査事業団	3 月下旬	無
21	文化財の生物被害調査	Tomohiko Kiyuna, Kwang-Duk An, Rika Kigawa, Chie Sano, Junta Sugiyama	Noteworthy anamorphic fungi, Cephalotrichum verrucisporum, Sagenomella striatispora, and Sagenomella griseoviridis, isolated from biodeteriorated samples in the Takamatsuzuka and Kitora tumuli, Nara, Japan	Mycoscience 58	elsevier	2018	有
22	文化財の生物被害調査	Tomohiko Kiyuna, Kwang-Duk An, Rika Kigawa, Chie Sano, Junta Sugiyama	Two new Cladophialophora species, C. tumbae sp. nov. and C. tumulicola sp. nov., and chaetothyrialean fungi from biodeteriorated samples in the Takamatsuzuka and Kitora tumuli	Mycoscience 59	elsevier	2018	有

【東京文化財研究所】37件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　12件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　8件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	日本東洋美術史の資料学的研究	中山大学社会学与人類学学院教授　桃崇新	コータンドモコ仏寺遺跡出土千手観音像壁画の初歩的考察	『美術研究』422 号	東京文化財研究所	10 月	有
2	同上	文化財情報資料部長 津田徹英	詞書の筆跡からみた金蓮寺本「遊行上人縁起絵巻の位相」	『美術研究』423 号	同上	30 年 1 月	有
3	同上	九州国立博物館学芸部文化財課主任研究員 山下善也	狩野野山雪と「和」の画題―「武家相撲絵巻」をめぐって	同上	同上	同上	有
4	同上	韓国伝統文化大学校大学院碩座教授　洪善杓	〈夢遊桃源図〉の創作世界	『美術研究』424 号	同上	30 年 3 月	有
5	同上	文化財情報資料部研究補佐員　田中潤	黒田清輝宛養母黒田貞子書簡の解題と翻刻	『美術研究』422 号	同上	8 月	有
6	近･現代美術に関する調査研究と資料集成	文化財情報資料部客員研究員　田中淳	岸田劉生研究―「駒沢村新町」療養期を中心に	同上	同上	10 月	有
7	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治	公開研究会南蛮漆器の多源性を探る	『公開研究会南蛮漆器の多源性を探る 予稿集増補版』	同上	6 月	無
8	同上	同上	アジアとの関係から考える朝鮮半島螺鈿史の検討課題	第 9 回『国際学術講演会資料集』	Lee&Won 財団	9 月	無

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　4件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	無形文化遺産部無形文化財研究室長 前原恵美	江戸祭礼と歌舞伎をめぐる三味線音楽演奏者の動向―常磐津節を中心に	『江戸総鎮守　神田明神論集』1	神田神社	5 月 15 日	無
2	同上	無形文化遺産部無形文化財研究室長 前原恵美　他	楽器を中心とした文化財保存技術の調査報告	『無形文化遺産研究報告』第 12 号	東京文化財研究所	30 年 3 月 30 日	無
3	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部民俗文化財研究室主任研究員 今石みぎわ	生きた文化財を継承する―無形文化遺産と被災・復興	高倉浩樹・山口睦編『震災後の地域文化と被災者の民俗誌 フィールド災害人文学の構築』	新泉社	30 年 1 月 31 日	無
4	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	文化財情報資料部文化財情報研究室長 二神葉子	無形文化遺産の保護に関する第 12 回政府間委員会における議論の概要と今後の課題	『無形文化遺産研究報告』第 12 号	東京文化財研究所	30 年 3 月 30 日	無

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　17件

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　17件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	保存科学研究センター生物科学研究室長 佐藤嘉則	装飾古墳における生物劣化と対策-石室石材の表面状態の保存-	『文化財保存修復研究センター紀要』	東北芸術工科大学	5 月 1 日	無
2	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	保存科学研究センター生物科学研究室長 佐藤嘉則　他	虎塚古墳石室の扉石表面に形成したバイオフィルムの微生物群集構造解析とその制御	『保存科学』第 57 号	東京文化財研究所	30 年 3 月 31 日	有
3	同上	同上	油彩画に発生したカビの同定と各種顔料における抗カビ性	同上	同上	同上	有
4	保存と活用のための展示環境の研究	保存科学研究センター保存環境研究室長 吉田直人	美術館・博物館における照明の現状とこれから－アンケート調査を通して－	『照明学会誌』	一般社団法人照明学会	12 月 1 日	無
5	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	保存科学研究センター副センター長 早川泰弘　他	国宝信貴山縁起絵巻の蛍光Ｘ線分析	『保存科学』第 57 号	東京文化財研究所	30 年 3 月 31 日	有
6	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	保存科学研究センター修復計画研究室長 朽津信明　他	多視点ステレオ技術に基づく磨崖和霊石地蔵の劣化状況評価	同上	同上	同上	有
7	同上	同上	保存科学から見た被災古墳の修復史	同上	同上	同上	有
8	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	保存科学研究センター研究補佐員　濱田翠、修復材料研究室長 早川典子	法隆寺金堂壁画写真原板のフィルム支持体に関する赤外分光分析	同上	同上	同上	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
9	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	保存科学研究センター 客員研究員　貴田啓子、 修復材料研究室長 早川典子　他	ジェランガムゲル処置による紙資料への影響	『保存科学』第 57 号	東京文化財研究所	30 年 3 月 31 日	有
10	同上	保存科学研究センター 研究員　倉島玲央、 修復材料研究室長 早川典子	現代技法で製作されたミャンマー漆器の分析調査	同上	同上	同上	有
11	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	保存科学研究センター 近代文化遺産研究室長 北河大次郎	土木史研究の歴史的展開に関する研究	『土木史研究』	土木学会	6 月 24 日	無
12	同上	保存科学研究センター 近代文化遺産研究室アソシエイトフェロー 石田真弥	東京形煉瓦を製造した工場の生産能力に関する考察　-煉瓦建造物の保存・活用に関する研究-14	『日本建築学会大会学術講演梗概集』	日本建築学会	7 月 20 日	無
13	同上	同上	東京形煉瓦の品質に関する一考察　-煉瓦建造物の保存・活用に関する研究-15	『日本建築学会関東支部研究報告集』	同上	30 年 3 月 1 日	無
14	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	保存科学研究センター 生物科学研究室長　佐藤嘉則、修復材料研究室長　早川典子、客員研究員　貴田啓子　他	高松塚・キトラ古墳壁画上の微生物汚れの除去－酵素の選抜とその諸性質－	『保存科学』第57号	東京文化財研究所	30 年 3 月 31 日	有
15	同上	保存科学研究センター長　佐野千絵、生物科学研究室長　佐藤嘉則他	高松塚・キトラ両古墳のPenicillium属分離株の分子系統学的帰属およびPenicillium sp. 2の分類学的記載と生物劣化問題へのかかわり	同上	同上	同上	有
16	同上	同上	分子生物学的手法による高松塚・キトラ両古墳の微生物群集構造解析	同上	同上	同上	有
17	同上	保存科学研究センター 修復材料研究室長 早川典子	キトラ古墳壁画の保存修復報告	『月刊文化財』	文化庁文化財部	10 月	無

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　7件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　7件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	香川大学准教授　宮本慎宏、多幾山法子、腰原幹雄、佐藤弘美	ネパールにおける層塔建築物の地震被害と構造性能評価に関する研究 その 1 地震被害の概要	『日本建築学会大会学術講演梗概集』	日本建築学会	8 月 1 日	無
2	同上	香川大学修士課程　奥廣晴香、宮本慎宏、多幾山法子、腰原幹雄	ネパールにおける層塔建築物の地震被害と構造性能評価に関する研究 その 2 常時微動計測	同上	同上	同上	無
3	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	香川大学修士課程　山口あかり、Kshitij C. Shrestha、宮本慎宏、多幾山法子、腰原幹雄	ネパールにおける層塔建築物の地震被害と構造性能評価に関する研究 その 3 伝統的煉瓦壁の材料強度試験	『日本建築学会大会学術講演梗概集』	日本建築学会	8 月 1 日	無
4	同上	東京大学助教　森朋子、西村幸夫	コカナにおける伝統的建造物の復興の実態（被災後 1 年半），2015 年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況調査報告 その 4	『日本建築学会大会学術講演梗概集』	日本建築学会	8 月 1 日	無
5	同上	東京大学修士課程　小林里瑛、浜田愛、三文字昌也、森朋子、西村幸夫	民家の形態変容から見た住まいへの要請に関する考察，2015 年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況調査報告 その 5	同上	同上	同上	無
6	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	東京大学修士課程　濱田愛、小林里瑛、三文字昌也、森朋子、西村幸夫	歴史的町並み保存の視点から見たコカナの非伝統工法民家のファサードの実態，2015 年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況調査報告 その 6	『日本建築学会大会学術講演梗概集』	日本建築学会	8 月 1 日	無
7	同上	東京大学修士課程　三文字昌也、小林里瑛、浜田愛、森朋子、西村幸夫	コカナにおける街区内部の空間に関する現状と課題，2015 年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況調査報告 その 7	同上	同上	同上	無

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　1件

○文化財情報基盤の整備・充実　1件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	保存科学研究センター 佐野千絵、文化財情報資料部研究員　橘川英規	電動集密書架の定期的散開による環境制御効果の検討	『保存科学』第 57 号	東京文化財研究所	30 年 3 月 31 日	有

【奈良文化財研究所】121件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　61件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　4件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	都城発掘調査部室長 箱崎和久	出雲大社神社本殿の特質	奈良文化財研究所紀要 2017	奈良文化財研究所	6月30日	無
2	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部室長 吉川聡	興福寺二条家史料の抜書集	同上	同上	6月30日	無
3	同上	同上	封をする経巻―如法経の巻緒について	古文書料紙論叢	勉誠出版	6月30日	無
4	同上	同上	生駒長福寺本堂と木札の調査	木簡研究第39号	木簡学会	11月25日	無

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　57件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡整備）	文化遺産部室長 内田和伸	遺跡の履歴と計画論-近世城跡の近現代-	奈良文化財研究所紀要2017	奈良文化財研究所	6月30日	無
2	同上	文化遺産部室長 内田和伸	近世城跡の近現代	『近世城跡の近現代』	同上	12月15日	無
3	同上	文化遺産部室長 内田和伸	近世城跡の立地する近現代遺構について	同上	同上	12月15日	無
4	同上	文化遺産部室長 内田和伸	石造文化財の保存と地震対策-東日本対震災による弘道館記碑の被災と修復から-	『石造文化財の保存修理』	第42回全国遺跡環境整備会議	12月15日	無
5	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	文化遺産部研究員 高橋知奈津	昭和・庭園史研究の血潮	『遺跡学研究』17号	日本遺跡跡学会	11月20日	無
6	同上	文化遺産部研究員 高橋知奈津	回遊式庭園に関する研究現況	『平成29年度庭園の歴史に関する研究会 回遊式庭園と庭園文化』	奈良文化財研究所	30年3月	無
7	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	文化遺産部アソシエイトフェロー マレス・エマニュエル	織豊期から江戸時代初期の庭園	奈良文化財研究所紀要2017	奈良文化財研究所	6月30日	無
8	同上	文化遺産部アソシエイトフェロー マレス・エマニュエル	妙蓮寺玉龍院庭園から唐招提寺東室庭園への庭園移転-森蘊による庭園遺構の移転復元-	『日本庭園学会誌』31号	日本庭園学会	30年3月	有
9	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	文化遺産部アソシエイトフェロー マレス・エマニュエル	画家クロード・モネの庭をめぐる考察-フランスの日本庭園、日本のフランス庭園	『平成29年度「観光資源としての庭園」に関する研究会　報告書 観光資源としての庭園（2）』	小野健吉	30年3月	無
10	平城宮東院地区の発掘調査①	都城発掘調査部副部長 渡辺晃宏　他	平城宮跡東院地区の調査―第584次・第587次・第593次	奈良文化財研究所紀要2018	奈良文化財研究所	30年6月予定	無
11	同上	都城発掘調査部研究員 山藤正敏	平城宮東院地区の調査（平城第584次）	『奈文研ニュース』No.66	同上	9月	無
12	平城京跡右京一条二坊四坪・西一坊大路の発掘調査	都城発掘調査部副部長 渡辺晃宏　他	2017年度　都城発掘調査部（平城地区）小規模調査等の概要	奈良文化財研究所紀要2018	同上	30年6月予定	無
13	東大寺東塔院の発掘調査	都城発掘調査部研究員 芝康次郎　他	東大寺東塔院の調査―平城第589次	同上	同上	30年6月予定	無
14	平城宮東院地区の発掘調査②	都城発掘調査部研究員 山藤正敬・同研究員 小田裕樹他	東院地区の調査－第584・587・593次	同上	同上	30年6月予定	無
15	藤原宮大極殿院地区の発掘調査	都城発掘調査部主任研究員　大林潤・同研究員 前川歩	藤原宮大極殿院回廊の調査（飛鳥藤原第195次調査）	『奈文研ニュースNo.68』	同上	30年3月	無
16	同上	同上	大極殿院回廊の調査―第195次	奈良文化財研究所紀要2018	同上	30年6月予定	無
17	飛鳥地域等の発掘調査	都城発掘調査部研究員 諫早直人	発掘調査の概要 山田道の調査（飛鳥藤原第193・194次）	奈文研ニュースNo.67	同上	12月	無
18	同上	同上	山田道の調査―飛鳥藤原第193・194次	奈良文化財研究所紀要2018	同上	30年6月予定	無
19	同上	都城発掘調査部研究員 清野陽一	大官大寺南方の調査	同上	同上	30年6月予定	無
20	平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査・研究	都城発掘調査部副部長 渡辺晃宏　他	Ⅲ平城宮跡等の調査概要	同上	同上	30年6月予定	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
21	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部研究員 石田由紀子	「藤原宮造営に伴う瓦生産体制と瓦窯構造の変化」『関西地方の瓦窯の構造３』	窯跡研究会	同上	6月	無
22	同上	都城発掘調査部主任研究員　山本崇	「古代木簡のなかの七世紀木簡」『古代の文字文化』（古代文学と隣接諸科学第4巻）	竹林舎	同上	7月	無
23	同上	同上	「癸未年荷札の再釈読」『壬申の乱の時代―美濃国・飛驒国の誕生に迫る』	岐阜県博物館	同上	9月	無
24	同上	都城発掘調査部主任研究員　廣瀬覚	「『特別史跡高松塚古墳発掘調査報告』の刊行について」	『(9月）月刊文化財』649号	同上	9月	無
25	同上	都城発掘調査部研究員 大澤正吾	「藤原宮の幢幡遺構―大宝元年の元日朝賀と儀仗旗―」『飛鳥・藤原京を読み解く―古代国家誕生の軌跡』	クバプロ	同上	10月	無
26	同上	都城発掘調査部主任研究員　山本崇	「飛鳥・藤原の木簡を紐解く」『飛鳥・藤原京を読み解く ―古代国家誕生の軌跡』	クバプロ	同上	10月	無
27	同上	都城発掘調査部研究員 諫早直人	「飛鳥寺の発掘と塔心礎埋納品―飛鳥寺発掘六十年―」『飛鳥・藤原京を読み解く―古代国家誕生の軌跡』	クバプロ	同上	10月	無
28	同上	都城発掘調査部主任研究員　廣瀬覚	「発掘調査成果を記録する」『高松塚古墳を掘る－解明された築造方法』	奈良文化財研究所飛鳥資料館	同上	10月	無
29	同上	都城発掘調査部主任研究員　山本崇	一九七七年以前出土の木簡（三九）　奈良・和田廃寺	『木簡研究』第39号	同上	11月	無
30	同上	同上	一九七七年以前出土の木簡（三九）　奈良・飛鳥寺	『木簡研究』第39号	同上	11月	無
31	同上	都城発掘調査部主任研究員　山本崇　他	漆紙文書の追加報告	豊岡市立歴史博物館館報（平成28年度）	同上	11月	無
32	同上	都城発掘調査部主任研究員　森川実・同研究員 大澤正吾	石神遺跡Ｂ期整地土・SD640の土器群	奈良文化財研究所紀要2018	同上	30年6月予定	無
33	同上	都城発掘調査部室長 尾野善裕	藤原宮朝堂院第二次整地土出土土器の再検討	同上	同上	30年6月予定	無
34	同上	都城発掘調査部研究員 諫早直人　他	山田道の調査―飛鳥藤原第193・194次	同上	同上	30年6月予定	無
35	同上	都城発掘調査部研究員 アソシエイトフェロー 土橋明梨紗ほか	飛鳥寺北方の調査―第192-1・9」	同上	同上	30年6月予定	無
36	同上	都城発掘調査部室長 清野孝之　他	藤原京右京九条二坊・四分遺跡の調査―第192-2次」	同上	同上	30年6月予定	無
37	同上	都城発掘調査部主任研究員　山本崇　他	藤原京右京二条一坊、醍醐遺跡、醍醐環濠の調査―第192-4・5・6次	同上	同上	30年6月予定	無
38	同上	都城発掘調査部研究員 石田由紀子　他	藤原宮外周帯の調査―第191・192-7次	同上	同上	30年6月予定	無
39	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	飛鳥資料館　学芸室研究員　若杉智宏	坂田寺池SG100出土土器	奈良文化財研究所紀要2018	奈良文化財研究所	30年6月予定	無
40	同上	都城発掘調査部主任研究員　大林潤・同研究員 前川歩	大極殿院回廊の調査―第195次	同上	同上	30年6月予定	無
41	同上	都城発掘調査部主任研究員　大林潤　他	六条大路の調査―第195次	同上	同上	30年6月予定	無
42	同上	都城発掘調査部主任研究員　廣瀬覚他	山田寺北面大垣の調査―第188-11次	同上	同上	30年6月予定	無
43	同上	都城発掘調査部研究員 清野陽一	大官大寺南方の調査―第196次	同上	同上	30年6月予定	無
44	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	都城発掘調査部研究員 諫早直人・飛鳥資料館学芸室長　石橋茂登他	「飛鳥寺塔心礎出土耳環」	奈良文化財研究所紀要2017	同上	6月	無
45	同上	飛鳥資料館　学芸室長 石橋茂登	「飛鳥・藤原地域出土金属製品の調査－坂田寺SK160出土銭－」	同上	同上	6月	無
46	同上	飛鳥資料館　学芸室 研究員　若杉智宏	「あすかの宇宙―飛鳥人のみた星座―」	『飛鳥・藤原京を読み解く 古代国家誕生の軌跡』	同上	10月7日	無
47	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部主任研究員 中島義晴	文化遺産の構成要素と関連性の可視化―歴史文化基本構想と文化的景観の報告書にみる表現方法―	奈良文化財研究所紀要2017	同上	6月30日	無
48	同上	文化遺産部主任研究員 中島義晴	奥出雲町絲原家住宅の庭園の変遷	平成29年度日本造園学会関西支部大会研究・事例報告発表要旨集	日本造園学会関西支部	10月14日	無
49	同上	文化遺産部研究員 惠谷浩子	文化的景観研究2－様々な分野における自然基盤と風景の関係	ランドスケープ研究81(2)	日本造園学会	7月31日	無
50	同上	文化遺産部研究員 惠谷浩子	都市と周縁の関係－京都から瀬戸内を考える	平成29年度瀬戸内海研究フォーラム in 京都　要旨集	特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議	9月6日	無
51	同上	文化遺産部研究員 惠谷浩子	四万十川流域の山と川の恵みの発着所・下田	河川文化　第79号	日本河川協会	9月20日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
52	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部研究員 恵谷浩子	千枚漬けの生まれた土地	視る　490 号	京都国立近代美術館	10 月 12 日	無
53	同上	文化遺産部研究員 恵谷浩子	宇治茶業の変化とレジリエンス	文化的景観スタディーズ 04『都市の営みの地層 ―宇治・金沢』	奈良文化財研究所	11 月 30 日	無
54	同上	文化遺産部アソシエイトフェロー　本間智希	「地域のみかた」としての文化的景観 -個別解を紡ぎ直す試み-	奈良文化財研究所紀要 2017	同上	6 月 30 日	無
55	同上	文化遺産部アソシエイトフェロー　本間智希	都市を呼び寄せる基層　一尾山という金沢の羅針盤	文化的景観スタディーズ 04『都市の営みの地層 ―宇治・金沢』	同上	11 月 30 日	無
56	古代官衙・集落遺跡研究、古代瓦研究	都城発掘調査部研究員 海野聡	国庁と郡庁の正殿にみる建築的比較	地方官衙政庁域の変遷と特質	第 21 回古代官衙・集落研究集会	12 月	無
57	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部主任研究員　岩戸晶子	大和の一本づくり・一枚づくり	8 世紀の瓦づくりⅧ ―一本づくり・一枚づくりの展開 1　資料集（東日本編）」	第 18 回シンポジウム	平成 30 年 2 月	無

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　51 件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　36 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	埋蔵文化財センター アソシエイトフェロー 山口欧志	白山への道、平泉寺への道	白山平泉寺：よみがえる宗教都市	吉川弘文館	4 月 5 日	有
2	同上	埋蔵文化財センター アソシエイトフェロー 山口欧志　他	中央アジアシルクロード都市遺跡カフィル・カラ城の研究	日本考古学協会第 83 回総会研究発表要旨	日本考古学協会	5 月 27 日	有
3	同上	埋蔵文化財センター室長　金田明大他	遺物のデジタル三次元計測法の比較検討	日本文化財科学会第 34 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6 月 9 日	有
4	同上	埋蔵文化財センター室長　金田明大	何がみえるのか?―土器製作痕跡へのSfM/RTI 計測の試行	同上	同上	6 月 9 日	有
5	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	遺埋蔵文化財センター アソシエイトフェロー 山口欧志	土器圧痕の超適応的な三次元デジタルレプリカ法	日本文化財科学会第 34 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6 月 9 日	有
6	同上	同上	平城京出土瓦基準資料の三次元デジタルデータベース構築に向けて	同上	同上	6 月 9 日	有
7	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	遺埋蔵文化財センター アソシエイトフェロー 山口欧志	石造物のデジタルドキュメンテーションと活用	日本文化財科学会第 34 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6 月 9 日	有
8	同上	遺埋蔵文化財センター 客員研究員　中村亜希子・同アソシエイトフェロー　山口欧志	瓦当の三次元計測法の検討：瓦当データベース構築に向けた模索	奈良文化財研究所紀要 2017	奈良文化財研究所	6 月 30 日	有
9	同上	埋蔵文化財センター アソシエイトフェロー 山口欧志　他	大型遺物実測における三次元計測の有用性	同上	同上	6 月 30 日	有
10	同上	埋蔵文化財センター室長　金田明大	遺跡・遺構の計測	季刊考古学 140	雄山閣	8 月 1 日	無
11	同上	埋蔵文化財センター室長　金田明大	コラム　三次元計測の事例	同上	同上	8 月 1 日	無
12	同上	埋蔵文化財センター アソシエイトフェロー 山口欧志　他	文化遺産と人を結ぶ：「世界文化遺産」となったモンゴル・オルホン渓谷の事例から	マスメディアとフィールドワーカー　FENICS 100 万人のフィールドワーカーシリーズ 第 6 巻	古今書院	8 月 5 日	有
13	同上	埋蔵文化財センター室長　金田明大	大変だったので仮想空間で伐採してみました。	文化財の壺 (5)	文化財方法論研究会	9 月 2 日	無
14	同上	埋蔵文化財センター室長　金田明大	三次元計測と RTI による土器計測・観察の可能性と課題	同上	同上	9 月 2 日	無
15	同上	埋蔵文化財センター アソシエイトフェロー 山口欧志	遺物の微細痕跡の資料化	同上	同上	9 月 2 日	無
16	同上	遺埋蔵文化財センター 客員研究員 中村亜希子	データベース作成に向けた瓦当の三次元計測法とその実践	同上	同上	9 月 2 日	無
17	同上	埋蔵文化財センター室長　金田明大	3D 技術と考古学 三次元計測の可能性を考える―実践から見る可能性と課題	第 2 回雄山閣百周年記念シンポジウム　3D 技術と考古学　基調講演資料	日本情報考古学会	10 月 28 日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
18	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	埋蔵文化財センター室長　金田明大	三次元計測の可能性を考える一実践から見る可能性と課題	日本情報考古学会講演論文集（19）	日本情報考古学会	10月28日	無
19	同上	埋蔵文化財センター アソシエイトフェロー 山口欧志	アジア歴史文化遺産のデジタルドキュメンテーション	USB フラッシュメモリ収録論文	横断型基幹科学技術研究団連合	12月2日	有
20	同上	埋蔵文化財センター客員研究員　中村亜希子	三次元計測データを用いた瓦研究―東亜考古学会による渤海上京城発掘資料の再検討	中国考古学17号	日本中国考古学会	12月2日	有
21	同上	埋蔵文化財センター室長　金田明大	地中を覗く―遺跡の物理探査（2016年3月再録）	月刊『測量』別冊　地形表現とその周辺	公財）日本測量協会	平成30年1月28日	無
22	同上	埋蔵文化財センター室長　金田明大・同アソシエイトフェロー　山口欧志・同客員研究員　中村亜希子・同技術補佐員石松智子	高精度物理探査手法による鞠智城広域遺構配置の把握	鞠智城「特別研究」論文集　鞠智城と古代社会6	熊本県教育委員会	平成30年3月18日	無
23	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター研究員　星野安治、同客員研究員　児島大輔・同客員研究員　光谷拓実	国宝薬師寺東塔木部材の年代測定－建立年代について－	奈良文化財研究所紀要2017	奈良文化財研究所	6月30日	無
24	同上	都城発掘調査部研究員 山本祥隆・埋蔵文化財センター研究員 星野安治	年輪年代学的手法による平城京跡出土木簡の検討　－平城第524次調査出土「皇」「太子」削屑の事例－	同上	同上	6月30日	無
25	同上	都城発掘調査部主任研究員　山本崇，同アソシエイトフェロー　浦蓉子，埋蔵文化財センター長　高妻洋成，同主任研究員　脇谷草一郎，同研究員　星野安治	豊橋市普門寺所蔵僧永意起請木札の文化財科学的調査	同上	同上	6月30日	無
26	年輪年代学研究	都城発掘調査部研究員大澤正吾，同研究員　諫早直人，埋蔵文化財センター主任研究員　山崎健，同アソシエイトフェロー　村田泰輔，同研究員　星野安治，同客員研究員　上中央子	藤原宮下層運河SD1901Aの機能と性格の検討－第186次	奈良文化財研究所紀要2017	奈良文化財研究所	6月30日	無
27	同上	埋蔵文化財センター研究員　星野安治	平城京左京二条二坪の調査:SB6990南西柱穴出土礎板の年輪年代測定	同上	同上	6月30日	無
28	同上	武蔵野美術大学　坂下渉，宮原ひろ子，東京大学　横山祐典，阿瀬貴博，総合地球環境研究所　中塚武，埋蔵文化財センター研究員　星野安治，東北大学　大山幹成，鳴門教育大学　米延仁志，京都大学　竹村恵二	Hydroclimate reconstruction in central Japan over the past four centuries from tree-ring cellulose δ18O	Quaternary International 455	Elsevier	10月7日	有
29	同上	埋蔵文化財センター研究員　星野安治	鳥取県松原田中遺跡橋脚部出土木材の年輪年代調査	松原田中遺跡Ⅱ	鳥取県教育委員会	30年1月29日	無
30	同上	埋蔵文化財センター研究員　星野安治	鳥取県松原田中遺跡盛土部出土木材の年輪年代調査	松原田中遺跡Ⅲ	同上	30年3月17日	無
31	動植物遺体の調査研究	都城発掘調査部研究員大澤正吾・埋蔵文化財センター主任研究員　山崎健・同客員研究員　上中央子　他	藤原宮下層運河SD1901Aの機能と性格の検討―第186次	奈良文化財研究所紀要2017	奈良文化財研究所	6月30日	無
32	同上	埋蔵文化財センター主任研究員　山崎健	馬の生産と消費―金井下新田遺跡と藤原宮跡から出土した馬の比較―	『海を渡って来た馬文化―黒井峯遺跡と群れる馬―』企画展示図録	群馬県立歴史博物館	9月30日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
33	動植物遺体の調査研究	埋蔵文化財センター アソシエイトフェロー 松崎哲也、同主任研究員 山崎健	磯草貝塚から出土した動物遺存体	気仙沼市震災復興関連遺跡発掘調査報告書1-平成24年度東日本大震災復興交付金埋蔵文化財発掘調査事業に伴う個人住宅関連遺跡発掘調査-』	気仙沼市教育委員会	12月22日	無
34	同上	埋蔵文化財センター主任研究員　山崎健	馬の貢進・貝の貢進	条里制・古代都市研究33	条里制古代都市研究会	30年3月1日	無
35	同上	埋蔵文化財センター主任研究員　山崎健	六反田南遺跡から出土した動物遺存体	六反田南遺跡Ⅴ	新潟県埋蔵文化財調査事業団	30年3月31日	無
36	同上	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー 松崎哲也、同主任研究員 山崎健	現生標本の現状と課題－文化財防災の観点から－	動物考古学35	日本動物考古学会	30年3月31日	有

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　15件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	高松塚古墳、キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	埋蔵文化財センター長 高妻洋成	キトラ古墳壁画の輸送環境解析から見た文化財の輸送および荷役作業の評価に関する考察	考古学と自然科学第75号	日本文化財科学会	30年2月15日	有
2	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	埋蔵文化財センター研究員　田村朋美	飛鳥寺塔心礎出土の真珠製小玉	奈良文化財研究所紀要2017	奈良文化財研究所	6月30日	無
3	同上	埋蔵文化財センター研究員　柳田明進、同主任研究員　脇谷草一郎、同室長　高妻洋成	交流インピーダンス法を用いた埋蔵環境下における金属製遺物の腐食速度に関する研究	同上	同上	6月30日	無
4	同上	埋蔵文化財センター アソシエイトフェロー 松田和貴、 同室長　高妻洋成	PEGが溶出した出土木簡の高級アルコールを用いた再処理	同上	同上	6月30日	無
5	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	埋蔵文化財センター 客員研究員　小椋大輔、 同主任研究員 脇谷草一郎　他4名	大分市高瀬石仏の保存環境に関する研究　その１）実測に基づく現状分析	日本建築学会大会（中国）梗概	日本建築学会	8月31日	無
6	同上	同上	大分市高瀬石仏の保存環境に関する研究　その２）数値解析に基づく現状分析	同上	同上	8月31日	無
7	同上	埋蔵文化財センター 客員研究員　小椋大輔、 同主任研究員 脇谷草一郎　他3名	元町石仏における覆屋内温湿度調整による塩類風化抑制に関する研究　数値解析による覆屋の塩類風化抑制効果の評価	同上	同上	8月31日	無
8	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎他3名	旧甲子園ホテルの外装材に使用される石材の保存に関する研究　その１　石材の現状調査	日本建築学会大会（中国）梗概	日本建築学会	8月31日	無
9	同上	埋蔵文化財センター主任研究員　Soichiro Wakiya, 同客員研究員 Daisuke Ogura, 同室長 Yohsei Kohdzum 他3名	Environmental control for mitigating salt deterioration by sodium sulfate on Motomachi Stone Buddha in Oita prefecture, Japan	Proceedings of SWBSS2017	Universitu of Applied Sciences Potsdam	9月21日	有
10	同上	埋蔵文化財センター客員研究員 Daisuke Ogura, 同主任研究員 Soichiro Wakiya, 同室長 Yohsei Kohdzuma 他3名	Numerical analysis on salt damage suppression of the Buddha statue carved into the cliff by controlling the room temperature and humidity in the shelter	Proceedings of SWBSS2017	Universitu of Applied Sciences Potsdam	9月21日	有
11	同上	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、同客員研究員 小椋大輔　他３名	石造文化財の保存　－環境制御による元町石仏の塩類風化抑制に関する研究－	全国遺跡環境整備会議第42回鳥取大会資料集	鳥取市教育委員会	10月26日	無
12	同上	埋蔵文化財センター研究員　柳田明進、同主任研究員　脇谷草一郎、同室長他１名	鷹島神崎遺跡における鉄製遺物の腐食に及ぼす埋蔵深度および共存する木製遺物の影響	考古学と自然科学	日本文化財科学会	11月10日	有
13	同上	埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔　、同主任研究員 脇谷草一郎　他4名	大分市高瀬石仏の保存環境に関する研究　その１）実測に基づく現状分析	日本建築学会大会（中国）梗概	日本建築学会	8月31日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
14	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔　、同主任研究員 脇谷草一郎　他４名	大分市高瀬石仏の保存環境に関する研究　その２）数値解析に基づく現状分析	日本建築学会大会（中国）梗概	日本建築学会	8 月 31 日	無
15	建造物の彩色に関する調査研究	埋蔵文化財センター客員研究員　Min jung Kim,　同室長　Yohsei Kohdzuma	テラヘルツ波イメージング技術を用いた彩色文化財の界面調査	Proceedings of The Sixth Symposium of the Society for Conservation of Cultural Heritage in East Asia, Shanghai, China	復旦大学	8 月 24 日	無

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　2 件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　2 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	カンボジア・西トップ遺跡の調査と修復	企画調整部　特任研究員　杉山洋、同専門職　佐藤由似	西トップ遺跡の調査と修復	『奈良文化財研究所紀要 2017』	奈良文化財研究所	6 月	無
2	同上	同上	西トップ遺跡における上座部仏教の影響について	同上	同上	6 月	無

(4) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　7 件

○文化財に関する協力・助言等　7 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助	都城発掘調査部　アソシエイトフェロー 土橋有梨紗ほか	飛鳥寺北方の調査―第 192-1・9 次	奈良文化財研究所紀要 2018	奈良文化財研究所	30 年 6 月予定	無
2	同上	都城発掘調査部室長 清野孝之ほか	藤原京右京九条二坊・四分遺跡の調査―第 192-2 次	同上	同上	30 年 6 月予定	無
3	同上	都城発掘調査部主任研究員　山本崇ほか	藤原京右京二条一坊、醍醐遺跡、醍醐環濠の調査―第 192-4・5・6 次	同上	同上	30 年 6 月予定	無
4	同上	都城発掘調査部研究員 石田由紀子ほか	藤原宮外周帯の調査―第 191・192-7 次	同上	同上	30 年 6 月予定	無
5	同上	都城発掘調査部主任研究員　大林潤ほか	六条大路の調査―第 195 次	同上	同上	30 年 6 月予定	無
6	被災した地域の復旧・復興事業に伴う地方公共団体等への支援・協力	埋蔵文化財センター長 高妻洋成	文化財防災ネットワークの構築について	第3回全国史料ネット研究交流集会報告書	文化庁・国立文化財機構	12 月 21 日	無
7	同上	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー 松崎哲也、同主任研究員 山崎健	現生標本の現状と課題－文化財防災の観点から－	動物考古学 35	日本動物考古学会	30 年 3 月	有

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　3件

○アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	Meredith Wilson アソシエイトフェロー 野嶋洋子	An ICH-Disasters Dialogue on Gaua Island, Vanuatu	Preliminary Research on ICH Safeguarding and Disaster Risk Management in The Asia-Pacific Region: Project Report For FY 2016-2017	アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）	30 年 3 月	無
2	同上	連携研究員　石村智 アソシエイトフェロー 野嶋洋子 Ilaitia S. Loloma Elizabeth Edwards	The ICH Situation during the Aftermath of Tropical Cyclone Winston:Results of the Preliminary Field Survey in Ra Province, Fiji	同上	同上	30 年 3 月	無
3	同上	アソシエイトフェロー 野嶋洋子 連携研究員　石村智 Cecilia Picache Norma Respicio	Intangible Cultural Heritage and Natural Hazards in the Philippine Cordilleras: Preliminary Report of the Field Research in Abra And Ifugao	同上	同上	30 年 3 月	無

c-⑥ 調査研究刊行物一覧

平成30年3月31日現在

【東京国立博物館】

○調査研究刊行物　6件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	「MUSEUM」667号～672号	各1,900	美術館・博物館・大学・研究所等 2,988件(各498件×6)
2	「東京国立博物館紀要」53号	700	美術館・博物館・大学・研究所等 352件
3	「東京国立博物館文化財修理報告」XVIII	700	美術館・博物館・大学・研究所等 152件
4	「法隆寺献納宝物特別調査概報」XXXVIII　古今目録抄4	1,000	美術館・博物館・大学・研究所等 95件
5	『東京国立博物館図版目録　経塚遺物篇（西日本）新訂』	800	美術館・博物館・大学・研究所等 163件
6	『東京国立博物館図版目録　インド細密画篇』	800	美術館・博物館・大学・研究所等 163件

○展覧会図録等　15件

	刊行物名		発行部数	配布先
1	特別展図録	『茶の湯』	—	—
2		日タイ修好130周年記念特別展『タイ～仏の国の輝き～』	—	—
3		興福寺中金堂再建記念特別展『運慶』	—	—
4		『アラビアの道　サウジアラビア王国の至宝』	—	—
5		『仁和寺と御室派のみほとけ』	—	—
6	特集図録 特集印刷物	『室町時代のやまと絵――絵師と作品――』	2,000	
7		『博物館でアジアの旅　マジカルアジア』	2,000	
8		『刀剣鑑賞の歴史』	5,000	
9		「幕府祈願所　霊雲寺の名宝」パンフレット	3,000	
10		「親と子のギャラリー　トーハクでバードウォッチング」リーフレット	4,000	
11		「新指定　重要文化財　野毛大塚古墳」リーフレット	4,000	
12		「チベットの金銅仏」リーフレット	4,000	
13		「東京国立博物館コレクションの保存と修理」リーフレット	8,000	
14		「日本の仮面　能狂言面の神と鬼」リーフレット	4,000	
15	そのほか	『東京国立博物館セレクション　「旧儀式図画帖」にみる宮廷の年中行事』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等

※東京国立博物館ニュースの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【京都国立博物館】

○調査研究刊行物　3件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	研究紀要「学叢」第39号	820	美術館・博物館・大学等
2	文化財保存修理所　修理報告書15	450	美術館・博物館・図書館・大学・研究機関・教育委員会等
3	社寺調査報告書28　両足院	500	大学・図書館・研究機関等

○展覧会図録等　4件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	開館120周年記念　特別展覧会『海北友松』	—	美術館・博物館・大学等
2	開館120周年記念　特別展覧会『国宝』	—	同上
3	特集展示『名刀聚英　―永藤一の愛刀―　』	2,300	同上
4	特別企画　貝塚廣海家コレクション受贈記念　『豪商の蔵―美しい暮らしの遺産―』	2,000	同上

※博物館だより、Newsletterの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【奈良国立博物館】

○調査研究刊行物　2件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	奈良国立博物館研究紀要「鹿園雑集」第19号	700	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	奈良国立博物館研究紀要「鹿園雑集」第20号	700	美術館・博物館・大学・研究機関等

○展覧会図録　6件

	刊行物名		発行部数	配布先
1	特別展	特別展『快慶　日本人を魅了した仏のかたち』	16,570	美術館・博物館・大学・研究機関等
2		1000年忌特別展『源信　地獄・極楽への扉』	9,500	美術館・博物館・大学・研究機関等
3		『第69回正倉院展』	3,450	美術館・博物館・大学・研究機関等
4		『 The 69th Annual Exhibition of Shoso-in Treasures』	2,300	美術館・博物館・大学・研究機関等
5	特別陳列	特別陳列『おん祭と春日信仰の美術―特集　社家史料と若宮―』	1,250	美術館・博物館・大学・研究機関等
6		修理完成記念　特別陳列『薬師寺の名画―板絵神像と長沢芦雪筆旧福寿院障壁画』	1,000	美術館・博物館・大学・研究機関等

※博物館だよりの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【九州国立博物館】

調査研究刊行物　3件

	刊 行 物 名	発行部数	配　布　先
1	九州国立博物館紀要『東風西声』　第12号	1,030	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	水中遺跡の保存活用に関する調査研究　報告書	50	文化庁、美術館・博物館・大学・研究機関等
3	九州国立博物館　博物館科学部門の取り組みIV	1,000	美術館・博物館・大学・研究機関等

○展覧会図録等　9件

	刊 行 物 名		発行部数	配　布　先
1	特別展	タイ～仏の国の輝き～	10,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
2		世界遺産　ラスコー展　クロマニョン人が見た世界	8,700	美術館・博物館・大学・研究機関等
3		新・桃山展－大航海時代の日本美術	6,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
4		書聖　王羲之と日本の書	8,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
5	特別展示等	水の中からよみがえる歴史－水中考古学最前線－	7,000	展示室内等で配布（非売品）
6		対馬－遺宝にみる交流の足跡－	1,600	美術館・博物館・大学・研究機関等
7		大分県国東宇佐六郷満山展～神と仏と鬼の郷～	2,200	美術館・博物館・大学・研究機関等
8		白隠さんと仙厓さん	1,600	美術館・博物館・大学・研究機関等
9		災害に学ぶ・備える～熊本地震と文化財レスキュー～	8,000	展示室内等で配布（非売品）

※アジアージュの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【東京文化財研究所】

○調査研究刊行物

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　3件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　1件

	刊 行 物 名	発行部数	配　布　先
1	『水月観音像調査報告書』	600	大学・研究機関・図書館等

・無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　2件

	刊 行 物 名	発行部数	配　布　先
1	『かりやど民俗誌』	1,000	各地民俗博物館・民俗資料館等
2	『箕 箕サミット2017の記録』	500	箕サミット参加者・研究機関・図書館等

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　5 件

・文化財の調査手法に関する研究開発の推進　1件

	刊 行 物 名	発行部数	配　布　先
1	『春日権現験記第三巻・第四巻　光学調査報告書』	500	大学・研究機関・図書館等

・文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　4件

	刊 行 物 名	発行部数	配　布　先
1	『春日権現験記絵巻　巻五・巻六　光学調査報告書』	500	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	『美術館・博物館の空気清浄化マニュアル（暫定版）』	100	博物館・美術館等
3	『煉瓦造建造物の保存と修復』	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
4	『Principles for Conservation and Restoration of Modern Cultural Heritage Properties』	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　13 件

・文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　13件

	刊 行 物 名	発行部数	配　布　先
1	『各国の文化財保護法例シリーズ［22］韓国』	300	大学･研究機関･教育委員会･図書館等
2	『世界遺産研究協議会　世界遺産推薦書の評価のプロセスと諮問機関の役割』	200	大学・研究機関・教育委員会等
3	『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力　平成29年度成果報告書』	50	外部評価委員等
4	『Iran-Japan On-site Workshop on the Conservation of Wooden Buildings and Wooden Objects』	30	所内･現地機関･ワークショップ参加者
5	『考古学的知見から読み取る大陸部東南アジアの古代木造建築』	150	大学・研究機関・図書館等
6	『ミャンマー・バガン遺跡における寺院壁画の保存に向けた外壁調査と保存修復方法の研究』	50	大学・研究機関・図書館等

7	『ドレスデン国立美術館陶磁器資料館所蔵の日本美術品共同研究事業報告書　染付蒔絵鳥籠装飾広口大瓶 - The Birdcage Vase -』	100	大学・研究機関・図書館等
8	『文化遺産国際協力コンソーシアム10周年記念誌―コンソーシアム10年のあゆみと文化遺産からつながる未来―』	300	大学・研究機関・図書館等
9	『東南アジアの歴史的都市でのまちづくり―町の魅力を、町の自慢に―』	日本語版：300 英語版：200	大学・研究機関・図書館等
10	『文化遺産の国際協力』	2,000	大学・研究機関・図書館・大使館・コンソーシアム会員等
11	『Conference on Preservation of Historic Settlements in Kathamandu Valley on 30th November 2016』	200	大学・研究機関・教育委員会・図書館等 ネパール国内行政機関
12	『ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業－建築分野』	10	所内保管用
13	『トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業報告書』	50	大学・研究機関・図書館等

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　　12 件

・調査研究成果の発信　12件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『東京文化財研究所年報』2016年度版	500	博物館・美術館・大学・研究機関等
2	『東京文化財研究所概要』2017年度版	2,700	博物館・美術館・大学・研究機関等
3	『東文研ニュース』64号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
4	『東文研ニュース』65号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
5	『東文研ニュース』66号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
6	『平成28年版　日本美術年鑑』	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
7	『美術研究』422号	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
8	『美術研究』423号	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
9	『美術研究』424号	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
10	『無形文化遺産研究報告』第12号	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
11	『第12回無形民俗文化財研究協議会報告書』	700	博物館・美術館・大学・研究機関等
12	『保存科学』57号	650	博物館・美術館・大学・研究機関等

【奈良文化財研究所】

○調査研究刊行物

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　　17件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	出雲市内神社建造物調査報告書	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	矢掛町矢掛宿伝統的建造物群保存対策調査報告書（再調査編）	200	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

・記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　15件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	平成 28 年度　遺跡整備・活用研究集会報告書　「近世城跡の近現代」	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	平成29年度庭園の歴史に関する研究会報告書　「回遊式庭園と庭園文化」	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	地下の正倉院展－国宝　平城宮跡出土木簡－	8,000	平城宮跡資料館参観者
4	特別史跡高松塚古墳発掘調査報告	800	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
5	日本所在の銭弘俶八万四千塔の調査１	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
6	『都市の営みの地層　宇治・金沢』文化的景観スタディーズ04	1,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
7	地域のみかたとしての文化的景観－文化的景観研究集会（第８回）報告書－	1,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
8	文化的景観全覧図－鳥瞰図による文化的景観の表現	3,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
9	郡庁域の空間構成　奈良文化財研究所研究報告第19冊	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
10	『第20回古代官衙・集落研究集会報告書　郡庁域の空間構成』（奈良文化財研究所研究報告19）	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
11	第21回古代官衙・集落研究集会　地方官衙政庁域の変遷と特質　研究報告資料	250	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
12	『政庁域　遺構集成』（第一分冊　図版編、第二分冊　図版・表編）	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
13	第18回シンポジウム　8世紀の瓦づくりⅧ　一本づくり・一枚づくりの展開１	350	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
14	「第18回シンポジウム　8世紀の瓦づくりⅧ　一本づくり・一枚づくりの展開1　資料集（東日本編）」	350	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
15	古代瓦研究Ⅷ　東大寺式軒瓦の展開・飛雲文軒瓦の展開	850	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　　3 件

・文化財の調査手法に関する研究開発の推進　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	埋蔵文化財ニュース 172　奈良文化財研究所埋蔵文化財センターの最新研究動向	2000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

・文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	特別史跡高松塚古墳発掘調査報告	800	大学・研究機関・教育委員会等
2	埋蔵文化財ニュース 171 号	2000	教育委員会など関係機関

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　　0 件

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　17件

・調査研究成果の発信　10件

	刊 行 物 名	発行部数	配　布　先
1	奈良文化財研究所概要2017	3000	大学・研究機関・図書館等
2	奈良文化財研究所紀要2017	3000	大学・研究機関・図書館等
3～6	奈文研ニュースNo.65～68	各3000	大学・研究機関
7～10	埋蔵文化財ニュースNo170～173	各2500	大学・研究機関・博物館等

・展示公開施設の充実　7件

	刊 行 物 名	発行部数	配　布　先
1	『永野太造作品展』 平城宮跡資料館企画展リーフレット	5000	平城宮跡資料館参観者
2	『ナント！すてきな！？平城生活』平城宮跡資料館企画展リーフレット	5000	平城宮跡資料館参観者
3	『地下の正倉院展－国宝平城宮跡出土木簡－』平城宮跡資料館特別展リーフレット	8000	平城宮跡資料館参観者
4	「新春企画　平城京の戌」平城宮跡資料館ミニ展示リーフレット	3000	平城宮跡資料館参観者
5	飛鳥資料館図録第67冊 『藤原京を掘る－藤原京一等地の調査－』	2000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
6	飛鳥資料館図録第68冊 『高松塚古墳を掘る―解明された築造方法―』	2000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
7	『飛鳥の考古学2017』飛鳥資料館企画展リーフレット	2000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

○調査研究刊行物　5件

	刊 行 物 名	発行部数	配　布　先
1	『IRCI概要2017(日本語版)』	500 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
2	『IRCI概要2017(英語版)』	600 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
3	『Proceedings of the International Symposium on Glocal Perspectives on Intangible Cultural Heritage: Local Communities, Researchers, States and UNESCO』	400 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
4	『International Symposium “Negotiating Intangible Cultural Heritage” Report』	500	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
5	『Preliminary Research on ICH Safeguarding and Disaster Risk Management in the Asia-Pacific Region: Project Report for FY 2016-2017』	データ版	関係者

【文化財防災ネットワーク推進本部】

○調査研究刊行物　10件

	刊 行 物 名	発行部数	配　布　先
1	『第３回 全国史料ネット研究交流集会－愛媛－報告書』	500 データ版でも公開	美術館・博物館、大学・研究機関、教育委員会、図書館等
2	『UNESCO・ICCROMによる 非常時における文化財の救出と保全の手引き』	1,200 データ版でも公開	ユネスコ、イクロム、美術館・博物館、大学・研究機関、図書館等
3	『―文化遺産防災総合シミュレーション調査―地域の文化遺産保全リスト・地図作成事業 報告書（平成28・29年度）』	100	連携協力機関、関係者・協力者等
4	『シンポジウム 文化財を災害から守る３　文化財の記録と継承～文化財を守り、伝えるために～』報告書	300	連携協力機関、関係者・協力者等
5	『文化財防災マニュアルハンドブック　汚損紙資料のクリーニング処置例』	500	連携協力機関、関係者・協力者等
6	『平成29年度文化財防災ネットワーク推進事業―九州国立博物館の取り組み―』	1,000	連携協力機関、九州・山口の美術館・博物館等
7	『ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際シンポジウム「日本と世界が共に目指す文化遺産防災」』報告書	600	連携協力機関、美術館・博物館、大学・研究機関、図書館、関係者・協力者等
8	『Proceedings of UNESCO Chair Programme on Cultural Heritage and Risk Management, INTERNATIONAL TRAINING COURSE (ITC) on DISASTER RISK MANAGEMENT of CULTURAL HERITAGE, Ritsumeikan University, and International Symposium “Working Internationally Toward the Integrated Protection of Cultural Heritage from Disasters”』	400	連携協力機関、関係者・協力者等
9	『文化遺産防災国際シンポジウム　文化遺産を大災害からどう守るか：ブルーシールドの可能性Ⅱ』報告書	500	美術館・博物館、大学・研究機関、教育委員会、図書館、関係者等
10	Report『International Symposium on Cultural Heritage Disaster Risk Management How We Protect Cultural Heritage from Disasters: Potential of Blue Shield Ⅱ』	500	美術館・博物館、大学・研究機関、教育委員会、図書館、関係者等

c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究

平成30年3月31日現在

件　数	国立文化財機構 計	博物館					文化財研究所			アジア太平洋無形文化遺産研究センター
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	
合　計	133	45	22	11	5	8	87	27	60	0
科学研究費補助金のみ	41	19	13	2	0	4	22	9	13	0
学術研究助成基金助成金のみ	82	24	8	8	4	4	58	16	42	0
科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究	10	3	1	1	1	0	7	2	5	0

※各施設に所属する研究員が研究代表者として交付された研究課題のみ記載している。（日本学術振興会特別研究員を除く）
※科学研究費助成事業の研究分担者等として参画しているものについてはc①2）他機関の共同研究への参画実績参照
※科学研究費の交付決定額には間接経費を含む。

【東京国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　13件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額（千円）
1	中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究	沖松　健次郎	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長	基盤研究（Ａ）【繰越】	3,640
2	日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究	小山　弓弦葉	学芸研究部列品管理課登録室長（兼貸与特別観覧室長）	基盤研究（Ａ）	8,450
3	清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究	関　紀子	学芸研究部列品管理課登録室アソシエイトフェロー	基盤研究（Ｂ）（海外学術調査）	1,820
4	東京国立博物館所蔵写真資料データベース	富田　淳	学芸企画部長	研究成果公開促進費（データベース）　重点	1,900
5	絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究	土屋　貴裕	学芸企画部企画課特別展室主任研究員	若手研究（Ａ）	3,770
6	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築	和田　浩	学芸研究部保存修復課環境保存室長	基盤研究(B)	4,290
7	大小摺物（絵暦）の美術史及び文化史に関する総合的研究	岩崎　均史	客員研究員	基盤研究(B)【平成28年度繰越】	700
8	大小摺物（絵暦）の美術史及び文化史に関する総合的研究	岩崎　均史	客員研究員	基盤研究(B)	1,950
9	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	田沢　裕賀	学芸研究部長	基盤研究(A)	9,490
10	文化財情報資源の探索と発見のためのデータ連携に関する研究	村田　良二	学芸企画部博物館情報課情報管理室長	基盤研究(B)	2,730
11	アイヌ民族の衣文化交流―博物館資料から北東アジア史を見直す	佐々木　史郎	東京国立博物館付部長	基盤研究(B)	6,370
12	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	皿井　舞	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室主任研究員	基盤研究(B)	4,290
13	博物館における文化財の情報資源化に関する研究	高橋　裕次	客員研究員	基盤研究(A)	4,420

2）学術研究助成基金助成金のみ　8件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究	澤田　むつ代	客員研究員	基盤研究（C）	－	4,680〈平成26～29年度〉
2	法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究	三田　覚之	学芸企画部博物館教育課教育普及室研究員	若手研究（B）	－	3,380〈平成26～29年度〉
3	中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容	瀬谷　愛	学芸研究部保存修復課保存修復室主任研究員	若手研究（B）	1,300	4,030〈平成27～29年度〉
4	模本制作の第一人者・田中親美を中心とした近現代の書の受容に関する基礎的研究	恵美　千鶴子	学芸企画部百五十年史編纂室長	基盤研究(C)	1,430	4,160〈平成29～31年度〉
5	東アジア礼制に基づく物質文化研究　―日・中・韓・越・琉の宮廷工芸を対象として―	猪熊　兼樹	学芸企画部企画課出版企画室主任研究員	基盤研究(C)	1,430	4,550〈平成29～31年度〉
6	１６・１７世紀中国江南地域における旅行と絵画の関係についての事例研究	植松　瑞希	学芸研究部調査研究課東洋室研究員	若手研究(B)	650	3,250〈平成29～32年度〉
7	日本刀における連続と変容の表現に着目した歴史的展開の考察	酒井　元樹	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員	若手研究(B)	2,210	4,160〈平成29～32年度〉
8	フェニキア人の「出現」－考古資料から見た初期の交易活動と対外進出	小野塚　拓造	学芸研究部調査研究課東洋室研究員	若手研究(B)	1,300	3,640〈平成29～31年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額　（千円）〈研究期間〉
1	ディルムン文明の起源－バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究－	後藤　健	客員研究員	基盤研究（B） 海外学術調査	2,210	1,300	6,500 〈平成26～30年度〉

【京都国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額（千円）
1	河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究	佐々木　丞平	館長	基盤研究（A）	4,810
2	幕末近代の商家が伝えた文化財の総合調査：貝塚廣海惣太郎コレクション	永島　明子	学芸部教育室長	基盤研究（B）	4,420

2）学術研究助成基金助成金のみ　8件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額　（千円）〈研究期間〉
1	実作例に基づく日本の宮廷装束および調度の基礎的研究	山川　暁	学芸部工芸室長	基盤研究（C）	1,170	4,030 〈平成27～29年度〉
2	長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究	呉　孟晋	学芸部列品管理室主任研究員	若手研究（B）	910	3,900 〈平成27～29年度〉
3	対話とハンズ・オン教材を組み合わせた博物館教育の実践と研究	水谷　亜希	学芸部教育室研究員	若手研究（B）	780	3,900 〈平成28～31年度〉
4	近世期に作成された、書画の「極書」に関する基礎的研究	福士　雄也	学芸部美術室研究員	若手研究（B）	650	3,770 〈平成28～31年度〉
5	鉛釉陶器の鉛同位体比値と金属元素の価数から考察する生産地と焼成技術の特徴	降幡　順子	学芸部保存科学室長	基盤研究（C）	910	3,770 〈平成28～31年度〉
6	思渓版大蔵経刊行実態の解明－目録と遺例による実証的研究－	上杉　智英	学芸部企画室・アソシエイトフェロー	若手研究（B）	1,170	3,900 （平成28～31年度）
7	古墳時代武装具研究の総合化と古代東アジアにおける政治史・文化史的意義の基盤的研究	古谷　毅	学芸部考古室主任研究員	基盤研究（C）	1,560	4,680 〈平成27～29年度〉
8	ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究；新来館者の定着に向けた実証的調査分析（国際共同研究強化）	関谷　泰弘	総務課専門職員	国際共同研究加速器金（国際共同研究強化）	－	14,820 〈平成28～30年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額　（千円）〈研究期間〉
1	東アジアにおける繍仏の基礎的研究	伊藤　信二	学芸部企画室長	基盤研究（B）	0	0	6,500 〈平成25～29年度〉 ※29年度は期間延長

【奈良国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　0件

2）学術研究助成基金助成金のみ　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額　（千円）〈研究期間〉
1	染織技法による仏像の研究	内藤　栄	学芸部長	基盤研究（C）	3,510	4,420 〈平成29～31年度〉
2	叡尊・忍性による中世的救済ネットワークの研究	吉澤　悟	学芸部列品室長	基盤研究（C）	1,430	2,990 〈平成29～31年度〉
3	真言密教聖教の歴史史料としての調査・研究と活用	斎木　涼子	学芸部美術室主任研究員	若手研究（B）	－	1,560 〈平成27～30年度〉
4	密教聖教に基づく護国修法の基礎的研究	斎木　涼子	学芸部美術室主任研究員	若手研究（B）	650	1,560 〈平成29～32年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相	松本　伸之	館長	基盤研究（B）	2,470	780	6,500〈平成26～29年度〉

【九州国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額（千円）
1	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討	木川　りか	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長	基盤研究（A）	5,330
2	日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究	原田　あゆみ	学芸部企画課特別展室長	基盤研究（B）	4,030
3	在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究	島谷　弘幸	館長	基盤研究（B）	4,420
4	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　－東アジア金属工芸史の再構築－	川村　佳男	学芸部企画課特別展室主任研究員	基盤研究（B）	2,600

2）学術研究助成基金助成金のみ　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究	川畑　憲子	学芸部文化財課資料登録室主任研究員	基盤研究（C）	650	4,810〈平成27～29年度〉
2	文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討	秋山　純子	学芸部博物館科学課環境保全室研究員	基盤研究（C）	1,430	4,680〈平成27～30年度〉
3	X線CTを用いた文化財有機質材料の同定方法の確立	赤田　昌倫	客員研究員	基盤研究（C）	1,040	4,160〈平成28～30年度〉
4	インドネシア・パセマ高原の装飾古墳の基礎的研究	河野　一隆	学芸部文化財課長	基盤研究（C）	1,040	4,290〈平成29～31年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【東京文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　9件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額（千円）
1	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究ー大航海時代を中心にー	小林　公治	文化財情報資料部広領域研究室長	基盤研究(B)	2,730
2	ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	前川　佳文	文化遺産国際協力センター研究員	基盤研究(B) 海外	5,070
3	ブータンの版築造建造物の類型と編年に関する研究	亀井　伸雄	所長	基盤研究(B) 海外	5,460
4	染織技術の伝承に関する研究-材料・道具に焦点をあてて-	菊池　理予	無形文化遺産部主任研究員	若手研究(A)	4,030
5	墨、煤、膠の製法と性状の体系化	宇高　健太郎	保存科学研究センター特別研究員(PD)	特別研究員奨励費	1,430
6	毘沙門天像の成立と展開　―唐・宋・元から平安・鎌倉へ―	佐藤　有希子	文化財情報資料部特別研究員(RPD)	特別研究員奨励費	1,300
7	2018年出版予定の書籍のための、1989年以降の日本の現代美術の研究	橘川　英規	文化財情報資料部研究員	特別研究員奨励費（外国人特別研究員）	1,100
8	SAT大正新脩大藏經 圖像データベース	津田　撤英	文化財情報資料部長	研究成果公開促進費	4,500
9	伝統木造建築技術の保存継承に関する日英比較研究	アレハンドロ マルティネス	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	780

2）学術研究助成基金助成金のみ　16件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	紙本屏風の規格と表現・技法の研究	江村　知子	文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室長	挑戦的研究（萌芽）	2,730	4,992（平成29年～平成31年）
2	ザグロス地域における農耕・牧畜の起源に関する考古学的研究	安倍　雅史	文化遺産国際協力センター研究員	基盤研究(C)	1,560	6,240（平成29年～平成31年）

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額 （千円）〈研究期間〉
3	虎塚古墳壁画の材質と保存環境に関する研究	犬塚　将英	保存科学研究センター 分析科学研究室長	基盤研究(C)	1,820	4,290（平成28年～平成30年）
4	黒髪白肌の系譜－上村松園の技法と表現－	大河原　典子	文化遺産国際協力センター 客員研究員	基盤研究(C)	1,560	4,680（平成28年～平成30年）
5	紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発	貴田　啓子	保存科学研究センター 客員研究員	若手研究(B)	1,690	3,900（平成28年～平成30年）
6	アイヌと和人の文化交渉史に関する研究―明治期の和人によるイナウ奉納習俗を中心に	今石　みぎわ	無形文化遺産部主任研究員	若手研究(B)	1,560	4,030（平成28年～平成30年）
7	イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究	山田　大樹	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー	若手研究(B)	1,560	4,160（平成28年～平成30年）
8	徳川将軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究	小野　真由美	文化財情報資料部主任研究員	基盤研究(C)	1,170	4,420（平成28年～平成30年）
9	環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究	朽津　信明	保存科学研究センター 修復計画研究室長	基盤研究(C)	1,040	4,680（平成27年～平成29年）
10	津波被災文書資料から発生するにおい物質の同定とその対策	佐野　千絵	保存科学研究センター長	基盤研究(C)	1,430	4,550（平成27年～平成29年）
11	日本絵画における鉛白・胡粉の利用とその変遷に関する調査研究	早川　泰弘	保存科学研究センター 副センター長	基盤研究(C)	1,300	4,680（平成27年～平成29年）
12	リアルタイム浮遊菌測定を用いた自然共生型博物館におけるゾーニングについての研究	間渕　創	保存科学研究センター 客員研究員	若手研究(B)	910	3,900（平成27年～平成29年）
13	放射光を用いた中央アナトリア出土鉄器に対する生産地同定法の開発	増渕　麻里耶	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー	若手研究(B)	1,300	3,120（平成27年～平成29年）
14	空間情報データベースによる文化財の災害被害予測の高度化及び防災計画策定への応用	二神　葉子	文化財情報資料部文化財情報研究室長	基盤研究(C)	650	4,030（平成26年～平成29年）
15	平安仏画の技法に関する画像情報による調査研究	小林　達朗	文化財情報資料部日本東洋美術史研究室長	基盤研究(C)	1,430	4,940（平成26年～平成29年）
16	実演用能装束の保存継承に関する研究 - 能楽の包括的継承の一指針として -	菊池　理予	無形文化遺産部主任研究員	挑戦的萌芽研究	780	3,640（平成26年～平成29年）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額 （千円）〈研究期間〉
1	酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発 －旧修理材料や微生物痕の除去－	早川　典子	保存科学研究センター修復材料研究室長	基盤研究(B)	1,560	2,210	13,000 平成26年～平成30年
2	墨、煤、膠の製法と性状の体系化 －伝統的製法の再現－	宇高　健太郎	保存科学研究センター特別研究員(PD)	若手研究(A)	1,430	2,210	18,500 平成26年～平成29年

【奈良文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　13件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額（千円）
1	木簡など出土文字資料の資源化のための機能的情報集約と知の結集	渡邉　晃宏	副所長	基盤研究（Ｓ）	33,670
2	歴史的文字に関する経験知の共有資源化と多元的分析のための人文・情報学融合研究	馬場　基	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（Ａ）	5,460
3	発掘遺構による古代寺院建築史の構築	箱崎　和久	都城発掘調査部遺構研究室長	基盤研究（Ａ）	7,540
4	和同開珎の生産と流通をめぐる総合的研究	松村　恵司	所長	基盤研究（Ｂ）	3,770
5	東アジア旧石器・新石器移行期の基礎的研究－河南霊井遺跡出土品の徹底分析－	加藤　真二	企画調整部企画調整室長	基盤研究（Ｂ）	3,510
6	木簡の年輪年代学：同一材推定による再釈読と荷札木簡を用いた地域標準年輪曲線の構築	星野　安治	埋蔵文化財センター年代学研究室研究員	基盤研究（Ｂ）	5,720
7	先端技術による未発見遺跡の探査・研究および保護手法の開発	金田　明大	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長	挑戦的研究（開拓）	5,980
8	日本考古学国際化のための考古学関係用語シソーラス構築と自動英語化の研究	高田　祐一	企画調整部文化財情報研究室研究員	若手研究（Ａ）	7,670

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額（千円）
9	対照実験を主軸とした東アジア鋳造技術史解明のための実験考古学的研究	丹羽　崇史	都城発掘調査部主任研究員	若手研究（Ａ）	2,730
10	中近世日本と東アジアにおける木造建築の変革に関する比較研究	鈴木　智大	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究（Ａ）	2,080
11	土器残存脂質分析を用いた縄文－弥生移行期における土器利用と食性変化の追跡	庄田　慎矢	都城発掘調査部主任研究員	若手研究（Ａ）	4,940
12	カザフスタンにおける後期旧石器文化形成プロセスの研究	国武　貞克	都城発掘調査部主任研究員	新学術領域研究（研究領域提案型）	2470
13	全国遺跡報告総覧	高田　祐一	企画調整部文化財情報研究室研究員	研究成果公開促進費＜データベース＞	4,000

2）学術研究助成基金助成金のみ　42件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	古代日本の宮都、寺院出土磚の基礎的研究	中川　二美	都城発掘調査部客員研究員	若手研究（Ｂ）	－	3,380〈平成25～29年度〉
2	重要文化的景観の評価方法と保護手法における現状と課題	惠谷　浩子	文化遺産部景観研究室　研究員	若手研究（Ｂ）	－	3,770〈平成25～29年度〉
3	近世庭園の様式と地域性に関する基礎的研究－重森編年への検証として	高橋　知奈津	文化遺産部遺跡整備研究室研究員	若手研究（Ｂ）	－	3,120〈平成25～29年度〉
4	中国由来の木彫像の用材観	伊東　隆夫	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｃ）	－	4,680〈平成26～29年度〉
5	古代東北アジアにおける金工品の生産・流通構造にかんする考古学的研究	諫早　直人	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究（Ｂ）	910	3,640〈平成26～29年度〉
6	七世紀土器編年からみた古代宮都の変遷に関する考古学的研究	若杉　智宏	飛鳥資料館学芸室研究員	若手研究（Ｂ）	390	2,730〈平成26～29年度〉
7	九州旧石器編年の再構築と集団関係の研究―中九州石器群の再検討	芝　康次郎	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究（Ｂ）	780	3,770〈平成26～29年度〉
8	古代都城造営における造瓦体制の復元的研究	石田　由紀子	都城発掘調査部考古第三研究室研究員	若手研究（Ｂ）	650	3,640〈平成26～29年度〉
9	荘厳化を目的とした建築装飾に関する研究	大林　潤	都城発掘調査部主任研究員	若手研究（Ｂ）	520	2,600〈平成26～30年度〉
10	律令制下の土器生産－須恵器・土師器群別分類の再構築	神野　恵	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（Ｃ）	910	4,420〈平成27～31年度〉
11	奈良時代鉛釉陶器および鉛釉瓦磚の基礎的研究	今井　晃樹	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（Ｃ）	2,210	4,810〈平成27～29年度〉
12	古代の灯火―先史時代から近世にいたる灯明具に関する研究	深澤　芳樹	都城発掘調査部客員研究員	基盤研究（Ｃ）	910	4,810〈平成27～31年度〉
13	飛鳥時代金属製品の加工技術に関する基礎的研究	石橋　茂登	飛鳥資料館学芸室長	基盤研究（Ｃ）	1,560	4,810〈平成27～31年度〉
14	考古・歴史･地質学的複合解析による災害履歴地図の開発	村田　泰輔	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー	挑戦的萌芽研究	650	3,510〈平成27～31年度〉
15	水蒸気移動を用いた出土鉄製文化財の新規脱塩法の開発	柳田　明進	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究（Ｂ）	780	3,640〈平成27～29年度〉
16	埋蔵環境下における金属製遺物の現地保存法の開発	脇谷　草一郎	埋蔵文化財センター主任研究員	基盤研究（Ｃ）	650	3,770〈平成28～30年度〉
17	蛍光Ｘ線分析と鉱物組成分析による飛鳥藤原地域出土古代瓦の生産・供給体制の研究	清野　孝之	都城発掘調査部考古第三研究室長	基盤研究（Ｃ）	1,690	4,680〈平成28～30年度〉
18	６世紀の埴輪生産からみた「部民制」の実証的研究－奈良盆地を中心に－	廣瀬　覚	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（Ｃ）	650	4,680〈平成28～31年度〉
19	明治～戦前期の木造建築に使われた良材の産地とその年輪データに関する基礎的研究	藤井　裕之	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｃ）	910	4,160〈平成28～30年度〉
20	日本と中国における古建築用語の相互訳および英訳を通した比較研究手法の創生	鈴木　智大	都城発掘調査部遺構研究室研究員	挑戦的萌芽研究	1,300	3,640〈平成28～30年度〉
21	財政関係木簡による古代地方社会の実態解明	山本　祥隆	都城発掘調査部史料研究室研究員	若手研究（Ｂ）	650	1,950〈平成28～30年度〉
22	古代都城における木器生産に関する基礎的研究	浦　蓉子	都城発掘調査部考古第一研究室アソシエイトフェロー	若手研究（Ｂ）	1300	4,030〈平成28～30年度〉
23	二階建ての御殿にみる近世武家住宅の実体と空間の構成	大橋　正浩	都城発掘調査部遺構研究室アソシエイトフェロー	若手研究（Ｂ）	1,040	4,160〈平成28～30年度〉
24	北陸地方の温泉地における共同浴場の建築史的研究	福嶋　啓人	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究（Ｂ）	1,300	3,380〈平成28～29年度〉

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
25	大工道具にみる東アジア木造建築技術史の基盤構築	李　暉	文化遺産部客員研究員	若手研究（B）	780	4,160 〈平成28～31年度〉
26	地理情報システムを用いた古代日本における移動コスト算出の基礎的研究	清野　陽一	都城発掘調査部考古第三研究室研究員	若手研究（B）	910	3,770 〈平成28～31年度〉
27	古代における食生活の復元に関する環境考古学的研究	山崎　健	埋蔵文化財センター主任研究員	基盤研究（C）	780	4,420 〈平成29～33年度〉
28	Sr 同位体比分析による日本出土「ナトロンガラス」の産地に関する考古科学的研究	田村　朋美	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	基盤研究（C）	1,430	4,550 〈平成29～31年度〉
29	展示施設を拠点とする地域住民参加型の歴史的建造物の調査	西田　紀子	飛鳥資料館学芸室研究員	基盤研究（C）	1,430	4,550 〈平成29～33年度〉
30	中央アジア西部ポスト・クシャーン朝期（４～７世紀）壁画の基礎的研究	影山　悦子	企画調整部国際遺跡研究室アソシエイトフェロー	基盤研究（C）	1,300	3900 〈平成29～31年度〉
31	呪符木簡の時代的地域的特質からみた「木に文字を記す文化」の史的考究	山本　崇	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	1,040	4,550 〈平成29～32年度〉
32	春秋戦国時代の馬匹生産体制形成過程に関する実証的研究	菊地　大樹	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（C）	1,690	4,550 〈平成29～31年度〉
33	3D石器形態研究の確立による日本列島後期旧石器時代の生活・技術・文化の解明	野口　淳	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（C）	780	4,430 〈平成29～31年度〉
34	木造三重塔における組上げ構法の再構築	西山　和宏	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	1,430	3,770 〈平成29～32年度〉
35	日本古代の乳製品加工に関する考古化学的証拠の探求	庄田　慎矢	都城発掘調査部主任研究員	挑戦的研究（萌芽）	2,730	6,370 〈平成29～30年度〉
36	出土木製遺物の水中保管時における劣化を効果的に抑制する手法の開発	松田　和貴	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究（B）	2,340	3,900 〈平成29～31年度〉
37	彩色文化財のTHz Imaging及びμFocusX線CTを用いた非破壊界面調査	金　旻貞	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー	若手研究（B）	1,170	2,860 〈平成29～31年度〉
38	地震痕跡を残す災害遺構の保存と公開活用に関する研究	小沼　美結	飛鳥資料館学芸室アソシエイトフェロー	若手研究（B）	650	1,950 〈平成29～31年度〉
39	古墳時代中期王権中枢部における埴輪生産体制の実証的研究―奈良市佐紀古墳群を中心に	大澤　正吾	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究（B）	1,170	4,160 〈平成29～32年度〉
40	渤海遺跡出土建築部材の基礎的研究－三次元計測データの活用－	中村　亜希子	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究（B）	1,430	4,030 〈平成29～31年度〉
41	奈良時代に用いられた色材・素材のナノ構造解明	杉岡　奈穂子	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー	若手研究（B）	1,430	4,160 〈平成29～31年度〉
42	森蘊の業績と日本庭園史の作成―歴史的庭園のデータベース作成	MARES Emmanuel	文化遺産部遺跡整備研究室アソシエイトフェロー	若手研究（B）	910	3,120 〈平成29～31年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　5件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	中国漢代の木槨・木棺材を用いた年輪年代学の確立と用材選択の意義	光谷　拓実	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（B）	2,080	520	6,500 〈平成25～29年度〉
2	弥生時代における青銅器生産の総合的研究	難波　洋三	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（B）	2,080	780	6,500 〈平成25～29年度〉
3	東大寺を中心とする南都の未整理文書聖教の復原的調査研究	吉川　聡	文化遺産部歴史研究室長	基盤研究（B）	1,820	1,040	6,500 〈平成26～30年度〉
4	アンコール王朝末期の総合的歴史学の構築	杉山　洋	企画調整部国際遺跡研究室特任研究員	基盤研究（B）	1,430	910	6,500 〈平成26～29年度〉
5	古代東アジアにおける建築技術の重層性と日本建築の特質	海野　聡	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究（A）	800	1,000	6,500 〈平成26～29年度〉

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0件

c-⑧ 客員研究員一覧

平成30年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
141人	44 人	31人	5人	6人	2人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	97 人	46人		51人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	0 人				

【東京国立博物館】　31人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	松原　茂（公益財団法人根津美術館学芸部長）	当館所蔵の絵画に関する研究
2	岩崎　均史（静岡市東海道広重美術館館長）	当館所蔵の大小絵暦に関する研究
3	宮永 美知代（東京藝術大学美術学部助教）	解剖学・美術解剖学および医学関係の館史資料に関する調査研究
4	東野　治之（奈良大学文学部教授）	法隆寺献納宝物の資料の研究
5	田辺　龍太（一般財団法人切手の博物館主任）	当館所蔵の切手に関する調査研究
6	水上　嘉代子（公益財団法人遠山記念館学芸員）	当館に所蔵される小袖形を中心とする日本近世染織の調査・研究
7	小笠原　小枝	当館所蔵のインド更紗に関する研究
8	大脇　　潔	当館所蔵古瓦の整理および、当館所蔵の藤原宮および藤原京内寺院出土瓦に関する研究
9	金子　浩昌（日本考古学協会会員）	当館所蔵原始・古代骨角製品に関する研究
10	湊　信幸（元東京国立博物館副館長）	当館所蔵の絵画に関する研究
11	鍋島　稲子（台東区立書道博物館主任研究員）	中国書跡の調査研究
12	西岡　康宏（元東京国立博物館副館長）	当館所蔵の東洋漆工に関する研究
13	保坂　裕興（学習院大学大学院人文科学研究科教授）	館史資料アーカイブズ学的研究
14	田中　淑江（共立女子大学家政学部准教授）	当館所蔵の江戸時代を中心とする小袖に関する研究
15	佐々木　利和	アイヌ・琉球民族資料に関する調査研究
16	望月　幹夫（元東京国立博物館上席研究員）	当館所蔵の考古資料（原史・有史）に関する調査研究
17	歌田　眞介（東京藝術大学名誉教授）	当館所蔵油彩画の材料・技法および保存状態についての調査・研究
18	稲本　泰生（京都大学人文科学研究所准教授）	東洋彫刻及び大谷探検隊将来西域美術の調査研究
19	澤田　むつ代（元東京国立博物館上席研究員）	法隆寺献納宝物のうち法隆寺裂などの上代切れの保存と修理に関する調査研究
20	松井　敏也（筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授）	文化財の非破壊分析に関する調査研究
21	クライナー・ヨゼフ	アイヌ・琉球民族資料に関する調査研究
22	佐藤　サアラ（公益財団法人常盤山文庫主任研究員）	東洋陶磁（宋・元代）に関する研究
23	高濱　秀	当館所蔵の中央ユーラシア青銅器に関する研究
24	加藤　雅久（居住技術研究所主宰）	帝室博物館・復興本館建設における技術史的考察
25	津村 眞輝子（公益財団法人古代オリエント博物館研究部長）	古代西アジアから中央アジアにおけるコインの研究
26	池田　宏（元東京国立博物館上席研究員）	当館所蔵の工芸品、歴史資料に関する調査研究
27	後藤　健（元東京国立博物館上席研究員）	古代文化研究
28	長谷　高志（長谷高史デザイン事務所代表）	情報デザイン、インフォメーションデザインの将来像の研究
29	田中　公明（公益財団法人中村元東方研究所専任研究員）	館蔵のチベット・ネパール仏教美術の調査研究
30	高橋　裕次（公益財団法人大倉文化財団大倉集古館学芸部長）	東京国立博物館百五十年史に関わる研究及び東京国立博物館所蔵の書跡に関する調査研究
31	日高　慎（東京学芸大学教育学部文化財科学分野教授）	埴輪 挂甲の武人 についての調査と、修理における助言

【京都国立博物館】　5人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井上　一稔（同志社大学文学部教授）	彫刻に関する調査研究
2	宇都宮　啓吾（大阪大谷大学文学部教授）	訓点資料としての典籍に関する調査研究
3	奥平　俊六（大阪大学大学院文学研究科教授）	近世絵画に関する調査研究
4	狩野　博幸	近世絵画に関する調査研究
5	後藤　真（国立歴史民俗博物館准教授）	文化財情報に関する調査研究

【奈良国立博物館】　6人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井出誠之輔（九州大学大学院人文科学研究院教授）	仏教絵画の調査及び整理
2	木村法光（元宮内庁正倉院事務所保存課長）	漆工品の調査及び研究
3	清水昭博（帝塚山大学文学部教授）	飛鳥・奈良時代の仏教考古、斑鳩地区出土瓦の調査及び整理
4	根立研介（京都大学大学院文学研究科教授）	仏教彫刻の調査と整理
5	板倉聖哲（東京大学東洋文化研究所教授）	中国・朝鮮絵画の調査及び整理
6	澤田むつ代（元東京国立博物館上席研究員）	染織品の調査および研究

【九州国立博物館】　2人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	今津節生（奈良大学文学部教授）	水中遺跡の保存活用に関する調査研究
2	赤田昌倫（公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構/国立アイヌ民族博物館設立準備室研究員）	文化財の3次元計測と3次元データの展示への応用に関する調査研究

【東京文化財研究所】　46人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	三上　豊（和光大学表現学部教授）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
2	丸川雄三（国立民族学博物館先端人類科学研究部准教授）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
3	中野照男（成城大学特任教授）	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究
4	近松鴻二（国士舘大学非常勤講師ほか）	黒田清輝宛書簡ならびに記事珠などの判読と確認
5	田中　淳（公益財団法人大川美術館長）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
6	片山まび（東京藝術大学美術学部藝術学科准教授）	『売立目録』工芸部門の調査研究
7	齋藤達也	黒田清輝をはじめとするフランスで学んだ美術家の調査研究、および当研究所のアーカイブ構築
8	永崎研宣（一般財団法人人文情報学研究所主席研究員）	刊行物アーカイブズシステムの運用・評価に関する調査研究
9	星野厚子（東京藝術大学助手）	無形文化財（芸能）に関する調査研究
10	永井美和子（早稲田大学非常勤嘱託（演劇博物館））	無形文化財の記録作成
11	今岡謙太郎（武蔵野美術大学造形学部教授）	無形文化財の記録作成
12	原田一敏（東京藝術大学大学美術館教授）	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
13	荒川正明（学習院大学文学部哲学科（美術史専攻）教授）	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
14	山崎　剛（金沢美術工芸大学教授）	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
15	俵木　悟（成城大学文学部准教授）	無形民俗文化財の保存・継承に関する調査研究
16	大西秀樹(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター非常勤講師)	音声映像記録に関する調査研究
17	松山直子	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
18	菊池健策（都留文科大学非常勤講師）	無形民俗文化財の調査
19	鎌田紗弓（日本学術振興会特別研究員）	無形文化遺産部所蔵写真資料の整理
20	齋藤裕嗣	無形民俗文化財の調査
21	宮澤京子（有限会社海工房取締役）	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
22	森下愛子（公益財団法人泉屋博古館分館学芸課学芸員）	工芸技術（主に陶芸分野）に関する研究
23	宮田繁幸（東京福祉大学大学院特任講師）	ユネスコ無形文化遺産条約に関わる調査研究および情報収集
24	神野知恵（東京藝術大学音楽科専門研究員）	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
25	吉澤　望（東京理科大学理工学部建築学科教授）	新世代光源の展示照明としての適用条件検討
26	山内泰樹（山形大学大学院理工学研究科教授）	有期EL光源の展示照明への導入条件の検討
27	酒井清文	文化財の伝統的修復に関する調査研究
28	大場詩野子	絵画修復を中心とした新規修復手法に関する調査研究
29	三浦定俊（公益財団法人文化財虫菌害研究所理事長）	文化財IPMに関する基礎研究および微生物の簡易モニタリング手法の応用研究についての助言・協力
30	藤井義久（京都大学大学院農学研究科教授）	木造建造物の生物被害対策の研究
31	間渕　創（三重県総合博物館学芸員）	文化財展示収蔵環境における微生物モニタリング
32	横山晋太郎	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
33	長島宏行（一般財団法人日本航空協会）	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
34	小堀信幸（公益財団法人日本海事科学振興財団船の科学館）	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
35	本多貴之（明治大学理工学部専任講師）	伝統的修復材料に関する分析調査研究
36	堤　一郎（茨城大学教育学部技術教育教室特任教授）	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
37	北原博幸（トータルシステム研究所代表）	空調設備に関する検討、保存環境に関する測定システムの構築
38	石﨑武志（東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター教授）	光と熱による物性への影響計測
39	呂　俊民	空気環境マニュアルの普及活動およびLED転換に伴う展示環境の影響に関する調査
40	山本記子（一般社団法人国宝修理装潢師連盟専務理事）	日本画修復に使用される材料および技法の研究
41	貴田啓子	日本における絵画の劣化要因に関する研究
42	岡田　健(独立行政法人国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進本部推進室長)	法隆寺金堂壁画をはじめとする文化財の科学分析調査
43	古田嶋智子	金属製文化財表面の腐食物質の発生原因となる、文化財を取り巻く空気の成分分析
44	石井美恵（佐賀大学芸術地域デザイン学部准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業、国際研修等に関わる文化財修復技術の研究
45	大河原典子（鎌倉女子大学専任講師）	在外日本古美術品保存修復協力事業の修復研究および技術移転の手法研究
46	杉山恵助（東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復手法研究、国際研修での技術移転方法に関する研究

【奈良文化財研究所】　51人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	山田　徹（同志社大学文学部助教）	近畿を中心とする古寺社等が所蔵する古文書・古典籍等の釈読・内容分析
2	林　良彦	受託調査等の調査・研究業務
3	小浦　久子（神戸芸術工科大学芸術工学部教授）	文化的景観の計画策定に関する研究
4	清水　重敦（京都工芸繊維大学教授）	文化的景観の価値の継承に関する研究
5	山口　敬太（京都大学大学院工学研究科准教授）	文化的景観の価値と地域デザインに関する研究
6	EDWARDS Walter Drew(中国科学院心理学研究所嘱託)	研究所刊行物等、国内外への研究論文の発信に関する指導
7	巽　淳一郎（京都橘大学文学部教授）	中国河南省文物考古研究所との共同研究「東アジアにおける生産遺跡の調査研究協力」に参加
8	難波　洋三	考古遺物の調査研究
9	浜田　拓志	文化遺産防災総合シミュレーション調査
10	中村　亜希子	遺跡探査のための三次元計測による位置決定及び計測技術と成果の連携に関する研究及び山内考古資料の整理
11	水野　裕史（筑波大学芸術系助教）	研究成果の情報整理を行い、コンテンツ作成、データ登録
12	渡辺　伸行（神戸市立大日丘児童館館長）	大規模災害の復興調査支援等への指導助言

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
13	羽生　淳子	研究所国際事業への指導助言
14	小林　謙一	遺跡及びその調査技術、文化財情報の蓄積に関する指導助言
15	綾村　宏（京都女子大学文学部教授）	興福寺典籍文書の調査研究
16	李　　暉	建造物研究室が実施する調査研究への参画・助言
17	小野　健吉（和歌山大学観光学部教授）	庭園史研究・遺跡整備研究についての指導・助言
18	青木　敬（國學院大學文学部准教授）	薬師寺東塔の発掘調査業務に関わる指導・助言
19	中川　二美（宗教法人東大寺境内史跡整備計画室研究員）	第一大極殿院の瓦に関する調査・研究
20	舘野　和己（奈良女子大学名誉教授）	木簡の整理・釈読等に関する指導・助言
21	黒田　洋子（奈良女子大学古代学学術研究センター協力研究員）	正倉院文書の文字画像データベース構築における研究協力及び助言
22	杉本　一樹（宮内庁正倉院事務所調査員）	都城発掘調査部史料研究室における木簡の整理・解読などに対する指導・助言
23	窪寺　茂（建築装飾技術史研究所長）	第一次大極殿院の彩色・塗装に関する調査・研究
24	深澤　芳樹	学報の編集作業に携わり、歴史考古学の観点からの助言
25	黒羽　亮太（日本学術振興会特別研究員）	学報及び木簡関連刊行物の編集作業に携わり、日本古代史の観点からの助言
26	上原　眞人（公益財団法人辰馬考古資料館長）	都城発掘調査部考古第一研究室の出土木器整理、研究及び出土木器の資料集作成にむけた指導、助言
27	肥塚　隆保	古墳壁画の保存修理業務
28	佐藤　昌憲（京都工芸繊維大学名誉教授）	繊維文化財の調査研究
29	北田　正弘	考古遺物等の調査分析
30	澤田　正昭（東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター長）	考古遺物及び遺跡の保存科学に関する調査研究
31	小椋　大輔（京都大学大学院工学研究科教授）	文化財の保存展示環境の研究
32	大賀　克彦（奈良女子大学古代学学術センター特任講師）	古代における玉類の生産と流通に関する調査研究
33	辻本　與志一（株式会社文化財保存）	古墳壁画の保存修理業務
34	福永　香（国立研究開発法人情報通信研究機構電磁波研究所電磁波応用総合研究室上席研究員）	文化財の非破壊診断調査
35	青木　政幸（公益財団法人辰馬考古資料館学芸員）	考古遺物の調査
36	丸山　真史（東海大学海洋学部講師）	遺跡出土資料の指導助言・調査分析
37	菊地　大樹（日本学術振興会特別研究員PD）	遺跡出土資料の分析、骨格標本の収集と公開
38	茂原　信生（京都大学名誉教授）	遺跡出土人骨の指導助言と調査分析
39	大江　文雄	遺跡出土資料の指導助言、調査研究
40	上中　央子	微化石の調査研究、花粉分析
41	中橋　孝博（九州大学名誉教授）	遺跡出土人骨の指導助言
42	光谷　拓実	年輪年代学及び木材解剖学に関する研究
43	伊東　隆夫（京都大学名誉教授）	木材組織学に関する研究
44	藤井　裕之	年輪年代学に関する研究
45	児島　大輔（大阪市立美術館学芸員）	美術史（仏教美術・東洋美術）及び年輪年代学に関する研究
46	山中　敏史	遺跡データベースの内容の検討に関する研究
47	西村　康（財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長）	遺跡探査の計測技術と成果の活用に関する研究
48	西口　和彦（有限会社桜小路電気代表取締役社長）	遺跡探査の計測技術と成果の活用に関する研究
49	狭川　真一（財団法人元興寺文化財研究所副所長）	元興寺文化財研究所との連携を通じ、遺跡情報及び研究手法に関する研究
50	小澤　毅（三重大学人文学部教授）	遺跡の計測技術と成果の活用に関する研究
51	野口　淳（NPO法人南アジア文化遺産センター事務局長）	遺跡の三次元計測技術と成果の連携に関する研究

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0人

d ウェブサイトアクセス件数

平成30年3月31日現在

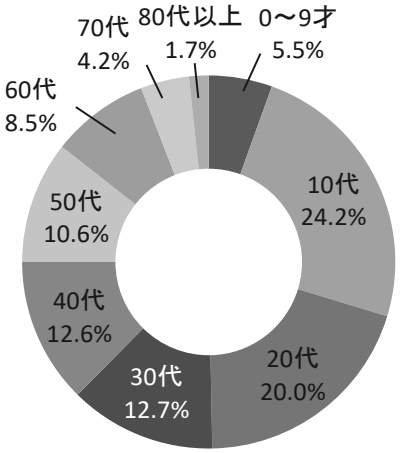
	H25	H26	H27	H28	H29
国立博物館計	6,564,190 (※1)7,449,050	10,236,963 (※1)10,917,717	13,226,289 (※1)13,929,248	13,053,220	15,795,489
東京国立博物館	2,898,885 (※1)3,783,745	4,248,437 (※1)4,929,191	6,724,460 (※1)7,427,419	6,433,867	7,014,006
京都国立博物館	1,562,480	2,964,705	3,172,381	3,334,335	5,788,678
奈良国立博物館	893,553	1,196,669	1,112,057	1,167,926	1,385,404
九州国立博物館	1,209,272	1,827,152	2,217,391	2,117,092	1,607,401
文化財研究所計	1,857,638 (※1)1,904,215	2,128,972 (※1)2,412,619	2,546,715 (※1)3,707,015	7,558,441	14,224,921
東京文化財研究所	1,410,075	1,603,086	1,941,504	2,567,780	3,337,734
奈良文化財研究所	447,563 (※1)494,140	525,886 (※1)809,533	605,211 (※1)1,765,511	4,990,661	10,887,187
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	5,454	6,200	7,504	7,856	9,469
機構本部	283,412	325,132	292,721	220,638	272,228
e国宝	1,676,762	1,515,442	1,788,265	2,854,622	3,605,534
国立博物館所蔵品統合検索システム(ColBase)	―	―	―	6,452	26,914
文化財防災ネットワーク	―	―	102,574	62,004	75,375

・アクセス件数の単位は、ユーザーセッション数である。
・文化財防災ネットワークは平成27年3月よりサイトを開設、同年4月よりアクセス件数のカウントを開始した。
・28年度より、東京国立博物館及び奈良文化財研究所の数値には、データベースのアクセス件数を含めている。27年度以前の下段※1の数値は、上段の本体サイトアクセス件数にデータベースアクセス件数を含めた数値。(他施設は、27年度以前からデータベースのアクセス件数を含む。)

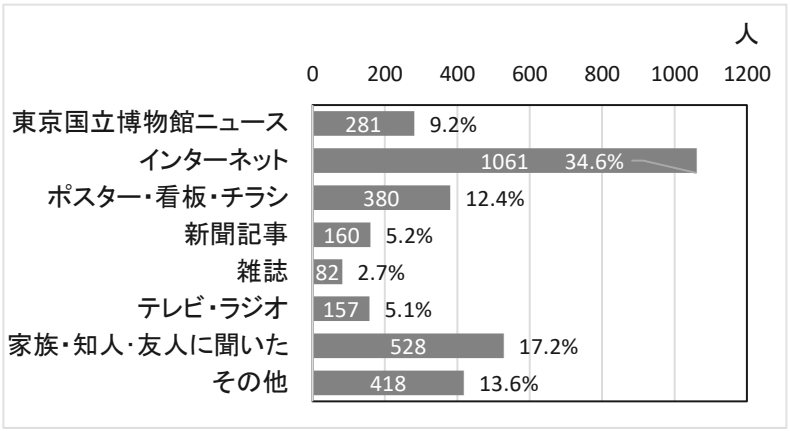
平常展（総合文化展）
アンケート集計結果

開催期間: 平成29年4月1日(土)～平成30年3月31日(土) 開館日数:312日間
回答者数: 2,041人(うちタッチパネルアンケート回答者数:213人＜0.1%＞)
来館者数: 1,030,180人
アンケート回収率: 0.19%

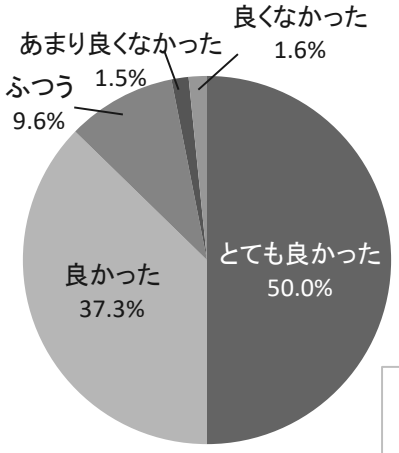
①アンケート回答年齢層



②認知経路 （複数回答）

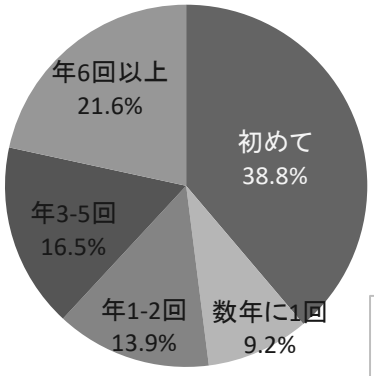


③展示に関する満足度



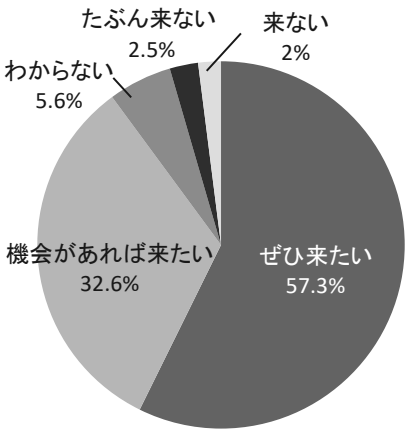
上位合計 87.3%

④来館頻度



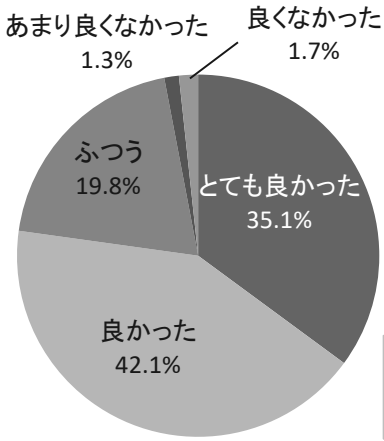
上位合計 48.0%

⑤再来館希望率



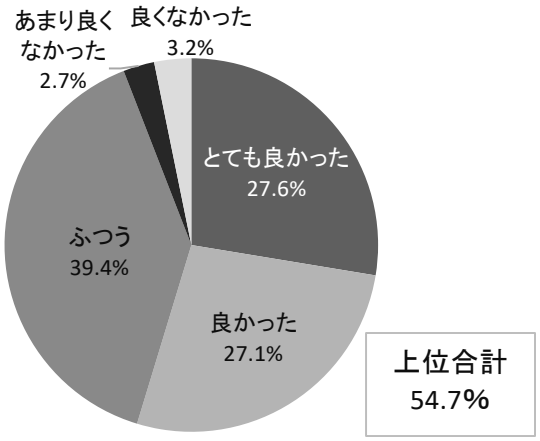
上位合計 89.9%

⑥ミュージアムショップに対する満足度

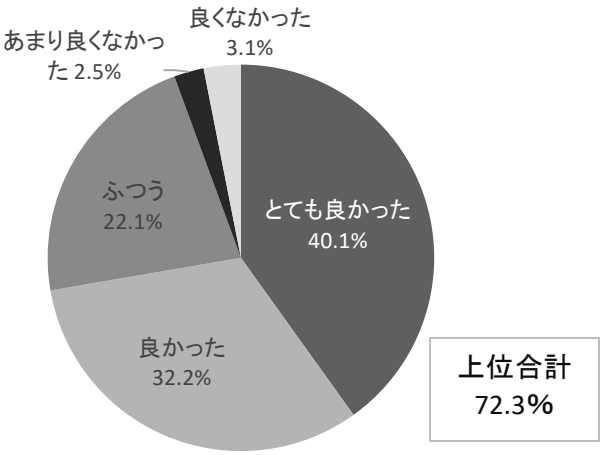


上位合計 77.2%

⑦レストランに対する満足度



⑧館内スタッフの対応について

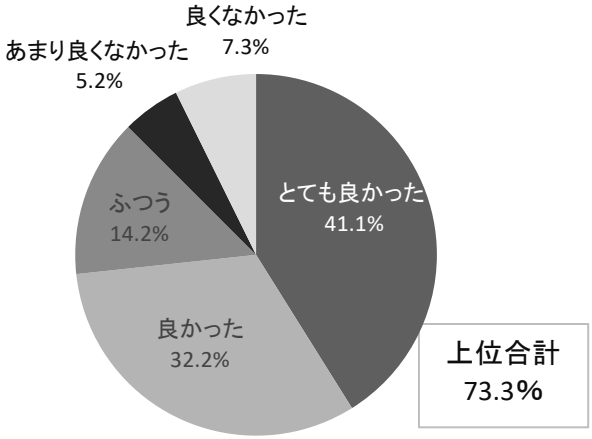


主な意見・感想

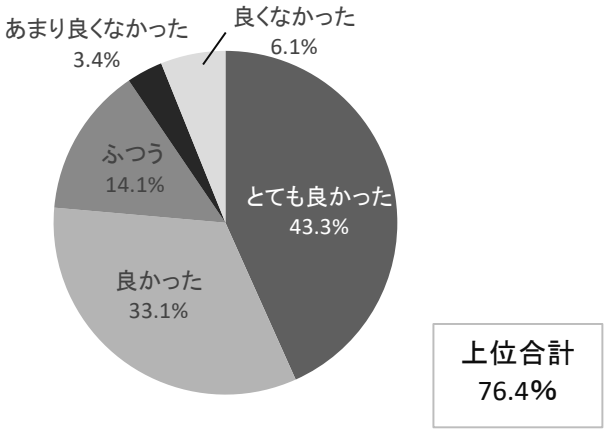
・作品の数が適度で見やすかった。
・刀剣の展示が増え、名品を見られる機会が増えて良かった。
・夜間開館が増えて静かな環境で見ることができて良かった。
・ボランティアやスタッフの案内が親切で良かった。
・展示作品がこんなにも多いことは嬉しい反面、もっとそのことを広報するべきではないか。
・作品を写真撮影できるのがよい反面、表示がわかり難く撮影禁止のものまで撮られている。
・ショップに刀剣のポストカードをもっと増やしてほしい。
・夜間開館の時にトイレが汚れている。

《外国人アンケート集計結果》
回答者数：410人

1．（外国人アンケート）施設の案内・説明・看板



2．（外国人アンケート）展示のパネル、キャプション



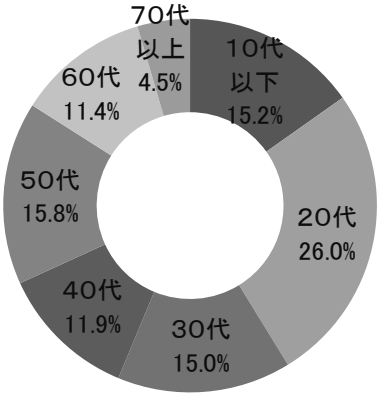
主な意見・感想

・浮世絵のパンフレットがわかりやすくよかった。
・茶道具について、写真やビデオ映像で実際の使い方がわかると嬉しい。
・日本語解説に比べ外国語解説の文量が少なすぎる。
・HPの記載が日本語に比べ内容が薄い（特に英語以外の言語）。
・文字が小さ過ぎて読み難い。

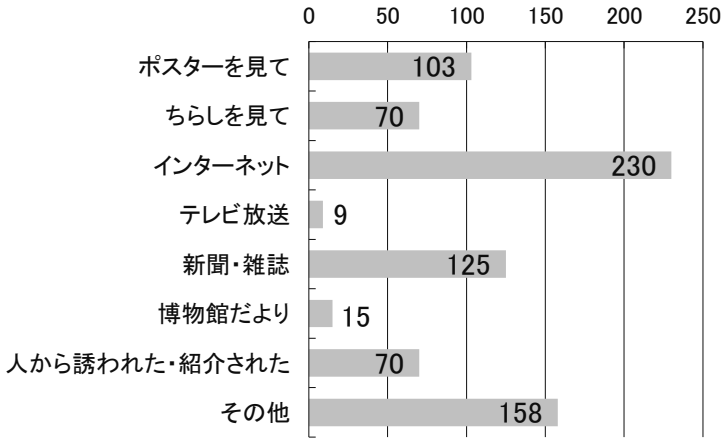
平常展（名品ギャラリー）
アンケート集計結果

開催期間：平成29年6月13日（火）～平成30年3月18（日）　開館日数：150日間
回答者数：737人
来館者数：136,581人（平常展開催期間のみ）
アンケート回収率：0.5%

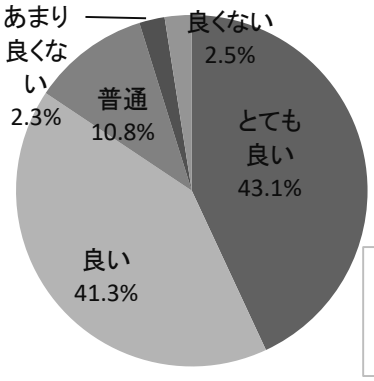
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）

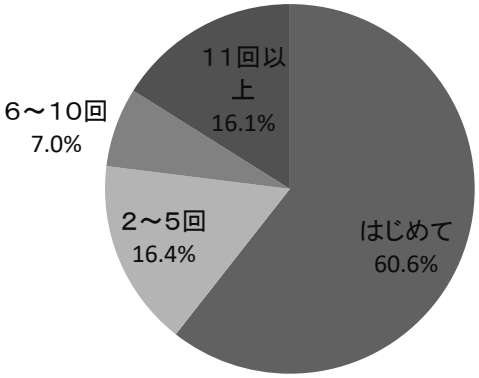


③展示に関する満足度



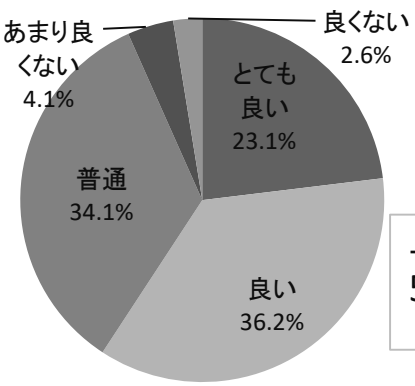
上位合計 84.4%

④来館頻度



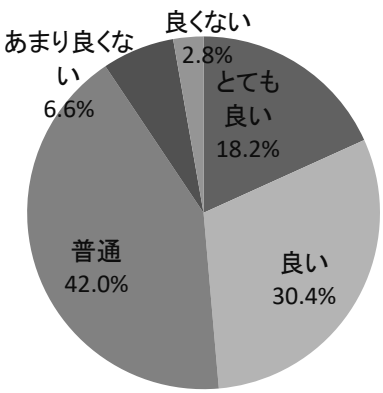
上位合計 77.0%

⑤ミュージアムショップに対する満足度（29年度）



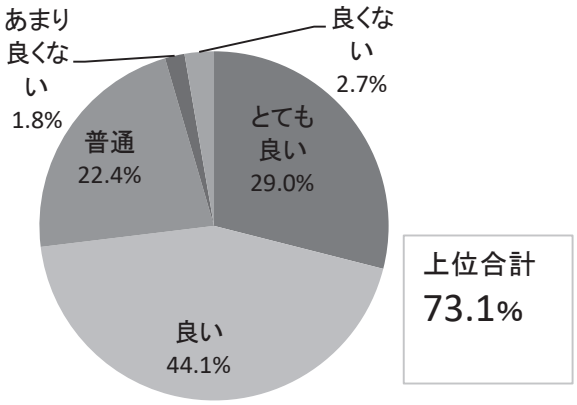
上位合計 59.2%

⑥レストランに対する満足度（29年度）



上位合計 48.6%

⑦館内スタッフの対応について（29年度）

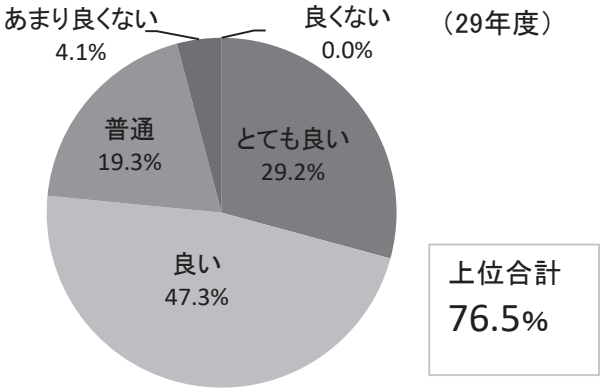


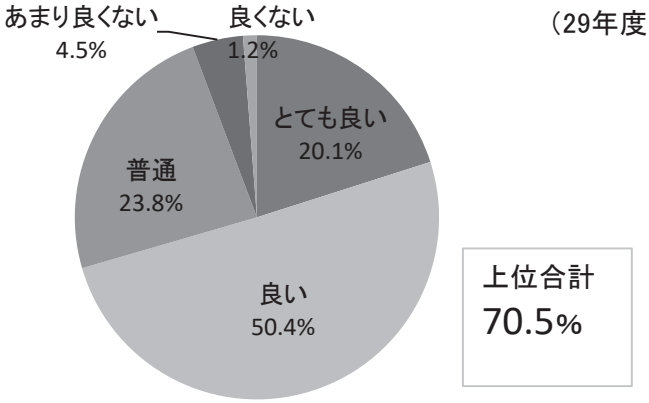
主な意見・感想

・また来館したい
・展示作品が幅広い
・展示数が少ない
・展示室が暗い
・解説が分かりやすい
・解説の字が小さい

《外国人アンケート集計結果》
回答者数：184人

1.（外国人アンケート）施設の案内・説明・看板について　2.（外国人アンケート）展示のパネル、キャプションについて





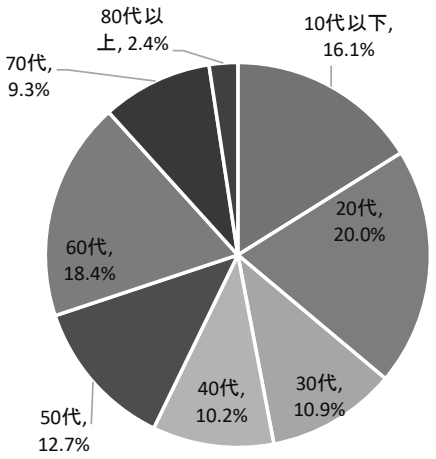
主な意見・感想

・英訳の解説を増やしてほしい
・詳しく記載してほしい

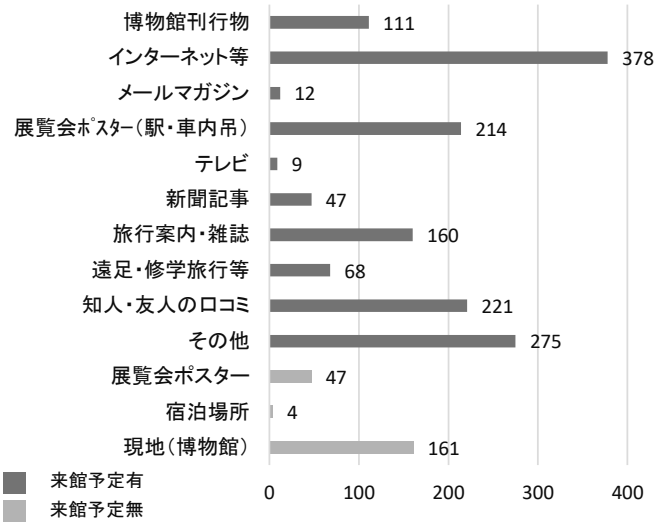
平常展（名品展）
アンケート集計結果

開催期間：平成29年4月1日(土)～平成30年3月31日(土)　開館日数：321日間
回答者数：1,760人（来館者数：135,776人　アンケート回収率：1.31%）

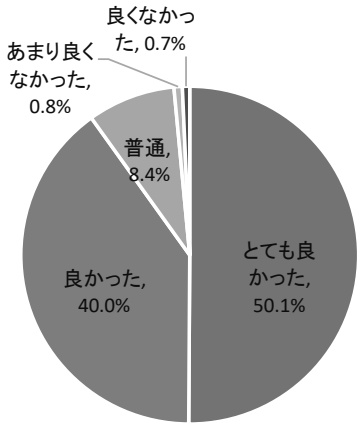
①年齢層



②認知経路（複数回答）

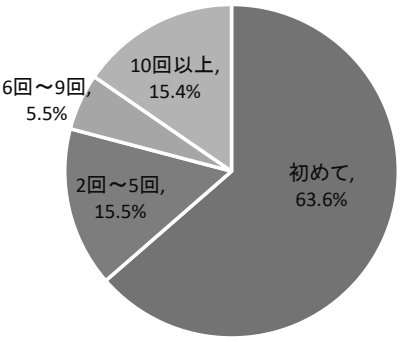


③展示に関する満足度



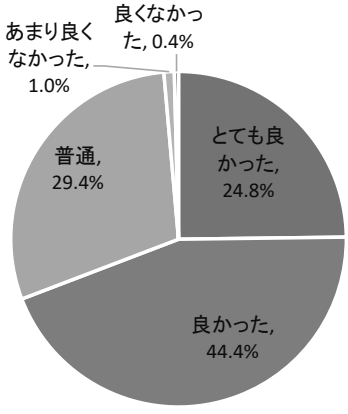
上位合計
90.1%

④来館頻度



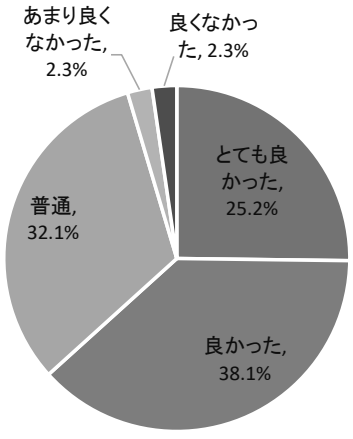
上位合計
79.1%

⑤ミュージアムショップに対する満足度



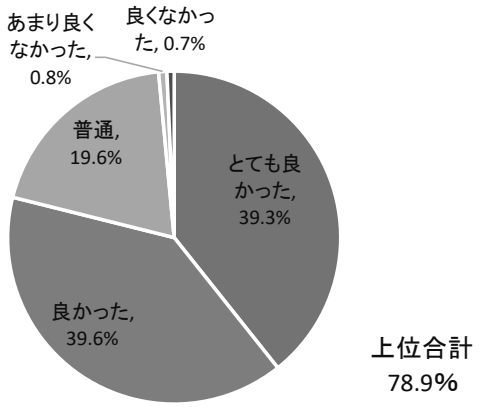
上位合計
69.2%

⑥レストランに対する満足度



上位合計
63.3%

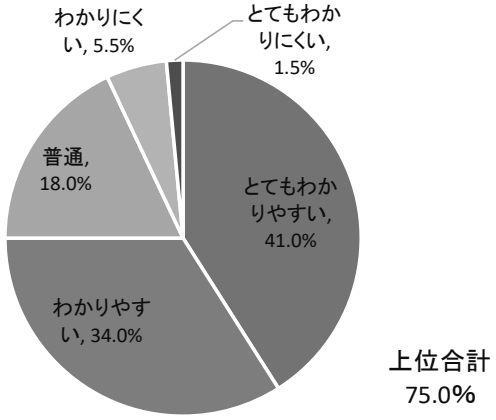
⑦スタッフ対応に関する満足度



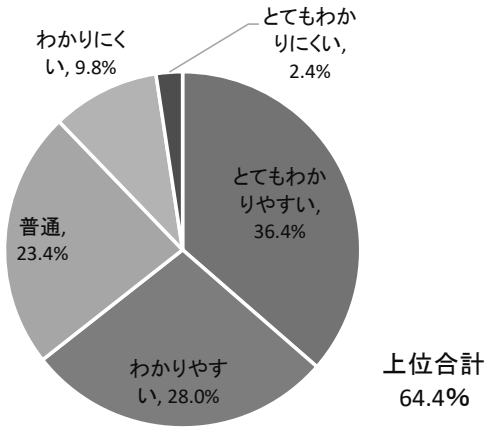
⑧主な意見・感想
・改装後照明が変わったためか仏像の細部や色彩が鮮やかに見え、見慣れた仏像が別物のように見えて感激しました。
・たくさんの仏像を見ることができて、心が落ち着きました。
・寺などでは照明も暗く、近づくこともできず、細部まで鑑賞できない。ここでは詳細を見れて満足した。
・ガラスケースの反射がおさえられて見やすかった。
・ボランティアガイドの方の説明が、親切で行き届いており、ありがたかった。
・キャプション位置が低く、読みにくい。

《外国人アンケート集計結果》
回答者数：562人

1.（外国人アンケート）
施設の案内・説明・看板について



2.（外国人アンケート）
展示のパネル・キャプションについて

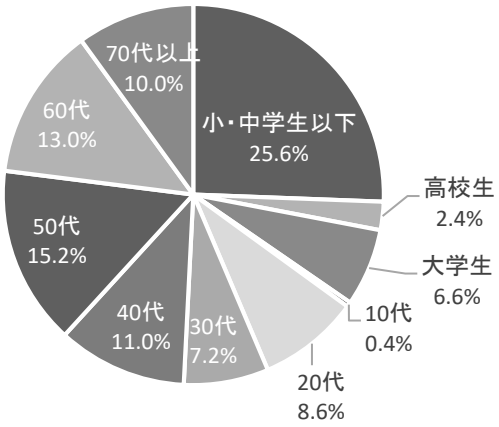


主な意見・感想
・多くの言語での説明がされていて、情報内容も良かった。
・展示や題簽からたくさんのことを学ぶことができた。
・英語解説がもっとあれば、より充実したものになっていただろうと思います。
・なぜ展示物が日本にとって大切なのかを外国人にわかるように基本的な説明がもっとあっていい。
・オーディオガイドの説明は良かったが、もっと情報を加えるべき。
・もし可能であれば、展示室に中国語の解説を増やしてください。

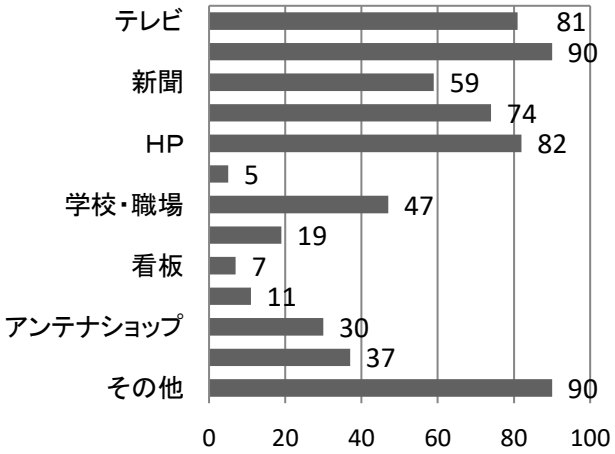
文化交流展　アンケート集計結果

開催期間：平成29年4月1日(土)～30年3月31日(土)　　開館日数:308日間
回答者数：550人　来館者数：350,848人　アンケート回収率：0.16%

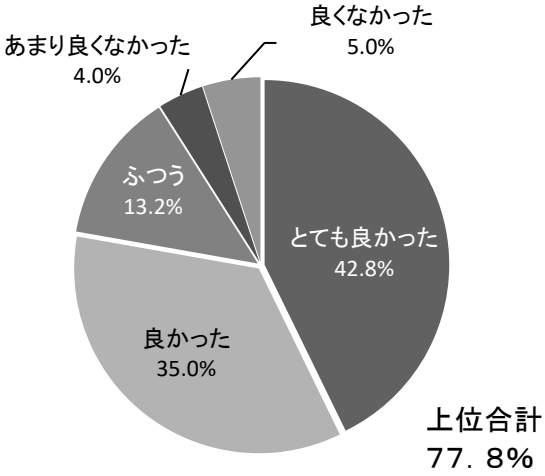
①年齢層



②認知経路（複数回答）

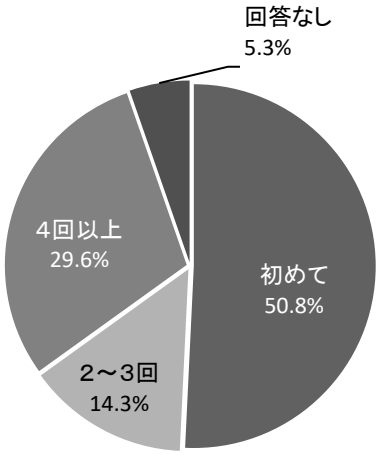


③展示に関する満足度

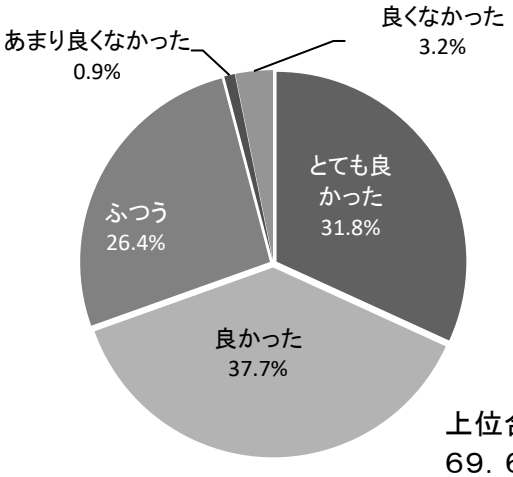


上位合計
77．8%

④来館頻度

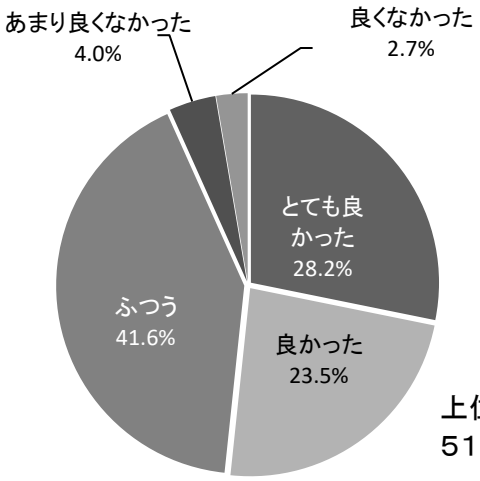


⑤ミュージアムショップに対する満足度



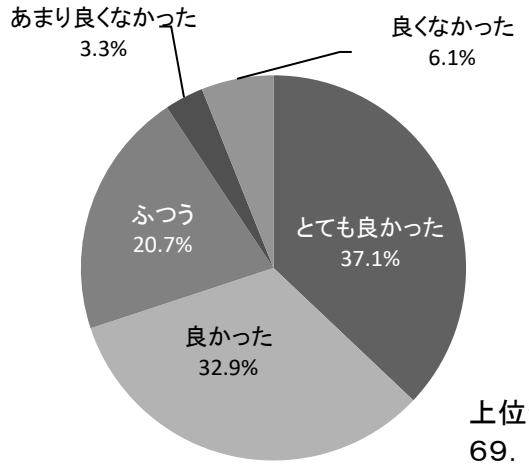
上位合計
69．6%

⑥レストランに対する満足度



上位合計
51．7%

⑦館内スタッフの対応について

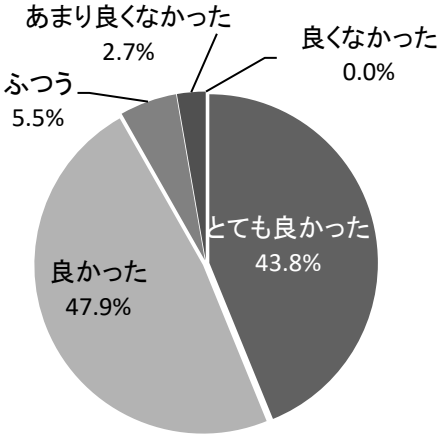


上位合計
69．9%

主な意見・感想
・ボランティアの解説が詳しく、とても勉強になった。
・「名品にみる茶の湯の歴史と高取焼」の展示内容が大変充実していてよかった。
・ソフトバンクホークスの王会長寄贈の刀が見れてよかった。
・九州の博多にすばらしい禅僧がいたことをはじめて知った。博多の人間は皆仙厓さんを知らなければもったいない。
・展示室内に監視員が多く、常に監視されているようでゆっくり見れない。
・他の国立博物館は写真撮影ができるのに、九博はなぜできないのか理由を教えてほしい。
・平常展の見所が多く、充実していると感じた。しかし順路がわかりにくくて苦労した。

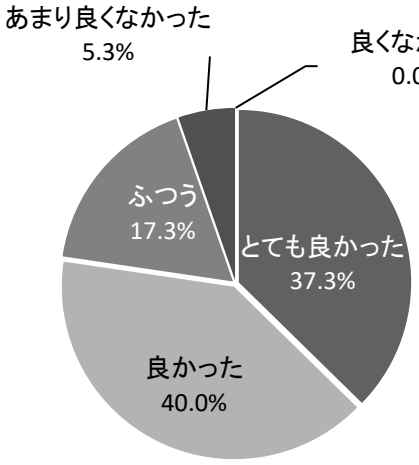
《外国人アンケート集計結果》
回答者数:87人

1．（外国人アンケート）施設の案内・説明・看板について



上位合計
91．8%

2．（外国人アンケート）展示のパネル・キャプションについて



上位合計
77．3%

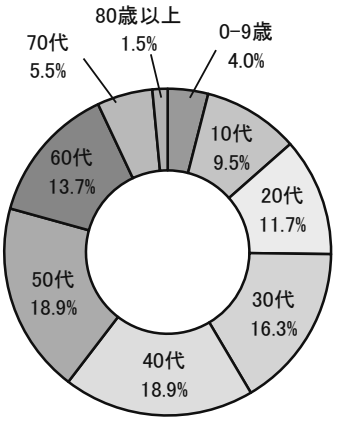
主な意見・感想
・この博物館は九州、福岡の人々にとって財産となるものである。
・素晴らしい展示でした。
・英語での明確な施設案内ありがとう。九州の歴史、特に伊万里焼が気に入った。友人にも薦めたいし、また来たい。
・文化交流展示の触れる展示が楽しめたので、もっと増えたら素晴らしいと思う。
・九博にこんなに多くの中国の遺物があるのが不思議である。
・文化財の出土した国をちゃんと明確に書いてほしい。
・陶磁器等この博物館の展示に興味があるのに、日本語で書かれている細かい説明がわからない。
英語での説明を増やしてほしい。
・もっと浮世絵の展示があればいいのに。

特別展「茶の湯」

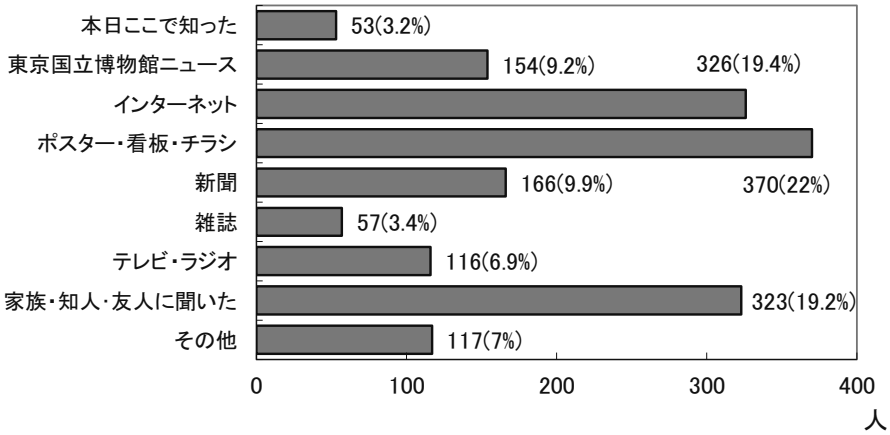
アンケート集計結果

開催期間：平成２９年４月１１日（火）～６月４日（日）（４９日間）
回答者数：１，１８５人（総入館者数：２４５，７９５人　アンケート回収率：０．４８%）

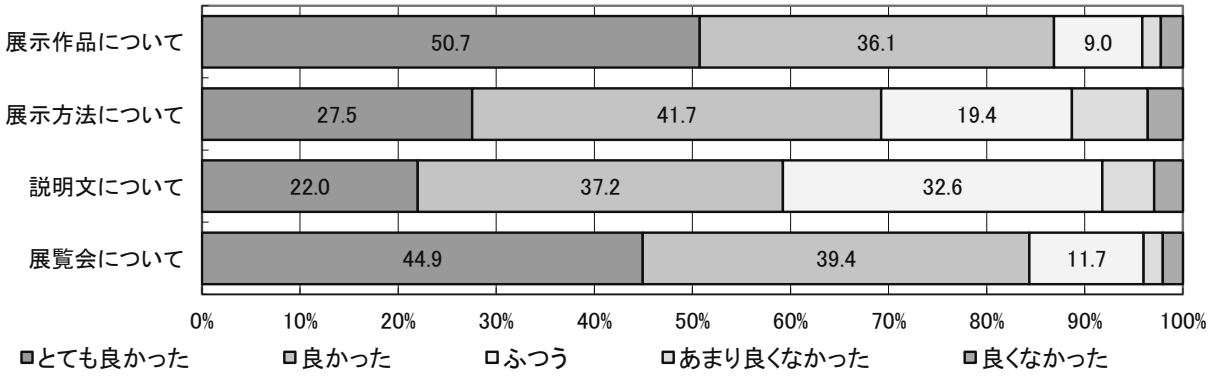
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・様々な茶道具を堪能した。歴史的な展覧会を見ることができた。
・国宝「曜変天目 稲葉天目」をはじめ、名碗が一堂に揃い見応えがあった。
・会期中に庭園の転合庵も観覧できたことがよかった。
・落語に出てくる作品が多くあり、音声ガイド役の春風亭昇太さんは適任だった。
・東京国立近代美術館とコラボ企画を利用し、シャトルバスで二展を鑑賞できた。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	1.9	2.2
展示方法	7.8	3.6
説明文	5.3	2.9
展覧会	2.0	2.0

（%）

日本文化の象徴であり、真髄というべき「茶の湯」。本展は、室町時代から近代まで、その発展の歴史をたどる特別展として行われ、名だたる武将や茶人が手にした名物や、時代を象徴する茶湯道具が一堂に会しました。最終章では、藤田香雪、益田鈍翁、平瀬露香、原三渓の四人の近代数寄者に焦点をあて、現代にも通じるその個性豊かな茶の世界をご堪能いただく機会となりました。「茶の湯」をテーマにこれほどの名品がお目見えするのは、1980年（昭和55）に当館にて開催された「茶の美術」展以来37年ぶりとなり、本展には約25万人の方々にご来館いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して84.3%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「茶器の底の花押や、裏、内側も見せてほしかった」、「混雑していて良く見られなかった」などのご意見も寄せられました。

今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

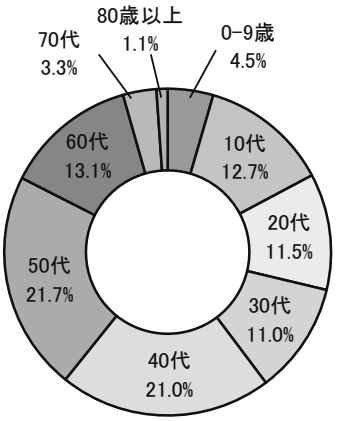
東京国立博物館

日タイ修好130周年記念特別展「タイ　～仏の国の輝き～」

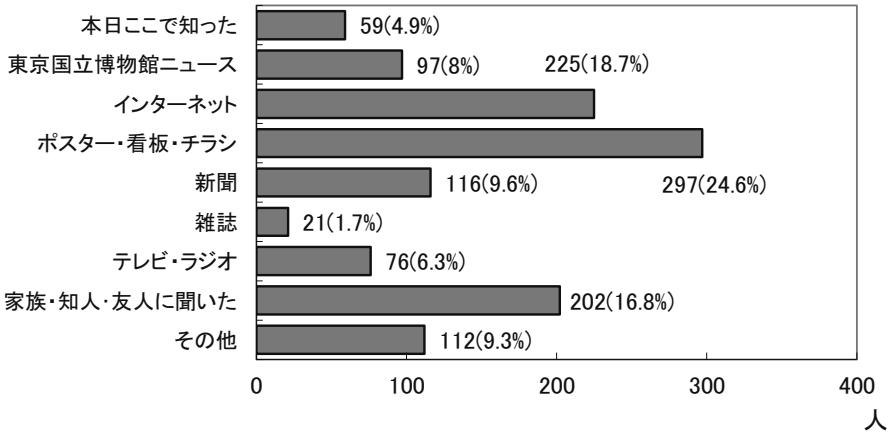
アンケート集計結果

開催期間：平成２９年７月４日（火）～８月２７日（日）（４９日間）
回答者数：９０４人（総入館者数：１１６，１００人　アンケート回収率：０．７８%）

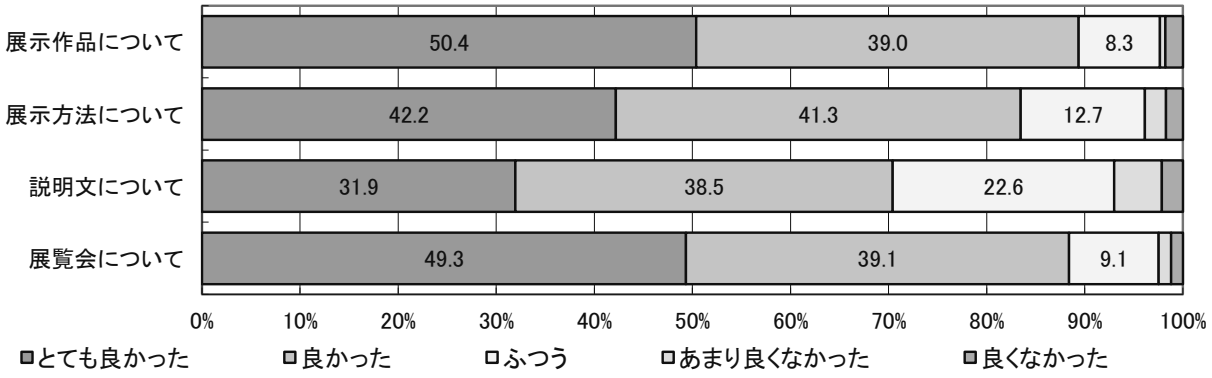
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・ナーガ上の仏陀坐像など微笑みを浮かべた仏像たちに癒された。
・ラーマ2世王作の大扉は圧巻の見ごたえだった。撮影もできて嬉しかった。
・タイ仏教についての解説が非常にわかりやすく、展示への関心が高まった。
・タイ曜日占いが面白かった。販売していた占いグッズも選ぶのが楽しかった。
・四か国語対応ができていてとても良かった。タイ語があればより良いのでは。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	0.6	1.8
展示方法	2.2	1.7
説明文	4.9	2.1
展覧会	1.3	1.2

（%）

今年（2017年）は日タイ修好130周年にあたります。本展はこの節目の年に修好記念事業として開催しました。タイは国民の95%が仏教を篤く信仰する仏教国です。仏教は、ひとびとの日々の暮らしに寄り添い、長い歴史の中で多様な仏教文化が花開きました。重厚で独特な趣を宿した古代彫刻群、やわらかな微笑みをたたえる優美な仏像たち、仏塔に納められたまばゆいばかりの黄金の品々や、仏教の宇宙観にもとづき荘厳（しょうごん）された仏堂の輝きなど独自の文化を今に伝えています。

タイ王国門外不出の名宝と、選りすぐりの仏教美術の数々を一堂に集め、仏教がタイの文化形成に果たした役割をひもといていった本展には約12万人の方々にご来館いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して88.4%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「冷房が効きすぎて寒い」、「夏休み期間中なので子供用ワークシートがあるとよかった」などのご意見も寄せられました。

今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

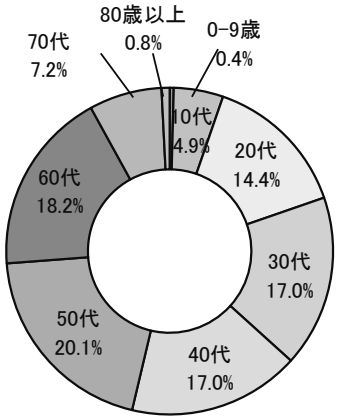
東京国立博物館

特別展「フランス人間国宝展」

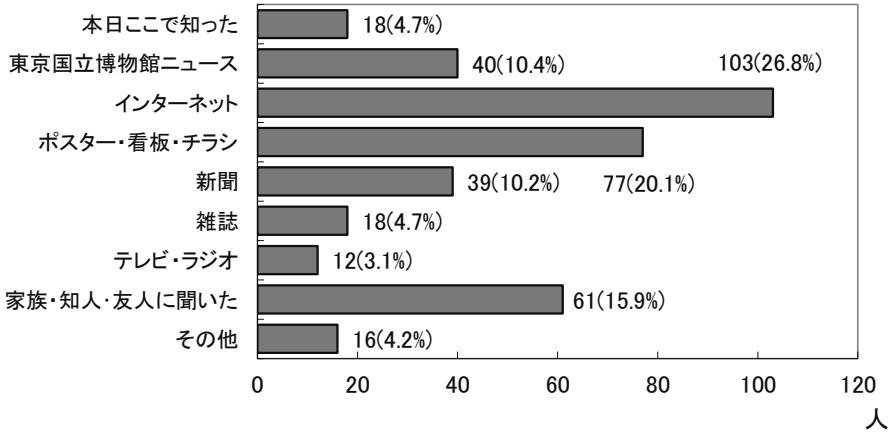
アンケート集計結果

開催期間：平成２９年９月１２日（火）～１１月２６日（日）（６７日間）
回答者数：２８９人（総入館者数：７０，１９２人　アンケート回収率：０．４１％）

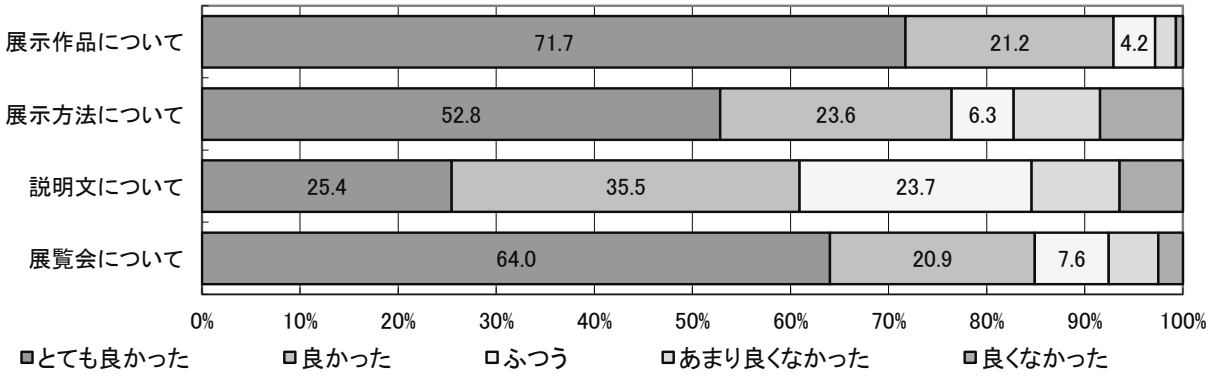
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	2.1	0.7
展示方法	8.8	8.5
説明文	9.0	6.5
展覧会	5.0	2.5

（%）

④主な意見・感想

・展示会場入口の映像コーナーで職人の技巧がうかがえてとてもよかった。
・作品が会場の雰囲気と非常に合っていた。
・作品の近くまで寄ることができ、じっくり鑑賞することができた。
・作品名称がどこに書いてあるのかわからなかった。
・もっと伝統技法・工芸についての説明があれば、なお理解が進んだのではない

フランス人間国宝（メートル・ダール／Maître d' Art）は、日本の人間国宝（正式名称 重要無形文化財の保持者）認定にならい、伝統工芸の保存・伝承・革新を旨として、フランス文化省により1994年に創設されました。本展は、この「メートル・ダール」の認定を受けた13名の作家と、まだ認定はされていないものの、素晴らしい作品を制作している2名、合計15名の作家を紹介する世界初の展覧会であった。本展には約7万人の方々にご来館いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して84.9%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「会場内が全体的に暗すぎた」、「もっと講演会やワークショップががあるとよかった」などのご意見も寄せられました。

今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

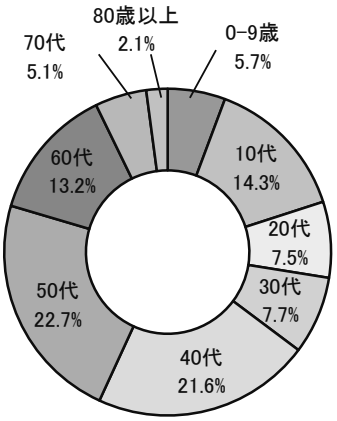
東京国立博物館

興福寺中金堂再建記念特別展「運慶」

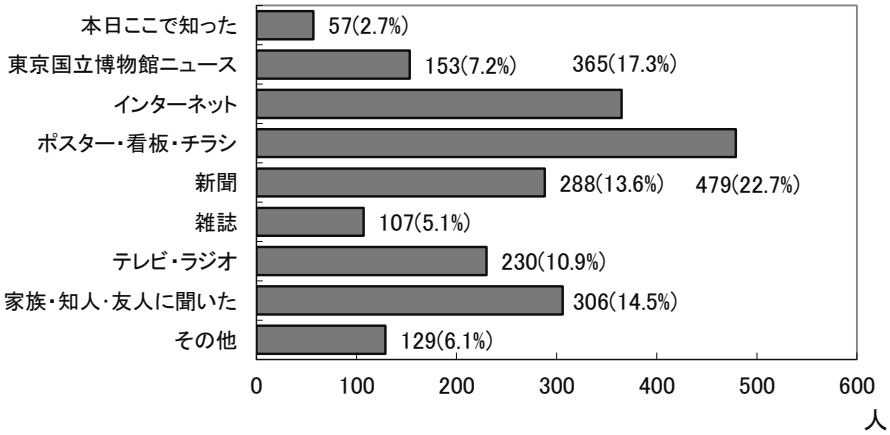
アンケート集計結果

開催期間：平成２９年９月２６日（火）～１１月２６日（日）（５５日間）
回答者数：１，２５７人（総入館者数：６００，４３９人　アンケート回収率：０．２１%）

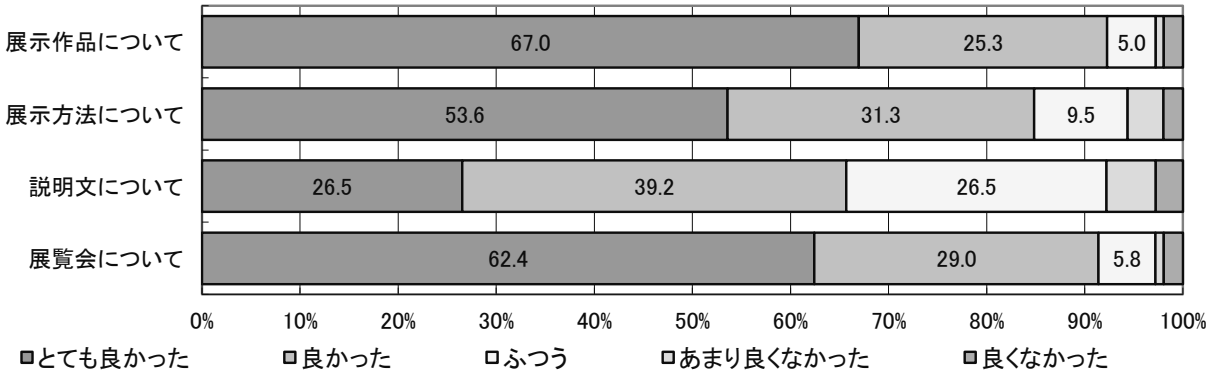
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・運慶、慶派の作品を一堂に見ることができよかった。
・四方から見ることができ、全体を丁寧に作像されていることがよくわかった。
・この展示のおかげで「仏像はとてもかっこいい美術品なのだ」と、今まで関心のなかった仏像に深く関心を持つことができた。
・混雑時に音声ガイドを聞くために長時間立ち止まる観覧者がいたため、観賞の妨げとなった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	0.8	1.9
展示方法	3.6	2.0
説明文	5.0	2.8
展覧会	0.9	2.0

（%）

日本で最も著名な仏師・運慶。卓越した造形力で生きているかのような現実感に富んだ仏像を生み出し、輝かしい彫刻の時代をリードしました。運慶の父・康慶、実子・湛慶、康弁ら親子3代の作品を揃え、運慶の作風の樹立から次代の継承までをたどりました。運慶とゆかりの深い興福寺をはじめ各地から名品を集めて、その生涯の事績を通覧した本展には60万人を超えるの方々にご来館いただきました。

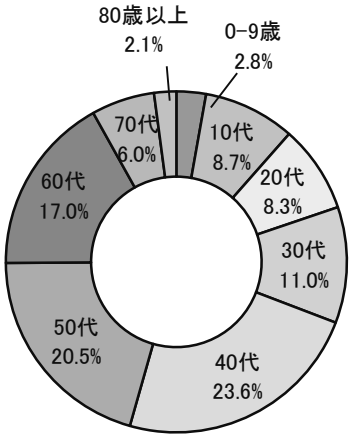
アンケートの結果、展覧会に対して91.4%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「人が多すぎてパネルが見えにくかった」、「休憩するスペースが少なすぎた」などのご意見も寄せられました。

今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

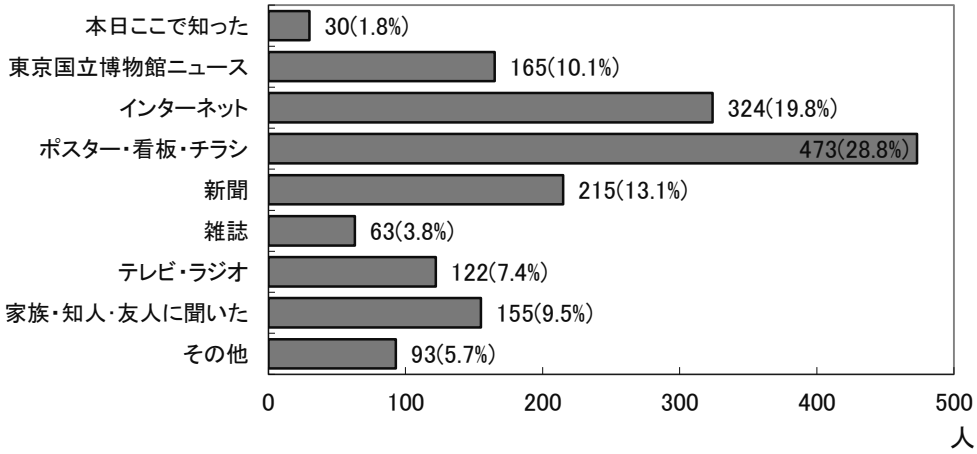
特別展「仁和寺と御室派のみほとけ―天平と真言密教の名宝―」
アンケート集計結果

開催期間：平成３０年１月１６日（火）～平成３０年３月１１日（日）（４８日間）
回答者数：１，０１７人（総入館者数：３２４，０４２人　アンケート回収率：０．３１％）

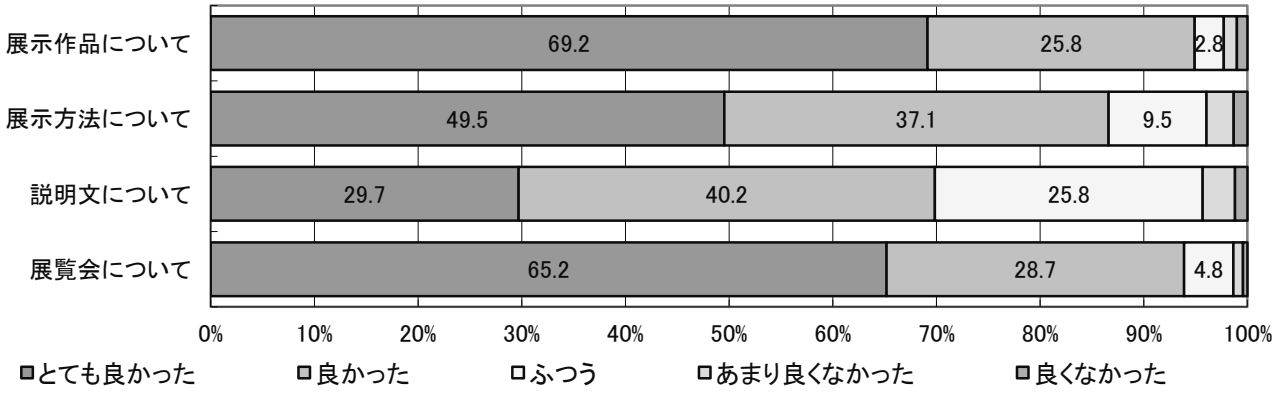
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・観音堂の再現が圧巻で、仁和寺をいつか訪ねたいと思った。
・秘仏と同じ空気を吸っていることが実感でき嬉しかった。
・天平と真言密教の皇室との深いつながりがよくわかった。
・光背の影が壁面に映し出されて本当にきれいだった。
・御室派の知らなかったお寺をたくさん知ることができた。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	0.9	0.4
説明文	3.1	1.2
展示方法	2.6	1.3
展示作品	1.3	1.0

（%）

御室桜で知られる仁和寺は、光孝（こうこう）天皇が仁和2年(886)に建立を発願し、次代の宇多天皇が仁和4年(888)に完成させた真言密教の寺院です。歴代天皇の厚い帰依を受けたことから、すぐれた絵画、書跡、彫刻、工芸品が伝わります。創建時の本尊である阿弥陀如来像（国宝）は、当時もっともすぐれた工房の作品です。また、高倉天皇宸翰消息（国宝）は皇室との深いかかわりを物語るものです。

仁和寺の寺宝のほか、仁和寺を総本山とする御室派寺院が所蔵する名宝の数々を一堂に紹介した本展には32万人を超える方々にご覧いただきました。

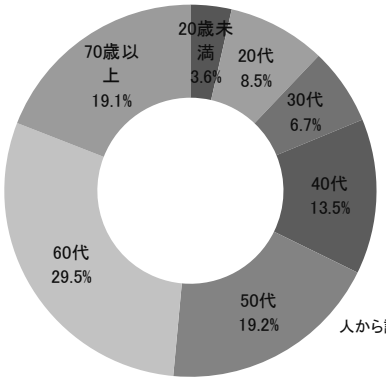
アンケートの結果、展覧会に対して93.9%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。その一方で「観音堂の撮影可能コーナーでシャッター音が気になって観覧に集中できなかった」、「宸翰が達筆すぎて書き下し文が無く何が書かれておるのか分からなかった」などのご意見も寄せられました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

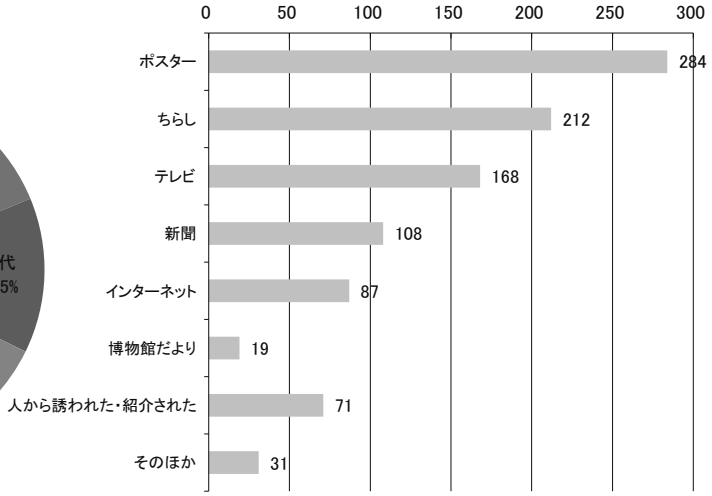
特別展覧会「海北友松」
アンケート集計結果

開催期間：平成29年4月11日（火）～ 5月21日（日）（37日間）
回答者数：724人（総来館者数　164,900人　アンケート回収 0.4%）

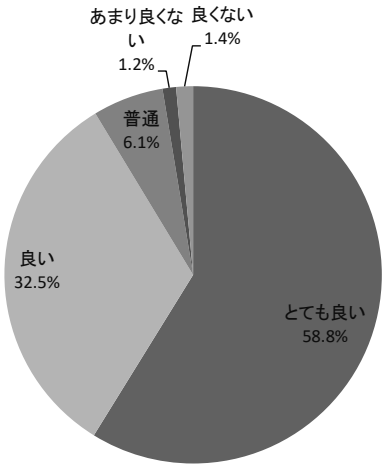
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
（とても良かった+良かった）
91.3%

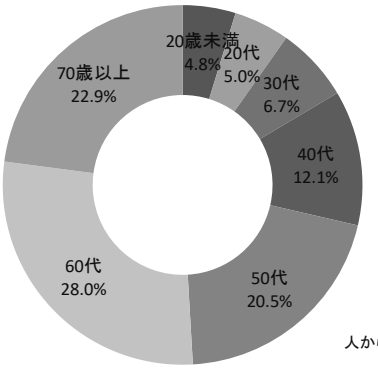
④主な意見・感想

・ゆったりと展示されている
・友松の変遷や人物交流がよく分かった
・展示作品が素晴らしい
・迫力があった

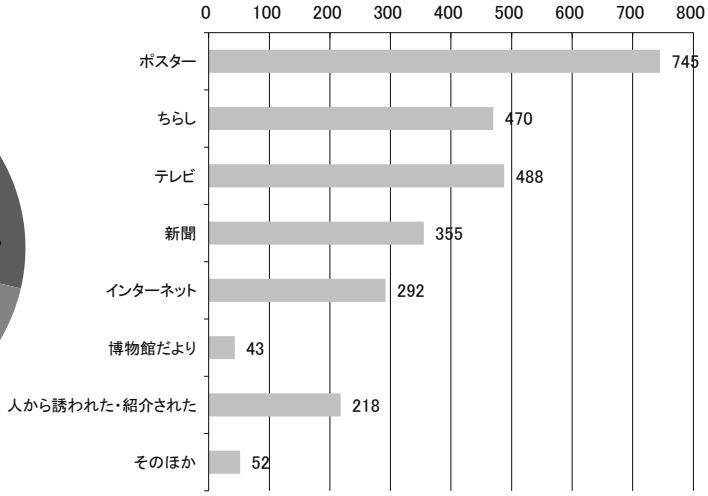
特別展覧会「国宝」
アンケート集計結果

開催期間：平成29年10月3日（火）～ 11月26日（日）（48日間）
回答者数：1,902人（総来館者数 624,493人　アンケート回収率 0.30 %）

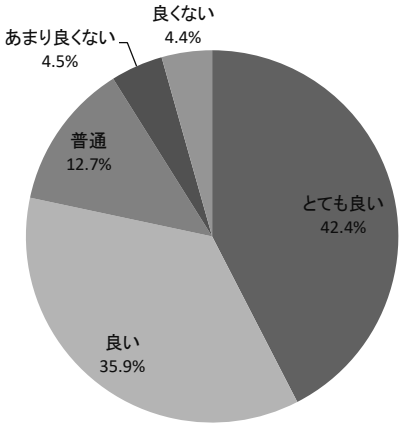
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
（とても良かった+良かった）
78.3%

④主な意見・感想

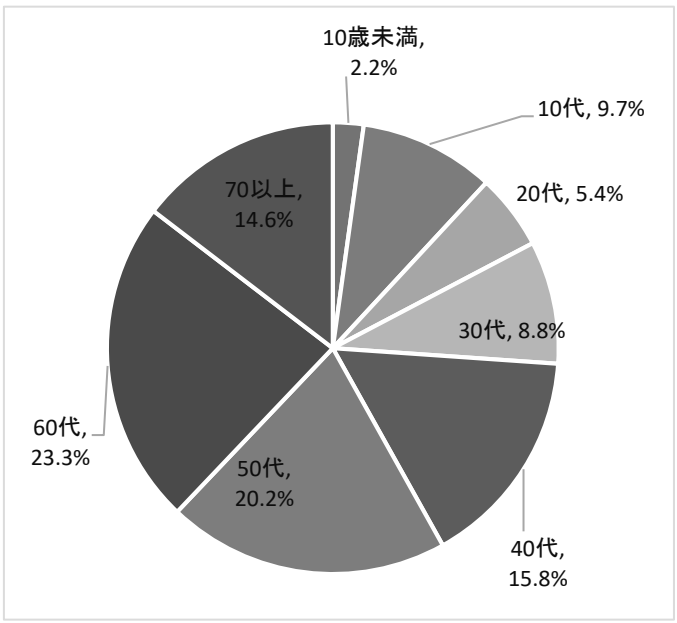
・一度に多くの国宝を鑑賞できた
・普段観られないものを観ることができた
・混雑し過ぎている
・混雑で見ることができない状態だった

特別展「快慶　日本人を魅了した仏のかたち」

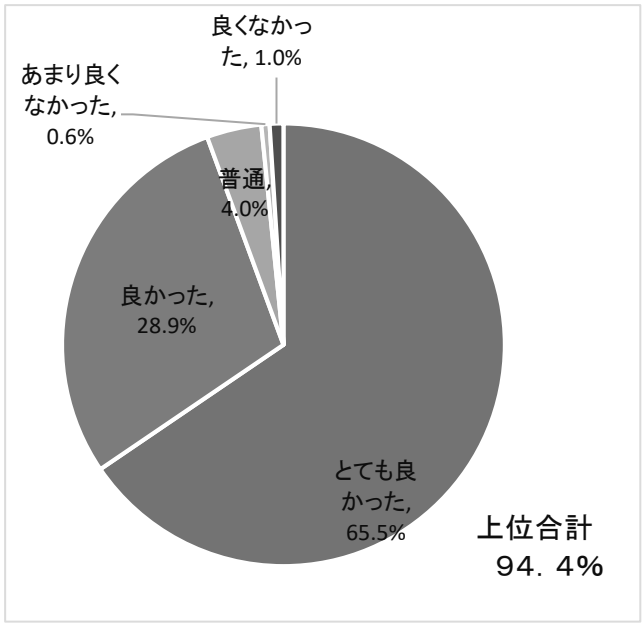
アンケート集計結果

開催期間：平成29年4月8日～6月4日(51日間)
回答者数：641人　入場者数：123,842人　回収率：0.52%

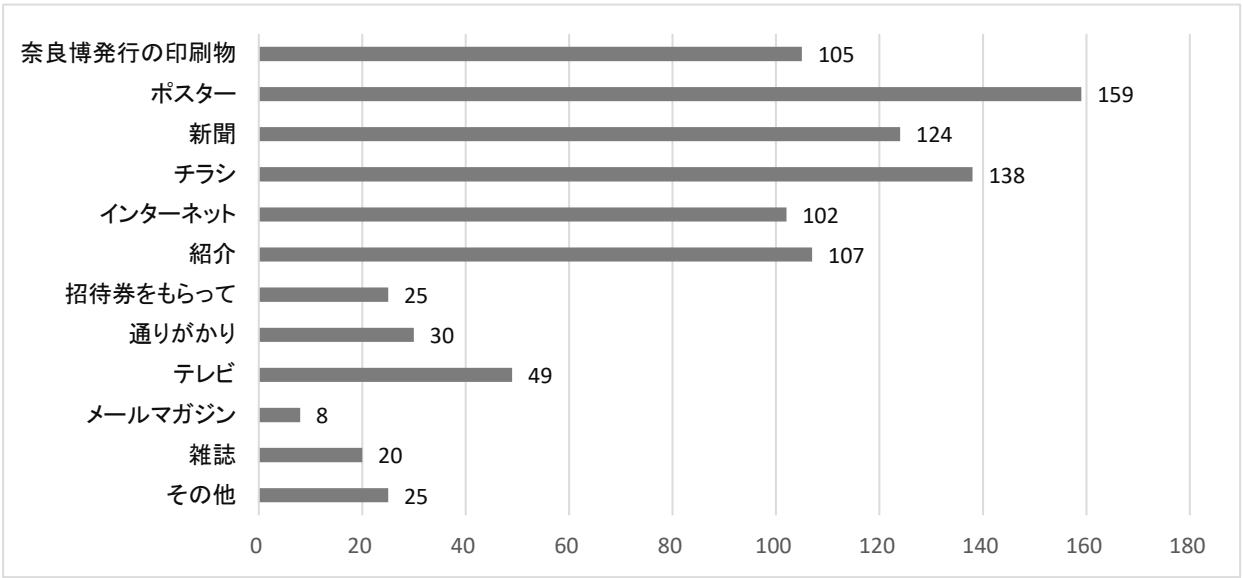
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答あり)



④主な意見・感想

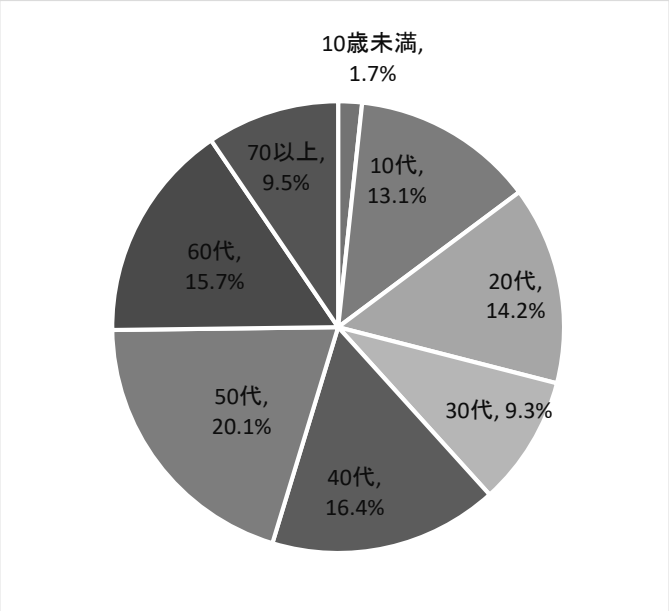
・これだけ多くの快慶作品を見ることができて大満足。圧巻でした。
・仏像を360度見ることができた。
・快慶の魅力が余すところなく展示していた。彼に焦点を当てていてよかった。
・快慶仏の全容を理解することができた。
・解説文が低い位置にあり読みづらかった。

特別展「源信　地獄・極楽への扉」

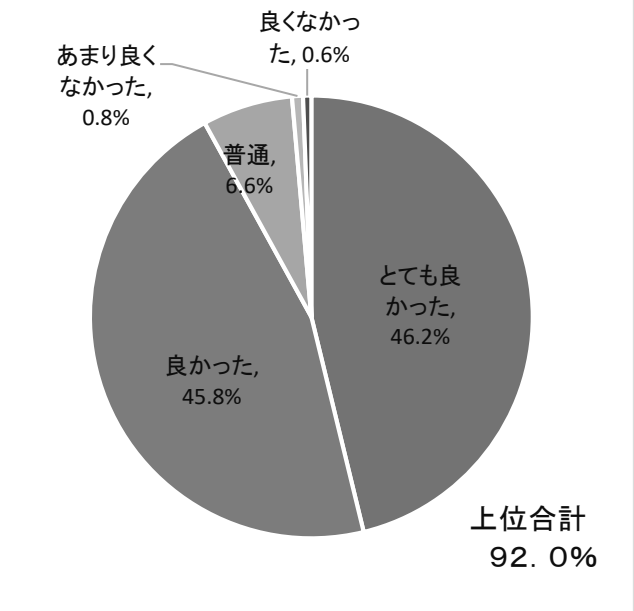
アンケート集計結果

開催期間：平成29年7月15日～9月3日(45日間)
回答者数：1,168人　入場者数：72,540人　回収率：1.61%

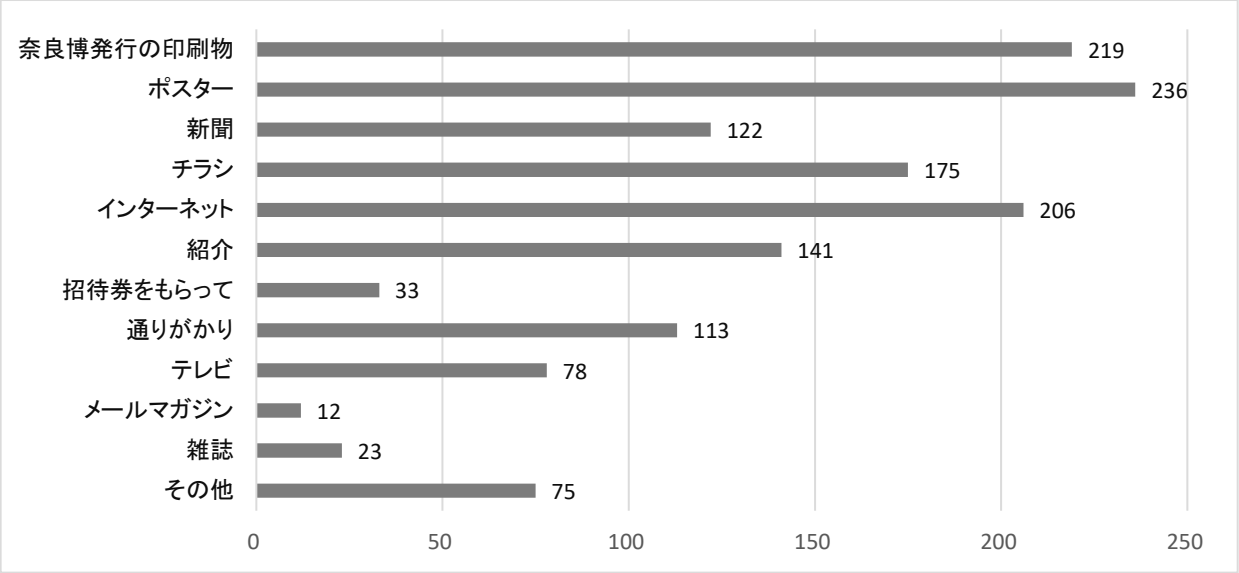
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答あり)



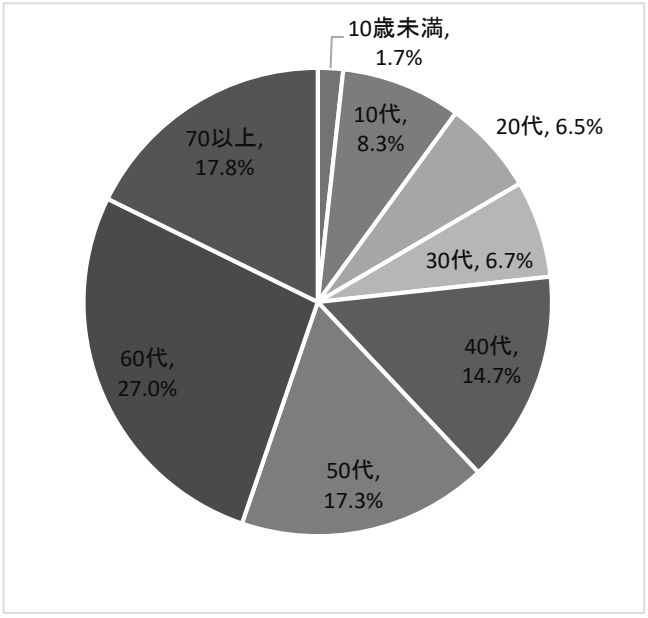
④主な意見・感想

・地獄の絵にとても迫力と恐ろしさを感じた。
・展示の解説が分かりやすく、興味が持てた。
・数点でよいので、子どもも理解できる解説があれば良いと思う。
・先に地獄や苦しみを見せてから、極楽を見せるという構成が良かった。
・タブレットで六道絵を細かく見られたり、大きなパネルの通路があったり、普段とは違う工夫があり楽しかった。

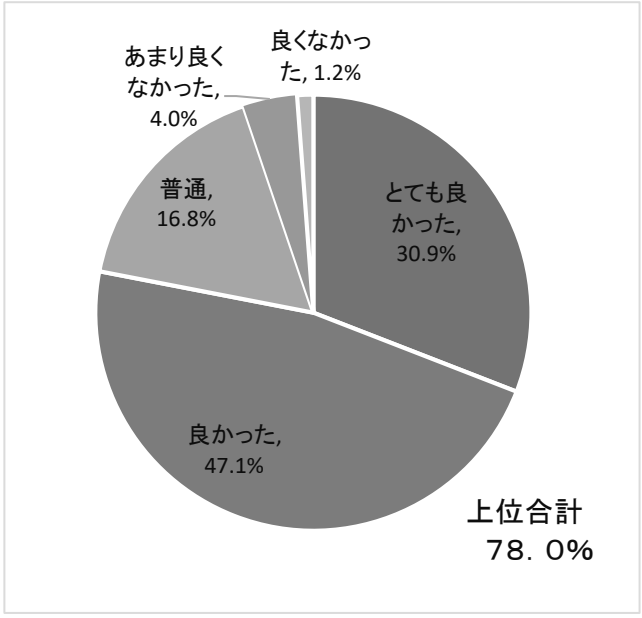
第69回正倉院展
アンケート集計結果

開催期間：平成29年10月28日～11月13日(17日間)
回答者数：1,123人　入場者数：217,053人　回収率：0.52%

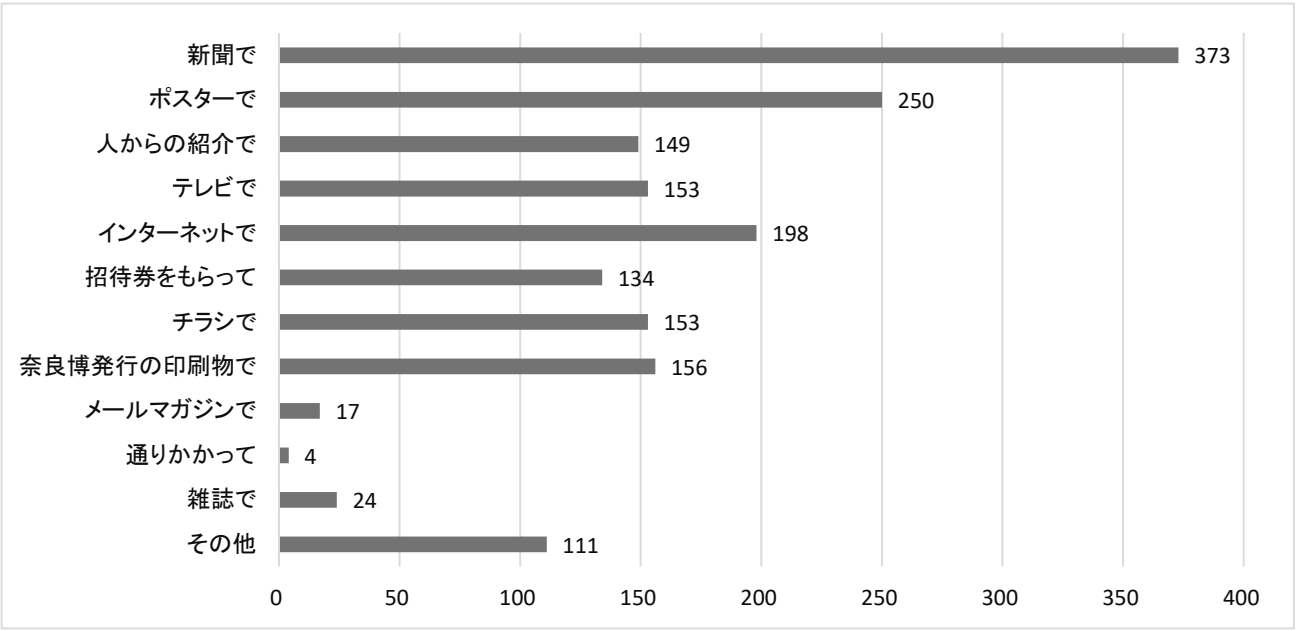
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答あり)



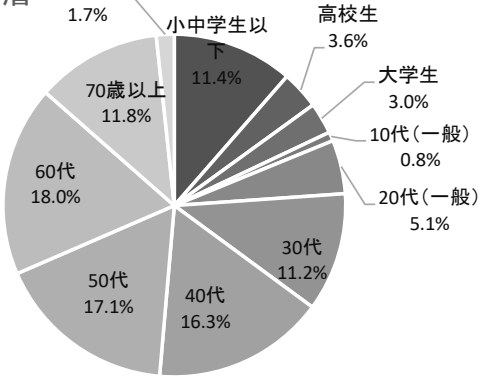
④主な意見・感想

・昔の貴重な品々を間近で見ることができた。
・解説が2カ所にあり、四方から見られるようになっていた。
・多言語表記がよかった。
・とても古い物なのに、保存状態がよくすばらしい。
・展示台が高く、全体が見にくかった。

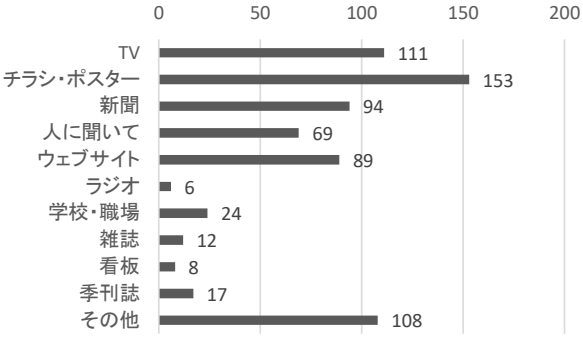
特別展「タイ～仏の国の輝き～」
アンケート集計結果

開催期間：平成29年4月11日(火)～6月4日(日)（49日間）
総回答者数：473人（総来館者数：56,314人　アンケート回収率：0.84%）

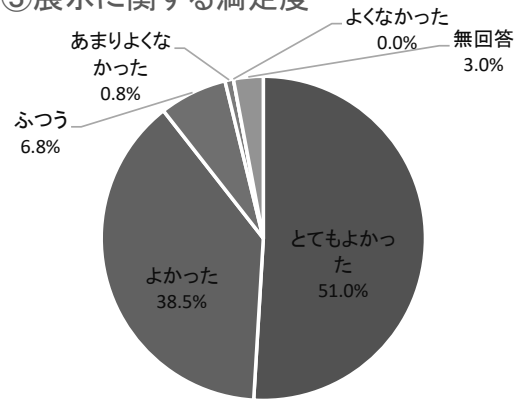
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



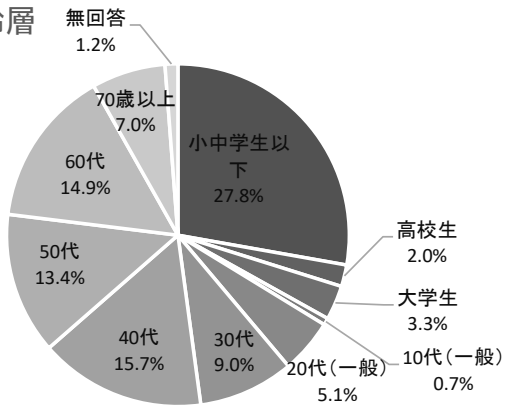
上位合計
89．5%

④主な意見・感想
・説明文が簡潔で2段に別れていて、見やすいレイアウトでよかった。
・展示の中で写真を撮る所があった事は良かった。
・夜間も開館になりゆっくり見ることができた。
・夜間開館ありがとうございます。特別展の後に常設展もゆっくり観れてとてもうれしい。
・車イス使用者なので展示がまったく見えないことが今回もあった。鏡などで対応してほしい。
・大扉が印象深かった。大きすぎ(高すぎ)るので、上部が見えないのが残念だった。

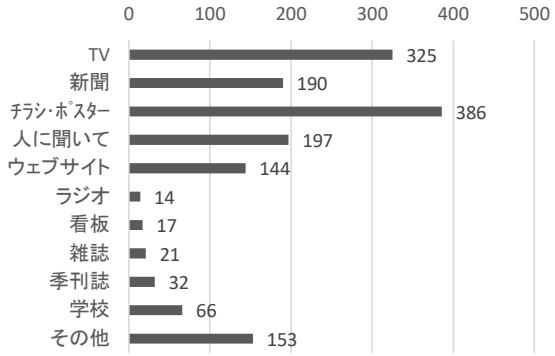
特別展「世界遺産 ラスコー展 クロマニョン人が見た世界」
アンケート集計結果

開催期間：平成29年7月11日(火)～9月3日(日)（49日間）
総回答者数：1,078人（総来館者数：118,555人　アンケート回収率：0.91%）

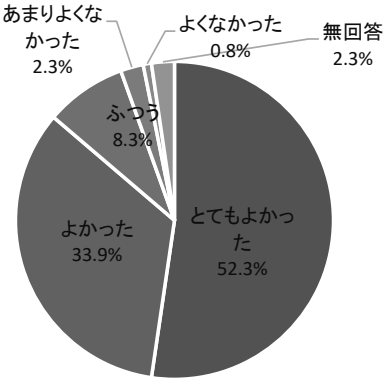
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



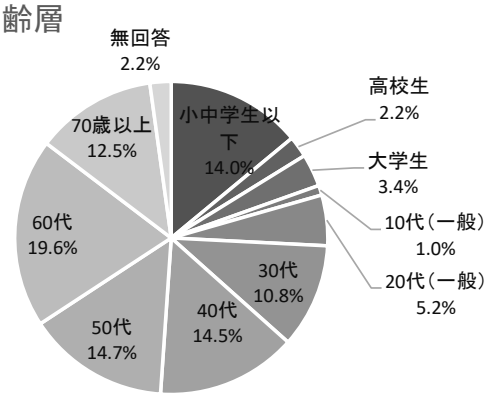
上位合計
86.2%

④主な意見・感想
・レプリカが多く、写真の撮影ができるのがよかった。
・マンモスの牙など、実物に触ることができてよかった。
・クロマニョン人がどのようにして、普段暮らしていたのか、どんな道具を使っていたのかを知ることができてよかった。
・クロマニョン人の復元模型がとてもリアルで素晴らしかった。昔の人もオシャレ好きなんだなと驚いた。
・石器や骨角器の製作復元映像が良かった。とてもわかりやすくクロマニョン人をなんだか身近に感じられた。
・人類の歴史をあらためて考える機会となった。
・洞窟を模した展示空間は面白かった。壁画がライトアップされるのもよかった。
・トリ人間の解説が分かりやすく、展示に興味が持てた。
・途中、休みながら見てまわりたいのでイスなどの座れる場所を要所要所に増やしてほしい。
・写真撮影がOKな所とそうでない所が分かりにくかった。
・もっと本物の展示が多ければよかった。

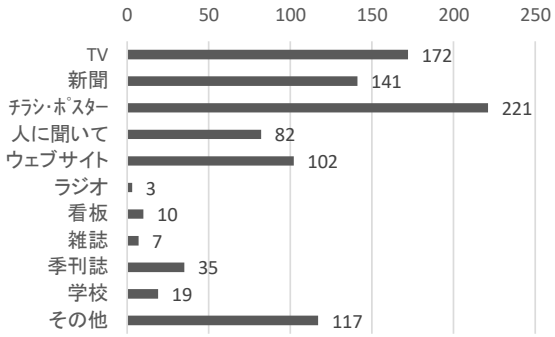
特別展「新・桃山展－大航海時代の日本美術」
アンケート集計結果

開催期間：平成29年10月14日(土)～11月26日(日)（38日間）

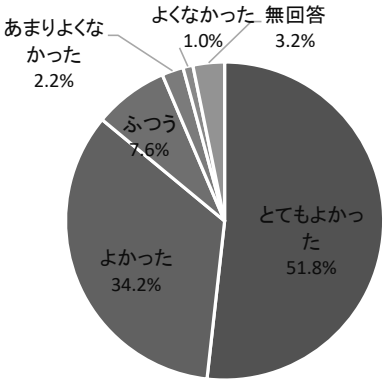
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



上位合計
86．0%

④主な意見・感想

・天下人が愛したとされる茶碗や茶器(千利休)など、非常に興味を引かれるものばかりあり、印象ぶかくよかった。
・多言語化されていて、外国の観光客にも分りやすいと思う。
・絵画の一部が拡大され紹介されていたり、書物等が現代語に訳されていたものもより深く知ることができ、興味深かった。
・大型の屏風が多く、どれも細部まで描き込まれていて、とても見ごたえがあった。元信の四季花鳥図屏風、唐船南蛮船屏風はいつまで見ても飽きない。
・車イスだったので、バリアフリーの展示の仕方がこれから先増えてくるとうれしいなあと思う。
・展示スペースに休憩用のいすがもう少しあるととても気持ちよく展示を見て回ることができる。
・各武将の肖像などのグッズもあると若い子への土産にしやすかったように思う。